

上新田中道東遺跡

国道354号高崎玉村バイパス(玉村工区)社会資本総合整備
(活力創出基盤整備)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第8集

上新田中道東遺跡

国道354号高崎玉村バイパス玉村工区社会資本総合整備
(活力創出基盤整備)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第8集

二〇一二年

群馬県伊勢崎土木事務所
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

2012

群馬県伊勢崎土木事務所
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



上新田中道東遺跡

国道354号高崎玉村バイパス(玉村工区)社会資本総合整備
(活力創出基盤整備)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第8集

2012

群馬県伊勢崎土木事務所
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

群馬県南部の穀倉地帯を貫くように、国道354号の整備事業が平成8年から進められてきました。玉村町地区でも、この工事にともなって埋蔵文化財の発掘調査がおこなわれ、7遺跡が調査・報告されてきています。

上新田中道東遺跡でも、縄文時代から近世にかけての遺構や遺物が出土し、今から約2000年前の古墳時代前期のムラや、1000年ほど前の水田の痕跡、火山灰に埋まった水田面などがみつき、今日の景観につながる歴史の跡を知ることができました。

発掘調査から報告書刊行まで、群馬県中部県民局伊勢崎土木事務所、群馬県教育委員会、玉村町教育委員会、地元関係者の皆様には、一方ならぬご指導・ご協力を賜りました。厚く感謝の意を表します。

最後に、本報告書が地域の歴史解明のため多くの人々によって有効に活用されることを願い、序といたします。

平成24年2月

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 須田 栄 一

例 言

1. 本書は、国道354号高崎玉村バイパス(玉村工区)社会資本総合整備(活力創出基盤整備事業)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 遺跡の所在地は、群馬県佐波郡玉村町で、地番は下表のとおりである。

上新田中道東道路 発掘対象地域地番一覧 平成6年8月作成丈量図 による

発掘区	大字	地 番
I区	齊田	36、40-1・2、41-1・2・5・6・7・8・10
II区	上新田	1106、1107、1108、1109-1～3、1110、1128、1129、1454-3～5、1455
III区	上新田	1116-2・3、1117、1118、1119、1120
IV区	与六分	142、146-1～3、147、150
V区	上新田	144-1・2、145-1・2、148
VI区	上新田	660-1～3、662
VII区	上新田	659、661-1～7
VIII区	上新田	647、648、649、650、651-1
IX区	上新田	634-1、635-1・2
X区風張区	上新田	631-1・2、632-1・2、633、634-2・3、635-2、636、637、638、639、640-1

3. 事業主体は、群馬県中部県民局伊勢崎土木事務所である。
4. 調査主体は、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団である。
5. 発掘調査の期間と体制は次の通りである。

平成16年度 平成16年度一般国道354号B P道路改築(国道)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査委託

調査履行期間 平成16年4月1日～平成17年3月31日

発掘調査担当者 洞口正史(専門員) 桜岡正信(専門員) 土屋崇志(専門員) 津島秀章(専門員)
堀口英子(調査研究員)

委託 地上測量：株式会社シン技術コンサル 空中写真撮影：株式会社測研
デジタルトレース業務：株式会社測研 自然科学分析：株式会社古環境研究所

平成20年度 平成20年度国道354号(玉村バイパス)道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査委託

調査履行期間 平成20年9月1日～平成21年3月31日

発掘調査担当者 唐澤至朗(上席専門員) 長谷川博幸(調査研究員)

遺跡掘削請負工事 株式会社シン技術コンサル

委託 地上測量：アコン測量設計株式会社

平成21年度 平成20年度国道354号(玉村バイパス)道路改築事業(二次補正)に伴う埋蔵文化財発掘調査委託

調査履行期間 平成21年12月1日～平成22年3月31日

発掘調査担当者 高井佳弘(主任調査研究員) 綿貫 昭(主任調査研究員)

遺跡掘削請負工事 株式会社シン技術コンサル

委託 地上測量：株式会社シン技術コンサル 空中写真撮影：株式会社シン技術コンサル
断面図 デジタル化業務：アコン測量設計株式会社
自然科学分析：株式会社火山灰考古学研究所

平成22年度 平成21年度国道354号(玉村バイパス)地域活力基盤創造事業に伴う埋蔵文化財発掘調査委託

調査履行期間 平成22年3月31日～平成23年3月31日

発掘調査担当者 麻生敏隆(主席専門員) 飯森康広(専門員(総括)) 小林 正(専門員(主任))

遺跡掘削請負工事 株式会社シン技術コンサル

委託 地上測量：株式会社シン技術コンサル 空中写真撮影：株式会社測研
自然科学分析：株式会社古環境研究所

6. 整理事業の期間と体制は次の通りである。

平成21年度 平成20年度国道354号(玉村バイパス)道路改築事業(二次補正)に伴う埋蔵文化財の整理委託

整理履行期間 平成21年3月31日～平成22年3月31日

整理担当者 小島敦子(上席専門員)

平成22年度 平成21年度国道354号(玉村バイパス)地域活力基盤創造事業に伴う埋蔵文化財の整理委託

整理履行期間 平成22年3月31日～平成23年3月31日

整理担当者 小島敦子(上席専門員) 関 晴彦(上席専門員)

委託 出土植物遺体同定：株式会社パレオ・ラボ

平成23年度 平成22年度国道354号高崎玉村バイパス(玉村工区)社会資本総合整備(活力創出基盤整備)事業に伴う埋蔵文化財の整理委託

整理履行期間 平成23年3月31日～平成24年3月31日

整理担当者 小島敦子(上席専門員)

委託 赤外分光分析：株式会社パレオ・ラボ

7. 本書作成の担当者は次の通りである。

編集 小島敦子(上席専門員) デジタル編集 齊田智彦(主任調査研究員)

遺物写真撮影 佐藤元彦(補佐(総括)) 保存処理 関 邦一(補佐)

執筆 本文：小島 敦子

遺物観察 石器・石製品：岩崎泰一(上席専門員) 縄文土器：橋本 淳(主任調査研究員)

弥生土器：大木紳一郎(資料2課長事務取扱) 土師器・須恵器：神谷佳明(上席専門員)

陶磁器：大西雅広(上席専門員)

8. 首都大学東京 山田昌久教授、東京文化財研究所 北野信彦先生、明治大学理工学部 本田貴之教授に玉稿を圖った。

9. 石材同定は飯島静男氏(群馬県地質研究会会員)に依頼した。

10. 出土人骨の鑑定は宮崎重雄氏(足利工業大学非常勤講師・古生物学会会員)、出土獣骨の同定は横崎修一郎氏(生物考古学研究所)に委託した。

11. 発掘調査および本書の作成にあたり、下記の諸氏よりご助言を得た。記して感謝の意を表します。

(敬称略)

群馬県教育委員会、玉村町教育委員会、埼玉県本庄市教育委員会、山田昌久(首都大学東京)、北野信彦(東京文化財研究所)、本多貴之(明治大学)

12. 発掘調査諸資料および出土品は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。

凡 例

1. 上新田中道東遺跡の遺構平面図は日本測地系国家座標(第IX系)を用いて測量した。遺構図の中で使用した北方位はすべて座標北で、真北方向角は+0°00'01.53" (東偏)である。

なお、図内に示したグリッドはすべて北を上にした方向で表記した。

2. 本書における遺構番号は、区ごとの通し番号であり、原則的には調査時のものをそのまま使用した。しかし、重複したものについては、整理作業時に付け替えた。新旧の遺構番号の対照表をP.17第2表に掲げた。
3. 遺構図・遺物図の縮尺は、原則として以下の通りである。縮尺の異なるものが併載される場合は、それぞれにスケールを付した。

遺構図 住居1:60 土坑1:60 溝1:300

遺物図 土器1:4 土器拓影1:3 石器・石製品1:3、1:2 大形石器1:6 小形石器1:1 錢貨1:1

4. 溝の平面図は各区の遺構全体図(折り込み1/300)に掲載した。各区の全体図は遺構面ごとに章の最後に編集した。図の順序は遺構の連続性を確認しやすいように、北を上にして西端となるI区からとした。本文はI区からの編集なので注意されたい。

5. 各区の遺構全体図の遺物出土位置ドット(▲)は遺構外出土の遺物の出土位置を示す。溝の遺物出土位置は拡大図を本文中に掲載した。

6. 遺物番号は出土遺構ごとの連番で、番号は本文・挿図・表・写真図版とも一致する。

7. 図中で使用したマークは以下のことを表す。

遺構図	灰・炭		焼土		硬化面		攪乱	
遺物図	石器磨り面		赤彩		砂		粘土	
	黒色付着物		炭化					

8. 石斧刃部側の摩耗痕については縦位定規線で、着柄部と想定される部分の摩耗痕については横位定規線で図示した。磨石等礫石器類に用いた縦位・横位定規線は摩耗範囲を示す。その他の斜位定規線は線条痕の走行を示す。石皿については、使用部の摩耗および再生状態(再敲打)を表現するため、必要に応じて拓本を使用した。台石については、打痕・摩耗痕を含む礫面の状態を表現するため、必要に応じて拓本を使用した。

9. 遺物写真図版の倍率は、土器は原則として1/4、石器のうち礫・剥片石器は大きさに応じて1/3あるいは1/2、石鏃等の小型のものは1/1に近づけるようにした。

10. 遺物の重量の計測にあたっては6000gまでは1g単位、20kgまでは50g単位、20kg以上は100g単位の秤を使用して計測した。

11. 各地図の使用は以下のとおりである。

第1図 国土地理院発行、20万分の1地勢図「長野」平成10年2月1日

「宇都宮」平成18年4月1日発行

第2図 国土地理院発行、2万5千分の1地形図「高崎」平成22年12月1日発行

第3図 玉村町役場発行、2千5百分の1玉村町都市計画区域図7(平成6年)発行

第6図 国土地理院発行、5万分の1地形図「高崎」平成10年12月1日発行

第7図 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団第279集『徳丸仲田遺跡(1)』の第4図を加筆転載

第8図 国土地理院発行、5万分の1地形図「高崎」平成10年12月1日発行

「前橋」平成10年3月1日発行

「榛名」平成10年3月1日発行

「寄居」平成5年4月1日発行

第9図 玉村町役場発行、2千5百分の1玉村町都市計画区域図 7(平成6年)発行

第10図 国土地理院発行、2万5千分の1地形図「高崎」平成22年12月1日発行

「前橋」平成22年12月1日発行

「大胡」平成22年12月1日発行

「伊勢崎」平成15年2月1日発行

12. 註および参考・引用文献は、第9章末に一括して掲載した。周辺遺跡一覧表(第1表)の文献Noもこれに一致する。

目次

序		
例言		
凡例		
第1章 調査の経過		
1. 発掘調査に至る経緯	1	
2. 発掘調査の方法	3	
3. 発掘調査の経過	13	
4. 整理作業の経過と方法	15	
第2章 遺跡の立地と歴史的環境		
1. 遺跡の位置と地形	19	
2. 周辺の遺跡分布	23	
第3章 中近世の遺構と遺物		
1. 概要	29	
2. I区の遺構と遺物	29	
3. II区の遺構と遺物	38	
4. III区の遺構と遺物	45	
5. IV区の遺構と遺物	63	
6. V区の遺構と遺物	76	
7. VI区の遺構と遺物	81	
8. VII区の遺構と遺物	91	
9. VIII区の遺構と遺物	94	
10. IX区の遺構と遺物	98	
第4章 中世の遺構と遺物		
1. 概要	117	
2. I区の遺構と遺物	118	
3. II区の遺構と遺物	121	
4. III区の遺構と遺物	129	
5. IV区の遺構と遺物	133	
6. V区の遺構と遺物	134	
7. VI区の遺構と遺物	136	
8. VII区の遺構と遺物	137	
9. VIII区の遺構と遺物	138	
10. IX区の遺構と遺物	141	
第5章 古代洪水層関連の遺構と遺物		
1. 概要	155	
2. I区の遺構と遺物	156	
3. II区の遺構と遺物	167	
4. III区の遺構と遺物	172	
第6章 古代-古墳時代の遺構と遺物		
1. 概要	207	
2. I区の遺構と遺物	208	
3. II区の遺構と遺物	222	
4. III区の遺構と遺物	227	
5. IV区の遺構と遺物	261	
6. V区の遺構と遺物	282	
7. VI区の遺構と遺物	301	
8. VII区の遺構と遺物	337	
9. IX区の遺構と遺物	343	
第7章 弥生・縄文時代の出土遺物		
1. 概要	357	
2. 弥生時代の遺物	357	
3. 縄文時代の遺物	358	
第8章 自然科学的分析報告		
1. 分析の目的と成果	363	
2. 上新田中道東遺跡I区の自然科学分析	364	
3. 上新田中道東遺跡II区・III区の自然科学分析	374	
4. 上新田中道東遺跡VIII区の自然科学分析	381	
5. 上新田中道東遺跡の大型植物遺体同定	386	
6. 上新田中道東遺跡から出土した 棒状遺物の材質分析	389	
7. 上新田中道東遺跡から出土した 棒状遺物の赤外分光分析	392	
8. 上新田中道東遺跡出土獣骨	395	
9. 上新田中道東遺跡出土骨類の同定	398	
第9章 上新田中道東遺跡発掘調査の総括		
1. 発掘調査の成果	399	
2. 上新田中道東遺跡II区8号土坑出土の 漆樹液の棒状塊について	414	
註	423	
参考文献	424	
報告書抄録	426	
全体図	427	
遺構一覧表	429	
遺物観察表	447	
写真図版		

挿 図 目 次

第1図	上新田中道東遺跡と群馬県地の勢	1	第81図	Ⅱ区浅間B Ⅱ面上水田痕跡出土遺物	124
第2図	上新田中道東遺跡の位置	3	第82図	Ⅰ区浅間Bテフラ直下木田上層断面	125
第3図	上新田中道東遺跡の発掘区	4	第83図	Ⅱ区浅間Bテフラ直下1号掘削痕	125
第4図	上新田中道東遺跡の標高と層	5	第84図	Ⅱ区新耕作	127
第5図	上新田中道東遺跡の土層	8-9	第85図	Ⅱ区遺構外の出土遺物(中世)	128
第6図	上新田中道東遺跡と玉村町	19	第86図	Ⅲ区Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ上層断面出土遺物	129
第7図	前橋台地の地形区分と分科	20	第87図	Ⅱ区浅間Bテフラ直下木田上層断面	131
第8図	前橋台地と上新田中道東遺跡	21	第88図	Ⅱ区浅間Bテフラ直下木田上層断面	132
第9図	上新田中道東遺跡の幾何形	23	第89図	Ⅳ区浅間BⅡ面上水田痕跡上層断面	134
第10図	上新田中道東遺跡周辺の遺跡分布	25	第90図	Ⅳ区遺構外の出土遺物(中世)	134
第11図	Ⅰ区Ⅰ上坑	31	第91図	Ⅱ区Ⅰ区Ⅱ面上水田痕跡上層断面と出土遺物	135
第12図	Ⅰ区Ⅰ号堀北壁・上層断面と出土遺物	31	第92図	Ⅱ区浅間BⅡ下下面溝、水田痕跡上層断面	136
第13図	Ⅰ区Ⅰ溝上層断面	33	第93図	Ⅱ区浅間Bテフラ直下木田上層断面と出土遺物	137
第14図	Ⅰ区Ⅱ号・4号・6号復旧溝	36	第94図	Ⅱ区浅間Bテフラ直下木田上層断面	139
第15図	Ⅰ区Ⅰ号・3号復旧溝	37	第95図	Ⅱ区浅間Bテフラ直下溝	140
第16図	Ⅰ区遺構外の出土遺物(中近世)	37	第96図	Ⅱ区浅間Bテフラ直下木田上層断面	141
第17図	Ⅱ区Ⅰ上坑	38	第97図	Ⅱ区Ⅰ区Ⅱ面上水田痕跡上層断面	142
第18図	Ⅱ区Ⅱ上坑	38	第98図	Ⅱ区浅間Bテフラ直下木田上層断面	143
第19図	Ⅱ区Ⅱ溝上層断面と出土遺物	41	第99図	Ⅱ区遺構外の出土遺物(中世)	143
第20図	Ⅱ区Ⅰ号復旧溝上層断面	44	第100図	Ⅱ区Ⅱ区Ⅱ浅間BⅡ下下面全体	145
第21図	Ⅱ区遺構外の出土遺物(中近世)	44	第101図	Ⅱ区Ⅱ区Ⅱ浅間BⅡ下下面全体	146
第22図	Ⅲ区Ⅰ号掘立柱建物	46	第102図	Ⅱ区Ⅱ区Ⅱ浅間BⅡ下下面全体	147
第23図	Ⅲ区Ⅰ上坑(1)と出土遺物	47	第103図	Ⅱ区Ⅱ区Ⅱ浅間BⅡ下下面全体	148
第24図	Ⅲ区Ⅰ上坑(2)	48	第104図	Ⅱ区Ⅱ区Ⅱ浅間BⅡ下下面全体	149
第25図	Ⅲ区Ⅱ上坑	49	第105図	Ⅱ区Ⅱ区Ⅱ浅間BⅡ下下面全体	150
第26図	Ⅲ区Ⅱ区Ⅱ・Ⅰ号・2号溝上層断面と出土遺物	50	第106図	Ⅱ区Ⅱ区Ⅱ浅間BⅡ下下面全体	151
第27図	Ⅲ区Ⅰ号・2号溝の出土遺物	51	第107図	Ⅱ区Ⅱ区Ⅱ浅間BⅡ下下面全体	152
第28図	Ⅲ区Ⅱ溝上層断面(1)と出土遺物	53	第108図	Ⅱ区Ⅱ区Ⅱ浅間BⅡ下下面全体	152
第29図	Ⅲ区Ⅱ溝上層断面(2)	55	第109図	Ⅱ区Ⅱ区Ⅱ浅間BⅡ下下面全体	153
第30図	Ⅲ区Ⅱ号復旧溝	59	第110図	Ⅱ区Ⅱ区Ⅱ浅間BⅡ下下面全体	154
第31図	Ⅲ区Ⅱ号復旧溝	60	第111図	Ⅱ区Ⅱ区Ⅱ浅間BⅡ下下面全体	157
第32図	Ⅲ区Ⅲ号・6号復旧溝と出土遺物	61	第112図	Ⅰ区Ⅱ層上面水田痕跡上層断面	159
第33図	Ⅲ区遺構外の出土遺物(中近世)	62	第113図	Ⅰ区Ⅰ号高上層断面	162
第34図	Ⅳ区Ⅰ上坑とビット	63	第114図	Ⅰ区Ⅰ号高	163
第35図	Ⅳ区Ⅱ区Ⅱ堀の出土遺物	65	第115図	Ⅰ区Ⅱ号高	165
第36図	Ⅳ区Ⅱ区Ⅱ堀・45号・49号溝の上層断面	66	第116図	Ⅰ区Ⅱ号高	166
第37図	Ⅳ区Ⅱ溝上層断面と出土遺物(1)	68	第117図	Ⅰ区Ⅱ号高	167
第38図	Ⅳ区Ⅰ号・2号溝の出土遺物(2)	69	第118図	Ⅰ区Ⅱ号高	169
第39図	Ⅳ区Ⅰ号・2号復旧溝と出土遺物	73	第119図	Ⅱ区Ⅱ層上面水田痕跡上層断面	171
第40図	Ⅳ区Ⅲ号復旧溝	74	第120図	Ⅱ区遺構外の出土遺物(古代)	172
第41図	Ⅳ区Ⅳ号復旧溝	74	第121図	Ⅱ区Ⅰ号住居と出土遺物	173
第42図	Ⅳ区遺構外の出土遺物(中近世)	75	第122図	Ⅱ区Ⅱ号住居と出土遺物	175
第43図	Ⅴ区Ⅰ上坑とビット	76	第123図	Ⅱ区Ⅲ号住居と出土遺物	176
第44図	Ⅴ区Ⅱ上坑と出土遺物	78	第124図	Ⅱ区Ⅳ号住居と出土遺物	177
第45図	Ⅴ区Ⅲ号復旧溝	80	第125図	Ⅱ区Ⅴ号住居と出土遺物	178
第46図	Ⅴ区遺構外の出土遺物(中近世)	81	第126図	Ⅱ区Ⅵ号住居と出土遺物	179
第47図	Ⅴ区Ⅳ上坑	82	第127図	Ⅱ区Ⅶ号住居と出土遺物	180
第48図	Ⅴ区Ⅰ上坑(1)	83	第128図	Ⅱ区Ⅷ号住居と出土遺物	181
第49図	Ⅴ区Ⅰ上坑(2)とビット	84	第129図	Ⅱ区Ⅰ号~4号貯穴遺構と出土遺物	183
第50図	Ⅴ区Ⅰ号溝と出土遺物	85	第130図	Ⅱ区Ⅰ号~3号井戸	184
第51図	Ⅴ区Ⅱ溝と出土遺物	87	第131図	Ⅱ区Ⅰ号・3号井戸出土遺物	185
第52図	Ⅴ区Ⅰ号耕作痕	89	第132図	Ⅱ区Ⅰ15号上坑と出土遺物	187
第53図	Ⅴ区Ⅰ号・2号復旧溝	90	第133図	Ⅱ区Ⅰ15号上坑と出土遺物	188
第54図	Ⅴ区遺構外の出土遺物(中近世)	90	第134図	Ⅱ区Ⅰ15号上坑と出土遺物	189
第55図	Ⅴ区Ⅱ井戸と上坑	91	第135図	Ⅱ区Ⅰ15号上坑と出土遺物	191
第56図	Ⅴ区Ⅱ溝と出土遺物	93	第136図	Ⅱ区Ⅱ8号溝と出土遺物(1)	192
第57図	Ⅴ区Ⅱ井戸と上坑	95	第137図	Ⅱ区Ⅱ8号溝と出土遺物(2)	193
第58図	Ⅴ区Ⅲ溝と出土遺物	97	第138図	Ⅱ区Ⅱ8号溝と出土遺物(3)	194
第59図	Ⅴ区Ⅰ上坑(1)	99	第139図	Ⅱ区Ⅱ8号溝と出土遺物(1)	195
第60図	Ⅴ区Ⅰ上坑(2)	100	第140図	Ⅱ区Ⅱ8号溝と出土遺物(2)	196
第61図	Ⅴ区Ⅱ溝(1)と出土遺物	102	第141図	Ⅱ区Ⅲ1号溝の出土遺物	197
第62図	Ⅴ区Ⅱ溝(2)	103	第142図	Ⅱ区Ⅱ2号・3号耕作痕	198
第63図	Ⅴ区Ⅱ北区・南区全体	104	第143図	Ⅱ区Ⅱ層上面水田痕跡上層断面	199
第64図	Ⅴ区Ⅱ層上面	105	第144図	Ⅱ区遺構外の出土遺物(古代)(1)	199
第65図	Ⅴ区Ⅱ層上面出土遺物(中近世)	106	第145図	Ⅱ区遺構外の出土遺物(古代)(2)	200
第66図	Ⅴ区Ⅱ層上面全体	107	第146図	Ⅱ・Ⅲ区Ⅱ区ⅡⅣB層上面全体	201
第67図	Ⅴ区Ⅱ層上面全体	108	第147図	Ⅱ区Ⅱ区ⅡⅣ層上面全体(部分)	202
第68図	Ⅴ区Ⅱ層上面全体	109	第148図	Ⅱ区Ⅱ区ⅡⅣ層上面全体	203
第69図	Ⅴ区Ⅱ層上面全体	110	第149図	Ⅱ区Ⅱ区ⅡⅣ層上面全体	204
第70図	Ⅴ区Ⅱ層上面全体	111	第150図	Ⅱ区Ⅱ区ⅡⅣ層上面全体(部分)	205
第71図	Ⅴ区Ⅱ層上面全体	112	第151図	Ⅱ区Ⅱ区ⅡⅣ層下面全体(部分)	205
第72図	Ⅴ区Ⅱ層上面全体	113	第152図	Ⅱ区Ⅱ区ⅡⅣ層下面全体	210
第73図	Ⅴ区Ⅱ層上面全体	114	第153図	Ⅱ区Ⅱ区ⅡⅣ層下面全体	211
第74図	Ⅴ区Ⅱ層上面全体	115	第154図	Ⅱ区Ⅱ区ⅡⅣ層下面全体	212
第75図	Ⅴ区Ⅱ層上面全体	115	第155図	Ⅱ区Ⅱ区ⅡⅣ層下面全体	214
第76図	Ⅴ区Ⅱ層上面全体	119	第156図	Ⅱ区Ⅱ区ⅡⅣ層下面全体	217
第77図	Ⅴ区Ⅱ層上面全体	120	第157図	Ⅱ区Ⅱ区ⅡⅣ層下面全体	218
第78図	Ⅴ区Ⅱ層上面全体	121	第158図	Ⅱ区Ⅱ区ⅡⅣ層下面全体	220
第79図	Ⅴ区Ⅱ層上面全体	122	第159図	Ⅱ区Ⅱ区ⅡⅣ層下面全体	220
第80図	Ⅴ区Ⅱ層上面全体	123	第160図	Ⅱ区Ⅱ区ⅡⅣ層下面全体	221
第81図	Ⅴ区Ⅱ層上面全体	123			

第161図	I区道橋外出土遺物の出土位置(古代～古墳時代)	221	第244図	Ⅵ区溝と出土遺物(1)	328
第162図	Ⅱ区8号土坑と出土遺物(1)	223	第245図	Ⅵ区溝と出土遺物(2)	330
第163図	Ⅱ区8号土坑の出土遺物(2)	224	第246図	Ⅵ区溝と出土遺物(3)	331
第164図	Ⅱ区堤上	225	第247図	Ⅵ区溝と出土遺物(4)	332
第165図	Ⅱ区溝上層断面	225	第248図	Ⅵ区溝と出土遺物(5)	333
第166図	Ⅱ区溝上層断面	226	第249図	Ⅵ区溝と出土遺物(6)	335
第167図	Ⅱ区道橋外出土遺物(古代～古墳時代)	226	第250図	Ⅵ区道橋外出土遺物(古代～古墳時代)	336
第168図	Ⅲ区9号住居	228	第251図	Ⅵ区土坑とピット	337
第169図	Ⅲ区9号住居の上層断面と出土遺物	229	第252図	Ⅵ区溝(1)	339
第170図	Ⅲ区2号孤立柱建物	231	第253図	Ⅵ区Ⅶ区溝(2)出土遺物	340
第171図	Ⅲ区3号孤立柱建物	232	第254図	Ⅵ区ピット列・溝(3)と出土遺物	341
第172図	Ⅲ区5号孤立柱建物と出土遺物	233	第255図	Ⅵ区道橋外出土遺物(古代～古墳時代)	342
第173図	Ⅲ区4号孤立柱建物と1号柱穴列	234	第256図	Ⅶ区1号井戸	343
第174図	Ⅲ区土坑(1)と出土遺物	236	第257図	Ⅶ区1号井戸出土遺物	344
第175図	Ⅲ区土坑(2)と出土遺物	237	第258図	Ⅶ区土坑	345
第176図	Ⅲ区土坑(3)と出土遺物	239	第259図	Ⅶ区溝と出土遺物	347
第177図	Ⅲ区土坑(4)と出土遺物	241	第260図	Ⅶ区道橋外出土遺物(古代～古墳時代)	348
第178図	Ⅲ区土坑(5)と出土遺物	243	第261図	Ⅶ区古代～古墳時代面全体図	349
第179図	Ⅲ区土坑(6)と出土遺物	244	第262図	Ⅶ区古代～古墳時代面全体図	350
第180図	Ⅲ区土坑(7)と出土遺物	246	第263図	Ⅶ区古代～古墳時代面全体図	351
第181図	Ⅲ区土坑(8)	247	第264図	Ⅶ区古代～古墳時代面全体図	352
第182図	Ⅲ区土坑(9)	248	第265図	Ⅶ区古代～古墳時代面全体図	353
第183図	Ⅲ区土坑(10)と出土遺物	249	第266図	Ⅲ区古代～古墳時代面全体図	354
第184図	Ⅲ区ピット(1)と出土遺物	251	第267図	Ⅱ区古代～古墳時代面全体図	355
第185図	Ⅲ区ピット(2)	252	第268図	I区古代～古墳時代面全体図	356
第186図	Ⅲ区ピット(3)	253	第269図	遺構外出土の弥生土器	357
第187図	Ⅲ区33号溝と出土遺物(1)	255	第270図	遺構外出土の縄文土器	358
第188図	Ⅲ区33号溝出土遺物(2)	256	第271図	遺構外出土の縄文時代遺物の分布	358
第189図	Ⅲ区34号溝と遺物出土位置	257	第272図	遺構外出土の石器(1)	359
第190図	Ⅲ区34号溝出土遺物	258	第273図	遺構外出土の石器(2)	360
第191図	Ⅲ区道橋外出土遺物(1)(古代～古墳時代)	259	第274図	上新田中道東遺跡：I区C南端における層相・土層相分析結果	366
第192図	Ⅲ区道橋外出土遺物(2)(古代～古墳時代)	260	第2750図	上新田中道東遺跡：I区C南端における花粉分析図	371
第193図	Ⅳ区1号孤立柱建物	261	第2760図	2区第2地点の上層柱状図	376
第194図	Ⅳ区土坑(1)	263	第2770図	2区第3地点の上層柱状図	376
第195図	Ⅳ区土坑(2)	265	第2780図	3区第1地点の上柱状図	376
第196図	Ⅳ区土坑(3)と出土遺物	265	第2790図	3区第2地点の上柱状図	376
第197図	Ⅳ区土坑(4)と出土遺物	267	第2800図	3区第3地点の上柱状図	376
第198図	Ⅳ区ピット(1)と出土遺物	269	第2810図	3区第5地点の上柱状図	376
第199図	Ⅳ区ピット(2)	270	第2820図	3区第6地点の上柱状図	376
第200図	Ⅳ区1号方形埴溝	271	第2830図	8区南西地点の上柱状図	383
第201図	Ⅳ区1号方形埴溝出土遺物	272	第2840図	上新田中道東遺跡におけるプラント・オパール分析結果	384
第202図	Ⅳ区2号方形埴溝	272	第2850図	I区S・1面R1-C-16出土馬歯出土部位(右側面)	395
第203図	Ⅳ区溝と出土遺物	274	第2860図	Ⅲ区N・1面18号溝出土馬歯出土部位(右側面)	396
第204図	Ⅳ区1号凹地と出土遺物	277	第2870図	Ⅲ区N・2面30号溝出土馬歯出土部位(右側面)	397
第205図	Ⅳ区3号溝	278	第2880図	Ⅳ区N・1面出土馬歯(右側面)	397
第206図	Ⅳ区1号溝	279	第2890図	上新田中道東遺跡の古墳時代前期の遺構群	400
第207図	Ⅳ区例外道	281	第2900図	上新田中道東遺跡の古墳時代前期の土坑・井戸	401
第208図	Ⅳ区道橋外出土遺物(古代～古墳時代)	281	第2910図	Ⅲ区の古墳時代前期の遺構	402
第209図	V区1号住居と出土遺物	282	第2920図	Ⅳ・V・Ⅵ区の古墳時代前期の遺構	403
第210図	V区2号住居と出土遺物	283	第2930図	前編各地の弥生～古墳時代前期の遺跡分布	405
第211図	V区土坑(1)と出土遺物	286	第2940図	上新田中道東遺跡の集落地別の変化	407
第212図	V区土坑(2)と出土遺物	287	第2950図	上新田中道東遺跡と西田朝日遺跡の1階地後半～末の水	408
第213図	V区土坑(3)と出土遺物	288	第2960図	上新田中道東遺跡の1階地D・下水口と集落地別	410
第214図	V区ピット(1)	290	第2970図	本誌料と日本産漆の結果の比較 (n=2108の抽出イオンクロマトグラム)	421
第215図	V区ピット(2)	291	第2980図	熱分析～ガスクロマトグラフィー/質量分析法全体の概観図	421
第216図	V区ピット(3)	292	第2990図	上新田中道東遺跡全体図	427
第217図	V区溝と出土遺物	294			
第218図	V区33号溝出土遺物と周辺の遺構外出土遺物の分布	295			
第219図	V区2号・3号凹地と出土遺物	296			
第220図	V区2号溝	297			
第221図	V区道橋外出土遺物(1)(古代～古墳時代)	298			
第222図	V区道橋外出土遺物(2)(古代～古墳時代)	299			
第223図	V区道橋外出土遺物(3)(古代～古墳時代)	300			
第224図	Ⅵ区1号住居と出土遺物	302			
第225図	Ⅵ区1号住居上層断面	303			
第226図	Ⅵ区2号住居	304			
第227図	Ⅵ区1号型穴遺構と出土遺物	305			
第228図	Ⅵ区1号孤立柱建物	307			
第229図	Ⅵ区2号孤立柱建物(1)と出土遺物	308			
第230図	Ⅵ区2号孤立柱建物(2)	309			
第231図	Ⅵ区3号孤立柱建物	310			
第232図	Ⅵ区1号柱穴列	311			
第233図	Ⅵ区井戸と出土遺物	313			
第234図	Ⅵ区6号井戸と出土遺物	314			
第235図	Ⅵ区土坑(1)と出土遺物	316			
第236図	Ⅵ区土坑(2)と出土遺物	318			
第237図	Ⅵ区土坑(3)と出土遺物	319			
第238図	Ⅵ区ピット(1)	320			
第239図	Ⅵ区ピット(2)と出土遺物	321			
第240図	Ⅵ区ピット(3)	322			
第241図	Ⅵ区ピット(4)	323			
第242図	Ⅵ区ピット(5)	324			
第243図	Ⅵ区ピット(6)	325			

目 次

第1表	上新田中道東道跡の道構確認模式表	11
第2表	上新田中道東道跡構名称付け替え道構一覧表	17
第3表	周辺道跡の概要	20
第4表	上新田中道東道跡検出土遺構数一覧(1)	20
第5表	上新田中道東道跡検出土遺構数一覧(2)	117
第6表	上新田中道東道跡Ⅱ区区間掘テフラ水田馬蹄跡計測表	125
第7表	上新田中道東道跡中水面水田遺構一覧表	144
第8表	上新田中道東道跡検出土遺構数一覧(3)	155
第9表	上新田中道東道跡検出土遺構数一覧(4)	207
第10表	上新田中道東道跡 出土石器類の種類と石材	361
第11表	上新田中道東道跡 遺構外出土非埋藏遺物数一覧表	361
第12表	上新田中道東道跡における植物性遺体分析結果	365
第13表	上新田中道東道跡における花粉分析結果	370

第14表	テフラ検出分析	378
第15表	屈折率測定結果	379
第16表	上新田中道東道跡におけるテフラ検出分析結果	381
第17表	上新田中道東道跡における火山ガラスの屈折率測定結果	382
第18表	上新田中道東道跡におけるプラント・オパール分析結果	384
第19表	上新田中道東道跡出土の大型植物遺体	386
第20表	分析を行った棒状遺物とその詳細	392
第21表	生漆の赤灰吸収位置とその強度	392
第22表	上新田中道東道跡出土炭屑(スト)	397
第23表	上新田中道東道跡出土馬蹄(馬蹄)	397
第24表	土質第3 前白濁計測値	398
第25表	漆樹炭灰採取実験木一覧表	418
第26表	漆を構成する成分	421

写真図版目次

写真1	上新田中道東道跡Ⅰ区の植物性遺体(プラント・オパール)	368
写真2	上新田中道東道跡Ⅰ区の花野・庭子	373
写真3	上新田中道東道跡Ⅱ区の植物性遺体(プラント・オパール)	385
写真4	上新田中道東道跡出土の大型植物遺体	388
写真5	上新田中道東道跡出土の植物遺体の光学顕微鏡写真・実体顕微鏡写真	390
写真6	野生ウツギの光学顕微鏡写真	391
写真7	野生タケ櫛木の表面・内部理と棒状遺物の赤外分光スペクトル図	394
写真8	Ⅰ区S・1面C-16出土馬蹄(朝顔面観)	395
写真9	Ⅰ区N・1面8号溝出土馬蹄出土状況	396
写真10	Ⅰ区N・1面8号溝出土馬蹄(朝顔面観)	396
写真11	Ⅰ区N・2面30号溝出土馬蹄(朝顔面観)	397
写真12	Ⅰ区N・1面出土馬蹄(朝顔面観)	397
写真13	Ⅱ区量掘出土馬蹄	398
写真14	Ⅱ区量掘出土骨片	398
写真15	タケ櫛を打ちこんだウルシの幹とV字状の溝	418
写真16	発掘する漆樹皮とタケ櫛	418
写真17	漆樹皮が幹状に薄く凝固したタケ櫛(No9)内部	418
写真18	タケ櫛(No9)の内部の未凝固部分	418
写真19	本試料表面の発露と土	420
写真20	本試料の発露状況長尺抜け(1)	420
写真21	本試料の発露状況長尺抜け(2)	420
写真22	生漆用のゴム玉球状抜け(参考例)	420
写真23	漆塗料の発露状況長尺抜け(参考例)	420
写真24	漆塗料に水を入れて固化した実験塗膜	420
写真25	本試料における固化塗膜の断面観	420
写真26	本試料内部部に観察される実物の状態	420

PL. 1	1. Ⅰ区中道世面全景(北・南区/上空から)	
	2. Ⅰ区中道世面全景(中央区/上空から)	
PL. 2	1. Ⅰ区中道世面全景(北・南区/上空から)	
	2. Ⅰ区中道世面全景(中央区/東上空から)	
	3. Ⅰ区1号土坑土層断面(南から)	
	4. Ⅰ区1号土坑全景(南から)	
	5. Ⅰ区17号土坑土層断面(西から)	
	6. Ⅰ区17号土坑全景(東から)	
PL. 3	1. Ⅰ区18号土坑土層断面(北西から)	
	2. Ⅰ区18号土坑全景(北東から)	
	3. Ⅰ区19号土坑土層断面(西から)	
	4. Ⅰ区19号土坑全景(北から)	
	5. Ⅰ区1号疑土層断面(北から)	
	6. Ⅰ区1号疑土全景(南から)	
	7. Ⅰ区1号~4号・11号溝全景(南西から)	
	8. Ⅰ区1号~4号・11号溝全景(南から)	
PL. 4	1. Ⅰ区4号溝土層断面(北から)	
	2. Ⅰ区4号溝全景(南から)	
	3. Ⅰ区5号~8号・10号~17号溝全景(東から)	
	4. Ⅰ区9号溝全景(北/北から)	
	5. Ⅰ区9号溝土層断面(北から)	
	6. Ⅰ区9号溝全景(中央区/北から)	
	7. Ⅰ区11号溝全景(北から)	
	8. Ⅰ区29号溝全景(南から)	
PL. 5	1. Ⅰ区47号溝土層断面(南から)	
	2. Ⅰ区48号溝土層断面(東から)	
	3. Ⅰ区47号溝全景(南から)	
	4. Ⅰ区48号溝全景(東から)	
	5. Ⅰ区1号復旧溝群土層断面(北から)	
	6. Ⅰ区2号復旧溝群全景(南から)	
	7. Ⅰ区3号復旧溝群全景(北から)	
	8. Ⅰ区3号復旧溝群土層断面(東から)	
PL. 6	1. Ⅰ区3号復旧溝群全景(西から)	
	2. Ⅰ区4号復旧溝群全景(北/北から)	
	3. Ⅰ区4号復旧溝群土層断面(東から)	
	4. Ⅰ区4号復旧溝群全景(中央/北東から)	
	5. Ⅰ区5号復旧溝群土層断面(南から)	
	6. Ⅰ区5号復旧溝群全景(南から)	
	7. Ⅰ区5号・6号復旧溝群全景(南から)	

PL. 7	8. Ⅰ区6号復旧溝群遺構断面(南から)	
	9. Ⅰ区中道世面全景(北・南区/上空から)	
	2. Ⅰ区中道世面全景(北/北/上空から)	
	3. Ⅰ区中道世面全景(中央区/東半部/東から)	
	4. Ⅰ区中道世面全景(中央区/東半部/北から)	
PL. 8	1. Ⅰ区1号土坑土層断面(南から)	
	2. Ⅰ区1号土坑全景(南から)	
	3. Ⅰ区2号土坑土層断面(北から)	
	4. Ⅰ区2号土坑全景(南から)	
	5. Ⅰ区3号土坑土層断面(南から)	
	6. Ⅰ区3号土坑全景(南から)	
	7. Ⅰ区5号土坑土層断面(南から)	
	8. Ⅰ区5号土坑全景(南から)	
	9. Ⅰ区6号土坑土層断面(南から)	
	10. Ⅰ区6号土坑全景(東から)	
	11. Ⅰ区7号土坑土層断面(南から)	
	12. Ⅰ区7号土坑全景(南から)	
	13. Ⅰ区9号土坑土層断面(北東から)	
	14. Ⅰ区9号土坑全景(南西から)	
	15. Ⅰ区10号土坑土層断面(南東から)	
PL. 9	1. Ⅰ区10号土坑全景(南西から)	
	2. Ⅰ区1号ピット土層断面(南から)	
	3. Ⅰ区2号ピット土層断面(北から)	
	4. Ⅰ区3号ピット土層断面(東から)	
	5. Ⅰ区4号ピット土層断面(北から)	
	6. Ⅰ区5号ピット全景(南から)	
	7. Ⅰ区6号ピット土層断面(西から)	
	8. Ⅰ区7号ピット土層断面(南から)	
	9. Ⅰ区12号ピット全景(南から)	
	10. Ⅰ区13号ピット土層断面(南から)	
	11. Ⅰ区13号ピット全景(南から)	
	12. Ⅰ区14号ピット土層断面(南から)	
	13. Ⅰ区14号ピット全景(南から)	
	14. Ⅰ区15号ピット土層断面(南東から)	
	15. Ⅰ区15号ピット全景(南東から)	
PL. 10	1. Ⅰ区1号溝土層断面(北から)	
	2. Ⅰ区3号溝土層断面(西から)	
	3. Ⅰ区3号~10号溝全景(上空から)	
	4. Ⅰ区21号溝土層断面(西から)	
	5. Ⅰ区21号溝全景(東から)	
PL. 11	1. Ⅰ区22号溝土層断面(南から)	
	2. Ⅰ区22号溝全景(南東から)	
	3. Ⅰ区23号溝土層断面(西から)	
	4. Ⅰ区23号溝全景(南から)	
	5. Ⅰ区25号溝土層断面(東から)	
	6. Ⅰ区25号溝全景(東から)	
	7. Ⅰ区26号溝土層断面(東から)	
	8. Ⅰ区26号溝全景(東から)	
PL. 12	1. Ⅰ区27号溝土層断面(南東から)	
	2. Ⅰ区27号溝全景(南東から)	
	3. Ⅰ区28号溝土層断面(南東から)	
	4. Ⅰ区28号溝全景(東から)	
	5. Ⅰ区中道世面全景(中央区/東半部/西から)	
PL. 13	1. Ⅰ区中道世面全景(北・南区/上空から)	
	2. Ⅰ区中道世面全景(北・南区/東から)	
	3. Ⅰ区1号擬立柱遺構全景(南から)	
PL. 14	1. Ⅰ区1号擬立柱P13出土状況(南から)	
	2. Ⅰ区1号土坑全景(東から)	
	3. Ⅰ区4号土坑土層断面(北から)	
	4. Ⅰ区4号土坑全景(東から)	
	5. Ⅰ区5号土坑土層断面(南から)	
	6. Ⅰ区5号土坑全景(東から)	
	7. Ⅰ区6号土坑土層断面(西から)	
	8. Ⅰ区7号土坑土層断面(南から)	
	9. Ⅰ区7号土坑全景(西から)	
	10. Ⅰ区8号土坑土層断面(東から)	

11. Ⅱ区8号土坑全量(東から)
12. Ⅱ区9号土坑土層断面(西から)
13. Ⅱ区9号土坑全量(東から)
14. Ⅱ区10号土坑全量(西から)
15. Ⅱ区11号土坑土層断面(東から)
- PL 15 1. Ⅱ区11号土坑全量(西から)
2. Ⅱ区12号土坑土層断面(南から)
3. Ⅱ区12号土坑全量(東から)
4. Ⅱ区13号土坑全量(東から)
5. Ⅱ区14号土坑全量(東から)
6. Ⅱ区110号土坑土層断面(南から)
7. Ⅱ区110号土坑全量(南から)
8. Ⅱ区119号土坑土層断面(南から)
9. Ⅱ区3号ビット土層断面(南から)
10. Ⅱ区38号ビット土層断面(南から)
11. Ⅱ区36号ビット全量(南から)
12. Ⅱ区37号ビット土層断面(南から)
13. Ⅱ区37号ビット全量(南から)
14. Ⅱ区38号ビット土層断面(南から)
15. Ⅱ区38号ビット全量(南から)
- PL 16 1. Ⅱ区新堀土層断面(南/北東から)
2. Ⅱ区新堀全量(南/南から)
3. Ⅱ区1号溝全量(南から)
4. Ⅱ区1号溝土層断面(北から)
5. Ⅱ区1号溝異状出土状態(西から)
6. Ⅱ区1号・2号溝土層断面(北西から)
7. Ⅱ区2号溝異状出土状態(北から)
- PL 17 1. Ⅱ区2号・41号・42号溝全量(南東から)
2. Ⅱ区3号溝土層断面(西から)
3. Ⅱ区2号溝全量(南から)
4. Ⅱ区4号溝土層断面(南から)
5. Ⅱ区5号溝土層断面(北から)
6. Ⅱ区5号溝全量(南から)
- PL 18 1. Ⅱ区5号・6号・40号溝他全量(東から)
2. Ⅱ区5号溝土層断面(南から)
3. Ⅱ区5号・6号・40号溝全量(南東から)
4. Ⅱ区6号溝土層断面(南から)
5. Ⅱ区6号溝土層断面(北から)
6. Ⅱ区6号溝土層断面(西から)
7. Ⅱ区7号溝土層断面(北から)
8. Ⅱ区8号・21号溝土層断面(西から)
- PL 19 1. Ⅱ区9号・12号・17号・20号溝全量(南から)
2. Ⅱ区18号溝南端出土状態(東から)
3. Ⅱ区13号溝全量(東から)
4. Ⅱ区36号溝土層断面(南から)
5. Ⅱ区37号溝土層断面(南から)
6. Ⅱ区39号・38号溝全量(南から)
7. Ⅱ区40号溝土層断面(西から)
- PL 20 1. Ⅱ区浅間B軽石・耕作層出土状況(南区)
2. Ⅱ区浅間B軽石・耕作層断面(南から)
3. Ⅱ区浅間B軽石・耕作層全量(南区/西から)
4. Ⅱ区1号復旧溝異状出土状況全量(南から)
5. Ⅱ区1号復旧溝近景(東から)
- PL 21 1. Ⅱ区1号復旧溝全量(東から)
2. Ⅱ区2号復旧溝全量(北から)
3. Ⅱ区3号復旧溝全量(南から)
4. Ⅱ区4号復旧溝全量(東から)
5. Ⅱ区6号復旧溝全量(北から)
6. Ⅱ区浅間B軽石土層断面全量(南区/西から)
7. Ⅱ区浅間A軽石復旧溝土層断面(中央区/南から)
- PL 22 1. Ⅱ区中近世面全量(南区/東から)
2. Ⅱ区中近世面全量(北区/東から)
3. Ⅱ区中近世面全量(中央区/東から)
4. Ⅱ区中近世面全量(北区/上空から)
5. Ⅱ区中近世面全量(南区/上空から)
- PL 23 1. Ⅱ区1号土坑全量(北から)
2. Ⅱ区2号土坑全量(東から)
3. Ⅱ区3号土坑全量(北から)
4. Ⅱ区4号土坑全量(北から)
5. Ⅱ区5号土坑全量(北から)
6. Ⅱ区6号土坑全量(北から)
7. Ⅱ区7号土坑全量(北から)
8. Ⅱ区8号土坑全量(北から)
9. Ⅱ区9号土坑全量(北から)
10. Ⅱ区11号土坑全量(北から)
11. Ⅱ区12号土坑全量(北から)
12. Ⅱ区15号土坑全量(東から)
13. Ⅱ区77号土坑土層断面(南から)
14. Ⅱ区77号土坑全量(南から)
15. Ⅱ区78号土坑土層断面(南から)
- PL 24 1. Ⅱ区78号土坑全量(北から)
2. Ⅱ区1号ビット全量(北から)
3. Ⅱ区2号ビット全量(北から)
4. Ⅱ区新堀全量(北区/北から)
5. Ⅱ区新堀土層断面(北区/北から)
6. Ⅱ区45号・49号溝土層断面(北から)
7. Ⅱ区新堀・45号・49号溝全量(中央区/南から)
8. Ⅱ区新堀土層断面(中央区/南東から)
9. Ⅱ区45号・49号溝土層断面(中央区/南東から)
- PL 25 1. Ⅱ区1号溝全量(南東から)
2. Ⅱ区1号溝土層断面(西から)
3. Ⅱ区1号溝全量(北から)
4. Ⅱ区1号溝全量(北から)
5. Ⅱ区43号・1号溝全量(南から)
6. Ⅱ区43号・1号溝全量(南から)
7. Ⅱ区1号溝遺物出土状態
8. Ⅱ区2号溝全量(西から)
1. Ⅱ区8号溝全量(南から)
- PL 26 2. Ⅱ区8号・10号溝全量(南西から)
3. Ⅱ区11号・10号溝全量(南西から)
4. Ⅱ区8号・13号溝全量(南西から)
5. Ⅱ区浅間B軽石・耕作層全量(北区/上空から)
6. Ⅱ区8号・10号・12号溝全量(北東から)
7. Ⅱ区耕作層の分布状況(北/北東から)
- PL 27 1. Ⅱ区耕作層の形態(北区/西から)
3. Ⅱ区1号復旧溝土層断面(南から)
4. Ⅱ区1号復旧溝全量(東から)
5. Ⅱ区1号復旧溝全量(南から)
6. Ⅱ区2号復旧溝全量(南から)
- PL 28 1. Ⅱ区2号・1号復旧溝全量(南から)
2. Ⅱ区2号復旧溝近景(東から)
3. Ⅱ区3号復旧溝土層断面(南東から)
4. Ⅱ区3号復旧溝近景(南から)
5. Ⅱ区3号復旧溝全量(東から)
6. Ⅱ区4号復旧溝土層断面(西から)
7. Ⅱ区4号復旧溝全量(西から)
- PL 29 1. Ⅱ区79号土坑土層断面(南から)
2. Ⅱ区79号土坑全量(北から)
3. Ⅱ区80号土坑土層断面(南から)
4. Ⅱ区80号土坑全量(北から)
5. Ⅱ区81号土坑土層断面(南から)
6. Ⅱ区82号土坑土層断面(南から)
7. Ⅱ区81号・82号土坑全量(北から)
8. Ⅱ区83号土坑土層断面(南から)
9. Ⅱ区83号土坑全量(北から)
10. Ⅱ区99号ビット土層断面(南から)
11. Ⅱ区99号ビット全量(北から)
12. Ⅱ区100号ビット土層断面(南から)
13. Ⅱ区100号ビット全量(北から)
14. Ⅱ区4号溝全量(北から)
15. Ⅱ区4号溝土層断面(北から)
- PL 30 1. Ⅱ・Ⅲ区中近世面全量(北区/西から)
2. Ⅱ・Ⅲ区中近世面全量(南区/西から)
3. Ⅱ区中世面全量(南区/東から)
4. Ⅱ区2号溝土層断面(西から)
5. Ⅱ区3号・5号・7号溝全量(北から)
6. Ⅱ区3号溝土層断面(東から)
- PL 31 1. Ⅱ区中近世面全量(南区/東から)
2. Ⅱ区5号溝土層断面(中央区/東から)
3. Ⅱ区5号溝全量(南から)
4. Ⅱ区7号溝全量(北から)
5. Ⅱ区6号・34号溝全量(南から)
6. Ⅱ区7号溝土層断面(東から)
7. Ⅱ区7号溝全量(中央区/東から)
- PL 32 1. Ⅱ区31号溝全量(西から)
2. Ⅱ区32号溝全量(西から)
3. Ⅱ区33号溝全量(南から)
4. Ⅱ区34号溝全量(東から)
- PL 33 1. Ⅱ区1号復旧溝全量(南から)
2. Ⅱ区1号復旧溝全量(南から)
3. Ⅱ区中近世面・中世面全量(西から)
4. Ⅱ区1号井戸土層断面(南から)
5. Ⅱ区1号井戸全量(南から)
6. Ⅱ区2号井戸・13号土坑全量(南から)
7. Ⅱ区1号土坑土層断面(南から)
8. Ⅱ区1号土坑全量(南から)
- PL 34 1. Ⅱ区2号土坑土層断面(南から)
2. Ⅱ区2号土坑全量(南から)
3. Ⅱ区3号土坑土層断面(東から)
4. Ⅱ区4号土坑土層断面近景(南から)
5. Ⅱ区4号土坑土層断面(南から)
6. Ⅱ区5号土坑土層断面(南から)
7. Ⅱ区5号土坑全量(南から)
8. Ⅱ区6号土坑土層断面(南から)
9. Ⅱ区7号土坑土層断面(南から)
10. Ⅱ区10号土坑土層断面(南から)
11. Ⅱ区12号・11号土坑全量(南から)
12. Ⅱ区11号土坑土層断面(西から)
13. Ⅱ区12号土坑土層断面(西から)
14. Ⅱ区13号土坑・2号井戸土層断面(東から)
15. Ⅱ区14号土坑土層断面(東から)
- PL 35 1. Ⅱ区15号土坑土層断面(北東から)
2. Ⅱ区16号土坑土層断面(南から)
3. Ⅱ区17号土坑土層断面(南から)
4. Ⅱ区17号土坑全量(南から)
5. Ⅱ区18号土坑土層断面(南から)
6. Ⅱ区18号土坑全量(北から)
7. Ⅱ区19号土坑土層断面(北東から)
8. Ⅱ区19号土坑全量(北東から)
9. Ⅱ区20号土坑土層断面(南から)
10. Ⅱ区20号土坑全量(南から)
11. Ⅱ区22号土坑土層断面(南西から)

	12. MK23号土坑土層断面(南から)		15. DX区9号土坑土層断面(南から)
	13. MK24号土坑土層断面(西から)	PL 46	1. DX区9号土坑土層断面(南から)
	14. MK25号土坑土層断面(南から)		2. DX区10号土坑土層断面(南から)
	15. MK1号ピット土層断面(南から)		3. DX区10号土坑土層断面(東から)
PL 36	1. MK1号溝土層断面(東から)		4. DX区11号土坑土層断面(南から)
	2. MK1号溝土層断面(南から)		5. DX区11号土坑土層断面(南から)
	3. MK2号溝土層断面(南から)		6. DX区12号土坑土層断面(南から)
	4. MK2号溝土層断面(南東から)		7. DX区13号・14号土坑土層断面(南から)
	5. MK3号・4号溝土層断面(南から)		8. DX区13号・14号土坑土層断面(南から)
	6. MK5号溝土層断面(南から)		9. DX区15号土坑土層断面(南から)
	7. MK6号・7号溝土層断面(南から)		10. DX区15号土坑土層断面(南から)
	8. MK6号-11号溝土層断面(東から)		11. DX区16号土坑土層断面(西から)
PL 37	1. MK8号溝土層断面(南から)		12. DX区16号土坑土層断面(西から)
	2. MK9号溝土層断面(南から)		13. DX区17号土坑土層断面(東から)
	3. MK9号・13号溝断面(東から)		14. DX区17号土坑土層断面(東から)
	4. MK10号溝土層断面(北東から)		15. DX区18号土坑土層断面(南から)
	5. MK12号溝土層断面(南から)		1. DX区18号土坑土層断面(南から)
	6. MK9号・13号溝土層断面(東から)	PL 47	1. DX区19号土坑土層断面(東から)
	7. MK10号・13号溝土層断面(東から)		3. DX区19号土坑土層断面(東から)
	8. MK13号溝土層断面(北東から)		4. DX区20号-22号土坑土層断面(南から)
PL 38	1. MK1号掘作面状況土層断面(東から)		5. DX区20号・21号土坑土層断面(南から)
	2. MK1号掘作面の分布状況断面(南から)		6. DX区22号土坑土層断面(南から)
	3. MK1号掘作面の分布(南から)		7. DX区22号土坑土層断面(北東から)
	4. MK1号掘作面の形成(南から)		8. DX区23号土坑土層断面(南西から)
	5. MK1号復旧溝土層断面(南から)		9. DX区ピット列土層断面(東から)
	6. MK1号復旧溝断面(西から)		10. DX区ピット列掘削状況断面(南から)
	7. MK2号復旧溝土層断面(西から)		11. DX区ピット列土層断面(南から)
	8. MK2号復旧溝断面(西から)		12. DX区ピット列土層断面(東から)
PL 39	1. MK中近世面土層断面(東から)	PL 48	13. DX区ピット列断面断面(南東から)
	2. MK中近世面土層断面(東から)		1. DX区1号溝土層断面(南西から)
	3. MK1号井戸土層断面(南から)		2. DX区1号溝土層断面(南東から)
	4. MK1号土坑土層断面(南から)		3. DX区2号溝土層断面(南から)
	5. MK1号土坑土層断面(北から)		4. DX区2号・4号溝土層断面(南から)
PL 40	6. MK2号土坑土層断面(南から)		5. DX区3号溝土層断面(東から)
	1. MK1号-7号溝土層断面(東から)		6. DX区3号溝土層断面(西から)
	2. MK1号-7号溝土層断面(西から)		7. DX区4号溝土層断面-A'(南から)
	3. MK1号溝土層断面(東から)		8. DX区4号溝土層断面-B'(東から)
	4. MK2号溝土層断面(東から)	PL 49	9. DX区5号溝・大アゼ土層断面(北から)
	5. MK3号溝土層断面(北から)		2. DX区5号溝土層断面(南から)
	6. MK4号溝土層断面(南から)		3. DX区6号溝土層断面(西から)
	7. MK中近世面調査風景		4. DX区6号溝土層断面(南から)
PL 41	8. MK中近世面調査風景		5. DX区1号復旧溝掘削状況断面(南から)
	1. MK中近世面土層断面(東から)		6. DX区1号復旧溝土層断面部分(南から)
	2. MK中近世面土層断面(東から)		7. DX区3号復旧溝土層断面(南から)
PL 42	1. MK1号井戸土層断面(南から)	PL 50	1. I区浅間Bテラス直下土層断面(南・北東/東から)
	2. MK1号井戸土層断面(南から)		2. I区浅間Bテラス直下土層断面(中央区/東から)
	3. MK1号土坑土層断面(南から)		3. I区18号溝土層断面(北から)
	4. MK1号土坑土層断面(南から)		4. I区19号溝土層断面(北西から)
	5. MK2号土坑土層断面(南から)		1. I区浅間Bテラス直下土層アゼ土層断面(北東/東から)
	6. MK3号土坑土層断面(南から)		2. I区浅間Bテラス直下土層アゼ土層断面(北東/南から)
	7. MK3号土坑土層断面(南から)		3. I区浅間Bテラス直下土層アゼ土層断面(北東/西から)
	8. MK4号土坑土層断面(南から)	PL 51	1. I区浅間Bテラス直下土層アゼ土層断面(北東/北西から)
	9. MK4号・5号土坑土層断面(南から)		2. I区浅間Bテラス直下土層アゼ土層断面(北東/北西から)
	10. MK4号・5号土坑・1号井戸土層断面(南から)		3. I区浅間Bテラス直下土層アゼ土層断面(北東/北西から)
	11. MK5号土坑土層断面(南から)		4. I区道伏橋土層断面
	12. MK6号土坑土層断面(南から)		5. I区浅間Bテラス直下土層アゼ土層断面(中央区東端/南から)
	13. MK6号土坑土層断面(東から)		6. I区浅間Bテラス直下土層アゼ土層断面(中央区東半/南から)
	14. MK7号土坑土層断面(南から)		7. I区浅間Bテラス直下土層アゼ土層断面(中央区中/南から)
	15. MK7号土坑土層断面(南から)		8. I区浅間Bテラス直下土層アゼ土層断面(中央区西半/南から)
PL 43	1. MK8号土坑土層断面(東から)	PL 52	1. I区浅間Bテラス直下土層アゼ土層断面-E'(中央区/西から)
	2. MK8号・11号土坑土層断面(東から)		2. I区浅間Bテラス直下土層アゼ土層断面-F'(中央区/西から)
	3. MK8号土坑土層断面(東から)		3. I区浅間Bテラス直下土層アゼ土層断面の調査(中央区/西から)
	4. MK9号土坑土層断面(東から)		4. I区浅間Bテラス直下土層アゼ土層断面の土層断面(中央区/西から)
	5. MK9号土坑土層断面(東から)		6. I区浅間Bテラス直下土層アゼ土層断面近接(中央区/西から)
	6. MK10号土坑土層断面(南から)		7. I区浅間Bテラス直下土層アゼ土層断面近接調査風景
	7. MK10号土坑土層断面(南から)		8. I区浅間Bテラス直下土層アゼ土層断面近接調査風景
	8. MK11号土坑土層断面(東から)		9. I区浅間Bテラス直下土層アゼ土層断面近接調査状況
	9. MK11号土坑土層断面(東から)		7. I区浅間Bテラス直下土層アゼ土層断面(南から)
	10. MK1号溝土層断面(西から)	PL 53	1. II区浅間Bテラス直下土層断面(南・北東/東上空から)
	11. MK2号溝土層断面(東から)		3. II区浅間Bテラス直下土層断面(北西/南東から)
	12. MK2号溝土層断面(東から)	PL 54	1. I区浅間B混土上面疑位群断面(中央区西半/西から)
	13. MK3号溝土層断面(東から)		1. I区浅間B混土上面疑位群断面(中央区西半/東から)
	14. MK中近世土坑群と溝(南から)		4. II区浅間B混土上面疑位群断面(中央区東半/北から)
PL 44	1. DX区中近世面土層断面(西から)		5. II区浅間B混土上面疑位群断面(中央区東半/東から)
	2. DX区中近世面土層断面(南区/南から)		7. II区浅間B混土上面大アゼ土層断面(中央区東半/北から)
	3. DX区北東部アゼ土層断面(中央区/南から)		8. II区浅間B混土上面大アゼ土層断面-A'(中央区東半/南から)
	4. DX区北東部アゼ土層断面(南区/南から)		9. II区浅間B混土上面大アゼ土層断面-B'(中央区東半/南から)
PL 45	1. DX区1号土坑土層断面(東から)	PL 55	1. II区浅間B混土上面大アゼ土層断面-C'(中央区東半/南東から)
	2. DX区1号土坑土層断面(東から)		3. II区1号掘作面状況断面(中央区東半/東から)
	3. DX区2号土坑土層断面(東から)		4. II区1号掘作面土層断面(中央区東半/南から)
	4. DX区2号土坑土層断面(東から)		5. II区土層出土状況(中央区東半/北から)
	5. DX区3号土坑土層断面(南東から)		6. II区土層出土状況(中央区東半/南から)
	6. DX区3号土坑土層断面(東から)		7. II区土層出土状況(中央区西半/北から)
	7. DX区4号土坑土層断面(東から)		8. II区不明な調査品出土状況(中央区東半/北から)
	8. DX区5号土坑土層断面(東から)	PL 56	1. II区2号溝土層断面(北東/北から)
	9. DX区5号土坑土層断面(東から)		2. II区2号溝土層断面(北東/南から)
	10. DX区6号・7号土坑土層断面(南から)		3. II区浅間Bテラス直下土層アゼ土層断面(北東/南東から)
	11. DX区6号・7号土坑土層断面(南から)		4. II区浅間Bテラス直下土層アゼ土層断面(北東/北西から)
	12. DX区8号土坑土層断面(南から)		5. II区浅間Bテラス直下土層アゼ土層断面(北東/北西から)
	13. DX区8号土坑土層断面(北から)		6. II区浅間Bテラス直下土層アゼ土層断面(南区/南から)
	14. DX区8号土坑土層断面(北から)		

8. II区西壁土層断面(中央区東平/東から)
- PL 86 1. II区古代VI層上面水田前跡近景(中央区東平/南から)
2. II区古代VI層上面水田前跡近景(中央区西高/南から)
3. II区古代VI層上面水田前跡近景(中央区西平/南から)
4. II区古代VI層上面水田前跡跡断面(中央区西平/南から)
5. II区・III区古代VI層上面水田前跡断面(北・南区/西から)
- PL 87 1. II区古代VI層上面水田前跡遺構面全景(中央区/東から)
2. III区古代遺構面全景(中央区/東から)
3. III区古代遺構面全景(中央区/西から)
4. III区1号住居方土層断面(南から)
5. III区1号住居土層断面(南から)
6. III区1号住居土層断面(東から)
7. III区1号住居カマド全景(西から)
8. III区1号住居カマド土層断面(南から)
- PL 88 1. III区1号住居カマド土層断面(南から)
2. III区1号住居掘り方全景(南から)
3. III区1号住居掘り方土層断面(南から)
4. III区1号住居カマド掘り方土層断面(西から)
5. III区2号住居全景(南から)
6. III区2号住居土層断面(東から)
7. III区2号住居カマド全景(西から)
8. III区2号住居カマド土層断面(西から)
- PL 89 1. III区2号住居掘り方全景(南から)
2. III区2号住居掘り方土層断面(西から)
3. III区2号住居カマド掘り方土層断面(西から)
4. III区2号住居カマド土層断面(南から)
5. III区3号住居全景(南から)
6. III区3号住居土層断面(南から)
7. III区3号住居カマド全景(西から)
8. III区3号住居カマド土層断面(西から)
- PL 90 1. III区3号住居掘り方土層断面(南から)
2. III区3号住居カマド土層断面(南から)
3. III区3号住居掘り方全景(南から)
4. III区3号住居掘り方土層断面(南から)
5. III区3号住居掘り方土層断面(東から)
6. III区3号住居カマド掘り方土層断面(西から)
7. III区4号住居全景(南から)
8. III区4号住居土層断面(南から)
- PL 91 1. III区4号住居カマド掘り方土層断面(西から)
2. III区4号住居カマド掘り方土層断面(南から)
3. III区4号住居掘り方全景(南から)
4. III区4号住居掘り方土層断面(南から)
5. III区5号住居全景(西から)
6. III区5号住居土層断面(東から)
7. III区5号住居土層断面(南から)
8. III区5号住居野蔵穴土層断面(南から)
- PL 92 1. III区5号住居カマド土層断面(西から)
2. III区5号住居掘り方全景(南から)
3. III区5号住居掘り方土層断面(南から)
4. III区5号住居カマド掘り方土層断面(南から)
5. III区5号住居カマド掘り方土層断面(西から)
7. III区6号住居全景(南から)
8. III区6号住居土層断面(東から)
- PL 93 1. III区6号住居野蔵穴土層断面(東から)
2. III区6号住居野蔵穴土層断面(南から)
3. III区6号住居カマド土層断面(南から)
4. III区6号住居カマド土層断面(西から)
5. III区6号住居掘り方全景(南から)
6. III区6号住居カマド掘り方土層断面(西から)
7. III区6号住居カマド掘り方土層断面(南から)
8. III区6号住居掘り方全景(西から)
- PL 94 1. III区7号住居全景(西から)
2. III区7号住居掘り方全景(南から)
3. III区7号住居掘り方土層断面(東から)
4. III区7号住居掘り方土層断面(南から)
5. III区8号住居全景(南から)
6. III区8号住居土層断面(南から)
7. III区8号住居カマド掘り方土層断面(西から)
8. III区8号住居カマド掘り方土層断面(西から)
- PL 95 1. III区8号住居掘り方全景(南から)
2. III区1号野蔵穴遺構土層断面(東から)
3. III区2号野蔵穴遺構土層断面(南から)
4. III区2号野蔵穴遺構土層断面(東から)
5. III区3号野蔵穴遺構土層断面(南から)
7. III区4号野蔵穴遺構面全景(南から)
8. III区4号野蔵穴遺構土層断面(南から)
- PL 96 1. III区1号丹井土層断面(南から)
2. III区1号・3号丹井土層断面(南から)
3. III区1号・3号丹井全景(南から)
4. III区2号丹井土層断面(南から)
5. III区2号丹井全景(南から)
6. III区15号土層断面(東から)
7. III区15号土層断面(南から)
8. III区16号土層断面(北から)
9. III区17号土層断面(北から)
10. III区18号土層断面(東から)
11. III区18号土層断面(南から)
12. III区19号土層断面(南から)
13. III区19号土層断面(南から)
14. III区20号・21号土層断面(南から)
15. III区111号土層断面(南から)

- PL 97 1. III区111号土層断面(南から)
2. III区115号土層断面(東から)
3. III区115号土層断面(南から)
4. III区115号土層断面(東から)
5. III区115号土層断面(南から)
6. III区89号ピット土層断面(南から)
7. III区90号ピット土層断面(南から)
8. III区91号ピット土層断面(南から)
9. III区92号ピット土層断面(南から)
10. III区93号ピット土層断面(南から)
11. III区94号ピット土層断面(南から)
12. III区95号ピット土層断面(南から)
13. III区97号ピット土層断面(南から)
14. III区99号ピット土層断面(南から)
15. III区101号ピット土層断面(東から)
- PL 98 1. III区102号ピット土層断面(東から)
2. III区103号ピット土層断面(東から)
3. III区104号ピット土層断面(東から)
4. III区25号溝土層断面(西から)
5. III区26号溝土層断面(西から)
6. III区25号・27号溝全景(西から)
7. III区27号溝土層断面(西から)
8. III区古河遺構調査区全景(南区/南から)
9. III区28号・29号溝土層断面(北から)
- PL 99 1. III区古代VI層上面水田前跡遺構面全景(北・近江/東から)
2. III区28号・29号溝全景(北区/南から)
3. III区28号溝全景(中央区/南から)
4. III区古代VI層上面水田前跡遺構面全景(北・南区/上空から)
5. III区28号溝全景(南区/南から)
- PL 100 1. III区28号溝遺構出土状態(南区/南から)
2. III区28号溝遺構出土状態(南区/北から)
3. III区28号溝遺構出土状態(北区/南から)
4. III区28号溝遺構出土状態(南区/南から)
5. III区28号溝土層断面(中央区/南から)
6. III区28号溝全景(中央区/東から)
7. III区28号溝土層断面(南区/北西から)
8. III区28号溝土層断面(南区/北西から)
- PL 101 1. III区29号溝西部遺構出土状態(東から)
2. III区29号溝全景(東から)
3. III区29号溝全景(西から)
4. III区29号溝西部遺構出土状態(東から)
5. III区29号溝土層出土状態(東から)
6. III区29号溝遺構出土状態(東から)
7. III区13号・35号溝土層断面(北から)
8. III区35号溝全景(南から)
- PL 102 1. III区2号耕作物出土状況(北区/西から)
2. III区古代IV B層上面耕作物・牛蹄跡全景(北区/南から)
3. III区古代IV B層上面牛蹄跡出土状況(北区/西から)
4. III区古代IV B層上面牛蹄跡分布状況(北区/南から)
4. III区古代VI層上面水田前跡全景(南区/西から)
5. III区古代VI層上面水田前跡土層断面(南区/東から)
7. III区古代VI層上面水田前跡西部土層断面(北区/南から)
8. III区古代VI層上面水田前跡東部土層断面(北区/南から)
- PL 103 1. III区古代VI層上面水田前跡土層断面(南区/南東から)
2. III区古代VI層上面水田前跡東部土層断面(南区/南から)
3. III区古代VI層上面水田前跡西部土層断面(南区/南から)
4. III区3号耕作物全景(北区/南から)
5. III区古代IV B層耕作物出土状態(北区/北から)
6. III区古代VI層石礫出土状態(北区/東から)
7. III区古代IV B層土層断面出土状態
8. III区古代IV B層遺構断面出土状態
- PL 104 1. I区古く・古銅時代遺構面全景(北区西平/上空から)
2. I区古く・古銅時代遺構面全景(中央区/東から)
- PL 105 1. I区3号土坑全景(南から)
2. I区4号土坑S型出土状態(北から)
3. I区4号土坑上層遺構出土状態(東から)
4. I区4号土坑中層遺構出土状態(東から)
5. I区4号土坑下層遺構出土状態(東から)
6. I区4号土坑最下層遺構出土状態(東から)
7. I区4号土坑牛糞出土状態
8. I区4号土坑遺構断面出土状態(東から)
9. I区4号土坑小型出土状態
10. I区4号土坑断面検出状況
11. I区4号土坑・1号・3号・4号ピット全景(西から)
12. I区9号土坑土層断面(南から)
13. I区9号土坑全景(南から)
14. I区10号土坑土層断面(南から)
15. I区10号土坑全景(南から)
- PL 106 1. I区11号・13号土坑土層断面(南から)
2. I区11号・13号土坑全景(南から)
3. I区14号土坑土層断面(南から)
4. I区14号土坑全景(南から)
5. I区15号土坑遺構出土状態(南から)
6. I区15号土坑断面(南から)
7. I区16号土坑断面(東から)
8. I区1号ピット土層断面(南東から)
9. I区2号ピット土層断面(南東から)
10. I区3号ピット土層断面(南東から)
11. I区4号ピット土層断面(南から)
12. I区河内遺構断面(北西から)
13. I区谷倉断面(北西から)
14. I区谷倉断面(北東から)

15. I 区谷全景(南東から)
- PL 107 1. I 区22号溝土壘断面(北区/北から)
2. I 区22号溝土壘断面(北区/南から)
3. I 区22号溝土壘断面(中央区/北から)
4. I 区22号溝土壘断面(中央区/南から)
5. I 区22号溝土壘断面(南区/南から)
6. I 区23号溝全景(南区/南から)
7. I 区22号溝遺物出土状態(北から)
8. I 区22号溝遺物出土状態(南から)
- PL 108 1. I 区24号~26号溝全景(中央区/上空から)
2. I 区24号~26号溝全景(南区/南から)
3. I 区24号溝土壘断面(南区/南から)
4. I 区25号溝土壘断面(南区/南から)
5. I 区24号溝土壘断面(中央区/南東から)
6. I 区24号溝全景(中央区/南から)
7. I 区25号溝土壘断面(中央区/北から)
8. I 区25号溝土壘断面(中央区/南東から)
- PL 109 1. I 区26号溝土壘断面(中央区/北から)
2. I 区26号溝土壘断面(中央区/南から)
3. I 区24号~26号溝全景(中央/北西から)
4. I 区30号・31号溝全景(南から)
5. I 区34号~38号・40号・41号溝全景(南から)
6. I 区34号・38号溝土壘断面(南から)
7. I 区40号溝土壘断面(南から)
8. I 区34号・40号溝遺物出土状態(南から)
- PL 110 1. I 区34号・40号溝全景(南から)
2. I 区35号溝土壘断面(南から)
3. I 区35号溝・7号土壘遺物出土状態(南から)
4. I 区36号・49号・50号溝全景(南から)
5. I 区36号・49号溝土壘断面(南から)
6. I 区37号溝土壘断面(南から)
7. I 区37号溝遺物出土状態(南から)
8. I 区37号溝調査風景(北区/南から)
- PL 111 1. I 区38号・41号溝遺物出土状態(南から)
2. I 区39号溝土壘断面A-A'(南から)
3. I 区39号溝土壘断面B-B'(南から)
4. I 区39号溝土壘断面北東側(南から)
5. I 区39号・42号溝全景(南から)
6. I 区42号溝全景(東から)
7. I 区39号溝遺物出土状態(南から)
- PL 112 1. I 区39号溝遺物出土状態(北から)
2. I 区43号~45号溝全景(南から)
3. I 区46号溝全景(西から)
4. I 区51代~古墳時代遺構面調査風景(南西から)
5. I 区50号溝土壘断面(南から)
6. I 区51号溝土壘断面(南から)
- PL 113 1. I 区55号溝土壘断面(南から)
2. I 区55号溝全景(南から)
3. I 区51代~古墳時代遺構面断面本館全景(中央区/東から)
4. I 区51代~古墳時代遺構面断面本館土壘断面(北区/北から)
5. I 区51代~古墳時代遺構面断面本館土壘断面(北区/南から)
6. I 区51代~古墳時代遺構面断面本館土壘断面(北区/南から)
7. I 区51代~古墳時代遺構面断面稲粒輝石山岩出土状態(北区/南から)
- PL 114 1. I 区51代~古墳時代遺構面断面確認状況(南区/東から)
2. II 区南壁土壘断面(南区/北から)
3. I 区51代~古墳時代遺構面断面全景(中央区東半/西から)
4. I 区51代~古墳時代遺構面断面全景(中央区西半/東から)
5. II 区8号土壘遺物・埴土検出状況(南から)
6. II 区8号土壘土除去後土壘断面(南から)
7. II 区8号土壘遺物出土状態(北から)
8. II 区8号土壘遺物出土状態(南から)
- PL 115 1. II 区8号土壘遺物の埴土検出状況(北東から)
2. II 区8号土壘全景(東から)
3. II 区20号土壘断面(南南から)
4. II 区20号溝全景(南から)
5. II 区1号榎木壘土壘断面(北から)
6. II 区2号榎木壘土壘断面(西から)
7. II 区51代~古墳時代遺構面断面石籠出土状態(北区/南から)
8. II 区51代~古墳時代遺構面断面北東隅遺物出土状態(北区/南から)
- PL 116 1. III 区古代~古墳時代遺構面断面全景(北区/西から)
2. III 区古代~古墳時代遺構面断面全景(中央区/南から)
3. III 区古代~古墳時代遺構面断面横断近景(中央区/東から)
4. III 区9号住居全景(南から)
5. III 区9号住居東境溝土壘断面(南から)
6. III 区9号住居西境溝土壘断面(南から)
- PL 117 1. III 区9号住居東境溝遺物出土状態(北から)
2. III 区9号住居東境溝遺物出土状態(南から)
3. III 区9号住居P1土壘断面(南から)
4. III 区9号住居P2土壘断面(南から)
5. III 区9号住居P3土壘断面(南から)
6. III 区9号住居P4土壘断面(南から)
7. III 区51代~古墳時代遺構面断面全景(北区/上空から)
- PL 118 1. III 区2号竪立柱建物全景(東から)
2. III 区2号竪立P1土壘断面(南から)
3. III 区2号竪立P1全景(南から)
4. III 区2号竪立P2土壘断面(南から)
5. III 区2号竪立P2全景(南から)
6. III 区2号竪立P3土壘断面(南から)
7. III 区2号竪立P3全景(南から)
8. III 区2号竪立P4全景(南から)
9. III 区3号竪立柱建物全景(北から)
- PL 119 1. III 区3号竪立P1土壘断面(東から)
2. III 区3号竪立P1全景(東から)
3. III 区3号竪立P2土壘断面(東から)
4. III 区3号竪立P2全景(南から)
5. III 区3号竪立P3土壘断面(北から)
6. III 区3号竪立P4土壘断面(南から)
7. III 区3号竪立P5土壘断面(東から)
8. III 区3号竪立P5全景(東から)
9. III 区3号竪立P6土壘断面(東から)
10. III 区3号竪立P6全景(南から)
11. III 区3号竪立P7土壘断面(東から)
12. III 区3号竪立P7全景(南から)
13. III 区3号竪立P8土壘断面(南から)
14. III 区3号竪立P8全景(南から)
15. III 区3号竪立P9土壘断面(南から)
- PL 120 1. III 区3号竪立P9全景(南から)
2. III 区4号竪立柱建物全景(南から)
3. III 区4号竪立P1土壘断面(東から)
4. III 区4号竪立P1全景(南から)
5. III 区4号竪立P2土壘断面(東から)
6. III 区4号竪立P2全景(南から)
7. III 区4号竪立P3土壘断面(南から)
8. III 区4号竪立P3全景(南から)
9. III 区4号竪立P4土壘断面(南から)
10. III 区4号竪立P4全景(南から)
11. III 区5号竪立P1土壘断面(南から)
12. III 区5号竪立P1全景(南から)
- PL 121 1. III 区5号竪立柱建物全景(西から)
2. III 区5号竪立P2土壘断面(南から)
3. III 区5号竪立P3全景(南から)
4. III 区5号竪立P3土壘断面(南から)
5. III 区5号竪立P3全景(南から)
6. III 区5号竪立P4土壘断面(南から)
7. III 区5号竪立P4土壘断面(南から)
8. III 区5号竪立P4遺物出土状態(南から)
9. III 区5号竪立P5土壘断面(南から)
10. III 区5号竪立P5全景(南から)
11. III 区5号竪立P6土壘断面(南から)
12. III 区5号竪立P6全景(南から)
13. III 区5号竪立P7土壘断面(南から)
14. III 区5号竪立P7全景(南から)
- PL 122 1. III 区5号竪立P8土壘断面(南から)
2. III 区5号竪立P8土壘断面(南から)
3. III 区5号竪立P8全景(南から)
4. III 区5号竪立P9土壘断面(南から)
5. III 区5号竪立P9土壘断面(南から)
6. III 区5号竪立P10土壘断面(南から)
7. III 区5号竪立P10全景(南から)
8. III 区5号竪立P11土壘断面(南から)
9. III 区5号竪立P11全景(南から)
10. III 区1号柱六列全景(北から)
11. III 区1号柱六列P1土壘断面(南から)
12. III 区1号柱六列P2土壘断面(南から)
- PL 123 1. III 区1号柱六列P3全景(南から)
2. III 区1号柱六列P3土壘断面(南から)
3. III 区1号柱六列P3全景(南から)
4. III 区1号柱六列P4土壘断面(南から)
5. III 区1号柱六列P4全景(南から)
6. III 区22号土壘全景(南から)
7. III 区23号土壘全景(南から)
8. III 区24号土壘全景(南から)
9. III 区25号土壘土壘断面(南から)
10. III 区26号~28号土壘全景(南から)
11. III 区27号土壘土壘断面(南東から)
12. III 区28号土壘土壘断面(南から)
13. III 区29号土壘土壘断面(南から)
14. III 区29号土壘土壘断面(北から)
15. III 区30号・31号土壘土壘断面(南から)
- PL 124 1. III 区30号・31号土壘全景(北から)
2. III 区32号土壘土壘断面(南から)
3. III 区32号土壘全景(南から)
4. III 区33号土壘土壘断面(南から)
5. III 区33号土壘全景(南から)
6. III 区34号土壘土壘断面(南から)
7. III 区35号土壘土壘断面(南から)
8. III 区36号土壘土壘断面(東から)
9. III 区36号土壘土壘断面(南から)
10. III 区37号土壘土壘断面(南から)
11. III 区37号土壘全景(南から)
12. III 区38号土壘土壘断面(東から)
13. III 区38号土壘土壘断面(南から)
14. III 区47号土壘土壘断面(東から)
15. III 区47号土壘土壘断面(南から)
- PL 125 1. III 区49号・48号土壘土壘断面(東から)
2. III 区50号土壘土壘断面(南から)
3. III 区50号・49号・48号土壘土壘断面(東から)
4. III 区39号土壘土壘断面(南から)
5. III 区39号土壘土壘断面(南から)
6. III 区40号土壘土壘断面(南から)
7. III 区40号土壘土壘断面(南から)
8. III 区41号土壘土壘断面(南から)
9. III 区41号土壘土壘断面(西から)
10. III 区42号土壘土壘断面(南から)
11. III 区42号土壘土壘断面(南から)
12. III 区42号土壘土壘断面(東から)

- PL 126 1. Ⅲ区43号土壌土質断面(南から)
2. Ⅲ区43号土壌土質断面(東から)
3. Ⅲ区44号土壌土質断面(南から)
4. Ⅲ区44号土壌土質断面(東から)
5. Ⅲ区45号土壌土質断面(南から)
6. Ⅲ区45号土壌土質断面(東から)
7. Ⅲ区46号土壌土質断面(南から)
8. Ⅲ区46号土壌土質断面(東から)
9. Ⅲ区51号土壌土質断面(南から)
10. Ⅲ区51号土壌土質断面(東から)
11. Ⅲ区52号・53号土壌土質断面(南から)
12. Ⅲ区52号・53号土壌土質断面(東から)
13. Ⅲ区54号土壌土質断面(南から)
14. Ⅲ区54号土壌土質断面(東から)
15. Ⅲ区55号土壌土質断面(南から)
16. Ⅲ区55号土壌土質断面(東から)
17. Ⅲ区56号土壌土質断面(南から)
18. Ⅲ区56号土壌土質断面(東から)

- PL 127 1. Ⅲ区56号・96号土壌土質断面(西から)
2. Ⅲ区56号土壌土質断面(南から)
3. Ⅲ区57号土壌土質断面(東から)
4. Ⅲ区56号・96号土壌土質断面(南から)
5. Ⅲ区57号土壌土質断面(東から)
6. Ⅲ区58号土壌土質断面(南から)
7. Ⅲ区58号土壌土質断面(東から)
8. Ⅲ区70号土壌土質断面(南から)
9. Ⅲ区70号土壌土質断面(東から)
10. Ⅲ区59号土壌土質断面(南から)
11. Ⅲ区59号土壌土質断面(東から)
12. Ⅲ区61号土壌土質断面(南から)
13. Ⅲ区61号土壌土質断面(東から)
14. Ⅲ区62号土壌土質断面(南から)
15. Ⅲ区62号土壌土質断面(東から)

- PL 128 1. Ⅲ区63号土壌土質断面(南から)
2. Ⅲ区63号土壌土質断面(東から)
3. Ⅲ区63号土壌土質断面(南から)
4. Ⅲ区64号土壌土質断面(北から)
5. Ⅲ区64号土壌土質断面(東から)
6. Ⅲ区65号土壌土質断面(南から)
7. Ⅲ区65号土壌土質断面(東から)
8. Ⅲ区66号・95号土壌土質断面(南から)
9. Ⅲ区66号・95号土壌土質断面(東から)
10. Ⅲ区67号土壌土質断面(南から)
11. Ⅲ区67号土壌土質断面(東から)
12. Ⅲ区68号土壌土質断面(南から)
13. Ⅲ区68号土壌土質断面(東から)
14. Ⅲ区71号土壌土質断面(南から)
15. Ⅲ区72号土壌土質断面(東から)

- PL 129 1. Ⅲ区72号土壌土質断面(南から)
2. Ⅲ区73号土壌土質断面(東から)
3. Ⅲ区73号土壌土質断面(南から)
4. Ⅲ区74号土壌土質断面(西から)
5. Ⅲ区74号土壌土質断面(北から)
6. Ⅲ区75号土壌土質断面(北から)
7. Ⅲ区76号土壌土質断面(東から)
8. Ⅲ区76号土壌土質断面(東から)
9. Ⅲ区77号土壌土質断面(南から)
10. Ⅲ区77号土壌土質断面(北から)
11. Ⅲ区78号土壌土質断面(東から)
12. Ⅲ区78号土壌土質断面(東から)
13. Ⅲ区79号土壌土質断面(南から)
14. Ⅲ区79号土壌土質断面(東から)
15. Ⅲ区80号土壌土質断面(南から)

- PL 130 1. Ⅲ区81号土壌土質断面(南から)
2. Ⅲ区81号土壌土質断面(東から)
3. Ⅲ区101号土壌土質断面(西から)
4. Ⅲ区82号土壌土質断面(南から)
5. Ⅲ区82号土壌土質断面(東から)
6. Ⅲ区82号土壌土質断面(東から)
7. Ⅲ区83号土壌土質断面(南から)
8. Ⅲ区83号土壌土質断面(東から)
9. Ⅲ区84号土壌土質断面(南から)
10. Ⅲ区85号・86号土壌土質断面(南から)
11. Ⅲ区85号土壌土質断面確認状況(東から)
12. Ⅲ区85号土壌土質断面確認状況(南から)
13. Ⅲ区85号土壌土質断面(南から)
14. Ⅲ区85号・86号土壌土質断面(南から)
15. Ⅲ区85号土壌土質断面(西から)

- PL 131 1. Ⅲ区86号土壌土質断面(南から)
2. Ⅲ区86号土壌土質断面(西から)
3. Ⅲ区91号土壌土質断面(西から)
4. Ⅲ区91号土壌土質断面(西から)
5. Ⅲ区87号土壌土質断面(東から)
6. Ⅲ区87号土壌土質断面(東から)
7. Ⅲ区88号土壌土質断面(南から)
8. Ⅲ区88号土壌土質断面(南から)
9. Ⅲ区89号土壌土質断面(南から)
10. Ⅲ区89号土壌土質断面(南から)
11. Ⅲ区90号土壌土質断面確認状況(南から)
12. Ⅲ区90号土壌土質断面(南から)
13. Ⅲ区90号土壌土質断面(西から)
14. Ⅲ区90号土壌土質断面(南から)

- PL 132 1. Ⅲ区92号土壌土質断面(西から)
2. Ⅲ区92号土壌土質断面(西から)
3. Ⅲ区93号土壌土質断面(南から)
4. Ⅲ区93号土壌土質断面(南から)
5. Ⅲ区94号土壌土質断面(東から)
6. Ⅲ区94号土壌土質断面(南から)
7. Ⅲ区98号土壌土質断面(東から)
8. Ⅲ区99号・100号土壌土質断面(東から)
9. Ⅲ区99号・100号土壌土質断面(東から)
10. Ⅲ区102号土壌土質断面(南から)
11. Ⅲ区102号土壌土質断面(南から)
12. Ⅲ区103号土壌土質断面(南から)
13. Ⅲ区103号土壌土質断面(南から)
14. Ⅲ区104号土壌土質断面(南から)
15. Ⅲ区104号土壌土質断面(南から)

- PL 133 1. Ⅲ区105号土壌土質断面(西から)
2. Ⅲ区105号土壌土質断面(東から)
3. Ⅲ区106号土壌土質断面(南から)
4. Ⅲ区107号土壌土質断面(南から)
5. Ⅲ区106号・107号土壌土質断面(西から)
6. Ⅲ区108号土壌土質断面(西から)
7. Ⅲ区108号土壌土質断面(東から)
8. Ⅲ区109号土壌土質断面(南から)
9. Ⅲ区109号土壌土質断面(西から)
10. Ⅲ区北沢耳間出土状態(東から)
11. Ⅲ区114号土壌土質断面(南から)
12. Ⅲ区116号土壌土質断面(南から)
13. Ⅲ区117号土壌土質断面(南から)
14. Ⅲ区117号土壌土質断面(西から)
15. Ⅲ区118号土壌土質断面(南から)

- PL 134 1. Ⅲ区8号ビット土質断面(南から)
2. Ⅲ区9号ビット土質断面(南から)
3. Ⅲ区10号ビット土質断面(南から)
4. Ⅲ区11号ビット土質断面(南から)
5. Ⅲ区12号ビット土質断面(南から)
6. Ⅲ区13号ビット土質断面(南から)
7. Ⅲ区14号ビット土質断面(西から)
8. Ⅲ区19・20号ビット土質断面(北から)
9. Ⅲ区21号ビット土質断面(東から)
10. Ⅲ区23号ビット土質断面(南から)
11. Ⅲ区24号ビット土質断面(東から)
12. Ⅲ区25号ビット土質断面(東から)
13. Ⅲ区28・27号ビット土質断面(東から)
14. Ⅲ区29号ビット土質断面(東から)
15. Ⅲ区31号ビット土質断面(東から)

- PL 135 1. Ⅲ区38号ビット土質断面(東から)
2. Ⅲ区39号ビット土質断面(南から)
3. Ⅲ区40号ビット土質断面(南から)
4. Ⅲ区43号ビット土質断面(南から)
5. Ⅲ区57号ビット土質断面(南から)
6. Ⅲ区58号ビット土質断面(南から)
7. Ⅲ区59号ビット土質断面(東から)
8. Ⅲ区60号ビット土質断面(東から)
9. Ⅲ区63号ビット土質断面(東から)
10. Ⅲ区64号ビット土質断面(南から)
11. Ⅲ区65号ビット土質断面(東から)
12. Ⅲ区66号ビット土質断面(東から)
13. Ⅲ区67号ビット土質断面(東から)
14. Ⅲ区68号ビット土質断面(南から)
15. Ⅲ区69号ビット土質断面(東から)

- PL 136 1. Ⅲ区70号ビット土質断面(東から)
2. Ⅲ区71号ビット土質断面(北から)
3. Ⅲ区72号ビット土質断面(南から)
4. Ⅲ区75号ビット土質断面(東から)
5. Ⅲ区76号ビット土質断面(南から)
6. Ⅲ区77号ビット土質断面(西から)
7. Ⅲ区78号ビット土質断面(西から)
8. Ⅲ区79号ビット土質断面(西から)
9. Ⅲ区80号ビット土質断面(西から)
10. Ⅲ区81号ビット土質断面(東から)
11. Ⅲ区83号ビット土質断面(西から)
12. Ⅲ区84号ビット土質断面(南から)
13. Ⅲ区84号ビット土質断面(南から)
14. Ⅲ区98号ビット土質断面(南から)
15. Ⅲ区100号ビット土質断面(南から)

- PL 137 1. Ⅲ区105号ビット土質断面(南から)
2. Ⅲ区106号ビット土質断面(東から)
3. Ⅲ区107号ビット土質断面(南から)
4. Ⅲ区108号ビット土質断面(南から)
5. Ⅲ区109号ビット土質断面(南から)
6. Ⅲ区110号ビット土質断面(南から)
7. Ⅲ区111号ビット土質断面(南から)
8. Ⅲ区112号ビット土質断面(南から)
9. Ⅲ区113号ビット土質断面(南から)
10. Ⅲ区114号ビット土質断面(南から)
11. Ⅲ区115号ビット土質断面(南から)
12. Ⅲ区116号ビット土質断面(南から)
13. Ⅲ区117号ビット土質断面(南から)
14. Ⅲ区118号ビット土質断面(南から)
15. Ⅲ区119号ビット土質断面(南から)

- PL 138 1. Ⅲ区33号溝渠全長(北から)

2. Ⅱ区33号溝遺物出土状態(北/北から)
3. Ⅱ区33号溝土層断面(北/北から)
4. Ⅱ区33号溝与互土状態(北/北から)
5. Ⅱ区33号溝全景(中央区/西から)
- Fl. 139 1. Ⅱ区34号溝全景(東から)
2. Ⅱ区34号溝土層断面-A(西から)
3. Ⅱ区34号溝土層断面-B(西から)
4. Ⅱ区34号溝全景(東から)
5. Ⅱ区34号溝遺物出土状態(西から)
6. Ⅱ区34号溝土層断面(西から)
7. Ⅱ区34号溝土層断面(南から)
- Fl. 140 1. V区古代-古墳時代遺構面全景(南/東から)
2. V区古代-古墳時代遺構面全景(北/東から)
3. V区・V区古代-古墳時代遺構面近景(北/上空から)
- Fl. 141 1. V区1号孤立P1土層断面(南西から)
2. V区1号孤立P1全景(南から)
3. V区1号孤立P2土層断面(西から)
4. V区1号孤立P2全景(西から)
5. V区1号孤立P3土層断面(西から)
6. V区1号孤立P3全景(西から)
7. V区1号孤立P4土層断面(南西から)
8. V区1号孤立P5土層断面(東から)
9. V区1号孤立P5全景(東から)
10. V区1号孤立P6土層断面(南西から)
11. V区1号孤立P6全景(西から)
12. V区13号土坑土層断面(東から)
13. V区13号土坑全景(西から)
14. V区14号土坑土層断面(南から)
15. V区14号土坑全景(南から)
- Fl. 142 1. V区10号土坑土層断面(東から)
2. V区10号土坑全景(東から)
3. V区16号土坑土層断面(南から)
4. V区16号土坑全景(南から)
5. V区17号土坑土層断面(北から)
6. V区17号土坑全景(南から)
7. V区18号土坑土層断面(南から)
8. V区18号土坑全景(東から)
9. V区19号土坑土層断面(南から)
10. V区19号土坑全景(西から)
11. V区27号土坑土層断面(南から)
12. V区27号土坑全景(南から)
13. V区28号土坑土層断面(南から)
14. V区28号土坑全景(南から)
15. V区29号土坑土層断面(南から)
- Fl. 143 1. V区29号土坑全景(南から)
2. V区30号土坑土層断面(北から)
3. V区31号土坑土層断面(南から)
4. V区32号土坑土層断面(南から)
5. V区33号土坑土層断面(南から)
6. V区33号土坑全景(東から)
7. V区34号土坑土層断面(南から)
8. V区34号土坑全景(南から)
9. V区38号土坑土層断面(南から)
10. V区38号土坑全景(西から)
11. V区39号土坑土層断面(南から)
12. V区39号土坑遺物出土状態(西から)
13. V区40号土坑土層断面(南から)
14. V区40号土坑全景(西から)
15. V区41号土坑土層断面(南から)
- Fl. 144 1. V区41号土坑全景(西から)
2. V区42号土坑土層断面(西から)
3. V区42号土坑全景(南から)
4. V区43号土坑土層断面(南から)
5. V区43号土坑全景(南から)
6. V区44号土坑土層断面(南から)
7. V区44号土坑全景(西から)
8. V区45号土坑土層断面(南から)
9. V区45号土坑全景(西から)
10. V区46号土坑土層断面(南東から)
11. V区46号土坑全景(東から)
12. V区47号土坑土層断面(東から)
13. V区48号土坑土層断面(南西から)
14. V区47号・48号土坑全景(東から)
15. V区49号土坑土層断面(南から)
- Fl. 145 1. V区49号土坑全景(東から)
2. V区50号土坑土層断面(東から)
3. V区50号土坑全景(北から)
4. V区56号・57号土坑土層断面(南から)
5. V区56号・57号土坑全景(北から)
6. V区63号土坑土層断面(南から)
7. V区63号土坑全景(東から)
8. V区66号土坑全景(北から)
9. V区67号土坑全景(北から)
10. V区4号ピット全景(東から)
11. V区5号ピット全景(北から)
12. V区6号・7号ピット全景(東から)
- Fl. 146 1. V区8号ピット全景(北から)
2. V区10号ピット土層断面(東から)
3. V区12号ピット土層断面(西から)
4. V区13号ピット土層断面(西から)
5. V区14号ピット土層断面(西から)
6. V区15号ピット土層断面(南から)
7. V区16号ピット土層断面(南から)
8. V区17号ピット土層断面(南から)
9. V区18号ピット土層断面(東から)
10. V区19号ピット土層断面(東から)
11. V区20号ピット土層断面(東から)
12. V区21号ピット土層断面(南西から)
13. V区22号ピット土層断面(南から)
14. V区23号ピット土層断面(南から)
15. V区24号ピット土層断面(西から)
- Fl. 147 1. V区25号ピット土層断面(南から)
2. V区26号ピット土層断面(南から)
3. V区28号ピット土層断面(南から)
4. V区29号ピット土層断面(南から)
5. V区30号ピット土層断面(南から)
6. V区31号ピット土層断面(南から)
7. V区32号ピット土層断面(南東から)
8. V区33号ピット土層断面(南から)
9. V区34号ピット土層断面(南東から)
10. V区42号ピット土層断面(南から)
11. V区43号ピット土層断面(南から)
12. V区古代-古墳時代遺構面調査風景
13. V区94号ピット土層断面(南から)
14. V区95号ピット土層断面(南から)
15. V区95号ピット全景(南から)
- Fl. 148 1. V区1号・2号方形環溝墓全景(上空から)
2. V区1号方形環溝墓全景(北西から)
- Fl. 149 1. V区1号方形環溝墓環溝土層断面(南東から)
2. V区1号方形環溝墓環溝土層断面(南西から)
3. V区1号方形環溝墓環溝遺物出土状態(北東から)
4. V区1号方形環溝墓環溝遺物出土状態(南西から)
5. V区1号方形環溝墓全景(北東から)
6. V区2号方形環溝墓全景(上空から)
7. V区2号方形環溝墓環溝土層断面(西から)
8. V区2号方形環溝墓環溝土層断面(北から)
- Fl. 150 1. V区17号溝全景(南から)
2. V区16号溝全景(西から)
3. V区17号溝土層断面(南から)
4. V区17号溝全景(南から)
5. V区18号溝土層断面(南から)
6. V区18号溝土層断面(南東から)
- Fl. 151 1. V区19号溝土層断面(南から)
2. V区18号・19号溝・1号凹地全景(南区/南から)
3. V区18号・19号溝・1号凹地全景(北/上空から)
5. V区南区18号・19号溝全景(南区/南から)
6. V区南区18号・19号溝近景(南区/南から)
- Fl. 152 1. V区20号溝南半全景(東から)
2. V区20号溝北半全景(南東から)
3. V区21号溝全景(東から)
4. V区20号・22号溝全景(東から)
5. V区20号溝全景(南から)
6. V区21号溝土層断面(南から)
7. V区24号溝全景(南西から)
- Fl. 153 1. V区24号溝土層断面(南から)
2. V区25号溝土層断面(南から)
3. V区26号溝土層断面(西から)
4. V区27号溝土層断面(北から)
5. V区26号溝・34号土坑全景(北東から)
6. V区27号溝遺物出土状態全景(北から)
- Fl. 154 1. V区29号溝全景(南から)
2. V区28号溝土層断面(北東から)
3. V区30号溝土層断面(南から)
4. V区28号溝全景(北から)
5. V区30号溝全景(東から)
6. V区36号溝全景(西から)
7. V区40号溝・75号土坑全景(南西から)
- Fl. 155 1. V区1号高南半確認状況(東から)
2. V区1号高土層断面(南西から)
3. V区1号高土層断面(北東から)
4. V区1号高・1号凹地近景(北東から)
6. V区1号高近景(北東から)
7. V区1号高・2号溝全景(北東から)
8. V区3号高全景(北から)
- Fl. 156 1. V区1号凹地全景(北から)
2. V区1号凹地土層断面(南から)
3. V区1号凹地全景(北から)
4. V区1号凹地土層断面(南から)
5. V区1号凹地全景(南から)
6. V区1号凹地遺物出土状態(南から)
7. V区1号割木土層断面(南から)
8. V区2号割木土層断面(西から)
9. V区2号割木土層断面(南西から)
10. V区2号割木土層断面(南東から)
11. V区2号割木土層断面(南から)
12. V区3号割木土層断面(南から)
13. V区4号割木土層断面(北西から)
14. V区5号割木土層断面(南から)
15. V区5号割木土層断面(南から)
- Fl. 157 1. V区古代-古墳時代遺構面全景(南区/東から)
2. V区1号柱区確認状況(西から)
3. V区古代-古墳時代遺構面全景(東から)

4. V区1号住居土断断面(南から)
5. V区2号住居掘り方土断断面(南西から)
6. V区1号住居全景(東から)
7. V区2号住居掘り方東側掘土断断面(南西から)
8. V区2号住居全景(南西から)
- PL 158 1. V区45号ビレット土断断面(南西から)
2. V区45号ビレット全景(東から)
3. V区92号ビレット土断断面(南から)
4. V区92号ビレット全景(南西から)
5. V区91号ビレット土断断面(南から)
6. V区91号ビレット全景(北から)
7. V区46号ビレット土断断面(東から)
8. V区46号ビレット全景(東から)
9. V区47号ビレット土断断面(南から)
10. V区47号ビレット遺物出土状態(南から)
11. V区66号ビレット全景(南から)
12. V区71号・72号ビレット土断断面(南から)
13. V区72号・71号ビレット全景(北から)
14. V区73号ビレット土断断面(南から)
15. V区73号ビレット全景(南から)
- PL 159 1. V区89号ビレット土断断面(北から)
2. V区89号ビレット全景(北から)
3. V区93号ビレット土断断面(北から)
4. V区96号ビレット土断断面(南から)
5. V区96号ビレット全景(北から)
6. V区2号住居調査風景
7. V区20号土坑土断断面(東から)
8. V区20号土坑全景(東から)
9. V区21号土坑土断断面(西から)
10. V区21号土坑全景(北から)
11. V区22号土坑土断断面(南から)
12. V区22号土坑全景(北から)
13. V区23号土坑土断断面(南から)
14. V区23号土坑全景(西から)
- PL 160 1. V区24号土坑土断断面(南から)
2. V区24号土坑全景(北から)
3. V区36号土坑土断断面(南から)
4. V区36号土坑遺物出土状態(南西から)
5. V区37号土坑土断断面(南から)
6. V区37号土坑全景(東から)
7. V区51号土坑土断断面(西から)
8. V区51号土坑全景(西から)
9. V区52号土坑土断断面(南から)
10. V区52号土坑全景(北から)
11. V区53号土坑土断断面(南西から)
12. V区53号土坑遺物出土状態(北から)
13. V区54号土坑土断断面(南から)
14. V区54号土坑全景(南から)
15. V区55号土坑土断断面(南から)
16. V区55号土坑全景(南から)
- PL 161 1. V区58号土坑土断断面(東から)
2. V区58号土坑土断断面(東から)
3. V区58号土坑土断断面(東から)
4. V区58号土坑下層遺物出土状態(東から)
5. V区58号土坑全景(東から)
6. V区59号土坑土断断面(南西から)
7. V区59号土坑全景(北から)
8. V区60号土坑土断断面(南から)
9. V区60号土坑全景(西から)
10. V区61号土坑土断断面(東から)
11. V区61号土坑全景(西から)
12. V区62号土坑土断断面(南から)
13. V区62号土坑全景(西から)
14. V区64号土坑土断断面(南から)
15. V区64号土坑全景(南から)
- PL 162 1. V区65号土坑土断断面(西から)
2. V区68号土坑土断断面(南から)
3. V区68号土坑全景(東から)
4. V区69号土坑全景(南から)
5. V区70号土坑土断断面(東から)
6. V区70号土坑全景(南から)
7. V区71号土坑土断断面(南から)
8. V区71号土坑全景(東から)
9. V区72号土坑土断断面(北から)
10. V区72号土坑全景(南から)
11. V区73号土坑土断断面(北東から)
12. V区73号土坑全景(西から)
13. V区74号土坑土断断面(南から)
14. V区74号土坑全景(南から)
15. V区76号土坑・85号ビレット土断断面(北から)
- PL 163 1. V区9号ビレット土断断面(南から)
2. V区11号ビレット土断断面(東から)
3. V区35・36号ビレット土断断面(南西から)
4. V区48号ビレット土断断面(南から)
5. V区49号ビレット土断断面(南から)
6. V区50号ビレット土断断面(南から)
7. V区51号ビレット土断断面(南から)
8. V区52号ビレット土断断面(南東から)
9. V区53号ビレット土断断面(南から)
10. V区54号ビレット土断断面(南から)
11. V区55号ビレット土断断面(南から)
12. V区56号ビレット土断断面(南から)
13. V区57号ビレット土断断面(南から)
14. V区58号ビレット土断断面(東から)
15. V区59号ビレット遺物出土状態(東から)
16. V区60号ビレット土断断面(南から)
17. V区61号ビレット土断断面(南から)
18. V区62号ビレット土断断面(南から)
19. V区63号ビレット土断断面(南から)
20. V区64号ビレット土断断面(南から)
21. V区65号ビレット土断断面(南から)
22. V区67号ビレット土断断面(南から)
23. V区68号ビレット土断断面(南西から)
24. V区69・70号ビレット土断断面(南西から)
25. V区74号ビレット土断断面(南から)
26. V区75号ビレット土断断面(西から)
27. V区76号ビレット土断断面(西から)
28. V区77号ビレット全景(東から)
29. V区78号ビレット全景(東から)
- PL 165 1. V区79号ビレット土断断面(南から)
2. V区80号ビレット土断断面(南から)
3. V区81号ビレット土断断面(南東から)
4. V区82号ビレット土断断面(東から)
5. V区83号ビレット土断断面(南東から)
6. V区84号ビレット全景(東から)
7. V区85号ビレット全景(南から)
8. V区86・87号ビレット土断断面(北から)
9. V区88号ビレット土断断面(北から)
10. V区97号ビレット土断断面(南東から)
11. V区98号ビレット土断断面(西から)
- PL 166 1. 校区・V区古代・古墳時代遺構群集中部近景(上空から)
2. V区16号溝土断断面(東から)
2. V区16号溝土断断面(東から)
3. V区16号溝土断断面(西から)
4. V区23号溝土断断面(南から)
5. V区23号溝土断断面(南から)
6. V区35号溝土断断面(南から)
- PL 167 1. V区35号溝全景(南から)
2. V区古代・古墳時代遺構面遺物出土状態(南から)
4. V区37号溝全景(西から)
4. V区38号溝土断断面(東から)
6. V区38号溝全景(北西から)
7. V区39号溝土断断面(南から)
1. V区39号溝全景(南から)
2. V区41号溝土断断面(南西から)
3. V区42号溝全景(西から)
4. V区41号溝全景(南から)
5. V区2号土坑土断断面(南から)
6. V区2号凹地土断断面(北から)
7. V区3号凹地全景(北から)
- PL 168 1. V区38号溝全景(南から)
2. V区41号溝土断断面(南西から)
3. V区42号溝全景(西から)
4. V区41号溝全景(南から)
5. V区2号土坑土断断面(南から)
6. V区2号凹地全景(北から)
7. V区3号凹地全景(北から)
- PL 169 1. V区古代・古墳時代遺構面全景(西から)
2. V区古代・古墳時代遺構面全景(東から)
- PL 170 1. V区1号住居全景(南から)
2. V区1号住居P1全景(南から)
3. V区1号住居P2全景(南から)
4. V区1号住居P1土断断面(南から)
5. V区1号住居P2土断断面(南から)
6. V区1号住居P3全景(南から)
2. V区1号住居P4全景(南から)
3. V区1号住居P3土断断面(南から)
4. V区1号住居P4土断断面(南から)
5. V区1号住居P5土断断面(南から)
6. V区1号住居P6土断断面(南から)
7. V区1号住居掘土断断面(南から)
8. V区1号住居掘坑状況全景(南から)
- PL 172 1. V区2号住居全景(南東から)
2. V区2号住居P1・P5土断断面(南から)
3. V区2号住居P2土断断面(南から)
2. V区2号住居P3・P7土断断面(南から)
5. V区2号住居P4・P8土断断面(南東から)
6. V区2号住居P6土断断面(南から)
7. V区1号塚穴遺構全景(東から)
8. V区1号塚穴遺構土断断面(南東から)
- PL 173 1. V区1号竪立柱建物全景(北東から)
2. V区1号竪立P1土断断面(南から)
3. V区1号竪立P2土断断面(南から)
4. V区1号竪立P3土断断面(南から)
5. V区1号竪立P4土断断面(南から)
6. V区1号竪立P5土断断面(南から)
7. V区1号竪立P6土断断面(南から)
8. V区2号竪立柱建物全景(南東から)
- PL 174 1. V区2号竪立P1土断断面(南から)
2. V区2号竪立P2土断断面(南から)
3. V区2号竪立P4土断断面(南から)
4. V区2号竪立P5土断断面(南から)
5. V区2号竪立P6土断断面(南から)
6. V区2号竪立P7土断断面(南から)
7. V区2号竪立P8土断断面(南から)
8. V区2号竪立P9土断断面(南から)
9. V区2号竪立P10土断断面(南から)
10. V区2号竪立P11土断断面(南から)

11. MK2 2号独立P12土層断面(南から)
12. MK2 2号独立P13土層断面(南から)
13. MK2 2号独立P14土層断面(南から)
14. MK2 2号独立P15土層断面(南から)
15. MK2 2号独立P16土層断面(南から)
- PL 175 1. MK2 2号独立P17土層断面(南から)
2. MK2 2号独立P18土層断面(南から)
3. MK2 2号独立P19土層断面(南から)
4. MK2 2号独立P20土層断面(南から)
5. MK2 2号独立P21土層断面(南から)
6. MK2 2号独立P22土層断面(南から)
7. MK2 2号独立P23土層断面(南から)
8. MK2 2号独立P24土層断面(南から)
9. MK3 号独立柱建物全景(南西から)
10. MK3 号独立P1土層断面(南から)
11. MK3 号独立P2土層断面(南から)
12. MK3 号独立P4土層断面(南から)
- PL 176 1. MK3 号独立P5土層断面(南から)
2. MK3 号独立P6土層断面(南から)
3. MK3 号独立P7土層断面(南から)
4. MK1 号柱穴列全景(南東から)
5. MK1 号柱穴列P1土層断面(南から)
6. MK1 号柱穴列P2土層断面(南から)
7. MK1 号柱穴列P3土層断面(南から)
8. MK1 号柱穴列P4土層断面(南から)
9. MK1 号柱穴列P5土層断面(南から)
10. MK1 号柱穴列P6土層断面(南から)
11. MK1 号柱穴列P7土層断面(南から)
12. MK1 号柱穴列P8土層断面(南から)
- PL 177 1. MK3 号井戸土層断面(南から)
2. MK3 号井戸全景(南から)
3. MK4 号井戸土層断面(南から)
4. MK4 号井戸全景(南から)
5. MK5 号井戸土層断面(南から)
6. MK5 号井戸全景(南から)
7. MK5 号井戸土層断面(北西から)
8. MK6 号井戸・4号土台全景(南から)
- PL 178 1. MK7 号井戸土層断面(南から)
2. MK7 号井戸全景(南から)
3. MK古代・古墳時代遺構遺構集中部近景(南東から)
4. MK古代・古墳時代遺構遺構集中部近景(西から)
5. MK古代・古墳時代遺構調査風景(南西から)
- PL 179 1. MK8 号土台土層断面(南から)
2. MK8 号土台土台全景(南から)
3. MK9 号土台土層断面(南から)
4. MK21号土台全景(東から)
5. MK21号土台土層断面(東から)
6. MK27号土台土層断面(南から)
7. MK28号土台全景(南から)
8. MK29号土台土層断面(南から)
9. MK29号土台全景(南から)
10. MK30号土台土層断面(南から)
11. MK30号土台全景(南から)
12. MK31号土台全景(南から)
13. MK32号土台土層断面(南から)
14. MK32号土台全景(南から)
15. MK33号土台土層断面(南から)
- PL 180 1. MK34号土台土層断面(南から)
2. MK34号土台全景(南から)
3. MK35号土台土層断面(南から)
4. MK35号土台全景(南から)
5. MK36号土台土層断面(南西から)
6. MK36号土台全景(東から)
7. MK37号土台土層断面(南から)
8. MK37号土台全景(東から)
9. MK38号土台土層断面(南から)
10. MK38号土台全景(東から)
11. MK39号土台全景(南から)
12. MK40号土台全景(南から)
13. MK41号土台土層断面(南から)
14. MK41号土台土層断面(南から)
15. MK42号土台土層断面(南西から)
- PL 181 1. MK42号土台全景(東から)
2. MK43号土台土層断面(南西から)
3. MK43号土台全景(南から)
4. MK44号土台土層断面(南西から)
5. MK44号土台全景(東から)
6. MK45号土台土層断面(南から)
7. MK45号土台全景(東から)
8. MK46号土台土層断面(南から)
9. MK46号土台全景(東から)
10. MK47号土台土層断面(南から)
11. MK47号土台全景(東から)
12. MK48号土台全景(東から)
13. MK49号土台全景(東から)
14. MK50号土台土層断面(南から)
15. MK50号土台全景(東から)
- PL 182 1. MK51号土台土層断面(南から)
2. MK52号土台土層断面(東から)
3. MK52号土台全景(東から)
4. MK53号土台土層断面(南から)
5. MK53号土台全景(東から)
6. MK54号土台土層断面(南から)
7. MK54号土台全景(東から)
8. MK52号ビット土層断面(南から)
9. MK3 号ビット土層断面(南から)
10. MK4 号ビット土層断面(南から)
11. MK5 号ビット土層断面(南から)
12. MK17号ビット土層断面(南から)
13. MK18号ビット土層断面(南から)
14. MK19号ビット土層断面(南から)
15. MK20号ビット土層断面(南から)
16. MK24号ビット土層断面(南から)
2. MK25号ビット土層断面(南から)
3. MK28号ビット土層断面(南から)
4. MK30号ビット土層断面(南から)
5. MK34号ビット土層断面(南から)
6. MK35号ビット土層断面(南から)
7. MK36号ビット土層断面(南から)
8. MK37号ビット土層断面(南から)
9. MK38号ビット土層断面(南から)
10. MK39号ビット土層断面(東から)
11. MK40号ビット土層断面(東から)
12. MK41号ビット土層断面(南から)
13. MK42号ビット土層断面(東から)
15. MK47号ビット土層断面(東から)
- PL 184 1. MK48号ビット土層断面(東から)
2. MK49号ビット土層断面(南から)
3. MK50号ビット土層断面(南から)
4. MK51号ビット土層断面(南から)
5. MK52号ビット土層断面(南から)
6. MK53号ビット土層断面(南から)
7. MK55号ビット土層断面(南から)
8. MK56号ビット土層断面(南から)
9. MK64号ビット土層断面(南から)
10. MK65号ビット土層断面(南から)
11. MK66号ビット土層断面(南から)
12. MK67号ビット土層断面(南から)
13. MK70号ビット土層断面(南から)
14. MK71号ビット土層断面(南から)
15. MK72号ビット土層断面(南から)
- PL 185 1. MK73号ビット土層断面(南から)
2. MK74号ビット土層断面(南から)
3. MK76号ビット土層断面(南から)
4. MK89号ビット土層断面(南から)
5. MK90号ビット土層断面(南から)
6. MK91号ビット土層断面(南から)
7. MK92号ビット土層断面(南から)
8. MK93号ビット土層断面(南から)
9. MK94号ビット土層断面(南から)
10. MK95号ビット土層断面(南から)
11. MK96号ビット土層断面(南から)
12. MK98号ビット土層断面(南から)
13. MK100号ビット土層断面(南から)
14. MK101号ビット土層断面(南から)
15. MK102号ビット土層断面(南から)
- PL 186 1. MK104号ビット土層断面(南から)
2. MK107号ビット土層断面(南から)
3. MK108号ビット土層断面(西から)
4. MK110号ビット土層断面(西から)
5. MK111号ビット土層断面(南から)
6. MK112号ビット土層断面(東から)
7. MK114・113号ビット土層断面(東から)
8. MK115・116号ビット土層断面(南から)
9. MK117号ビット土層断面(南から)
10. MK119号ビット土層断面(南から)
11. MK120・121号ビット土層断面(南から)
12. MK122号ビット土層断面(南から)
13. MK123号ビット土層断面(南から)
14. MK124号ビット土層断面(南から)
15. MK125号ビット土層断面(南から)
- PL 187 1. MK126号ビット土層断面(南から)
2. MK127号ビット土層断面(南から)
3. MK129号ビット土層断面(南から)
4. MK130号ビット土層断面(南から)
5. MK131号ビット土層断面(南から)
6. MK132号ビット土層断面(南から)
7. MK133号ビット土層断面(南から)
8. MK134号ビット土層断面(南から)
9. MK137号ビット土層断面(南から)
10. MK138号ビット土層断面(南から)
11. MK139号ビット土層断面(南から)
12. MK140号ビット土層断面(南から)
13. MK141号ビット土層断面(南から)
14. MK142号ビット土層断面(南から)
15. MK143号ビット土層断面(南から)
- PL 188 1. MK144号ビット土層断面(南から)
2. MK145号ビット土層断面(南から)
3. MK147号ビット土層断面(南から)
4. MK149号ビット土層断面(南から)
5. MK154号ビット土層断面(南から)
6. MK155号ビット土層断面(南から)
7. MK156号ビット土層断面(南から)

第1章 調査の経過

1. 発掘調査に至る経緯

上新田中道東遺跡は、群馬県佐波郡玉村町の西部、大字上新田に位置する。玉村町役場の北西約1km、J R高崎線の新町駅から北に約4.5kmの距離にある。遺跡は、国道354号(玉村バイパス)道路改築事業に伴って、平成16年度、20年度、21年度、22年度にわたって発掘調査された。

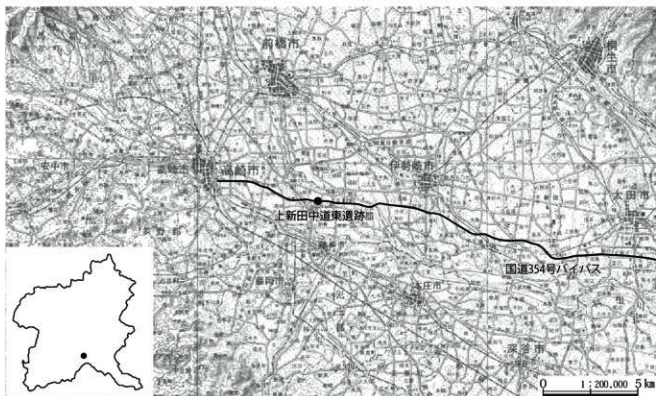
国道354号は高崎駅東口を起点とし、玉村町・伊勢崎市・太田市・大泉町・館林市にいたる。群馬県南東部の主要都市を結び、東北自動車道館林インターチェンジを経由して板倉町まで総延長58.6kmの広域幹線道路である。国道354号の整備事業は、沿道の産業立地・物流の円滑化、生活環境の利便化等、地域発展に貢献する交通網整備の一環として昭和37年度に始まった。館林インターチェンジ付近の整備から開始され、各地点で事業が進み、平成19年度には全体計画のほぼ70%を超えている。道路建設と併行して埋蔵文化財調査も継続して進められ、本事業団も平成8年度から、発掘調査を受託してきた。

上新田中道東遺跡のある玉村町内の国道354号改築事業は、玉村バイパス延長5.3kmとして平成5年度に開始された。計画路線内の埋蔵文化財包蔵地の発掘調査は、県教育委員会、県土木部、伊勢崎土木事務所による協議を経て、平成8年度から当事業団への委託が開始された。調査は、計画区間の東端にある主要地方道藤岡大胡バイパス(平成13年12月15日開通)との交差点の西に接する福島大島遺跡から順次西へ着手することとなった。

上新田中道東遺跡の発掘調査は、平成16年、20年、21年、22年の4か年にわたって実施された。

平成16年度

上新田中道東遺跡の平成16年度の調査は、平成16年3月17日付けで県中部県民局伊勢崎土木事務所から県教育委員会文化課に発掘調査の依頼が出された。これを受けて、平成16年3月17日付けで県教育委員会から、平成16年3月24日付けで県中部県民局伊勢崎土木事務所から財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に発掘調査の依頼があった。平成16年4月1日には、県中部県民局伊勢崎土



第1図 上新田中道東遺跡と群馬県の地勢

(国土地理院発行、20万分の1地勢図「長野」平成10年2月1日「宇都宮」平成18年4月1日発行)

木事務所と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の間に発掘調査の委託契約が締結された。

発掘調査は調査期間平成16年4月1日～平成17年3月31日の契約で、Ⅰ区～Ⅳ区で実施された。調査の進展に伴い、平成17年2月1日付けで面積増の一部変更契約が締結され、最終的には17418㎡が発掘調査された。調査が完了し、3月31日付けで業務完了報告書及び実績報告書を提出し、平成16年度の業務を完了した。

平成20年度

国道354号玉村バイパス関連の発掘調査は、平成17年度から19年度に一時中断したが、平成20年度になって再開された。平成20年6月18日に実施された県教育委員会文化財保護課による試掘調査の結果、7月3日付けで県中部県民局伊勢崎土木事務所から県教育委員会文化財保護課に発掘調査の依頼が出された。これを受けて、平成20年7月3日付けで県教育委員会から、平成20年7月9日付けで県中部県民局伊勢崎土木事務所から財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に発掘調査の依頼があった。平成20年8月29日には、県中部県民局伊勢崎土木事務所と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の間に発掘調査の委託契約が締結された。

発掘調査は調査対象面積26070㎡、履行期間平成20年9月1日～平成21年3月31日、調査期間平成20年11月1日～平成21年3月31日の契約で、Ⅲ区～Ⅶ区で実施された。調査前の9月19日付けで契約の一部変更の協議がなされ、調査期間が平成20年10月1日～平成21年3月31日に期間延長されることとなった。変更契約は平成20年9月30日に締結された。さらに12月には設計変更による調査面積の減少があり、19690㎡で調査が実施されることになった。変更契約は平成21年3月2日に締結された。調査が完了し、3月31日付けで業務完了報告書及び実績報告書を提出し、平成20年度の業務を完了した。

平成21年度

上新田中道東遺跡の平成21年度の発掘調査は、平成20年度国道354号(玉村バイパス)道路改築事業(二次補正)として実施された。3月18日付けで県中部県民局伊勢崎土木事務所から県教育委員会文化財保護課に発掘調査の依頼が出された。これを受けて、平成21年3月18日付け

で県教育委員会から、平成21年11月27日付けで県中部県民局伊勢崎土木事務所から財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に発掘調査の依頼があった。平成21年12月1日には、県中部県民局伊勢崎土木事務所と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の間に発掘調査の委託契約が締結された。

発掘調査は調査対象面積6380㎡、履行期間平成21年12月1日～平成22年3月31日、調査期間平成22年1月1日～平成22年3月31日の契約で、Ⅷ区・Ⅸ区で実施された。2月25日付けで契約の一部変更の協議がなされ、調査費用が減額されることとなった。変更契約は平成22年2月25日に締結された。調査が完了し、3月31日付けで業務完了報告書及び実績報告書を提出し、平成21年度の業務を完了した。

平成22年度

上新田中道東遺跡の平成22年度発掘調査は、Ⅰ区・Ⅱ区の道路中央部分と、Ⅸ区の南北取り付け道路の拡幅部分で実施されることとなった。Ⅰ区・Ⅱ区の道路中央部分は計画当初盛土となるため、調査対象から除外されていた部分である。その後、工事の設計が変更され、調査対象地となった。

22年度の発掘調査は、平成21年度国道354号(玉村バイパス)地域活力基盤創造事業に伴って実施された。3月10日付けで県中部県民局伊勢崎土木事務所から県教育委員会文化財保護課に発掘調査の依頼が出された。これを受けて、平成22年3月11日付けで県教育委員会から、平成22年3月18日付けで県中部県民局伊勢崎土木事務所から財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に発掘調査の依頼があった。平成22年3月31日には、県中部県民局伊勢崎土木事務所と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の間に発掘調査の委託契約が締結された。

発掘調査は調査期間平成22年4月1日～平成22年1月31日の契約で、Ⅰ区・Ⅱ区で実施された。調査の進展に伴い、平成22年6月11日付けで面積増と平成22年3月31日までの調査期間の延長、平成23年1月28日付けでⅨ区の玉村町道224号線拡幅工事にかかる部分の761㎡の追加、2月18日付けで調査費用の減額という3回の一部変更契約が締結され、最終的には上新田中道東遺跡の調査面積は7456㎡となった。3月31日付けで業務完了報告書及び実績報告書を提出し、平成22年度の業務を完了した。

2. 発掘調査の方法

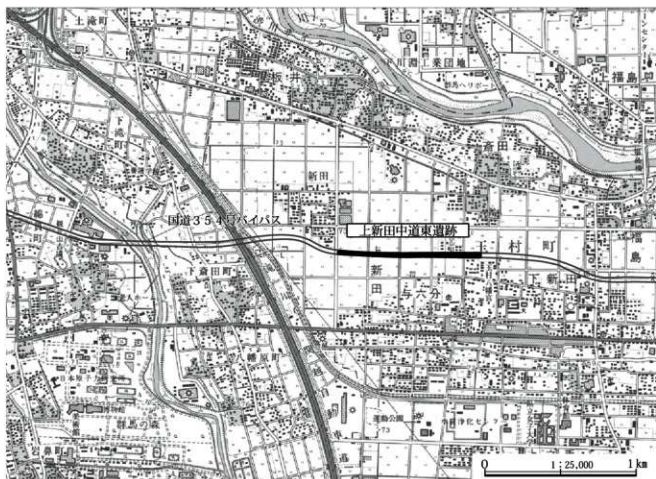
(1) 遺跡名・調査区・測量座標の設定

調査対象地は平成4年度に玉村町教育委員会が刊行した『玉村町の遺跡』（文献12）に玉村町遺跡台帳123として記載された周知の包蔵地の一部である。調査にあたり、遺跡名は玉村町教育委員会、群馬県教育委員会、当事業団の三者で協議した結果、①大字名と小字名を組み合わせる当事業団の従来の命名方式を踏襲し、②玉村町教育委員会による周知の遺跡範囲との整合を図って、「上新田中道東遺跡」と命名された。

国道354号(玉村バイパス)の用地は、ほぼ東西方向に圃場整備の完了した水田地帯を通過する。整備された水田には概ね100mおきに南北方向の道路および水路がつくられており、この既存道・水路によって調査区を分断せざるを得なかった。上新田中道東遺跡の調査区はこの既存道・水路によって区切られた9地区となり、東側からⅠ・Ⅱ・・・Ⅶ・Ⅷ区とした。

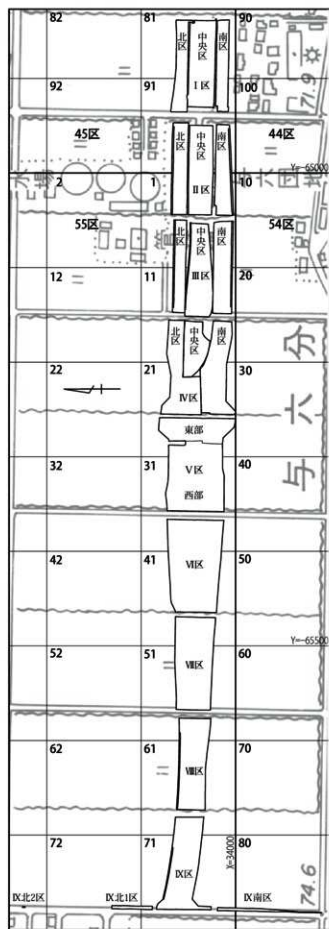
Ⅰ区～Ⅷ区については、工事工程に沿って、第3図のように調査年度が分割された。本書では、Ⅰ区～Ⅳ区の平成16年度に調査された調査区を「北区」「南区」、平成20年度・22年度に調査された調査区を「中央区」と細分して呼んだ。Ⅷ区は平成16年度に調査された調査区を「東区」、平成20年度に調査された調査区を「西区」と呼んだ。

平面図を記録する測量用のグリッドは、国道354号玉村バイパスに伴う埋蔵文化財発掘調査においては、共通の地区—大区画—中グリッド—小グリッドを設定した。まず国家座標に基づき、玉村町全域を網羅するように南東隅の座標 $X=30,000$ 、 $Y=-60,000$ を起点とする10km四方の区画を設定し、「地区」とした。その地区を1km四方に分割し、南東隅から北に向けて1～100の番号を平行に付して「区」(大区画)とした。次にこの大区画を100m四方に分割し、大区画と同様に番号を付し「中グリッド」とした。上新田中道東遺跡は、45区(大区画)の81・91(中グリッド)、55区の1・11・21・31・41・51・61・71に



第2図 上新田中道東遺跡の位置

(国土院発行、2万5千分の1地図用「高崎」平成22年12月1日発行)



第3図 上新田中道東遺跡の発掘区

位置する。

さらに中グリッドを5m四方に分割し「小グリッド」とした。この小グリッドは南東隅を起点として西方向（X軸方向）にアラビア数字を1から19、北方向にアルファベットをAからTまで付した。発掘調査にあたっては、この「小グリッド」を基本にした。本報告書挿入図中では、「地区」「区」を省略し、「中」「小」グリッドを記載した。

81A1とは、81中グリッドのA1小グリッドのことである。

測定の初年度は平成8年度であったことから、国道354号（玉村バイパス）関連の発掘調査の成果は日本測地系の座標で測量されてきた。上新田中道東遺跡でも平成16年・20年度調査では日本測地系で測量した。制度的には平成20年度以降の測量は世界測地系でおこなわれることになったが、測量の混乱を避けるために、上新田中道東遺跡の成果は平成21・22年度の調査も日本測地系で測量した。本報告書でも日本測地系のままで表示したことを明示しておく。

検出された遺構の番号は、I区からIX区の9つの区ごとに通し番号とした。I区～V区は後述するように、複数の年度で調査を実施したために、遺構番号が重複してしまった部分がある。本報告にあたっては記載が混乱しないように遺構番号を付け替えた部分がある。付け替えの新旧番号は一覧表に明示した。

中グリッド

	V	U	O	C	X	-	U	U	U	
3										3
5										5
7										7
9										9
11										11
13										13
15										15
17										17
19										19
21										21

(玉村町役場発行、2千5百分の1玉村町都市計画区域図 7(平成6年)発行)

(2) 標準土層

上新田中道東遺跡の調査前の状況は、昭和30年代に行われた圃場整備の結果、低平な水田地帯となっていた。しかしこれまでの国道354号玉村バイパス関連の発掘調査結果でも明らかのように、水田下には微地形が埋没しており、複雑な土層堆積状況をみせる発掘区が混在している。上新田中道東遺跡の平成16年度の発掘調査開始にあたっては東側に隣接する斉田中耕地遺跡の基本土層を参照し、遺構確認面を設定した。しかし、土層は概ね対応しているものの、上新田中道東遺跡には欠落していた土層もあった。

また、上新田中道東遺跡は範囲が東西方向に長く、地点によって埋没微地形が変化し、一定の低地や微地形上に立地していない。さらに、平成16年、20年、21年、22年と調査が4か年に亘って分割されたことなどが重なり、各調査区の複雑な土層堆積を全体として比較・検討することができなかった。実際、平成16年度調査区においては、土層注記が斉田中耕地遺跡のⅢ区・Ⅳ区の基本土層にそって記載されているが、平成20年度以降の土層記録は、斉田中耕地遺跡とはやや離れ、堆積した土層が少なく単純化したことから、斉田中耕地遺跡の土層注記と対照せずに行われている。

本報告では、上新田中道東遺跡のⅠ区～Ⅳ区間はもとより、東側に隣接する斉田中耕地遺跡、西側に隣接する上新田赤塚遺跡との関係性を明らかにして、遺構のあり方を土層や地形との関係で理解できるように、土層堆積の対比を可能な限り行った。特にⅠ区・Ⅱ区の中央部の発掘調査が平成22年度に行われ、整理作業と同時進行したことは、この作業に有益であった。

本項では、平成16年度調査で参照された斉田中耕地遺跡Ⅲ区・Ⅳ区に最も近く、多くの土層が堆積していたⅠ区東端の東壁土層を標準土層として提示する。土層の記載は斉田中耕地遺跡の報告書(文献83)に依拠し、個別の特徴を追記した。次項ではⅠ区からⅣ区の代表的な基本土層を示して、上新田中道東遺跡内の土層堆積を記載しておきたい。

上新田中道東遺跡の標準土層は下記の通りである。

Ⅰ層 表土。灰褐色土。昭和30年代に実施された圃場整備事業で切り盛りされた土砂に由来する。水田土壌化したⅠA層と、橙色洪水砂混じりのⅠB層に分けられる地点

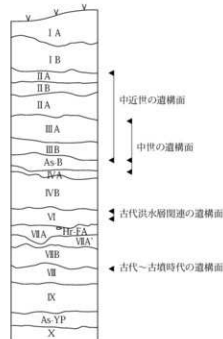
もある。

浅間A軽石層 天明三年(1783)年に浅間山噴火に伴って降下した軽石層。一次堆積層としてはⅦ区・Ⅷ区の一部に残るのみである。上新田中道東遺跡周辺では、浅間A軽石災害後は復旧作業がおこなわれ、複数の調査区でこの軽石を多量に含む土砂を溝状に埋めた復旧溝群が検出されている。

Ⅱ層 洪水層。シルトがラミナ状に堆積していた。黄褐色シルトのⅡA層と、黒灰～灰色シルトのⅡB層に分けられる。Ⅱ層直下の遺構は検出されていない。洪水層の時期は斉田中耕地遺跡の成果では、中世後期以前とされる。

Ⅲ層 黒褐色砂質土。浅間B軽石を含む。いわゆる「B混土」である。比較的軽石の含有量の少ない灰褐色のⅢA層と、軽石を多く含む下層のⅢB層に分けられる地点もある。

浅間Bテフラ層 天仁元(1108)年に降下した浅間山噴火に伴うテフラ層である。浅間Bテフラは49のフォールユニットに分かれているというが、前橋・伊勢崎地域で発掘調査の際に見分けられる標準的なテフラ層の堆積は、最下位に厚さ数mmの灰色細粒火山灰、その上位に粒径10mm弱の軽石層、その上位に厚さ10mm弱の桃色細粒火山灰となる。しかし、上新田中道東遺跡では浅間Bテフラ上半部は中世以降の耕作等による土壌掘乱によって跡き込まれており、残っていない。いずれの調査区でも



第4図 上新田中道東遺跡の標準土層

一次堆積層の下半部が3～10cmほどの層厚で残存していた。一部では一次堆積の残らない地点もあった。ここではⅢB層下面で本来の浅間Bテフラ下水田の疑似畦畔を検出した。^(註1)

IV層 黒色粘質土。浅間Bテフラ下水田の耕土あるいは表面を覆う土層である。近年、この土層を休耕に伴って生成されたとする見解が示されている。^(註2)

IVB層 灰褐色シルト。洪水起源と推定されるが、土壌化している。上新田中道東遺跡では、下位のIVC層（洪水層本体）まで耕作等によって踏み込んで、IVB層はさらに下位のV層あるいはVI層の上半部に及ぶ。IVB層下面で本来のIVC層直下水田の疑似畦畔を検出できる。

IVC層 黄褐色砂。齊田中耕地遺跡の基本土層ではIVB層と記載されていた洪水堆積層である。上新田中道東遺跡ではI区からⅢ区東半部にかけて一部の堆積しており、遺構内では一部の畝間溝が牛跡痕の内部のみに残されていた。

V層 黒灰色シルト質土。洪水砂層をとところどころを含む。本層も、I区北西隅、Ⅱ区西端からⅢ区東半部にかけて部分的に堆積が残存していた。齊田中耕地遺跡では白色軽石を含む上半のVA層と、白色軽石を含まないVB層に分けられているが、上新田中道東遺跡では層厚が薄く不明確であった。また、齊田中耕地遺跡Ⅲ区南東隅では、V層の下部にも洪水層が検出される地点があった（VC層）。しかし、上新田中道東遺跡ではこの洪水層を明確に面的にとらえることができなかった。

VI層 黒褐色粘質土。上新田中道東遺跡ではI区からⅢ区東端まで均一的に残存していた。上面で9世紀代の水田の疑似畦畔が検出される。齊田中耕地遺跡では黒味の強い上半のVIA層と、酸化凝集で色調の明るい下半のVIB層に分けられているが、上新田中道東遺跡では分層は不明確であった

榛名二ツ岳火山灰層 6世紀初頭の榛名山噴火に伴って降下した火山灰層。上新田中道東遺跡ではI区からⅢ区にかけてブロック状にしか検出されていない。

VIA層 黒色粘質土。浅間C軽石を含む。いわゆるC混土層。

浅間C軽石層 3世紀末以降降下したと考えられている浅間山噴火に伴う軽石層。上新田中道東遺跡ではI区東壁の標準土層のみ確認されている。直下の遺構確認はな

かった。

VIB層 黒色粘質土。浅間C軽石を含まない。

V層 灰色～灰黄色粘質土。

IX層 灰黄色粘質土。黄色風化軽石、酸化凝集を多く含む。

浅間板鼻黄色軽石層 約1.3～1.4万年前に降下したとされる浅間山噴火に伴う軽石層。

X層 灰色～緑色砂礫混土。

(3) 各区の土層

前述したように、上新田中道東遺跡の調査は延長900mの調査区を一単位としていることや4か年に亘る調査過程で、調査年度や調査区の違いなどが重なり、一連で各調査区の土層堆積の対比ができなかった。今回の整理作業では、挟むテフラ層や洪水層を頼りに各区の土層を比較対照して、基本的には平成16年度の土層記載に揃える作業をおこなった。

第5図は、各調査区の主要な土層断面図を、標高を合わせて調査区の順に並べたものである。上新田中道東遺跡の基盤地形は、緩やかに西から東に傾斜しており、浅間Bテフラもこの傾斜に対応して堆積していた。ここでは各区の土層堆積状況を記載しておく。

なお、土層の記録は各調査区で2～16地点で実施したが、すべての土層断面図を掲載できないので、主要な土層断面図各区1～2葉を第5図に掲載した。

I区 I区では、南北側道部を平成16年に、中央部を22年に調査した。

I区の浅間A軽石の堆積は、北側道部東壁でI層とII層の間に軽石を多く含む層を確認した他は見られなかった。調査区西部6単位の浅間A軽石復旧溝群を検出している。

II層の洪水層は、I区のはほぼ全域に25～30cmの厚さで堆積していた。I区ではII層直下の遺構は検出されなかった。色調の違いで2～3層に分層できる。

III層は、発掘区全体に、浅間Bテフラの上位に厚さ20cmほど堆積していた。上半部は、浅間B軽石を少量含む灰褐色砂質土で、下半部は浅間B軽石を多く含む黒褐色砂質土である。

浅間Bテフラ層は、45-91区の3ラインより東側にはその下半部が一次堆積で残されていた。この部分では浅

間Bテフラ下水田の畦畔が検出された。3ラインより西側はやや微高地になっており、浅間Bテフラの堆積は残されていない。浅間Bテフラの直下には厚さ1~3cmでIVA層が堆積していた。このIVA層は、浅間Bテフラ噴出時には水田面が休耕状態にあったことを示す土層として注目されている。ただし西部の微高地部よりのIVA層は黒味が少なく砂質が強まる。この両者が同一かどうかは調査では検証できなかった。

IVB層は灰褐色のシルトでI区全体に厚さ10~20cmで堆積していた。本層は下位に堆積していたと推定される黄白色砂・シルト層(IVC層)が踏み込まれて土壌化したと考えられる地層で、地点によってその厚さや底面の深さが異なっていた。IVB層を割くと、本来IVC層で埋没した9世紀後半の水田の痕跡と推定される疑似畦畔が検出された。

IVC層はI区では大半が覆坪・土壌化し、洪水堆積物は畝間溝の凹地や水田面につけられたと推定される牛蹄跡内にのみ残されていた。ところでIVC層に関連する9世紀の洪水層は、上新田中道東遺跡・斉田中耕地遺跡の発掘区内で複数確認されている。上新田中道東遺跡I区では、①IVB層中位から視認できる牛蹄跡中、②VI(V)層上面の概ね2枚が確認できる。①はIVB層を掘り下げる経過で牛が踏み込む深さに起因して、検出高の一定でない跡跡が順次確認できる状況であった。斉田中耕地遺跡II区中央区では③IVB層中、④IVC層直下の水田面、⑤VI層から掘り込む溝内の3枚の洪水層が確認できている。堆積層位からして上新田中道東遺跡で検出された洪水層①は斉田中耕地遺跡の①、上新田中道東遺跡の②は斉田中耕地遺跡の⑥に対応するものと考えられる。

V層は斉田中耕地遺跡でIVB層の下位に堆積していると記載されたが、上新田中道東遺跡I区ではIVB層とともに踏み込まれて欠落している地点が多かった。またI区南区中央部ではさらに下位のVI層まで欠落しており、土壌化の過程でさらに深く踏み込まれたものと推定される。VI層はやや粘質の土で、前述したようにI区南区中央部で欠落するが、I区全体に広く堆積していた。調査ではこのVI層上面で、本来IVC層で埋没した9世紀後半の水田痕跡の疑似畦畔が検出されたものと考えている。

榛名二ツ岳火山灰層は、I区では中央部南東側の基本土層で、VII層最上位に断続する塊状に堆積しているのを

記載することができた。火山灰層下面の調査は火山灰層が不明確であったので、実施できなかった。

VII層は調査区全体に堆積していた。3世紀末に噴出したと考えられている浅間C軽石を含むVIA層と、軽石を含まないVIIB層に分層できる地点もあった。VIA層とVIIB層の中間に降灰層準があると推定される浅間C軽石層の一次堆積層は、I区北側道部東壁でしか確認できなかった。I区の地形は東側へ下っていくと推定されるが、東側に隣接する斉田中耕地遺跡IV区には浅間C軽石の一次堆積層やC軽石で覆われた遺構は検出されなかった。本区の浅間C軽石層は、局所的な堆積の可能性が高いが詳細は明らかにならなかった。

VIII層・IX層・浅間板鼻黄色軽石層・X層は一部で凹凸があるもの、I区全体に成層して堆積していた。

II区 II区の土層堆積は、基本的にはI区と同様であったが、欠落する土層があった。

II層の洪水層は、I区では区全体にみられたが、II区では全く見られなかった。浅間Bテフラ降下から現在までの間に耕作によって土壌化したものと推定される。

III層および浅間Bテフラの一次堆積層は、II区西端から20mほどの間には検出されなかった。I区西部と同様にこの地点もやや微高地になっており、後の耕作によって、III層とともに削平・土壌化されたものと考えられる。

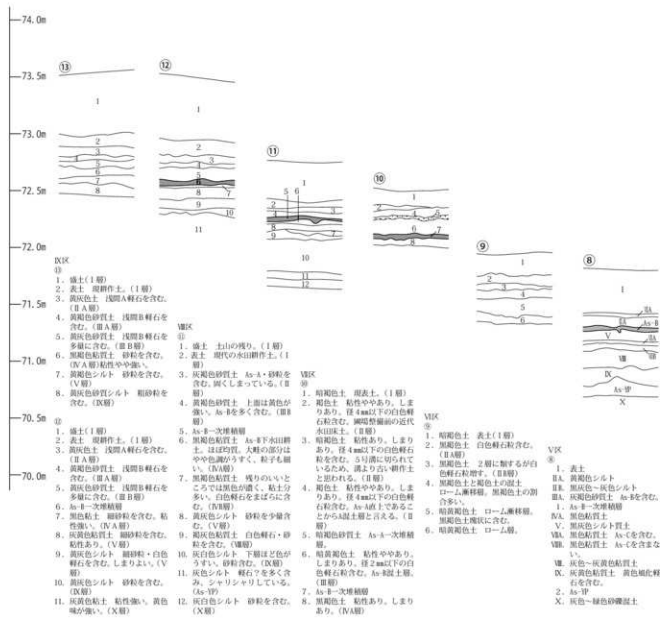
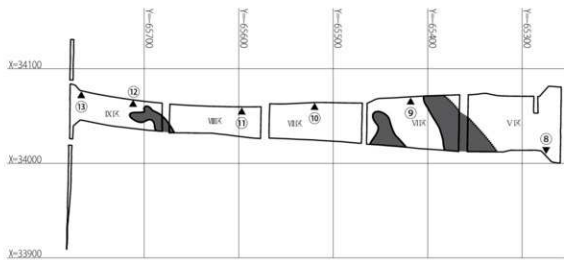
IVA層はI区同様に浅間Bテフラ層直下に堆積していた。IVB層は地表面からの攪乱がおよぶ地点以外はII区の全体に堆積していた。

V層はI区と同様に部分的な堆積しか残っていなかった。IVB層形成時に削平・土壌化されたものと考えられる。また南壁西より14m~20mのところ、V層中に洪水層を検出した。この層位に洪水層が堆積しているのはII区の西端からIII区東端にかけてのみである。II区ではこの洪水層の下で遺構は検出されなかった。

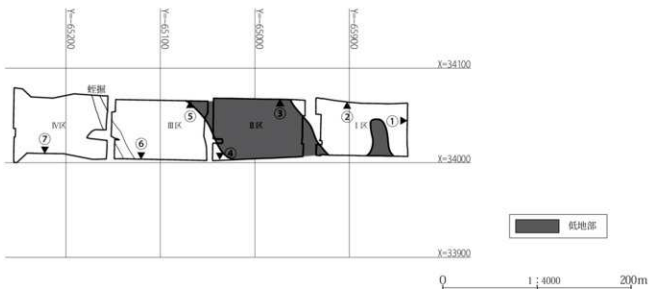
VI層はII区の西から30mほどのところまでは堆積していたが、それより東側は残っていなかった。

榛名二ツ岳火山灰層は、II区には堆積がみられなかった。

VII層は調査区全体に堆積していた。3世紀末に噴出したと考えられている浅間C軽石を含むVIA層と、軽石を含まないVIIB層に分層できる地点もあった。北壁東端より19mほどの地点(II区第2地点)でVII層のテフラ分析



第5図 上新田中道東道路の土層



Ⅶ区

- ⑤
 I. 表土
 II. 洪水層 黄褐色シルト
 III. 黒褐色砂質土 As-Bを多量に含む。
 IVA. 黒色粘質土
 V. 洪水層
 VI. 黒褐色シルト
 VII. 黒褐色粘質土 As-Cを含む。
 VIII. 黒色粘質土 As-Cを含まない。
 IX. 灰色～灰黄色粘質土
 X. As-YP
 XI. 灰色～緑色砂礫土

Ⅵ区

- ④
 I. 表土
 II. 洪水層
 III. 黒褐色シルト 白色軽石を含む。
 IVA. 黒色粘質土
 V. 洪水層
 VI. 黒色粘質土 As-Cを含む。
 VII. 灰色～灰黄色粘質土
 VIII. 黒色粘質土
 IX. As-YP
 X. 灰色～緑色砂礫土

Ⅴ区

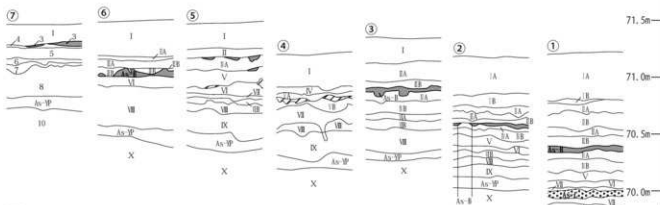
- ③
 I. 表土
 II. 洪水層 黄褐色砂質土 As-Bを少量含む。
 III. 黒褐色砂質土 As-Bを多量に含む。
 IV. As-B二次堆積層
 VA. 黒色粘質土
 VB. 黒褐色シルト
 VIC. 黒色粘質土 As-Cを含む。
 VII. 黒褐色土 白色軽石を含む。
 VIII. 黒色～灰黄色粘質土
 IX. As-YP
 X. 灰色～緑色砂礫土

Ⅳ区

- ②
 I. 表土
 II. 洪水層 褐色洪水砂質じり。
 III. 洪水層 黄褐色シルト
 IVA. 黒褐色砂質土 As-Bを少量含む。
 VB. 黒褐色砂質土 As-Bを多量に含む。
 VI. As-B二次堆積層
 VII. 黒色粘質土
 VIII. 黒褐色シルト
 IX. 黒褐色シルト
 X. 黒色粘質土 As-Cを含まない。
 XI. 灰色～灰黄色粘質土
 XII. As-YP
 XIII. 灰色～緑色砂礫土

Ⅲ区

- ①
 I. 表土
 II. 洪水層 褐色洪水砂質じり。
 III. 洪水層 黄褐色シルト
 IVA. 黒褐色砂質土 As-Bを少量含む。
 VB. 黒褐色砂質土 As-Bを多量に含む。
 VI. As-B二次堆積層
 VII. 黒色粘質土
 VIII. 黒褐色シルト
 IX. 黒褐色シルト
 X. 黒色粘質土 As-Cを含む。
 XI. 灰色～灰黄色粘質土
 XII. As-YP
 XIII. 灰色～緑色砂礫土

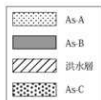


Ⅷ区

- ⑩
 1. 表土
 2. 黒褐色土 浅層B軽石を含む。
 3. As-B二次堆積層
 4. 黒色粘土
 5. 黒褐色土
 6. 黒褐色土 少量浅層C軽石を含む。
 7. 灰白色シルト 漸移層。
 8. 灰白色シルト 水成ローム
 9. As-YP
 10. 灰白色シルト 水成ローム

Ⅵ区

- ⑧
 1. 表土
 II. 洪水層 黄褐色シルト
 III. 黒褐色砂質土 As-Bを少量含む。
 III. 黒褐色砂質土 As-Bを多量に含む。
 I. As-B二次堆積層
 VI. 黒褐色粘質土
 VII. 灰色～灰黄色粘質土
 2. As-YP



を実施した。ここでは4点の試料を分析したが、上から2層目の試料2付近に浅間C軽石の層準があるとの結果を得た。また、東端より16mの地点(Ⅱ区第1地点)で検出されたテフラ塊に含まれる軽石について、浅間C軽石の可能性が非常に高いと報告されている。

Ⅷ層・Ⅸ層・浅間板鼻黄色軽石層・Ⅹ層は一部で凹凸があるもの、Ⅱ区全体に成層して堆積していた。

Ⅲ区 Ⅲ区の土層堆積も、基本的にはⅠ区と同様であった。Ⅱ層の洪水層は南壁窪みでは厚さ5～10cmで、ほぼ東から西まで、全体に残されているのが確認できた。しかし北壁付近ではⅡ層は一部に見られたのみで、洪水層堆積以降の耕作によって削平されたものと推定される。

Ⅲ層および浅間Bテフラ層の一次堆積層は、Ⅲ区東端から南壁で17m地点、北壁で32m地点より東側には、検出されなかった。この浅間Bテフラの一次堆積層がない部分はⅡ区の西端と連続している。この地点はⅡ区西端と合わせて幅50mほどの微高地部分を形成していることから、浅間Bテフラの一時堆積層が堆積しなかった、あるいは薄かったことから、後の耕作によって、Ⅲ層とともに削平・土壌化されたものと考えられる。

また、Ⅲ区西端南壁付近でも、西端より30m地点より西側には浅間Bテフラの一次堆積は検出されなかった。これは、西端の浅間Bテフラが検出されなかった地点では、近世以降に1号溝・2号溝・蛭堀と幹線水路が継続して掘られて地形改変が著しかったことによると推定される。

ⅣA層はⅢ区でも、浅間Bテフラの一次堆積層の直下に堆積していた。色調・層厚はⅠ・Ⅱ区と変わらない。ただし、南壁東端より40m地点～60m地点の間と、北壁西端より11m地点～24m地点の間では、浅間Bテフラの一次堆積層があるにも関わらず、ⅣA層の堆積が認められなかった。

ⅣB層は、北壁東端より42m、南壁東端より21mの範囲で、Ⅲ区東部のみ堆積していた。ⅣB層は下位に堆積していた洪水層(ⅣC層)が攪拌・土壌化したものと考えられ、一部に洪水堆積物は認められたものの、Ⅰ・Ⅱ区では単一層として認められていた。しかし、Ⅲ区ではⅣC層にあたる洪水層が確実に2～3層検出され、各面に遺構が検出された。Ⅰ区・Ⅱ区でⅣB層・Ⅴ層・Ⅵ層

の間で、洪水堆積物と関連した遺構の掘り込み面が明確でなく断続的に検出されたが、Ⅲ区ではその都度の洪水層の堆積が分離して検出できたものと考えたい。具体的にはⅤ層中で2枚、Ⅵ層上面に1枚である。最上層の洪水堆積物層はⅢ区東端の幅2mほど、中位の洪水堆積層は2面、下位の堆積層は3面の遺構を覆っていることになる。ただしⅠ・Ⅱ区でⅥ層上面に検出された疑似畦畔が、いずれの洪水層に覆われていたのかは明確にできなかった。Ⅱ区西端では疑似畦畔の下層に洪水堆積物で覆われた畝が検出されており、少なくとも最古の洪水層でないことは明らかであろう。またⅢ区の28号溝を埋めていた洪水層はⅤ層を切っていることから、上位あるいは中位の洪水層の可能性が高い。

Ⅴ層は、ⅣB層が堆積する東部には堆積していた。洪水堆積物が及ばない、あるいは残っていない西部には堆積が認められなかった。

Ⅵ層はⅢ区全体に堆積していたが、北壁東端より7m地点から42m地点までの壁面では確認できなかった。ここではⅣB層が比較的厚く堆積しており、洪水のあった9世紀前半以降、耕作による攪拌が著しく、堆積していたⅥ層もⅣB層とともに土壌化したものと推定される。

Ⅶ層はⅢ区全体に堆積していた。

Ⅷ層・Ⅸ層・浅間板鼻黄色軽石層・Ⅹ層は一部で凹凸があるもの、Ⅱ区全体に成層して堆積していた。

Ⅳ区 Ⅳ区は北東隅にⅢ区西半部の凹地の延長があり、蛭堀東岸には、浅間Bテフラの一次堆積層がみられたが、全体としては、浅間Bテフラ一次堆積層はないか、途切れ途切れの堆積状況であった。古墳時代の18・19号溝上層には浅間Bテフラ一次堆積が認められたが、他の土層断面では明確に記録できた地点はほとんどない。また、Ⅳ区南東部には微高地の一部が残っており、その部分にはⅢ～Ⅶ層の堆積はほとんど見られなかった。当該時期には微高地として周囲とは別の土地利用がなされていたと推定される。

Ⅴ区 Ⅴ区では浅間Bテフラの堆積状況に偏りがあった。南区南東部の狭い範囲には比較的良好に浅間Bテフラの一次堆積層の堆積が残されており、同層下の水田アゼが検出された。しかしⅤ区の大部分である55-21区17

ライン以西には浅間Bテフラの一次堆積層は残っていない。浅間Bテフラ下のIVA層の下位には直接V層が堆積していた。IVB層とした洪水層はV区でも堆積していなかった。さらに下位には浅間C軽石を含む黒色土が堆積しており、浅間C軽石の一次堆積層は確認されなかった。

VI区 VI区では浅間Bテフラの一次堆積層は10号溝の底面のみ認められ、全体としては浅間C軽石を含むIII層が堆積していた。VI区中央部にはIII層の堆積もなかった。この地点は微高地であり、浅間BテフラおよびIII層は削平されたものと推定される。また、IVC層とした洪水層はVI区でも堆積していなかった。さらに下位には浅間C軽石を含む黒色土が堆積しており、浅間C軽石の一次堆積層は確認されなかった。

VII区 VII区では遺跡内でこたけ浅間A軽石の一次堆積が残されていた。浅間Bテフラの一次堆積層は調査区全域に堆積していた。VII区でもIVC層とした洪水層は堆積していなかった。さらに下位には浅間C軽石を含む黒色土が堆積しており、浅間C軽石の一次堆積層は確認されなかった。

VIII区 ほぼ全域に浅間Bテフラの一次堆積層が堆積していた。VIII区でもIVC層とした洪水層は堆積していなかったが、さらに下位には浅間C軽石を含む黒色土が堆積しており、浅間C軽石の一次堆積層は確認されなかった。

IX区 ほぼ全域に浅間Bテフラの一次堆積層が堆積して

いた。IX区でもIVC層とした洪水層は堆積していなかったが、上位のIVB層に比定できる黄灰色シルトは一面に堆積していた。さらに下位には浅間C軽石を含む黒色土が堆積しており、浅間C軽石の一次堆積層は確認されなかった。

(4) 遺構確認面

上新田中道東遺跡の調査では、1面—浅間Bテフラ直下面、2面・3面—古代の洪水堆積物関連、4面—浅間C軽石混土層下面の概ね4つの面で遺構の確認・掘り下げ・記録をおこなった。しかし、複数の年次に分割した調査だったことから、遺構確認面やその呼称を統一的に記録することができなかった地点があった。

平成16年度調査開始当初は、表土下で検出された浅間A軽石の復旧溝や近世以降の浅い溝等の遺構は局所的で全体に及ばなかったことから、逐次記録していた。しかし、これらは浅間Bテフラ層を切る深い遺構とともに、1面とした浅間Bテフラ層直下より新しいことは明らかで、I区～III区ではこれらを調査途中で分離し、遺構確認面0面を加えている。また、古代の洪水層関連の土層はI区～III区東半部にかけてのみ残存しており、2面・3面の遺構確認はI区～III区東半部に限られていた。したがって、IV区～IX区では4面を2面と記録した。さらに、平成22年度のII区中央区の調査に際しては、III層(浅間B混土)上面および浅間Bテフラ上面で新たに遺構確認ができ、0.5面、0.75面として調査・記録した。

以上のような遺構確認面の複雑な状況を整理するために、本報告にあたっては下記の4つの時期にまとめて報告することとした。その際、報告書と保存調査資料の対

第1表 上新田中道東遺跡の遺構確認模式表

層	報告書遺構面名称	調査時面	IX区	VIII区	VII区	VI区	V区	IV区	III区	II区	I区
I 表土	中近世の遺構と遺物	0									
II 浅間軽石混土		0.5									
		0.75									
		1									
浅間Bテフラ	中世の遺構と遺物	1									
IV		2									
		3									
		4									
(9世紀後半洪水層)	古代洪水層関連の遺構と遺物	1									
V		2									
VI		3									
		4									
VII 浅間C軽石混土	古代・古墳時代の遺構遺物	4あるいは2									
VIII											
IX											

比に混乱を招く恐れがあることから、保存調査資料の遺構面呼称を再編することはしなかった。本報告書では下記の通り時期名で遺構面を表し、調査時の遺構面呼称や検出された遺構との対照を第1表に示した。ただし、自然科学的分析報告では調査時の名称が残った部分もある。また、遺構番号の付け替えは行わざるを得なかったが、これは第2表(P.17)で明示した。

中近世の遺構面 表土直下あるいは浅間Bテフラより上位で確認した遺構である。調査時には浅間Bテフラおよび浅間B混土層を除去した面で遺構を記録した地点が多いが、明らかに浅間Bテフラ降下以降の遺構確認面である。浅間A軽石降下被災の田島に対する復旧溝や、浅間Bテフラ下水田の畦や水路を壊して造られた水路が確認されている。これらについては浅間Bテフラ直下の遺構とともに図化や写真撮影を実施した地点が多いが、今回の報告では、遺跡内容を理解しやすいように、中近世の遺構として分離して報告した。また、本層位の細分が可能で、遺構確認を分けておこなったⅡ区中央区については、耕作遺構の変遷を重視して中世の遺構として編集した。

中世の遺構面 浅間B混土上面、浅間B混土下面、浅間Bテフラ直下の3面で検出された遺構である。1108(天仁元)年の浅間山噴火前後の遺構である。本書では、中世の開始期を近年の研究成果^(18,3)から院政期以降とした。したがって浅間Bテフラの降下は中世と記載した。

浅間B混土上面での遺構確認はⅡ区のみであった。

浅間B混土下面での遺構確認はⅡ区と、Ⅳ区～Ⅵ区でおこなった。Ⅱ区では耕作痕、Ⅳ区～Ⅵ区では水田の疑似畦畔を検出した。この2地点の遺構が同時期かどうかは厳密には判断できない。

浅間Bテフラ一次堆積層の直下では、Ⅰ区～Ⅲ区・Ⅶ～Ⅸ区で水田を検出した。いずれの区でも浅間Bテフラ降下ユニットの下半部のみではあったが一次堆積層が残っていた。

古代洪水層関連の遺構面 ⅣB層下位、Ⅴ層上面、Ⅵ層上面、Ⅵ層上面やや下位で確認した遺構である。ⅣB～Ⅵ層は古代以降の洪水堆積物が土壌化した層位と推定される。この層位が検出されたのはⅠ区～Ⅲ区東半にかけ

てに限られる。したがって、この層位で遺構が確認できたのはこの地点のみである。

Ⅲ区東半からⅡ区西半の土層断面のごく一部では、2～3枚の洪水層が残されていたが、層厚が薄いためにその下面を検出する調査はできなかった。Ⅲ区28号溝や牛跡跡の底面には、複数の洪水層のうち、いずれかの砂礫層が一次堆積で残されていた。本報告では、ⅣB層を掘り下げる途中で牛跡跡とみられる小穴が確認できはじめる面を古代①ⅣB層上面、Ⅵ層上面で疑似畦畔および鋤跡と推定される耕作痕跡が検出された面を古代②Ⅵ層上面、Ⅵ層を掘り下げる途中で畝が検出された面を古代③Ⅵ層中位面、さらにⅥ層を掘り下げてⅥ面上位で検出された遺構のうち、砂質土やシルトで埋まっていた遺構を古代④Ⅵ層下面と呼ぶ。

古代～古墳時代の遺構面 Ⅷ層上面で確認した遺構である。浅間C軽石を含む黒色土を除去した面で、竪穴住居や溝・土坑などを検出した。Ⅰ区からⅨ区まで全域に認められる遺構確認面である。ここで検出された遺構は4世紀のものがほとんどである。一部に7～8世紀の遺構や6世紀の土器も含まれている。倒木痕も顕著に検出されたが、浅間C軽石を含む黒色土が落ち込んでいるものが多い。ほとんどの倒木時期は古墳時代前期以降と推定される。

(5) 遺構の調査

上新田中道東遺跡では、これまで述べてきたように各区分で異なる遺構の埋没状況であったが、概ね4面の遺構確認面を調査を行った。基本的には排土置き場は調査区内であったことから、区ごとに遺構面調査の進捗状況は異なる。詳細は次節の発掘調査の経過で述べるが、工事工程上の問題があり、年度をこえての各区の調査となったために、発掘区全体を同一の遺構面として、調査・記録することはできなかった。

各区とも遺構面やや上層までは、表土層・間層ともに大型掘削機による掘削を行った。その後、ジョレンを用いて人力による遺構確認作業を行った。遺構確認作業と並行しながら、移植ゴテを用いた遺構調査を開始した。

Ⅳ区北区およびⅥ区では、遺構の調査が終了した後、3m×4mのトレンチを1か所ずつ設定し、旧石器調査

を行った。調査は約2.4万年前、ローム上面下約1.7mの浅間室田軽石(As-MP)下に位置する粘質土層(基本土層X層)まで実施した。この調査で旧石器は出土しなかった。

(6) 発掘調査の記録

発掘調査にあたっては、図面・写真および調査所見メモを記録した。

図面は各遺構の平面図と断面図、遺構全体図を作成した。平成16年度の調査では、現場では遺構平面図・断面図共に手実測し、紙での記録とした。全体図は航空測量をしたが、こちらも紙での記録とした。しかし調査終了時に、将来的なデジタル化に備え、すべての図面に通し番号を付し、アナログ図面のデジタルデータ化を委託実施した。平成20～22年度の調査でも、各遺構の平面図・遺構全体図を作成したが、すべてデジタル測量を委託し、EPSデータで作成した。断面図は遺構図に対応する縮尺で発掘作業員が手実測したが、これも最終的にはデジタルデータ化した。

各遺構の埋没状況については、土層観察用の土手を十字に設定し、すべての遺構で土層断面図を作成した。断面図の土層の注記は、全体の土層の色調や硬度を記載し、特徴的な夾雑物とその相対的な量を記載した。基本土層を実測した土層断面では遺構・遺物を理解するにあたって必要不可欠であるので、土壌のテフラ分析を委託し、記載した。

遺構写真は、平成16年度の調査ではブローニーモノクロフィルムを用いた6×7カメラおよび35mm銀塩カメラで、撮影対象・撮影日・撮影方向を添付し、地上撮影した。発掘区的全景写真・航空測量は高所作業車から撮影した。撮影した銀塩写真はベタ焼きを遺構ごとに整理し、撮影対象・撮影日・撮影方向を記入したネガ検査台紙を作成した。平成20年度以降は、ブローニーモノクロフィルムを用いた6×7銀塩カメラおよび35mmデジタルカメラで、撮影対象・撮影日・撮影方向を添付し、地上撮影した。デジタル写真はオリジナルのRAW形式と、JPEG形式で現像したデータを保存した。平成21年度からは、オリジナルのRAWデータと遺構名等の一定ルールでリネームしたRAW形式のデータのみ保存した。

また、遺跡の立地を記録するために航空写真撮影を委託して実施した。

3. 発掘調査の経過

上新田中道東遺跡の発掘調査は平成16年、20年、21年、22年に実施した。調査進行の概略は次の通りである。ここでの面表記は第1表の調査時の面呼称のままである。平成16年度

- 4月1日 調査準備開始。
- 4月8日 調査区掘削準備開始。
- 4月9日 安全柵設置等の環境整備。調査区設定。
- 4月13日 調査区整備。
- 4月15日 Ⅲ区南北の排水溝掘削開始。調査面数の確認。
- 4月20日 Ⅲ区Ⅰ面表土掘削開始。一部でAs-Aの復旧溝を確認し調査開始。Ⅱ区南北の排水溝掘削開始。
- 4月23日 Ⅲ区蛭堀掘削開始。表土掘削作業。
- 4月26日 Ⅱ区表土掘削。As-B下水田検出作業開始。
- 5月7日 Ⅱ区表土掘削終了。Ⅱ面遺構調査開始。
- 5月14日 Ⅲ区Ⅰ号掘立柱建物調査。
- 5月19日 Ⅲ区Ⅰ面全景写真撮影・航空測量。個別遺構撮影。全体測量。
- 6月2日 Ⅲ区Ⅱ面掘削開始。
- 6月3日 Ⅱ区Ⅰ面全景写真撮影・航空測量。個別遺構撮影。全体測量。
- 6月7日 Ⅱ区Ⅱ面掘削開始。
- 6月17日 Ⅱ区・Ⅲ区全景写真撮影・航空測量。個別遺構撮影。全体測量。
- 6月18日 Ⅱ区西半3面検出作業開始。Ⅲ区西半4面検出作業開始。
- 6月21日 Ⅰ区排水溝掘削開始。
- 6月22日 Ⅲ区東半3面検出作業開始。
- 6月23日 Ⅰ区表土掘削開始。As-Aの復旧溝(0面)確認。
- 6月29日 Ⅱ区・Ⅲ区3面全景写真撮影・航空測量。
- 6月30日 Ⅰ区Ⅰ面掘削開始。
- 7月1日 Ⅱ区・Ⅲ区4面検出作業開始。
- 7月7日 Ⅱ区南区埋戻し開始。
- 7月12日 Ⅱ区北区埋戻し開始。
- 7月14日 Ⅳ区排水溝掘削開始。
- 7月15日 Ⅲ区南区埋戻し開始。Ⅳ区表土掘削開始。
- 7月21日 Ⅰ面北区Ⅰ面精査終了。Ⅳ区南区表土掘削終了。Ⅴ区排水溝掘削開始。
- 7月23日 Ⅴ区表土掘削終了。

8月6日	I区1面全景写真撮影・航空測量。	2月3日	VI区表土掘削開始。
8月17日	Ⅲ区北区遺構調査終了。	2月4日	IV区全景写真撮影。
8月20日	IV区南区1面調査開始。	2月6日	VI区遺構確認作業開始。
8月27日	I区南区1面、Ⅲ区北区4面全景写真撮影・航空測量。	2月10日	IV区埋戻し開始。
9月8日	I区北区3面、I区南区4面全景写真撮影。	3月5日	VI区1面全景写真撮影。
9月14日	IV区・V区南区1面全景写真撮影・航空測量。	3月18日	VI区4面全景写真撮影
10月13日	I区北区4面全景写真撮影・航空測量。	3月23日	VI区旧石器試掘トレンチ掘削。
10月18日	Ⅲ区北区埋戻し開始。	3月24日	VI区埋戻し開始。
10月22日	I区北区埋戻し開始。	3月27日	VI区埋戻し終了。調査終了。現場事務所撤収。
10月29日	V区4面全景写真撮影。		
11月5日	IV区方形周溝墓全景写真撮影。	平成21年度	
11月9日	IV区南区全景写真撮影・航空測量。	1月13日	調査区掘削準備開始。
11月11日	V区南区埋戻し開始。	1月14日	Ⅷ区排水溝掘削。表土掘削開始。
11月24日	IV区南区調査終了。	1月15日	Ⅷ区1面遺構確認作業・精査作業開始。
12月2日	IV区・V区北区排水溝掘削開始。	1月28日	Ⅷ区1面全景写真撮影。
12月3日	V区北区表土掘削開始。	2月2日	IX区排水溝掘削、表土掘削開始。
12月9日	IV区北区表土掘削開始。	2月3日	IX区1面全景写真撮影。
1月12日	IV区北区1面全景写真撮影・航空測量。	2月9日	Ⅷ区植物珪酸体分析試料採取。
1月28日	IV区・V区1面全景写真撮影・航空測量。	2月10日	IX区遺構調査開始。
3月16日	IV区・V区4面全景写真撮影・航空測量。	2月17日	Ⅷ区4面調査開始。
3月22日	IV区・V区埋戻し開始。	2月23日	IX区1面全景写真撮影。
3月29日	IV区・V区埋戻し終了。現場事務所撤収。	3月9日	Ⅷ区4面全景写真撮影。
		3月11日	Ⅷ区測量終了。
平成20年度		3月12日	Ⅷ区埋戻し開始。
10月27日	Ⅲ区・IV区中央区排水溝掘削開始。	3月17日	Ⅷ区埋戻し終了。IX区4面全景写真撮影。
10月29日	IV区表土掘削開始。	3月18日	IX区土層剥ぎ取り作業。
11月10日	Ⅲ区中央区2面全景写真撮影。	3月19日	IX区埋戻し開始。
11月15日	V区表土掘削開始。	3月26日	調査事務所撤収。
11月29日	VI区・VII区掘削準備開始。		
12月5日	VII区排水溝掘削完了。	平成22年度	
12月8日	VII区表土掘削開始。	7月13日	I区排水溝掘削。
12月12日	Ⅲ区中央区全景写真撮影。	7月14日	I区表土掘削開始。
12月25日	Ⅲ区・V区中央区全景写真撮影。	7月20日	I区遺構確認作業開始。
1月5日	IV区表土掘削開始。	7月28日	I区1面全景写真撮影。航空測量。
1月7日	IV区旧石器試掘トレンチ掘削。V区測量終了。	8月4日	I区2面掘削開始。
1月15日	V区埋戻し開始。VI区全景写真撮影。	8月10日	I区2面As-8下水田検出作業開始。
1月16日	IV区遺構確認作業再開。	8月24日	I区2面全景写真撮影。航空測量。
1月22日	VII区測量終了。	8月30日	I区3面掘削開始。
1月28日	VII区埋戻し開始。	9月14日	I区3面全景写真撮影。航空測量。
		9月22日	I区4面掘削開始。

10月1日	I区4面遺構確認作業。
10月8日	I区4面全景写真撮影。 II区東半部排水溝掘削。
10月12日	II区東半部表土掘削開始。
10月14日	II区東半部1A面遺構確認作業開始。
10月18日	I区調査終了。埋戻開始。
10月22日	II区東半部1A面全景写真撮影。
10月27日	I区埋戻終了。
10月29日	II区東半部1B面掘り下げ調査開始。
11月2日	IX区調査準備。
11月4日	IX区南区掘削開始。
11月8日	IX区北区掘削開始。
11月10日	II区東半部1B面全景写真撮影。
11月12日	II区東半部2面As-B下水田検出作業開始。
11月24日	IX区調査終了。
12月1日	II区東半部2面全景写真撮影。航空測量。
12月2日	II区東半部3面掘り下げ調査開始。
12月13日	II区東半部3面全景写真撮影。航空測量。
12月16日	II区東半部4面トレンチ調査開始。
12月17日	II区東半部4面全景写真撮影。
12月20日	II区東半部北壁土層断面記録。埋戻開始。
12月27日	II区東半部埋戻終了。
1月6日	II区西半部表土掘削開始。
1月7日	II区西半部遺構確認作業開始。
1月18日	II区西半部1面全景写真撮影。掘り下げ開始。
1月19日	II区西半部1A面遺構確認作業開始。
1月24日	II区西半部1A面全景写真撮影。
1月25日	II区西半部1B面掘り下げ・遺構確認調査開始。
1月28日	II区西半部1B面全景写真撮影。
1月31日	II区西半部2面As-B下水田検出作業開始。
2月10日	II区西半部2面全景写真撮影。航空測量。
2月14日	II区西半部3面掘り下げ・遺構確認作業開始。
2月17日	II区西半部3面全景写真撮影。
2月23日	II区西半部4面トレンチ調査開始。
2月26日	II区西半部4面全景写真撮影。
3月7日	II区西半部4面全景写真撮影。
3月9日	II区西半部調査終了。埋戻開始。
3月16日	II区西半部埋戻終了。

4. 整理事業の経過と方法

(1) 整理事業の経過

上新田中道東遺跡の発掘調査成果・出土資料の整理事業および報告書刊行業務は、平成21年度から23年度にかけて実施した。

平成21年度

上新田中道東遺跡の平成21年度整理事業は、平成20年度国道354号(玉村バイパス)道路改築事業(二次補正)にともなう整理事業として実施された。本事業は、平成21年3月18日付けで群馬県教育委員会文化課から、平成21年3月23日付けで群馬県中部県民局伊勢崎土木事務所から財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に依頼があり、調整が重ねられた結果、平成21年3月31日付けで、伊勢崎土木事務所と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団との間で委託契約を締結した。業務の履行期間は平成21年3月31日～平成21年12月31日、整理期間は4月1日から12月31日までである。

本契約には、当初上新田中道東遺跡の整理事業は含まれていなかったが、平成21年12月11日付で、契約の変更をおこない、新たに平成22年2月1日から3月31日に上新田中道東遺跡の整理事業が実施されることになった。

遺構データの集積・確認、遺構台帳の作成、遺構写真の整理、出土物の分類・接合作業を一部おこなった。遺構関連では、2次にわたる調査で検出された遺構のデータを集積し、全体が把握できる遺構台帳の作成をおこなった。平成20年度発掘調査で撮影したデジタル遺構写真のファイル名の変更をおこなった。出土物の整理事業は、発掘区・発掘面に再分類し、出土物の概要を記録しながら、接合作業および復元作業を開始した。

平成22年度

上新田中道東遺跡の平成22年度整理事業は、平成21年度国道354号(玉村バイパス)地域活力基盤創造事業に伴う埋蔵文化財の整理事業として実施された。平成22年3月11日付けで群馬県教育委員会文化課から、平成22年3月18日付けで群馬県中部県民局伊勢崎土木事務所から財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に依頼があり、調整が重ねられた結果、平成22年3月31日付けで、伊勢崎土

木事務所と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団との間で委託契約を締結した。業務の履行期間は平成22年3月31日～平成23年3月31日、整理期間は平成22年4月1日から23年2月28日までである。

平成22年度の整理作業では、遺物接合・復元の継続、遺物写真撮影、遺物実測・トレース、遺物観察、遺構図面の修正・編集、版下作成、写真図版レイアウト、本文原稿執筆をおこなった。

平成23年度

上野田中道東遺跡の平成23年度整理事業は、平成22年度国道354号高崎玉村バイパス(玉村工区)社会資本総合整備(活力創出基盤整備)事業に伴う埋蔵文化財の整理事業として実施された。平成23年3月11日付けで群馬県教育委員会文化課から、平成23年3月18日付けで群馬県中部県民局伊勢崎土木事務所から財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に依頼があり、調整が重ねられた結果、平成23年3月31日付けで、伊勢崎土木事務所と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団との間で委託契約を締結した。業務の履行期間は平成23年3月31日～平成24年3月31日、整理期間は平成23年4月1日から平成24年2月29日までである。

平成23年度の整理作業では、平成22年度に発掘調査されたⅠ区・Ⅱ区の遺構図面や出土遺物の整理作業を追加し、遺物接合・復元、遺物写真撮影、遺物実測・トレース、遺物観察、遺構図面の修正・編集、版下作成、写真図版レイアウト、本文原稿執筆をおこなった。

(2) 遺物の整理

遺物の整理は、土器と石器類、金属製品および木質遺物を対象とした。

土器は遺構ごとに接合を行った。接合作業は遺構内の遺物出土状況を平面図および写真と確認しながら実施した。遺構外で出土した同時期同型式の遺物とも接合を試みた。次に遺物出土状態や個体数・形態差・構成比等を勘案し、報告書に掲載する遺物を選択した。今回選択した土器は、縄文土器6点、弥生土器11点、土師器・須恵器611点、中近世陶磁器・土器125点である。選択できなかった土器は遺構ごとに種別を分類し、計数して収納した。報告書掲載土器は復元し、写真撮影をおこなった。

遺物写真は当事業団写真室でデジタルカメラを用いて撮影した。土器実測図は等倍で作成した。完形に近い土器はスリースペースシステムで測し、その印刷出力図を補測・製図した。破片の土器は断面実測をおこない、縄文原体や文様が読み取れるように留意して採拓した。土器のトレースは墨入れでおこなった。拓本とトレースは台紙に貼付し、スキャニングし縮小してデジタルデータとした。土器の観察は表形式にまとめた。色調は『標準土色帖』の色名を用いて記載し、器形実測できた土器の口径・底径・高さは実測図から計測した。胎土は特徴的な火雑物を中心に記載した。文様および整形技法を属性表に記載した。

石器類は全点を石器、剥片、礫・礫片に形態分類した。石器は42点が分類されたが、器種を網羅するように選択し、33点を報告書掲載とした。剥片、礫・礫片は出土位置ごとに計数し収納した。石器の実測図は大型品1/2、その他は等倍で作成した。石器を長焦カメラで撮影し、その印刷出力図を補測・製図した。トレースは墨入れでおこない、一部の拓本とともにスキャニングして縮小しデジタルデータ化した。石器の属性—長さ・幅・厚さ・重さ・石材等は表形式にまとめた。石材の同定は群馬県地質研究会の飯島静男氏に依頼した。形状・調整加工の特徴は属性表に記載した。また47点の古墳時代以降の石製品を分類した。これらも器種を網羅するように30点を選択し実測報告した。

金属製品および鉄生産関連遺物は、全点を形態分類し、鉄製品と銭貨、キセル、鉄滓等を確認した。鉄製品と銭貨、キセルは51点をクリーニングし、報告書掲載とし、写真撮影・実測・トレースを行った。

木質遺物は、生体遺存のものや炭化材がある。生体遺存の遺物は調査時に略測・観察・写真撮影を実施し、加工の有無を確認し、実測の要・不要を決定した後、水漬け保存をした。整理時には要実測遺物10点について改めて写真撮影をし、実測した。これらの実測木製品と加工痕跡のない自然木を含めて、組織観察用の切片をとって、樹種同定をおこなった。炭化材は小破片が多く、樹種同定までには至らなかった。

(3) 遺構図面・写真の整理

遺構図面については、平成16年度と、平成20年度以降の調査では測量方法が異なっていたことから、整理作業ではそれらの統一を図りながら作業を行った。平成16年度分の全体図の測量データは、受託業者のデータを入手し活用させていただいた。平面図・断面図デジタルデータの修正作業をおこない、全体図のデジタルデータの差し替えをおこなった。

平成20～22年度の遺構図は平面図・断面図ともデジタルデータで作成しており、その修正作業・編集作業をおこなった。また、全体図や遺跡位置図・遺跡分布図等を編集しEPSデータとした。

遺構写真については、発掘調査で撮影したモノクロ写真およびデジタル写真から掲載写真を選択した。銀塩フィルムの写真はネガをスキャニングしてTiffデータと

した。平成20年度撮影のデジタル遺構写真はファイル名の変更をおこなった。これらの報告書掲載写真はサイズ調整・レベル補正を実施して、写真図版の原稿データを作成した。最終的には現場撮影・遺構名リネームのRAWデータと、遺物も含む報告書掲載写真のJPEGデータを保存してある。

(4) 報告書の編集

本文・遺物観察表等の原稿は上記作業と平行して執筆した。上記で作成した各種デジタルデータをアドビ社インデザインにより組版し報告書のフルデジタル印刷原稿を作成した。印刷原稿データの推敲・校正・編集修正を実施し、報告書を刊行した。本報告書では遺構番号の付け替えを行わざるを得なかったが、第2表に対照一覧表を掲げた。

第2表 上新田中道東遺跡遺構名称付け替え遺構一覧表

中近世遺構面			
発掘区	調査年度	調査時遺構番号	報告書遺構番号
III	C	20	11土坑
III	C	20	10土坑
III	C	20	11ビット
III	C	20	2ビット
III	C	20	3ビット
III	C	20	13溝
III	S	16	
III	K	16	
III	C	20	8溝
III	K	16	
III	C	20	10溝
III	C	20	2溝
III	C	20	3溝
III	C	20	6溝
III	C	20	7溝
III	C	20	9溝
III	C	20	15溝
III	C	20	14溝
III	C	20	3×4土坑
IV	C	20	1土坑
IV	C	20	2土坑
IV	C	20	4溝
IV	K	16	
IV	C	20	
IV	S	16	2溝
IV	S	16	2溝
IV	S	16	1溝
IV	C	20	
IV	C	20	3溝
IV	K	16	
IV	C	20	5溝
IV	K	16	
IV	C	20	6溝
IV	K	16	
IV	C	20	7溝
IV	K	16	
IV	C	20	8溝
IV	C	20	9溝
IV	K	16	
IV	C	20	1復旧溝
V	C	20	1土坑
V	C	20	2土坑
V	C	20	3土坑
V	C	20	4土坑

発掘区	調査年度	調査時遺構番号	報告書遺構番号
V	C	20	5土坑
V	K	20	1ビット
V	K	20	2ビット
V	S	16	1溝
V	S	16	
V	K	20	2溝
V	S	16	
V	S	16	
V	K	20	1溝
V	S	16	
V	K	20	3溝

中世遺構面			
発掘区	調査年度	調査時遺構番号	報告書遺構番号
II	C	22	耕作痕
II	C	22	0.5並下
II	C	22	1耕作痕
II	C	22	2耕作痕
II	C	20	4溝
II	S	16	22溝
II	C	20	1溝

古代洪水層間遺構面			
発掘区	調査年度	調査時遺構番号	報告書遺構番号
II	K	16	
II	C	22	
II	S	16	17溝
II	C	20	2土坑
II	C	20	4土坑
II	C	20	4ビット
II	C	20	3ビット
II	C	20	4ビット
II	C	20	7ビット
II	C	20	8ビット
II	C	20	9ビット
II	C	20	10ビット
II	C	20	11ビット
II	C	20	12ビット
II	C	20	14ビット
II	C	20	15ビット
II	C	20	18ビット
II	C	20	19ビット

発掘区	調査年度	調査時遺構番号	報告書遺構番号
Ⅲ	C	20	20 ビット
Ⅲ	C	20	21 ビット
Ⅲ	C	20	16 ビット
Ⅲ	C	20	17 ビット
Ⅲ	C	20	13 ビット
Ⅲ	C	20	11 ビット
Ⅲ	N	16	
Ⅲ	C	20	5 溝
Ⅲ	S	16	30 溝
Ⅲ	N	16	
Ⅲ	N	16	32 溝
Ⅲ	N	16	29 溝の北半部
Ⅲ	N	16	31 溝
Ⅲ	N	16	35 溝

古代・古墳時代遺構面

発掘区	調査年度	調査時遺構番号	報告書遺構番号
I	N	16	
I	C	20	22 溝
I	S	16	23 溝
Ⅲ	N	16	60 土坑
Ⅲ	C	20	5 土坑
Ⅲ	C	20	7 土坑
Ⅲ	C	20	8 土坑
Ⅲ	C	20	9 土坑
Ⅲ	N	16	15 ビット
Ⅲ	N	16	16 ビット
Ⅲ	N	16	17 ビット
Ⅲ	N	16	18 ビット
Ⅲ	N	16	22 ビット
Ⅲ	N	16	28 ビット
Ⅲ	N	16	30 ビット
Ⅲ	N	16	32 ビット
Ⅲ	N	16	33 ビット
Ⅲ	N	16	34 ビット
Ⅲ	N	16	35 ビット
Ⅲ	N	16	36 ビット
Ⅲ	N	16	41 ビット
Ⅲ	N	16	42 ビット
Ⅲ	N	16	44 ビット
Ⅲ	N	16	45 ビット
Ⅲ	N	16	46 ビット
Ⅲ	N	16	47 ビット
Ⅲ	N	16	48 ビット
Ⅲ	N	16	49 ビット
Ⅲ	N	16	50 ビット
Ⅲ	N	16	51 ビット
Ⅲ	N	16	52 ビット
Ⅲ	N	16	53 ビット
Ⅲ	N	16	54 ビット
Ⅲ	N	16	55 ビット
Ⅲ	N	16	56 ビット
Ⅲ	N	16	61 ビット
Ⅲ	N	16	62 ビット
Ⅲ	N	16	73 ビット
Ⅲ	N	16	74 ビット
Ⅲ	C	20	17 ビット
Ⅲ	C	20	22 ビット
Ⅲ	C	20	23 ビット
Ⅲ	C	20	24 ビット
Ⅲ	C	20	25 ビット
Ⅲ	C	20	26 ビット
Ⅲ	C	20	27 ビット
Ⅲ	C	20	28 ビット
Ⅲ	C	20	a ビット
Ⅲ	C	20	b ビット
Ⅲ	C	20	d ビット
Ⅲ	C	20	e ビット
Ⅲ	C	20	f ビット
Ⅲ	C	20	g ビット
Ⅲ	C	20	h ビット
Ⅲ	C	20	i ビット
Ⅲ	C	20	k ビット
Ⅲ	N	16	
Ⅲ	C	20	16 溝
Ⅲ	N	16	34 溝
Ⅲ	S	16	25 土坑
Ⅲ	S	16	26 土坑

発掘区	調査年度	調査時遺構番号	報告書遺構番号
Ⅳ	S	16	2 溝路
Ⅳ	S	16	3 溝路
Ⅳ	N	16	4 溝路
Ⅳ	N	16	45 ビット
Ⅳ	N	16	46 ビット
Ⅳ	N	16	47 ビット
Ⅳ	N	16	60 ビット
Ⅳ	N	16	71 ビット
Ⅳ	N	16	72 ビット
Ⅳ	N	16	73 ビット
Ⅳ	N	16	89 ビット
Ⅳ	N	16	90 ビット
Ⅳ	N	16	91 ビット
Ⅳ	N	16	92 ビット
Ⅳ	N	16	93 ビット
Ⅳ	N	16	96 ビット
Ⅳ	S	16	1 溝路
Ⅳ	N	16	3 溝路
Ⅳ	N	16	4 溝路
Ⅳ	N	20	6 ビット
Ⅳ	N	20	7 ビット
Ⅳ	N	20	8 ビット
Ⅳ	N	20	9 ビット
Ⅳ	N	20	10 ビット
Ⅳ	N	20	12 ビット
Ⅳ	N	20	13 ビット
Ⅳ	N	20	14 ビット
Ⅳ	N	20	15 ビット
Ⅳ	N	20	16 ビット
Ⅳ	N	20	26 ビット
Ⅳ	N	20	27 ビット
Ⅳ	N	20	29 ビット
Ⅳ	N	20	31 ビット
Ⅳ	N	20	32 ビット
Ⅳ	N	20	33 ビット
Ⅳ	N	20	57 ビット
Ⅳ	N	20	58 ビット
Ⅳ	N	20	59 ビット
Ⅳ	N	20	60 ビット
Ⅳ	N	20	61 ビット
Ⅳ	N	20	62 ビット
Ⅳ	N	20	68 ビット
Ⅳ	N	20	75 ビット
Ⅳ	N	20	76 ビット
Ⅳ	N	20	77 ビット
Ⅳ	N	20	78 ビット
Ⅳ	N	20	79 ビット
Ⅳ	N	20	80 ビット
Ⅳ	N	20	81 ビット
Ⅳ	N	20	82 ビット
Ⅳ	N	20	83 ビット
Ⅳ	N	20	84 ビット
Ⅳ	N	20	183 ビット
Ⅳ	N	20	87 ビット
Ⅳ	N	20	88 ビット
Ⅳ	N	20	97 ビット
Ⅳ	N	20	99 ビット
Ⅳ	N	20	106 ビット
Ⅳ	N	20	136 ビット
Ⅳ	N	20	140 ビット
Ⅳ	N	20	148 ビット
Ⅳ	N	20	149 ビット
Ⅳ	N	20	151 ビット
Ⅳ	N	20	152 ビット
Ⅳ	N	20	153 ビット
Ⅳ	N	20	157 ビット
Ⅳ	N	20	158 ビット
Ⅳ	N	20	159 ビット
Ⅳ	N	20	160 ビット
Ⅳ	N	20	161 ビット
Ⅳ	N	20	166 ビット
Ⅳ	N	20	167 ビット
Ⅳ	N	20	172 ビット
Ⅳ	N	20	173 ビット
Ⅳ	N	20	175 ビット
Ⅳ	N	20	176 ビット
Ⅳ	N	20	177 ビット
Ⅳ	N	20	178 ビット

第2章 遺跡の立地と歴史的環境

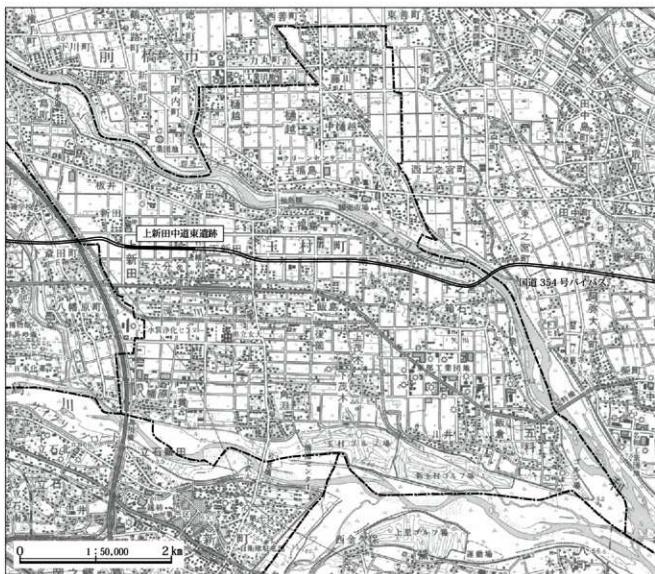
1. 遺跡の位置と地形

(1) 前橋台地の地形

上新田中道東遺跡のある佐波郡玉村町は群馬県南部にあり、町の北～東方には利根川、西部には井野川、南部には烏川が流れている。利根川左岸にある樋越地区・上福島地区を除く町の大部分は、上記の三河川に囲まれた低地部に位置している。現在の玉村町は北西から南東に向かって緩傾斜する低平な水田地帯であるが、利根川の遡流や天明の浅間山噴火に伴う近世以降の地形改変が顕著な地域であることから、縄文時代から古代・中世には

現状とは異なった地形環境であったと推定される。

上新田中道東遺跡は「前橋台地」^(註4)と呼ばれる地形面にある。前橋台地は、榛名火山の南東麓から南東方向に広がる台地面で、下位から前橋泥流堆積物(前橋岩なだれ堆積物群)・前橋泥炭層で構成されている。更新世後期に利根川によってもたらされた前橋砂礫層を基盤として、約2～2.4万年前には浅間山山体崩落に起因する前橋泥流が堆積して、前橋台地は形成された。渋川市以南の利根川両岸に堆積した前橋泥流堆積層は、高崎市旧群馬町域から平野部へと広がり、東は前橋市の北東部から伊勢崎市西部にかけて10m以上の厚さで堆積して、烏川と広



第6図 上新田中道東遺跡と玉村町

(国土地理院発行、5万分の1地形図「高崎」平成10年12月1日発行)

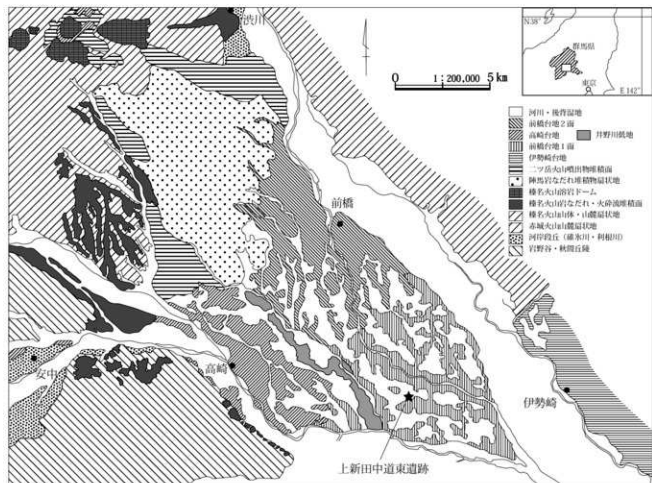
瀬川に挟まれた県央の平野部の基盤層を形成している。

前橋泥炭堆積層の上位には、シルト・粘土・砂・泥炭層などによって構成されている前橋泥炭層が堆積している。このシルト・泥炭層は水中や湿潤な環境で形成されることから、この時期の前橋台地は湿地状態であったと推定されている。科学分析によると、水性ローム層に含まれる泥炭質粘土層は約1.3万年前という測定値が得られている。前橋泥炭層の中部には浅間山起源の複数の降下軽石層が挟在している。上新田中道東遺跡でも、全域で約1.3～1.4万年前に降下した浅間山軽石(As-YP)の堆積を確認した。浅間山軽石(As-YP)下半の未分解泥炭層からは針葉樹の植物化石が、上位の泥炭層には陽樹の花粉が多く含まれている。このことからテフラの降灰が、植生環境に大きく影響したことが推定されている。⁽⁸⁵⁾

近年では、井野川以西の標高70～100m付近の台地の下位には前橋砂礫層が無く、上層には高崎泥炭堆積物が

堆積していることから、「高崎台地」と分けて呼ぶことが提起された⁽⁸⁶⁾。本報告でも、井野川左岸以東の地域に限って前橋台地とよぶことにする。また、上新田中道東遺跡が立地する井野川以東の前橋台地は、標高85m付近を境に、北側から総社砂層が及んだ前橋台地2面と、南側の総社砂層の堆積がない前橋台地1面に分けられている⁽⁸⁷⁾。これによれば、上新田中道東遺跡は前橋台地1面ほぼ中央の低平な地点に立地している。この1面・2面の地形面区分が遺跡分布とどう関連するかは今後の検討課題である。

前橋台地の基盤層である前橋泥流をもたらし利根川は、現在榛名山南東裾野の末端を侵食する形で南流し、前橋市大手町付近から玉村町五料付近まではこの台地上を貫通している。しかし、上新田中道東遺跡で遺構が残された古墳時代から中世には、利根川は前橋台地上を流れていなかった。利根川の変遷をたどると、約2.4万



・本図は財団法人群馬県埋蔵文化財調査第279集『徳丸神田遺跡(1)』の第4図を改変した。

第7図 前橋台地の地形面区分図



国土院発行、5万分の1地形図「高崎」平成10年12月1日発行「前橋」平成10年3月1日発行「榛名」平成10年3月1日発行「海尻」平成5年4月1日発行
 第8図 前橋台地と上新田中道東通

年前には総社町辺りから新前橋～染谷川、滝川付近を流れ井野川に注いでいたとされるが、その後約1.7万年前には榛名山で発生した泥流により埋め立てられ、赤城山南西麓の広瀬川低地帯にその流路を変更した。利根川が現在の河道に移ったのは天文年間であろうと考えられている。⁽⁹⁸⁾したがって、古墳時代から中世には、台地を貫流する利根川は前橋台地上にはなかったのである。

現在の利根川の両岸には自然堤防が形成されている。その表層は天明三(1783)年の浅間山噴火に伴う鎌原泥流であり、玉村町の上福島・樋越・遺休・齊田・福島・南玉・下之宮・箱石・飯倉・川井・小泉・五料地区の利根川沿いの地域は古墳や高などが泥流に厚く覆われていることがわかっている。⁽⁹⁹⁾厚く幅の広い現自然堤防の下には、古墳などがつくられた低くて小規模な微高地や後背低地が埋没していると推定される。現利根川流路以外の地点では、このような微高地は現状でもみることができ、縄文時代以降の遺跡が分布している。

微高地の周りには、樹枝状の後背低地が形成されている。後背低地の形成には時間差があるが、前橋台地上の微高地を侵食した谷を埋めるそれぞれの時期の湿地性堆積物や規模の小さな埋没谷を形成する河川堆積物によって構成されている。台地上には藤川や端気川などの小河川が流下し、浸食や谷埋積を繰り返してきたのだろう。前橋台地西半部の小河川は現状では不明であるが、榛名山麓から流れる、利根川の前身河川としての小河川の存在も提起されている。⁽¹⁰⁰⁾また、後述するように用水路として整備された滝川は自然河川を利用して掘られた部分もあるとされ⁽¹⁰¹⁾、周辺にも自然小河川流路が推定される低地がある。したがって、古墳時代から中世の前橋台地には、台地2面を水源とする端気川・藤川・葦川や、榛名山麓水源の小河川が北西から南東方向に流下していたと推定され、その間に微高地と後背低地が複雑に入り組む地形環境が形成されていただろう。

中世後期の変流後の利根川は、自然堤防を発達させながら深く台地を刻んだ。周辺の小河川も洪水などの氾濫を度々起こした結果、自然堤防や微高地と後背低地などが入り組んだ地形が発達し、その一部は低地下に埋没していったのであろう。その後の用水系の整備や新田開発、さらには自然災害による地形改変を経て、現在の玉村地域の地形が形成されているのである。

なお、上新田中道東遺跡の西側を流れる滝川は、「天狗岩堰用水」という近世初頭から開削・整備された用水路の一部である。慶長六(1601)年に総社藩主になった秋元越中守長朝が、翌七年総社城築城の計画をたて、城の堀水・城下町用水・新田開発を目的として、「天狗岩用水」の開削を開始し、慶長九(1604)年に完成した。群馬郡漆原村(現北群馬郡吉岡町)付近で取水した後、利根川にそって南下し、染谷川の東城をへて総社の地を潤した。滝川は、この天狗岩用水の延長として、慶長十(1605)年に関東郡代伊奈備前守忠次によって開削が開始された用水路である。17の堰が設けられ、玉村地域の新田開発に寄与した。明治18年測量の迅速測図ではすでに高崎市西横手町から直線的な流路に整備され、下齊田地内で玉村町の街路のやや南側に沿って東西方向の流路に河川改修されている。上新田中道東遺跡では、与六堰から取水された蛭堀という支線用水路がⅢ区とⅣ区の間で検出されている。

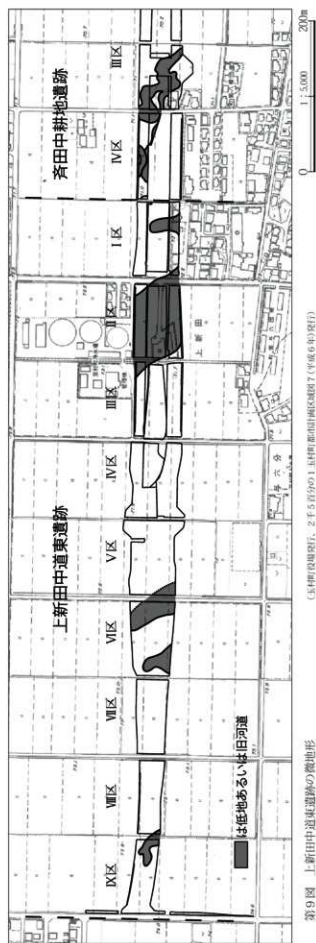
(2) 上新田中道東遺跡の立地

上新田中道東遺跡は、前述したような小河川が幾筋も並ぶ、前橋台地1面の南西部にあり、微高地と後背低地に立地している。

発掘調査でも、上新田中道東遺跡Ⅰ区中央区南東隅とⅣ区東端で小規模な谷頭を確認した。特にⅠ区の谷頭は、東側に隣接する齊田中耕地遺跡Ⅲ区・Ⅳ区で検出されている旧河道に連続する可能性もある。齊田中耕地遺跡8面の旧河道は北西から南東に流下しており、前橋台地上を流れる埋没小河川の一つと考えられる。

上新田中道東遺跡の発掘区は、現状では水田として土地利用されていた平坦な低地であった。しかし、発掘をしてみると、約900mにわたる発掘区の間、Ⅳ区西半、Ⅷ区西半、Ⅵ区中央、Ⅴ区東端、Ⅳ区南東部、Ⅲ区、Ⅰ区で微高地が埋没しており、古墳時代から古代にかけての遺構が点在していた。この時期の後背低地の土地利用は明らかにできなかったが、後背低地での水田耕作や微高地縁辺での高作が想定される。

9世紀後半には、Ⅲ区東半からⅡ区・Ⅰ区・齊田中耕地遺跡Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ区にかけて、洪水堆積物が堆積していた。これは先述した榛名山水源の小河川の洪水によって堆積したものとみられ、発掘調査で水田痕跡や洪水層直下水



（左半は複製図、右半は2千5百分の1スケール縮小複製図（平成6年発行））

第9図 上新田中道東遺跡の微地形

田が検出された。上新田中道東遺跡東部から齊田中耕地遺跡西部にかけての地域に、9世紀後半に水田化されたと後背低地があったことが推定される。この後背低地は北西から南東方向に帯状に展開していたのであろう。

浅間Bテフラが降下した1108年には、発掘区はほぼ全域でテフラが堆積した。浅間Bテフラ関連の土層が堆積していなかったのはⅧ区西半とⅥ区中央の微高地のみで、あった。Ⅸ～Ⅶ区、Ⅲ～Ⅰ区では浅間Bテフラ直下水田が、Ⅵ～Ⅳ区では浅間Bテフラの一次堆積層は残っていなかったが、浅間B混土下で疑似畦畔が検出された。疑似畦畔の地割は浅間Bテフラの地割とほぼ一致していることから、時間をあまり経ない間に復旧されたものと推定され、浅間Bテフラ降下時には遺跡内のほぼ全域が水田域となっていたことがわかる。

中世後半期にはⅡ区の一部で浅間Bテフラ直下の区画とは異なった水田痕跡が検出された。また、近世の滝川用水系の整備に伴った区画溝が発掘区全域で検出され、中世以降、昭和時代の圃場整備事業を経て、現代まで続く水田地帯としての土地利用が行われてきたのである。

2. 周辺の遺跡分布

玉村町では、発掘調査が実施され、多くの遺跡が報告されている。また分布調査等の成果も含めて平成4年には「玉村町の遺跡」が刊行され、町内の遺跡分布が明らかにされている。ここでは、上新田中道東遺跡の遺跡を理解するうえで必要な周辺の遺跡分布を、発掘調査された遺跡を中心に述べておきたい。なお、掲載した遺跡分布図および遺跡概要は、平成20年に刊行された財団法人埋蔵文化財調査事業団調査報告書第446集『福島飯玉遺跡』第5図、第2表を基にしている。

玉村町では旧石器時代の遺跡は未発見である。上新田中道東遺跡でも下層で浅間板鼻黄色軽石等の指標テフラを検出しているが、上下のローム層は極めて粘質の強い土壌で、居住に適した環境でなかったことを推定させる。

縄文時代の遺跡は玉村町では非常に少なく、縄文時代も居住に不適な環境であったと推定される。福島曲戸遺跡(9)、福島大光坊遺跡(7)、上之手石塚Ⅲ遺跡(40)で中期の、角測城遺跡(47)で前期の縄文時代土坑が検出されているが、竪穴住居の検出は知られていない。他に福

鳥飯塚遺跡(5)、上新田新田西遺跡、上新田重土築師遺跡などで少量の土器が出土している。上新田中道東遺跡でも縄文時代中期・後期の土器片と、草創期の有茎尖頭器3点や、28点に及ぶ石器が出土した。周辺は居住域としては困難であったと推定されるが、狩猟の場としての土地利用がなされていたものと推定される。

弥生時代の遺跡も縄文時代同様少ないが、近年遺構が検出され始めている。上飯島芝根Ⅱ遺跡(24)では、中期後半御新田式期の住居が1軒、一万田遺跡(65)では中期後半の再葬墓1基、上之手Ⅲ遺跡で土坑1基が検出された。また、福島飯塚遺跡では南御Ⅰ式、御新田式等を含む中期後半から後期の土器、上新田中道東遺跡では後期樽式や、北総系と推定される後期外来系の弥生土器も出土した。これらの遺構・遺物の検出は、玉村町にも前橋台地未端低地に埋没した微高地および周辺の水田可耕地で、弥生時代集落が展開していたことを予測させる。埼玉県北部の低地内では、北島遺跡や上敷久遺跡等で大規模な弥生時代集落が検出されている。玉村地域の弥生時代遺跡分布を考える上でも重要な調査所見であろう。

古墳時代前期になると、玉村町地域の遺跡分布は一転し、多くの遺跡が知られるようになる。上新田中道東遺跡でもⅢ区・Ⅵ区で竪穴住居・柱立建物・土坑・方形周溝墓が検出された。周辺でも福島曲戸遺跡、福島大光坊遺跡、福島久保田遺跡(8)などで古墳時代前期の集落が調査されている。玉村町南部の鳥川左岸でも上之手八王子遺跡(34)や下郷遺跡(37)、角淵城遺跡などが知られている。東部では、砂町遺跡で4世紀初頭と後半の2時期に掘削された溝が検出されている。各地域とも圃場整備が進み旧地形を復元することが難しいが、低地下層に埋没した微高地上に集落が立地すると推定される。

古墳時代前期の墓域は、上新田中道東遺跡、福島飯塚遺跡、赤城遺跡(38)などの遺跡から方形周溝墓が検出された。下郷遺跡では28基の方形周溝墓をはじめ円形周溝墓、土坑が前方後円墳とともに検出された。前期の主要古墳としては、前方後円墳の川井稲荷山古墳(芝根7号墳)・下郷天神塚古墳、円墳の軍配山古墳(53)が知られている。中期の古墳としては、前方後円墳とされる梨ノ木山古墳(49)が5世紀後半の築造である。他に横堀遺跡で5世紀後半の円墳が検出されている。後期には東南部に古墳がつくられるようになる。この時期の前方後円墳

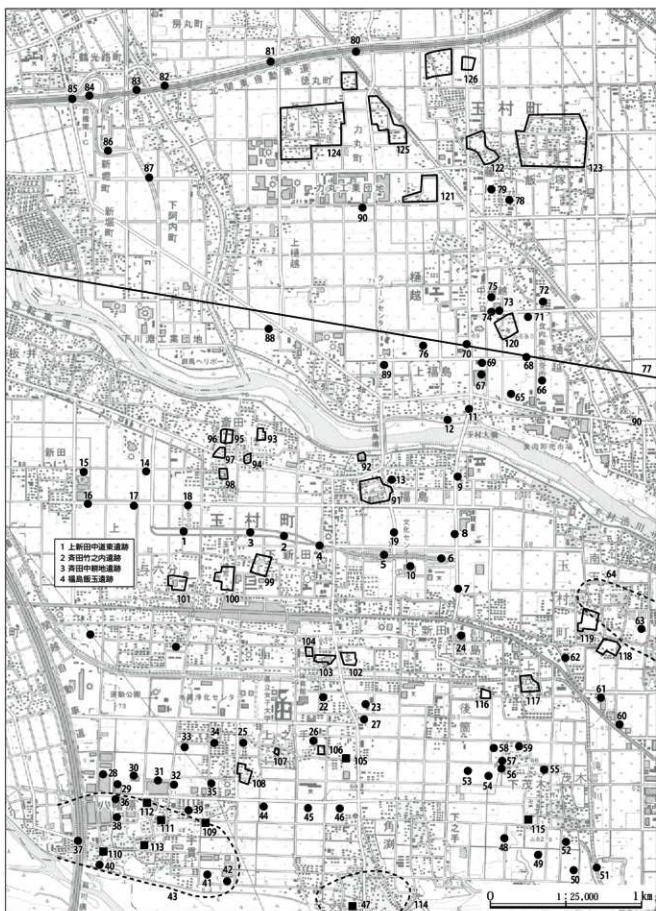
としては、小泉塚越3号古墳やオトカ塚古墳(52)が知られる。また、鳥川左岸の若宮・八幡原古墳群(43)や角淵古墳群、川井古墳群では、6世紀から7世紀にかけてと広範囲にわたる群集墳が形成されている。一方、玉村町北西部にあたる本遺跡周辺には、ほとんど古墳の分布が見られず、天神古墳(13)が円墳の可能性を指摘されているにとどまる。また、7世紀代の有力古墳についても不明である。

以上のような古墳分布から見れば、玉村地域でも、前期の集落は中期・後期へと継続して展開していったことが考えられるが、現在の調査成果からはそれを読みとることは困難な状況にある。これまで発掘調査で古墳時代中後期の住居が検出された遺跡は、福島飯塚遺跡、松原田Ⅲ遺跡、角淵城遺跡等にとどまっている。⁽¹¹⁾⁽¹²⁾

しかし、上新田中道東遺跡では遺構に伴わない遺物の中に5世紀・6世紀の土師器破片が含まれており、周辺に古墳時代中・後期の集落の存在を想定させる調査所見を得ている。また、福島飯玉遺跡(4)や齊田中耕地遺跡(3)、福島飯塚遺跡、福島大島遺跡(6)、福島大光坊遺跡、福島久保田遺跡、福島曲戸遺跡では、Hr-PPあるいはHr-FA泥流下から、古墳時代後期のいわゆる小区画水田が検出されている。現状では調査例は少ないが、玉村地域の古墳時代中・後期の集落の存在は確実であろう。

奈良・平安時代の遺跡は、数多く分布している。玉村町周辺は律令期の那波郡域にあたり、『倭名類聚抄』に記載された佐味郷と、鞆田郷・朝倉郷の一部に比定できるとされる。また地域には延喜式内社の火雷神社と倭文神社の2社がある。奈良時代の集落は、福島稲荷木遺跡(10)や上之手八王子遺跡をはじめ、微高地上に立地する。平安時代の集落は齊田竹之内遺跡(2)、福島飯塚遺跡、上之手八王子遺跡、行人塚遺跡(35)など、玉村町のほぼ全域で検出されている。

一万田遺跡では、直径1mの柱穴からなる柵列が検出され、瓦も出土した。この遺構から、9世紀前半から中頃を中心とする時期に郡衙や寺院などの官衙施設が存在していたことが想定されている。福島曲戸遺跡からは「村長」と篆刻された鈴鐺車や多数の緑釉陶器が出土している。上飯島芝根Ⅱ遺跡からは銅印の出土が知られている。砂町遺跡と上福島尾柄町遺跡(70)からは推定東山道(牛堀・矢ノ原ルート)(77)と考えられる幅員4mの道路状



国土院発行、2万5千分の1地形図「高崎」平成22年12月1日発行「前橋」平成22年12月1日発行「大田」平成22年12月1日発行「伊勢崎」平成15年2月1日発行
第10図 上野田中道東遺跡周辺の遺跡分布

第3表 周辺遺跡の概要

No.	田 石 器	彌 文 生	古 墳						奈良		平安		中世		近世		その他の遺構・遺跡の概要	参 考 文 献				
			前	中	後	住	生	住	住	住	住	住	住	住	住	住			住	住		
1	上野田中道東遺跡	●	●	□						○	○	○	○	○	○	○	○	×	草創期有古瓦頭器、As-B上からの耕作痕。	85		
2	齊田竹之内遺跡									○	○	○	○	○	○	○	○	×	福島坂玉遺跡に西接。	83		
3	齊田中耕地遺跡																	×	奈良・平安洪水下水田。	80		
4	福島坂玉遺跡	●																○	○	○	80	
5	福島坂塚遺跡	●	●	□	○					○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	81
6	福島大光坊遺跡	●	○		△				FP	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	81
7	福島久保田遺跡	●	○						FP	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	74
8	福島曲戸遺跡	●	○						○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	74
9	福島稲荷木遺跡									○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	68
10	福島稲荷木遺跡									○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	62
11	上福島遺跡													○	○	○	○	×	○	×	○	67
12	上福島中町遺跡	●								○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	75
13	天神古墳																	×	○	×	○	12
14	一本木遺跡																	×	○	×	○	53
15	中道西遺跡																		×	○	×	23
16	中道西Ⅱ遺跡																					23
17	中道東遺跡																					23
18	磐城東遺跡																					60
19	福島稲荷木Ⅳ遺跡			□					FA	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	62
20	上野田地区遺跡群																					30
21	南東耕地遺跡																					27
22	中袋遺跡																					38
23	曲田遺跡									○	○	○	○	○	○	○	○					28
24	上飯島芝根Ⅱ遺跡		○							○	○	○	○	○	○	○	○					46
25	中郷遺跡																					58
26	上之手立野遺跡									○	○	○	○	○	○	○	○					55
27	曲田遺跡Ⅱ										○	○	○	○	○	○	○					29
28	八幡原赤塚遺跡																					45
29	八幡原赤塚Ⅲ遺跡																					48
30	赤城Ⅱ遺跡																					21
31	宇賀遺跡			○						○	○	○	○	○	○	○	○					31
32	上之手地区遺跡Ⅱ(2)									○	○	○	○	○	○	○	○					30
33	上之手地区遺跡Ⅰ(1)									○	○	○	○	○	○	○	○					30
34	上之手八王子遺跡			○						○	○	○	○	○	○	○	○					11
35	行人塚遺跡									○	○	○	○	○	○	○	○					58
36	八幡原赤塚Ⅱ遺跡									○	○	○	○	○	○	○	○					48
37	下郷遺跡			○	□					○	○	○	○	○	○	○	○					91
38	赤城遺跡			□																		56
39	行人塚Ⅲ遺跡																					34
40	上之手塚Ⅲ・Ⅳ遺跡	●	●	○						○	○	○	○	○	○	○	○					18
41	蟹沢Ⅱ～Ⅳ遺跡	●																				19
42	蟹沢遺跡																					16
43	若宮・八幡原古墳群			○		○																17
44	宮ノ下遺跡																					42
45	若王子Ⅱ遺跡																					45

No.	田 石 器	縄 文 生	弥 生	古 墳						奈 良	平 安	中世			近世			その他の遺構・遺跡の概要	参 考 文 献			
				前	中	後	住	生	住			生	住	生	住	生	住			生	住	生
46																		土師器焼成坑。	33			
47		●																縄文時代の前期土坑・円墳・中世の上墳・近世の井戸。	43			
48																		前方後円墳。(前期・後期に再利用)	12			
49																		前方後円墳。(後期)	12			
50																		前方後円墳か。	12			
51																		前方後円墳か。	12			
52																		前方後円墳。(後期)	51			
53																		円墳。径約40m、高さ約6m。	12			
54																		円墳か。横穴式石室。	12			
55																			30			
56																			58			
57																			29			
58																		6世紀後半、方墳か。	12			
59																			32			
60																			24			
61																			35			
62																			58			
63																		古墳。	12			
64																		箱石浅間山古墳を含む古墳群。	12			
65		●	●															弥生後期再葬墓、平安前期、江戸期。	50			
66			●															弥生土坑。	13			
67																			14			
68																		奈良平安時代道路状遺構。	59			
69																		奈良道路。時期不明の土坑・溝。	15			
70																		推定東山道駅路。(牛廻・矢野原ルート)	67			
71																		古墳時代前期の溝。	22			
72																		古墳前期溝。	26			
73																			47			
74																		古墳時代中期の石製模造品の製作跡。	47			
75																			58			
76		●																縄文草創期石舌大副器、古墳時代用水路。	59			
77																		奈良時代道路遺構。	59			
78																			41			
79																			20			
80		●						FA											64			
81		●	●					FA										縄文草創期土器・石器、古墳時代前期	66			
82																		大水路、新井屋敷。	71			
83																		4～6世紀中頃水田。	77			
84		●																As-C混上下水田。	72			
85		●																As-C混上下水田。	69			
86								FA										As-C混上下水田。	69			
87		●																As-C混上下水田。	65			
88																			65			
89																			12			
90																			10			
91																			63			

住は住居、墓は墓域、生は生産域を表す。田石器、縄文の●は住居以外の遺構・遺物の出土を表す。古墳の項、墓の□は方形周溝墓、○は古墳を、生の△はAs-C下の高を、FAはFr-FA下の水田、FPはFr-FP下の水田を表す。中世・近世の屋敷の項は、屋敷を構成する堀・土居・雁立建物・井戸の検出を、その他の項は、土坑・溝・墓の検出を表す。

遺構が検出されている。

このような集落遺跡の動向の背景には、農耕地の開発があると考えられる。発掘調査からも、急速に進んだ水田開発を想定できる結果が得られている。やや時代は下がるが、1108(天仁元)年の浅間山噴火に伴う軽石で埋没した水田遺構が、玉村町のほぼ全域で調査されており、12世紀初頭までに町域の沖積地のほとんどは開田されていたと考えられるような状況である。12世紀中頃には伊勢神宮所領の玉村御厨が構えられていたという記録があり、これより以前には玉村保が成立していたと考えられている。

さらに、上新田中道東遺跡および齊田中耕地遺跡では、9世紀後半～末と推定される洪水砂で埋まった水田面および水田痕跡が検出され、さらに細かな時代区分で古代水田開発の過程を考えられる資料が明らかになりつつある。古代条里と浅間B軽石直下水田との関連を考える上で重要であろう。

鎌倉時代の玉村町域は上野国奉行人安達氏、およびその被官である玉村氏の支配下にあったとされる。玉村氏は、玉村御厨成立の際の在地開発領主であったと考えられている。霜月の乱の安達氏没落後は、北条得宗家の支配下にあったと考えられる。室町時代には、上杉氏守護のもと那波氏の領域になったとされる。戦国時代には、玉村町域だけでなく上野国一帯が、上杉・武田・後北条の三氏の争奪戦の渦中に置かれた。

玉村町域から前橋市南部においては、山崎一氏の長年の研究や、群馬県教育委員会が実施した城郭分布調査により明らかになったように、城郭や周囲に堀をめぐらせる屋敷が多数存在することが知られている。『群馬県の中世城館跡』によれば中世の城郭・屋敷として玉村町域内で34か所を掲載している。その中で観照寺屋敷(102)、玉村城(南玉原屋敷)(119)、南玉館(原武屋敷)(118)を13世紀、阿左美館(120)を13～16世紀、角湾城(114)は15・16世紀、田口下屋敷(93)、茂木館(本木館)は16世紀としている。

これらの周知の館跡に加えて、近年の発掘調査では現水田下に埋もれた未知の館跡が多数検出されている。上新田中道東遺跡周辺では、同じ国道354号関連の発掘調査で、東側に隣接する齊田中耕地遺跡(13世紀後半～14世紀)、齊田竹之内遺跡(15～16世紀)、さらに東側の福

島飯玉遺跡(14世紀後半～15世紀後半)、福島飯塚遺跡、福島大島遺跡(15世紀頃)で中世の屋敷跡に関わる遺構・遺物を検出している。また、玉村町教育委員会の調査でも、久保田遺跡、宇貫遺跡(31)、八幡原赤塚II遺跡(36)、上之手石塚遺跡、蟹沢遺跡(42)、内田屋敷(104)、原屋敷(108)、田口下屋敷などが明らかにされている。中世までは現在のような広大な水田地帯ではなく、古代以来の帯状微高地が列状に残る農耕集落景観であったと推定される。

浅間B軽石降下以降の埋没田高遺構の検出は難しいことから、中世の生産遺構については不明な点が多い。玉村町域には浅間B軽石の上層には浅間B軽石を多量に含む黒褐色土層が堆積しており、その土層中で中世遺構が検出される。このいわゆる浅間B混土層で埋没した畝間遺構が齊田中耕地遺跡、齊田竹之内遺跡、福島飯玉遺跡、福島飯塚遺跡、福島大島遺跡で検出されている。また、福島久保田遺跡では小範囲ではあるが、1427(応永34)年におこったと推定されている大洪水によって埋没した水田が検出されている。上新田中道東遺跡でも同層位で水田アゼ痕跡や耕作痕跡がみつかっており、中世の耕作を物語る遺構と考えたい。

近世の玉村町域は天領、藩領が複雑に入り組んでいたといわれている。『玉村町誌通史編上巻』によれば、1601(慶長6)年、諏訪頼忠転封後は徳川幕府代官伊奈忠次の管掌となった。伊奈氏は1610(慶長15)年に滝川用水を完成させ、周辺の新田開発を推進した。上新田中道東遺跡のある大字上新田は、八幡宮遷座を伴って開発された新田の村である。1668(寛文8)年には、前橋藩酒井氏の知行となった。

中世に続き、近世の屋敷も多数残されている。伊奈忠次の陣屋が置かれたとされる玉村館や、与六屋敷、内田屋敷などがこれにあたる。発掘調査では、上福島中町遺跡(12)で1783(天明3)年の浅間山噴火の際に発生した泥流で埋没した建物跡や、陶磁器をはじめとする多種・多様な生活道具が出土した。樋越諏訪前遺跡では、家屋・植え込み・土手高が検出された。利根添遺跡では、矢川の堤防と下之宮と南玉の村境にあった土手が泥流に埋没して見つかった。この泥流被災は玉村町域全体におよび、被災した田畑を天地返しによって復旧する溝が多くの遺跡で見つまっている。

第3章 中近世の遺構と遺物

1. 概要

本章で報告するのは、表土直下あるいは浅間Bテフラより上位で確認した遺構である。I区からIX区まで全体に遺構が確認された(PL. 1・2)。検出された遺構の種類と数は、第4表の通りである。III区とVI区は微高地になっており、検出された遺構には掘立柱建物や土坑が含まれている。特徴的なのは浅間A軽石被災の復旧溝と、昭和の土地改良工事の時まで使われていた水路網であろう。復旧溝はI区からIV区、VI区、IX区で検出された。各区とも復旧溝が検出されたのは発掘区内のごく一部であり、全体に広がるというよりはやや深く掘り込まれたところの掘り込みが残っていたという状況である。水路や堀との関係から、それまでの地割に沿った単位で復旧溝が掘られていると推定された。

溝は大小合わせて122条が検出された。これらは東西南北の方格子地割を意識して、北西から南東に向けた配水網のなかで、東西流する幹線水路と斜交する水路、南へ屈曲する水路等が組み合わされていたと推定される。一部には南から北へ流されたとみられる支線水路もあった。

III区とIV区の間をやや斜行して蛭堀(通称びりぼり)が検出された。この堀は、慶長10(1605)年に開始された滝川用水整備の一環として掘られた堀で、遺跡の西125mのところにある与六堰から取水されている。この堰がいつ掘られたかは文献資料が残っていないので詳細は不明であるが、滝川用水の整備の一環として近世前期に掘られたとすることはできよう。発掘では浅間A軽石被災の復旧溝が蛭堀の両岸で終わっていることと矛盾はない。

遺跡のある玉村町から前橋市南部にかけては、中世の開発を担った首長層の屋敷が多く検出されている地域で

ある。上新田中道東遺跡では具体的な屋敷は検出されなかったが、ここでみつかった堀や溝は中近世の農業経営の結果残された重要な資料といえよう。

出土遺物では、II区確認面而出土した文政南鐘一朱銀銭貨や、IV区2号復旧溝の埋没土中から出土したビンファイヤーの葉莖、IV区1号溝埋没土から出土した陶製ホイッスルなどが注目される。

2. I区の遺構と遺物

(1) 土坑(第11図PL. 2・3)

I区では、2基の土坑が検出された。

また、中央区では、浅間Bテフラを除去した面で4基の土坑を検出したが、これらは浅間B軽石を混じる土で埋没しており、本来は浅間Bテフラ降下より新しい土坑である。それぞれの土坑の位置や規模は、一覧表(P.431)にまとめた。以下各遺構の調査所見を記載する。

a. 北区の土坑

1号土坑は円形の土坑で、重複はない。浅間B軽石を塊状に含む灰黄色シルトで埋まっていた。埋没土中から土師器破片が出土したが、混入である。

2号土坑は円形の土坑で、埋没土は不明である。浅間Bテフラより新しい。遺物は出土しなかった。

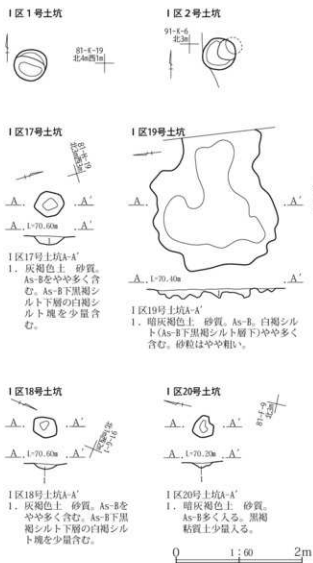
b. 中央区の土坑

17号・18号土坑は小さな円形の土坑であるが、柱痕跡ではない。白色シルト塊・浅間B軽石を含む灰褐色質土で埋まっていた。浅間Bテフラより新しい。遺物は出土しなかった。

第4表 上新田中道東遺跡 検出遺構数一覧

(1) 中近世の遺構

	I区	II区	III区	IV区	V区	VI区	VII区	VIII区	IX区
掘立柱建物			1			2			
井戸							1	1	
土坑	6	8	24	14	5	25	2	11	23
ビット		14	9	2	2	1			
堀	1		1	1					
溝	19	19	27	18	10	11	7	4	6
耕作痕				1	1	1			
復旧溝	5	1	5	4		2			3



第11図 I区土坑

19号土坑は円形の土坑で、浅い。重複はない。底面には凹凸が著しく、何らかの掘削痕跡と推定される。白褐色シルト塊・浅間B軽石・粗砂を含む暗灰褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

20号土坑は小型円形の土坑で、浅間Bテフラ下面水田のアゼを断ち割り調査中に検出された。浅間B軽石・黒褐色粘質土塊を含む暗灰褐色土で埋まっていた。浅間Bテフラより新しい。遺物は出土しなかった。

(2) 堀

I区1号堀(第12・74図 PL.3・207 遺物観察表P.448)

1号堀はI区西端で検出された南北方向の堀である。ほぼ55m分を調査した。北区では東西両岸が調査できたが、南区では東岸のみ、中央区では側道の工事が進み、

広口排水管の敷設が済んでいたことから、西端の調査を控えたため、東の上端ラインの確認にとどまった。

ほぼ直線的に掘られており、方向はN-5~9°-E。遺構検出面での上幅は全幅を調査した北区の計測で5.66~6.30m、下幅は2.0~3.10m、深さは1.09m、断面形は台形である。底面は平坦で、北端の標高が0.04m高い。

埋没土中から、陶磁器(第12図1・2)、中国白磁の皿か坏(3)、焼締陶器(7・8)、磁器碗(4~6)が出土した。また、埋没土中から土師器壺破片2点、埴破片1点、高坏破片3点、坏破片23点、甕破片49点、S字甕破片9点、小型甕破片1点、須恵器瓶破片1点、近世から近現代の陶磁器破片53点、土器類破片10点、瓦破片4点が出土した。土師器・須恵器は混入である。

出土遺物は中世から近現代までに亘っており、昭和の土地改良まで使用された用水路である。浅間Bテフラより新しく、小破片ではあるが中世遺物を埋没土中を含む。開削年代の詳細は不明であるが、中世後半期までさかのぼる可能性もある。浅間A軽石層との直接の関係は不明である。

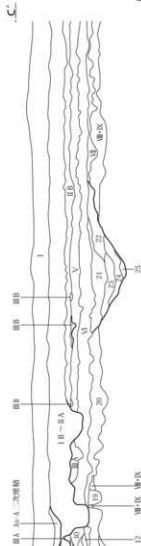
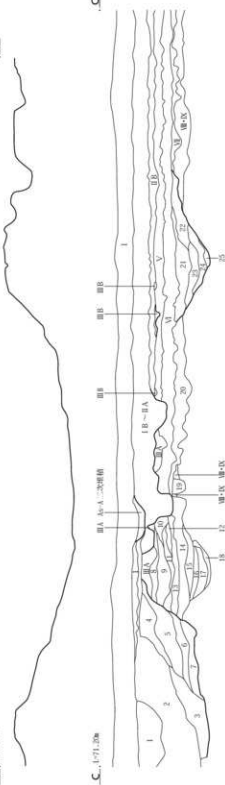
北区では、西脇に29号溝が並行して掘られていたことが確認できた。1号・2号・4号溝と交わるが、新旧関係は不明である。

(3) 溝

I区では、19条の溝が検出された。各調査区で異なる年度に調査されたために、同一の溝であっても別の遺構番号が付されたものがある。これについては、報告時に番号の統合と付け替えを行った。その作業の結果については、溝の位置や規模とともに一覧表(P.441・442)にまとめた。以下各溝の調査所見を記載する。なお、溝の平面図は個別図を作成せず、1/300の各区全体図でこれに変えた。埋没土層断面図は個々に掲載した。

I区1号溝(第12・13・74図 PL.3)

1号溝はI区北区西部で、1号堀の東側に並行して検出された南北方向の溝である。南端が1号堀の方に屈曲するが、新旧関係は不明である。同時に機能した可能性もある。走向はN-8°-E、上幅0.44~0.72m、深さ0.09m、調査長は10.05mである。底面は平坦で、北端が0.09m高かった。溝内は灰褐色シルトで埋まっていた。遺物



0 1:60 2m

I区北側C-C'

1. 表土

IB~II A. 灰褐色土~黄灰色シルト 表土

II B. 黄灰色土~灰色シルト 表土

III A. 黄褐色粘質土 As-砂を含む。

III B. 黄褐色粘質土 As-砂を多く含む。

III C. 黄褐色シルト質土

VI. 黒褐色粘質土

VI・IX. 灰色~灰黄色粘質土 黄色顔化軽石を多く含む。

1. As-B級土

2. 灰褐色シルト (1号埋没段)

3. 灰褐色シルト 砂が下層に多い。(1号埋没段)

4. 褐色土 As-B級土を含む。(1号埋没段)

5. 灰褐色シルト 砂粒を多量に含む。(1号埋没段)

6. 灰褐色 (1号埋没段)

7. 灰褐色 粘質土 砂が互層。(13号埋没段)

8. 暗褐色粘質土 砂が互層。(17号埋没段)

9. 暗褐色粘質土 C層黒褐色粘質土と灰色シルトの混土。(大アセ)

10. 灰褐色シルト (大アセ)

11. 暗褐色シルト X層小塊を含む。(大アセ)

12. 暗褐色シルト (大アセ)

13. 褐色砂 鉄分多く含む。(40号埋没段)

14. 褐色砂 黒質・黒質小塊を少量含む。鉄分多く含む。(40号埋没段)

15. 黒色粘質土 As-C下黒色粘質土と灰・X層の混土。(40号埋没段)

16. 暗褐色粘質土 砂と15層相当土の混土。(40号埋没段)

17. 黒色粘質土 15層に近型。(40号埋没段)

18. 黒色粘質土 X層鉄を多量に含む。(40号埋没段)

19. 黒色粘質土 As-C下黒色粘質土と層・IX層の混土。

20. 黒色粘質土 14層に近型。鉄分が砂中に多い。(36~38号埋没段)

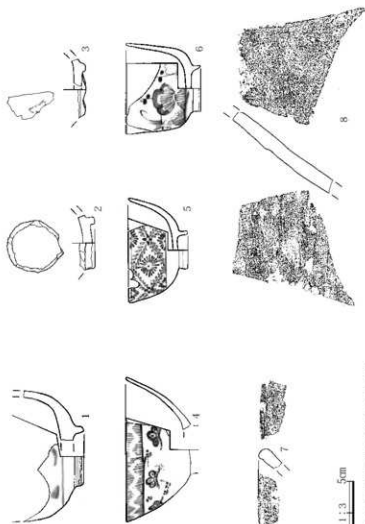
21. 褐色砂 黒質・黒質小塊を少量含む。鉄分多く含む。(36~38号埋没段)

22. 黒色粘質土 As-C下黒色粘質土と灰・X層の混土。(36~38号埋没段)

23. 黒色粘質土 15層に近型。(36~38号埋没段)

24. 黒色粘質土 X層鉄を多量に含む。(36~38号埋没段)

25. 黒色粘質土 X層鉄を多量に含む。(36~38号埋没段)



0 1:3 5cm

第12図 I区1号堀北壁土層断面と出土遺物

は出土しなかった。1区1号溝の掘削時期は、浅間Bテフラ降下以降である。

1区2号溝(第13・74図 PL.3)

2号溝は1区北区西部で、1号溝の東側に並行して検出された南北方向の溝である。2号溝も南端が1号堀の方に屈曲するが、1号堀との新旧関係は不明である。同時に機能した可能性もある。走向は $N-6^{\circ}-E$ 、上幅0.58~0.80m、深さ0.27m、調査長は11.48mである。底面は平坦で、南端が0.05m高かった。

溝内は灰褐色シルトで埋まっていた。遺物は出土しなかった。1区2号溝の掘削時期は、浅間Bテフラ降下以降である。

1区3号溝(第13・74図 PL.3)

3号溝は1区北区西部で、2号溝の東側に並行して検出された南北方向の溝である。南端が5号溝や7号溝と重複するが、新旧関係は不明である。走向は $N-7^{\circ}-E$ 、上幅0.50~0.76m、深さ0.17m、調査長は11.30mである。底面は平坦で、北端が0.05m高かった。

溝内は灰褐色シルトで埋まっていた。遺物は出土しなかった。1区3号溝の掘削時期は、浅間Bテフラ降下以降である。

1区4号溝(第13・74図 PL.3・4)

4号溝は1区北区西部で、1号堀の東側で検出された。北端部が1号堀の方へ屈曲するが、堀との新旧関係は不明である。1号・2号溝とともに1号堀と同時に機能した可能性もある。

走向は $N-7^{\circ}-W$ 、上幅0.60~1.50m、深さ0.64m、調査長は3.68mである。底面は平坦で、南端が0.15m高かった。溝内は灰褐色シルトで埋まっていた。遺物は出土しなかった。1区4号溝の掘削時期は、浅間Bテフラ降下以降である。

1区5号~8号・16号・17号・20号溝
(第13・74図 PL.4)

5号~8号・16号・17号・20号溝は1区北区南西部で、3号溝の南東部から東へ延びる東西方向の溝群である。西端が2号・3号溝と重複するが新旧関係は不明である。

それぞれの走向や規模はP.441の表にまとめた。16号・20号溝がやや幅が太いが、他は比較的細い溝である。方向は概ね $N-81^{\circ}-83^{\circ}-W$ で接近して平行している。底面は平坦で、20号溝を除き西端が数cm高かった。

いずれの溝も灰褐色シルトで埋まっていた。20号溝埋没土中から土師器破片が出土しているが混入である。他の溝から遺物は出土しなかった。1区5号~8号・16号・17号・20号溝の掘削時期は、浅間Bテフラ降下以降である。同様の方向の小溝が並行してあることから、耕作等の掘削痕跡であると推定される。

1区9号溝(第13・74図 PL.4)

9号溝は1区東半部の北区から南区を貫くように検出された南北方向の溝である。重複は無い。

走向は $N-5^{\circ}-E$ 、上幅0.74~1.00m、深さ0.33m、調査長は全体で33.9mである。底面は平坦。

溝内は表土で埋まっており、現代の遺物が出土したことから、北区では図化を割愛した。

1区10号溝(第74図 PL.4)

10号溝は1区北区西部で、3号溝の東側で検出された。やや湾曲する。北端は発掘区域外となる。

走向は $N-5^{\circ}-E$ 、上幅0.23~0.65m、深さ0.03m、調査長は6.04mである。底面は平坦で、南端が0.01m高かった。

埋没土は不明である。1区10号溝の掘削時期は、浅間Bテフラ降下以降である。

1区11号溝(第13・74図 PL.3・4)

11号溝は1区北区西部から中央区にかけて、検出された緩やかに屈曲する溝である。北区では3号溝の南延長線上で2.90mほど調査されたが、中央区の調査でさらに24.8mが調査された。やや東側に湾曲する。北区での溝北端は7号溝と重複して以北は不明であるが、走向からすれば3号溝に連続する可能性もある。中央区中央付近から途切れがちとなり、底面の凹凸のみ確認された。南区までは続かない。

走向は北区で $N-11^{\circ}-E$ 、中央区では $N-12^{\circ}-E$ 、上幅0.50~0.34m、深さ0.07~0.1m、調査長は33.8mである。底面は平坦で、北端が0.04m高かった。

埋没土は細砂粒を混じる灰褐色砂質土である。遺物は出土しなかった。I区11号溝の掘削時期は、浅間Bテフラ降下以降である。

調査長は1.70mである。底面は平坦であった。

埋没土は灰褐色シルトである。遺物は出土しなかった。

I区12号溝の掘削時期は、浅間Bテフラ降下以降である。

I区12号溝(第74図 PL. 4)

12号溝はI区北区西部で、11号溝に重複して検出された、短い溝である。新旧関係は不明である。

走向はN-75°-W、上幅0.23~0.34m、深さ0.09m、

I区13号溝(第74図 PL. 4)

13号溝はI区北区西部で検出された。南端は5号~8号溝と重なるが、新旧関係は不明である。

走向はN-30°-W、上幅0.26~0.80m、深さ0.07m、

I区1号~3号溝

A, L=71.00m

I区5号~8号溝

A, L=71.00m

I区11号溝

A, L=70.70m

I区11号溝A'-A'

1. 灰褐色土 砂質土。(シルト質に近い)。細かい砂粒少量入る。

I区15号溝

A, L=70.60m

I区4号溝

A, L=71.20m

I区4号溝A'-A'

1. 表土
2. 灰褐色シルト 直径1~3mmの軽石を少量含む。
3. 黄褐色シルト 直径1mm程度の軽石を微量に含む。
4. 黒褐色砂質土
5. 灰褐色シルト

I区9号溝

A, L=70.80m

I区29号溝

A, L=70.50m

I区9号溝B-B'

1. 暗灰色土 砂質土。As-A少量含む。
2. 暗灰色土 砂質土。As-A少量含む。やわらかい。(9号溝埋没土)
3. 暗灰色土 砂質土。黄褐色シルト塊(II A層由来)やや多く含む。As-A軽石少量含む。(9号溝埋没土)
4. 暗灰色土 砂質土。日本田耕土の一部。
5. 黄褐色土 シルト質土。(II A層)
6. 灰褐色土 砂質土。As-B少量含む。(III A層)
7. 灰褐色土 砂質土。As-B多く含む。(III B層)
8. As-B一次堆積層。
9. 黒褐色土 粘質土。(IV A層)
10. 暗褐色土 粘質土。(IV B層)
11. 暗褐色土 シルト質土。3面水田。
12. 暗褐色土 砂質土。粗い砂粒多く含む。As-C少量含む。
13. 黒褐色土 粘質土。As-C少量含む。(VII A層)
14. 灰褐色土 粘質土。
15. As-YP層

I区47号溝

A, L=71.50m

I区47号溝A'-A'

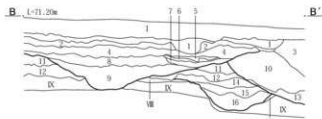
- I. 表土
- II. 黄褐色土 基本土層の洪水層。シルト。
- III. 灰褐色土 As-Bやや多く含む。基本土層
- IV. 黒褐色土 As-BがAs-Bがやや少ない。
- I. 灰褐色土 シルトに近い砂質土。細粒からなる。

I区48号溝

A, L=70.70m

I区48号溝A'-A'・B-B'

1. 灰褐色土 砂質土。As-Bやや多く含む。溝埋没土。
2. 黒褐色土 As-B多く含む。基本土層III層。
3. As-B一次堆積層



I区29号溝A'-A'・39号溝B-B'

1. 黄褐色シルト 黄色シルト・灰色シルトが縞状に重なる。
2. 灰褐色シルト I層より粗いシルト層で、黄色シルトをわずかに縞状に含む。
3. 灰褐色シルト 均質なシルト層。下部は砂礫。(1号埋没土)
4. 灰褐色シルト 2層より明るい色調。As-Bをわずかに含む。
5. 黒色土 As-Bを含む。粘性は強い。中央部に砂を含む。
6. 灰色シルト 粒径の細かい均一なシルト層。
7. 灰褐色土 黄色シルト・褐色土・灰色シルト塊を混じる。
8. 灰褐色土 As-Bを多量に含む。灰色シルト塊を少量含む。(29号溝埋没土)
9. 灰褐色砂 灰色シルトと砂が縞状に堆積。(29号溝埋没土)
10. 黒色土 As-Bを含む。(1号埋没土)
11. 灰色シルト
12. 黒色土 As-Cを混じる。
13. 灰色シルト I1層よりは粒径が粗く、鉄分が多く凝集する。(1号埋没土)
14. 灰色シルト 均一な粗いシルト(39号溝埋没土)
15. 暗褐色土 黒色粘質土・砂・灰色シルト塊を混じる。(39号溝埋没土)
16. 黒色土 黒色粘質土主体で、IX層土小塊を少量含む。(39号溝埋没土)
- III. 黒褐色砂質土 As-Bを混じる。
- IX. 灰黄色粘質土 黄色風化軽石を多く含む。

第13図 I区溝土層断面

第3章 中世の遺構と遺物

調査長は11.40mである。底面は平坦で、北西端が0.06m高かった。

埋没土は灰褐色シルトである。遺物は出土しなかった。

I区13号溝の掘削時期は、浅間Bテフラ降下以降である。

I区14号溝(第74図 PL.4)

14号溝はI区北区西部で検出された東西方向の溝である。15号溝と交差するが、14号溝が新しい。

走向はN-76°-W、上幅0.43~1.03m、深さ0.15m、調査長は7.48mである。底面は平坦で、西端が0.09m高かった。

埋没土は灰褐色シルトである。遺物は出土しなかった。

I区14号溝の掘削時期は、浅間Bテフラ降下以降である。

I区15号溝(第13・74図 PL.4)

15号溝はI区北区西部で検出された南北方向の溝である。14号溝と交差するが、15号溝が古い。

走向はN-8°-E、上幅0.96~1.24m、深さ0.06m、調査長は8.35mである。底面は平坦で、西端が0.09m高かった。

埋没土は灰褐色シルトである。遺物は出土しなかった。I区15号溝の掘削時期は、浅間Bテフラ降下以降である。

I区21号溝(第74図)

21号溝はI区南区西部で検出された東西方向の溝である。重複はない。

走向はN-86°-W、上幅0.57~0.64m、深さ0.07m、調査長は14.0mである。底面は平坦で、西端が0.04m高かった。埋没土は表土である。遺物は出土しなかった。

I区21号溝の掘削時期は、浅間Bテフラ降下以降である。

I区29号溝(第13・74図 PL.4)

29号溝はI区北区西端部で検出された南北方向の溝である。1号堀の西側に並行して掘られていた。1号堀より新しい。古墳時代の39号溝とも重複する。

走向はN-4°-E、上幅2.40~3.00m、深さ0.25m、調査長は17.21mである。底面は平坦で、北端が0.11m高かった。

埋没土は灰褐色シルトで、下層には砂のラミナ堆積が

ある。埋没土中から、陶器破片1点、土師器小型壺破片19点、壺破片297点、埴破片3点、高坏破片32点、坏破片58点、鉢破片1点、甕破片413点、S字甕破片292点、台付甕破片2点、須恵器坏破片3点の古墳時代から古代の遺物破片が多量に出土した。埋没土の様相から流水があったとみられ、多量の土器破片は周辺の包含層や上流の遺跡にあったと推定される遺物を巻き込んできたものと推定される。遺物破片のなかには近現代の遺物も含まれている。I区29号溝の掘削時期は、浅間Bテフラ降下以降であり、現代まで使われたと推定される。

I区47号溝(第13・74図 PL.5)

47号溝は、I区中央区の北西部で浅間Bテフラを除去している際に検出されたが、浅間Bテフラより新しい。重複はない。北端は発掘区域外となる。北延長部分は北区の調査では検出されなかった。

走向はN-6°-W、上幅は0.25~0.34m、深さは0.04m、調査長は4.65mである。底面は緩やかな凹地状である。底面の標高は両端部とも同じであった。

溝内は浅間B軽石を多く含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。I区47号溝は埋没土の特徴から浅間A軽石降下以前の近世の溝と推定される。

I区48号溝(第13・74図 PL.5)

48号溝は、I区中央区の西部で、浅間Bテフラを除去している際に検出されたが、浅間Bテフラより新しい。重複はない。微高地から東に向かう斜面で検出された。

走向はN-71°-W、上幅は0.31~0.47m、深さは0.06m、調査長は18.05mである。底面は緩やかな凹地状である。底面の標高は西端部が0.13m高かった。

溝内は浅間B軽石を多く含む砂質黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。I区48号溝は浅間B軽石混土層から掘り込まれていることから、中世の溝と推定される。

(4) 復旧溝

I区では5か所の復旧溝群が検出された。いずれも浅間A軽石を多量に塊状に含む灰褐色土で埋まっており、浅間A軽石被災を復旧するための溝群である。北区で検出された1号復旧溝は断面図のみの記録となった。また

2号復旧溝は1条の溝であるが、埋没土の共通性から復旧溝として記録した。

浅間A軽石降下当時、ここでどのような土地利用がされていたかは軽石直下面が出土していないので明確ではないが、12世紀初頭の浅間Bテフラ降下時は水田であったことから、それ以後水田として利用されていた可能性が高い。したがって、I区で検出された復旧溝も水田から水田への復旧を意図したものと考えられる。復旧溝群の位置や規模は、当時の地制の一部を表していることになろう。

浅間A軽石の降下は1783(天明3)年であることから、それ以前の近世の遺構とは重複関係になる。区ごとの全体図(1/300)では、網かけて重ねている。

I区1号復旧溝(第15図 PL.5)

1号復旧溝は、I区北区中央部の北壁付近で検出されたが断面図のみの記録となった。溝は3条が記録された。

溝の上幅は0.84~0.96m、深さは0.17mである底面は比較的平坦である。遺物は出土しなかった。

I区2号復旧溝(第14図 PL.5)

2号復旧溝は、I区北西部1号堀の東脇に並行して検出された。1号・2号溝より新しい。1条検出されたにとどまるが、埋没土が浅間A軽石の二次堆積層で他の復旧溝群と共通することから、復旧溝と報告した。埋没土中から、瓦破片1点、陶磁器破片1点が出土した。

I区3号復旧溝(第15図 PL.5・6)

3号復旧溝は、I区南区の西部から中央区の西部にかけて検出された。いずれも1号堀の東側にほぼ直交する方向で復旧溝が連続している。発掘調査時期が異なり、両調査区間に未調査区が発生してしまったが、遺構は3号復旧溝群として連続していると推定される。南端部は発掘区域外になる。重複遺構はない。溝群の全体の規模は両区を合わせると南北17.48m、東西4.20m、溝の方向はN-78~87°-Wである。南区で13条、中央区で13条の溝が検出された。

それぞれの溝の形態は比較的直線的になっていたが、南区では辺りが丸くなっている溝もあった。中央区では比較的長方形であったが、西端は攪乱により形態が乱れ

ていた。溝の上幅は0.50~0.57m、深さは0.02~0.14m、残存長は2.85~4.02mである。底面はほぼ平坦である。

埋没土は上層には浅間A軽石二次堆積層に混じって近世洪水層塊が目立つが、下層はほとんど浅間A軽石二次堆積層であった。埋没土中から土師器甕破片1点、磁器破片12点、土器類2点が出土した。土師器は混入である。

I区4号復旧溝(第14図 PL.6)

4号復旧溝は、I区南区の中央区から中央区の中央部にかけて検出された。発掘調査時期が異なり、両調査区間に未調査区が発生してしまったが、遺構は4号復旧溝群として連続していると推定される。南端部は発掘区域外になる。19号溝と重複しているが4号復旧溝が新しい。溝群の全体の規模は両区を合わせると南北10.82m、東西3.43~5.23m、溝の方向はN-77~85°-Wである。南区で8条、中央区で2条の溝が検出された。

それぞれの溝の形態は比較的直線的で長方形であった。溝の上幅は0.89~1.03m、深さは0.11m、残存長は4.08~5.06mである。底面はほぼ平坦である。

埋没土は近世洪水層塊を混じる浅間A軽石二次堆積層である。遺物は出土しなかった。

I区5号復旧溝(第14図 PL.6)

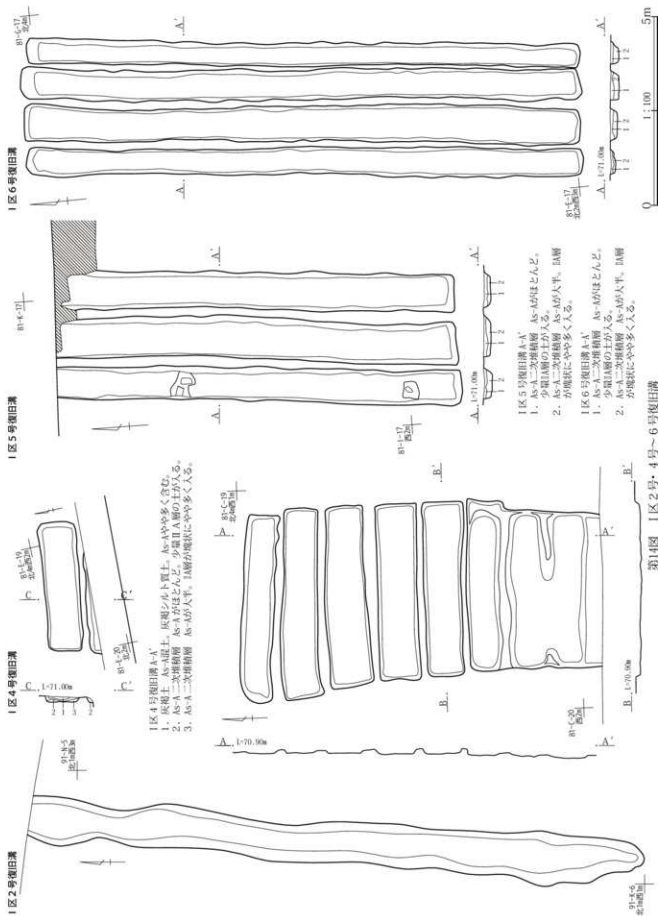
5号復旧溝は、I区中央区の北半部で検出された。重複遺構はない。北端部は発掘区域外になる。北区では延長部を確認できなかった。溝群の全体の規模は南北10.07m、東西3.35m、溝の方向はN-8°-Eである。3条の溝が検出された。

それぞれの溝の形態は直線的で帯状の長方形であった。溝の上幅は0.83~1.10m、深さは0.18~0.22m、残存長は10.70mである。底面はほぼ平坦である。

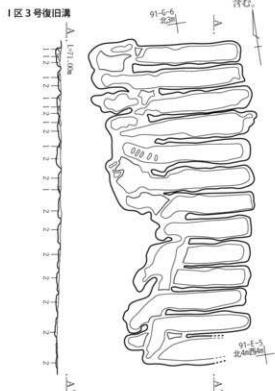
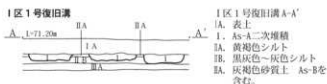
埋没土は浅間A軽石二次堆積層が主体で近世洪水層塊を混じる。遺物は出土しなかった。

I区6号復旧溝(第14図 PL.6)

6号復旧溝は、I区中央区の南半部で検出された。5号復旧溝の南に接する。規模や方向が酷似した溝である。重複遺構はない。溝群の全体の規模は南北14.70m、東西3.45m、溝の方向はN-7°-Eである。4条の溝が検出された。

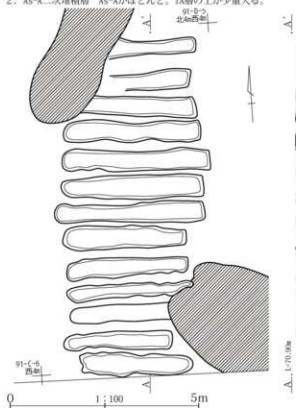


第14図 1区2号・4号～6号復旧溝



I区3号復旧溝A-A'

1. 灰濁土 標準土層I(橙色洪水砂混As-A混)及び(黄褐色シルト層)が混拌された層。IAとIBが塊状に入る。
2. As-A二次堆積層 As-Aがほとんど。IA層の上が少量入る。



第15図 I区1号・3号復旧溝

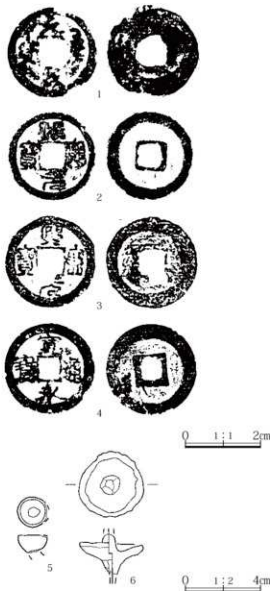
それぞれの溝の形態は直線的で帯状の長方形であった。溝の上幅は0.60～1.05m、深さは0.12～0.21m、残存長は14.70mである。底面はほぼ平坦である。5号復旧溝に比べて細い。

埋没土は浅間A軽石二次堆積層が主体で近世洪水層塊を混じる。遺物は出土しなかった。

(5) 遺構外の出土遺物

(第16図 PL.207 遺物観察表P.450・451)

I区調査の遺構確認中に、遺構に伴わない形で第11表のように多くの遺物を出土した。なかには下位の層位からの混入遺物も含まれていたが、ここでは、銭貨4点、と金属製品2点を掲載した。なお、混入遺物については、出土相当層の遺構外遺物の項に掲載した。



第16図 I区遺構外の出土遺物(中近世)

3. II区の遺構と遺物

(1) 土坑(第17図 PL. 8・9)

II区北区で5基、南区で1基の土坑を検出した。北区の5基の土坑は東半部に集中していた。中央区では浅間Bテフラ上面で2基の土坑を検出した。いずれも浅間Bテフラ降下以降の土坑である。それぞれの土坑の位置や規模は、P.432の表にまとめた。以下各遺構の調査所見を記載する。

a. 北区の土坑

1号土坑は隅丸方形の土坑で、重複はない。浅間B軽石と灰黄色シルト塊を含む黒色土で埋まっていた。埋没土中から土師器裏破片1点が出土したが、混入である。

2号土坑は楕円形の土坑で、浅間B軽石を含む黒色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

3号土坑は楕円形の土坑で、灰色シルトで埋まっていた。遺物は出土しなかった。

5号土坑は円形の土坑で、浅間B軽石と灰黄色シルト塊を含む黒色土で埋まっていた。埋没土中から土師器S字裏破片1点が出土したが、混入である。

6号土坑は隅丸方形の土坑で、浅間B軽石と灰黄色シルト塊を含む黒色土で埋まっていた。底面は凹凸が著しい。遺物は出土しなかった。

b. 南区の土坑

7号土坑は楕円形の土坑で、浅間B軽石と灰黄色シルト塊を含む黒色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

c. 中央区の土坑

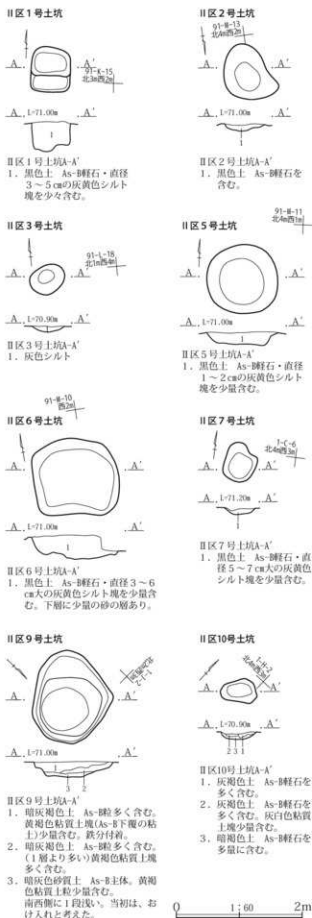
9号土坑は浅間Bテフラ上面で検出された。不整楕円形で、浅間B軽石と黄褐色粘質土塊を含む暗灰色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

10号土坑は浅間Bテフラ下面で確認・記録されたが、浅間Bテフラ上面確認の土坑と同様に浅間B軽石を多く含む灰褐色土で埋まっていた。小型の楕円形の土坑で、遺物は出土しなかった。

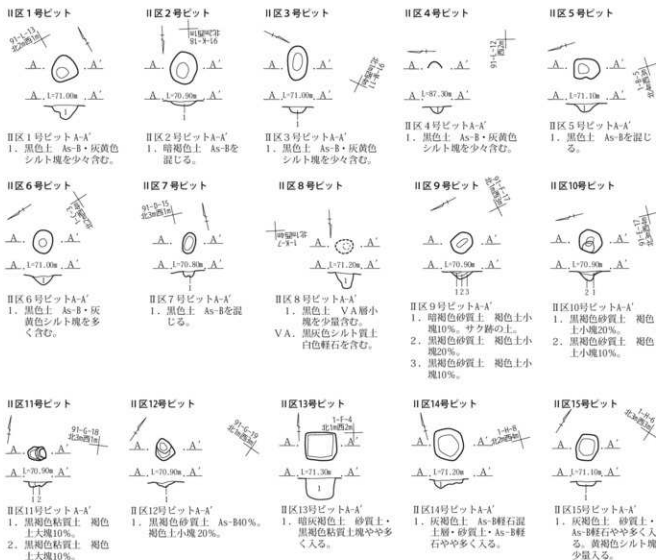
(2) ピット(第18図 PL. 9)

II区北区で5基、南区で3基のピットを検出した。北区の4基のピットは東半部に偏在する傾向があったが、全体として散在する。

中央区では浅間B混土層上面で2基、浅間Bテフラ上



第17図 II区土坑



第18図 II区ピット

0 1:60 2m

面で4基のピットを検出した。

それぞれのピットの位置や規模は、P.436の表にまとめた。以下各遺構の調査所見を記載する。

a. 北区のピット

北区では5基のピットが全体に散在していた。いずれも建物の柱穴とは考えにくい。1～4号ピットは円形のピットで、浅間B軽石・灰黄色シルト塊を含む暗褐色土、黒色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。ピットはいずれも小型で建物の柱穴等とは考えにくい。8号ピットはVA層の小塊を含む黒色土で埋まっていた。

b. 南区のピット

南区では3基のピットが全体に散在していた。いずれも建物の柱穴とは考えにくい。5～7号ピットはいずれ

も楕円形のピットで、浅間B軽石・灰黄色シルトを含む黒色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

c. 中央区のピット

中央区では浅間B混土層上面で13号、14号・15号ピット、浅間Bテフラ上面で9～12号ピットの7基のピットが検出された。

13号ピットは方形のピットで黒褐色粘質土塊を含む暗灰褐色土で埋まっていた。埋没土中から陶磁器類破片1点が出土した。14号・15号ピットは円形・楕円形のピットで西部に偏在していた。いずれも浅間B軽石を含む灰褐色砂質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。9～12号ピットは楕円形・円形のピットで褐色土塊を含む黒褐色粘質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

(3) 溝

Ⅱ区で、19条の溝が検出された。溝の時期はいずれも浅間Bテフラ降下以降である。ほとんどの溝は浅間Bテフラ直下で確認したが、中央区の23号溝・28号溝は、浅間Bテフラ上面で検出した。溝の位置や規模はP.442の表にまとめた。以下各溝の調査所見を記載する。なお、溝の平面図は個別図を作成せず、1/300の各区全体図でこれに変えた。埋没土層断面図は個々に掲載した。

Ⅱ区1号溝(第19・73図 PL.10・207 遺物観察表P.448)

1号溝はⅡ区中央部で、北区から中央区にかけて検出された南北方向の溝である。北端は発掘区域外となる。南区では時期が極めて新しいと判断されたため、上端のみ記録した。北区北端で2号溝と重複しているが、1号溝が新しい。中央区北端では21号溝と合流している。上半部の埋没土は1号溝が新しく堆積しており、1号溝が後の時期まで使われていたと推定される。下半部の埋没土は同一であり同時に使用されていた可能性がある。

溝の走向は北区でN-5°E、中央区でN-3°E、上幅は北区で0.57~0.78m、中央区で1.00~1.70m、深さは北区で0.13m、中央区で0.24m、調査長は北区で15.24m、中央区で23.3mである。南区で15.3mが上端のみ確認されているので、総延長は60mほどである。底面は平坦である。底面の標高は中央区中央部が最も深く、北端は0.14m、南端は0.01m高かった。

溝内は浅間B軽石を含む灰褐色土・暗褐色土で埋まっていた。上位層には現代の遺物が出土しており、中世以降、現代まで使われていた溝と考えられる。浅間A軽石との直接の新旧関係は調査ではわからなかった。

埋没土中から、磁器碗(第19図1)、土師器破片2点、甕破片1点、須恵器甕破片1点、陶磁器破片44点、土器類6点が出土した。土師器・須恵器は混入である。

Ⅱ区1号溝の掘削時期は、埋没土の特徴から浅間Bテフラ降下以降であり、近・現代まで使われていた用水路である。

Ⅱ区3号溝(第19・73図 PL.10)

3号溝はⅡ区北区の東半部で検出された南西から北東方向の溝である。北東端でやや緩やかに蛇行する。東端は発掘区域外となる。北東部で6号溝、10号溝、南西部

で4号溝、5号溝と重複する。いずれの溝より3号溝が新しい。走向はN-77°E、上幅は0.30~0.60m、深さは北区で0.15m、調査長は38.40mである。底面は平坦である。底面の標高は北東端が0.03m高かった。

溝内は浅間B軽石と灰黄色シルト塊を含む黒色土で埋まっていた。埋没土中から土師器S字甕破片1点、須恵器破片1点が出土したが、いずれも混入である。

Ⅱ区3号溝の掘削時期は、埋没土の特徴から中世以降と考えられる。

Ⅱ区4号溝(第73図 PL.10)

4号溝はⅡ区北区の東半部で検出された東西方向の溝である。東端で3号溝と重複する。4号溝が古い。走向はN-88°E、上幅は0.18~0.30m、深さは北区で0.02m、調査長は6.44mである。底面は平坦である。底面の標高は西端が0.02m高かった。

溝内は浅間B軽石と灰黄色シルト塊を含む黒色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

Ⅱ区4号溝の掘削時期は、埋没土の特徴から中世以降と考えられる。

Ⅱ区5号溝(第73図 PL.10)

5号溝はⅡ区北区の東半部2号溝底面で検出された東西方向の溝状の凹地である。東端で3号溝と重複する。5号溝が古い。走向はN-77°W、上幅は0.18~0.20m、深さは0.04m、調査長は1.58mである。底面は平坦である。

溝内は浅間B軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

Ⅱ区5号溝の掘削時期は、埋没土の特徴から中世以降と考えられる。

Ⅱ区6号溝(第73図 PL.10)

6号溝はⅡ区北区の北東隅で検出された東西方向の溝である。緩やかに蛇行する。北端は発掘区域外となる。東半部で3号溝と重複するが、6号溝が古い。きわめて浅い溝で、痕跡をとどめる程度であった。走向はN-68°W、上幅は0.18~0.54m、深さは0.01m、調査長は16.37mである。底面は平坦である。底面の標高は南東端が0.02m高かった。

溝内は浅間B軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

II区6号溝の掘削時期は、埋没土の特徴から中世以降と考えられる。

II区7号溝(第73図 PL.10)

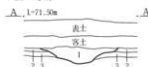
7号溝はII区北区の北東隅で検出された東西方向の溝である。6号溝の北5mのところにあり、ほぼ並行して

蛇行する。北端は発掘区域外となる。東半部で10号溝と重複するが7号溝が新しい。走向はN-74°-W、上幅は0.17~0.30m、深さは0.03m、調査長は8.00mである。底面は平坦である。底面の標高は西端が0.03m高かった。

溝内は浅間B軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

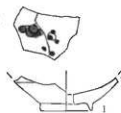
II区7号溝の掘削時期は、埋没土の特徴から中世以降と考えられる。

II区1号溝



II区1号溝A-A'

1. 灰色シルト
2. 灰褐色土 As-Bを混じる。
3. 暗褐色土 As-Bを混じる。



II区10号溝



II区1号・21号溝B-B'

1. 灰褐色土 砂質土。As-A少量含む。現代のごみ入。圃場整備前の溝か。
2. 灰褐色土 砂質土。As-A少量含む。近~現代の土か。ごみ入。
3. 灰褐色土 砂質土。As-Aやや多く入る。(1号溝埋没土)
4. 灰褐色土 砂質土。As-Aやや粗い。砂粒がやや多く入る。(1号溝埋没土)
5. 灰褐色土 砂質土。黄褐色シルト塊・As-A少量入る。(1号溝埋没土)
6. 灰褐色土 砂質土。黄褐色シルト塊・As-A少量入る。灰褐色シルト塊少量入る。(21号溝埋没土)
7. 灰褐色土 砂質土。As-A少量入る。粗い砂粒や多く入る。

II区3号溝



II区3号溝A-A'

1. 黒色土 As-Bを混じる。灰黄色シルト塊。径3~5cmを少々含む。

II区21号溝



II区21号溝A-A'

1. 灰褐色土 シルト質土。As-A少量含む。
2. 灰褐色土 シルト質土。1層より明るい。As-Aやや少量含む。黄褐色シルト塊少量含む。(1A層)

II区23号溝



II区23号溝A-A'



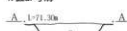
II区23号溝A-A'

1. 灰褐色粘質土 明褐色土(洪水起源)を20%。
2. 灰褐色粘質土 明褐色土小塊10%。
3. 灰褐色粘質土 暗褐色土小塊20%。
4. 暗褐色砂質土 濃いAs-B混。As-B40%。
5. 暗褐色砂質土 褐色土大塊20%。As-B40%。
6. 暗褐色砂質土 褐色土小塊10%。As-B40%。
7. As-B二次堆積
8. As-B 褐色土塊を含む。

II区23号溝B-B'

1. 褐色砂質土 As-B40%。筋状サク。
2. 褐色砂質土 As-B40%。ローム小塊10%。
3. 褐色砂質土 As-B40%。ローム小塊5%。

II区27号溝



II区27号溝A-A'

1. 灰褐色土 砂質土・As-A軽石・黄褐色シルト塊(近世洪水層起源)少量入る。



0 1:3 5cm

II区22号溝



II区22号溝A-A'

1. 黄灰色粘質土 灰褐色土10%。
2. 灰褐色粘質土 褐色砂10%。

II区25号溝



II区25号溝A-A'

1. 灰褐色土 砂質土・As-A軽石やや少なく入る。

II区26号溝



II区26号溝A-A'

1. 灰褐色土 砂質土・As-A軽石やや少なく入る。

II区28号溝



II区28号溝A-A'

1. 暗灰褐色土 As-B粒多く含む。灰褐色粘質土少し含む。鉄付砂少ない。

0 1:60 2m

第19図 II区溝土層断面と出土遺物

Ⅱ区8号溝(第73図 PL.10)

8号溝はⅡ区北区の南東隅で検出された南西から北東方向の溝である。西端は北にやや湾曲する。北東端は発掘区域外となる。走向は $N-61^{\circ}-E$ 、上幅は0.18~0.40m、深さは0.02m、調査長は16.75mである。底面は平坦である。底面の標高は北東端が0.02m高かった。

溝内は浅間B軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。きわめて浅い溝で、痕跡をとどめる程度であった。

Ⅱ区8号溝の掘削時期は、埋没土の特徴から中世以降と考えられる。

Ⅱ区9号溝(第73図 PL.10)

9号溝はⅡ区北区の南東隅で検出された南西から北東方向の溝である。北東端および南端は発掘区域外となる。走向は $N-53^{\circ}-E$ 、上幅は0.30~0.50m、深さは0.08m、調査長は8.77mである。底面は平坦である。底面の標高は南西端が0.04m高かった。

溝内は浅間B軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。きわめて浅い溝で、痕跡をとどめる程度であった。

Ⅱ区9号溝の掘削時期は、埋没土の特徴から中世以降と考えられる。

Ⅱ区10号溝(第19・73図 PL.10・207 遺物観察表P.448)

10号溝はⅡ区北区の北東隅で検出された北西から南東方向の溝である。北西端および南東端は発掘区域外となる。走向は $N-37^{\circ}-E$ 、上幅は0.83~1.24m、深さは0.11m、調査長は6.58mである。底面は平坦である。底面の標高は南東端が0.05m高かった。

溝内は浅間B軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から、陶器灯火受皿(第19図2)が出土した。Ⅱ区10号溝の掘削時期は、埋没土の特徴から中世以降と考えられる。

Ⅱ区11号溝(第73図)

11号溝はⅡ区南区の西端で検出されたほぼ南北方向の溝である。12号溝の西縁に重複するが、新旧関係は不明。北西端および南東端は発掘区域外となる。走向は $N-10^{\circ}-W$ 、上幅は0.60~0.92m、深さは0.14m、調査

長は9.57mである。底面は平坦である。底面の標高は北端が0.03m高かった。

溝内の埋没土は不明。遺物は出土しなかった。

Ⅱ区11号溝の掘削時期は、埋没土の特徴から中世以降と推定される。

Ⅱ区12号溝(第73図)

12号溝はⅡ区南区の西端で検出されたほぼ南北方向の溝である。11号溝と13号溝の間で、それぞれと重複するが、新旧関係は不明。北西端および南東端は発掘区域外となる。走向は $N-12^{\circ}-W$ 、上幅は0.80~1.50m、深さは0.16m、調査長は17.10mである。底面は平坦である。底面の標高は南端が0.12m高かった。

溝内の埋没土は不明。遺物は出土しなかった。

Ⅱ区12号溝の掘削時期は、遺構確認面の共通性から中世以降と推定される。

Ⅱ区13号溝(第73図)

13号溝はⅡ区南区の西端で検出されたほぼ南北方向の溝である。12号溝の東縁に一部が重複するが、新旧関係は不明。北西端および南東端は発掘区域外となる。走向は $N-14^{\circ}-W$ 、上幅は0.48~0.90m、深さは0.27m、調査長は10.40mである。底面は平坦である。底面の標高は南端が0.05m高かった。

溝内の埋没土は不明。遺物は出土しなかった。

Ⅱ区13号溝の掘削時期は、遺構確認面の共通性から中世以降と推定される。

Ⅱ区21号溝(第19・73図 PL.10)

21号溝はⅡ区中央区の東半部北壁沿いで検出された東西方向の溝である。東端は発掘区域外となり、西端は1号溝とT字状に交わる。重複関係は無く、合流している。走向は $N-87^{\circ}-W$ 、上幅は0.50~0.77m、深さは0.38m、調査長は27.80mである。底面は平坦である。底面の標高は東端が0.14m高かった。

溝内は浅間A軽石・黄褐色シルト塊を含む灰褐色土で埋まっていた。埋没土中から土師器裏破片7点、陶磁器破片28点が出た。土師器は混入であろう。

Ⅱ区21号溝の掘削時期は、埋没土の特徴や出土遺物から、近世以降と考えられる。1号溝と同時期に機能して

いた溝と推定される。

II区22号溝(第19・73図 PL.11)

22号溝はII区中央区の中央部で検出された北西から南東方向の直線の溝である。北西端は北区に伸びると思われるが、北区調査では記録除外となっている。南東端は1ラインで立ち上がる。重複はない。走向はN-30°-W、上幅は0.18~0.49m、深さは0.11m、調査長は11.30mである。底面は平坦である。底面の標高は北西端が0.09m高かった。

溝内は灰褐色土・褐色砂を含む黄灰色粘質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

II区22号溝の掘削時期は、遺構確認面の共通性から中世以降と推定される。

II区23号溝(第19・73図 PL.11)

23号溝はII区中央区の東端部、浅間Bテフラ上面で検出された南西から北東方向の直線の溝である。北東端は発掘区域外となり、南西端は12ライン西で立ち上がる。鋤痕跡と重複するが、木溝が古い。走向はN-33°-E、上幅は0.15~0.26m、深さは0.07m、調査長は13.50mである。底面は掘削痕跡と推定される小穴が連続して残っていた。底面の標高は北東端が0.01m高かった。

溝内は浅間B軽石・黄褐色粘質土塊を含む灰褐色砂質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

II区23号溝の掘削時期は、埋没土の特徴から中世以降と考えられる。

II区25号・26号溝(第19・73図 PL.11)

25号・26号溝はII区中央区の西半部で検出されたほぼ東西方向の溝である。25号溝の東端と26号溝の東端の間には攪乱が掘り込まれているが、溝の形態や埋没土の共通性から両溝は同一遺構の可能性が高い。25号溝の西端は途切れ、26号溝の東端は27号溝の北西端に接している。走向は25号溝がN-82°-E、26号溝がN-80°-W、上幅は25号溝が0.12~0.35m、26号溝が0.17~0.39m、深さは25号溝が0.05m、26号溝が0.14m、調査長は25号溝が7.30m、26号溝が14.40mである。底面はいずれの溝も平坦である。底面の標高は、25号溝は北東端が0.02m、26号溝は東端が0.14m高かった。

溝内は両溝とも浅間A軽石を少量含む灰褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

II区25号・26号溝の掘削時期は、埋没土の特徴から近世以降と考えられる。

II区27号溝(第19・73図 PL.12・207 遺物観察表P.448)

27号溝はII区中央区の中央やや西寄りで検出された北西から南東方向の直線の溝である。22号溝と走向は平行する。北西端は26号溝と接しており、南東端は南区中央部に連なる。南区では新しい遺構であることから上場のみ記録となっている。重複はない。走向はN-35°-W、上幅は0.45~1.20m、深さは0.31m、調査長は17.50mである。底面は平坦である。底面の標高は北西端が0.04m高かった。

溝内は浅間A軽石・黄褐色シルトを含む黄灰色粘質土で埋まっていた。埋没土中から磁器碗(第19図3・4)、陶器破片1点が出土した。

II区27号溝の掘削時期は、埋没土の特徴から近世以降と考えられる。

II区28号溝(第19・73図 PL.12)

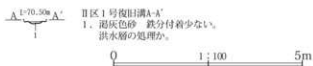
28号溝はII区中央区の中央やや西寄りの北壁沿いで検出された北西から南東方向の直線の溝である。北西端は北区に伸びる位置であるが、北区では連続する部分は検出されなかった。南東端はJラインで立ち上がる。重複はない。走向はN-34°-W、上幅は0.14~0.53m、深さは0.05m、調査長は5.04mである。底面は平坦である。底面の標高は北西端が0.01m高かった。

溝内は多量の浅間B軽石と少量の灰褐色粘質土を含む暗灰褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

II区28号溝の掘削時期は、埋没土の特徴から中世以降と考えられる。

(4) 復旧溝(第20・73図)

II区では、浅間B混土層上面で2条の復旧溝を検出した。大アゼに重複した部分のみ残存していた。大アゼより新しい埋没土は浅間A軽石を多量に含む灰褐色土で、他の区で確認された復旧溝と同じ層位のものである。遺物は出土しなかった。

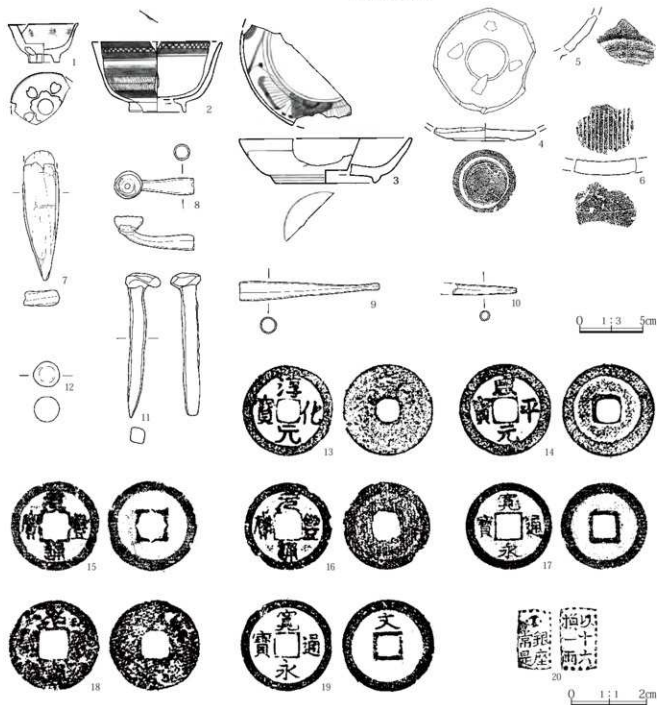


第20図 II区1号復旧溝土層断面

(5) 遺構外の出土遺物

(第21図 PL.207・208 遺物観察表P.448・450・451・468)

II区調査の遺構確認中に、遺構に伴わない形で第11表のように多くの遺物を出土した。なかには下位の層位からの混入遺物も含まれていたが、ここでは12世紀以降の遺物のうち、やや古いものを中心に、遺構外の遺物20点を掲載した。このうち銭貨は出土したすべてを掲載した。なお、混入遺物については、出土相当層の遺構外遺物の項に掲載した。



第21図 II区遺構外の出土遺物(中近世)

4. Ⅲ区の遺構と遺物

(1) 掘立柱建物

Ⅲ区1号掘立柱建物(第22図 PL.13)

位置 55-1-B・C-11・12G

主軸方位 N-86°-E

重複 12号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。

形態 身舎部分は3×2間(3.70~4.04m×3.27~3.34m・13尺×10尺)、面積16.19㎡の東西棟。西側に1.14mの間隔をとって庇が付き、全体として5.28×3.34mの規模となる。柱間は桁行が0.42~1.88m、梁行が1.51~1.85m。

北辺の柱穴は南にややずれるP1を除き、柱筋にのる。P2は南辺のP8に対応すると思われるが、柱間が0.54mと極端に狭く、入口施設の柱とも考えられる。東辺はP4が柱筋から西にややずれる。間隔もややP5・P6間が広い。南辺はP8・P9が柱筋から南にずれている。P2同様、P8もP9との柱間が0.42mと狭くなっている。西辺はほぼ等間隔に柱穴が並ぶが、P1・P9は柱筋から南にややずれる。庇と考えられる柱筋のうち、中央部には柱穴を確認できなかった。この部分には不定型の窪みがあったが、それは浅いもので柱穴が確認できない状況ではなかったと思われる。

いずれの柱穴でも明確な柱痕跡は検出できなかった。柱穴の形状は楕円形および不定型な楕円形で、規模は長さ0.20~0.50m、短径0.17~0.36m、深さ0.12~0.48mで、ばらつきが大きい。

内部施設 西辺およびP9の北側に、柱筋にのる土坑を検出したが、建物に関連した遺構かどうかは、調査では明らかにできなかった。

出土遺物 P12の埋没土中から土師器甕胴部破片1点が出土したが、混入である。

所見 出土遺物からは建物の構築時期を決めることはできないが、埋没土中に浅間B軽石が認められることから、浅間Bテフラ降下以降の建物と考えられる。

建物の構造は、4×2間(17尺×10尺)の東西棟の可能性もあるが、西辺の中央の側柱が未検出であること、P10が側柱相当の規模であることから、前述したように3×2間の身舎に西庇のついた東西棟と想定した。

(2) 土坑

(第23・24図 PL.14・15・208 遺物観察表P.451)

Ⅲ区南区では9基、北区では5基の土坑を検出した。このうち北区の2号、3号土坑は浅間Bテフラの一次堆積層で埋没していたことから浅間Bテフラ直下の遺構として次章で報告する。また、中央区で検出された土坑は10基であるが、浅間Bテフラより新しいと認められたのは4基である。したがって、ここで記載・報告する浅間Bテフラ降下以降の土坑は、両調査区合わせて16基である。

それぞれの土坑の位置や規模は、一覧表(P.432・433)にまとめた。土坑の形態や規模にはばらつきがあり、系統的でない。掘削された時期や、土坑の用途に相違があるのであろう。以下各遺構の調査所見を記載する。

a. 南区の土坑

1号土坑は隅丸長方形の土坑で、14号溝と重複するが、新旧関係は不明である。遺物は出土しなかった。

7号土坑は大型の隅丸長方形の土坑で、浅間B軽石を含む暗褐色土や下層の黄色シルト塊で埋まっていた。12号溝と重複するが、溝より新しい。埋没土中から須恵器環破片と須恵器甕小破片1点が出土したが、混入である。遺構外出土遺物として須恵器環破片(第144図4)を图示した。

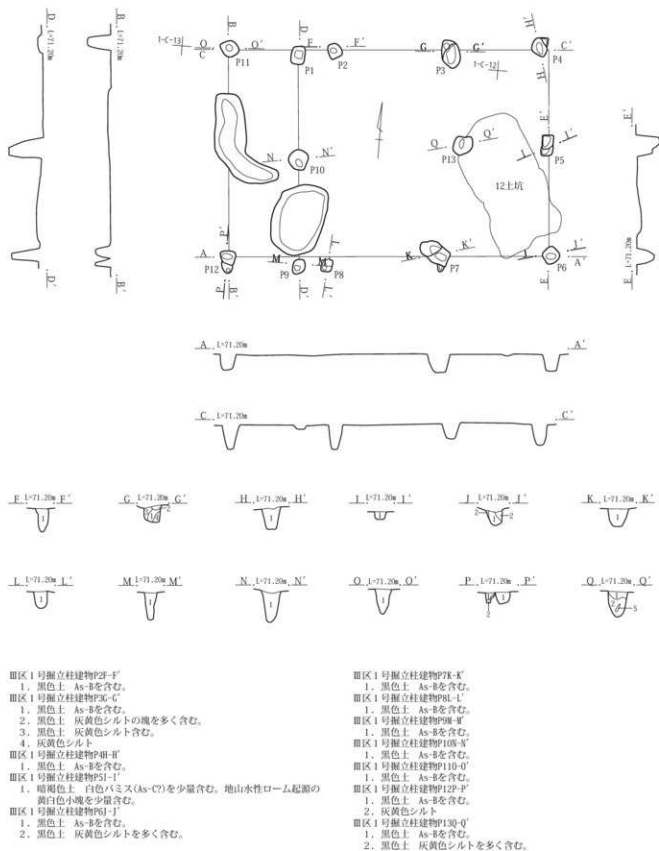
8号土坑も大型の隅丸長方形の土坑で、浅間B軽石を含む暗褐色土、洪水砂で埋まっていた。土師器壺破片5点、環6点、S字甕破片3点、須恵器環破片1点が埋没土中から出土したが、混入である。

9号土坑は楕円形の土坑で、灰色シルト塊と浅間B軽石を含む黒色土で埋まっていた。10号土坑は不整形楕円形の浅い土坑である。両土坑は重複しているが新旧関係は不明である。また、いずれの土坑も1号溝と重複しているが、新旧関係は1号溝が新しい。

11号土坑は不整形の土坑で、灰色シルトで埋まっていた。埋没土は4~6号土坑と共通する。埋没土中から土師器環破片9点、S字甕破片1点、須恵器破片1点が出土した。いずれも混入である。

12号土坑は隅丸長方形の深い土坑で、1号掘立柱建物と重複するが、新旧関係は不明である。主軸線は建物と異なるので内部施設の可能性は少ないと思われる。黒色土塊と下層の黄色シルト塊の混入で一気に埋まっていた。

第3章 中世世の遺構と遺物



第22図 III区1号掘立柱建物

4. Ⅲ区の遺構と遺物

Ⅲ区1号土坑



Ⅲ区1号土坑A-A'
 IV.A. 黒色粘質土 As-B下水田耕土。
 IV.B. 灰褐色土～黄褐色土 砂～シルト洪水層。

Ⅲ区4号土坑



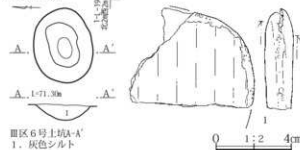
Ⅲ区4号土坑A-A'
 1. 灰色シルト
 2. 灰色土 灰色シルト塊と褐色粘質土塊の混土。

Ⅲ区5号土坑



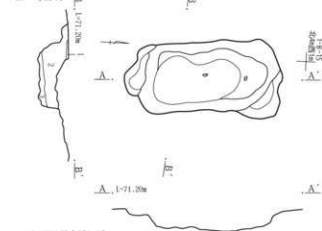
Ⅲ区5号土坑A-A'
 1. 灰色シルト

Ⅲ区6号土坑



Ⅲ区6号土坑A-A'
 1. 灰色シルト

Ⅲ区7号土坑



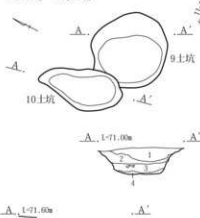
Ⅲ区7号土坑B-B'
 1. 暗褐色土 As-B粒を多く含む。
 2. 暗褐色土 As-B・As-B下黒色土・As-B下黒色土下の黄色シルト層を塊状に含む。
 3. 灰色砂 As-Bを主体とし、As-B下黒色土・As-B下黒色土下の黄色シルト小塊を少量含む。

Ⅲ区8号土坑



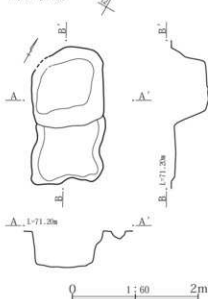
Ⅲ区8号土坑A-A'
 1. 黒色粘質土 灰色シルトを含む。
 As-Bも少し含む。B下水田耕土。
 2. 洪水砂

Ⅲ区9号・10号土坑



Ⅲ区9号土坑A-A'
 1. 黒色土 直径5～10cmの灰色シルト塊とAs-Bを多く含む。
 2. 黒色土 As-Bを多く含む。
 3. 洪水砂 直径3～5cmの灰色シルト塊を含む。
 4. 灰色シルト

Ⅲ区12号土坑



Ⅲ区11号土坑



Ⅲ区11号土坑A-A'
 1. 灰色シルト
 2. 灰褐色シルト

第23図 Ⅲ区土坑(1)と出土遺物

遺物は出土しなかった。

13号土坑は楕円形の土坑で、黒色粘質土で埋まっていた。

14号土坑は小型の不整楕円形で浅間B軽石を含む黒色土で埋まっていた。いずれも遺物は出土しなかった。

b. 北区の土坑

4号土坑は不整楕円形の土坑で、灰色シルトで埋まっていた。5号土坑も不整楕円形の土坑で、灰色シルトで埋まっていた。6号土坑は楕円形の土坑で、灰色シルトで埋まっていた。4号～6号土坑は、小型で断面が丸いボール状であり、灰色シルトで埋まっていること等共通点が多い。6号溝の北側に並ぶように検出された。6号土坑埋没土中から磨石破片(第23図1)が出土した。4号・5号土坑からは遺物は出土しなかった。

c. 中央区の土坑

110号土坑は楕円形の土坑で、2号住居と重複するが、住居より新しい。遺物は出土しなかった。

119号土坑は隅丸方形の土坑で、粘性・しまりのある暗褐色土や黒褐色土で埋まっていた。土師器S字裏破片4点、須恵器瓶破片1点が出土しているが、混入である。

(3) ビット(第25図 PL.15)

Ⅲ区南区で検出したビットは2基、北区で検出したビットは4基である。中央区では、全体で41基のビットを検出したが、出土遺物等を勘案して、3基のビットを

本時期とした。これらは比較的上層で検出され、顕著に古代や古墳時代の遺物を出土しなかったビットである。

それぞれのビットの位置や規模は、P.436・437の表にまとめた。以下各調査区のビットの調査所見を記載する。

a. 南区のビット

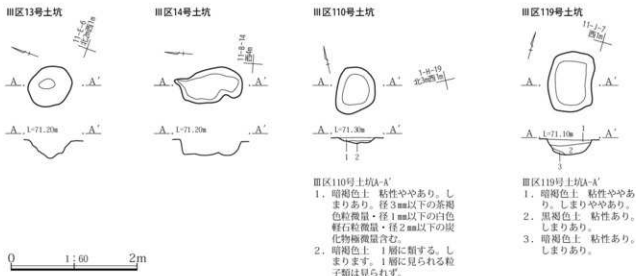
南区では、南東隅に検出された1号掘立柱建物の北辺に2基のビットが検出された。いずれも建物の柱筋からはずれる。西側の5号ビットは浅い。埋没土の記載はない。東側の85号ビットは浅間B軽石を含む黒色土で埋まっていた。

b. 北区のビット

北区では4基のビットが中央部に散在していた。いずれも小型円形のビットである。建物の柱穴等とは考えにくい。1号、2号、4号ビットは遺憾ながら断面図の記録がない。3号ビットは比較深い遺構で、灰色シルトで埋まっていた。3号ビットからは在地系土器皿破片1点が出土している。

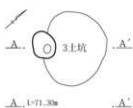
c. 中央区のビット

中央区では中央やや東寄りで、3基の86～88号ビットが集中して検出された。一様に暗褐色土で埋まっていた。下層で検出された1号住居と重複している位置であるが、新旧関係は不明である。



第24図 Ⅲ区土坑(2)

Ⅲ区1号ピット



Ⅲ区2号ピット



(4) 堀

蛭堀〔びりびり〕

(第26・72図 PL.16・208 遺物観察表P.448・451)

蛭堀はⅢ区南西部からⅣ区北東部にかけて検出された用水路である。「蛭堀」は地域の通称であり、調査での遺構名もそのままとした。

Ⅲ区では、南区で蛭堀21.8mを調査した。中央区まで延びていたが、西縁が調査区域外となり調査範囲が狭くなることから、危険防止のため掘り下げを断念した。南区の蛭堀は1層表土を除去した段階で遺構検出確認をおこなった。発掘区内に直線的に掘られており、遺構検出面での上幅は4.10～5.30m、下幅は2.05～3.00m、深さは1.19m、断面形は台形である。底面は平坦で、北端の標高が0.11m高かった。

埋没土中からは中世から近現代にかけての陶磁器破片15点、土器破片4点のほか、砥石等が出土した。中世遺物はごく少量で混入と思われる。近現代製作地不詳猪口(第26図2)、陶器(3)、18世紀後半～19世紀中頃の乗櫓(1)、12世紀の渚美陶器甕(4)、中世とみられる在地系土器片口鉢(5)、切り砥石(6)を図示した。

東脇には1号・2号溝が並行して掘られていた。埋没土層の観察から、2号溝→1号溝→蛭堀の順に新しく掘り直されたとみられる。Ⅳ区では蛭堀の両岸に浅間A軽石被災の復旧溝が検出されているが、Ⅲ区では検出されなかった。

蛭堀は、慶長10(1605)年に関東郡代伊那備前守忠次によって天狗岩用水からの延長工事が行われた滝川用水の17堰のうち、与六堰から取水された用水駮である。滝川から取水し、大字与六分・上新田を潤し滝川に排水していた。その流路は明治18年測量の迅速測図で確認することができる。周辺では玉村町教育委員会が発掘調査した中道東遺跡9号溝が蛭堀の一部で、昭和時代の土地改良工事で埋められたと報告されている。この土地改良工事中では用排水路が再編成され、蛭堀は流路を変えて現在も残されている。近世の蛭堀の掘削年代は具体的な史料が残されていないので詳細は不明であるが、滝川用水の堰整備事業のなかで掘削された可能性が高いであろう。

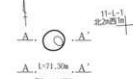
Ⅲ区4号ピット



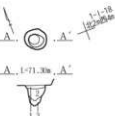
Ⅲ区5号ピット



Ⅲ区3号ピット

Ⅲ区3号ピットA-A'
1. 灰色シルト

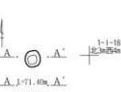
Ⅲ区86号ピット

Ⅲ区86号ピットA-A'
1. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。
2. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。
3. 暗褐色土と茶褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

Ⅲ区85号ピット

Ⅲ区85号ピットA-A'
1. 黒色土 As-Bを含む。

Ⅲ区88号ピット

Ⅲ区88号ピットA-A'
1. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。

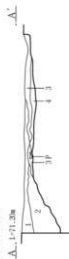
Ⅲ区87号ピット

Ⅲ区87号ピットA-A'
1. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。

0 1:60 2m

第25図 Ⅲ区ピット

Ⅲ区1号溝



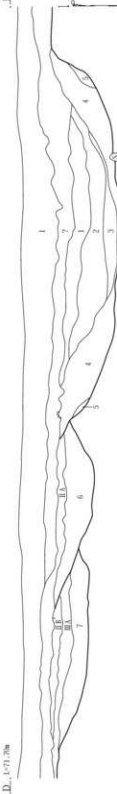
- Ⅲ区1号溝A' 粘性ややあり。しまりややあり。洪水埋植土。
 1. 灰色砂質土 1層に断するが、しまりあり。
 2. 灰色砂質土 粘性あり。しまりあり。As-Cを含む。
 3. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。As-Cを含む。
 4. 赤褐色土 粘性やや強し。しまりあり。

Ⅲ区1号・2号溝



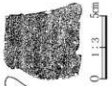
- Ⅲ区1号・2号溝C' ⅣB. 灰褐色土～黄褐色砂質土～シルト洪水域。
 1. 灰褐色土 As-Aを含む。現表土に近い層。(固品?)
 2. 灰褐色土 As-Bと灰色シルトを多量に含む。
 3. 暗褐色土 As-Bと灰色シルトを多量に含む。2層に近接するがシルトの含有量が少ない。
 4. 暗褐色砂質土 As-Bを含む。Ⅳ面傾を多量に含む。
 5. 砂層 Ⅳ面傾を多量に含む。
 6. 砂層 Ⅳ面傾とシルトの互層。
 7. 暗灰色シルト
 8. 砂層
 9. 暗灰色シルト
 10. 暗灰色シルト 砂とシルト塊の混上。
 11. 砂層 砂層とシルトの互層。
 12. 暗灰色シルト
 13. 暗褐色シルト
 14. 暗褐色シルト
 15. 砂層
 16. 2号溝埋没土

ⅢS区経路



Ⅲ区経路B'

1. A. 表土 灰褐色土
 ⅡA. 灰褐色砂層 細砂と粗砂の互層。(1号溝埋土)
 2. 灰褐色土 (1～5層埋没埋没土)
 ⅢA. 灰褐色砂質土 As-Bを含む。
 ⅢB. 黄褐色土～灰色シルト
 Ⅳ. 灰褐色シルト 塊層・区層土塊を含む。
 5. 灰色シルト
 6. 暗褐色砂層 細砂と粗砂の互層。(1号溝埋土)
 7. 暗褐色砂質土 砂と黄色土塊を含む。(2号溝埋没土)



第26図 Ⅲ区経路・1号・2号溝土層断面と出土遺物

(5) 溝

Ⅲ区では、27条の溝が検出された。溝には各調査区で異なる年度に調査されたために、同一の溝であっても別の遺構番号が付されたものがある。これについては、報告時に番号の統合と付け替えを行った。その作業の結果については、溝の位置や規模とともにP.442・443の表にまとめた。以下各溝の調査所見を記載する。なお、溝の平面図は個別図を作成せず、1/300の各区全体図でこれに変えた。埋没土層断面図は個々に掲載した。

Ⅲ区1号溝

(第26・27・72図 PL.16・208 遺物観察表P.448・451)

1号溝はⅢ区南西部で、南区から中央区にかけて検出された。2号溝より新しく蛭堀より古い。南区の走向はN-30°-W、上幅1.16~2.04m、深さ0.31m、調査長は南区で21.89mである。底面は平坦で、北端が0.04m高かった。一方、中央区では西脇の蛭堀を安全上の問題から掘り下げなかった影響で隣接する1号溝の十分な調査はできなかった。

浅間B軽石、シルトを多量に含む灰褐色土や、砂とシルトの互層で埋まっていた。層位的には浅間B混土層を切っていることから、中世以後の溝と考えられる。Ⅲ区では浅間A軽石被災復旧溝との重複関係はなかった。Ⅳ区では本溝の延長部分にある5~9号溝が浅間A軽石被災復旧溝より古いことから、本溝も浅間A軽石降下より

古いと考えられる。

出土遺物は、南区北端部底面上2.5cmのところ、中世の在地系土器片口鉢と推定される破片(第27図1)、埋没土中から南区で銭貨「熙寧元寶」(2)、埋没土中から銭貨「皇宋通寶」(3)が出土した。また埋没土中から埴輪破片1点、土師器甕破片27点、S字甕破片1点、須恵器椀破片4点、瓶破片1点、甕破片6点が出土した。埴輪・土師器・須恵器は混入である。遺構外出土遺物として本溝出土の須恵器瓶(第191図12)、土師器直口壺(第192図24)を図示した。

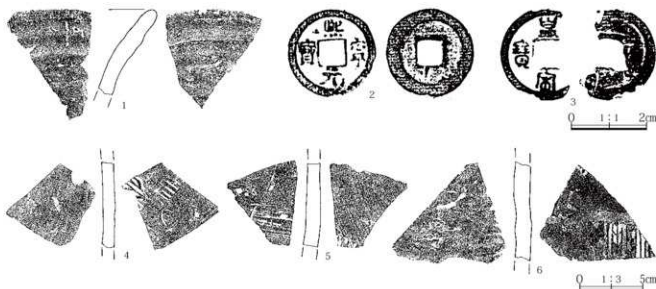
Ⅲ区1号溝の掘削時期は、埋没土の状況から中世以降、浅間A軽石降下以前ということになるが、出土した片口鉢やほかの土器からして、中世の可能性が高い。

Ⅲ区2号溝

(第26・27・72図 PL.16・17 遺物観察表P.448)

2号溝はⅢ区南西部で、南区から中央区にかけて検出された。1号溝より古い。走向はN-23~28°-W、上幅3.78~4.04m、深さ0.63m、調査長は南区で21.97m、中央区で22.41mである。底面は平坦で、北端が0.07m高かった。ただし中央区部分では西脇の蛭堀を安全上の問題から掘り下げなかった影響で、1号溝との境界を十分に調査できなかった。

砂と黄色土塊を含む暗褐色砂層で埋まっていた。層位的には浅間B混土層が溝上半部に堆積しているところか



第27図 Ⅲ区1号・2号溝の出土遺物

ら、浅間Bテフラ降下以前の可能性もあるが、テフラ一次堆積層は溝の上端部から東へ7.6mの地点から東方にしか残っていないため、直接の前後関係をとらえることができなかった。また、2号溝も1号溝と同様に浅間A軽石被災復旧溝との重複関係はなかった。しかし、IV区では本溝の延長部分にある5～9号溝が浅間A軽石被災復旧溝より古いことから、本溝も浅間A軽石降下より古いと考えられる。

出土遺物は、埋没土中から12世紀の渥美陶器甕破片3点(第27図4・5・6)が出土している。また埴輪破片1点、土師器環破片32点、甕破片7点、S字甕破片6点、須恵器甕破片5点、近世瓦1点、近現代の陶磁器類破片1点が出土した。埴輪・土師器・須恵器は混入である。遺構外出土遺物として本溝出土の須恵器甕(第191図13)を図示した。

Ⅲ区2号溝の掘削時期は、中世以降、浅間A軽石降下以前ということになるが、出土した焼締陶器破片からして、中世の可能性が高い。

Ⅲ区3号溝(第28・72図 PL.17)

3号溝は、2号溝の法面で検出された。2号溝との新旧関係は不明である。走向はN-62°-E、上幅0.62～1.13m、深さ0.35m、調査長は1.22mである。北東端がやや丸く太くなっている。底面は西端が0.04m高かった。浅間B軽石を含む暗褐色土・暗灰色土で埋まっていた。埋没土中から土師器甕破片1点が出土したが、混入である。また埋没土中からブナ殻斗1点(写真4-2)が出土した。1号溝の施設とも考えられるが、詳細は明らかにできなかった。

Ⅲ区4号溝(第28・72図 PL.17)

4号溝は蛭堀と1号溝の間で検出された。蛭堀よりは古い。走向はN-27°-E、上幅0.21～0.38m、深さ0.17m、調査長は3.90mである。1号溝を掘り直した際の底面の一部と考えられる。遺物は出土しなかった。

Ⅲ区5号溝

(第28・72図 PL.17・18・208 遺物観察表P.448)

5号溝は、Ⅲ区西部の北区から中央区にかけて検出された緩やかに湾曲する溝である。北区で6号溝と重複しているが、5号溝が新しい。南区へ延びる様相を呈する

が、南区では検出されなかった。

走向は北区でN-9°-W、中央区でN-43°-W、上幅は北区で0.62～1.08m、中央区で0.58～1.40m、深さは北区で0.20m、中央区で0.23m、調査長は北区で12.25m、中央区で39.84mである。底面はやや凹凸がある。底面の標高は北区と中央区の境界周辺が最も低く、北端は0.08m、南端は0.09m高かった。

溝内は浅間A軽石と推定される白色軽石を含む灰色シルトで埋まっていた。埋没土中から製作地不詳陶器ミニチュア破片1点(第28図1)、在地系土器焙烙破片1点、瓦1点、近現代陶磁器破片6点が出土した。また北区で土師器甕破片11点、S字甕破片1点、中央区で土師器高環破片2点、甕破片33点、S字甕破片21点、須恵器環破片6点、椀破片1点、瓶破片1点が出土したが、混入である。下層にある古代や古墳時代の遺構内からの混入であろう。それらは遺構外出土遺物として、本溝出土の土師器甕(第145図24)、須恵器羽釜1点(第145図28)を図示した。最も新しい出土遺物の時期や層位から、Ⅲ区5号溝の時期は江戸時代から近現代と考えられる。

Ⅲ区6号溝(第28・72図 PL.18)

6号溝は、Ⅲ区北区の西南部から中央区の西部・南部にかけて検出された、大きくUの字に湾曲する溝である。北区で5号溝と重複しているが、6号溝が古い。

走向は北区でN-86°-E、中央区で弧状、上幅は北区で0.30～1.00m、中央区で0.37～0.92m、深さは北区で0.15m、中央区で0.08m、調査長は北区で35.40m、中央区で30.20mである。底面は平坦である。底面の標高は中央区中央部が最も深く、北端は0.14m、南端は0.01m高かった。

溝内は浅間B軽石を多量に含む暗褐色土・灰褐色土で埋まっていた。北区で埋没土中から須恵器環破片3点が、中央区で土師器環破片1点、甕破片1点、S字甕破片2点、台付甕破片1点が出土したが、混入である。遺構外出土遺物として、本溝出土の土師器S字甕1点(第192図35)を図示した。

本溝は溝の東側にある微高地を囲むように掘られた溝で、北東端は39号溝の北側で止まっている。北区および中央区では本溝より南側には浅間Bテフラの一次堆積層は残存していなかった。

Ⅲ区3号溝



Ⅲ区3号溝A-A'

1. 暗褐色土 As-Bを多量に含む。黄褐色土と暗灰色土の混上。
2. 暗灰色シルト As-Bを多量に含む。IV B層小塊をわずかに含む。
3. 暗灰色シルト 上位にIV B層に近い薄層を挟む。
4. 暗褐色土 As-Bを含む。IV A層小塊とIV B層小塊を少量含む。

Ⅲ区4号溝



Ⅲ区4号A-A'

1. 暗褐色土 As-Bと灰色シルトを多量に含む。
2. 暗褐色土 As-Bの含有量が1層よりも多い。
3. 暗褐色土 灰色シルトの含有量が1層よりも多い。

Ⅲ区6号溝



Ⅲ区6号溝A-A'

1. 灰褐色土 As-Bを多く含む。粘性なし。(As-Bの上に形成された耕作土)
2. 黒色土 As-Bと黒色土塊の混上。



Ⅲ区6号溝B-B'

1. 表土
2. 黒褐色土 As-Bを多量に含む。
3. 黒褐色土 As-B混上とAs-B下水田面の灰色塊を黄褐色粘質土塊の混上。

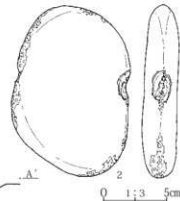
Ⅲ区7号溝



Ⅲ区7号溝A-A'

1. 暗褐色土 As-Bをわずかに含む。

Ⅲ区11号溝



Ⅲ区5号溝



Ⅲ区5号溝A-A'

1. 表土
1. 灰色シルト As-A7を少量含む。(5号溝埋没土)
2. 灰褐色土 As-Bを多く含む。粘性なし。
3. 黒色土 軽石を含まない。粘性なし。(33号溝埋没土)
4. 暗褐色土 地山ローーム起源の黄褐色土塊を多く含む。



Ⅲ区5号溝B-B'

1. 灰暗褐色土 粘性やや弱し。しまりあり。現代水田床土。



0 1; 2 4cm

Ⅲ区8号・21号溝



Ⅲ区8号溝A-A'

1. 灰色シルト (21号溝埋没土)
2. 灰色シルト
3. 暗褐色土 As-B粒を多く含む。
4. 暗褐色土 As-B塊・黒色粘土層との混上層。(8号溝埋没土)



Ⅲ区6号溝C-C'

1. 表土 粘性ややあり。しまりややあり。
2. 褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。

Ⅲ区13号溝



Ⅲ区13号溝B-B'

1. 灰褐色シルト質土
1. 黒色粘土
2. 灰色シルト VA層上の洪水層起源の上を塊状に含む。

Ⅲ区13号・35号溝



Ⅲ区13号・35号溝A-A'

1. 灰白色粘土 黒色土粒を非常に多く含む。直径5mm以下の白色軽石を少量含む。(13号溝埋没土)
 2. 灰白色粘質土 砂粒・直径2mmほどの白色軽石を少量含む。(35号溝埋没土)
 3. 灰白色粘質土 黄褐色の砂粒を非常に多く含む。(35号溝埋没土)
- I A. 表土
I B. 表土 灰褐色土
Ⅲ A. 灰褐色砂質土 As-Bを含む。
IV B. 灰褐色シルト
V A. 黒灰色シルト質土 白色軽石を含む。
V B. 黒灰色シルト質土 白色軽石を含まない。
V C. 洪水層

Ⅲ区14号溝



Ⅲ区36号溝



Ⅲ区36号溝A-A'

1. 暗褐色土 As-B混入。
2. 黄褐色土 ローム塊・As-B混入。

0 1; 60 2m

Ⅲ区37号溝



Ⅲ区37号溝A-A'

1. 灰褐色砂質土 As-Bを含む。
2. 灰褐色砂質土 As-Bと少量の黄褐色土小塊を含む。
3. 灰褐色砂質土 As-Bと黄褐色塊を含む。

Ⅲ区40号溝



Ⅲ区40号溝A-A'

1. 灰暗褐色土 粘性やや弱し。しまりあり。現代水田床土。

Ⅲ区42号溝



Ⅲ区42号溝A-A'

1. 灰色砂質土 洪水堆積層。



0 1; 3 5cm

Ⅲ区7号溝(第28・72図 PL.18)

7号溝は、Ⅲ区北区北西部、6号溝の南側で検出された、L字状に屈曲する溝である。5号溝と6号溝をつなぐようにL字に屈曲しているが、両溝との新旧関係は不明である。浅間B軽石を含むという埋没土の共通性からすれば、5号溝より古く、6号溝とは同時期とも考えられるが、詳細は不明である。

走向は長辺でN-85°-E、上幅は0.58~0.62m、深さは0.11m、調査長は4.63mである。底面は平坦である。底面の標高差は無い。

溝内は浅間B軽石をわずかに含む暗褐色土で埋まっていた。埋没土中から近現代陶磁器破片1点、土師器埴破片3点が出土したが、土師器埴は混入である。溝の時期は浅間Bテフラ降下以降であるが、不明である。

Ⅲ区8号溝(第28・72図 PL.18)

8号溝は、Ⅲ区北区の中央やや東寄りの南壁付近で検出された。6号溝の延長線上にある。中央区の38号溝に連続するように西端で南側へ屈曲している。

走向は長辺でN-90°-E、上幅は0.40~1.00m、深さは0.12m、調査長は19.17mである。底面はやや凹凸がある。底面の標高は南西部が東端より0.02m高かった。

溝内は浅間B軽石塊と黒色粘土の混土で埋まっていた。埋没土中から近現代地系土器皿破片1点、瓦破片2点、近現代陶磁器破片2点が出土した。また、須恵器甕破片3点が出土したが、混入である。遺構外出土遺物として、本溝出土の須恵器甕(第191図11)を図示した。Ⅲ区8号溝の時期は近現代と推定される。

本溝と6号溝は、中央区の微高地の北辺を区切るように掘られた溝である。Ⅲ区中央部に南北方向に平行して掘られている38号・39号溝につながる位置にあり、南側には小規模な段があり、溝の南側にテラス状の区域を形成していた。この溝と段で区切られた空間には、前述した38号・39号溝が南北に平行して掘られている。38号・39号溝の埋没土の記載がなく、6号・8号溝と38号・39号溝が同時にあったかどうかは不明であるが、何らかの意図をもった溝の配置であることは推定される。この中央部分には浅間Bテフラの一次堆積層は残存していなかった。

Ⅲ区9号溝(第29・72図 PL.19)

9号溝は、Ⅲ区北区の東部溝群の1条として検出された。10号・17号溝と重複しているが、土層断面の観察からいずれの溝よりも古いと判断した。北半部は10号溝に切られている。

走向はN-25°-W、上幅は1.12~1.23m、深さは土層断面から0.40m、調査長は5.18mである。底面はやや凹凸がある。底面標高は南東部が北端より0.01m高かった。

溝内は灰色シルトで埋まっていた。埋没土中から在地系土器火鉢破片1点が出土した。Ⅲ区9号溝の時期は出土遺物から近世と推定される。

Ⅲ区10号溝(第29・72図 PL.19)

10号溝は、Ⅲ区北区の東部溝群の1条として検出された。9号・11号溝と重複しているが、土層断面の観察からいずれの溝よりも新しいと判断した。

走向はN-16°-W、上幅は0.99~1.50m、深さは0.40m、調査長は12.30mである。底面はやや凹凸がある。底面の標高は南東部が北端より0.19m高かった。

溝内は灰色シルト・灰黄色シルトで埋まっていた。遺物は出土しなかった。Ⅲ区10号溝の時期は重複関係から近世以降と推定される。

Ⅲ区11号溝

(第28・29・72図 PL.19・208 遺物観察表P.P.451)

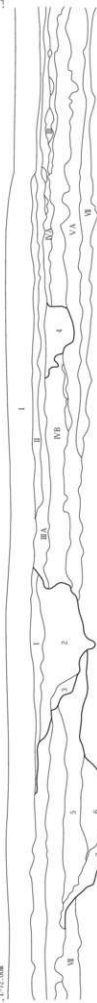
11号溝は、Ⅲ区北区の東部溝群の1条として検出された。9号・10号溝と重複しており、大半が失われているが、一部底面が残し、土層断面でも確認することができた。その土層断面の観察から、いずれの溝よりも古いと判断した。

走向はN-16°-W、上幅は底面のみ残存のため計測不能、深さは土層断面から0.34m、調査長は2.56mである。底面は平坦である。

溝内は黄灰色シルトで埋まっていた。埋没土中から須恵器椀破片、敲石(第28図2)が出土した。須恵器は混入であり、遺構外出土遺物として図示した(第145図12)。Ⅲ区11号溝の時期は中世以降であるが詳細は不明である。

田区10号溝

A. 1:72.0m



- 田区10号溝A-A'
1. 灰褐色シルト 黒褐色土小塊少量含む。(10号溝埋没土)
 2. 灰褐色シルト 部分的に砂層のフミナ状に堆積が認められる。(10号溝埋没土)
 3. 灰褐色シルト 黒色土塊多く含む。(10号溝埋没土)
 4. 黒褐色土 As-B群多く含む。(18号溝埋没土)
 5. 灰褐色シルト (28号溝埋没土) 黒褐色土小塊多く含む。(28号溝埋没土)
 6. 灰褐色シルト (28号溝埋没土) 黒褐色土小塊少量含む。(28号溝埋没土)
 7. 灰褐色シルト 黒褐色土小塊少量含む。(28号溝埋没土)

1. 表土
- II. 黄褐色~黒灰色シルト
- III. 黒褐色土 As-B群含む。
- III A. 灰褐色砂質土 As-B群含む。
- IV A. 黒色粘質土
- IV B. 灰褐色シルト
- V. 黒褐色土
- V A. 黒色粘質土

田区9号~12号・17号・19号・24号・29号・34号溝

B. 1:71.0m



田区9号~12号・17号・19号・29号・34号溝B-B'

1. 表土
- II. 黄褐色~黒灰色シルト
1. 灰褐色シルト (17号溝埋没土)
2. 灰褐色シルト 1層に黒褐色土小塊少量含む。(9号溝埋没土)
3. 灰褐色シルト 1層に黒褐色土小塊少量含む。(9号溝埋没土)
- 3'. 黄褐色土 灰白色砂質土(黒褐色土塊)多く含む。
4. 灰褐色シルト (10号溝埋没土)
5. 黄褐色シルト (11号溝埋没土)
6. 黄褐色シルト 黒褐色土小塊よりやや細粒。(11号溝埋没土)
7. 黄褐色土 基本土層埋没。As-B群多く含む。(12号溝埋没土)

8. As-B一次堆積層。(12号溝埋没土)
9. 黄褐色土 As-B群多く含む。(19号溝埋没土)
10. 灰褐色シルト 砂のフミナ層多く含む。(28号溝埋没土)
11. 灰褐色シルト 1層に黒褐色土小塊少量含む。(28号溝埋没土)
12. 灰褐色シルト 1層に黒褐色土小塊少量含む。(28号溝埋没土)
13. 黄褐色土 白色ハミ少量含む。(34号溝埋没土)
14. 黄褐色土 白色ハミ少量含む。ローム粒多く含む。(34号溝埋没土)
- IIA. 黒色粘質土
- II B. 灰褐色シルト
- III. 黒色粘質土

C. 1:71.0m



第29回 田区溝土層断面(2)

0 1:60 2m

Ⅲ区13号溝(第28・72図 PL.19)

13号溝は、Ⅲ区北区の東端部で検出された。重複はない。中央でやや屈曲する。

走向は $N-3^{\circ}-W$ 、上幅は0.40~0.70m、深さは0.19m、調査長は11.90mである。底面は平坦で、底面の標高は北端部が0.01m高かった。

溝内は黒色土粒・塊を多く含み、白色軽石を含む灰色シルト・灰白色粘質土で埋まっていた。埋没土中から須恵器破片1点が出土したが、混入である。溝の時期は浅間B混土層に覆われていることから、中世以降と推定されるが、詳細は不明である。遺構の位置関係からすると中央区北東端で検出された43号溝、Ⅱ区南区西端で検出された13号溝は同一の溝の可能性はある。

Ⅲ区14号溝(第28・72図)

14号溝は、Ⅲ区南区の北東隅で検出された。1号土坑と重複しているが、1号土坑が新しい。

走向は $N-43^{\circ}-W$ 、上幅は0.57~1.00m、深さは0.11m、調査長は10.37mである。底面は平坦である。

埋没土は不明である。埋没土中から須恵器破片3点が出土したが、混入である。Ⅲ区14号溝の時期は浅間Bテフラ降下以降である。

Ⅲ区17号溝(第29・72図 PL.19)

17号溝は、Ⅲ区北区の東部溝群の1条として検出された。9号・11号溝と重複しているが、土層断面の観察からいずれの溝よりも新しいと判断した。一方、北側1/3は10号溝に切られており、10号溝より古いと判断される。

走向は $N-23^{\circ}-W$ 、上幅は0.54~0.80m、深さは0.33m、調査長は5.12mである。底面はやや凹凸がある。底面の標高は北端部が0.08m高かった。

遺憾ながら本溝の埋没土の記載が漏れており、埋没土は不明である。埋没土中から土器器破片2点、S字襖破片25点が出土したが、混入である。Ⅲ区17号溝の時期は重複関係から近世以降と推定される。

Ⅲ区18号溝(第29・72図 PL.19)

18号溝は、Ⅲ区北区の東部溝群の1条として検出された。9号~11号溝と重複しているが、土層断面の観察か

らいずれの溝よりも古いと判断した。

走向は $N-7^{\circ}-W$ 、上幅は0.78~0.97m、深さは0.28m、調査長は7.34mである。底面はやや凹凸がある。底面の標高は南部が0.07m高かった。

溝内は浅間B軽石を多く含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から馬の下顎石臼歯3本が解剖学的位置を保って出土している(第286図)。Ⅲ区18号溝の時期は埋没土の特徴から中世以降と推定される。

Ⅲ区19号溝(第29・72図 PL.19)

19号溝は、Ⅲ区北区の東部溝群のすぐ東側で検出された。東側に20号溝が並んで掘られている。重複はない。

走向は $N-10^{\circ}-W$ 、上幅は0.22~0.41m、深さは0.11m、調査長は12.50mである。底面はやや凹凸がある。底面の標高は南部が0.03m高かった。

溝内は浅間B軽石を多く含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。Ⅲ区19号溝の時期は埋没土の特徴から中世以降と推定される。

Ⅲ区20号溝(第29・72図 PL.19)

20号溝は、Ⅲ区北区の東部溝群のすぐ東側で検出された。西側に19号溝が並んで掘られている。重複はない。

走向は $N-9^{\circ}-W$ 、上幅は0.24~0.50m、深さは0.06m、調査長は10.80mである。底面はやや凹凸がある。

溝内は浅間B軽石を多く含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。Ⅲ区20号溝の時期は埋没土の特徴から中世以降と推定される。

Ⅲ区21号溝(第28・72図 PL.18)

21号溝は、Ⅲ区北区の東南部の8号溝の内側に平行して掘られていた。重複はない。

走向は $N-89^{\circ}-E$ 、上幅は0.50~0.80m、深さは0.07m、調査長は10.24mである。底面は平坦である。

溝内は灰色シルトで埋まっていた。埋没土中から土器器破片5点が出土したが、混入である。また、8号・21号溝周辺から土器器破片1点、襖8点、須恵器瓶破片1点、轆破片1点が出土したが、混入である。

Ⅲ区2号溝の時期は埋没土の特徴から中世以降と推定される。

Ⅲ区23号溝(第28・72図)

23号溝は、17号溝と18号溝の間で検出された。

走向はN-12°-W、上幅は0.15~0.39m、深さは0.01m、調査長は4.05mである。底面は平坦である。

溝内は浅間B軽石を混じる暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。Ⅲ区23号溝の時期は埋没土の特徴から浅間Bテフラ降下以降と推定される。

Ⅲ区24号溝(第29・72図)

24号溝は、17号溝と18号溝の間で検出された。17号・18号溝より古い。

走向はN-77°-E、上幅は0.44~0.50m、深さは0.08m、調査長は0.80mである。底面は平坦である。

埋没土は不明である。遺物は出土しなかった。Ⅲ区24号溝の時期は埋没土の特徴から浅間Bテフラ降下以降と推定される。

Ⅲ区36号溝(第28・72図 PL.19)

36号溝は、Ⅲ区中央区の北東隅で検出された。西側に37号溝が並んで掘られている。重複はない。

走向はN-29°-W、上幅は0.45~0.72m、深さは0.12m、調査長は4.05mである。底面はやや凹凸がある。底面の標高は南端部が0.03m高かった。

溝内は浅間B軽石を含む暗褐色土・黄褐色土で埋まっていた。埋没土中から土師器破片4点、鉢破片4点、甕破片50点、須恵器破片6点、碗破片2点が出土したが、混入である。Ⅲ区36号溝の時期は埋没土の特徴から浅間Bテフラ降下以降と推定される。

位置関係からして、北区東部溝群のいずれかの溝と同一の溝である可能性がある。

Ⅲ区37号溝(第28・72図 PL.19)

37号溝は、Ⅲ区中央区の北東隅で検出された。東側に36号溝が並んで掘られている。重複はない。

走向はN-27°-W、上幅は0.40~0.74m、深さは0.28m、調査長は8.90mである。底面はやや凹凸がある。底面の標高は南端部が0.12m高かった。

溝内は浅間B軽石を含む灰褐色砂質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。Ⅲ区37号溝の時期は埋没土の特徴から浅間Bテフラ降下以降と推定される。

Ⅲ区38号溝(第72図 PL.19)

38号溝は、Ⅲ区中央区の中央部で検出された。西側に4mほどの間隔を置いて39号溝が並んで掘られている。重複はない。南端部は緩やかに浅くなる。

走向はN-4°-W、上幅は0.62~1.30m、深さは0.22m、調査長は17.80mである。底面は緩やかな凹面である。底面の標高は南端部が0.05m高かった。

埋没土は遺憾ながら記載が無く、不明である。埋没土中から、土師器破片1点、坏破片8点、鉢破片6点、甕破片105点、S字甕破片16点、須恵器破片16点、碗破片6点が出土したが、いずれも混入である。下層にある古代や古墳時代の遺構内の遺物が混入したものと考えられる。遺構外出土遺物として、本溝出土の土鍾(第144図1)、土師器小型台付甕(第145図26)を図示した。Ⅲ区38号溝の時期は不明である。

本溝の位置は、北区8号溝の西部屈曲部の位置に一致しており、何らかの区画意識があったものと推定される。西側に並行する39号溝の北端も6号溝の東屈曲部に一致している。

Ⅲ区39号溝(第72図 PL.19)

39号溝は、Ⅲ区中央区の中央部で検出された。東側に4mほどの間隔を置いて38号溝が並んで掘られている。重複はない。南端部は緩やかに浅くなる。

走向はN-5°-W、上幅は0.64~1.20m、深さは0.14m、調査長は18.98mである。底面は緩やかな凹面である。底面の標高は北端部が0.02m高かった。

埋没土は遺憾ながら記載が無く、不明である。埋没土中から、土師器埴破片5点、坏破片7点、甕破片41点、S字甕破片5点、台付甕破片3点、坏破片14点、須恵器碗破片1点、灰釉陶器碗破片1点、瓶破片1点が出土した。下層にある古代や古墳時代の遺構内の遺物が混入したものと考えられる。遺構外出土遺物として、本溝出土の須恵器坏2点(第144図6・第145図10)を図示した。Ⅲ区39号溝の時期は不明である。

本溝の位置は、北区6号溝の東屈曲部に一致しており、何らかの区画意識があったものと推定される。東側に並行する38号溝の北端も北区8号溝の西部屈曲部の位置に一致している。

Ⅲ区40号溝(第28・72図 PL.19)

40号溝は、Ⅲ区中央区の西部で検出された。1号・2号溝、6号溝、41号溝と重複しているが、40号溝が新しい。

走向はN-43°-E、上幅は0.44~1.26m、深さは0.12m、調査長は14.96mである。底面はやや凹凸がある。底面の標高は西端部が0.03m高かった。

溝内は暗灰褐色土で埋まっていた。現代の水田耕土と同様な土である。埋没土中から土師器甕破片3点が出土したが、混入である。Ⅲ区40号溝の時期は埋没土の特徴から近世以降と推定される。

Ⅲ区41号溝(第72図)

41号溝は、Ⅲ区中央区の西部で検出された。40号・42号溝と重複しているが、新旧関係は不明である。

走向はN-75°-E、上幅は0.57~0.75m、深さは計測不能、調査長は4.72mである。底面はやや凹凸がある。

埋没土は遺憾ながら記載が無く、不明である。埋没土中から土師器壺破片1点、器台破片1点、坏破片1点、S字破片1点、須恵器瓶破片1点、甕破片1点が出土したが、混入である。遺構外出土遺物として、木溝出土の土師器小型丸底壺(第191図21)を図示した。Ⅲ区41号溝の時期は不明である。

Ⅲ区42号溝(第28・72図 PL.208 遺物観察表P.448)

42号溝は、Ⅲ区中央区の西部で検出された。1号・2号溝、41号溝と重複しているが、42号溝が新しい。

走向はN-45°-E、上幅は0.26~0.80m、深さは計測不能、調査長は5.77mである。底面はやや凹凸がある。

溝内は灰色砂層で埋まっていた。埋没土中から瀬戸・美濃陶器灯火受皿1点(第28図3)、土師器器台破片2点、甕破片1点、S字破片2点が出土した。土師器・須恵器は混入である。Ⅲ区42号溝の時期は出土遺物から近世以降と推定される。

(6) 耕作痕

Ⅲ区1号耕作痕(第72図 PL.20)

Ⅲ区の浅間Bテフラ直下面で水田を検出する段階で、水田面に多数の耕作痕を検出した。耕作痕はⅢ区の南区のほぼ全域に及んでいたが、北区では確認できなかった。

この耕作痕跡の掘り込み面は検出できなかったが、痕跡内には浅間B軽石が塊状になって堆積しており、浅間Bテフラより上層から掘り込まれたことは明らかである。

検出された耕作痕の位置・形状・規模を全域にわたって記録することはしなかったが、Ⅲ区南区の浅間Bテフラ直下水田の1枚の水田面内のみ、耕作痕の分布状況を記録した。痕跡の平面形状は半月形が多く、南北方向の列状に並んでいた。

埋没土中から施軸陶器8点、在地系土器焙烙等4点、土師器坏破片2点、甕破片8点、須恵器坏破片4点、瓶破片4点が出土した。土師器・須恵器は混入である。同様な耕作具痕跡はⅣ区・Ⅵ区でも検出されている。

耕作痕は、断面形状がV字状になっているものがあり、鋤先の痕跡と推定される。この耕作痕の時期は明確にできなかった。

(7) 復旧溝

Ⅲ区では5か所の復旧溝が検出された。いずれも浅間A軽石を多量に塊状に含む灰褐色土で埋まっており、浅間A軽石被災を復旧するための溝群である。南区で検出された5号復旧溝は形態的には溝でないが、ここでは連番で復旧溝とした。

浅間A軽石降下当時、ここがどのような土地利用がされていたかは軽石直下面が出土していないので明確ではないが、12世紀初頭の浅間Bテフラ降下時は水田であったことから、それ以後水田として利用されていた可能性が高い。したがって、Ⅲ区で検出された復旧溝も水田から水田への復旧を意図したものと考えられる。復旧溝群の位置や規模は、当時の地割の一部を表していることとなる。

浅間A軽石の降下は1873(天明3)年であることから、それ以前の近世の遺構とは重複関係になる。区ごとの全体図(1/300)では、網かけで図示した。

Ⅲ区1号復旧溝(第30図 PL.20)

1号復旧溝は、Ⅲ区南区の中央やや東側で検出された。重複遺構はない。溝群の全体の規模は南北5.07m、東西21.30m、溝の方向はN-10~15°-Wである。32条の復旧溝が検出された。

それぞれの溝の形態は不整形で、短辺は丸くなってい

4. Ⅲ区の遺構と遺物

る溝が多い。また断続的に底面のみが残る溝もあった。最も大きな溝の上幅は0.26～0.49m、深さは0.04m、長さは4.75mである。最も小さな溝の上幅は0.40～0.46m、深さは0.05m、長さは1.15mである。底面には緩やかな凹凸がある。遺物は出土しなかった。

Ⅲ区2号復旧溝(第31図 PL.21)

2号復旧溝は、Ⅲ区南区の東半部で検出された。東半分が攪乱によって壊されている。重複遺構はない。溝群の全体の規模は南北13.22m、東西10.95m、溝の方向はほぼN-85°-90°-Eである。27条の復旧溝が検出された。

それぞれの溝の形態は不整形で、短辺は丸くなっている溝が多い。また断続的に底面のみが残る溝もあった。最も大きな溝の上幅は0.22～0.51m、深さは0.05m、長さは3.60mである。最も小さな溝の上幅は0.28～0.35m、深さは0.01m、長さは1.30mである。底面には緩やかな凹凸がある。

埋没土中から土師器甕破片25点、須恵器環破片2点、椀破片1点、瓶破片1点、灰釉陶器椀破片1点、施釉陶器破片7点、在地系土器焙烙等破片2点、在地系土器皿破片1点が出土した。土師器・須恵器は混入である。

Ⅲ区3号復旧溝(第32図 PL.21)

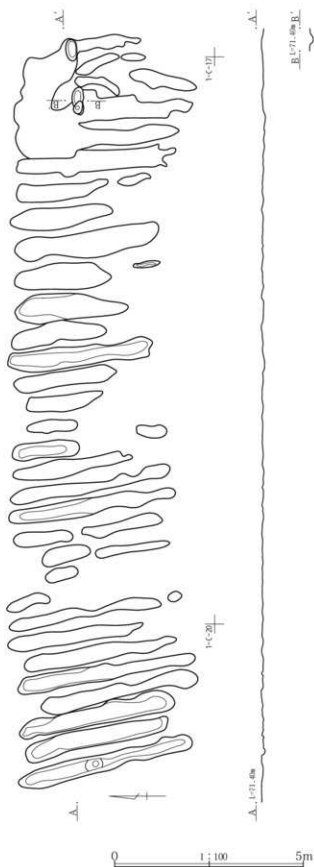
3号復旧溝は、Ⅲ区北区の中央部で検出された。北端部は発掘区域外になる。重複遺構はない。溝群の全体の規模は南北7.52m、東西3.10m、溝の方向はほぼN-3°-Wである。4条の復旧溝が検出された。

それぞれの溝の形態は比較的直線的になっていたが、短辺は丸くなっている溝もあった。溝の上幅は0.30～0.54m、深さは0.08m、残存長は6.28mである。底面はほぼ平坦である。

埋没土中から土師器甕破片1点、須恵器環破片1点、施釉陶器1点が出土した。土師器・須恵器は混入である。

Ⅲ区4号復旧溝(第32図 PL.21 遺物観察表P.448)

4号復旧溝は、Ⅲ区北区の北西部で検出された。西半分の残存状況は悪い。重複遺構はない。溝群の全体の規模は南北2.42m、東西21.70m、溝の方向はN-87°-90°-Wである。5条余の復旧溝が検出された。東側の



第30図 Ⅲ区1号復旧溝

第3章 中近世の遺構と遺物

長い3条と、西側の短い9本の溝は形態がやや異なり、連続する溝がどうかは疑問である。

それぞれの溝の形態は不整形で、短辺は丸くなっている溝が多い。また断続的に底面のみが残る溝もあった。東側の大きな溝の上幅は0.535～0.65m、深さは0.05m、長さは6.00mである。西側の小さな溝の上幅は0.28～0.29m、深さは0.02m、長さは0.70mである。底面は比較的平坦である。

埋没土中から在地系土器皿(第32図1)が出土した。

Ⅲ区5号復旧溝(第31・32図)

5号復旧溝は、Ⅲ区南区の南東部、2号復旧溝の南端で検出された。浅間A軽石の復旧にかかわる他の遺構は溝状であるのに対して、本遺構は土坑状である。ここで

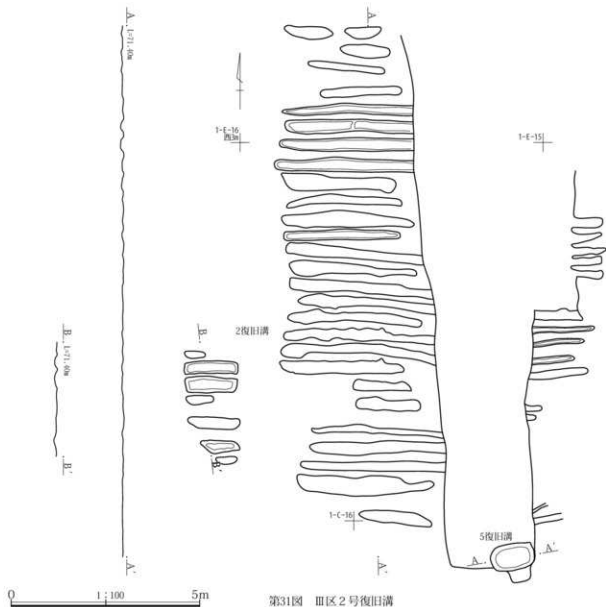
は連番で復旧溝とした。

形状は隅丸長方形で、規模は長辺1.18m、短辺0.70m、深さ0.15mである。底面は比較的平坦である。

遺物は出土しなかった。

Ⅲ区6号復旧溝(第32図 PL.21)

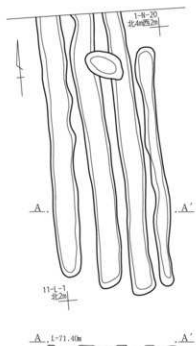
6号復旧溝は、Ⅲ区中央区の東部で検出された。小規模な溝2条が検出された。調査では土坑としたが、いずれも浅間A軽石を塊状に含み、軽石被災の復旧溝と形状・埋没土が共通することから、報告書では復旧溝とした。重複遺構はない。溝群の全体の規模は南北1.27m、東西3.35m、溝の方向はN-69°-Eである。遺物は出土しなかった。



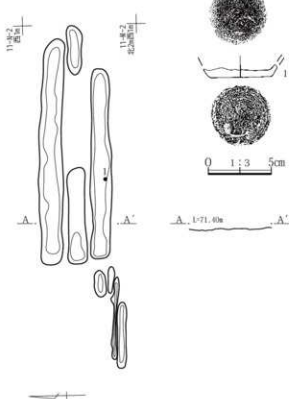
第31図 Ⅲ区2号復旧溝

4. Ⅲ区の遺構と遺物

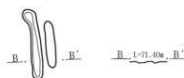
Ⅲ区 3号復旧溝



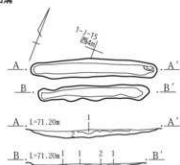
Ⅲ区 4号復旧溝



Ⅲ区 5号復旧溝

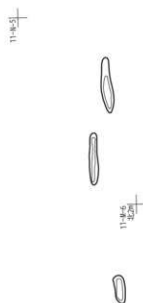


Ⅲ区 6号復旧溝



Ⅲ区 6号復旧溝A-A'・B-B'

1. 掘乱
2. As-A軽石



第32図 Ⅲ区 3号～6号復旧溝と出土遺物

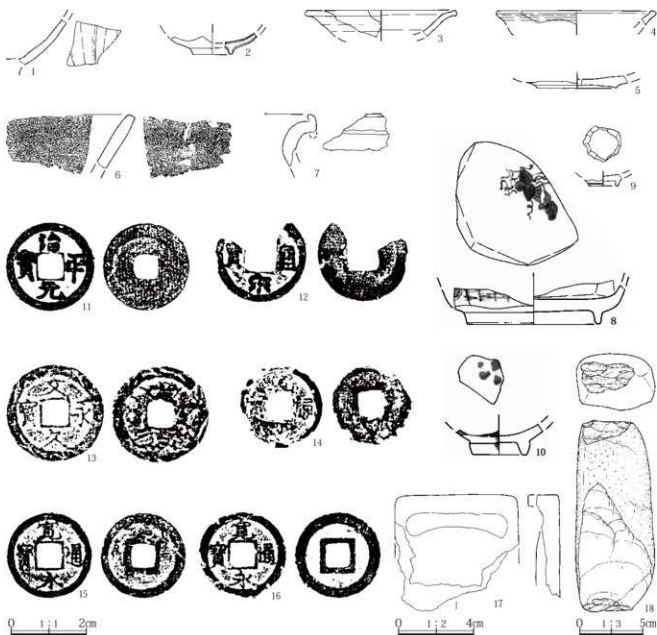
(8) 遺構外の出土遺物

(第33図 PL.208・209 遺物観察表P.448・451)

Ⅲ区調査の遺構確認中に、遺構に伴わない形で第11表のように多くの遺物を出土した。なかには下位の層位からの混入遺物も含まれていたが、ここでは12世紀以降の遺物のうち、やや古いものを中心に選択し、遺構外の遺物として18点を掲載した。このうち銭貨は出土したすべてを掲載した。なお、混入遺物については、出土相当層の遺構外遺物の項に掲載した。

1・2は13世紀の龍泉窯系青磁碗破片、7は13世紀中

頃～後半の常滑陶器鉢、6は13世紀とみられる常滑陶器片口鉢、3は16世紀末の瀬戸・美濃陶器折縁皿、5は17世紀の瀬戸・美濃陶器皿、4・9は時期不詳の磁器、瀬戸・美濃陶器破片である。9は二次加工されている。8は19世紀の肥前磁器鉢、10は17世紀の肥前磁器とみられる碗である。銭貨は治平元寶(11/1064年初鑄)、文久永寶(13/1863年初鑄?)、□宋通寶(12)、寛永通宝(14～16/新寛永)が出土している。17は硯破片、18はホルンフェルスの加工硯である。小口両端に敲打痕がある。



第33図 Ⅲ区遺構外の出土遺物(中近世)

5. IV区の遺構と遺物

(1) 土坑

IV区で検出された土坑は、南区で12基、中央区で2基、北区では検出されなかった。南区で検出された13基の土坑は発掘区全体に散在していた。それぞれの土坑の位置や規模は、P.433・434の表にまとめた。以下各遺構の調査所見を記載する。

a. 南区の土坑(第34図 PL.23)

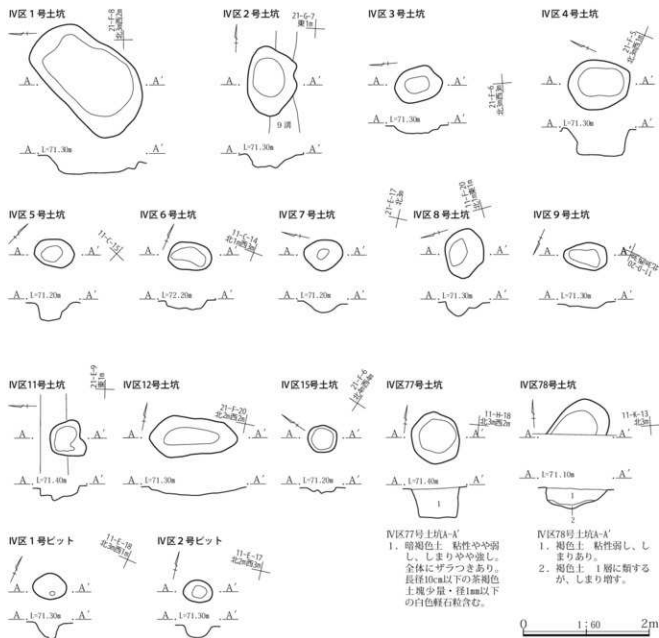
1号土坑は不整隅丸長方形で、2号溝の北側で検出さ

れた。埋没土は浅間B軽石を多量に含む。遺物は出土しなかった。

2号土坑は不整楕円形の土坑で、9号溝と重複していたが新旧関係は不明である。埋没土は浅間B軽石を多量に含む。遺物は出土しなかった。

3号土坑は小型の楕円形土坑で、2号溝の東側で並ぶように検出された。埋没土は浅間B軽石を多量に含む。遺物は出土しなかった。

4号土坑は楕円形の土坑で、さらに3号土坑の東側で検出された。埋没土は浅間B軽石を多量に含む。遺物は出土しなかった。



第34図 IV区土坑とピット

第3章 中世の遺構と遺物

5号土坑は小型楕円形の土坑で、1号溝の東側で検出された。埋没土は浅間B軽石を多量に含む。遺物は出土しなかった。

6号土坑は小型楕円形の土坑で、5号土坑のすぐ北東側で検出された。埋没土は浅間B軽石を多量に含む。遺物は出土しなかった。

7号土坑は小型楕円形の土坑で、1号溝の東側で検出された。埋没土は浅間B軽石を多量に含む。遺物は出土しなかった。

8号土坑は小型不整形楕円形で、1号溝の南側で検出された。埋没土は浅間B軽石を多量に含む。遺物は出土しなかった。

9号土坑は8号・12号土坑の南側で検出された。埋没土は浅間B軽石を多量に含む。遺物は出土しなかった。

11号土坑は小型の不整形の土坑で、IV区南西部8号溝の西側で検出された。遺物は出土しなかった。

12号土坑は楕円形の土坑で、8号土坑の西側で検出された。埋没土は浅間B軽石を多量に含む。遺物は出土しなかった。

15号土坑は小型円形の土坑で、19号溝の東側で古墳時代の遺構確認時に検出されたが、灰色砂質土で埋まっていたことから、本来は中世の遺構である。遺物は出土しなかった。

b. 中央区の土坑(第34図 PL.23・24)

77号土坑は円形の土坑で、1号溝の西側で検出された。断面形は筒形。茶褐色土塊や白色軽石を含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

78号土坑は蛭堀の土層断面で検出された。蛭堀より新しい。南半部は蛭堀を先に掘ってしまったために全形を記録できなかったが、楕円形と推定される。しまりのある褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

(2) ビット(第34図 PL.24)

IV区で検出したビットは、南区で2基、北区・中央区では検出されなかった。

それぞれのビットの位置や規模は、P.437の表にまとめた。以下各調査区のビットの調査所見を記載する。

a. 南区のビット

1号、2号ビットは、IV区東部1号溝の西側、南側微

高地の北縁辺部に検出された。いずれも浅い。埋没土に浅間B軽石を多く含む。遺物は出土しなかった。

(3) 堀

蛭堀〔びりびり〕(第35・36・71図 PL.24・209 遺物観察表P.448・449・451・468)

蛭堀はⅢ区南西部からIV区北東部にかけて検出された用水路である。「蛭堀」は地域の通称であり、調査記録の遺構名もそのままとした。流路の変遷、掘削時期についてはⅢ区の堀の項で記載した。

IV区では、中央区で21m、北区で16m分を調査した。IV区でも1層を除去した段階で遺構検出確認をおこなった。遺構検出面での上幅は4.30~6.30m、下幅は1.20~3.00m、深さは1.10m、断面形は台形である。

IV区の蛭堀の底面はやや凹凸があり、流路の変化に対応して底面が帯状に窪んでいた。土層断面では3回ほどの掘り直しが看取できる。最も深い底面を比較すると、北端の標高が0.10m高かった。Ⅲ区では堀の走行は直線的であったのに対して、IV区では中央区でやや西側に膨らみ、北区では中央の最深部の凹みが東側に湾曲していた。

埋没土中から中世から近現代にかけての陶磁器・軟質土器・砥石等が多数出土した。13世紀の中世龍泉窯系磁器碗(第35図1)、19世紀頃の製作地不詳灯火受皿(6)、近世から現代の磁器(2~4)、陶器(5・8・9)、在地系土器焙烙(7)、銭貨「政和通寶」(10/北宋1111年初鑄)、砥石(11)、近現代の下駄(12)を図示した。このほかに埋没土中から出土した遺物は、陶器破片18点、土器焙烙破片6点、在地系土器皿破片1点、近現代陶磁器破片60点、土器類4点、その他3点、土師器壺破片2点、鉢破片3点、S字甕33点、須恵器坏破片3点、瓶1点、甕破片8点である。中世の遺物も含まれていたが、ごく少量で掘削以前の遺物が使われていたか、混入したかのどちらかであろう。

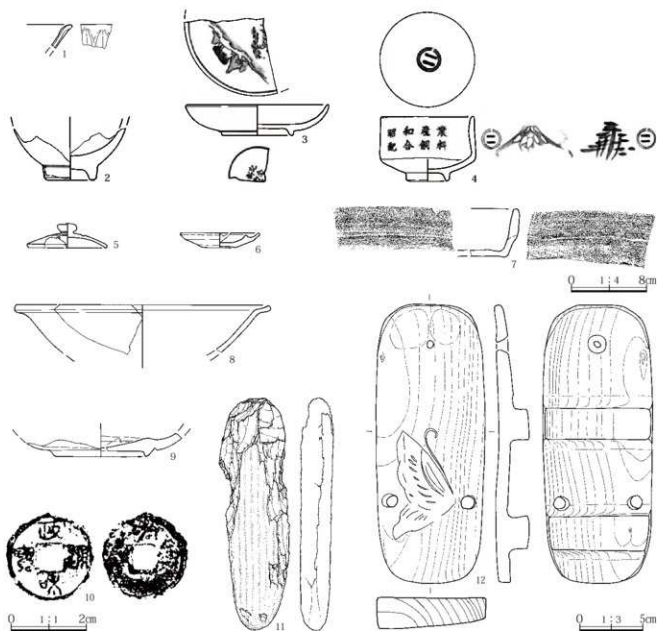
IV区では蛭堀の両岸で浅間A軽石被災後の復旧溝群が検出された。蛭堀の最も新しい時期の掘り込みは昭和土地改良工事まで使われており、当然復旧溝より新しい。しかし、1号、2号、4号復旧溝ともに、蛭堀の上端ラインで掘り込みが止まっており、復旧溝掘削時に蛭堀があったことを示している。したがって、復旧溝が浅間A軽石被災直後に掘られているとすれば、蛭堀の開削は浅

間山が噴火した天明3(1783)年より古いことになる。蛭堀の取水口である与六堰がいつ設置されたかは資料がなく不明であるが、慶長10(1605)年に開始された滝川用水整備の一環として近世前期に蛭堀が掘られたとすることと矛盾はない。

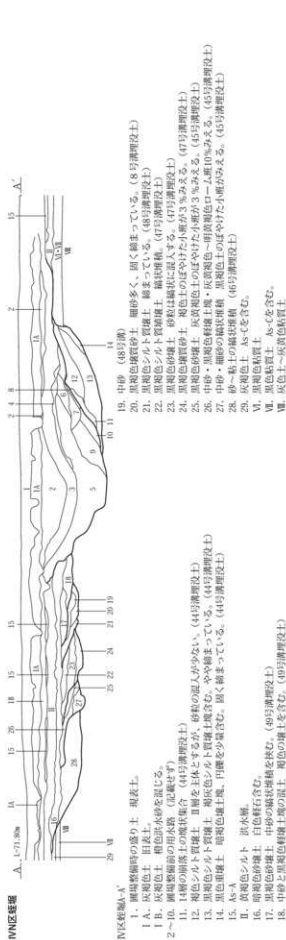
蛭堀の東脇には45号～49号溝の5条の溝が並行・重複して掘られていた。埋没土層の観察から、46号溝→45号溝→47号溝→48号溝→49号溝→蛭堀の順に新しく掘り直されたとみられる。北区の東側への湾曲部では、蛭堀がこれらの溝を切る形で掘られていた。Ⅲ区でも蛭堀の東側に1号・2号溝が並行して掘られており、Ⅳ区45号～

49号溝はこれの北側延長部分にあたる。Ⅲ区では2条の溝であったが、Ⅳ区で5条に変化する途中については、Ⅲ区とⅣ区の境界部が未調査であるので、詳細は不明である。

この45号～49号溝の水源は不明であるが、北西方向にある小河川である可能性が高い。蛭堀が発掘調査区域内でこの用水路に併行して掘られていることは、滝川用水整備にあたり、従前の用水系を意識して掘られた結果であろう。



第35図 IV区蛭堀の出土遺物



0 1:60 2m

第36図 IV区蛇堀・15号～49号溝の土層断面

- IV区断面A' 現表土
1. 暗灰色粘質の盛り土
2. 暗灰色粘質の盛り土
3. 暗灰色粘質の盛り土
4. 暗灰色粘質の盛り土
5. 暗灰色粘質の盛り土
6. 暗灰色粘質の盛り土
7. 暗灰色粘質の盛り土
8. 暗灰色粘質の盛り土
9. 暗灰色粘質の盛り土
10. 暗灰色粘質の盛り土
11. 暗灰色粘質の盛り土
12. 暗灰色粘質の盛り土
13. 暗灰色粘質の盛り土
14. 暗灰色粘質の盛り土
15. 暗灰色粘質の盛り土
16. 暗灰色粘質の盛り土
17. 暗灰色粘質の盛り土
18. 暗灰色粘質の盛り土
- IV区断面B'
1. 暗灰色粘質の盛り土
2. 暗灰色粘質の盛り土
3. 暗灰色粘質の盛り土
4. 暗灰色粘質の盛り土
5. 暗灰色粘質の盛り土
6. 暗灰色粘質の盛り土
7. 暗灰色粘質の盛り土
8. 暗灰色粘質の盛り土
9. 暗灰色粘質の盛り土
10. 暗灰色粘質の盛り土
11. 暗灰色粘質の盛り土
12. 暗灰色粘質の盛り土
13. 暗灰色粘質の盛り土
14. 暗灰色粘質の盛り土
15. 暗灰色粘質の盛り土
16. 暗灰色粘質の盛り土
17. 暗灰色粘質の盛り土
18. 暗灰色粘質の盛り土

(4) 溝

IV区では、18条の溝が検出された。各調査区で異なる年度に調査されたために、同一の溝であっても別の遺構番号が付されたものがある。これについては、報告時に番号の統合と付け替えを行った。その作業の結果については、溝の位置や規模とともにP.443・444の表にまとめた。以下各溝の調査所見を記載する。なお、溝の平面図は個別図を作成せず、1/300の各区全体図でこれに変えた。埋没土層断面図は個々に掲載した。

IV区45号～49号溝(第36・71図 PL.24)

45号～49号溝はIV区中央区北東部で、蛭堀の東側に接して検出された。北西部で蛭堀と重複関係があり、蛭堀の方が新しい。これらの溝群も蛭堀と同様にⅢ区南西部につながるが、Ⅲ区では2条の溝底面を検出した。西半部の3条は蛭堀に壊されたのであろう。

北区の調査では各条の溝名称を付さなかったが、中央区の調査で付した番号を北区にも延長して、計測・記載して報告した。

各溝の走向・規模はP.443・444の表に記載したが、全体としては走向N-25°-33°-E、上幅0.39～1.45m、深さ0.36～0.46m、調査長は28.00mである。各条の底面は平坦で、45号溝・47号溝は9cm、北西端が南東端より高かった。一方、47号溝は3cm、48号溝は8cm南東端が北西端より高かった。

埋没土は各溝で異なるが、暗褐色の粘質土や、洪水堆積物で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

埋没土に洪水堆積物があり流水が想定されることから、45号～49号溝は蛭堀より古い用水路で、順次東から西に掘り替えられた結果、5条の底面をもつ溝群となったものとみられる。与六堰から取水する蛭堀が整備される以前の用水路で、水源は北西の小河川であったと推定される。蛭堀はこの用水系を一部意識して掘られたのであろう。

IV区1号溝(第37・38・71図 PL.25・209・210)

1号溝はIV区東半部で、北区から中央区・南区にかけて検出された。2号・8号・10号溝と重複するが、新旧関係は不明である。東端は蛭堀につながっていた。

平成16年度に調査した南区では11-F-17グリッドに

ある1号溝と2号溝の交差点がわからなかったため、東端から西端までを一連の1号溝として記録した。しかし、20年度に実施された中央区の調査によって、11-F-17グリッドではほぼ直交する2条の溝があることが判明した。整理時に溝の走向を再検討した結果、11-F-17グリッドで交差する東西方向の溝を2号溝、南北方向の溝を1号溝として報告することとした。

しかし、南区で2号溝として報告した東西方向の溝の遺物は、1号溝として取りあげられている。この遺物を2号溝の遺物として分離することはできない。一方2号溝を分離して調査した中央区では遺物は出土しなかった。幸い1号溝と2号溝は同じ埋没土で埋まっており、圃場整備直前まで同時に機能していた。遺憾ながら溝ごとに掘削時期の新旧を追及することはできなくなったが、遺物の記載は両溝の遺物として後述した。

1号溝は交差点から南側は南東へ流れた後、11-C-15グリッドで東方向に向きを変えて流れる。交差点から北側はほぼ直線状であるが、北区11-M-19グリッドで北西方向に屈曲している。直線部の走向はN-15°-Wである。溝の規模は上幅0.60～2.90m、深さ0.28～0.69m、調査長は3地区合わせて87.10mである。底面は平坦で、中央区北西端が最も高く、南東端より0.54m高かった。

本溝は浅間B軽石を含む暗褐色土層を切って掘られていた。溝内は南区東端では黒色土塊を含む暗褐色土や灰白色シルトで埋まっており、浅間A軽石を含む暗褐色土で覆われていた。埋没土中から陶磁器破片25点、土器破片18点出土した。調査時の聞き込み調査によって、IV区1号・2号溝は昭和50年頃の圃場整備まで使われていたことがわかってきた。中央区でも圃場整備直前まで機能していたとされ、浅間A軽石を混入する暗褐色土で埋まっていた。いずれも浅間A軽石の一次堆積層との重複関係は不明である。

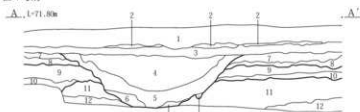
IV区1B号溝(第71図)

1号溝の南区屈曲部から南側に掘られていた部分を1B号溝として報告する。1号溝とともに機能していたと推定される。

走向はN-14°-W、上幅1.23～2.70m、深さ0.84m、調査長8.04mである。底面は平坦で、中央区南端が1号溝合流部より0.54m高かった。

第3章 中近世の遺構と遺物

IV区1号溝



IV区1号溝A-A'

1. 表土
2. 暗褐色土 白色軽石(As-A?)を多く含む。
3. 暗褐色土 白色軽石(As-A?)を少量含む。
4. 暗褐色土質土 黒色土塊を非常に多く含む。(1号溝埋没土)
5. 灰白色砂層 少量の粘土質土を含む。(1号溝埋没土)
6. 灰白色粘土層 砂層のラミナ堆積が見られる。(1号溝埋没土)
7. 暗褐色土 As-Bを少量含む。
8. 暗褐色土 As-Bを非常に多く含む。
9. 黒褐色粘土層
10. 黒褐色粘土層 白色軽石(As-C)を少量含む。
11. 灰白色シルト 凹凸ゆる水性ローム
12. As-Yp

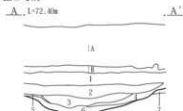
IV区1号・43号溝



IV区1号・43号溝B-B'

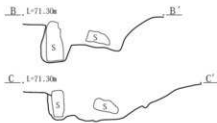
1. 灰黄色土 洪水由来層。現代前期
(堀場整備直前まで機能)
2. 暗褐色土 As-A混入層。現代前期
(堀場整備直前まで機能)
3. 黒褐色土 As-A混入層。現代前期
(堀場整備直前まで機能)
4. 暗褐色土 As-A混入層。現代前期
(堀場整備直前まで機能)
5. 灰褐色土 As-B混入層。B混耕作上。
6. 黒色粘土土 As-B下水田面形成層。

IV区2号溝



IV区2号溝A-A'

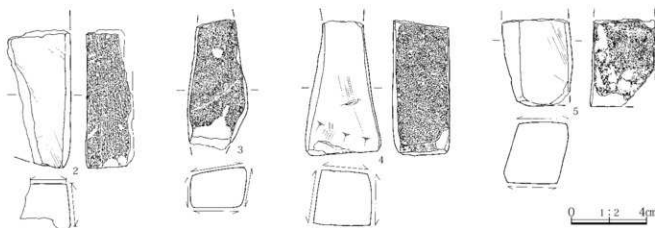
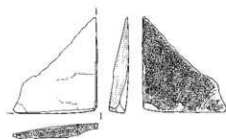
- 1A. 灰褐色土 旧表土。
- 1B. 灰褐色土 褐色洪水砂を混じる。
1. 暗褐色土 As-A混入。砂互層。現代前期。
(43号溝埋没土)
2. 黒褐色土 As-A混入。砂互層。現代前期。
3. 暗褐色土 As-A混入。黄色砂地混入。3・4下面にビニール片あり。現代前期。
4. 黒褐色土 As-A混入。砂互層。3・4下面にビニール片あり。現代前期。
5. 暗褐色土 As-A混入。砂互層。現代前期。
6. 黒褐色土 泥上。
7. 灰褐色土 As-B混入層。



IV区9号溝



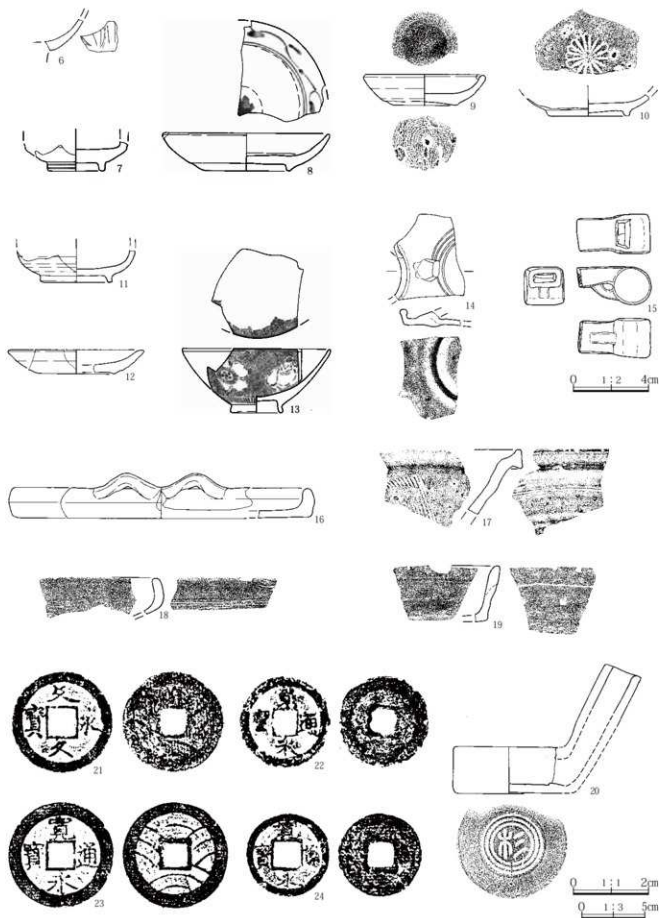
0 1:60 2m



0 1:2 4cm

第37図 IV区溝土層断面と出土遺物(1)

5. IV区の遺構と遺物



第38図 IV区1号・2号溝の出土遺物(2)

IV区2号溝(第37・38・71図 PL.25)

2号溝はIV区南部を東西に貫流する溝で、南区から中央区の南端にかけて検出された。1号溝と交差するが、昭和50年ころの圃場整備までは同時に使われていた。また東端では蛭居につながっていた。

2号溝は3ラインから西側は直線的であるが、東側はやや北へ湾曲し、東端はやや北を向いて流れる。直線部の走向はN-90°-Eである。溝の規模は上幅0.89~3.19m、深さ0.40~0.69m、調査長は2地区合わせて95.80mである。底面は平坦で、南区西端が最も高く、東端より0.80m高かった。

本溝は浅間B軽石を含む暗褐色土層を切って掘られていた。溝内は南区東端では黒色土塊を含む暗褐色土や灰白色シルトで埋まっており、浅間A軽石を含む暗褐色土で覆われていた。調査時の聞き込み調査によって、本溝と1号溝は昭和50年ころの圃場整備まで使われていたことがわかっている。浅間A軽石の一次堆積層との重複関係はなかった。

IV区1号・2号溝の出土遺物

(第37・38図 PL.209・210 遺物観察表P.449・451・452)

1号・2号両溝からは比較的多くの土器が出土した。埋没土中からは、土師器壺破片1点、高坏破片1点、坏破片12点、甕破片33点、台付甕破片2点、須恵器瓶破片1点、甕破片3点が出土しているが、これらは混入である。

溝の時期に係るとみられる遺物の中から、13世紀の竜泉窯系青磁碗(第38図6)、19世紀前半~中頃の肥前磁器皿(8)、江戸時代の肥前磁器筒形碗(7)、近現代磁器碗(13)、瀬戸・美濃陶器皿(10・12)、腰銘碗(11)、製作地不明陶器腹取か(14)、瀬戸陶器すり鉢(17)、在地系土器皿(9)、焙烙(16・18・19)、搬入系土器練炭起こし(20)を図示した。中世の小破片も混じているが、大半は近現代の遺物である。陶磁器や在地系土器に加えて、陶製のホイッスル(15)が1点出土した。また銭貨4点「文久永寶」(21/1038年初鋳)、「寛永通宝」(22・23)「寛永通宝」(24/新寛永)が出土している。また、破破片(第37図1)、切り砥石(2~5)が出土した。このほかに埋没土中からは在地系土器の焙烙・銅破片3点、皿破片2点、火鉢破片1点が出土した。

IV区1号・2号溝の掘削時期は、層位的には浅間B混

土形成期以降とは言えるが、浅間A軽石降下との直接の関係は不明である。出土遺物で考えるとすれば、17世紀前後の遺物がその時期を示唆している可能性があるだろう。

IV区43号溝(第37・71図 PL.25)

43号溝はIV区中央区で、1号溝と並行して検出された。1号溝とは南端部で重複するが新旧関係は不明である。走向はN-16°-W、上幅0.26~0.72m、深さ0.18m、調査長は24.00mである。断面は緩やかな凹地状。底面は平坦で、中央区北端が南端より0.04m高かった。溝内は浅間A軽石を含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。IV区43号溝の掘削時期は埋没土の特徴から浅間A軽石降下以降と考えられる。

IV区8号溝(第71図 PL.26)

8号溝はIV区南西隅から北東部まで、北区から中央区・南区にかけて斜めに横断する溝である。1号・2号溝と重複するが、新旧関係は不明である。

走向はN-44~47°-E、上幅0.15~0.30m、深さ0.09m、調査長は3地区合わせて64.95mである。北東部の1号溝と重複する地点から北側に微かな溝跡があり、さらに北区北壁まで13mほど長くなる可能性がある。底面は平坦で、北区南端が最も高く、南西端より0.08m高かった。

埋没土は不明である。10号溝と同様な性格をもつ溝と推定される。遺物は出土しなかった。IV区8号溝の掘削時期は遺構確認面の共通性から、中世以降と推定される。

IV区9号溝(第37・71図)

9号溝はIV区西部を北区北端から南区南端まで縦断する溝である。50号溝と重複するが、新旧関係は不明である。また、浅間Bテフラより上層からの耕作痕跡よりは新しい。

走向はN-7°-E、上幅0.28~0.66m、深さ0.07m、調査長25.00mである。底面は平坦で、北区南端が最も高く、北端より0.03m高かった。

埋没土は不明である。走向を異にするが、規模や形状は8号・10号溝等と似ており、同様な性格をもつ溝と推定される。遺物は出土しなかった。IV区9号溝の掘削時期は遺構確認面の共通性から、中世以降と推定される。

IV区10号溝(第71図 PL.26)

10号溝はIV区西部南区中央から北区北東端まで斜めに横断する溝である。1号溝・蛭廻と重複するが、新旧関係は不明である。中央区・北区では2条の細い溝が並行する形状であるが、全体で10号溝とした。

走向はN-50°-51°-E、上幅0.20~0.78m、深さ0.04~0.10m、調査長は3地区合わせ51.80mである。底面は平坦で、北区南端が最も高く、北端より0.13m高かった。

埋没土は不明である。走向を異にするが、規模や形状は8号・9号溝等と似ており、同様な性格をもつ溝と推定される。遺物は出土しなかった。IV区10号溝の掘削時期は遺構確認面の共通性から、中世以降と推定される。

IV区11号溝(第71図 PL.26)

11号溝はIV区西部の南区中央部から北区北東端まで斜めに横断する溝である。10号溝の北側を並走し、中央区と北区の境界部では接近し接する。南区・中央区では途切れ途切れに検出された。南区の南西部で検出された12号・13号溝も間隔は開いているが、11号溝の延長部と考えられる。1号溝・蛭廻と重複するが、新旧関係は不明である。北区では2条の細い溝が並行する形状であるが、全体で11号溝とした。中央区では微かな痕跡のみの記録となった。

走向はN-46°-55°-E、上幅0.15~0.43m、深さ0.02~0.04m、調査長は3地区合わせ46.3mである。底面は平坦で、北区南端が最も高く、北端より0.14m高かった。

埋没土は不明である。走向を異にするが、規模や形状は8号・11号溝等と似ており、同様な性格をもつ溝と推定される。遺物は出土しなかった。IV区11号溝の掘削時期は遺構確認面の共通性から、中世以降と推定される。

IV区12号溝(第71図 PL.26)

12号溝はIV区南区西部の11号溝南西延長部で検出された。途切れてはいるが11号溝と一連の遺構と推定される。

走向はN-42°-E、上幅0.38~0.57m、深さ0.09m、調査長は2.60mである。底面は平坦で、北東端が南西端より0.01m高かった。

埋没土は不明である。走向を異にするが、規模や形状は8号・10号溝等と似ており、同様な性格をもつ溝と推定される。遺物は出土しなかった。IV区12号溝の掘削時期は遺構確認面の共通性から、中世以降と推定される。

期は遺構確認面の共通性から中世以降と推定される。

IV区13号溝(第71図 PL.26)

13号溝はIV区南区南西部で、12号溝と同様に11号溝南西延長部で検出された。途切れてはいるが11号溝と一連の遺構と推定される。

走向はN-48°-E、上幅0.20~0.40m、深さ0.03m、調査長は4.77mである。底面は平坦で、北東端が南西端より0.03m高かった。

埋没土は不明である。走向を異にするが、規模や形状は8号・10号溝等と似ており、同様な性格をもつ溝と推定される。遺物は出土しなかった。IV区13号溝の掘削時期は遺構確認面の共通性から、中世以降と推定される。

IV区14号溝(第71図)

14号溝はIV区南区南西部で、8号溝の北側に接して検出された。

走向はN-38°-E、上幅0.28~0.38m、深さ0.07m、調査長は1.43mである。底面は平坦で、両端の高さは同じであった。

埋没土は不明である。走向を異にするが、規模や形状は8号・10号溝等と似ており、同様な性格をもつ溝と推定される。遺物は出土しなかった。IV区14号溝の掘削時期は遺構確認面の共通性から中世以降と推定される。

IV区15号溝(第71図)

15号溝はIV区南区西部で2号溝に直交して検出された。2号溝との新旧関係は不明である。西側に浅間Bテフラ直下のアゼが接している。東側にある南北方向の9号溝との間隔は約11mである。

走向はN-9°-E、上幅0.38~0.60m、深さ0.03m、調査長は2.08mである。底面は平坦で、南端が北端より0.02m高かった。

埋没土は不明である。走向を異にするが、規模や形状は8号・9号・10号溝等と似ており、同様な性格をもつ溝と推定される。遺物は出土しなかった。IV区15号溝の掘削時期は遺構確認面の共通性から、中世以降と推定される。

IV区50号溝(第71図)

50号溝は北区のほぼ中央を東西に貫くように掘られていた。1号・8号・9号溝と重複するが、新旧関係は不明である。

走向はN-9°-E、上幅0.28~0.52m、深さ0.03m、調査長は東端の微かな痕跡部分を含めて82.00mである。底面は平坦で、西端が東端より0.19m高かった。

埋没土は不明である。走向を異にするが、規模や形状は8号・9号・10号溝等と似ており、同様な性格をもつ溝と推定される。遺物は出土しなかった。

8号~14号・50号溝は規模が小さく、浅い溝であるが、1号・2号・9号・50号溝で囲まれた台形地割を斜めに区切るように掘られている。8号溝は、台形地割の南西隅交点と北東隅交点を結んだ線上にあり、10号~14号溝は南西隅交点と北東隅から9mほど南に下がった地点を結ぶ線上にある。これらの小規模な溝の性格は調査では明らかにできなかった。またIV区50号溝の掘削時期は遺構確認の共通性から、中世以降と推定される。

(5) 耕作痕

IV区耕作痕(第71図 PL.26-27)

IV区の浅間Bテフラ直下で水田を検出する段階で、水田面に多数の耕作痕を確認した。耕作痕はIV区のほぼ全域に及んでいた。この耕作痕の掘り込み面は検出できなかったが、痕跡内には浅間B軽石が塊状になって堆積しており、浅間Bテフラより上層から掘り込まれたことは明らかである。浅間Bテフラ下水田のアゼ上からも検出されている

遺構の全域にわたって痕跡位置・形状や規模は記録しなかったが、IV区北区の21区4ラインと9ラインと10ラインの間、H-IラインとK-Lラインの間の400mについて、痕跡の平面分布測量と断面形の石膏型採取をおこなった。(PL.27)痕跡の平面形状は半月形が多く、列状に並んでいた。遺物は出土しなかった。

耕作痕の断面形状はV字状になっているものがあり、鋤先の痕跡と推定される。この耕作痕の時期は明らかにできなかった。

(6) 復旧溝

IV区では4か所の復旧溝群が検出された。いずれも浅

間A軽石を多量に塊状に含む灰褐色土で埋まっており、浅間A軽石被災を復旧するための溝群である。

浅間A軽石降下当時、ここがどのような土地利用がされていたかは軽石直下面が出土していないので明確ではないが、12世紀初頭の浅間Bテフラ降下時は水田であったことから、それ以後水田として利用されていた可能性が高い。したがって、IV区で検出された復旧溝も水田から水田への復旧を意図したものと考えられる。復旧溝群の位置や規模は、当時の地割の一部を表していることになろう。

浅間A軽石の降下は1873(天明3)年であることからIV区で検出された復旧溝はそれ以前の近世の遺構とは重複関係になる。区ごとの全体図(1/300)では、網かけて重ねている。IV区1号復旧溝は45号~49号溝が、2号復旧溝は10号溝・11号溝が埋まった後掘られている。また、3号復旧溝は9号溝・50号溝が埋まった後掘られている。したがって、45号~48号溝、10号溝、11号溝、9号溝、50号溝は1873(天明3)年より古い遺構と考えることができる。

また1号・2号・4号復旧溝は、蛭堀の両岸に検出されている。蛭堀は慶長年間に整備された滝川用水の与六堰から引かれた用水路である。復旧溝掘削時にはすでに掘られていた用水路であり、復旧溝は蛭堀を含めた地割りの中で施工された復旧工事であったことがわかる。

IV区1号復旧溝

(第39図 PL.27・28 遺物観察表P.449-450)

1号復旧溝は、IV区北区北東隅の蛭堀左岸で検出された。45号~48号溝より新しい。溝群の全体の規模は南北15.20m、東西8.19m、溝の方向はN-76°-Eである。31条の復旧溝が検出された。

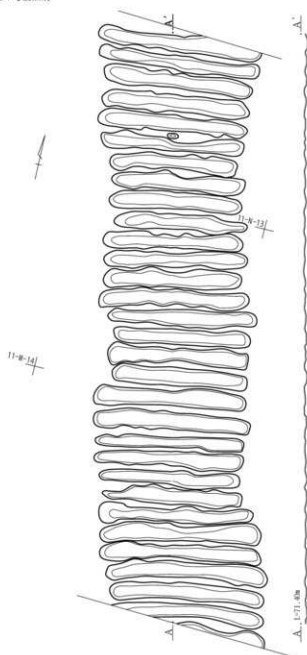
45号~49号溝と重複するが、復旧溝の方が新しい。

それぞれの溝の形態は帯状であるが不整形で、長辺は直線的でなく、短辺は丸くなっている。最も大きな溝の上幅は0.38~0.56m、深さは0.05m、長さは4.26mである。最も小さな溝の上幅は0.31~0.50m、深さは0.05m、長さは3.34mである。底面には緩やかな凹凸がある。

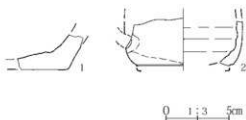
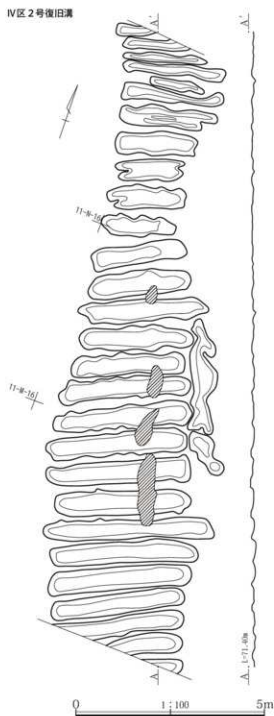
埋没土中から江戸時代の美濃陶器汁次(第39図2)、瀬戸陶器すり鉢(1)が出土した。

1号復旧溝東端は、蛭堀左岸から0.2~1mのところ

IV区1号復旧溝

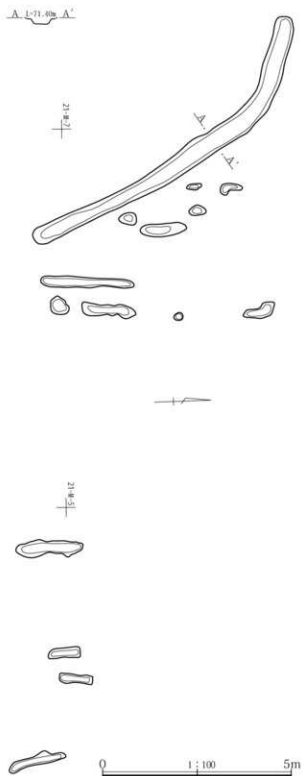


IV区2号復旧溝



第39図 IV区1号・2号復旧溝と出土遺物

で止まっており、復旧溝掘削時には蛭堀はすでに掘られていたと推定される。



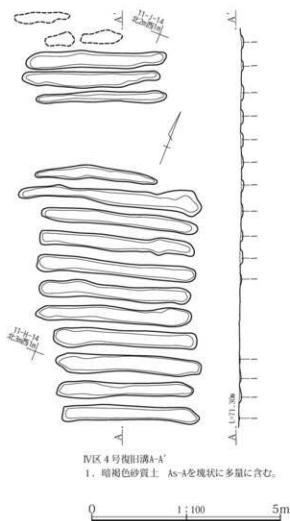
第40図 IV区3号復旧溝

IV区2号復旧溝

(第39図 PL.27・28・210 遺物観察表P.450)

2号復旧溝は、IV区北東部の蛭堀右岸北側で検出された。南側にはほぼ同様な走向の4号復旧溝がある。10号・11号溝と重複しているが、復旧溝が新しい。溝群の全体の規模は南北15.70m、東西7.57m、溝の方向はほぼN-66°-Eである。28条の復旧溝が検出された。北端は苑区域外となる。南端は中央区の調査では検出されなかった。

それぞれの溝の形態は不整形で、短辺は丸くなっている。中央部で東側にほぼ直交する方向の1条の溝があった。最も大きな溝の上幅は0.40~0.58m、深さは0.07m、長さは4.48mである。最も小さな溝の上幅は0.24~0.30m、深さは0.01m、長さは1.45mである。底には緩やかな凹凸がある。



IV区4号復旧溝A-A'

1. 暗褐色砂質土 As-Aを塊状に多量に含む。

第41図 IV区4号復旧溝

埋没土中から葉英(第39図3)が出土したが、混入である。この葉英はピンファイヤーで、江戸時代末期から明治時代に使用された。

2号復旧溝東端は、蛭堀右岸から0.6~1mのところまで止まっており、復旧溝掘削時には蛭堀はすでに掘られていたと推定される。

IV区3号復旧溝(第40図 PL.28)

3号復旧溝は、IV区北区北西部で浅間A軽石を多く含む暗褐色土で埋まっていた。他の復旧溝のように連続した溝の列ではなかったが、埋没土が共通すること、一部に並行する溝があること等から、復旧溝として記録した。やや溝間の間隔があくことから畝のサク溝の可能性もある。重複遺構はない。溝群の全体の規模は南北5.32m、東西15.54m、溝の方向はほぼ $N-7^{\circ}-E$ である。復元的に数えると9~10条の溝が検出された。

それぞれの溝の形態は不整形で、一部に西に湾曲するものも含まれている。短辺は丸くなっている溝もあった。最も長い溝の上幅は0.18~0.30m、深さは0.13m、残存長は2.47mである。最も短い溝の上幅は0.15~0.17m、深さは0.02m、残存長は0.42mである。底面には緩やかな凹凸がある。

遺物は出土しなかった。

IV区4号復旧溝(第41図 PL.28)

4号復旧溝は、IV区中央区の東部、蛭堀右岸南側で検出された。北側にはほぼ同様な走向の2号復旧溝がある。溝群の全体の規模は南北10.80m、東西4.90m、溝の方向は $N-72^{\circ}-E$ である。14条の復旧溝と2条の痕跡が検出された。

それぞれの溝の形態は不整形で、短辺は丸くなっている。中央部で東側にほぼ直交する方向の1条の溝があった。最も大きな溝の上幅は0.26~0.64m、深さは0.07m、長さは4.80mである。最も小さな溝の上幅は0.15~0.35m、深さは0.07m、長さは3.30mである。底面には緩やかな凹凸がある。

遺物は出土しなかった。

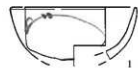
4号復旧溝東端は、2号復旧溝と同様に、蛭堀右岸から0.1mのところまで止まっており、復旧溝掘削時には蛭堀はすでに掘られていたと推定される。

(7) 遺構外の出土遺物

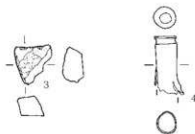
(第42図 PL.210 遺物観察表P.449・450・452)

IV区遺構確認中に、遺構に伴わない形で第11表のような遺物を出土した。なかには下位の層位からの混入遺物も含まれていたが、ここでは12世紀以降の遺物のうち、時期を示すやや大型の遺物を中心に、遺構外の遺物4点を掲載した。なお、混入遺物については、出土相当層の遺構外遺物の項に掲載した。

第42図1は肥前磁器碗破片で18~19世紀前半、2は古瀬戸の盤類破片で15世紀の遺物である。3は玉髓の火打石破片、4は葉英の破片である。



0 1:3 5cm



0 1:2 4cm

第42図 IV区遺構外の出土遺物(中近世)

6. V区の遺構と遺物

(1) 土坑(第43図 PL.29)

V区北区および南区では、検出された土坑はなかった。中央区では、5基の土坑が検出された。それぞれの土坑の位置や規模は、P.434の表にまとめた。以下各遺構の調査所見を記載する。

a. 中央区の土坑

79号土坑は不整形形の土坑で、7号溝の北側で検出された。上層はザラザラした黒褐色土、下層は粘性のある暗褐色土塊と褐色土塊の混土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

80号土坑は隅丸長方形の土坑で、断面形は箱形。V区南西部で単独で検出された。長軸は5号溝や7号溝に直交する。79号土坑の下層と同様な土で埋まっていたが、褐色土塊は小さい。遺物は出土しなかった。

81号、82号土坑は5号溝の東側に平行して2基が並んで検出された。81号土坑は不整形形の土坑で、断面形は浅いボール状。ザラザラした暗褐色土で埋まっていた。

遺物は出土しなかった。

82号土坑は小型の隅丸長方形の土坑で、81号土坑と同様にザラザラした暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

83号土坑は不整形形の土坑で、底面に凹凸が著しい。81号、82号土坑と同様なザラザラした暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

(2) ビット(第43図 PL.29)

V区北区および南区で検出されたビットは無かった。西区では、2基のビットが検出された。

それぞれのビットの位置や規模は、P.439の表にまとめた。以下ビットの調査所見を記載する。

a. 西区のビット

西区では2基のビットが、中央部に散在していた。

99号ビットは隅丸方形のビットで浅い。粘性とザラつきのある灰褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。100号ビットは不整形形のビットでごく浅い。粘性のややある暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。



第43図 V区土坑とビット

0 1:60 2m

(3) 溝

V区では、10条の溝が検出された。各調査区で異なる年度に調査されたために、同一の溝であっても別の遺構番号が付されたものがある。これについては、報告時に番号の統合と付け替えを行った。その作業の結果については、溝の位置や規模とともにP.444の表にまとめた。以下各溝の調査所見を記載する。なお、溝の平面図は個別図を作成せず、1/300の各区全体図でこれに変えた。埋没土層断面図は個々に掲載した。

V区2号溝(第70図 PL.30)

2号溝はV区南区東部で東西方向に検出された。西端は6号溝に合流するが、東端はIV区2号溝に連続する。6号溝との新旧関係はない。同時に使用されていたと考えられる。

溝の走向はN-90°-E、上幅1.18~2.00m、深さ0.39m、調査長5.20mである。底面は平坦で、6号溝との合流地点が最も高く、東端より0.05m高かった。

V区2号溝は浅間B軽石を含む暗褐色土層を切って掘られていた。溝内はIV区2号溝と同様な黒色土塊を含む暗褐色土や灰白色シルトで埋まっていた。調査時の聞き込み調査によって、昭和50年ころの圃場整備まで使われていたことがわかっている。遺物は出土しなかった。

V区3号溝(第44・70図 PL.30・210 遺物観察表P.468)

3号溝はV区南区南西部から西区にかけて検出された東西方向の溝である。11-D-14グリッドで、6号溝が西に屈曲する部分から西を3号溝とした。屈曲部は直角に曲がっているが、25mほど西でやや南に走向を変える。6号溝との新旧関係は無かった。同時に使用されていたと考えられる。

溝の走向はN-90°-E、上幅1.04~1.61m、深さ0.30~0.37m、調査長は両区合わせて63.99mである。底面は平坦で、西端が東端より0.31m高かった。西方から流れてきた水が6号溝から2号溝へと導かれていたものと推定される。

本溝は浅間B軽石を含む暗褐色土層を切って掘られていた。溝内は暗灰褐色土や黒褐色砂質土で埋まっていた。一部にビニール片が含まれており、V区3号溝も昭和50年ころの圃場整備まで使われていたのであろう。遺物は

埋没土中から、近現代の下駄(第44図1)、近現代陶磁器破片36点、土器類7点、近世国産陶磁器破片4点、在地系土器焙烙破片8点、土師器甕破片1点、須恵器甕破片1点が出土した。土師器・須恵器は混入である。また埋没土中から石鏝(第272図3)が出土したが遺構外遺物として図示した。

V区4号溝(第44・70図 PL.29)

4号溝は3号溝と6号溝の屈曲点から南に検出された南北方向の溝である。北端は6号溝に接し、南端は発掘区域外となる。6号溝との新旧関係は不明である。

溝の走向はN-7°-W、上幅0.50~0.86m、深さ0.21m、調査長は15.39mである。底面は平坦で、南北両端が最も高く、中央部が0.07m低くなっていた。

本溝は浅間B軽石を含む暗褐色土層を切って掘られていたが、遺憾ながら埋没土の記載はない。遺物は出土しなかった。V区4号溝の時期は浅間Bテフラ降下以降であるが、詳細は不明である。

V区5号溝(第44・70図 PL.30・31 遺物観察表P.449)

5号溝はV区南区北部から西区にかけて検出された東西方向の溝である。11-19ラインと21-11ラインのところで2度、北側へほぼ直角に屈曲する。V区のはほぼ東西を貫通しており、西端はさらにVI区6号溝に連続する。東端はV区6号溝に合流する。6号溝との新旧関係は無かった。同時に使用されていたと考えられる。

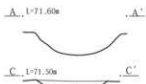
21-9ライン付近では南に8.8mほど突出する小規模な溝が検出されたが、同時期のものか、どのような性格のものか詳細は不明である。

溝の走向は中央の直線部分でN-82°-E、上幅0.94~2.72m、深さ0.35m、調査長は両区合わせて延長131.76mである。底面は平坦で、西端が東端より0.20m高かった。西方から流れてきた水が6号溝から2号溝へと導かれていたものと推定される。

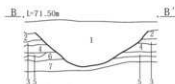
本溝は浅間B軽石を含む暗褐色土層を切って掘られていた。溝内は暗灰褐色土や黒褐色砂質土で埋まっていた。一部にビニール片が含まれており、V区5号溝も昭和50年ころの圃場整備まで使われていた。遺物は埋没土中から近現代土器類1点、土師器甕破片8点、S字甕破片6点が出土した。土師器は混入である。在地系土器皿(第

第3章 中近世の遺構と遺物

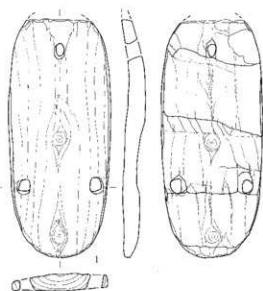
V区3号溝



V区3号溝C-C'
1. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。埋土中にビニール片あり。ほぼ現代(圃場整備前)まで使われていた溝である。



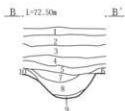
V区3号溝B-B'
1. 黒褐色砂質土 As-Cを含む。(3号溝埋没土)
2. 黄褐色シルト
3. 灰褐色砂質土
4. 黒灰色粘質土 As-Cを含む。
5. 黒色砂質土
6. 黒色粘質土
7. 灰色粘質土



V区4号溝



V区5号溝



V区5号溝B-B'
1. 明褐色土 現表土。新現代。
2. 明褐色土 客土。新現代。
3. 茶褐色土 As-A混上。現代耕作土。新現代。
4. 黒褐色土 As-A混上。圃場整備後水田耕上。
5. 暗褐色土 As-A少量混上。圃場整備時の基盤土。新現代。
6. 茶褐色土 As-A少量混上。圃場整備時の基盤土。新現代。
7. 暗褐色土 As-A少量混上。ビニール片あり。昭和30年代埋没土。
8. 黒褐色土 As-A少量混上。砂質土。
9. 黒褐色土 As-A少量混上。泥上。
10. 黄褐色土 粘性。As-A層がみられる。



V区6号溝

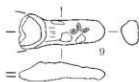


0 1:1 2cm

V区7号溝



V区34号溝



V区7号溝A-A'
1. 黄褐色砂質土 As-Bを含む。

0 1:60 2m

0 1:2 4cm

0 1:4 8cm

0 1:3 5cm

第44図 V区溝と出土遺物

44図3)、搬入系土器鉢(2)を図示した。

V区6号溝(第44・70図 PL.31 遺物観察表P.449・451)

6号溝はV区北区北西端から、南区中央部にかけて検出された南北方向の溝である。11-M-14グリッドで緩やかに屈曲し、34号溝に接する。溝の走向は34号溝とつながるが、本溝の底面は34号溝の底面より高く、34号溝の底面は北東に屈曲する方向につながっていた。南端は11-D-14グリッドで西に屈曲する。屈曲部から西は3号溝として報告した。34号溝との新旧関係は不明である。同時に使用されていた可能性もある。

溝の走向はN-8°-W、上幅0.40~1.94m、深さ0.42m、調査長は46.00mである。底面は平坦で、北西端が南端より0.07m高かった。北西方向から流れてきた水が6号溝と34号溝に分けられていたものと推定される。

本溝は浅間B軽石を含む暗褐色土層を切って掘られていた。本溝は遺憾ながら埋没土の記載がない。遺物は埋没土中から瀬戸・美濃磁器猪口(第44図4)、在地系土器焙烙(5)、鉢(6)、五十銭銅貨(7)が出土した。他に近現代陶磁器破片26点、土器類3点、近世国産陶磁器2点、在地系土器焙烙破片12点、土師器碗破片2点、甕破片34点、S字甕破片12点、須恵器碗破片1点、甕破片1点が出土した。土師器は混入である。V区6号溝の時期は浅間Bテフラ降下以降であるが、2号溝や5号溝と同時期である可能性が高い。

V区7号溝(第44・70図 PL.31)

7号溝はV区南区東部から、西区南部にかけて検出された東西方向の溝である。西端は5ライン周辺で浅くなり検出できなくなる。東端は6号溝で切られている。6号溝との新旧関係は不明である。

溝の走向はN-76~83°-E、上幅0.34~0.84m、深さ0.04m、調査長は両区合わせて55.46mである。底面は平坦で、西端が東端より0.06m高かった。

本溝は浅間B軽石を含む暗褐色土層を切って掘られていた。溝内は浅間B軽石を含む黄褐色砂質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

V区7号溝の時期は浅間Bテフラ降下以降であるが、詳細は不明である。

V区31号溝(第70図 PL.32)

31号溝はV区北区西部で検出された東西方向の溝である。西端は北区西壁でとどまり、西区では本溝の延長は検出されなかった。東端は6号溝西側で浅くなり検出できなかった。溝の走向はN-89°-E、上幅0.18~0.38m、深さ0.10m、調査長は15.32mである。本溝は遺憾ながら埋没土の記載がない。遺物も出土しなかった。V区31号溝の時期は浅間Bテフラ降下以降であるが、詳細は不明である。

V区32号溝(第70図 PL.32)

32号溝はV区北区北西部で検出されたほぼ東西方向の溝である。西端は北区西壁で発掘区域外となる。西区では本溝の延長は検出されなかった。東端は34号溝南西側で浅くなり検出できなかった。溝の走向はN-79°-E、上幅0.47~0.55m、深さ0.08m、調査長は6.51mである。本溝は遺憾ながら埋没土の記載がない。遺物も出土しなかった。

V区32号溝の時期は浅間Bテフラ降下以降であるが、詳細は不明である。

V区33号溝(第70図 PL.32・210)

33号溝はV区北区東部で検出されたほぼ東西方向の溝である。西端は6号溝で切られており、東端は北区東壁付近で浅くなり検出できなかった。溝の走向はN-73°-W、上幅0.14~0.29m、深さ0.06m、調査長は4.60mである。本溝は遺憾ながら埋没土の記載がない。遺物は埋没土中から近現代陶磁器破片2点、土器類破片1点、施釉陶器破片4点、在地系土器在地系土器皿破片2点、火鉢等破片8点、土師器碗破片8点、甕破片52点、S字甕破片22点、玉髓の火打石(PL.210)が出土した。

V区33号溝の時期は浅間Bテフラ降下以降であるが、出土遺物から近世の溝と考えられる。

V区34号溝

(第44・70図 PL.31・32・210 遺物観察表P.449)

34号溝はV区北区北部で検出されたほぼ東西方向の溝である。21-M-13グリッドで北東へ屈曲し、さらに南東に曲がる。北西端および東端は発掘区域外となる。東端はあるいはV区50号溝に連続する可能性もある。前述

のように6号溝と連続する可能性もある。

溝の走向は西部の直線部分でN-57°-W、上幅0.80~2.36m、深さ0.43m、調査長は23.12mである。底面標高は東端より西端より0.01m高かった。本溝は遺憾ながら埋没土の記載がない。遺物は埋没土中から近現代陶磁器破片4点、土器類破片4点、施釉陶器破片1点、在地系土器焙烙等破片13点、瓦破片2点、土師器壺破片1点、高坏破片3点、坏破片5点、甕破片20点、S字甕破片17点、玉髓の火打石が出土した。瀬戸陶器すり鉢破片(第44図8)、軟質施釉陶器匙か杓文字ミニチュアの破片(9)を図示した。他に石皿(第273図5)、土師器蓋(第221図14・15)、S字甕(第223図57)、壺(第221図30)等を遺構外遺物として図示した。V区34号溝の掘削時期は浅間Bテフラ降下以降である。

(4) 復旧溝

V区で1か所の復旧溝群が検出された。ここでも浅間A軽石を多量に塊状に含む灰褐色土で埋まっており、浅間A軽石被災を復旧するための溝群である。

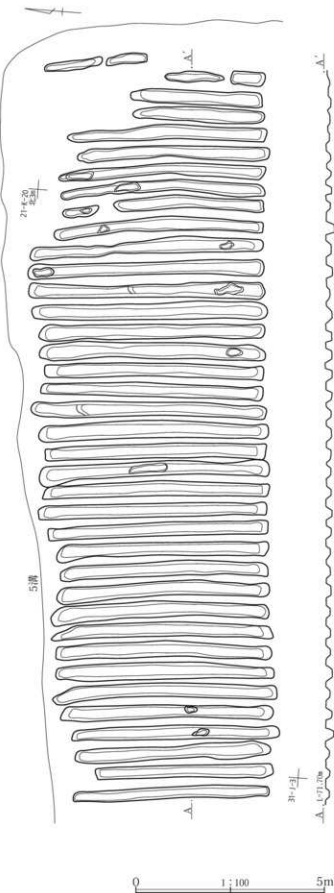
浅間A軽石降下当時、ここがどのような土地利用がされていたかは軽石直下面が出土していないので明確ではないが、12世紀初頭の浅間Bテフラ降下以降は水田であったことから、それ以後水田として利用されていた可能性が高い。したがって、V区1号復旧溝も水田から水田への復旧を意図したものと考えられる。復旧溝群の位置や規模は、当時の地割の一部を表していることになろう。

V区1号復旧溝(第45図 PL.33)

1号復旧溝は、V区中央やや東の1号溝屈曲部で検出された。重複遺構は無い。溝群の全体の規模は南北1.10m、東西19.72m、溝の方向はN-6°-Eである。38条の復旧溝が検出された。

それぞれの溝の形態は帯状で、端部を揃えて掘られていた。長辺は直線的で、短辺はやや丸くなっているものが多い。最も大きな溝の上幅は0.32~0.42m、深さは0.12m、長さは6.10mである。最も小さな溝の上幅は0.20~0.28m、深さは0.01m、長さは1.10mである。底面には一部に深くなっているところもあるが、ほぼ平坦であった。遺物は出土しなかった。

V区1号復旧溝は、V区1号溝の屈曲部におさまる位



第45図 V区1号復旧溝

置で、方向を揃えて掘られている。1号溝は現代まで使われていた用水路であるが、開削の年代は不明である。もし1号復旧溝が地割を踏襲して掘られているとすれば、1号溝が先行することになり、1号溝の開削時期は浅間A軽石が降下した1873(天明3)年より古くなる可能性が考えられることになる。

(5) 遺構外の出土遺物

(第46図 PL.210 遺物観察表P.449・451・452)

V区調査の遺構確認中に、遺構に伴わない形で第11表のように多くの遺物を出土した。なかには下位の層位からの混入遺物も含まれていたが、ここでは12世紀以降の遺物のうち、時期を示す大型の破片を中心に、遺構外の遺物7点を掲載した。このうち銭貨はすべて掲載した。なお、時期の古い混入遺物については、出土相当層の遺構外遺物の項に掲載した。

1は19世紀前半の瀬戸・美濃陶器広東碗、2は第二次大戦中の瀬戸・美濃磁器防衛食容器である。銭貨は4が「祥符元寶」(北宋1108年初跡)、5～7が「寛永通宝」である。5は方孔を星形に加工している。3は珪質粘板岩製の砥石である。

7. VI区の遺構と遺物

(1) 井戸

VI区1号井戸(第47図 PL.33)

位置 55-41-H-2 G

形状 不整楕円形 重複 なし

規模 長軸0.91m 短軸0.84m 残存壁高0.66m

長軸方位 N-23°-W

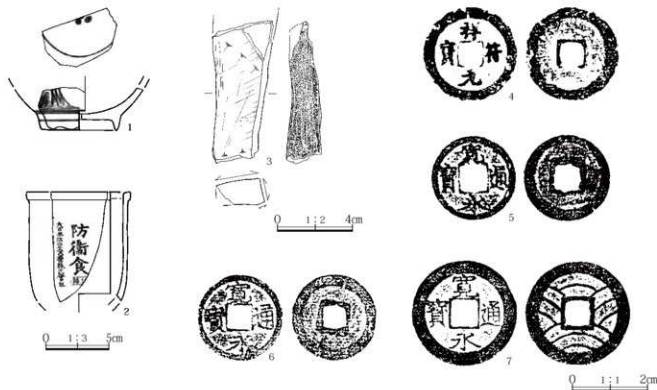
断面形 上端がやや開いた筒形をしている。

埋没土 ローム塊・浅間B軽石混土塊を含む暗褐色土で埋まっていた。埋没土最下部にはロームが崩落した黄褐色土が堆積していた。

底面 底面は平坦である。

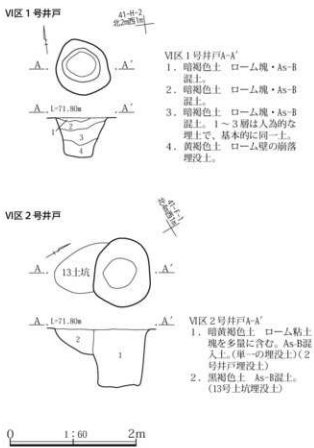
遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

所見 出土遺物はなかったが、埋没土に浅間B軽石混土塊が含まれていることから、浅間Bテフラ降下以降の遺構と考えられる。



第46図 V区遺構外の出土遺物(中近世)

第3章 中近世の遺構と遺物



第47図 VI区井戸

VI区 2号井戸 (第47図 PL.33)

位置 55-41-F-1 G

形状 楕円形 重複 13号土坑より新しい。

規模 長軸1.09m 短軸0.87m 残存壁高0.94m

長軸方位 N-61°-W

断面形 筒形

埋没土 ローム塊・浅間B軽石を多量に含む暗黄褐色土で埋まっていた。

底面 底面は平坦である。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

所見 出土遺物はなかったが、埋没土に浅間B軽石混土塊が含まれていることから、浅間Bテフラ降下以降の遺構と考えられる。

(2) 土坑(第48・49図 PL.33～35)

VI区で検出された土坑は25基である。VI区全体に散在していたが、中央やや東寄りに分布が集中する部分があった。それぞれの土坑の位置や規模は、P.434・435の表にまとめた。以下各遺構の調査所見を記載する。

1号土坑は細長い楕円形で、浅間B軽石を混じる褐色土で埋まった3号溝と重複して検出された。土坑の方が新しい。断面形は筒形。遺物は出土しなかった。

2号土坑は不整形形の土坑で、浅間B軽石を混じる褐色土で埋まった3号、4号溝と重複して検出された。溝の方が新しい。断面形は葉研形。しまりのある暗褐色土で埋まっていた。埋没土中からS字裏破片4点が出土したが、混入である。

3号土坑は楕円形の土坑であるが、遺構ながら平面図のデータが不明となり、土層断面図と写真のみの報告となった。粘性の強い暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

4号土坑は楕円形の土坑で、4号溝の東端で検出された。断面形は浅いU字形。上層はザラザラした暗褐色土で、下層は粘性の強い黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

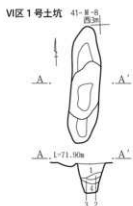
5号土坑はやや不整な隅丸方形の土坑で、5号溝の東側で検出された。断面形は皿状。上層はザラザラした暗褐色土で、下層は粘性の強い黒褐色土で埋まっていた。南部底面直上で礫2点、埋没土中から土師器裏破片8点、S字裏破片7点、須恵器椀破片3点、甗破片1点が出土した。

6号土坑は楕円形の土坑で、土坑集中部の北端で検出された。断面形は台形。上層は黒褐色土と灰褐色土の混土で、下層は粘性のある黒褐色土で埋まっていた。埋没土中からS字裏破片1点が出土したが、混入である。

7号土坑は隅丸長方形の土坑で、5号土坑の東側で検出された。断面形は台形。黒褐色土と灰褐色土の混土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

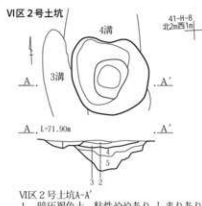
10号土坑は不整形楕円形の土坑で、8号土坑の北東部で検出された。断面形は筒状。上層は浅間B軽石を混じる暗褐色土で、中層は粘質の暗褐色土で、下層はローム粒を含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

11号土坑は不整形楕円形の土坑で、2基が重複していた可能性がある。上層は浅間B軽石を含む暗褐色土、下層は浅間B軽石・黒色粘質土塊を含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から土師器壺破片1点、高坏破片1点、裏破片1点、S字裏破片1点、台付裏破片1点を出土した。いずれも混入である。須恵器環(第250図5)を遺構外遺物として図示した。



VI区1号土坑A-A'

1. 暗褐色土 粘性やや弱し。しまりあり。径20mm以下の黒褐色土塊を含む。
2. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。
3. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。全体にザラつきあり。
4. 暗褐色土 3層に類するが、粘性強くなる。



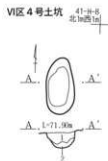
VI区2号土坑A-A'

1. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりあり。径2mm以下の白色軽石粒を含む。(2号清埋設土)
2. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。(4号清埋設土)
3. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。全体にザラつきあり。(4号清埋設土)
4. 暗褐色土 粘性やや強し。しまりあり。(2号土坑埋設土)
5. 暗褐色土 4層に類するが、しまります。(2号土坑埋設土)



VI区3号土坑A-A'

1. 暗褐色土 粘性強し。しまりあり。



VI区4号土坑A-A'

1. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。全体にザラつきあり。
2. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。



VI区5号土坑A-A'

1. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。全体にザラつきあり。
2. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。



VI区7号土坑A-A'

1. 黒褐色土と茶褐色土塊の混土 粘性あり。しまりあり。



VI区6号土坑A-A'

1. 暗褐色土と灰褐色土塊の混土 粘性あり。しまりあり。暗褐色土中に灰褐色土塊が混ざる。埋戻しか。
2. 黒褐色土 粘性やや強し。しまりあり。



VI区10号土坑A-A'

1. 暗褐色土 As-B混土。
2. 黒色土 粘質土。
3. 暗褐色土 粘質土。
4. 暗褐色土 ローム粘混土上。



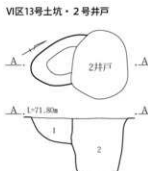
VI区11号土坑A-A'

1. 暗褐色土 As-B混土。
2. 黒褐色土 As-B及び黒色粘質土を混入。



VI区12号土坑A-A'

1. 黒褐色土 As-B混土。
2. 暗褐色土 As-B混土。
3. 黄褐色土 As-B及びローム粘混土。
4. 暗褐色土 As-B混土。



VI区13号土坑A-A'・2号井戸

1. 黒褐色土 As-B混土。(13号土坑埋設土)
2. 暗黄褐色土 ローム粘土塊を多量に含む。As-B混土上。単一の埋土。(2号井戸埋設土)



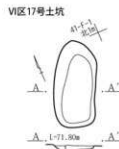
VI区14号土坑A-A'

1. 黒褐色土 As-B混土。
2. 黄褐色土 ローム塚崩落上。
3. 黒色土 粘性上。



VI区16号土坑A-A'

1. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。長径10cmの黒褐色土塊を含む。
2. 褐色砂質土 粘性やや弱し。しまりややあり。
3. 暗褐色砂質土 粘性やや弱し。しまりややあり。
4. 暗褐色土 粘性強し。しまりあり。
5. 暗褐色土と茶褐色土との混土 粘性強し。しまりあり。地山と埋土の前じり。



VI区17号土坑A-A'

1. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。全体にザラつきあり。直径1mm以下の白色軽石粒を含む。As-B混土。

0 1:60 2m

第48図 VI区土坑(1)

12号土坑は円形の土坑で、土坑集中部の中央部で検出された。断面形は台形。上層は浅間B軽石を含む黒褐色土・暗褐色土で、下層は浅間B軽石とローム粒を含む黄褐色土・暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

13号土坑は2号井戸と重複して、土坑集中部の南端部で検出された。井戸より新しい。全形はとらえられなかったが、楕円形と推定される。土坑は浅間B軽石を混じる黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

14号土坑は不整楕円形の土坑で、土坑集中部の北端部で検出された。上層は浅間B軽石を含む黒褐色土で、下層は粘性のある黒色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

15号土坑のデータは、土層断面の写真と埋没土出土遺物(土師器裏破片5点、S字裏破片13点)が残されているにとどまる。

16号土坑は円形の土坑で、17号土坑の東側で検出された。断面形は台形。上層は黒褐色土塊を含む暗褐色土、下層は粘性の強い暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

17号土坑は隅丸長方形の土坑で、土坑集中部の南端部で検出された。断面形は皿形。浅間B軽石を含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

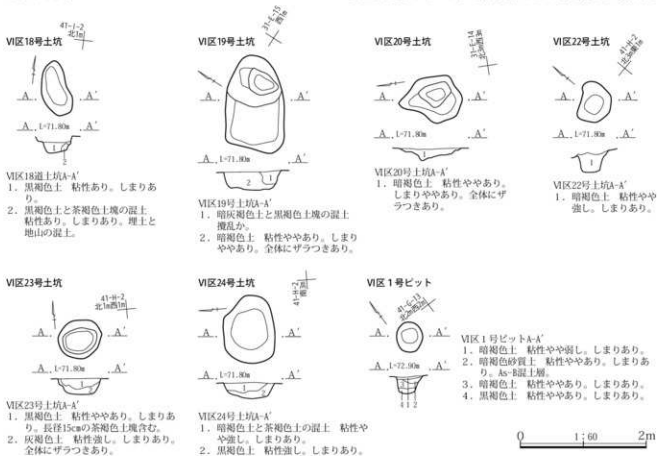
18号土坑は不整楕円形の土坑で、土坑集中部の中央部で検出された。断面形は浅い台形。上層は粘性のある黒褐色土で、下層は黒褐色土と茶褐色土塊の混土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

19号土坑は大型の不整楕円形の土坑で、13号溝の南側で検出された。断面形は箱形。粘性のややある暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

20号土坑は不整多角形の土坑で、13号溝の北側で検出された。断面形は浅いV字形。ざらつきのある暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

22号土坑は不整楕円形の土坑で、18号土坑の南側で検出された。断面形は筒状。粘性のやや強い暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

23号土坑はほぼ円形の土坑で、1号井戸の南側で検出された。断面形は箱状。上層は粘性があり、茶褐色土塊を含む黒褐色土で埋まっていた。下層は粘性の強い黒褐色土で埋まっていた。埋没土中からS字裏破片1点が出



第49図 VI区土坑(2)とピット

土した。混入である。

24号土坑は楕円形の土坑で、12号土坑の南側で検出された。断面形はやや上方に開いた箱状。上層は暗褐色土塊と茶褐色土塊の混土で埋まっていた。下層は粘性の強い暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

(3) ビット(第49図 PL.35)

VI区で検出されたビットは1基である。発掘区の最西端で単独で検出された。ビットの位置や規模は、P.439の表にまとめた。

1号ビットは楕円形で深さは0.3mである。粘性のある暗褐色土や浅間B軽石を混じる暗褐色砂質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。ビットの時期は浅間Bテフラ降下以降で、ビットの機能・用途はわからなかった。

(4) 溝

VI区では、11条の溝が検出された。溝の位置や規模はP.444の表にまとめた。以下各溝の調査所見を記載する。なお、溝の平面図は個別図を作成せず、1/300の各区全体図でこれに変えた。埋没土層断面図は個々に掲載した。

VI区1号溝

(第50・69図 PL.36・210 遺物観察表P.449・452)

1号溝はVI区南西区で検出されたL字形に屈曲する溝である。西端はVII区1号溝に連続する。南端は発掘区域外となる。重複は無い。41-9ライン上で南西方向に屈曲する。屈曲部の北東側には礫が散在していた。

溝の走向はN-79°-E、上幅0.72-1.38m、深さ0.38m、調査長39.90mである。断面はU字形。底面は平坦で、



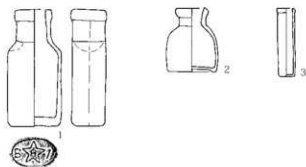
VI区1号溝A-A'

1. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりあり。全体にザラつきあり。(1号溝埋没土)
2. 暗褐色土 1層に類するが、粘性・しまり共にあります。赤褐色状のしみが散見される。(1号溝埋没土)
3. 暗褐色土 粘性やや弱し。しまりあり。直径2mm以下の白色軽石を含む。As-B混土。
4. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。B水田床土。
5. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。いわゆるAs-Cを混じる黒色土。
6. 暗灰褐色粘質土 ローム層上層。

VI区1号溝B-B'

1. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりあり。全体にザラつきあり。(1号溝埋没土)
2. 暗褐色土 1層に類するが、粘性・しまり共にあります。赤褐色状のしみが散見される。(1号溝埋没土)
3. 暗褐色土 粘性やや弱し。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石を含む。As-B混土。
4. 褐色土 粘性あり。しまりあり。全体にザラつきあり。直径1mm以下の白色軽石を含む。赤褐色斑点も散見される。2・4号溝埋没土)

0 1:60 2m



0 1:3 5cm

第50図 VI区1号溝と出土遺物

第3章 中近世の遺構と遺物

南西端が南東端より0.24m高かった。

1号溝は浅間B軽石を混じる暗褐色土を掘り込んでいた。溝内は粘性のある暗褐色土で埋まっていた。埋没土中から瀬戸・美濃陶器灯火受皿(第50図7)、蓋(8)、在地系土器焙烙(9)、ガラス瓶他(1~6)が埋没土中から出土した。他に土師器壺破片7点、器台破片2点、S字襷破片17点が出土した。土師器・須恵器は混入である。S字襷(14)を第250図に掲載した。

Ⅵ区1号溝の時期は浅間Bテフラ降下以降であるが、出土遺物から江戸時代後期から近現代まで使われた溝と考えられる。

Ⅵ区2号溝(第51・69図 PL.36)

2号溝はⅥ区北西壁際、3号溝の西側で検出された小規模な溝である。北端は発掘区域外となり、南東は浅くなり、確認できなくなる。重複は無い。

溝の走向はN-24°-W、上幅0.21~0.35m、深さ0.04m、調査長6.78mである。断面は皿状。底面にはやや凹凸があった。南東端が北西端より0.02m高かった。溝内は粘性の弱い暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

Ⅵ区2号溝の時期は浅間Bテフラ降下以降であるが、詳細は不明である。

Ⅵ区3号溝(第51・69図 PL.36)

3号溝は後述する4号溝のすぐ西側に接するように掘られていた。一部途切れるが、一連の溝の痕跡と考えられる。Hライン周辺で一部重複するが、3号溝が新しい。北端は発掘区域外となり、南端は浅くなり、確認できなくなる。

溝の走向はN-1°-E、上幅0.20~0.66m、深さ0.07m、調査長は全体で45.60mである。断面は皿状。底面にはやや凹凸があった。南端が北端より0.06m高かった。溝内は浅間B軽石を含む褐色土や暗灰褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

Ⅵ区3号溝の時期は浅間Bテフラ降下以降であるが、詳細は不明である。

Ⅵ区4号溝(第51・69図 PL.36)

4号溝はⅥ区西半部で検出された南北方向の溝であ

る。5.4mほどの一定間隔を隔てて5号溝が東側に並行している。このような並行する溝はⅢ区でも検出されている。重複はない。北端は発掘区域外となる。南端は浅くなり確認できなくなる。

溝の走向はN-1°-E、上幅0.42~1.32m、深さ0.09m、調査長は全体で44.20mである。断面は皿状。底面には凹凸があった。南端が北端より0.04m高かった。溝内は浅間B軽石を含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

Ⅵ区4号溝の時期は浅間Bテフラ降下以降であるが、詳細は不明である。

Ⅵ区5号溝(第51・69図 PL.36)

5号溝はⅥ区西半部で検出された南北方向の溝である。5.4mほどの一定間隔を隔てて4号溝が西側に並行している。中央やや北側で不連続な部分がある。このような並行する溝はⅢ区でも検出されている。重複はない。北端・南端ともに発掘区域外となる。

溝の走向はN-7°-E、上幅0.38~0.80m、深さ0.10m、調査長は45.27mである。断面は皿状。底面には凹凸があった。北端が南端より0.01m高かった。溝内は上半部は浅間B軽石を含む暗褐色砂質土で、下半部は浅間Bテフラ下水田の畝土と同じ黒褐色土で埋まっていた。遺物は埋没土中から土師器壺破片4点、高環破片1点、襷破片33点、S字襷破片43点が出土した。

Ⅵ区5号溝の時期は埋没土の状況から浅間Bテフラ降下より古いと推定されるが、詳細な時期は不明である。古墳時代前期の土器が多く出土したが、これは下層にある当該期の遺構の土器を混入させているためであろう。土師器壺(第250図8)を遺構外出土遺物として掲載した。

Ⅵ区6号溝

(第51・69図 PL.36・211 遺物観察表P.449・450・452)

6号溝はⅥ区北東部で検出された東西方向の溝である。西端で7号溝と重複するが、6号溝が新しい。また南部で8号・9号溝と、北東部で11号溝と重複するが、いずれも6号溝が新しい。北西端は発掘区域外となる。東端はⅥ区5号溝に連続する。

溝の走向はN-87°-E、上幅0.76~1.36m、深さ0.20m、調査長は54.40mである。断面は浅いU字形。底面

VI区2号溝



VI区2号溝A'-A'

1. 暗褐色土 粘性弱し。しまりあり。

VI区3号・4号溝



VI区3号・4号溝A'-A'

1. 褐色土 粘性弱し。しまりあり。直径2mm以下の白色軽石粒を含む。B混上。
2. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。全体にザラつきあり。直径2mm以下の白色軽石粒を含む。As-B混上。



VI区3号・4号溝B'-B'

1. 暗灰褐色土 粘性ややあり。しまりあり。直径2mm以下の白色軽石粒を含む。(3号溝埋没上)
2. 暗灰褐色塊 粘性あり。しまりあり。(4号溝埋没上)
3. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。全体にザラつきあり。(4号溝埋没上)
4. 暗褐色土 粘性やや弱し。しまりあり。(2号土坑埋没上)
5. 暗褐色土 4層に類するが、しまりあります。(2号土坑埋没上)

VI区5号溝



VI区5号溝A'-A'

1. 暗褐色砂質土 As-B混上層であるが、As-Bの堆積が薄い。
2. 黒褐色土 粘性ややあり。しまりあり。B水田床上。

VI区6号・7号溝



VI区6号・7号溝A'-A'

1. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりあり。全体にザラつきあり。(6号溝埋没上)
2. 暗褐色土 6層に類するが、粘性・しまりします。(6号溝埋没上)
3. 暗褐色土 粘性やや弱し。しまりややあり。赤褐色の斑点が見られる。(7号溝埋没上)
4. 暗褐色砂質土 粘性やや弱し。しまりややあり。全体にザラつきあり。砂粒堆積層。(7号溝埋没上)
5. 暗褐色土 粘性やや弱し。しまりあり。(7号溝埋没上)
6. 暗褐色土 4層に類するが、しまりします。(7号溝埋没上)
7. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりあり。赤褐色の斑点が見られる。直径2mm以下の白色軽石粒微量含む。圃場整備前の水田床上。6・7号溝と同時期。

VI区6号・10号溝



VI区6号・10号溝B'-B'

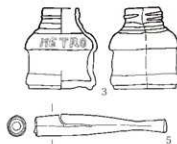
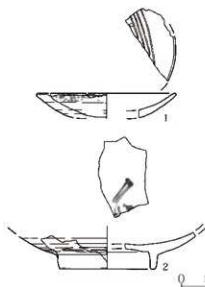
1. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりあり。全体にザラつきあり。(6号溝埋没上)
2. 茶褐色土 粘性あり。しまりあり。土中鉄分が酸化し、茶褐色になったか。(6号溝埋没上)
3. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒を含む。As-B混上。(10号溝埋没上)
4. 黒褐色砂質土 As-B一次堆積層。(10号溝埋没上)

VI区6号~11号溝



VI区6号・11号溝C'-C'

1. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。全体にザラつきあり。(6号溝埋没上)
2. 暗褐色土 3層に類するが、粘性・しまりします。(6号溝埋没上)
3. 暗灰褐色砂質土 As-A一次堆積層。(11号溝埋没上)
4. 褐色土 粘性あり。しまりあり。(11号溝埋没上)



VI区8号溝



VI区8号溝A'-A'

1. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。
2. 暗褐色土 1層に類するが、しまりします。直径2mm以下の白色軽石粒を含む。As-A混上。



VI区9号溝



VI区9号溝A'-A'

1. 暗灰褐色砂質土 As-A一次堆積層。
2. 褐色土 粘性ややあり。しまりあり。



VI区9号溝B'-B'

1. 暗灰褐色土 粘性強い。しまりあり。(9号溝埋没上)
2. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒を含む。As-B混上。(13号溝埋没上)

VI区12号溝



VI区12号溝A'-A'

1. 暗褐色土 As-B混上。

VI区13号溝



VI区13号溝A'-A'

1. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒を含む。As-B混上。(13号溝埋没上)
2. 暗褐色砂質土 As-B一次堆積層。(10号溝埋没上)

第51図 VI区溝と出土遺物

にはやや凹凸があった。東端が西端より0.01m高かった。溝内は粘性とざらつきがある暗褐色土で埋まっていた。埋没土中から19世紀頃の信楽陶器とみられる灯火皿(第51図1)、肥前陶器皿(2)、ガラス瓶他(3・4)、煙管(5・6)が出土した。他に在地区土器鍋破片1点、小型S字裏破片(第250図13)が出土した。S字裏は混入で遺構外遺物として掲載した。

いずれの重複部でも浅間B軽石を含む土で埋まっている溝を切っていることから、溝の時期は浅間Bテフラ降下以降である。V区5号溝から6号溝を経由して、Ⅲ区2号溝まで一連の溝と考えられることから、Ⅵ区6号溝も近世から近現代まで使われた用水路の一部であろう。

Ⅵ区7号溝(第51・69図 PL.36)

7号溝はⅥ区北部で検出された南北方向の小規模な溝である。西側が6号溝に切られている。6号溝の掘り返しの跡である可能性もある。

溝の走向は $N-2^{\circ}-E$ 、上幅1.08m以上、深さ0.10m、調査長は4.40mである。断面は浅いU字形。底面にはやや凹凸があった。溝内は粘性の弱い暗褐色砂質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

Ⅵ区7号溝の時期は遺構確認面から浅間Bテフラ降下以降であるが、詳細は不明である。

Ⅵ区8号溝(第51・69図 PL.36・37)

8号溝はⅥ区北東部で検出された南北方向の小規模な溝である。北端で6号溝と重複するが、新旧関係は不明である。南端は浅くなって確認できなくなる。東側には0.5mほどの間隔をあけて9号溝が並行して掘られていた。

溝の走向は $N-6^{\circ}-W$ 、上幅0.40~1.69m、深さ0.11m、調査長は7.30mである。断面は浅いU字形。底面にはやや凹凸があった。南端が北端より0.01m高かった。溝内は浅間A軽石を含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

Ⅵ区8号溝の時期は浅間Bテフラ降下以降であるが、詳細は不明である。

Ⅵ区9号溝(第51・69図 PL.36・37)

9号溝はⅥ区北東部で検出された南北方向の溝である。北端で6号溝と重複するが、新旧関係は不明である。

途中は一部途切れるが、南端まで確認できた。南端は発掘区域外となる。西側には0.5mほどの間隔をあけて8号溝が並行して掘られていた。

溝の走向は $N-3^{\circ}-W$ 、上幅0.18~1.50m、深さ0.17m、調査長は52.00mである。断面は浅いU字形。底面にはやや凹凸があった。南端が北端より0.03m高かった。溝内は粘性の弱い暗灰褐色土・褐色土で埋まり、一部で埋没土の上半部を浅間A軽石一次堆積層が覆っていた。遺物は出土しなかった。

Ⅵ区9号溝の時期は浅間Bテフラ降下以降、浅間A軽石降下以前である。溝の性格等の詳細は不明である。

Ⅵ区11号溝(第51・69図 PL.36)

11号溝はⅥ区北東隅で検出された南北方向の溝である。南端部で6号溝と重複するが、6号溝が新しい。南端は浅くなり確認できなくなる。北端は発掘区域外となる。

溝の走向は $N-8^{\circ}-W$ 、上幅0.56~1.50m、深さ0.12m、調査長は6.87mである。断面は浅いU字形。底面にはやや凹凸があった。南端が北端より0.01m高かった。溝内の上半部は浅間A軽石一次堆積層で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

Ⅵ区11号溝の時期は浅間Bテフラ降下以降、浅間A軽石降下以前であるが、溝の性格等の詳細は不明である。

Ⅵ区12号溝(第51・69図 PL.37)

12号溝はⅥ区の中央やや東側で検出された。調査時には浅間Bテフラ下面で検出できずに、下位の古墳時代遺構面で検出・記録したが、埋没土は浅間B軽石混土であることから、本章で報告した。18号・22号土坑と重複するが、12号溝が古い。

溝の走向は西端部で $N-24^{\circ}-W$ 、上幅0.42~0.74m、深さ0.23m、調査長は4.21mである。断面は浅いU字形。底面にはやや凹凸があった。溝内は浅間B軽石を含む暗褐色土で埋っていた。遺物は出土しなかった。

Ⅵ区12号溝の時期は浅間Bテフラ降下以降である。溝の性格等の詳細は不明である。

VI区13号溝(第51・69図 PL.37)

13号溝はVI区南東部で検出された緩やかに湾曲する溝である。北西端では浅くなり確認できなくなる。東端は発掘区域外となる。方向的にはV区7号溝につながる可能性があるが、確定できない。西端部で9号溝と重複するが、9号溝が新しい。

溝の走向は西端部でN-64°-W、上幅0.38~0.86m、深さ0.06m、調査長は20.02mである。断面は浅いU字形。底面にはやや凹凸があった。中央部は土坑状の掘り込みが連続して溝になっているような状況であった。北西端が東端より0.05m高かった。溝内は浅間B軽石を含む暗褐色土で埋っていた。遺物は出土しなかった。

VI区13号溝の時期は浅間Bテフラ降下以降、浅間A軽石降下以前である。溝の性格等の詳細は不明である。

(5) 耕作痕

VI区1号耕作痕跡(第52図 PL.38)

VI区の浅間Bテフラ直下面で水田を検出する段階で、水田面に多数の耕作具の痕跡を確認した。耕作痕跡はVI区の東半部を中心に多数分布していた。この耕作痕跡の掘り込み面は検出できなかったが、痕跡内には浅間B軽石が塊状になって堆積しており、浅間Bテフラより上層から掘り込まれたことは明らかである。

検出された全域にわたって痕跡位置・形状や規模は記

録しなかったが、VI区北東部の31-N-15・16グリッド内の2m×2mの範囲で、耕作痕の分布状況を記録した。痕跡の平面形状は半月形が多く、北西から南東方向の列状に並んでいた。

遺物は出土しなかった。層位・形態ともと同様な耕作痕跡はⅢ・Ⅳ区でも検出されている。

耕作痕の断面形状はV字状になっているものがあることから、鋤先の痕跡と推定される。耕作痕の時期は浅間Bテフラ以降のいつかについては明らかにできなかった。

(6) 復旧溝

VI区では2か所の復旧溝群が検出された。VI区でも浅間A軽石を多量に塊状に含む灰褐色土で埋まっており、浅間A軽石被災を復旧するための溝群である。

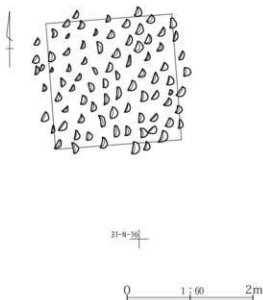
浅間A軽石降下当時、ここがどのような土地利用がされていたかは軽石直下面が出土していないので明確ではないが、12世紀初頭の浅間Bテフラ降下時は水田であったことから、それ以後水田として利用されていた可能性が高い。したがって、V区で検出された復旧溝も水田から水田への復旧を意図したものと考えられる。復旧溝群の位置や規模は、当時の地割の一部を表していることになろう。

VI区1号復旧溝(第53図 PL.38)

1号復旧溝は、VI区中央やや西の、6号溝西側で検出された。重複遺構は無い。溝群の全体の規模は南北3.50m、東西10.26mである。南側に南北方向の溝が16条並び、北側に東西方向の溝1条が掘られていた。溝の方向は南北方向がN-14°-W、東西方向がN-82°-Eである。

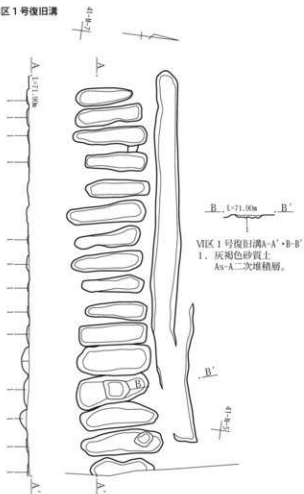
南北方向の溝の形態は帯状で不整形である。端部も不揃いで丸く掘られていた。最も大きな溝の上幅は0.48~0.64m、深さは0.04m、長さは2.16mである。最も小さな溝の上幅は0.35~0.46m、深さは0.03m、長さは1.50mである。底面には一部に深くなっているところもあるが、ほぼ平坦であった。東西方向の溝は東端が不整形であるが、概ね上幅は0.50~0.73m、深さは0.07m、長さは9.80mである。

遺物は出土しなかった。



第52図 VI区1号耕作痕

Ⅵ区1号復旧溝



Ⅵ区2号復旧溝(第53図 PL.38)

2号復旧溝は、Ⅵ区南東部の9号溝東側で検出された。重複遺構は無い。溝群の全体の規模は南北8.02m、東西4.25m、溝の方向はN-88°-Eである。

それぞれの溝の形態は帯状で不整形である。比較的細い溝で構成されている。やや方向が異なるものも混じっていた。端部も不揃いで丸く掘られていた。最も大きな溝の上幅は0.23~0.51m、深さは0.06m、長さは13.70mである。最も小さな溝の上幅は0.09~0.23m、深さは0.01m、長さは0.88mである。底面に凹凸が著しかった。

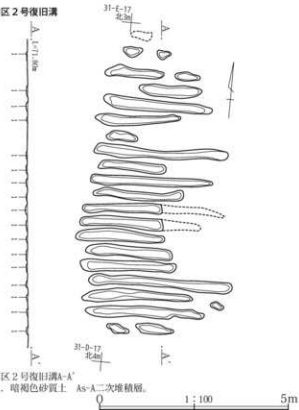
遺物は出土しなかった。

(7) 遺構外の出土遺物

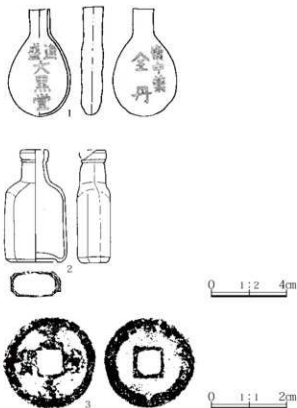
(第54図 PL.211 遺物観察表P.451・452)

Ⅵ区調査の遺構確認中に、遺構に伴わない形で第11表のように多くの遺物を出土した。ここでは12世紀以降の遺物のうち、銭貨とガラス瓶を掲載した。なお、時期の古い混入遺物については、出土相当層の遺構外遺物の項に掲載した。1・2は近代のガラス瓶である。3は「寛永通寶」と推定される。

Ⅵ区2号復旧溝



第53図 Ⅵ区1号・2号復旧溝



第54図 Ⅵ区遺構外の出土遺物(中近世)

8. VII区の遺構と遺物

(1) 井戸

VII区1号井戸(第55図 PL.39)

位置 55-51-H-2 G

形状 楕円形 重複 なし

規模 長軸1.06m 短軸0.82m 残存壁高1.04m

長軸方位 N-14°-E

断面形 深い筒形。南側には段があり、テラス状。

埋没土 上層は浅間B軽石を混じる暗褐色砂質土の塊状堆積で、下層は粘性・しまりの強い暗灰色粘質土と黒褐色土の混土で埋まっていた。

底面 平坦である。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

所見 埋没土に浅間B軽石の混土が含まれることから、浅間Bテフラ降下以降の遺構と考えられる。

(2) 土坑(第55図 PL.39)

VII区で検出された土坑は2基で、両土坑ともにVII区中央やや西側に掘られていた。それぞれの土坑の位置や規模は、P.435の表にまとめた。以下各遺構の調査所見を記載する。

1号土坑は楕円形の土坑で、1号溝の南側で検出された。断面形は箱状。灰白色軽石を含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。軽石が浅間Bテフラの

可能性が高いことから、テフラ降下以降の土坑と推定される。

2号土坑は丸い楕円形の土坑で、1号土坑より東の1号溝の南側で検出された。断面形は上方の開くU字形。上層は白色軽石を含む褐色土で、下層は浅間B軽石を混じる暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。埋没土に浅間B軽石を混じることからテフラ降下以降の土坑である。

(3) 溝

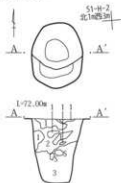
VII区では、7条の溝が検出された。溝の位置や規模はP.444の表にまとめた。以下各溝の調査所見を記載する。なお、溝の平面図は個別図を作成せず、1/300の各区全体図でこれに変えた。埋没土層断面図は個々に掲載した。

VII区1号溝(第56・68図 PL.40・211 遺物観察表P.449)

1号溝はVII区北西隅から南東隅まで斜めに貫いて検出された。南西部・南東部の一部で屈曲するが、直線的な溝である。北西端は発掘区域外となる。南東端はV区1号溝に連続する。北西隅で1条、南東隅で1条、本溝から派生する溝があるが、調査では別の遺構名は付さなかった。前者は北へ、後者は南へ延びていくが、発掘区域外であり詳細は不明である。4号・7号溝と重複するが、新旧関係は不明である。

溝の走向は中央の直線部分でN-68°-W、上幅0.85

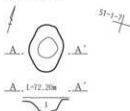
VII区1号井戸



VII区1号井戸A-A'

1. 暗褐色砂質土。As-B混土。
2. 暗灰色粘質土と黒褐色粘質土の混土。粘性強し、しまり強し。
3. 暗黒灰色砂質土

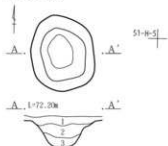
VII区1号土坑



VII区1号土坑A-A'

1. 暗褐色土。粘性やや弱し。しまりあり。全体にザラつきあり。茶褐色状のしみがまばらにみられるが、鉄分が酸化したものか。径2mm以下の灰白色軽石粒を含む。

VII区2号土坑



VII区2号土坑A-A'

1. 褐色土。粘性やや弱し。しまりあり。全体にザラつきあり。茶褐色状のしみがまばらにみられるが、鉄分が酸化したものか。径2mm以下の灰白色軽石粒を含む。As-B混土層。
2. 暗褐色土。粘性ややあり、しまりあり。全体にザラつきあり。As-B混土層。
3. 暗褐色土。2層に類するが、粘性ます。

0 1:60 2m

第55図 VII区井戸と土坑

～1.82m、深さ0.42m、調査長117.50mである。断面は浅いU字形。底面は平坦で西端が東端より0.20m高かった。

溝内は浅間A軽石を含む暗褐色土で埋まっていた。埋没土中から土人形(第56図1)と製作地不詳の陶器人形(2)、ガラス破片1点が出土した。溝の時期は浅間A軽石降下以降である。Ⅶ区1号溝は、東方のⅣ区蛭堀までつながる用水路の一部であり、江戸時代後期から近現代まで使われた用水路である。

Ⅶ区2号溝(第56・68図 PL.40)

2号溝はⅦ区南西部で検出された緩やかにL字状に屈曲する溝である。西端は3号溝に合流し、南端は発掘区域外となる。本溝の屈曲部で、1号溝とつながる4号溝と接しているため、1号・2号・4号溝の3条の溝はつながっているように見える。埋没土の観察では、1号・2号溝は共通しており、4号溝の上層とも同じと記録されている。4号溝埋没土の下層は浅間B軽石と浅間B軽石混土と記載されているので、4号溝底面は古いということになろう。

溝の走向は最も長い東西方向部分でN-86°-W、上幅0.76～1.38m、深さ0.21m、調査長48.50mである。断面は浅いU字形。底面は平坦で、南端が西端より0.06m高かった。

溝内は浅間A軽石を含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。溝の時期は浅間A軽石降下以降である。Ⅶ区2号溝は、1号溝と同様に江戸時代後期から近現代まで使われた用水路である。

Ⅶ区3号溝(第56・68図 PL.40)

3号溝はⅦ区南西隅で検出された直線の溝である。2号溝から分かれるような形状であるが、西側が発掘区域外であり。詳細は明らかにできなかった。2号溝との新旧関係は不明である。南端は攪乱で切られており、調査しなかった。

溝の走向はN-11°-W、上幅1.04～1.30m、深さ0.26m、調査長9.0mである。断面は浅いU字形。底面には凹凸があった。南端が西端より0.16m高かった。

Ⅶ区3号溝は遺憾ながら埋没土の記載がない。写真からは大型の礫が含まれていることがわかる。遺物は出土しなかった。

Ⅶ区4号溝(第56・68図 PL.40)

4号溝はⅦ区中央部やや西で検出された。北端は1号溝と、南端は2号溝と合流しており、両溝をつなぐような状況で検出された。

溝の走向は最も長い東西方向部分でN-16°-E、上幅1.56～1.80m、深さ0.33m、調査長2.90mである。断面は浅いU字形。底面は平坦で、南端が西端より0.19m高かった。溝内の上層は浅間A軽石を含む暗褐色土で、下層は浅間Bテフラと浅間B軽石混土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

埋没土の観察では、4号溝埋没土の上層は1号・2号溝と共通しており、浅間A軽石降下以降掘られた1号・2号溝が使われていた時に、4号溝も何らかの機能を果たしていたと推定される。溝の底面を比べると、2号溝が1号溝より高く、2号溝内でも4号溝に合流する部分が最も低くなっていることから、4号溝は、2号溝から1号溝へ水を流すための水路であった可能性がある。4号溝底面には杭および杭痕跡が残されていることから、堰構造物であった可能性もある。一方、4号溝底面近くには浅間B軽石が堆積している。このレベルは71.80m前後で、周囲の浅間Bテフラ下水面が72.05m前後であるのと比べると、低くなっている。4号溝の底面には古い浅間Bテフラ降下以前の遺構が重複している可能性があったが、調査では明らかにできなかった。

Ⅶ区5号溝(第56・68図 PL.40)

5号溝はⅦ区東部で検出された南北方向の溝である。北端は発掘区域外となる。南端は1号溝と重複するが、新旧関係は不明である。

溝の走向はN-3°-E、上幅0.40～0.70m、調査長36.60mである。断面は浅いU字形。底面は平坦である。遺憾ながら高さの記録がなく、深さや傾斜の記載ができない。北壁の土層断面では、掘り込み面は2層直下で、平面図を記録したのは7層直下である。深さは北端では0.27mと確認できる。溝内は粘性がややあり、直径4mm以下の白色軽石を含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

Ⅶ区5号溝は下層の浅間Bテフラ下水面水田の大畔と少しずれながらも重複している。

浅間A軽石の一次堆積層を切って掘り込んでいることか

ら、近世後半以降の溝である。

VII区6号溝(第68図 PL.40)

6号溝はVII区東部で5号溝の東側に並行して検出された南北方向の溝である。北端は発掘区域外となる。南端は1号溝と重複するが、新旧関係は不明である。

溝の走向はN-7°-W、上幅0.40~0.80m、調査長37.10mである。断面は浅いU字形。底面は平坦である。遺憾ながら高さの記録がなく、深さや傾斜の記載ができない。また、土層の記載もない。溝の底面の痕跡として記録された。

VII区6号溝は、下層の浅間Bテフラより新しいことから、1108年以降の溝である。

VII区7号溝(第68図 PL.40)

7号溝はVII区中央部で検出されたほぼ南北方向の溝である。北端・南端ともに発掘区域外となる。1号溝と重複するが、新旧関係は不明である。

溝の走向はN-13°-E、上幅0.30~0.75m、調査長40.00mである。断面は皿状。遺憾ながら高さの記録がなく、深さや傾斜の記載ができない。また、土層の記載もない。溝の底面の痕跡として記録された。遺物は出土しなかった。

VII区7号溝は、下層の浅間Bテフラより新しいことから、1108年以降の溝である。

VII区1号溝



VII区1号溝A-A'

1. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。全体にザラつきがある。径3mm以下の灰白色軽石粒(As-A)の混入がみられる。
2. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。1層に見られるザラつきはない。径3mm以下の灰白色軽石粒(As-A)の混入がみられる。
3. 暗褐色土 粘性やや強し。しまりややあり。

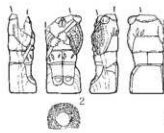


VII区2号溝



VII区2号溝A-A'

1. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。全体にザラつきがある。径3mm以下の灰白色軽石粒(As-A)の混入がみられる。
2. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。1層に見られるザラつきはない。径3mm以下の灰白色軽石粒(As-A)の混入がみられる。
3. 暗褐色土 粘性やや強し。しまりややあり。



VII区3号溝



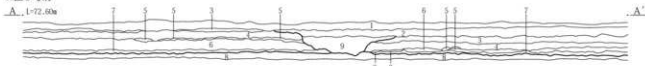
VII区4号溝



VII区4号溝A-A'

1. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。径3mm以下の灰白色軽石粒(As-A)の混入がみられる。1・2号溝2層に相当。
2. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。全体にザラつきあり。所々に黒色砂層がみられる。As-B混土層。
3. As-B

VII区5号溝



VII区浅間Bテフラ直下水田A-A'

1. 暗褐色土 現表土。
2. 褐色土 粘性ややあり。しまりあり。径4mm以下の白色軽石粒含む。所々赤褐色色のしみが見受けられるが、鉄分がさびて、砂鉄化したものと思われる。畑層整備前の近代床土。
3. 暗褐色土 粘性やや強し。しまりあり。径4mm以下の白色軽石粒含む。
4. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。径4mm以下の白色軽石粒を含む。5号溝に切られているため、溝より古い耕作土と思われる。
5. 褐色土 粘性ややあり。しまりあり。径4mm以下の白色軽石粒含む。As-A直上であることからAs混土層とよばれる。
6. 暗褐色砂質土 As-A一次堆積層。
7. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりあり。径2mm以下の白色軽石粒含む。As-B混土層。
8. 暗褐色砂質土 As-B一次堆積層。
9. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。(As-B下水田床土)



第56図 VII区溝と出土遺物

9. VIII区の遺構と遺物

(1) 井戸

VIII区1号井戸(第57図 PL.42)

位置 55-51-G・H-16G

形状 不整形円形 重複 なし

規模 長軸1.26m 短軸1.21m 残存壁高0.89m

長軸方位 N-38°-W

断面形 浅いすり鉢形。壁の中心からやや上方は筒形にすばまる。

埋没土 上層は浅間B軽石を混じる暗灰黄褐色砂質土で、下層は黒褐色粘質土を混じる黄灰色粘質土で埋まっていた。

底面 平坦である。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

所見 埋没土に浅間B軽石の混入が含まれることから、浅間Bテフラ降下以降の遺構と考えられる。

(2) 土坑(第57図 PL.42・43)

VIII区で検出された土坑は11基である。VIII区東部に集中して掘られていた。特に4号～8号、10号、11号土坑は、1号井戸も含めて一定の間隔をあけて、2列に並んで掘られているように見える。何らかの施設を示すかもしれない。それぞれの土坑の位置や規模は、P.435の表にまとめた。以下各遺構の調査所見を記載する。

1号土坑は円形の土坑で、調査区北東部で検出された。断面形は上方が開く箱状。浅間B軽石を含む褐灰色砂質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。埋没土から土坑の時期は浅間Bテフラ降下以降と考えられる。

2号土坑は小型の楕円形の土坑で、2号溝の東側で検出された。断面形は上方が開く箱状。浅間B軽石・黄褐色粘質土塊を含むオリブ褐色砂質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。埋没土から土坑の時期は浅間Bテフラ降下以降と考えられる。

3号土坑は小型の楕円形の土坑で、2号溝の西側で検出された。断面形は上方が開く箱状。浅間B軽石を含むオリブ褐色砂質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。埋没土から土坑の時期は浅間Bテフラ降下以降と考えられる。

4号・5号土坑は調査区南東隅、1号井戸の南側で検出された。両者の新旧関係は4号土坑の方が新しい。4号土坑は楕円形の土坑で、断面形は浅い箱状。上層は浅間B軽石・黄褐色粘質土塊を含む暗灰黄色砂質土で、底面直上は浅間B軽石・黒褐色粘質土塊を含む黄灰色砂質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。埋没土から土坑の時期は浅間Bテフラ降下以降と考えられる。

5号土坑は隅丸長方形の土坑で、断面形は箱状。底面の凹凸が著しい。浅間B軽石・黄褐色粘質土塊・黒褐色粘質土塊を含む暗灰黄色砂質土で埋まっていた。埋没土中に大型礫が残されていた。他には遺物は出土しなかった。埋没土から土坑の時期は浅間Bテフラ降下以降と考えられる。

6号土坑はほぼ円形の土坑で、2号溝の南側で検出された。断面形は葉研形である。再上層はオリブ褐色砂質土と浅間B軽石を混じる黒褐色粘質土塊、中層は黄褐色粘質土塊を帯状に挟むオリブ褐色砂質土で、下層は黒色粘質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。埋没土から土坑の時期は浅間Bテフラ降下以降と考えられる。

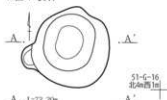
7号土坑は丸い楕円形の土坑で、断面形は上方が開いた箱状。上層は浅間B軽石・黄褐色粘質土塊を含む暗灰黄色砂質土で、下層は黒褐色粘質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。埋没土から土坑の時期は浅間Bテフラ降下以降と考えられる。

8号土坑は隅丸長方形の土坑で、7号土坑の西側で検出された。断面形は葉研形。浅間B軽石・黄褐色粘質土塊・暗灰黄色粘質土塊を含むオリブ褐色砂質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。埋没土から土坑の時期は浅間Bテフラ降下以降と考えられる。

9号土坑は楕円形の土坑で、10号土坑の西側で検出された。断面形は上方が開いた箱状。上層は浅間B軽石・黄褐色粘質土塊を含むオリブ褐色砂質土で、底面直上は黄褐色粘質土を混じる黒褐色粘質土で埋まっていた。北部底面直上には大型礫が残されていた。他に遺物は出土しなかった。埋没土から土坑の時期は浅間Bテフラ降下以降と考えられる。

10号土坑は不整形円形の土坑で、底面付近は隅丸方形に掘られている。8号土坑の北側で検出された。断面形は葉研形。浅間B軽石・黄褐色粘質土塊・暗灰黄色粘質土

VIII区1号井戸



VIII区1号井戸A-A'

1. 暗灰黄色砂質土 As-Bを混じる。黄褐色粘質土塊と黄灰色粘質土塊を含む。
2. 暗灰黄色砂質土 As-Bを混じる。1層よりも粘質土塊が少ない。
3. 黄灰色粘質土 黒褐色粘質土を混じる。3層上層まで湧水。

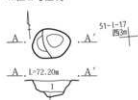
VIII区1号土坑



VIII区1号土坑A-A'

1. 暗灰色砂質土 As-B・にぶい黄褐色粘質土塊を多く含む。しまっている。
2. 暗灰色砂質土 1層よりも粘質土塊を少量含む。しっている。
3. 暗灰色砂質土 暗灰色砂質土にAs-Bを多く含む。しまっている。
4. 暗灰色砂質土 3層に黒褐色粘質土塊を含む。しまっている。

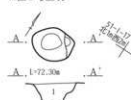
VIII区2号土坑



VIII区2号土坑A-A'

1. オリーブ褐色砂質土 As-B・にぶい黄褐色粘質土塊を含む。しまっている。
2. オリーブ褐色砂質土 As-B・黒褐色粘質土塊を含む。しまっている。

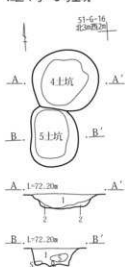
VIII区3号土坑



VIII区3号土坑A-A'

1. オリーブ褐色砂質土 As-Bを含む。しまり弱い。

VIII区4号・5号土坑



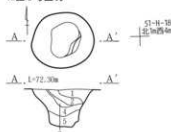
VIII区4号土坑A-A'

1. 暗灰黄色砂質土 As-Bを含む。にぶい黄褐色粘質土塊を少し含む。しまっている。
2. 黄灰色砂質土 As-Bを混じる。黒褐色粘質土塊を少し含む。しまっている。

VIII区5号土坑A-A'

1. 暗灰黄色砂質土 As-Bを混じる。にぶい黄褐色粘質土塊・黒褐色粘質土塊が少し混じる。しまっている。

VIII区6号土坑



VIII区6号土坑A-A'

1. 黒褐色粘質土塊 オリーブ褐色砂質土とAs-Bの混合が入る。
2. オリーブ褐色砂質土 As-Bを混じる。
3. オリーブ褐色砂質土 にぶい黄褐色粘質土塊に2層が少し入る。
4. オリーブ褐色砂質土 2層に。にぶい黄褐色粘質土塊が少し入る。
5. 黒褐色粘質土

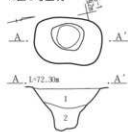
VIII区7号土坑



VIII区7号土坑A-A'

1. 暗灰黄色砂質土 As-Bを混じる。にぶい黄褐色粘質土塊を少し含む。
2. 黒褐色粘質土

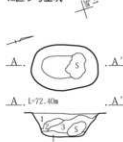
VIII区8号土坑



VIII区8号土坑A-A'

1. オリーブ褐色砂質土 As-Bを混じる。黄褐色粘質土塊と暗灰黄色粘質土塊を含む。しまりよい。
2. オリーブ褐色砂質土 1層よりも粘質土塊の入りが少ない。しまりよい。

VIII区9号土坑



VIII区9号土坑A-A'

1. オリーブ褐色砂質土 As-Bを混じる。黄褐色粘質土塊を含む。しまっている。
2. オリーブ褐色砂質土 As-Bを混じる。黄灰色粘質土塊を多く含む。しまっている。
3. オリーブ褐色砂質土 As-Bを混じる。黄灰色粘質土塊を多く含む。わずかに含む。しまっている。
4. 黒褐色粘質土 黄褐色粘質土を混じる。しまっている。

VIII区10号土坑



VIII区10号土坑A-A'

1. オリーブ褐色砂質土 黄褐色粘質土を混じる。しまっている。
2. オリーブ褐色砂質土 As-Bを混じる。1層に黄褐色粘質土塊と暗灰黄色粘質土塊を多く含む。しまっている。
3. オリーブ褐色砂質土 As-Bを混じる。2層よりも粘質土塊が少ない。しまっている。

VIII区11号土坑



VIII区11号土坑A-A'

1. オリーブ褐色砂質土 As-Bを混じる。黄褐色粘質土塊を含む。しまっている。
2. オリーブ褐色砂質土 As-Bを混じる。1層よりも粘質土塊の入りはわずかに含む。しまっている。
3. オリーブ褐色砂質土 As-Bを混じる。黄灰色粘質土塊を多く含む。しまっている。
4. 黄褐色粘質土 黄褐色粘質土を混じる。砂質土とAs-Bがわずかに入る。しまっている。



第57図 VIII区井戸と土坑

塊を含むオリブ褐色砂質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。埋没土から土坑の時期は浅間Bテフラ降下以降と考えられる。

11号土坑は隅丸方形の土坑で、10号土坑の北側で検出された。断面形は浅い箱状。上層は浅間B軽石・黄褐色粘質土塊を含むオリブ褐色砂質土で、底面付近は黄褐色粘質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。埋没土から土坑の時期は浅間Bテフラ降下以降と考えられる。

(3) ビット状の遺構(第67図)

Ⅷ区でビットとして判断し番号を付した遺構はなかった。溝や土坑と同じ確認で、掘り込みを確認したビット状のものは平面図を記録したが、いずれも深さ0.1～0.2cmでビットとして扱わないこととし、埋没土の記録は行わなかった。第67図に位置のみ掲載した。

(4) 溝

Ⅷ区では、4条の溝が検出された。溝の位置や規模はP.444の表にまとめた。以下各溝の調査所見を記載する。なお、溝の平面図は個別図を作成せず、1/300の各区全体図でこれに変えた。埋没土層断面図は個々に掲載した。

Ⅷ区1号溝(第58・67図 PL.41・43)

1号溝はⅧ区東端で検出された。2号溝の屈曲部から東側に延びる。西端は2号溝と重複している。東端はⅧ区1号溝に連続する。2号溝との新旧関係は不明であるが、一連の溝と推定される。溝の走向はN-88°-W、上幅1.10～1.40m、深さ0.28m、調査長5.20mである。断面は浅いU字形。底面は平坦で、東端が東端より0.01m高かった。

溝内は浅間A軽石を含む暗褐色土で埋まっていた。埋没土中から2号溝と合わせて陶磁器破片40点、土器破片8点、瓦破片2点、土師器甕破片2点が出土した。土師器は混入である。

Ⅷ区1号溝の時期は浅間A軽石降下以降である。本溝は、Ⅶ・Ⅵ・Ⅴ区を経て東方のⅣ区蛭堀までつながる用水路の一部であり、江戸時代後期から近現代まで使われた。

Ⅷ区2号溝(第58・67図 PL.41・43)

2号溝はⅧ区東半部で検出された。南北方向の溝が61-1-2グリッドでL字状に屈曲して東西方向になり、さらに51-1-17グリッドで南へL字状に屈曲する。西の屈曲部で3号溝と、東の屈曲部で1号溝と重複する。新旧関係は不明であるが、一連の溝で、同時に使用されていたと推定される。北端・南端ともに発掘区域外となる。

溝の走向は中央の東西方向部分でN-88°-W、上幅0.20～1.80m、深さ0.33m、調査長59.30mである。上幅が狭いのは東側の南北方向部分である。断面は浅いV字形。底面は平坦で、南端が北端より0.21m高かった。

溝内は浅間A軽石を含む暗褐色土で埋まっていた。埋没土中から1号溝と合わせて陶磁器破片49点、土器破片9点、瓦破片3点、土師器甕破片2点が出土した。土師器は混入である。

Ⅷ区2号溝の時期は浅間A軽石降下以降である。本溝は、Ⅶ・Ⅵ・Ⅴ区を経て東方のⅣ区蛭堀までつながる用水路の一部であり、江戸時代後期から近現代まで使われた。南端の底面が高いことから南から北への配水も考慮されるが、狭い調査範囲であることから断定できなかった。

Ⅷ区3号溝(第58・67図 PL.41・43)

3号溝はⅧ区中央部で検出された。東西方向の溝である。西側のL字状に屈曲する4号溝の屈曲部と東側の3号溝の屈曲部をつなぐように掘られている。

溝の走向はN-81°-E、上幅0.36～1.30m、深さ0.26m、調査長33.30mである。断面は浅いU字形。底面は平坦で、西端が東端より0.25m高かった。

溝内は浅間A軽石・小礫を含む暗褐色土で埋まっていた。埋没土中から4号溝と合わせて陶磁器57点、土器6点、瓦破片1点、土師器高環破片1点が出土した。土師器は混入である。

Ⅷ区3号溝の時期は浅間A軽石降下以降である。

Ⅷ区3号溝は、Ⅶ・Ⅵ・Ⅴ区を経て東方のⅣ区蛭堀までつながる用水路の一部であり、江戸時代後期から近現代まで使われた。西端の底面が高いことから流向は西から東である。

VIII区4号溝(第67図 PL.41)

4号溝はVIII区西半部で検出された。東西方向の溝が61-1-8グリッドでL字状に南へ屈曲して南北方向になる。屈曲部で3号溝と重複する。新旧関係は不明であるが、一連の溝で、同時に使用されていたと推定される。西端はIX区6号溝に連続する。南端は発掘区域外となる。

溝の走向は東西方向部分でN-84°-E、上幅0.20~2.50m、深さ0.03m、調査長46.60mである。上幅が狭いのは西側、広いのは屈曲部分である。断面は浅いV字形。底面は平坦で、南端が西端より0.04m高かった。本溝は遺憾ながら埋没土の記載がない。埋没土中から3号溝と合わせて陶磁器41点、土器破片11点、瓦破片1点、土師器高環破片1点が出土した。土師器は混入である。

VIII区4号溝の時期は、本区3号溝およびIX区6号溝との連続性を考えると、浅間A軽石降下以降である。本溝もVII・VI・V区を経て東方のIV区蛭塚までつながる水路の一部であり、江戸時代後期から近現代まで使われたのであろう。南端の底面が高いことから南から北への配水も考慮されるが、狭い調査範囲であることから断定できなかった。

1号~4号溝の出土遺物

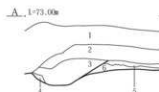
(第58図 PL.211 遺物観察表P.449-452)

上記の4条の溝の出土遺物は、単独ではなく、1号・2号溝、2号・3号溝、3号・4号溝の3グループにまとめられて取り上げたものが多い。したがって図示した遺物の出土位置は各溝に振り分けられないので、ここで述べておく。

第58図1は18世紀前半の瀬戸・美濃陶器皿、2は18世紀中ごろから後半の美濃陶器尾呂茶碗と推定される。5は19世紀の瀬戸・美濃磁器碗、3は江戸時代の瀬戸・美濃陶器香か底破片、4は江戸時代瀬戸・美濃陶器割じょく、6~8は近現代の磁器碗・鉢、9は近現代の瀬戸・美濃磁器湯呑、10は近現代在地系土器焙烙、11は近代に使われたガラス製の薬瓶である。

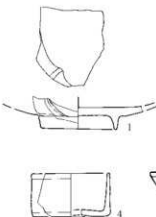
以上の遺物からも、一連の溝は近世から近・現代まで使用された水路であることがわかる。

VIII区1号溝



VIII区1号溝A-A'

1. 盛土
2. 暗褐色土 As-Aを全体に含む。(As-A降下以降~現代の耕作土)
3. 暗褐色粘砂質土 As-Aを全体に含む、下部にAs-B軽石が入る。
4. 黒褐色粘質土
5. オリーブ褐色砂質土
6. 暗灰黄色砂質土とAs-Bを混合黄褐色粘質土塊を少し含む。



VIII区2号溝

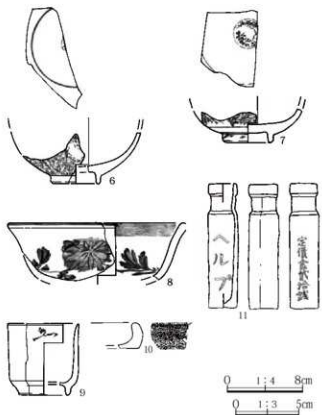


- VIII区2号溝A-A'
1. 暗褐色粘砂質土 As-Aを含む。
 2. 暗褐色粘砂質土 As-Bを含む。

VIII区3号溝



- VIII区3号溝A-A'
1. 暗褐色粘砂質土 As-A・小礫径1cm以下を含む。



第58図 VIII区溝と出土遺物

10. IX区の遺構と遺物

(1) 土坑(第59・60・66図 PL.45~47)

IX区で検出された土坑は23基である。IX区西端の微高地部分に13基が集中し、他の10基は低地部全体に散在していた。それぞれの土坑の位置や規模は、P.435の表にまとめた。以下各遺構の調査所見を記載する。

1号土坑は丸い楕円形の土坑で、微高地縁辺で検出された。断面形は浅いボール状。浅間B軽石を多く含む黒色砂質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

2号土坑は楕円形の土坑で、調査区南端の微高地縁辺で検出された。断面形は浅いボール状。浅間B軽石・褐色粘質土塊を含む黒色砂質土で埋まっていた。底面中央で扁平な大型礫が出土した。

3号土坑は楕円形の土坑で、2号土坑の北側で検出された。断面形は箱状。浅間B軽石やオリブ褐色粘質土塊を含む黒褐色砂質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

4号土坑は楕円形の土坑で、1号溝の北側で検出された。断面形は浅いボール状。上層は浅間B軽石・オリブ褐色粘質土塊を含む黒色砂質土で、下層はオリブ褐色粘質土塊を含む黒色粘質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

5号土坑は不整形の土坑で、1号溝の北側で検出された。断面形は上方が開く箱状。上層は浅間B軽石を含み、暗灰黄色粘質土塊・褐色粘質土塊を多く混じる黒色砂質土で、下層は褐色粘質土塊を混じる黒色砂質土や暗灰黄色砂質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

6号・7号土坑は1号溝の北縁に重複して検出された。いずれの土坑も1号溝より新しい。また6号土坑が7号土坑より新しい。6号土坑は円形の土坑で、断面形は台形状。浅間B軽石・褐色粘質土塊を混じる黒褐色砂質土で埋まっていた。埋没土中から土師器環破片が出土したが、混入である。

7号土坑は小型の楕円形の土坑である。断面形は浅いボール状。浅間B軽石を含む黒褐色砂質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

8号土坑は大型の楕円形の土坑で、1号溝の南縁に重複して検出された。1号溝より新しい。断面形は上方の開く箱状。浅間B軽石・灰色粘質土塊・褐色粘質土塊を

含む黒褐色砂質土で埋まっていた。底面直上には暗灰黄色粘質土が堆積していた。遺物は出土しなかった。

9号土坑は不整形の土坑で、1号溝の北東側で検出された。断面形は上方の開く箱状。上層は浅間B軽石・褐色粘質土塊を混じる黒褐色砂質土で、下層は浅間B軽石・褐色粘質土塊を含む黒褐色粘土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

10号土坑は楕円形の土坑で、4号溝の西側で検出された。断面形は浅いボール状。浅間B軽石・黄灰色粘質土塊を混じる黒褐色砂質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

11号土坑は丸い楕円形の土坑で、3号溝の北側で検出された。断面形は箱状。中央底面直上に大型礫が残されていた。浅間B軽石・黒褐色粘土塊を混じる暗灰黄色砂質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

12号土坑は小型の楕円形の土坑で、5号溝の東側で検出された。断面形は台形状。浅間B軽石を含む暗灰黄色砂質土・黒褐色砂質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

13号・14号土坑は5号溝の東方で重複して検出された。14号土坑が新しい。13号土坑は丸い楕円形の土坑で、断面形はU字状。浅間B軽石・暗灰黄色粘質土塊等を含む黒褐色土等で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

14号土坑は円形の土坑で、断面形は上方の開く箱状。浅間B軽石を多く含む暗灰黄色砂質土・黄灰色粘質土塊を含む黒褐色砂質土で埋まっていた。底面直上には黒褐色砂粒が混じる黄灰色粘土が堆積していた。遺物は出土しなかった。

15号土坑は小型の楕円形の土坑で、4号溝の西側で検出された。断面形は浅いボール状。浅間B軽石・暗灰黄色粘土塊を混じる暗灰黄色砂質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

16号土坑は不整形楕円形の土坑で、4号溝と重複して検出された。16号土坑が古い。断面形は台形。浅間B軽石・黒褐色粘質土塊を混じる暗灰黄色砂質土・黒褐色砂質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

17号土坑は楕円形の土坑で、5号溝の西縁で検出された。断面形は上方の開く箱状。上層は浅間B軽石・黄褐色土塊を含む灰黄褐色砂質土で、中層は浅間B軽石を含む黒褐色砂質土で、下層は浅間B軽石・黒褐色シルトを含

む黒褐色砂質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

18号土坑は不整楕円形の土坑で、調査区東端部で検出された。断面形は台形状。上層は浅間B軽石・黄褐色土小塊を含む褐灰色砂質土で、下層は浅間B軽石・暗褐色シルトを含む黒褐色砂質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

19号土坑は丸い楕円形の土坑で、4号土坑の東側で検出された。上層は浅間B軽石・黄褐色土小塊を含む褐灰色砂質土で、下層は浅間B軽石・暗褐色シルトを含む黒褐色砂質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

20号・21号・22号土坑は1号溝の北東側で重複して検出された。20号土坑が最も新しく、21号・22号土坑の新旧関係は不明である。20号土坑は不整楕円形の土坑で、断面形は台形状。浅間B軽石・黄褐色シルト塊を含む黒

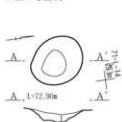
色砂質土・黒褐色砂質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

21号土坑は円形の土坑で、断面形は筒状。浅間B軽石・黄褐色シルト・黒色シルト塊を含む黒褐色砂質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

22号土坑は円形の土坑で、断面形は上方の開く箱状。上層は浅間B軽石・黄褐色シルト・黒褐色シルト塊を含む黒褐色砂質土で、下層は浅間B軽石を含む黒色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

23号土坑は楕円形の土坑で、発掘区西端で検出された。本土坑は当初、古墳時代の遺構面として調査したが、埋没土の観察から中近世の遺構と判断し、本章で報告した。断面形は浅いボール状。浅間B軽石・黄褐色粘質土を含む黒褐色砂質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

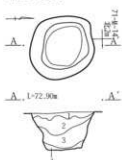
IX区1号土坑



IX区1号土坑A-A'

1. 黒色砂質土 As-Bを多く含む。しまりやや弱い。

IX区5号土坑



IX区5号土坑A-A'

1. 黒色砂質土 As-Bを含み、暗灰黄色粘質土塊が少し混じる。
2. 黒色砂質土 As-Bを含み、暗灰黄色粘質土とオリブ褐色粘質土塊を多く混じる。
3. 黒色砂質土 オリブ褐色粘質土塊を少し混じる。
4. 暗灰黄色砂質土 オリブ褐色粘質土塊を混じる。

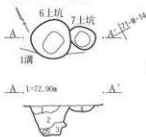
IX区2号土坑



IX区2号土坑A-A'

1. 黒色砂質土 As-Bを多く含む。オリブ褐色粘質土塊径10mm以下が少し混じる。しまりやや弱い。

IX区6号・7号土坑



IX区6号・7号土坑A-A'

1. 黒褐色砂質土 As-Bを含み、オリブ褐色粘質土塊が混じる。
2. 黒褐色砂質土 1層よりも粘質土塊が少ない。
3. 黒褐色砂質土 オリブ褐色粘質土と暗灰黄色粘質土を混じる。
4. 黒褐色砂質土 As-Bを含む。しまりやや弱い。(7号土坑埋没上)

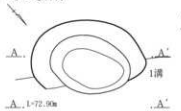
IX区3号土坑



IX区3号土坑A-A'

1. 黒褐色砂質土 As-Bを含む。オリブ褐色粘質土塊が少し混じる。
2. 黒褐色砂質土 オリブ褐色粘質土塊と暗灰黄色粘質土塊を多く混じる。
3. 黒褐色砂質土 1層よりもB軽石の粒が粗く、塊も多い。
4. 黒褐色砂質土 暗灰黄色粘質土塊を混じる。

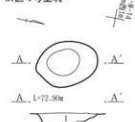
IX区8号土坑



IX区8号土坑A-A'

1. 黒褐色砂質土 As-Bを含み、灰黄色粘質土塊が混じる。
2. 黒褐色砂質土 As-Bを含む。
3. 黒褐色砂質土 As-Bを含み、灰黄色粘質土塊・オリブ褐色粘質土塊が混じる。
4. 黒褐色粘質土 オリブ褐色粘質土塊がわずかに混じる。
5. 暗灰黄色粘質土 黒褐色粘質土塊・オリブ褐色粘質土塊を混じる。

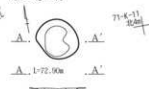
IX区4号土坑



IX区4号土坑A-A'

1. 黒色砂質土 As-Bを多く含む。オリブ褐色粘質土塊が混じる。
2. 黒色粘質土 オリブ褐色粘質土塊を混じる。

IX区9号土坑



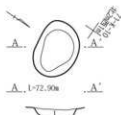
IX区9号土坑A-A'

1. 黒褐色砂質土 As-Bを含む。オリブ褐色粘質土塊が混じる。
2. 黒褐色粘土 As-Bを含む。黒褐色砂質土が塊状に少し混じる。

第59図 IX区土坑(1)

0 1:60 2m

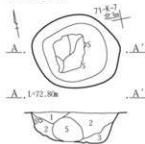
Ⅹ区10号土坑



Ⅹ区10号土坑A-A'

1. 黒褐色砂質土 As-Bを含む。黄灰色粘質土塊径10mm程度が混じる。

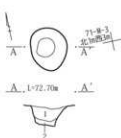
Ⅹ区11号土坑



Ⅹ区11号土坑A-A'

1. 暗灰黄色砂質土 As-Bを含む。黒褐色粘土塊径10cm以下が多く混じる。
2. 暗灰黄色砂質土 1層と同じだが粘土塊径50mm以下が少し混じる。
3. 黒褐色粘質土塊と黄灰色粘質土塊の混合 砂質土が少し混じる。

Ⅹ区12号土坑



Ⅹ区12号土坑A-A'

1. 暗灰黄色砂質土 As-Bを多く含む。
2. 黒褐色砂質土 As-Bを含む。黄灰色粘質土塊が少し混じる。

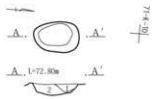
Ⅹ区13号・14号土坑



Ⅹ区13号・14号土坑A-A'

1. 暗灰黄色砂質土 As-Bを多く含む。
2. 黒褐色砂質土 As-Bを含む。黄灰色粘質土塊が少し混じる。
3. 黄灰色粘土 黒褐色砂粒が少し混じる。粘性あり。
4. オリーブ褐色粘質土 As-Bを多く含む。
5. 黒褐色砂質土 As-Bを含む。暗灰黄色粘質土小塊が少し混じる。
6. 黒褐色粘土 黒褐色砂粒が少し混じる。粘性あり。

Ⅹ区15号土坑



Ⅹ区15号土坑A-A'

1. 暗灰黄色砂質土 As-Bを含む。黄灰色粘質土塊が混じる。
2. 暗灰黄色砂質土 1層と同じだが、粘質土塊が少ない。

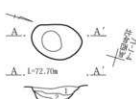
Ⅹ区16号土坑



Ⅹ区16号土坑A-A'

1. 暗灰黄色砂質土 As-Bを多く含む。黒褐色粘質土塊が少し混じる。
2. 黒褐色砂質土 As-Bを多く含む。黒褐色粘質土塊が混じる。
3. 黒褐色粘土 砂質土がわずかに混じる。

Ⅹ区17号土坑



Ⅹ区17号土坑A-A'

1. 灰黄褐色砂質土 As-B・砂粒を多く含む。黄褐色土の小塊を少量含む。鉄分で染まっている部分がある。
2. 黒褐色砂質土 As-B・砂粒を多く含む。固くしまっている。
3. 黒褐色砂質土 As-B・砂粒を多く含む。黒褐色シルトを含む。固くしまっている。

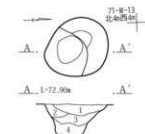
Ⅹ区18号土坑



Ⅹ区18号土坑A-A'

1. 褐色砂質土 As-B・砂粒を多く含む。黄褐色土の小塊を含む。
2. 黒褐色砂質土 As-B・砂粒・暗褐色シルト塊を含む。

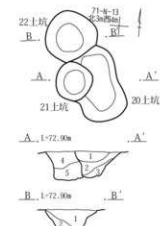
Ⅹ区19号土坑



Ⅹ区19号土坑A-A'

1. 黒褐色砂質土 As-B・砂粒を多く含む。黄褐色土の小塊をまばらに含む。
2. 黒褐色砂質土 As-B・砂粒を多く含む。固くしまっている。
3. 黒褐色砂質土 As-B・砂粒を多く含む。黄褐色土・黒色シルトの小塊を含む。固くしまっている。
4. 黒褐色砂質土 As-B・砂粒を多く含む。黄褐色シルト・黒色シルトの小塊を含む。

Ⅹ区20号～22号土坑



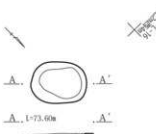
Ⅹ区22号土坑B-B'

1. 黒褐色砂質土 As-B・砂粒を多く含む。黄褐色シルト・黒褐色シルト塊を少量含む。
2. 黒色土 As-B・砂粒を含む。

Ⅹ区20号・21号土坑A-A'

1. 黒色砂質土 As-B・砂粒を多く含む。黄褐色シルト塊を少量含む。固くしまっている。(20号土坑埋没上)
2. 黒褐色砂質土 As-B・砂粒・黄褐色シルト塊を多く含む。(20号土坑埋没上)
3. 黒褐色砂質土 As-B・砂粒・黄褐色シルト塊を多く含む。全体に黒色シルトを含む。(20号土坑埋没上)
4. 黒褐色砂質土 As-B・砂粒・黄褐色シルト塊を多く含む。黒色シルト塊を少量含む。(21号土坑埋没上)
5. 黒褐色砂質土 As-B・砂粒を多く含む。黄褐色シルト塊を少量含む。(21号土坑埋没上)

Ⅹ区23号土坑



Ⅹ区23号土坑A-A'

1. 黒褐色土 As-Bを多く含む。黄褐色粘質土を少量含む。



第60図 Ⅹ区土坑(2)

(2) 溝

IX区では、6条の溝が検出された。溝の位置や規模はP.445の表にまとめた。以下各溝の調査所見を記載する。なお、溝の平面図は個別図を作成せず、1/300の各区全体図でこれに変えた。埋没土層断面図は個々に掲載した。

IX区1号溝

(第61・66図 PL.48・211 遺物観察表P.449・450・452)

1号溝はIX区南西部で検出された直線の溝である。北西端・南東端ともに発掘区域外となる。4号溝と重複するが1号溝が新しい。また、8号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。

溝の走向はN-55°-W、上幅0.80~1.90m、深さ0.50m、調査長50.25mである。断面は葉研形。底面は平坦で、北西端が南東端より0.01m高かった。

溝内は浅間A軽石を含む暗灰黄色砂質土で埋まっていた。上層にはビニール片も含む。埋没土中から陶磁器破片86点、土器破片34点、瓦破片1点、土師器破片2点、甕破片2点が出土した。土師器・須恵器は混入である。15~16世紀とみられる中国磁器皿(第61図3)、江戸時代の肥前磁器碗(2)、18世紀とみられる美濃陶器尾呂茶碗(4)、17世紀中葉~後半とみられる美濃陶器皿(5)、17世紀~18世紀前半とみられる美濃陶器尾呂茶碗(6)と瀬戸・美濃陶器鉄絵鉢(7)、18世紀後半~19世紀前半の美濃陶器徳利(8)、江戸時代以降の瀬戸・美濃陶器製戸車(1)、煙管吸口(9)、デイスイト製の切り砥石(10)、石英や雲母石英片岩の火打石(11~13)を図示した。

IX区1号溝の時期は浅間A軽石降下以降である。出土遺物も18世紀から19世紀にかけてのものが多く出土した。IX区1号溝は、江戸時代後期から近現代まで使われた水路の一部であろう。

IX区2号溝(第61・66図 PL.48・211 遺物観察表P.450)

2号溝はIX区中央部で検出された南北方向の直線の溝である。北端は発掘区域外となる。南端は4号溝と合流する。新旧関係は不明である。同時に使われた可能性はある。

溝の走向はN-9°-E、上幅0.65~1.80m、深さ0.50m、調査長50.25mである。断面は浅いU字形。底面は平坦で、北西端が南東端より0.01m高かった。

溝内は浅間A軽石を含む暗灰黄色砂質土で埋まっていた。埋没土中から陶磁器破片10点、土師器甕破片1点が出土した。土師器は混入である。17世紀後半とみられる肥前陶器器手碗(第61図14)を図示したが、層位からすると混入であろう。

IX区2号溝の時期は浅間A軽石降下以降である。本溝は、江戸時代後期から近現代まで使われた水路の一部であろう。

IX区3号溝(第61・66図 PL.48)

3号溝はIX区中央部で検出された東西方向の直線の溝である。西端は4号溝に接し、東端は5号溝に接する。重複関係はない。同時に使われた可能性はある。

溝の走向はN-84°-W、上幅0.60~1.30m、深さ0.14m、調査長20.02mである。断面は浅いU字形。底面は平坦で、西端が東端より0.19m高かった。

溝内は浅間A軽石を含む灰オリブ色粘質土やオリブ褐色粘質土で埋まっていた。埋没土中から陶磁器破片5点が出土した。

IX区3号溝の時期は浅間A軽石降下以降である。本溝は、江戸時代後期から近現代まで使われた水路の一部であろう。

IX区4号溝

(第61・66図 PL.48・211 遺物観察表P.450)

4号溝はIX区中央部の2号溝南側で検出された南北方向の溝である。北端部で2号溝・3号溝とつながっている。重複関係はない。同時に使われた可能性はある。

溝の走向はN-4°-E、上幅0.40~0.90m、深さ0.15m、調査長17.30mである。断面は浅いU字形。底面は平坦で、北端が南端より0.04m高かった。

溝内は細砂や浅間A軽石を含む暗灰黄色砂質土で埋まっていた。埋没土中から陶磁器破片4点、土器破片1点が出土した。19世紀前半~中ごろとみられる肥前磁器碗(第61図15)を図示した。

IX区4号溝の時期は浅間A軽石降下以降である。本溝は、江戸時代後期から近現代まで使われた水路の一部であろう。

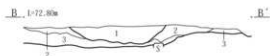
第3章 中近世の遺構と遺物

Ⅹ区 1号溝



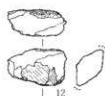
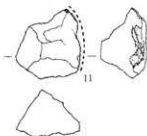
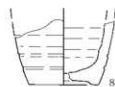
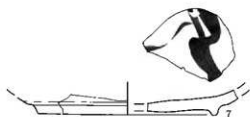
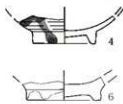
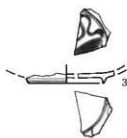
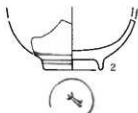
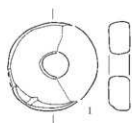
Ⅹ区 1号溝A-A'

1. 暗灰色砂質土 小礫径10mm以下を少し含む。しまっている。ピニール管含む。
2. 暗灰色砂質土 1層に細砂粒が混じる。しまっている。ピニール管含む。
3. オリーブ褐色砂質土 As-Aが多く混じる。
4. 黒色土 暗灰色細砂粒が混じる。

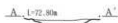


Ⅹ区 1号溝B-B'

1. 暗灰色砂質土 (1号溝埋没土)
2. 暗灰色砂質土 As-Aを含む。しまっている。(4号溝埋没土)
3. 暗灰色砂質土 オリーブ褐色粘質土塊が混じる。(4号溝埋没土)



Ⅹ区 2号溝



Ⅹ区 2号溝A-A'

1. 暗灰色砂質土 As-Aを含む。しまっている。



Ⅹ区 3号溝



Ⅹ区 3号溝A-A'

1. 灰オリーブ粘土 上ぶい黄褐色粘土が混じる。
2. 灰オリーブ粘質土 砂粒・As-Aが少し混じる。
3. オリーブ褐色粘質土 As-A・砂粒を含む。

Ⅹ区 4号溝



Ⅹ区 4号溝A-A'

1. 暗灰色砂質土 As-A・細砂粒を含む。
2. 暗灰色砂質土 1層よりもA軽石が多い。
3. オリーブ褐色砂質土 As-A・砂粒が多く入る。くずれやすい。
4. 黄灰色砂質土 細砂粒を多く含む。



Ⅹ区 4号溝B-B'

1. 黄灰色砂質土 As-Aが混じる。
2. 暗灰色砂質土 A軽石・細砂粒を含む。



第61図 Ⅹ区溝(1)と出土遺物

IX区5号溝(第62・66図 PL.49)

5号溝はIX区中央部で検出された南北方向の溝である。北端・南端とも発掘区域外となる。中央部で3号溝東端と接している。重複関係はない。同時に使われた可能性はあるが、詳細は不明である。

溝の走向はN-4°-W、上幅1.10~1.80m、深さ0.31m、調査長29.40mである。断面は浅い箱形。底面は平坦で、北端が南端より0.13m高かった。

溝内は浅間B軽石を含む暗灰黄色砂質土で埋まっていた。埋没土中から陶磁器破片4点、瓦破片1点、土師器破片4点、甕破片1点、須恵器破片1点が出土した。土師器・須恵器は混入である。

IX区5号溝の時期は浅間Bテフラ降下以降である。本溝は、江戸時代後期から近現代まで使われた用水路の一部であろう。

IX区6号溝(第62・66図 PL.49)

6号溝はIX区南東部で検出された東西方向の溝である。西端は北へ0.40mほど屈曲して見えなくなる。東端は発掘区域外となり、VIII区4号溝に連続する。重複遺構はない。

溝の走向はN-87°-E、上幅0.45~1.00m、深さ0.07

m、調査長36.70mである。断面は浅いU字形。底面にはやや凹凸があった。東端が西端より0.06m高かった。

溝内は浅間A軽石を含む暗オリーブ褐色粘質土等で埋まっていた。埋没土中から陶磁器破片5点、土器破片1点、土師器破片1点が出土した。土師器は混入である。

IX区6号溝の時期は浅間A軽石降下以降である。本溝は、VIII・VII・VI・V区を経てIX区蛭塚まで続く、江戸時代後期から近現代まで使われた用水路の一部であろう。

(3) 復旧溝

平成23年度調査で、IX区の西端に接した町道との交差点部で、町道に接する拡幅部分を調査した。拡張部の発掘区は北から北2区、北1区、南区とした(第63図)。北1区と南区中央部を除き、遺構は検出されなかった。ここでは3地点の土層断面を掲載するにとどめた。拡張部で検出された遺構は、北1区と南区の復旧溝と、北1区の浅間Bテフラ下水田である。拡張部の発掘区は極めて細長い調査区のため、他の発掘区と同様に1:300全体図を掲載することはできなかった。これらの遺構の平面図は1:100の平面図のみを掲載している。

IX区では中央区で1地点、北1区で1地点、南区で1地点、合計3地点の復旧溝群が検出された。いずれも多

IX区5号溝



IX区5号溝A-A'

1. 暗灰黄色砂質土 As-Bを含む。しまっている。
2. 黒褐色砂質土 As-Bを含む。暗オリーブ粘質土壌が混じる。



IX区5号溝B-B'

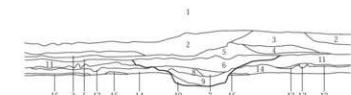
1. 黄灰色砂質土 As-Aを含む。5号溝以降の翻り込み。
2. 暗灰黄色砂質土 As-Bを含む。しまっている。
3. 黒褐色砂質土 As-Bを含む。暗オリーブ粘質土壌が混じる。粘質土壌が多く入る。
4. オリーブ褐色砂質土 As-Bの入った混土。

IX区6号溝



IX区6号溝A-A'

1. 盛土
2. 暗褐色土 As-Aを含む。現代までの耕作土。
3. 暗褐色土 As-Aをわずかに含む。溝のフケ上。
4. 暗オリーブ褐色粘質土 黄灰色粘質土壌が混じる。
5. オリーブ褐色砂質土 As-Aが混じる。溝へのくずれこみ。
6. 暗灰黄色砂質土 As-Aを多く含む。
7. オリーブ褐色砂質土
8. オリーブ褐色砂質土 As-Bが多く混じる。
9. 黄灰色砂 As-B一次堆積層。



IX区5号溝C-C'

1. 表土
2. 暗灰黄色土 As-Aを含む。
3. 暗灰黄色土 As-Aを多く含む。
4. As-Aと黄褐色土の混合
5. 暗灰黄色砂質土 鉄分のため黄褐色に染まっている部分も多い。
6. 黄灰色砂質土 砂粒・As-Bを含む。
7. 黒褐色砂質土 砂粒・As-Bを多く含む。
8. 黄灰色砂質土と黄褐色シルトの小塊の混合 砂粒・As-Bを含む。
9. 黒褐色砂質土 砂粒・As-Bを多く含む。
10. 黒褐色砂質土 9層に黄褐色シルト小塊を含む。
11. 黄灰色砂質土 As-Bを多く含む。
12. As-B一次堆積層
13. 黒色シルト 細砂粒を含む。
14. 黄灰色シルト 細砂粒を含む。
15. 黒褐色粘質土 細砂粒を含む。

第62図 IX区溝(2)

0 1:60 2m

第3章 中世の遺構と遺物

量の浅間A軽石を塊状に含む灰褐色土で埋まっており、浅間A軽石被災を復旧するための溝群である。中央区の1号復旧溝と北1区の2号復旧溝は同様な方向を示すことから、同一地割内の遺構と推定される。

浅間A軽石降下当時、ここがどのような土地利用がされていたかは軽石直下面が出土していないので明確ではない。本遺跡内の低地部は12世紀初頭の浅間Bテフラ降下時は水田であったことから、それ以後も水田として利用されていた可能性が高い。その場合には水田から水田への復旧を意図したものと考えられる。しかしIX区は微高地にあたりいつの時点で水田化されたか、現状では不明である。浅間A軽石降下当時、この地点が畑地であった可能性もあり、畑から畑、あるいは畑から水田への復旧がおこなわれたことも考えられる。いずれにしても復旧溝群の位置や規模は、当時の地割の一部を表していることになろう。

浅間A軽石の降下は1873(天明3)年であることから、それ以前の近世の遺構とは重複関係になる。区ごとの全体図(1/300)では、網かけて重ねている。

IX区1号復旧溝(第64図 PL.49)

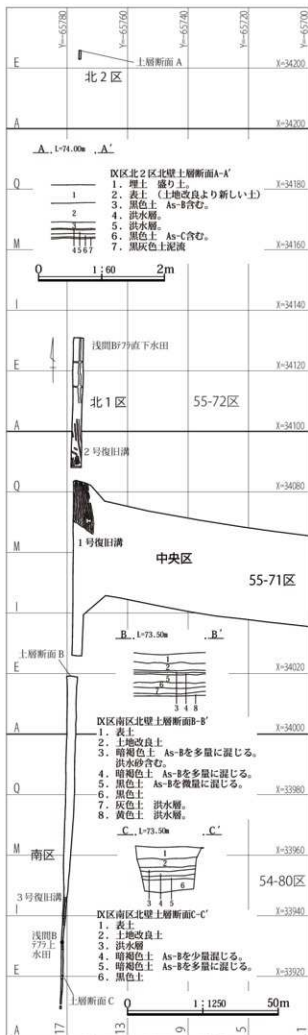
1号復旧溝は、IX区北西隅で検出された。重複遺構はない。溝群の全体の規模は南北19.70m、東西6.82m、溝の方向は概ね $N-2^{\circ}-W$ である。全体で14条の復旧溝が検出された。

それぞれの溝は細長く不整形で、溝の形状は平面形も凹凸が著しい。短辺は丸くなっている溝が多い。隣接する溝と切りあう溝があり、掘削の方向を修正しながら一部重なるように溝を掘り、作業が進められた様子が見てとれた。最も大きな溝の上幅は0.23~0.51m、深さは0.06m、長さは13.70mである。最も小さな溝の上幅は0.09~0.23m、深さは0.01m、長さは0.88mである。底面には緩やかな凹凸がある。

遺物は出土しなかった。

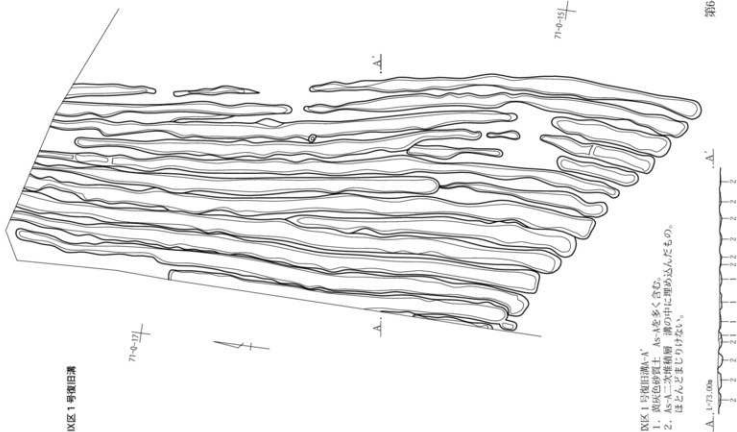
IX区2号復旧溝(第64図)

2号復旧溝は、IX区北1区南部で検出された。重複遺構はない。溝群は南北15.40m、東西3.6mの範囲で検出された。溝の方向は $N-6^{\circ}-W$ の溝群と $N-58^{\circ}-W$ の溝群がある。前者は8条、後者は2条の復旧溝が検出



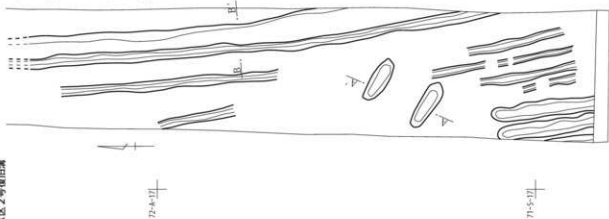
第63図 IX区北区・南区全体図

IX区1号復旧溝



- IX区1号復旧溝-A'-A'
 1. 黄灰色砂質土 As-Aを多く含む。
 2. As-A二次体積層 溝の中に埋め込んだもの。
 ほとんどまじりけない。

IX区2号復旧溝

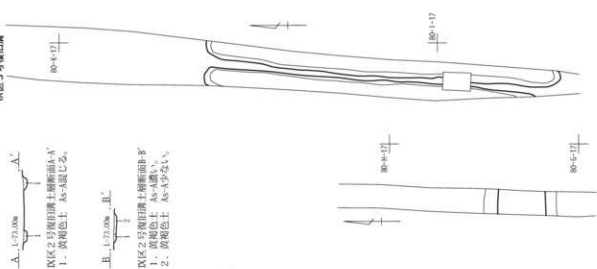


IX区2号復旧溝土層断面A-A'
 1. 黄褐色土 As-A底じる。

B. 1.73.00m

IX区2号復旧溝土層断面B-B'
 1. 黄褐色土 As-A濃い。
 2. 黄褐色土 As-A少ない。

IX区3号復旧溝



A. 1.73.00m

第64図 IX区復旧溝

0 1:100 5m

第3章 中近世の遺構と遺物

された。方向の異なる理由は不明である。

N-6°-Wの溝群はそれぞれの溝が細長く、溝の形状は平面形も凹凸が著しい。短辺は丸くなっている溝が多い。東半部の溝は細くなっているが、溝中心の間隔は確認面が下がったためとみられる。溝の上幅は0.24~0.48m、深さは0.02~0.06m、長さは2.8~12.48mである。底面には緩やかな凹凸がある。

N-58°-Wの溝群は2条検出された。それぞれの溝が比較的太く、短辺は丸くなっている。溝の上幅は0.40m、深さは0.12m、長さは2.16mである。

遺物は出土しなかった。

IX区3号復旧溝(第64図 PL.49)

3号復旧溝は、IX区南区中央やや南側で検出された。重複遺構はない。検出された復旧溝群は2条でいずれも長辺が発掘区外となり、全形をとらえることができなかった。規模は長さ9.40m、幅0.5m以上、深さ0.1m、溝の方向は概ねN-5°-Eである。

遺物は出土しなかった。

(4) 水田

IX区浅間Bテフラ上水田痕跡(第63図)

IX区南区の南半部で、浅間B軽石を多く含むⅢ層に覆われた水田が検出された。南区では浅間B軽石を含む黒褐色土で形成された疑似畦畔を検出した。このアゼの痕跡が検出されたのは東西方向の1条のみであり、水田区画は検出できなかった。

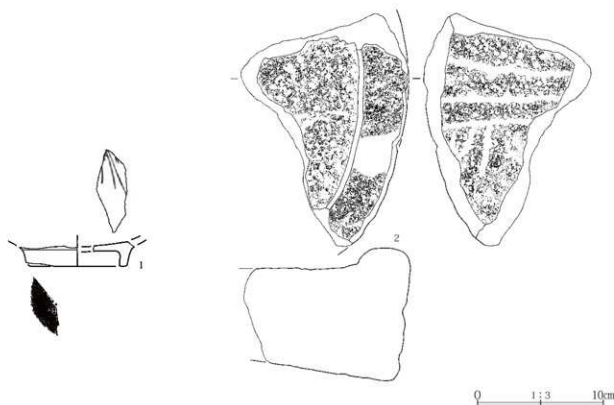
アゼの幅は、上幅1.28m、下幅1.92mである。水田面の時期を示す出土状態で出土した遺物はなかった。

(5) 遺構外の出土遺物

(第65図 PL.211 遺物観察表P.450・452)

IX区調査の遺構確認中に、遺構に伴わない形で第11表のように多くの遺物を出土した。なかには下位の層位からの混入遺物も含まれていたが、ここでは12世紀以降の遺物のうち、時期を示す大型の破片を中心に、遺構外の遺物2点を掲載した。なお、時期の古い混入遺物については、出土相当層の遺構外遺物の項に掲載した。

1は17世紀後半とみられる肥前陶器鉢である。2は粗粒輝石安山岩製の石臼破片である。



第65図 IX区遺構外の出土遺物(中近世)



第67図 上新田中道東遺跡 VⅢ区 中近世面全体図







55-41区 55-31区

0 1:300 10m



第71图 上新田中道東遺跡 IV区 中近世面全体図

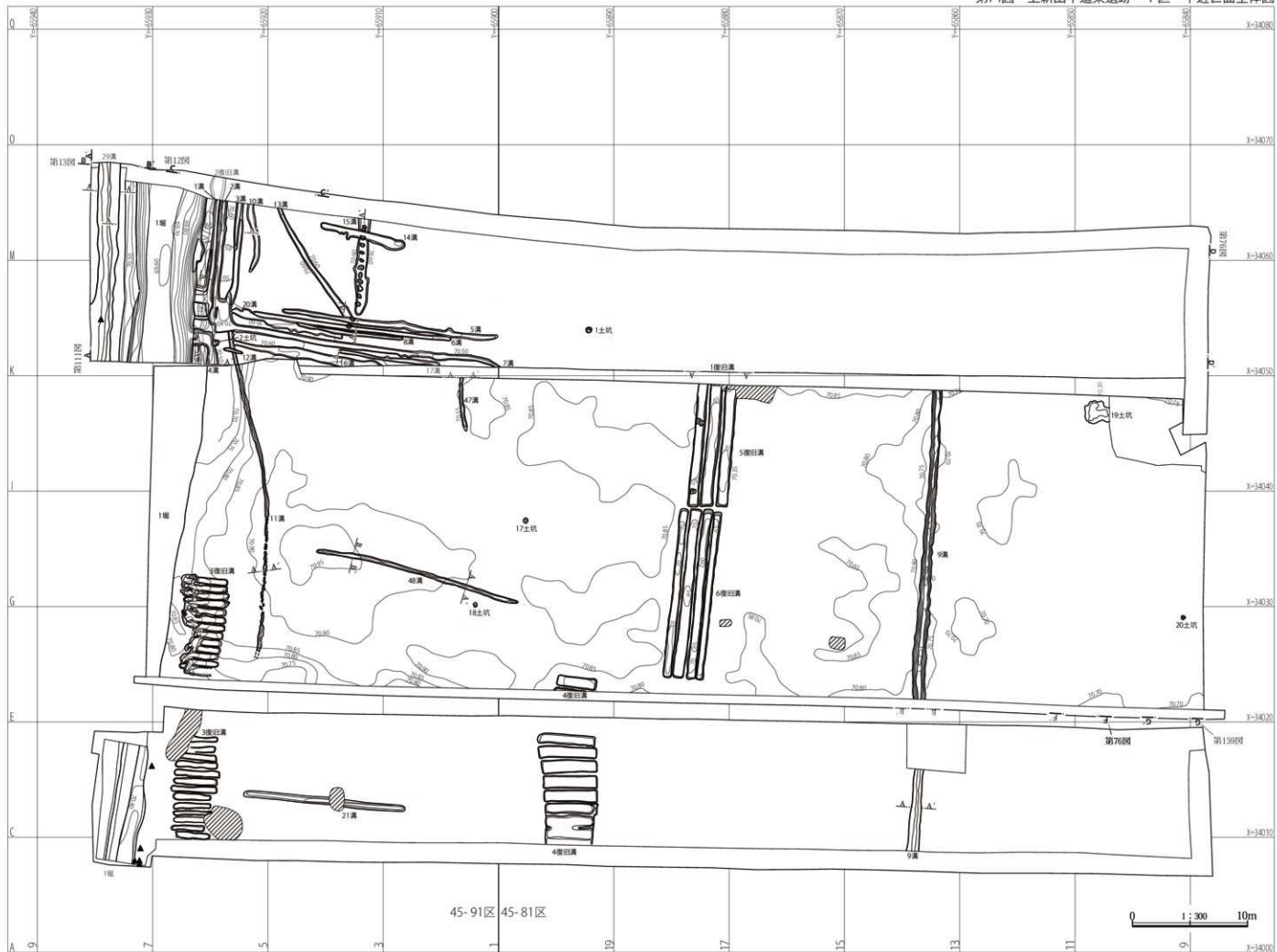




55-11区 55-11区

0 1:300 10m





第4章 中世の遺構と遺物

1. 概要

本章で報告するのは浅間Bテフラに関連する層位で検出・調査した遺構である。浅間Bテフラは1108(天仁元)年に浅間山が噴火した際に噴出したテフラで、遺跡のある玉村町周辺では5~10cmの堆積がある。上新田中道東遺跡では浅間Bテフラの降下ユニットのうち上半部は後世の耕作等で失われ、一次堆積層が残っていてもユニットの上位にあるピンク灰はほとんど見られない。遺構は、①浅間B混土上面、②浅間B混土下面、③浅間Bテフラ直下の3面で検出された。

①最上位の浅間B混土上面での遺構確認はⅡ区のみで、こげ茶色の浅間B混土からなる疑似畦畔が検出された。これは、水田の直下層において、後の時期の耕作の及ばないアゼ部分が、アゼ同様の盛り上がりとして残る「疑似畦畔B」^(註1)と考えられる。本来の水田は不明であるが、浅間Bテフラ降下以降、浅間B混土形成期のある時期がこの耕作の結果残されたことが考えられよう。時期は下る可能性も大きいですが、ここでは浅間Bテフラ関連を重視して本章で報告した。

②浅間B混土下面での遺構確認は、Ⅱ区とⅣ区~Ⅵ区でおこなった。Ⅱ区では耕作痕、Ⅳ区~Ⅵ区では水田の疑似畦畔を検出した。この2か所の遺構が同時期かどうかは厳密には判断できない。

Ⅱ区の浅間B混土下耕作痕は、浅間B混土を掘り下げ、浅間Bテフラ上面を精査して検出した。耕作痕は帯状で数条が並行している。Ⅱ区中央区ほぼ全域に検出された。耕作痕の傾向や方向には数種類があって、これらは、畜力および人力が混合した、最低でも5種の耕作痕が混在していたことが推定された。

Ⅳ~Ⅵ区の浅間B混土下面では、浅間B軽石を含む黒褐色砂質土を除去して、掘り残されたⅣ層(灰褐色シルト)からなる方格地割の疑似畦畔と水田区画が検出された。Ⅵ区では水路を中央に伴う大アゼも検出された。この水路(Ⅵ区10号溝)底面には浅間Bテフラ一次堆積層が残っていた。この疑似畦畔は、浅間B軽石を大量に含んだ土層を剥がして検出された。したがって、浅間Bテフラ直下水田と誤認する可能性も大きいですが、Ⅳ~Ⅵ区では、Ⅳ区の西半中央部やⅤ区の南東隅の一部を除いて、浅間Bテフラの一次堆積層は堆積していなかった。また、Ⅳ区南西部とⅥ区中央部は微高地であり、ここでは浅間B混土の堆積がなく、疑似畦畔も検出されなかった。

疑似畦畔は、本来のアゼに伴って形成されることから、平面的な位置は本来のアゼを示している。浅間B混土下の疑似畦畔の本来のアゼは、上層にあったはずの浅間Bテフラ直下水田のアゼである可能性が最も高い。したがってⅣ~Ⅵ区の水田区画は、Ⅰ~Ⅲ区とⅦ~Ⅸ区で検出された浅間Bテフラ直下水田の区画と一体のものと

第5表 上新田中道東遺跡 検出遺構数一覧
(2) 中世の遺構

浅間B混土上面

	I区	II区	III区	IV区	V区	VI区	VII区	VIII区	IX区
疑似畦畔		1							
耕作痕		1							
遺状遺構	1								

浅間B混土下面

	I区	II区	III区	IV区	V区	VI区	VII区	VIII区	IX区
耕作痕		3							
疑似畦畔				1	1	1			

浅間Bテフラ直下

	I区	II区	III区	IV区	V区	VI区	VII区	VIII区	IX区
土坑			2						
溝	2	1	4			1			
水田	1	1	1				1	1	1
ビッド列									1
畚								1	

して扱ひ、中世初期の水田の状況を示すと考えたい。

③浅間Bテフラ一次堆積層の直下では、I～Ⅲ区・Ⅶ～Ⅸ区で水田と溝4条を検出した。いずれの区でも浅間Bテフラ降下ユニットの下半部のみではあったが一次堆積層が残っており、その直下での遺構確認である。直接水田面を覆っていたのは、成層した浅間Bテフラの最下位に堆積している青灰色の細粒軽石である。その上に黒灰色軽石層が堆積していた。木層序は検出されたテフラ層が成層した一時堆積層であることを示しており、Ⅱ区の水田跡が浅間Bテフラ直下とすることが可能である。Ⅰ区西部、Ⅱ区西部、Ⅲ区中央部、Ⅳ区西半部、Ⅴ区西部は微高地であり、浅間Bテフラの堆積が無く、アゼは検出されなかった。

検出された水田は方格地割で区画されていたが、いずれの区でもアゼの高さは低く、残存状況は不良であった。Ⅰ区では表流水の痕跡とみられる18号・19号溝、Ⅱ区では馬蹄痕と掘削痕が、Ⅴ区では馬の歩行痕と推定される凹地が水田面で検出されている。溝は底面に浅間Bテフラ一次堆積層が残る状態でⅡ区2号溝、Ⅲ区12号溝が検出された。Ⅱ区2号溝の両側、Ⅲ区12号溝の西側にはやや幅広のアゼが伴っていた。この2条の溝の下位には9世紀後半とみられる洪水層で埋まった溝が埋没しており、古代から継続する用水系があったことがわかる。

浅間Bテフラ直下水田の耕作土は、夾雑物の少ない黒色粘質土あるいは暗灰色粘質土である。耕作土最上層には厚さ2～3cmの黒色粘質土(ⅣA層)がある。この土層は、近年水田休耕の証左とする説が出され注目されているが、生成過程については結論がでない。考古学的にも水田面の詳細な観察や、広域的な水路の使用状況の調査など、休耕の問題を解決するためのデータを蓄積して分析し直す必要がある。

2. I区の遺構と遺物

(1) 溝

I区浅間Bテフラ直下面で、2条の溝が検出された。溝の位置や規模はP.441の表にまとめた。以下各溝の調査所見を記載する。なお、溝の平面図は個別図を作成せず、1/300の各区全体図でこれに変えた。埋没土層断面図は個々に掲載した。

I区18号溝(第75・110図 PL.50)

18号溝は、I区南区の中央やや東寄りで、浅間Bテフラ直下で検出された。南端はやや西に湾曲するが、ほぼ直線的である。重複はない。南端・北端ともに発掘区域外となる。中央区では18号溝の延長部分を検出することはできなかった。

走向はN-51°-W。上幅は0.38～0.68m、深さは0.02m、調査長は16.82mである。断面形及び底面は緩やかな凹地状で浅く、掘り込まれたという形状ではない。底面の標高は北東端が0.06m高かった。溝内は浅間Bテフラ一次堆積層で覆われていた。遺物は出土しなかった。

浅間Bテフラ直下で検出されたことから、I区18号溝の時期は天仁元(1108)年と考えられる。また、同層位の浅間Bテフラ下水田の用水路というよりは、地表面上の帯状の細い凹地であり、表流水等が流れた痕跡と推定される。

I区19号溝(第110図 PL.50)

19号溝は、I区南区の中央やや西寄り、浅間Bテフラ直下で検出された。北端近くはやや西に屈曲するが、以南はほぼ直線的な溝である。重複はない。南端は発掘区域外となるが、北端は浅くなり、見えなくなる。

直線部の走向はN-55°-W、上幅は0.42～0.60m、深さは0.03m、調査長は16.10mである。底面は緩やかな凹地状である。底面の標高は北東端が0.10m高かった。

溝内は浅間Bテフラで埋まっていた。遺物は出土しなかった。19号溝も18号溝と同様に、同層位の浅間Bテフラ下水田の用水路というよりは、地表面上の帯状の細い凹地であり、表流水等が流れた痕跡と推定される。

(2) 水田

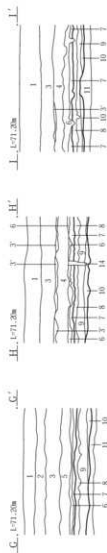
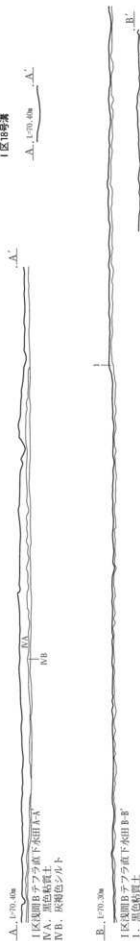
I区浅間Bテフラ直下水田

(第75・76・110図 PL.50～53)

I区の北区・中央区・南区の西側微高地を除く低地部分で、浅間Bテフラに覆われた水田が検出された。

I区で直接水田面を覆っていたのは、成層した浅間Bテフラの最下位に薄く堆積している青灰色の粗粒軽石である。その上に黒灰色軽石層が堆積していた。ただし南区では浅間Bテフラの残存状況が不良であったために、北側の中央区で検出されたアゼの延長部分を検出できた

I区18号溝



- I区18号溝テフラ直下水田G-G'・H-H'・I-I'
1. 明灰褐色土 表土、砂質土、As-A'少々入る。(IA)
 2. 灰褐色土 砂質土、As-A'がやや多く入る。現代の水田耕土。(IB)
 3. 灰褐色土 シルト質土。でも微細な砂粒から成る砂質土に近い。排水層。(IA)
 4. 灰褐色土 シルト質土。でも微細な砂粒から成る砂質土に近い。排水層。(IB)
 5. 黒褐色土 砂質土。As-A'を多く含む。まよく混拌されている。(IA)
 6. 黒褐色土 砂質土。As-A'を多く含む。まよく混拌されている。(IB)
 7. As-層石礫 水田底はなし。細粒の粘土。
 8. 黒褐色土 粘質土。As-B下水田面(IA)
 9. 灰褐色土 粘質土。酸化現象が少量見られる。耕土化している。(IBか)
 10. 灰褐色土 シルト質土。9層に似る粘性がやや強い。耕土化している。3面水田耕土が、酸化現象が少量入る。
 11. 明灰褐色土 シルト質土。上面は酸化現象が見られ、黄褐色の帯状になる所もある。3面水田底層は耕土が落ちてきている所。(I8か)

第75図 I区18号溝テフラ直下水田と水田土層断面(1)



のは東端部の1条のみであった。

1区の水田面の標高は45-91区3ラインで70.55m、南東隅の9ラインで70.15mである。1区西半部は西から東への緩傾斜、東半はやや南東方向に緩やかに傾斜する。検出された水田区画は、全部で17面である。水田面は西側の微高地を避けてつくられたと見られ、91-45区3ライン以西には水田区画は検出されなかった。水田区画は基本的に方格地制である。一部に自然地形に合わせて、斜行するアゼや湾曲するアゼで不定形に区画された部分もあった。1区では大アゼは検出されなかった。

南北アゼの方向はN-1~3°-Eであるが、なかには東西5°-7°ほどの西あるいは東に傾くアゼもあった。斜行するのはすべて東西アゼで、中央区東部ではN-61°-Eの斜行アゼもあった。全形が把握できたのは区画6・7・8・12の4面である。それらの規模は第7表のとおりである。区画された水田面の面積は一様でない。

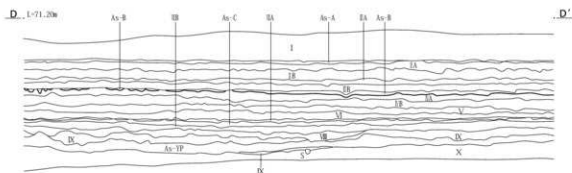
アゼの規模は北区では上幅0.4~0.8m、下幅0.7~1.08

m、高さ0.01~0.05m、中央区では上幅0.45~1.07m、下幅1.13~1.95m、高さ0.02~0.04m、南区では上幅0.38~0.5m、下幅0.63~0.9m、高さ0.05mで、緩やかな高まりが残存して、かろうじて水田区画を残している状態であった。区画7と8の間のアゼは途中で低くなり、検出できなかった。

水路および明確な水口は検出されなかった。本水田面への給水源は地形や傾斜を考慮すると北西方向にあるものと推定される。

水田面は凹凸があり、アゼも緩やかな高まりであった。南区西部では明確なアゼが検出できなかったが、水田面には表流水の流れた痕跡と推定される18号・19号溝が検出された。

水田耕作土は夾雑物の少ない黒色粘質土あるいは暗灰色粘質土であった。耕作土最上層には厚さ2~3cmの黒色粘質土(IV A層)があった。水田面の時期を示す出土状態で出土した遺物はなかった。



I区浅間Bテフラ直下D-D'

I. 表土

- IA. 黄褐色シルト
- IB. 黒灰色土~灰色シルト
- II. 灰褐色砂質土 As-Bを含む。
- III. 黒褐色砂質土 As-Bを多く含む。

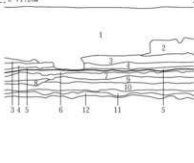
As-B

- IIA. 黒色粘質土
- IIIB. 灰褐色シルト
- V. 黒灰色シルト質土
- VI. 黒褐色粘質土
- VIIA. 黒色粘質土 As-Cを含む。

As-C

- III. 黒色粘質土 As-Cを含まない。
- VII. 灰黄色~灰黄色粘質土
- D. 灰黄色粘質土 黄色風化軽石を多く含む。
- As-TP
- X. 灰色~緑色砂礫混土

F, L=71.20m



F' I区浅間Bテフラ直下F-F'

1. 暗灰褐色 砂質土。表土。攪乱。(IA含む)
2. 黄褐色 シルト質土。ラミナ状堆積。洪水層。(IA)
3. 灰褐色 砂質土。As-B軽石少量含む。(IA)
4. 暗灰褐色 砂質土。As-B軽石多く含む。(IB)
5. As-B軽石層
6. 黒褐色 粘質土。As-B下水田層。(IIA)
7. 灰褐色 粘質土。(IIB)
8. 灰褐色 シルト質土。3面水田耕土の一部。7層に似るがやや暗く粘性強い。(IIB)
9. 灰褐色 シルト質土。3面水田耕土の一部。8層の一種。8層よりやや暗い。(IIB)
10. 暗灰褐色 シルト質土。3面水田。擬似畦畔面。
11. 黒褐色 粘質土。As-C軽石少量含む。(VII)
12. 暗灰褐色 砂質土。やや粗い砂粒多く含む。

0 1:60 2m

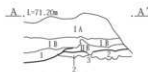
第7図 I区浅間Bテフラ直下水田土層断面(2)

(3) 道状遺構(第77・110図 PL.51)

I区南区から中央部にかけて、1号堀の東側に沿って帯状の硬化した面が検出された。道として利用されたために硬化したと推定される。1号堀と重複するが、1号堀より古い。

南区の道状遺構の規模は、幅1.35~1.43m、調査長6.05mで、南区の南半部では検出できなかった。硬化面の土層は、厚さ15cmの浅間B軽石を多量に含む灰色砂質土層の上面が硬化している。硬化面が浅間Bテフラに覆われていたのではないので厳密には中世の遺構といえないが、浅間Bテフラの含有量の多さから、浅間Bテフラ降下後の極めて降下に近い時期の遺構と推定される。道状遺構の確認面の東側でウシの歯9点が出土した。

中央区の道状遺構硬化面は、幅0.8~3.75m、調査長26.9mで、1号堀に沿って南区を横断するように検出された。北区ではその延長部は調査されていない。中央区の道状遺構の硬化面は、厚さ4~10cmの固く締まった黒褐色砂で、層位は浅間A軽石を含む土層で埋まった2号復旧溝より下位にある。遺物は出土しなかった。



I区道状遺構 A-A'

1 A. 表土

1 B. 表土 灰褐色土

II B. 黒灰色土~灰色シルト

1. 灰色シルト As-Aを含む。(1号堀埋没土)
2. 灰褐色土 砂とAs-Bを混じる。上面に鉄分が凝集し降下している。
3. 灰色シルト



I区道状遺構 B-B'

1. 灰褐色土 As-Aを含む。

2. 褐色土 As-Aを含む。

3. 洪水砂

4. 褐色土 As-A・洪水砂を含む。

5. 黒褐色砂 固く締まる降下層

6. 灰褐色シルト 灰褐色土塊を含む。

7. 灰褐色シルト 灰褐色土塊を少量含む。

8. 灰褐色シルト 黒色砂礫を含む。



第77図 I区道状遺構土層断面

3. II区の遺構と遺物

(1) 溝

II区浅間Bテフラ直下面で、1条の溝が検出された。溝の位置や規模はP.442の表に記載した。以下溝の調査所見を記載する。なお、溝の平面図は個別図を作成せず、1/300の各区全体図でこれに変えた。埋没土層断面図は個々に掲載した。

II区2号溝(第78・109図 PL.53)

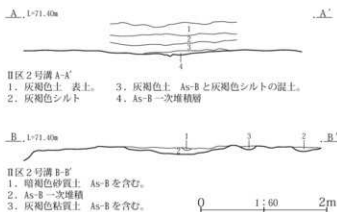
2号溝は、II区東半部の北区から中央区にかけて、浅間Bテフラ直下で検出された直線の溝である。北端は発掘区域外となり、南端は南区からI区南区へ延長すると推定されるが、II区南区では発掘区隔部のため、I区南区では1号堀に壊されているため、確認することができなかった。

2号溝の両縁には幅1.0~1.5m、高さ0.04~0.07mの緩やかなアゼ状の高まりを伴っており、溝の東西部では2号溝と同じく浅間Bテフラ直下で水田面を検出した。水田面は北区では顕著ではなかったが、中央区・南区では方形地割のアゼを検出している。

2号溝の走向は北区でN-41°-W、中央区でN-43°-W、上幅は北区で1.23~1.60m、中央区で0.98~1.38m、深さは北区で0.07m、中央区で0.09m、調査長は北区で21.14m、中央区で31.70mである。断面形及び底面は緩やかな凹地状で掘り込まれたという形状ではない。底面の標高は中央区南部が最も低く、北区北端は0.03m、南区北端は0.14m高かった。溝内は浅間Bテフラの一次堆積層で覆われていた。遺物は出土しなかった。

2号溝の下層には、ほぼ真下に、9世紀後半代とみられる洪水で埋まった17号溝が埋没している。このため、2号溝は17号溝の埋没過程の凹地に浅間Bテフラが溜まったとも考えられたが、中央区では西縁のアゼが16-17ライン間の水田アゼと、東縁のアゼが12-13ライン間の水田アゼとつながり、南区では西縁のアゼが12-13ライン間の水田アゼとつながることから、2号溝は埋没過程の自然堆積でなく、浅間Bテフラ以前には水田に作って一時期機能していた用水路と考えたい。この場合、水田は条里地割と推定される方形地割であるが、前時代から水系を踏襲して水田区画を斜めに横切る用水路を使い

第4章 中世の遺構と遺物



第78図 II区2号溝土層断面

続いていたことになろう。

(2) 水田

II区では、①中央区の浅間B混土層上面で、方格地割のアゼ痕跡(いわゆる疑似畦畔)・大アゼ痕跡・直線的で不明瞭な耕作具痕を、②その下位である浅間Bテフラ上面で、広範囲に複数の方向を示す直線的な耕作具痕を、③さらにその下層の浅間Bテフラ直下で水田を検出した。①・②は水田面・耕作作業面の検出ではないが、いずれかの時期の地表面から下層に掘り込まれた水田作業の痕跡の集積が、下位土層に残されたものと考えられる。ここでは水田区画がみつかった①・③を記載する。②は次節(3)耕作痕で記載する。

II区浅間B混土層上面水田痕跡(第79・81・107図 PL.54・55・211・212 遺物観察表P.450・451・452・468)

II区中央区の中央部から東部にかけて、中世①浅間B混土層上面で大アゼ下部を示す灰褐色粘質土が帯状に検出された。これはいわゆる疑似畦畔であり、上層にあった本来の水田の区画を示すと推定される。

検出された疑似畦畔は東西1条、それに直交する南北方向5条である。東西方向の1条は幅0.5~0.3mほどで、長さ34mにわたって記録することができた。西半部はほぼ直線であるが、東端部はやや南側に湾曲していた。一方、南北方向の疑似畦畔5条は幅0.25~0.45mほどで、西から5.2m、5.9m、4.4m、10.8m、4.8mの長さで、その一部が検出された。東西アゼに直交する直線部分もあるが、屈曲する部分もみられた。

また、この5条のアゼに加えて、南北方向の大アゼ1

条が検出された。この大アゼは1号溝に西半分を壊されているが、幅1m以上、残存高0.2mほどの規模をもつ。当初は疑似畦畔よりも大アゼが後出であろうという予測のもとに調査したが、疑似畦畔段階の耕作土が大アゼ盛土を被覆しておらず、かえて大アゼ基部の浅間B軽石混土に、その耕作土がのり上げるように見える部分があった。したがって大アゼは疑似畦畔形成時以前に存在し、本来の水田において小規模なアゼと同時期につくられた同一地割と考えると矛盾はないと考えられる。

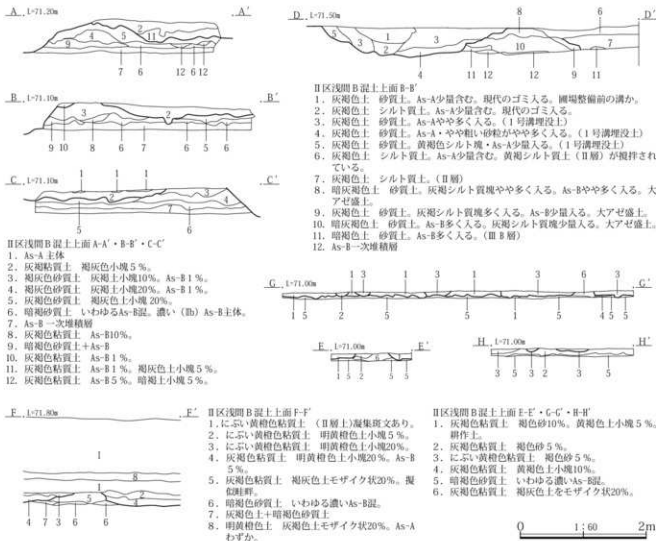
出土遺物は、大アゼに盛り上げた土中から土師器甕破片1点、陶器破片3点が出土した。また、疑似畦畔検出作業中その上下層から、土師器環破片15点、甕破片28点、S字甕4点、須恵器環破片10点、甕破片3点、陶磁器類破片13点、土器類10点が出土した。土師器・須恵器は混入である。層位からは少なくとも浅間B混土形成期以降ということになろう。

図示した遺物は、疑似畦畔検出面から出土したものである。第81図1・2は13世紀中葉~14世紀前半とみられる中国龍泉窯青磁碗破片、3は13世紀中葉から14世紀前半の中国白磁皿破片、5は古瀬戸瓶類の破片、4は15世紀以降とみられる在地系土器片口鉢破片、7は粗粒輝石安山岩製の茶白破片、11は蛇紋岩製の垂飾り、PL.212-13は石製製の火打石、12は「淳化元寶」(990年初鑄)である。本疑似畦畔の本来の水田の時期は不明であるが、中世の遺物が目立つ遺物出土状況であり、周辺に中世集落の存在を示唆している。また、時期は不明であるが同層位から土鍾3点(第81図8~10)が出土した。

この疑似畦畔検出面では、ほぼ発掘区全体で、南北方向の帯状の耕作痕を多数検出した。全体としては不明瞭であったが、輪郭が明確な91-H・I-16グリッドの4~5条を抽出して断面形と埋没状況を観察した。(第79図セクションG-G'・H-H')

耕作痕の規模は幅0.15~0.20m、長さ2~5.5m、深さ0.2~0.4mで、走向は南北アゼに平行する。周辺は耕起による攪拌土壌が重なるように堆積していた。ここで図化記録した帯状の痕跡は最終耕作痕が見えているものと推定される。耕作痕内は褐色砂を混じるにふい黄褐色粘質土で埋まっていたが、どのような耕作の痕跡かは特定することができなかった。遺物は出土しなかった。

また、中央区東端部で形状の異なる掘削痕跡を検出し



第79図 II区浅間B混土上面水田痕跡土層断面

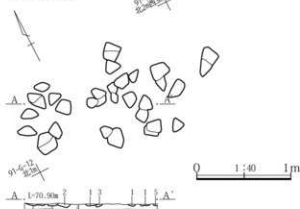
た。これも耕作痕と推定される。ここでは1号耕作痕として記載した。

II区1号耕作痕(第80図 PL.55)

浅間B混土層上面で疑似畦畔を検出中に91-G-11グリッドで不整多角形の小規模な掘り込みを検出した。長軸0.1~0.2mほどの台形もしくは平行四辺形で、深さは0.01~0.03mであった。掘り込み内は浅間B軽石・黒色土小塊・灰褐色土小塊を含む灰褐色粘質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

一定方向に並ぶような分布状況ではなく、どのような耕作による痕跡かは明らかにできなかった。層位からは浅間Bテフラ降下より新しいといえる。

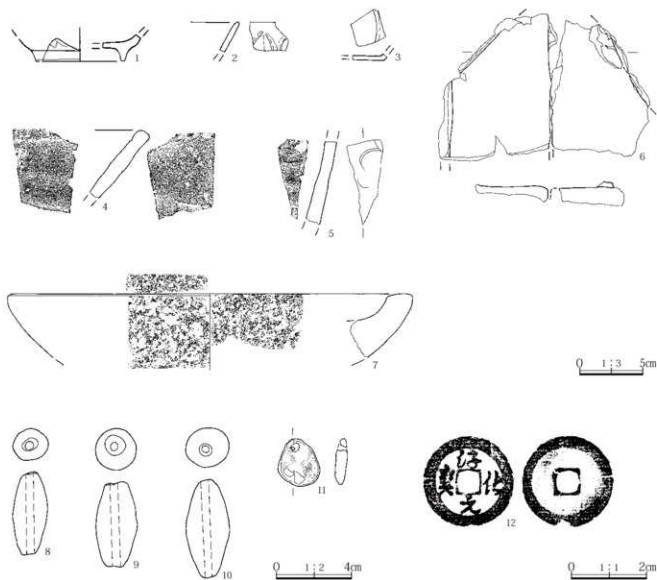
II区1号耕作痕



II区1号耕作痕B-B'

1. 灰褐色粘質土 As-B10%。
2. 灰褐色粘質土 As-B10%。黒褐色土小塊5%。
3. 明灰褐色粘質土 As-B10%。灰褐色土小塊5%。
4. As-B二次堆積
5. 暗褐色砂質土 いわゆる濃いAs-B混。

第80図 II区1号耕作痕



第81図 II区浅間B混土上面水田痕跡出土遺物

II区浅間Bテフラ直下水田(第82・109図 PL.56～59)

II区の55-1区5ラインより西側の東西幅24mの微高地部分を除く、ほぼ全域で中世③浅間Bテフラ直下面で水田が検出された。II区で直接水田面を覆っていたのは、成層した浅間Bテフラの最下位に堆積している青灰色の細粒軽石である。その上に黒灰色軽石層が堆積していた。浅間Bテフラの残存状況は良好で、厚さ5cmほどの一次堆積層が残存していた。北区東隅部や中央部、南区東半部でアゼが検出されなかったところがあったが、これは上層の耕作による攪乱が浅間Bテフラ下層まで及んで、同テフラ層の堆積がなくなっていたところである。

II区の水田面の標高は55-1区5ラインで71.00m、南東隅の45-91区11ラインで70.60mである。全体の地形は西半部が西から東への緩傾斜、東半部がやや南東に緩やかに傾斜する。検出された水田区画は、一部で途切れるアゼもあるが、少なくとも15区画以上である。水田区画は基本的には方格地割である。一部に自然地形に合わせて、斜行するアゼや湾曲するアゼで不定形に区画された部分もあった。本水田の用水路として機能したと推定される2号溝はこの方格に斜行するが、溝の両側のアゼが方格地割のアゼと連続していることから同時期の遺構と考えられる。区画された水田面の面積は一様でない。

C. 171.50m



D. 170.50m

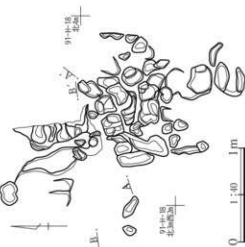


E. 170.50m



第82図 I区浅間Bテフラ直下水田土層断面

1号掘削痕



II区1号掘削痕-A'・B'

1. Aa-B 底面にグレー灰が層う。
2. 黒褐色土 粘質土。灰化粘質土塊が少量入る。
3. 灰褐色土 砂質土。黒褐色粘質土塊が少量入る。
4. 黒褐色土 粘質土。灰化粘質土塊がやや多く入る。砂粒が少量入る。
5. 黒褐色土 粘質土。酸化藍色の砂粒がやや多く入る。
6. 灰褐色土 粘質土。黒褐色粘質土塊がやや多く入る。
7. 灰褐色土 粘質土。黒褐色粘質土塊が少量入る。2~7層、掘削されて動いた上、B溝下面に掘削して積んだものが、
8. 黒褐色土 粘質土。5層、掘削されていない地山の土。
9. 灰褐色土 粘質土。5層、掘削されていない地山の土。

第83図 II区浅間Bテフラ直下1号掘削痕



第4章 中世の遺構と遺物

南北アゼの方向はほぼN-2°-WからN-1°-Eの間である。斜行するのは2号溝にともなう大アゼのみである。全形を調査できた水田区画は区画7の1面のみである。その規模は第7表のとおりである。

アゼの規模は北区では上幅0.7~1.0m、下幅1.45~1.6m、高さ0.02~0.04m、中央区では上幅0.4m、下幅1.05m、高さ0.02~0.03m、南区では上幅0.5m、下幅0.8~0.9m、高さ0.02mで、緩やかな高まりが残存して、かろうじて水田区画を残している状態であった。明確な水口は検出されなかった。

水田面には小さな凹凸があったが、平坦面には青灰色の細粒軽石が全体にごま塩状に残っていた。また特に中央区の精査では、45-91-H-18グリッドで浅間B軽石に直接覆われた1号掘削痕(第83図)が、中央やや東寄りでも馬蹄痕と推定される小穴が33個(第6表)検出された。馬蹄痕の大きさは第6表に掲げた。噴火前に何らかの掘

削行為と馬の歩行があったことがわかる。

水田耕土は夾雑物の少ない黒色粘質土あるいは暗灰色粘質土であった。水田面には炭化した黒色有機物が付着して土壌化した厚さ2~3cmの黒色粘質土(IV A層)が検出された。

耕土に混在して土師器破片1点が出土したが混入である。水田面の時期を示すような状態で出土した遺物はなかった。

(3) 耕作痕(第84・108図 PL.59)

Ⅱ区中央区のほぼ全域にわたり、中世②浅間B混土下面で耕作痕を検出した。

耕作痕跡の形状は帯状で、数条が並行している。規模は幅0.10~0.15m、深さ0.03~0.10mで、長さは0.3mから、長いもので6.0mほど連続しているところもある。耕作痕内は浅間B軽石・褐色土小塊を含む暗褐色砂質土で埋まっていた。

耕作痕の遺構確認および断面観察作業中に、土師器製破片5点、壊破片1点、須恵器破片1点、土器類5点が出土した。土師器・須恵器は混入である。耕作痕の時期を示すような状態で出土した遺物はなかった。

これらの耕作痕がどのような耕作作業によって残されたかを考えるために、方向や分布、断面形を観察した。

耕作痕の方向をみると、方向が共通した5つほどの単位にわけることができる。概ね東半部の東西方向の2単位と、西半部の南北方向の1単位、中央北寄りの東西方向と斜め方向の2単位が看取できる。これらは一方向の作業の単位を示していると推定される。

また、断面形を観察すると、幅広の三角形、幅広の平状、幅狭の線状のものが分類できた。これらのうち、幅広の三角形、幅広の平状はそれぞれ、犁の鋤先跡、犁の床跡と推定される。

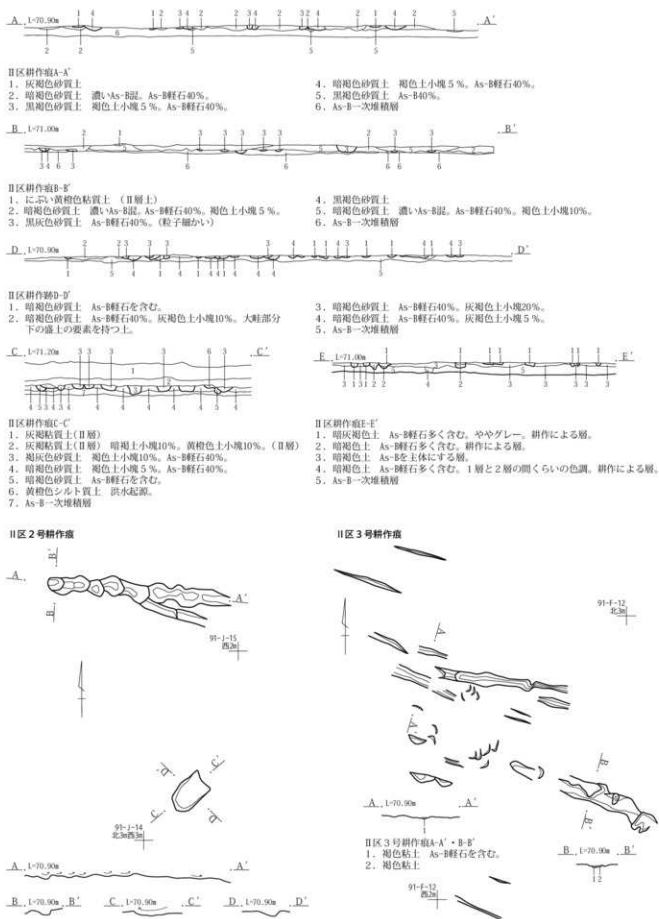
犁を使用する番耕は区画内を切り返しながら行う回転作業である。本遺構の検出状況は、その回転の接点となる部分の重複が激しく、耕作痕の切りあいも連続性も不明確になった状況と考える。

さらに、下層の浅間Bテフラ下面の調査で、本層位耕作痕の最深部を精査したところ、直線的な鋤先跡と見えていた耕作痕の底面に人力の鎌によると見られる掘削痕や、立て持ち鋤と思われる痕跡等が含まれていた。し

第6表

上新田中道東遺跡Ⅱ区浅間Bテフラ下水田馬蹄痕計測表

No.	前・後別	縦幅cm	横幅cm	備考
1	前跡	9.6	9.2	
2	前跡	10.2	9.5	
3	前跡	11.8	9	
4	後跡	11.2	9	
5	後跡	10	9.3	
6	後跡	8	8.4	
7	不明		7.6	2つ重なる
8	後跡	10.5	10	
9	前跡	8.4	6.3	
10	前跡	9.5	9.2	
11	後跡	11	8.4	
12	前跡	10.5	10	
13	前跡	9.2	7	深く滑り込む
14	前跡	11	9.3	
15	後跡	8	5.5	
16	前跡	9.5	10	
17	後跡	9.4	8	
18	後跡	8	7.4	
19	前跡	7	7.6	2つあるが一方のみ計測
20	後跡	11	9.6	
21	前跡	10.5	8.8	
22	前跡	12.5	9.8	
23	前跡	10.3	9.4	
24	後跡	10.5	9.5	
25	前跡	10	11	
26	後跡	7.6	8	
27	前跡	10.4	9.3	
28	前跡	11	9.6	
29	前跡	11.4	9.8	
30	前跡	10.9	10.6	
31	前跡	10.5	9.7	
32	後跡	10.4	8.8	33でつぶれる
33	後跡	10	9.32	でつぶれる
34		10.3	9.6	
35		7.8	6.9	
36		11	9.4	
37		8.5	7.6	埋土は浅間B混土



第84図 II区耕作痕

たがって、この耕作痕には畜力および人力が混合した、最低でも5種の耕作痕が混在していることが想定される。

これらの耕作痕の時期については、検出層位から浅間Bテフラ降下以降といえるにとどまる。耕作痕の掘り込み面は検出できなかったが、上位の水田あるいは畑耕作地から掘り込まれたと考えられる。耕作痕の位置は疑似畦畔と重複している地点があり、アゼをよけた位置にある状況ではないことや、耕作痕が確認された層位は疑似畦畔を認識させる暗褐色B混土の除去後であることから、耕作痕は浅間B混土上面で検出された疑似畦畔の本来の水田の耕作によるものでなく、それ以前のいずれかの時期に行われた耕作によるものと考えられ、両者は時期の異なる耕作痕跡といえよう。

これらの耕作痕と疑似畦畔は、浅間Bテフラ降下以降のいずれかの時点でこの地域に水田耕作あるいは畑作が行われたことを示す。Ⅱ区では下位には一次堆積の浅間Bテフラに覆われた水田面が残っている。

浅間B軽石混土下面で以上の耕作痕のうち、比較的深く典型的な形態を記録できた地点をⅢ区2号耕作痕、異形の特徴的な形態を記録できた地点をⅢ区3号耕作痕として調査・記録した。図示して記載する。

Ⅱ区2号耕作痕(第84図 PL.59)

浅間B混土下面、91-F-15グリッドで東西方向に小穴が連なったような掘り込みと単独の掘り込みを検出した。前者は長軸0.12~0.20m、幅0.15m、深さ0.04~0.08mの不整楕円形の掘り込みが9基ほど連なっていた。掘り込み内は浅間B軽石を含む灰褐色粘質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。後者は長軸0.38m、短軸0.22m、深さ0.06mのU字形の掘り込みで、浅間B軽石を含む灰褐色粘質土で埋まっていた。

これらの耕作痕は一つ一つ掘り込みがあり、掘り込みは不定形で、人力による鋤跡の連続したものと推定される。南側にある単独の掘り込みは大型の鋤かえんなどの単独の掘削痕と推定される。

本面にも浅間B混土上面で検出した牛馬耕の犁跡と推定される筋状の耕作痕と同様な痕跡も検出されているが、2号耕作痕のような人力の耕作痕跡も混在していた。一定期間内の耕作の痕跡の集合が見えているのだろう。

Ⅱ区3号耕作痕(第84図)

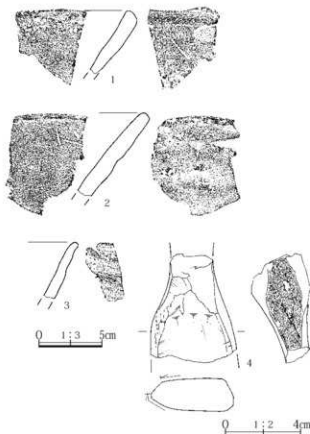
浅間B混土下面、91-F-12グリッドで東西方向の筋状の掘り込みや、連続する不定形の掘り込み、三日月状の掘削痕跡等が見られる地点を3号耕作痕として記録した。

連続する不定形な掘り込みは、幅0.18~0.30mで、長さ1.06mと1.60mの2条の痕跡が記録できた。この耕作痕は不定形で、凹凸も著しかったことから、耕起された土が脇に置かれたものが残っている状況を想起させた。三日月状の痕跡は農具の先端の痕跡と推定される。耕作痕内は浅間B軽石を含む褐色粘性土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

(4) 遺構外の出土遺物

(第85図 PL.212 遺物観察表P.450・452)

Ⅱ区調査の遺構確認中に、遺構に伴わない形で第11表のように多くの遺物を出土した。近世の遺物と同層位で出土しているが、ここでは明らかに中世といえる遺物3点を掲載した。1・2は在地系土器片口鉢破片、3は尾張陶器片口鉢破片である。



第85図 Ⅱ区遺構外の出土遺物(中世)

4. Ⅲ区の遺構と遺物

(1) 土坑(第86図 PL.61)

Ⅲ区北区で、浅間Bテフラの一次堆積層で埋没していた土坑が2基検出された。中央区・南区では同層位で検出された土坑はなかった。それぞれの土坑の位置や規模は、P.432の表にまとめた。以下各遺構の調査所見を記載する。

2号土坑は大型の楕円形の土坑で、緩やかな凹地状である。浅間Bテフラの一次堆積層で覆われていた。周囲は同層位の畦畔で囲まれた水田面であるので、水田面の一部が深さ0.08mほどの凹地状になっていたことによる。遺物は出土しなかった。

3号土坑は楕円形の土坑で、2号土坑と同様に緩やかな凹地状の底面が浅間Bテフラの一次堆積層で覆われていた。中央部の深さは0.17mである。南西部でピットと重複しているが、ピットの方が新しい。遺物は出土しなかった。

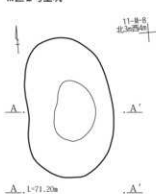
(2) 溝

Ⅲ区浅間Bテフラ直下面で、3条の溝が検出された。これらの中には各調査区で異なる年度に調査されたため、同一の溝であっても別の遺構番号が付されたものがある。これについては、報告時に番号の統合と付け替えを行った。その作業の結果については、溝の位置や規模とともにP.433の表にまとめた。以下各溝の調査所見を記載する。なお、溝の平面図は個別図を作成せず、1/300の各区全体図でこれに変えた。埋没土層断面図は個々に掲載した。

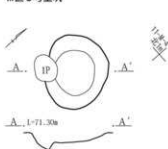
Ⅲ区12号溝(第86・106図 PL.62)

12号溝は、Ⅲ区東部で北区-中央区-南区ともに浅間Bテフラ直下面で検出された。北半は緩やかに東に湾曲するが、南部ではほぼ直線的である。特に南区では、12号溝の西側に水田アゼを伴っており、さらに西側では12号溝と同じく浅間Bテフラ直下で水田面を検出した。北区では12号溝に沿うアゼは検出できなかったが、北西部

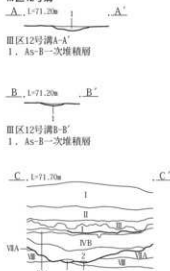
Ⅲ区2号土坑



Ⅲ区3号土坑



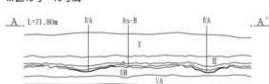
Ⅲ区12号溝



Ⅲ区12号溝C-C'

1. As-B一次堆積層(12号溝埋没上)
2. 灰黄色シルト 砂層をラミナ状に多く含む。(28号溝埋没上)
3. 灰黄色砂
1. 表土
- II. 黄褐色~黒灰色シルト
- III. 黒褐色土 As-Bを含む。
- IV. 黒色粘質土
- V. 灰褐色シルト
- VI. 黒色粘質土 As-Cを含む。
- VII. 灰色~灰黄色粘質土

Ⅲ区15号・16号溝



Ⅲ区15号・16号溝A-A'

1. 表土
- II. 黄褐色~黒灰色シルト
- As-B. As-B一次堆積層
- III. 黒色粘質土
- IV. 灰褐色シルト
- V. 黒色シルト質土 白色軽石を含まない。



Ⅲ区16号溝



Ⅲ区43号溝



Ⅲ区43号溝A-A'

1. As-B一次堆積層(43号溝埋没上)
2. 黒色粘質土



第86図 Ⅲ区土坑・溝土層断面と出土遺物

第4章 中世の遺構と遺物

に浅間Bテフラ直下の水田面及びアゼを検出している。

走向は北区で $N-7^{\circ}-W$ 、中央区で $N-11^{\circ}-E$ 、南区で $N-3^{\circ}-W$ 。上幅は北区で1.36~1.40m、中央区で0.65~1.30m、南区で0.94~1.50m。深さは北区で0.21m、中央区で0.18m、南区で0.21m。調査長は北区で6.60m、中央区で20.25m、南区で18.77mである。断面形及び底面は緩やかな凹地上で掘り込まれた形状ではない。底面の標高は中央区南部が最も低く、北区北端は0.12m、南区南端は0.06m高かった。溝内は浅間Bテフラの一次堆積層で覆われていた。遺物は出土しなかった。

12号溝の下層には、北区ではすぐ西側に、中央区・南区ではほぼ真下に、9世紀後半代とみられる洪水で埋まった28号溝が埋没している。このため、12号溝は28号溝の埋没過程の凹地に浅間Bテフラが溜まったとも考えられたが、①28号溝が真下になり北区でも12号溝の形状が変わらないこと、②中央区では12号溝は28号溝埋没土東半に偏っていること、③南区では西側に同層位の水田とアゼを伴うことから、12号溝は埋没過程の自然堆積でなく、浅間Bテフラ以前には一時期機能していた水路と考えたい。

Ⅲ区15号溝(第86・106図 PL.61・62 遺物観察表P.450)

15号溝は、Ⅲ区北区の北西隅で、浅間Bテフラ直下で検出された。南東側にアゼ状の高まりを伴っている。浅間Bテフラ直下水田域の一部を構成していると考えられる。重複はない。

走向は $N-39^{\circ}-E$ 、上幅は0.39~0.58m、深さは0.04m、調査長は2.76mである。底面は緩やかな凹地状である。底面の標高は北端部が0.02m高かった。

溝内は浅間B軽石で埋まっていた。埋没土中から中世の在地系土器すり鉢破片(第86図1)と陶器破片1点が出土した。浅間Bテフラ降下時には溝状を呈していた。

Ⅲ区16号溝(第86・106図 PL.61・62)

16号溝は、Ⅲ区北区の北西部で、浅間Bテフラ直下で検出された。両側に一部途切れるが、アゼ状の高まりを伴っている。浅間Bテフラ直下水田域の一部を構成していると考えられる。重複はない。

走向は $N-13^{\circ}-E$ 、上幅は0.38~0.43m、深さは0.09m、調査長は13.40mである。底面は緩やかな凹地状で

ある。底面の標高は北端部が0.02m高かった。

溝内は浅間B軽石で埋まっていた。遺物は出土しなかった。浅間Bテフラ降下時には溝状を呈していた。

Ⅲ区43号溝(第86・106図)

43号溝は、Ⅲ区中央区の北東隅で検出された。重複はない。発掘区の間で検出されたので、詳細な規模は不明である。

走向は $N-10^{\circ}-W$ 、深さは0.09m、調査長は2.0mである。底面は平坦で、やや凹凸がある。

溝内は黒色土粒・塊・白色軽石を含む灰色シルトで埋まっていた。埋没土中からS字襷破片1点が出土したが混入である。

Ⅲ区43号溝の時期は、浅間B混土層に覆われていることから中世以降と推定されるが、詳細は不明である。

(3) 水田

Ⅲ区浅間Bテフラ直下水田(第87・88・106図 PL.62・212 遺物観察表P.450・453・468)

Ⅲ区の北区・南区のほぼ全域で、浅間Bテフラに覆われた水田が検出された。北区の南部から中央区にかけては、浅間Bテフラの堆積が残存していなかったため、水田区画は検出されなかった。この部分は微高地になっており、下層には古代の住居跡が埋没していた。浅間Bテフラ降下時点で水田化されていなかった可能性が高い。中央区で浅間Bテフラが残存していたのは12号・15号・16号溝内のみであった。

Ⅲ区で直接水田面を覆っていたのは、成層した浅間Bテフラの最下位に堆積している青灰色の粗粒軽石である。その上に黒灰色軽石層が堆積していた。

Ⅲ区の水田面の標高は北区Mラインで72.00m、南区北西隅で71.10m、南東隅で70.95mである。北区では西から東への緩傾斜、南区では北から南に緩やかに傾斜する。北区・南区で検出された水田区画は、全部で16面である。他の発掘区では方格地割で水田が区画されているが、Ⅲ区は中央の微高地を避けて自然地形に合わせて、不定形に区画されていた。したがって北区と南区の区画は大きく異なっている。

アゼの方向も一様でなく、ここですべてを記載することはできない。南区で最も長い東西方向に近いアゼはN

A. 1:71.30m

B. 1:71.20m

C. 1:71.30m

D. 1:71.40m

E. 1:71.30m

田区浅間Bテフラ直下水田C-C'

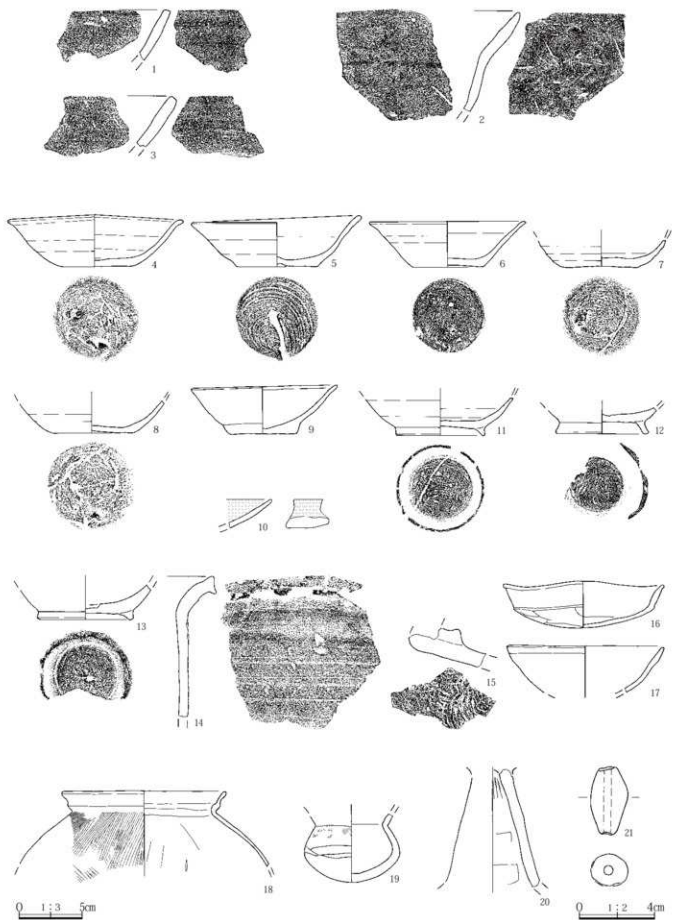
1. 黒色粘質土 As-非下水田床土。
2. 暗褐色土 白色軽石と下層にはシルト小塊を含む。
3. 灰白色シルト 下層はシルトペースでや灰色化した層。
4. 黄白色シルト 洪水層。
5. 黒色土 As-C(?)を濃黄黒含む。

田区浅間Bテフラ直下水田D-D'

1. 暗褐色粘質土 As-非下水田床土。
2. 黒色粘質土 As-Cを濃黄黒含む。
3. 黄褐色粘質土 As-Cを濃黄黒と暗褐色粘質土と成りまじり合層。
4. 黄褐色粘質土 As-Cを濃黄黒と暗褐色粘質土と成りまじり合層。
5. 黒色土 As-Cを濃黄黒含む。粘性の強い層。
6. 黒色土 As-Cを濃黄黒含む。5層に近似的だが、粘性が強い。
7. 黄褐色土 下層の基盤層の塊と粘質灰び5層土の混土層。
8. 黄褐色土 ローム層。



第87図 田区浅間Bテフラ直下水田土層断面



第88図 Ⅲ区浅間Bテフラ直下水田耕土出土遺物

-76°-Wの傾きである。アゼの規模は上幅0.1~0.42m、下幅0.35~0.72m、高さ0.01~0.05m、南区では上幅0.5m、下幅0.8~0.9m、高さ0.02mで、Ⅲ区のアゼは比較的細い。Ⅲ区でもアゼは緩やかな高まりが残存して、かろうじて水田区画を残している状態であった。また、南区では12号溝の西側にアゼを伴っていた。アゼの規模は上幅0.4~1.0m、下幅0.8~1.5m、高さ0.04mで、他のアゼよりやや広い。また、11-K~N-9・10グリッドにある15号・16号溝の西側に小規模なアゼが伴っていた。これらの12号・15号・16号溝は水田面と同様に浅間Bテフラで埋まっており、アゼ際の水路として機能していたと推定される。

全形が把握できたのは区画14のみである。14区画の規模は第7表のとおりである。区画3~8の南辺あるいは東西辺には水口が検出された。給水は西から東あるいは南へ田越して行われたのであろう。残念ながら区画3~8の南側の水田面は近世以降の溝に切られており明らかでない。南区の水田アゼには明確な水口は検出されなかった。12号溝は本水田域では排水を集めていたと考えられ、溝より東側には浅間Bテフラ下の水田は造られていなかった。本水田面への給水水源は北西方向にあるものと推定される。

水田面には細かな凹凸があり、アゼもなだらかで低かった。水田耕作土は夾雑物の少ない黒色粘質土あるいは暗灰色粘質土であった。耕作土最上層には厚さ2~3cmの黒色粘質土(IV A層)があった。

Ⅲ区では下層に古代の住居跡が埋没していることから、水田耕土内から土師器593点、須恵器99点、陶磁器類8点、在地系土器焙烙等8点の多量の遺物が出土した。図示した在地系土器内耳鍋破片(第88図1~3)は中世の遺物で、水田面の時期を示す可能性もある。また土師器・須恵器はいずれも混入であるが、開田時期を示唆する遺物も含まれていることから、大型破片を中心に第88図に図示した。

Ⅲ区の水田は他の区と同層位の水田区画とは異なり、明確な方格地割でない。中央区にあたる部分は微高地であり浅間Bテフラの残存も確認できなかった。Ⅲ区北区南区の水田区画の乱れについては、微高地を囲む微地形を反映したものと考えておきたい。

5. IV区の遺構と遺物

(1) 水田

IV区浅間B混土下面水田痕跡

(第89・105図 PL.63~65)

IV区のほぼ全域で、浅間B軽石を多量に含む暗褐色土を除去した面で水田区画が検出された。浅間Bテフラ直下水田の畦畔を本来の畦畔とする疑似畦畔であると考えられる。IV区北西端および南東部にある微高地部には浅間Bテフラ一次堆積層もなく、水田は検出されなかった。

IV区の浅間B混土下面検出水田区画の標高は、西端で71.35m、東端で71.10mである。緩やかに西から東へ傾斜していた。調査で疑似畦畔が検出された面は本来の水田より下がっているため、この標高値は浅間Bテフラ直下の水田面ではないが、傾斜は本来の水田を反映しているものと考えられる。

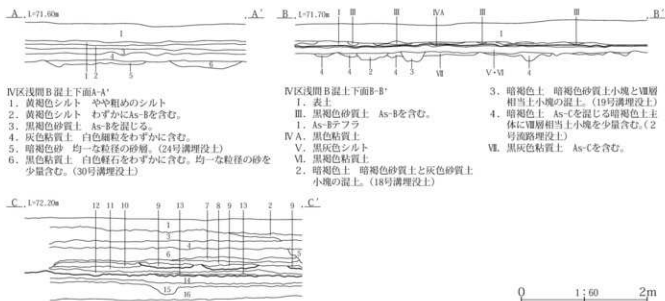
調査で検出された疑似畦畔による水田区画は、全部で44面以上である。水田面の区画は基本的に東西南北の方格地割である。一部に斜行するアゼも交えて、細長い長方形に区画している。特別規模の大きなアゼはなかった。南北アゼは斜行するアゼを除き、全体に通るのに対し、東西アゼは食い違いのあるところが多い。水田面の水平を調整するために後から造られた手アゼであろう。

南北アゼの方向はほぼN-0°-Eであるが、なかには東西5°ずつほどの西あるいは東に傾くアゼもあった。大きく斜行するアゼが中央区で検出された。斜行するのはすべて南北方向アゼで、N-34~36°-Wの方向を示す。斜行するアゼの端部は南北方向になっており、途中から斜行するものが多い。全形が把握できた区画は、区画8・15・16・17・18・19・20・25の8面である。8面の規模は第7表のとおりである。

疑似畦畔の規模は北区で上幅0.45~0.48m、下幅0.72~0.8m、高さ0.01~0.07m、中央区で上幅0.30~0.33m、下幅0.48~0.53、高さ0.01~0.04m、南区では上幅0.30~0.63m、下幅0.74~1.10m、高さ0.01~0.05mである。水田面には細かな凹凸が見られた。IV区には水路を伴うアゼはなかった。

アゼの一部が切れている部分が検出されたが、水口と推定される。アゼの残存状況は不良で低いため、すべての水口を明確に検出できたわけではない。したがって全

第4章 中世の遺構と遺物



第89図 IV区浅間B混土下面水田痕跡土層断面

体の給配水をとらえることはできなかったが、水源は北西方向にあり、西から東あるいは北から南へ田越して行われたのであろう。

水田耕作土は夾雑物の少ない黒色粘質土あるいは暗灰色粘質土であった。I区～III区の浅間Bテフラ直下の水田耕作土最上層には厚さ2～3cmの黒色粘質土(IV A層)があったが、IV区では水田耕作土最上層は削られており、本土層は検出されなかった。

耕作土に混在して土師器6点、須恵器5点、陶磁器類106点、在地系土器焙烙等7点が出土した。いずれも混入である。水田面の時期を示す出土状態で出土した遺物はなかった。

(2) 遺構外の出土遺物(第90図 遺物観察表P.450)

IV区調査の遺構確認中に、遺構に伴わない形で第11表のように多くの遺物を出土した。近世の遺物と同層位で出土しているが、ここでは明らかに中世といえる遺物1点を掲載した。第90図1は13世紀頃とみられる竜泉窯系青磁碗の破片である。



第90図 IV区遺構外の出土遺物(中世)

6. V区の遺構と遺物

(1) 水田

V区浅間B混土下面水田痕跡

(第91・104図 PL.66・67・212 遺物観察表P.450・468)

V区のほぼ全域で、浅間B軽石を多量に含む暗褐色土を除去した面で水田区画が検出された。浅間Bテフラ直下水田のアゼを本来のアゼとする疑似畦畔であると考えられる。V区北北東部は微高地では水田区画は検出されなかった。当初から水田でなかった可能性が高い。

21区17ラインの東側の南区には浅間Bテフラの最下位に堆積している青灰色の粗粒軽石が直接水田面を覆っていた。ここでは浅間Bテフラ直下で本来のアゼが検出されたことになる。テフラ降下以降の耕作によって浅間Bテフラ層下位まで深耕されなかったものと推定される。

V区の浅間B混土下面検出水田区画の標高は南東隅で71.35mである。西部は浅間Bテフラが残っていないので直下の水田面標高は不明であるが、疑似畦畔が検出された面の標高は71.60mであった。全体の地形としては緩やかに西から東へ傾斜しているものと推定される。

V区で検出された水田区画は、全部で32面以上である。ここでも水田面の区画は基本的には東西南北の方格地割である。一部に斜行するアゼも交えて、南北に細長い長方形に区画している。特別規模の大きなアゼはなかった。V区では全体に通るアゼはLラインに近い位置にある東

西アゼで、他に東西方向のアゼは北区に1条と、南区にやや西に傾く1条があるのみである。Lラインにそうアゼは大区画の東西区画の可能性が高い。南北アゼは斜行するアゼと数状のアゼを除き、全体に通る。

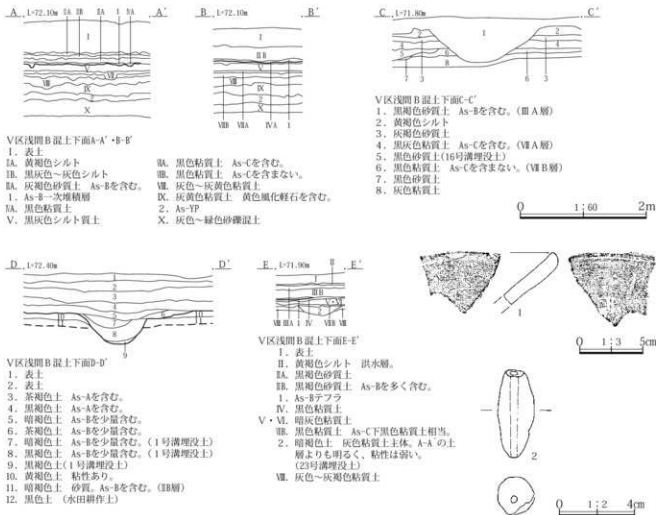
南北アゼの方向はほぼN-1~4°-Wである。1条のみN-2°-Eがある。斜行するのはすべて南北方向アゼで、V区では15~27°東に傾く斜行するアゼと、10~50°西に傾く斜行するアゼとがあった。斜行するアゼの端部は方格にのるアゼと斜交していた。全形が把握できた区画は、区画5・7・8・9・10・17・18・19・20の9面のみである。その規模は第7表のとおりである。

疑似畦畔の規模は、南区南東隅で上幅0.25~1.18m、下幅0.75~1.75m、高さ0.01~0.05m、西区で下幅0.38~1.10m、高さ0.01~0.03mである。西区では緩やかな断面で上幅を記録できなかった。アゼの幅にもばらつきがあった。V区には水路を伴うアゼや大アゼはなかった。

アゼの一部が切れている部分が数か所で検出されたが、水口と断定できるものは無かった。疑似畦畔の残存状況は不良で、アゼの有無は判断できなかったためである。全体の給配水をとらえることはできなかったが、全体の地形の傾斜から考えれば、水源は北西方向にあり、西から東あるいは北から南へ越して行われたのであろう。

水田耕作土は夾雑物の少ない黒色粘質土あるいは暗灰色粘質土であった。I区~III区の浅間Bテフラ直下の水田耕作土最上層には厚さ2~3cmの黒色粘質土(IIA層)があったが、V区では水田耕作土最上層は削られており、本土層は検出されなかった。

遺構検出面や耕作土に混在して土師器762点、須恵器6点、磁器類107点、在地系土器焙烙等95点、瓦1点が出土した。在地系土器片口鉢(第91図1)、土鍾1点(2)を図示した。水田面の時期を示す出土状態で出土した遺物はなかった。



第91図 V区浅間B混土下面水田痕跡土層断面と出土遺物

7. VI区の遺構と遺物

(1) 溝

VI区浅間B軽石を多量に含む暗褐色土を除去した面では、1条の溝が検出された。溝の位置や規模はP.444の表に記載した。以下調査所見を記載する。なお、溝の平面図は個別図を作成せず、1/300の各区全体図でこれに変えた。埋没土層断面図は個々に掲載した。

VI区10号溝 (第92・103図 PL.68)

VI区10号溝は、VI区東部で検出された。ほぼ直線の南北方向の溝で、北端・南端は発掘区域外となる。底面には浅間Bテフラ一次堆積層が堆積していた。(重複する6号・13号溝土層断面第51図参照) また、両側にアゼ状の高まりを伴っており、さらに周辺には浅間B軽石を含む暗褐色土で覆われた疑似畦畔を検出した。

走向はN-2°-W、上幅は0.48~1.55m、深さは0.14m。調査長は57.25mである。底面の標高は北端が南端より0.03m高かった。溝内は底面が浅間Bテフラの一次堆積層で直接覆われており、上半部には浅間Bテフラ混土が堆積していた。遺物は出土しなかった。

VI区10号溝は浅間Bテフラ直下水田の用水路として掘られた溝であろう。ただし水路両脇のアゼは低く、残存状況は不良であった。テフラ降下時には水田耕作は行われていなかったような状態を示していた。

(2) 水田

VI区浅間B混土下面水田痕跡

(第92・103図 PL.68・69)

VI区の北東部で、浅間B軽石を多量に含む暗褐色土を除去した面で水田区画が検出された。浅間Bテフラ直下水田のアゼを本来のアゼとする疑似畦畔であると考えられる。VI区中央部は微高部になっており疑似畦畔は検出されなかった。

VI区の浅間B混土下面検出水田区画の標高は、41区1ラインで71.70m、南東隅で71.60mである。全体の地形としては緩やかに西から東へ傾斜しているものと推定される。

VI区で検出された水田区画は、東半部で全部8面、南西部では区画として検出することはできなかったが、東西方向のアゼ痕跡2か所と南北方向のアゼ痕跡1か所を検出した。東半部の南部に東西アゼが検出できなかったことから、南西部東西アゼとの直接的関係は不明である。中央の微高地の東西で区画が連続していたかどうかについては、VI区のみでは不明と言わざるを得ない。

VI区でも水田面の区画は基本的には東西南北の方格地割で、南北に細長い長方形に区画している。VI区で検出された東西・南北アゼに食い違いはなく、全体に筋が通っており、斜行するアゼは検出されなかった。また、31区の17ラインにはほぼ沿う位置に、中央に用水路(10号溝)を伴う大アゼが検出された。

南北アゼの方向はほぼN-1~3°-Wである。10号溝を伴う大アゼはN-2~3°-Wである。東西アゼは1ライン付近にある1条でN-83°-Eである。この東西アゼはV区で検出された東西アゼに連続するとみられる。

VI区10号溝



VI区水田痕跡



VI区浅間B混土下面B-B'

1. 暗褐色土 表土
2. 黒褐色土 白色軽石粘含む。
3. 黒褐色土 2層に類するが白色軽石粘増す。
4. 黒褐色土と褐色土の混土 ローム蓄移層。黒褐色土の割合多い。
5. 暗黄褐色土 ローム蓄移層。黒褐色土塊状に含む。
6. 暗黄褐色土 ローム層。
7. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粘含む。
8. 黒褐色土と暗黄褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。地山(暗黄褐色)と埋没土(黒褐色)の混土。



第92図 VI区浅間B混土下面溝・水田痕跡土層断面

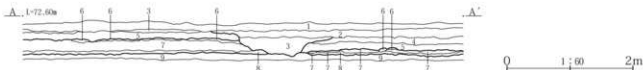
全形が把握できた水田区画は無い。

疑似畦畔の規模は下幅0.68~1.10m、高さ0.01~0.02mである。大アゼの規模は幅3.8~4.5m、高さ0.03mで、中央やや西側に10号溝が造られていた。北から南へ配水する水路である。Ⅵ区内では水口は検出されなかったため、直接10号溝から給水される水田面はなかった。

区画4と8の間のアゼ西端にあるアゼの途切れは水口と推定される。他の水口は不明である。アゼの残存状況は不良で、アゼがないのかアゼが見えないのか判断できなかった。したがって全体の給配水をとらえることはできなかったが、全体の地形の傾斜から考えれば、水源は北西方向にあり、西から東あるいは北から南へ田越して行われたのであろう。

水田耕作土は夾雑物の少ない黒色粘質土あるいは暗灰色粘質土であった。Ⅰ区~Ⅲ区の浅間Bテフラ直下の水田耕作土最上層には厚さ2~3cmの黒色粘質土(ⅣA層)があったが、Ⅵ区では水田耕作土最上層は削られており、本土層は検出されなかった。

遺構検出面や耕作土に混在して土師器241点、須恵器6点、陶磁器類107点、在地系土器焙烙等95点、瓦1点が出土した。水田面の時期を示す出土状態で出土した遺物はなかった。



Ⅶ区浅間Bテフラ直下水田A-A'

1. 暗褐色土 現表土。
2. 褐色土 粘性ややあり。しまりあり。径4mm以下の白色軽石粒含む。所々赤褐色状のしみが見受けられるが、鉄分がさびて、砂鉄化したものと思われる。圃場整備前の近代床土。
3. 暗褐色土 粘性やや弱し。しまりあり。径4mm以下の白色軽石粒含む。
4. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。径4mm以下の白色軽石粒を含む。5号溝に切られているため、溝より古い耕作土と思われる。
5. 褐色土 粘性ややあり。しまりあり。径4mm以下の白色軽石粒含む。As-A直上であることからA混土層と言える。
6. 暗褐色砂質土 As-A一次堆積層。
7. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりあり。径2mm以下の白色軽石粒含む。As-B混土層。
8. 暗褐色砂質土 As-B一次堆積層。
9. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。(As-B下水田床土)



第93図 Ⅶ区浅間Bテフラ直下水田土層断面と出土遺物

8. VII区の遺構と遺物

(1) 水田

Ⅶ区浅間Bテフラ直下水田

(第93・102図 PL.70・212 遺物観察表P.450・453)

Ⅶ区の全域で、浅間Bテフラに覆われた水田が検出された。Ⅶ区で直接水田面を覆っていたのは、浅間Bテフラ最下位に堆積している青灰色の粗粒軽石である。その上に黒灰色軽石層が堆積していた。

Ⅶ区の浅間Bテフラ直下水田面の標高は東端で71.95m、南西隅で72.10mである。全体の地形としては緩やかに西から東へ傾斜しているものと推定される。

Ⅶ区で検出された水田区画は、全部で43面である。

Ⅶ区でも水田面の区画は基本的には東西南北の方格地割で、南北に細長い長方形に区画している。一部に東西に長い長方形も見られた。Ⅶ区で検出された東西・南北アゼには食い違いがほとんどなく、整然と全体に筋が通っていた。Ⅶ区では斜行するアゼは検出されなかった。

また、Ⅶ区では41区19ラインと20ラインの間に、大アゼが検出された。中央に凹みがあり、通路として機能していた痕跡であろう。水路といえる深さではなかった。この大アゼは現代まで使われた5号溝と重複していた。地割が継続していたのであろう。

南北アゼの方向はほぼ $N-1^{\circ}-W$ から $N-1^{\circ}-E$ の範囲に取まる。東西アゼはLライン付近にある1条で $N-85^{\circ}-E$ 、Iラインの南にある1条で $N-89^{\circ}-E$ である。このLライン付近の東西アゼはV区東半部で検出された東西アゼに連続するとみられる。

全形が把握できた区画は、区画14・17・18・19・20・22・23・24・25・26・38・39の12区画である。12区画の規模は第7表のとおりである。

Ⅷ区のアゼの残存状況は全体的に不良である。南北方向のアゼは0.66~1.12m、東西方向のアゼは下幅1.05mで、東西方向のアゼがやや太く作られている。南北方向のアゼは一本のアゼでも太いところ、浅いところがあり、不定形である。図化したのは下場のラインである。大アゼの規模は幅2.5~3.07m、高さ0.02~0.03mで、中央やや西側には深さ0.03~0.13mの溝状の窪みがあったが、浅いことから溝ではないと判断した。

水口と判断できるアゼの途切れは検出できなかった。アゼの残存状況は不良で、アゼがないのかアゼが見えないのか判断できなかった。したがって全体の給配水をとらえることはできなかったが、全体の地形の傾斜から考えれば、水源は北西方向にあり、西から東あるいは北から南へ田越しで行われたのであろう。

水田耕作土は粘性のある黒褐色土であった。図化はできなかったが、I区~Ⅲ区の浅間Bテフラ直下水田耕作土最上層にあった厚さ1~2cmの黒色粘質土(ⅣA層)が、Ⅷ区でも検出された。

耕作土中から須恵器裏破片(第93図2)が出土したが混入であろう。またアゼ上で在地系土器皿(第93図1)が出土した。中世の遺物であり、水田の時期に近い遺物と推定される。

9. Ⅷ区の遺構と遺物

(1) 水田

Ⅷ区浅間Bテフラ直下水田(第94・101図 PL.71・72)

Ⅷ区の東半部で、浅間Bテフラに覆われた水田が検出された。61区の5ラインより西側には、浅間Bテフラの一次堆積層が残っていなかったために水田は検出されなかった。東側でも浅間Bテフラの一次堆積層はところどころにある程度で、全体として浅間Bテフラの残存状態は不良である。

Ⅷ区で直接水田面を覆っていたのは、最下位に堆積している青灰色の粗粒軽石で、その上に黒灰色軽石層が堆積していた。途切れ途切れの残存状況ではあったが、本層序は成層した火山灰層であることを示しており、Ⅲ区の水田跡とすることが可能である。

Ⅷ区の浅間Bテフラ直下水田面の標高は61区5ラインで72.30m、東端で72.15m、西から東に緩やかに傾斜していた。検出された水田区画は、16面である。Ⅷ区でも水田面の区画は東西南北の方格地割で、南北に細長い長方形に区画している。Ⅷ区で検出された東西・南北アゼには食い違いはなく、全体に筋が通っていた。斜行するアゼは検出されなかった。また、61区2ラインにほぼ沿う位置に、南北方向の大アゼが検出された。水路は伴っていない。

南北アゼの方向はほぼ $N-0^{\circ}-4^{\circ}-W$ の範囲にある。大アゼは $N-2^{\circ}-W$ である。東西アゼはLライン付近にある1条でほぼ $N-88^{\circ}-E$ である。この東西アゼはⅧ区~Ⅷ区で検出された東西アゼに連続するとみられる。

全形が把握できた区画は、区画7・8・9・10の4面である。この4区画の規模は第7表のとおりである。区画6および11は南端に東西アゼが明確に認められなかったので、区画7~10のように区切られていたかどうかは不明である。

アゼの残存状況は全体的に不良である。アゼの規模は上幅0.25cm、下幅0.70m、高さ0.01~0.04mで、下場のみ記録したところでは、下幅0.9~1.40mであった。田面には細かな凹凸が見られた。大アゼの規模は幅1.95~3.00m、高さ0.03~0.05mで、南部はやや細くなっていた。

区画1と6の間のアゼ東端にあるアゼの途切れは水口



VII区浅間Bテフラ直下水田A-A'

1. 黒褐色粘質土 細砂粒を含む。
2. 黄灰色粘質土 細砂粒が少し混じる。



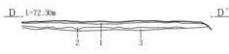
VII区浅間Bテフラ直下水田B-B'

1. 黒褐色粘質土 細砂粒を含む。
2. 黄灰色粘質土 細砂粒が少し混じる。



VII区浅間Bテフラ直下水田C-C'

1. As-8軽石 As-8軽石がほみに入り込んだ。
2. 黒褐色粘質土 細砂粒を含む。
3. 黄灰色粘質土 細砂粒が少し混じる。
4. 黒色粘質土 細砂粒が少し混じる。



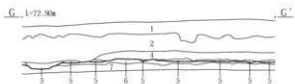
VII区浅間Bテフラ直下水田D-D'

1. 黒褐色粘質土 細砂粒を含む。
2. 黄灰色粘質土 細砂粒が少し混じる。
3. 黒色粘質土 細砂粒が少し混じる。



VII区浅間Bテフラ直下水田E-E'

1. 黒褐色粘質土 細砂粒を含む。
2. 黄灰色粘質土 細砂粒が少し混じる。



VII区浅間Bテフラ直下水田G-G'

1. 盛土
2. 黒褐色砂質土 As-Aを含む。
3. 暗灰黄色砂質土 As-Aを含む。しまっている。
4. 暗灰黄色砂質土 As-Bを多く含む。
5. As-8軽石
6. 黒褐色粘質土 細砂粒を含む。
7. 黄灰色粘質土 細砂粒を少し混じる。



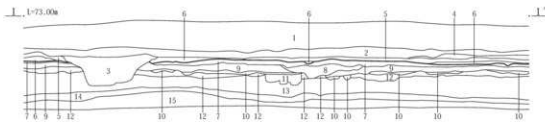
VII区浅間Bテフラ直下水田F-F'

1. 盛土
2. 黒褐色砂質土 As-Aを含む。
3. 暗灰黄色砂質土 As-Bを多く含む。
4. As-8軽石
5. 黒褐色粘質土 細砂粒を含む。
6. 黄灰色粘質土 細砂粒が少し混じる。



VII区浅間Bテフラ直下水田H-H'

1. 黒褐色粘質土 細砂粒を含む。
2. 黄灰色粘質土 細砂粒を少し混じる。
3. 黒色粘質土



VII区浅間Bテフラ直下水田I-I'

1. 盛土 土山の残り。
2. 表土 現代の水田耕作土。
3. 暗灰黄色砂質土 As-A・砂粒を多く含む。
4. 灰黄色砂質土 As-A・砂粒を含む。固くしまっている。
5. 黄褐色砂質土 上面は黄色が強い。As-Bを多く含む。
6. As-8一次堆積層。
7. 黒褐色粘質土 As-8下水田耕土。ほぼ均質。大粒の部分はやや色調がうすく、粒子も細い。
8. 黄灰色シルト 10層とはほぼ同質だが、細砂粒が多い。
9. 黄灰色シルト 砂粒を少量含む。
10. 黒褐色粘質土 古墳時代の水田耕作土らしい。残りのいいところは黒色が濃く、粘土分多い。白色軽石をまばらに含む。
11. 黄灰色粘質土 灰白色粘土塊を多く含む。固くしまっている。
12. 褐灰色粘質土 白色軽石・砂粒を含む。
13. 灰白色シルト 下層ほど色がうすい。砂粒を含む。
14. 灰色シルト 軽石を多く含む。シャリシャリしている。
15. 灰白色シルト 砂粒を含む。

0 1:60 2m

第94図 VII区浅間Bテフラ直下水田土層断面

と推定される。他の水口は不明である。アゼの残存状況は不良で、アゼがないのかアゼが見えないのかを判断できなかった。したがって全体の給配水をとらえることはできなかったが、全体の地形の傾斜から考えれば、水源は北西方向にあり、西から東あるいは北から南へ田越しで行われたのであろう。

また、区画4と5の水田面にはサクと推定される小溝列が検出された。4には3条、5には8条の並行する溝が検出された。サク底面には浅間Bテフラが薄く堆積しており、同時期の面と判断した。水田区画が一時畠として利用されていたものと考えられる。

水田耕作土は夾雑物の少ない黒色粘質土あるいは暗灰色粘質土であった。耕作土最上層にはⅠ区～Ⅲ区と同様な厚さ2～3cmの黒色粘質土(ⅣA層)が認められた。

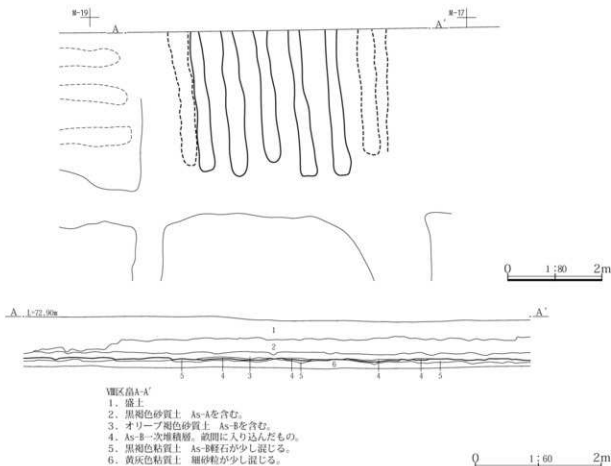
遺構検出面や耕作土に混在して土師器破片5点が出土したが、いずれも混入である。水田面の時期を示す出土状態で出土した遺物はなかった。

(2) 畠

Ⅷ区浅間Bテフラ直下畠(第95図 PL.72)

Ⅷ区北東隅、浅間Bテフラ直下水田の区画4・5内で、それぞれ3条、8条の並行する小溝が検出された。溝底面には浅間Bテフラが堆積しており、水田区画と同時期の遺構と判断した。これらの溝は、畠の畝間溝と考えられる。畝間溝の方向は水田南北アゼの方向と一致しており、浅間Bテフラ降下前は水田区画内で畠として利用されていたものと推定される。

畝間溝の方位および規模は、東側の畝群でN-6°-W、上幅0.25-0.50m、深さ0.02-0.05m、調査長3.3-3.8mで、芯々間の距離は0.9m、西側の畝群でN-84°-E、上幅0.38-0.48m、深さ0.01m、調査長2.6mで、芯々間の距離は1.0-1.1mである。畝の盛り上がりは検出できなかった。水田区画内が畠として使用された後、一定の時間を置いて浅間Bテフラで覆われたものと推定される。遺物は出土しなかった。



第95図 Ⅷ区浅間Bテフラ直下畠

10. IX区の遺構と遺物

(1) 水田

IX区浅間Bテフラ直下水田(第96・97・100図 PL.73・74)

IX区中央区の中央から東半部にかけてと、北1区南半部の2地点で浅間Bテフラに覆われた水田跡が検出された。両地点の水田はアゼの方向が一致する方格地割で区画されていた。中央区西部の微高地部分や南区には浅間Bテフラの一次堆積層がなく、水田は検出されなかった。

IX区で直接水田面を覆っていたのは、成層した浅間Bテフラ一次堆積層である。最下位に堆積している青灰色の粗粒軽石と、その上に黒灰色軽石層が堆積していた。

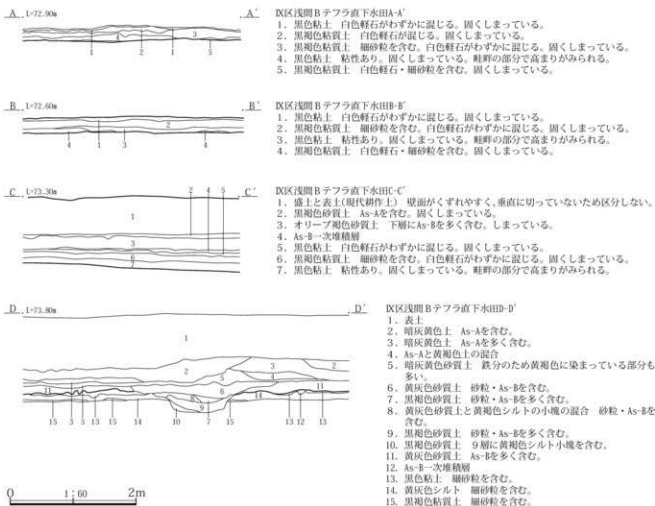
IX区浅間Bテフラ直下水田域の標高は71区11ラインで72.60m、東端で72.40mである。西から東へ緩やかに傾斜する。

中央区の水田

IX区中央区で検出された水田区画は24面である。区画16と17、19と20、23と24の間の東西アゼは南北アゼに接する部分だけ確認できたのみであるが、存在した可能性を考慮して、別区画と数えた。

IX区でも水田面の区画は基本的には東西南北の方格地割で、南北に細長い長方形に区画している。IX区では1条のみ区画14と15の間の南北アゼが方格地割に斜行していた。また、IX区では71区4ラインと5ラインの間に南北方向の大アゼが検出された。この大アゼにはちょうど中央に近位の溝と推定される5号溝が重複している。IX区で検出された東西アゼには4か所、南北アゼには2か所の食い違いがあるが、そのほかは全体に通っていた。

南北アゼの方向はほぼN-1°5'-Wである。大アゼはN-1.5°-Wである。東西アゼはLライン付近に



第96図 IX区浅間Bテフラ直下水田土層断面

ある1条でN-85°-Eである。この東西アゼはⅣ～Ⅴ区で検出された東西アゼに連続するとみられる。

全形が把握できた区画は、3・5・16・19・21の5区画である。区画1は南北アゼが方格地割にのっていないので、水田面ではないかもしれない。

アゼの残存状況は全体的に不良である。アゼの規模は南北方向のアゼが上幅0.1～0.6m、下幅0.2～0.85cm、高さ0.01～0.02cm、東西アゼが上幅0.45～0.90m、下幅1.28～1.50m、高さ0.02～0.04mで、東西方向のアゼがやや広い。大アゼの規模は下幅2.0～3.0mで、上幅と高さは近世の5号溝がアゼ頂部を壊しているので計測不能である。水田面には細かな凹凸が見られた。

区画15の東辺には上幅0.45m、下幅0.6m、高さ0.07mの小規模な手アゼが造られていた。北端は手アゼが途切れており水口と推定される。他の水口は不明である。アゼの残存状況は不良で、アゼがないのかアゼが見えないのか判断できなかった。したがって全体の給配水をとらえることはできなかったが、全体の地形の傾斜から考えれば、水源は北西方向にあり、西から東あるいは北から南へ田越しで行われたのであろう。

水田耕作土は火雑物の少ない黒色粘質土あるいは暗灰色粘質土であった。Ⅰ区～Ⅲ区と同様に浅間Bテフラ直下水田の耕作土最上層には黒色粘質土(ⅣA層)が検出されたが、Ⅸ区では厚さ1～2cmと薄かった。

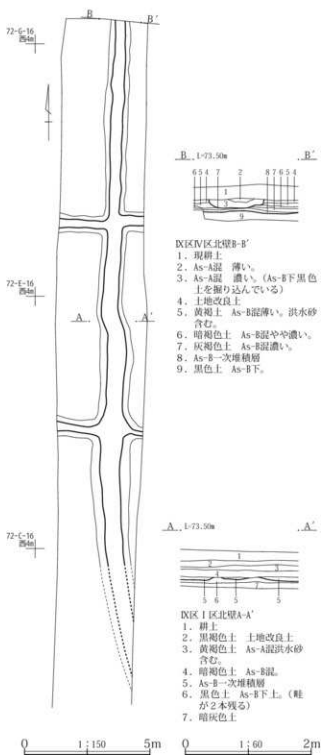
遺物は出土しなかった。

北区の水田

Ⅸ区北区で検出された水田区画は、全部で6面である。水田が検出された発掘区は狭く、いずれも全形をとらえることはできなかったが、方格地割で区画されていた。

アゼはほとんど高さ1～3cmが残存しているのみで、水路および明確な水口は検出されなかった。本水田面への給水源は地形や傾斜を考慮すると北西方向にあるものと推定される。

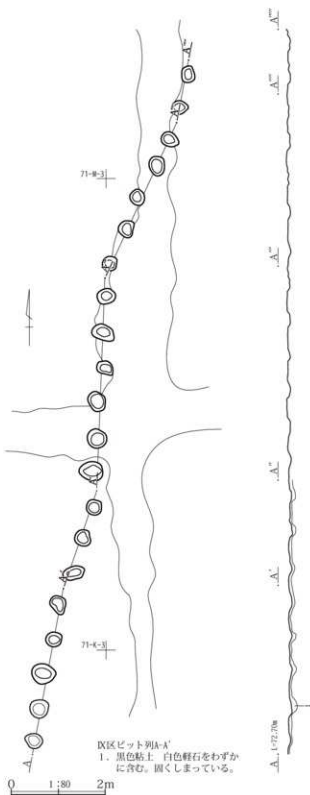
水田面はやや凹凸があるが平坦で、耕作土は火雑物の少ない黒色粘質土あるいは暗灰色粘質土であった。遺物は出土しなかった。



第97図 Ⅸ区北区浅間Bテフラ直下水田

(2) ビット列(第98図 PL.47)

IX区浅間Bテフラ直下面で検出されたビット列は1条である。長径0.35~0.5m、短径0.25~0.5m、深さ0.01~0.11mほどの不整形円形あるいは不整形円形のビットが、15mの間に22基検出された。平均6.81mの間隔であ



第98図 IX区浅間Bテフラ直下水田ビット列

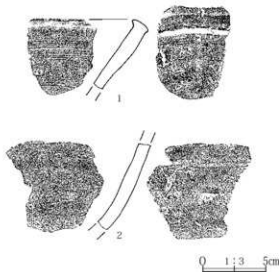
る。列は一直線ではなく、緩やかなS字カーブを描いていた。西側にはこれに沿うような位置に2.5~3.0mほどの間隔をもって馬蹄痕の帯状の集中が検出されている。

断ち割った土層を観察すると、表面の黒色粘土も凹み土層の湾曲が観察されたことから、上位から踏み込まれたものと考えられる。ビット凹地内には浅間Bテフラが落ち込んでおり、全体を覆っていた。当初は浅間Bテフラ降下より新しい可能性もあったことから、写真図版はPL.47に中近世の遺構として編集したが、踏み込んだ層位は、上層を覆った浅間Bテフラの乱れを確認できなかったことから、テフラ直下面と判断した。遺物は出土しなかった。

1号ビット列の周囲では、浅間Bテフラ直下面で水田が見つかっている。アゼの残存状況は不良であったが、水田面には無数の馬蹄痕跡と推定される凹凸がアゼを無視した状態で残されていた。1号ビット列の西側には、特にこの馬蹄痕跡が筋状に密集した部分が検出され、入り組んだ歩行状況を示唆している(第100図)。1号ビット列はこの馬歩行痕跡の東側に並行している。1号ビット列は馬の歩行にかかわる何らかの痕跡の可能性があるが、詳細は調査で明らかにできなかった。

(2) 遺構外の出土遺物(第99図 遺物観察表P.450)

IX区調査の遺構確認中に、遺構に伴わない形で第11表のように多くの遺物を出土した。近世の遺物と同層位で出土しているが、ここでは明らかに中世といえる遺物2点を掲載した。1・2は中世の在地系土器片口鉢と内耳鍋である。



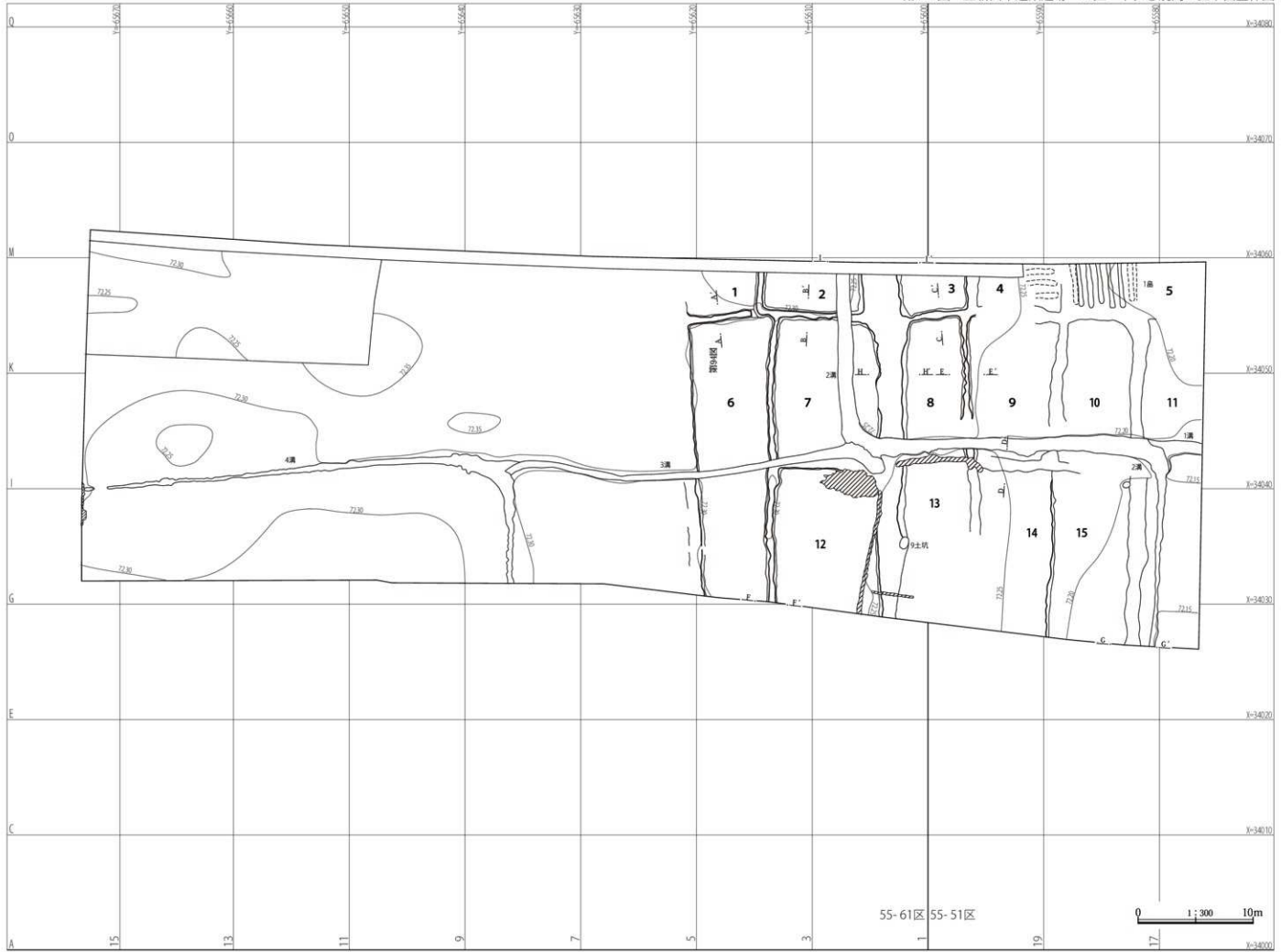
第99図 IX区遺構外の出土遺物(中世)

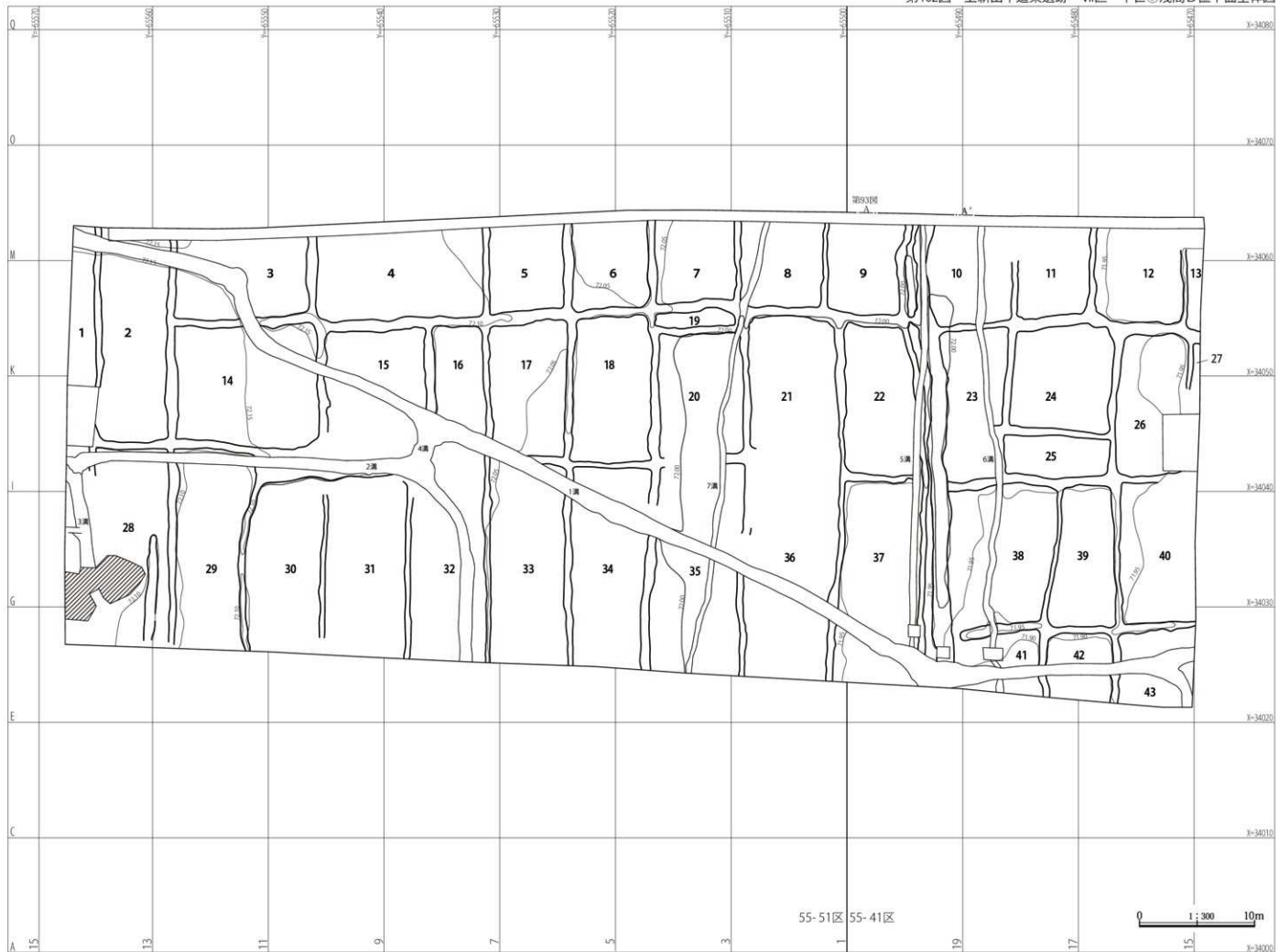
第4章 中世の遺構と遺物

第7表 上新田中道東遺跡 中世面水田区画一覧表

区	層位	アゼ	IV A層	区画No.	平面形	面積(m ²)	長軸(m)	短軸(m)	水口	平面図	
I	浅間Bテフラ直下		有	6	長方形	136.90	20.50	7.25		110	
				7	長方形	*	18.65	11.50			
				8	長方形	*	22.20	11.20			
				12	長方形	43.70	8.40	5.60			
II	浅間Bテフラ直下		有	3	長方形	46.80	9.95	4.80		109	
				4	長方形	157.75	16.20	9.85			
	浅間Bテフラ混土下	疑似	不明	(全形がわかる区画無し)						107	
III	浅間Bテフラ直下		有	14	不整長方形	183.48	27.80	7.65		106	
IV	浅間Bテフラ混土下		疑似	無し	8	長方形	59.40	10.35	5.32		105
					15	長方形	23.20	5.30	4.38	東辺	
					16	細長台形	65.40	16.60	4.45	南東隅	
					17	長方形	117.80	23.10	5.00		
					18	長方形	122.00	24.35	5.00		
					19	長方形	125.00	23.60	5.42	南辺	
					20	長方形	154.00	26.70	5.80		
					25	不整長方形	23.20	7.80	3.00	南辺	
V	浅間Bテフラ混土下		疑似	無し	5	隅丸方形	7.10	3.50	2.25	西辺	104
					7	帯状	27.40	15.40	2.15	南西隅	
					8	台形	69.35	14.10	4.65		
					9	台形	76.05	11.85	6.40		
					10	台形	99.25	14.50	10.20		
					17	帯状	56.50	29.80	2.30	南西隅	
					18	三角形	311.10	33.00	14.70		
					19	長方形	305.80	39.30	6.50		
				20	三角形	41.50	16.00	4.25			
VI	浅間Bテフラ混土下	疑似	無し	(全形がわかる区画無し)						103	
VII	浅間Bテフラ直下		有	14	長方形	125.60	12.00	10.35		102	
				17	長方形	73.30	11.55	6.60			
				18	長方形	83.75	12.65	6.75			
				19	長方形	9.50	6.85	1.30			
				20	長方形	75.80	10.55	7.85			
				22	長方形	74.20	12.85	6.00			
				23	長方形	10.22	12.95	5.70			
				24	正方形か	76.00	8.95	8.60			
				25	長方形	31.30	9.20	3.80			
				26	長方形	72.50	12.15	5.85			
				38	長方形	106.20	12.20	9.20	南西隅		
39	長方形	61.10	12.25	4.80							
VIII	浅間Bテフラ直下		有	7	長方形	1120.43	12.94	10.36		101	
				8	長方形	64.40	11.72	5.60			
				9	長方形	85.56	11.82	7.00			
				10	長方形	81.34	12.36	5.80			
IX	浅間Bテフラ直下		有	3	不整長方形	60.42	12.30	5.34		100	
				5	長方形	68.80	13.10	6.88			
				16	長方形	81.39	12.25	6.82			
				19	正方形か	*	9.00	7.12			
				21	長方形	73.25	13.60	5.58			



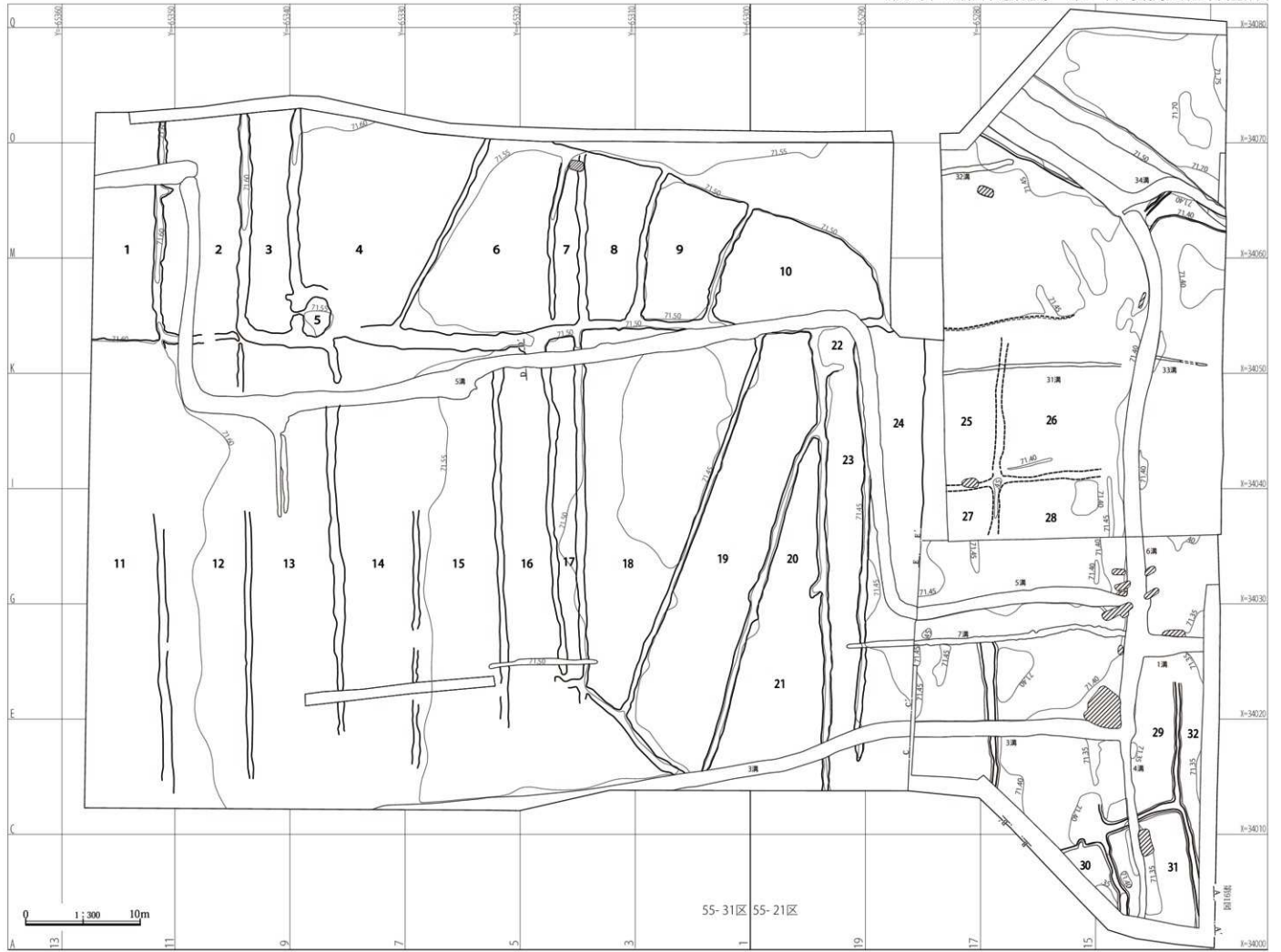






55-41区 55-31区

0 1 300 10m



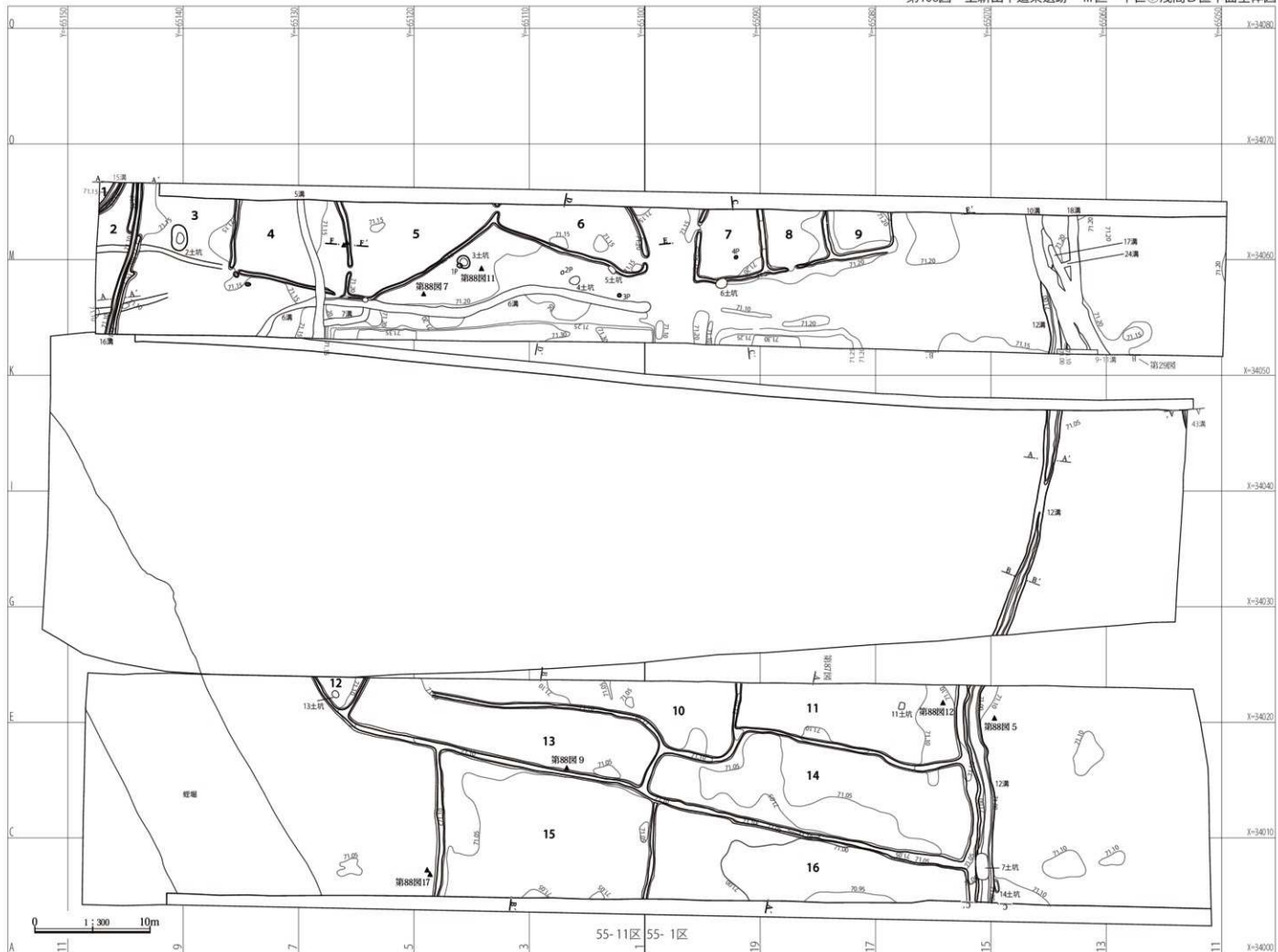
0 1:300 10m

55-31区 55-21区

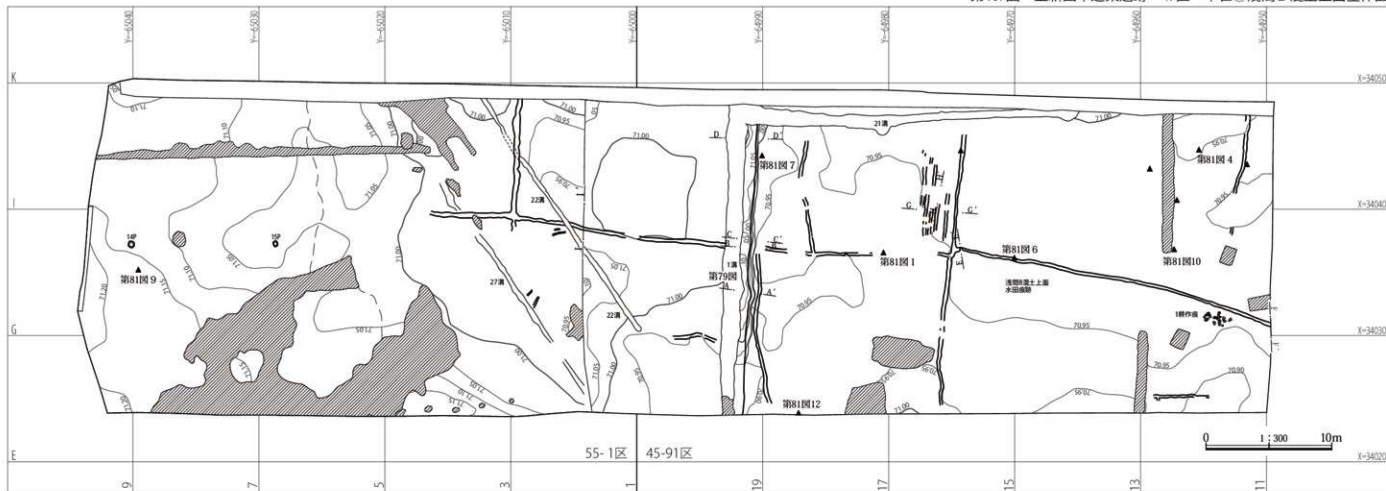
80104E



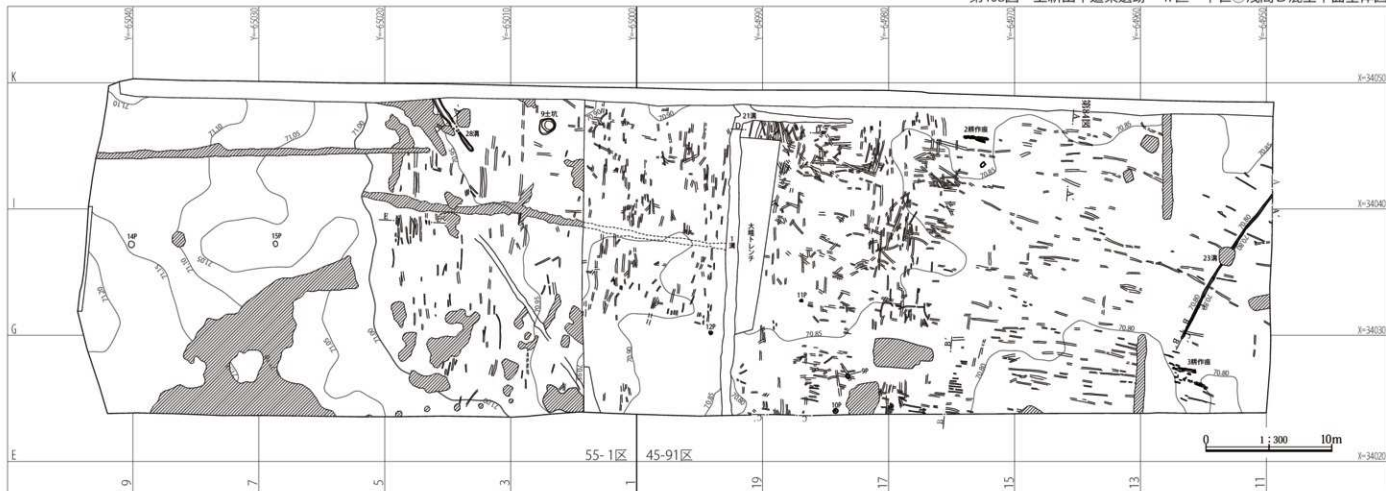
55-21区 55-11区



第107图 上新田中道東遺跡 II区 中世①浅間B混土上面全体図



第108图 上新田中道東遺跡 II区 中世②浅間B混土下面全体図





第5章 古代洪水層関連の遺構と遺物

1. 概要

上新田中道東遺跡では、Ⅰ区からⅢ区西半部で古代9世紀後半～末とみられる洪水層とそれに関連する層位で遺構を検出した。洪水層の一次堆積層は発掘区内の一部や溝の中でみられるにとどまったが、それが土壌化したとみられる土層の中位で水田の疑似畦畔や畝間溝列が検出された。

この洪水堆積物層は、東側に接する斉田中耕地遺跡Ⅱ～Ⅳ区にも及んでいる。斉田中耕地遺跡では洪水層の一次堆積層が残っており、洪水層に直接埋没した水田面が第5面として調査報告されている(文献83)。

上新田中道東遺跡では、ⅣB層下位および洪水層直下、Ⅵ層上面、Ⅵ層上面やや下位、Ⅵ層下面の、4つの層位で遺構を確認し調査した。本報告では、①ⅣB層を掘り下げる途中で牛跡とみられる小穴が確認できはじめる面とⅣB層下面で検出された洪水層一次堆積物で埋まった溝、②Ⅵ層上面で疑似畦畔および鋤跡と推定される耕作痕跡が検出された面、③Ⅵ層を掘り下げる途中で畝が検出された面、④Ⅵ層を掘り下げた面で検出された遺構のうち、砂質土やシルトで埋まっていた遺構の4つに整理して報告した。検出された遺構は、第8表の通りである。

①はⅢ区東部からⅡ区細部にかけて検出された。(第146図)Ⅲ区東部では洪水堆積物が比較的良好に残存していたことから、北区や中央区では洪水堆積物に直接埋まった面を検出することができた。Ⅲ区28号溝は洪水堆積物で埋まっており、中央区では洪水層に埋まったアゼを検出している。Ⅲ区中央区で検出された住居や竪穴遺構、井戸は微高地上にあるため、直接洪水層との層位的関係は認められなかったが、出土遺物が9世紀中頃から後半代であることから、同層位の遺構として編集した。Ⅱ区ではⅣC層の堆積は明確でなく、ⅣB層を掘り下げていく段階で、底面に洪水砂を堆積させる14号・15号・16号溝や牛跡を検出した。

②はⅢ区東端からⅡ区・Ⅰ区にわたり、ほぼ全域で、疑似畦畔による水田区画が検出された。(第147～149図)

基本的には方格地割である。アゼの位置はⅠ・Ⅱ区とも上層の浅間Bテフラ直下水田とは微妙なずれがあるが、重なる部分もある。このことについては第9章で詳述する。区画内には筋状の耕作痕がみられた。

③はⅠ区の西南端で検出された畝の畝間溝跡である。耕作面は残っていない。Ⅰ区南区では②の疑似畦畔は検出されなかったが、Ⅱ区では重複しており、疑似畦畔を調査後、Ⅵ層を掘り下げて1号畝を検出した。

④もⅠ区西端で検出された遺構である。2号溝も疑似畦畔と重複しており、疑似畦畔を調査後、Ⅵ層を掘り下げて検出した。52号・53号溝や22号～25号土坑は下位のⅤ層上面で遺構確認されたが、埋没土の特徴から古代の遺構と考えたい。

以上のように、古代洪水層に関連する層位で、耕作痕跡と考えられる遺構を重層的に検出した。この調査によって古代から中世にかけての土地利用の変化等が明らかになり、重要な問題を提起した調査となった。

第8表 上新田中道東遺跡 検出遺構数一覧
(3)古代洪水層関連の遺構

微高地	Ⅰ区	Ⅱ区	Ⅲ区
竪穴住居			8
竪穴遺構			4
井戸			3
土坑			8
ビット			15

①ⅣB層下位	Ⅰ区	Ⅱ区	Ⅲ区
溝	6	3	8
牛跡跡	○	○	

②Ⅵ層上面	Ⅰ区	Ⅱ区	Ⅲ区
溝		2	1
牛跡跡		○	○
耕作痕		○	○
疑似畦畔	○	○	○

③Ⅵ層上面やや下位	Ⅰ区	Ⅱ区	Ⅲ区
畝	1		

④Ⅵ層下面	Ⅰ区	Ⅱ区	Ⅲ区
土坑	4		
溝	3		
畝	1		

2. I 区の遺構と遺物

(1) 溝

I 区で4条の溝が検出された。これらの中には各調査区で異なる年度に調査されたために、同一の溝であっても別の遺構番号が付されたものがある。これについては、報告時に番号の統合と付け替えを行った。その作業の結果については、溝の位置や規模とともにP.442の表にまとめた。以下各溝の調査所見を記載する。なお、溝の平面図は個別図を作成せず、1/300の各区全体図でこれに変えた。埋没土層断面図は個々に掲載した。

I 区27号溝(第150図 PL.75)

27号溝は、I 区南区の西端で検出された。南側に掘り残し部を隔てて28号溝と連続する。1号島の西側を区画するような位置にある。埋没土も共通することから、両溝とも1号島と同時期と推定される。北端は発掘区域外になる。重複は無かった。

走向はN-8°-E、上幅は0.88~1.50m、深さは0.17m、調査長は6.60mである。断面形はボール状で、底面には凹凸があった。底面の標高は南端が0.10m高かった。溝内は灰色シルトで埋まっていた。埋没土中から陶器破片1点が出土したが、混入である。

遺構確認面と埋没土の特徴から、I 区27号溝の時期は古代と考えらる。

I 区28号溝(第150図 PL.75)

28号溝は、I 区南区の西端で検出された。北側に掘り残し部を隔てて27号溝と連続する。27号溝と同様に1号島の西側を区画するような位置にある。埋没土も共通することから、両溝とも1号島と同時期と推定される。北端は発掘区域外になる。重複は無かった。

走向はN-10°-W、上幅は0.50~2.00m、深さは0.15m、調査長は4.00mである。断面形はボール状で、底面には凹凸があった。底面の標高は南端が0.05m高かった。溝内は灰色シルトで埋まっていた。遺物は出土しなかった。

遺構確認面と埋没土の特徴から、I 区28号溝の時期は古代と考えらる。

I 区32号溝(第111・149図 PL.75)

32号溝は、I 区北区の西端、1号島の西側で検出された。西端は調査区域外となる。東側は1号島に壊されており、1号島の東側では延長部は検出されなかった。中央部は近世以降の29号溝に壊されている。

走向はN-37°-W、上幅は0.64~0.98m、深さは0.15m、調査長は5.80mである。断面形は不整形な箱形で、底面の凹凸が著しい。溝内は灰褐色砂層や灰色シルトで埋まっていた。

遺物は出土しなかった。溝はII区・III区で検出された9世紀後半と推定される洪水堆積物と同じ堆積物で埋まっていると推定される。したがってI 区32号溝の時期は古代と考えられる。1号島の東側で検出された、水田の疑似畦畔との層位的関連はつかめなかった。

I 区33号溝(第111・149図 PL.75)

33号溝は、I 区北区の西端、1号島の西側で検出された。32号溝の北側にあたる。西端は調査区域外となる。東側は1号島に壊されており、1号島の東側では延長部は検出されなかった。中央部は近世以降の29号溝に上端は壊されていたが、底面はかろうじて残存していた。

走向はN-63°-W、上幅は2.10~2.69m、深さは0.33m、調査長は4.80mである。断面形は不整形な箱形で、底面の凹凸が著しい。溝内は黄灰色シルトで埋まっていた。

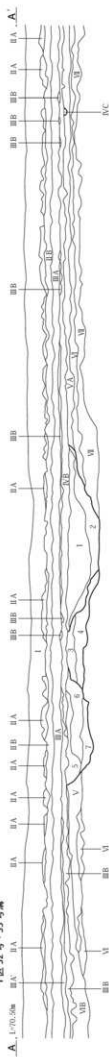
埋没土中から土師器裏破片2点が出土した。本溝もII区・III区で検出された9世紀後半と推定される洪水堆積物と同じ堆積物で埋まっていると推定される。したがってI 区33号溝の時期は古代と考えられる。1号島の東側で検出された、水田の疑似畦畔との層位的関連はつかめなかった。

I 区36号溝(第112・151・268図 PL.110)

36号溝は、I 区北区の西部から中央区西端にかけて検出された。北区北端で37号・38号溝と重複する。新旧関係は37号溝より古い、38号溝との関係は不明である。北端および南端は発掘区域外になる。中央区の南端部には東縁に49号溝が重複する。新旧関係は不明である。

走向は北区でN-17°-E、中央区でN-10°-E、上幅は北区で0.90~1.30m、中央区で0.90~1.38m、深さは北区で0.20m、中央区で0.24m、調査長は北区で12.8m、

I区32号・33号溝



I区32号・33号溝-A'

- I. 表土
- II. 黄褐色シルト
- III. 黒灰色土～灰色シルト
- IV. 灰褐色砂質土 As-8を含む。
- V. 黒褐色砂質土 As-8を多く含む。
- VI. 灰褐色シルト

1. 灰褐色砂 シルト質の層と砂層が互層に堆積した層。(33号溝埋設土)
2. 灰色シルト 均一なシルトの層。(33号溝埋設土)

3. 黄灰色シルト 黄灰色土と灰色シルトが互層に堆積した層。
4. 灰色シルト 均一な灰色シルトの含有量が少ない。
5. 黄灰色シルト 均一なシルト層中に砂層をわずかに挟んだ層。(32号溝埋設土)
6. 黄灰色シルト 5層よりも全体に粗目のシルト。(32号溝埋設土)
7. 黒灰色土 黄灰色シルトとV層土質の混成土。(32号溝埋設土)
- V. 黒褐色砂質土
- VI. 黒褐色砂質土 As-8を含む。

I区32号溝



I区52号溝



- I区52号溝-A'
1. 灰褐色土 黄白砂層
 2. 灰褐色土 黄白色砂 10%含む。

I区53号溝



- I区53号溝-A'
1. 灰褐色土 黄白砂層
 - 状に40%含む。

I区54号溝



- I区54号溝-A'
1. 灰褐色土
 2. 灰褐色土 褐色砂 40%含む。
 3. 褐色砂 黄灰色土 50%含む。
 4. 黄灰色土+白色粘土

I区54号溝



2. I区の遺構と遺物

M.C.

M. 1:70.60m



第1111図 I区古代洪水層関連の溝土層断面

中央区で11.0m、総延長は29.9mである。断面形は浅い箱形で底面にはやや凹凸があった。底面の標高は北端が0.02m高かった。

溝内は北区では黒褐色粘土と砂層塊の混土で、南区では浅間C軽石を含む黒褐色砂質土塊を含む暗灰褐色土で埋まっていた。いずれも砂層が介在していることから水流があったと推定される。北区の埋没土中から土師器壺破片1点、高坏破片1点、坏破片4点、甕破片28点、S字甕破片12点が出土した。

I区36号溝は、49号溝とともに北区の調査時には後述する古墳時代前期の溝群とともに検出・調査したため、平面図は古代～古墳時代遺構面(第268図)に掲載した。埋没土中からの出土遺物は古墳時代前期の土器が多かったが、古墳時代終末から古代初期の土師器坏破片が含まれていたことから、溝の時期は古代と考えられる。

中央区の調査では、上層との関連から2号溝と同じ層位で検出されたため、平面図は古代③VI層下面で記録した(第151図)。報告書では中央区36号・49号溝の平面図を古代～古墳時代遺構面(第268図)にも併載し、全体像を把握できるようにした。中央区では出土遺物はなかったが、上位からの土層関係を重視し、古代の溝としておきたい。

I区49号溝(第112・268図 PL.110)

49号溝は、I区中央区の西端で、36号溝の南端に重複して検出された。新旧関係は不明である。南北方向の溝であるが、南端で西に屈曲し、発掘区域外に伸びる。

走向はN-10°-W、上幅は0.94~1.90m、深さは0.10m、調査長は9.65mである。断面形は浅いボール状で底面には凹凸が著しい。底面の標高は南端が0.07m高かった。溝内は灰褐色砂層で埋まっていた。水流があったと推定される。遺物は出土しなかった。

I区49号溝は、埋没土から、古代の溝と考えられる。用水路あるいは不定形であることから表流水が流れた痕跡等の可能性が考えられる。

I区52号溝(第111・151図 PL.76)

52号溝は、I区中央区の西端、2号溝の北西隅で検出された。西端は36号溝と重複する。層位的には52号溝が新しいが、詳細はとらえられなかった。東端は浅くなり

見えなくなる。

走向はN-78°-W、上幅は0.29~0.32m、深さは0.06m、調査長は1.73mである。断面形は浅いボール状で、底面は平坦である。溝内は黄白色砂を混じる灰褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。後述する水田の疑似畦畔や2号溝との層位的関連はつかめなかったが、埋没土の特徴から古代の遺構と考えたい。

I区53号溝(第111・151図 PL.76)

53号溝は、I区中央区の西端、2号溝の西側で検出された。西端は49号溝と重複する。層位的には53号溝が新しいが、詳細はとらえられなかった。北端は浅くなり見えなくなる。

走向はN-22°-E、上幅は0.18~0.26m、深さは0.06m、調査長は1.98mである。断面形は浅いU字形で、底面は平坦である。溝内は黄白色砂を混じる灰褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。後述する水田の疑似畦畔や2号溝との層位的関連はつかめなかったが、埋没土の特徴から古代の遺構と考えたい。

(2) 牛跡跡(第111・149図 PL.76)

I区西端で北区・中央区北半で多数の牛跡跡を検出した。これはVI層上面で水田の疑似畦畔を検出するためにIV B層を掘り下げていく際につまかった。牛跡の形をした小穴に、IV A層とみられる洪水砂が充填されたものである。

これらの跡跡の確認面は一樣ではなく、厚さ0.5mほどのIV B層からV層にかけての全体にわたる。これは埋めている洪水層の違い、踏み込み面の違い、踏み込みの深さの違い等によると推定される。Ⅲ区東端南北両壁の土層断面には、2~3層の複数の洪水層が部分的に記載されている。Ⅲ区28号溝を埋めた洪水層とその下にV層を間層として堆積する洪水層である。I区牛跡跡内の洪水堆積物がそのうちのどれにあたるかは判断できない状態であった。また、それが一次堆積で洪水層直下の跡跡跡なのか、二次堆積の洪水層で埋まった洪水層上から踏みこまれた跡跡跡なのかの判断は旧地表面が残っていないので困難であった。特に上新田中道東遺跡では洪水一次堆積層(ⅢC層)は残っていないので、それとの比較検証もできなかった。ここではこれらの峻別をすることはでき

I区1号穴Aゼ



I区1号穴4号V・B・F層主體とみられる土層
 1. 灰色シルト V・A層相当の小塊を含む。
 2. 暗灰色シルト V・B層・VI層相当の塊主體で、軽石はほとんど含まない。
 3. 暗灰色シルト N・V層相当の塊主體で、軽石はほとんど含まない。
 4. 暗灰色シルト V・VI層相当の塊主體で、軽石は少量を含む。軽石は概ね、

5. 赤褐色土 4層に近いが、鉄分の塊を多量に含む。
 6. 暗灰色シルト V・VI層相当の塊主體。軽石は概ね少量を含む。

7. 灰色シルト V・VI層相当の層。
 8. 暗褐色土 As・F4層の黒色土主體で、わずかにN・V層相当の小塊を含む。

9. 灰色シルト 鉄分を含む砂質シルトとN・VI層相当の小塊の混生土。
 10. 暗褐色土 8層に近い土層。(居民に人気)

11. 暗褐色土 V・VI層相当の塊主體で、As・C層の黒色土を多く含む。
 12. 暗褐色土 V・VI層相当の塊主體で、As・C層の黒色土を多く含む。

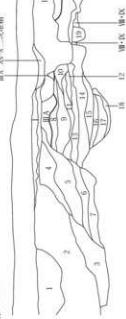
13. 暗褐色土 As・F4層の黒色土主體とV・VI層相当の塊の混生土。
 14. 暗褐色土 V・VI層相当の塊と鉄分を多く含む砂質塊の混生土。

15. 暗褐色土 V・VI層相当の塊と鉄分を多く含む砂質塊の混生土。
 V～VI 黒灰色シルト質土～黒褐色粘質土

B. 1:50.30m



C. 1:51.20m



I区北溝C-C

1. 表土
 I-B-1A. 灰褐色土～黄灰色シルト 表土
 I-B-1B. 黒灰色土～灰色シルト
 I-A. 灰褐色土～灰色シルト
 I-E. 灰褐色土 As-Bを含む。
 I-F. 黒褐色粘質土 As-Bを多く含む。
 V. 黒灰色シルト上質土
 VI. 黒褐色粘質土

I区北溝C-C

1. 灰褐色土～黄灰色粘質土 黄色風化軽石を多く含む。
 2. 灰褐色土 (1号溝埋没土)
 3. 灰褐色シルト 砂が下部に多い。(1号溝埋没土)
 4. 灰褐色土 As-肥土層を含む。(1号溝埋没土)
 5. 灰褐色シルト 砂粘を多量に含む。(1号溝埋没土)
 6. 灰褐色土 (1号溝埋没土)
 7. 灰褐色土 X層層と粗粒砂が互層。(1号溝埋没土)
 8. 暗褐色粘質土 VI層に近い土層。(Aアゼ)

I区1号大埴



I区3号・4号溝
 1. 灰褐色土 砂質。細砂粘主體だが、やや粗い砂が入る。白濁粘質土層少々を含む。(4号溝埋没土)

2. 暗褐色土 砂質。細砂粘主體だが、やや粗い砂がらなる。(4号溝埋没土)

3. 灰褐色土 砂多量を含む。(4号溝埋没土)

4. 暗褐色土 粘質。As・C層(黒褐色粘質土層)を多く含む。やや粗い砂がらなる。白濁粘質土層少量を含む。(36号溝埋没土)

I区北溝C-C

9. 暗褐色土 As-C下黒褐色粘質土と灰色シルトの混生土。(Aアゼ)
 10. 灰色シルト X層小塊を含む。(Aアゼ)
 11. 暗褐色土 X層小塊を含む。(Aアゼ)
 12. 暗褐色シルト(Aアゼ)
 13. 褐色砂 鉄分多く含む。(40号溝埋没土)
 14. 褐色砂 燧層・IX層小塊を少量含む。鉄分多く含む。(40号溝埋没土)
 15. 黒褐色粘質土 As-C下黒褐色粘質土とX・X層層の混生土。(40号溝埋没土)
 16. 黒褐色粘質土 砂とIX層相当の混生土。(40号溝埋没土)

17. 黒褐色粘質土 砂とIX層相当の混生土。(40号溝埋没土)
 18. 黒褐色粘質土 砂とIX層相当の混生土。(40号溝埋没土)

19. 黒褐色粘質土 砂とIX層相当の混生土。(40号溝埋没土)
 20. 黒褐色粘質土 As-C下黒褐色粘質土とX・X層層の混生土。(43-45号溝埋没土)

21. 黒褐色粘質土 IX層小塊を少量含む。(36-38号溝埋没土)
 22. 黒褐色粘質土 IX層小塊を少量含む。鉄分多く含む。(36-38号溝埋没土)

23. 黒褐色粘質土 As-C下黒褐色粘質土とX・X層層の混生土。(36-38号溝埋没土)
 24. 黒褐色粘質土 IX層に近い。C36-38号溝埋没土)

25. 黒褐色粘質土 X層層を多量に含む。(36-38号溝埋没土)

第112図 I区VI層上面水田掘跡土層断面

きなかったが、検出された遺構は洪水前後のある一定期間内に踏み込まれた跡跡の総体と考えておきたい。

最も牛跡跡が密集していたのは中央区西端南壁寄り(91-K~L-4・5グリッド)の大アゼ東側周辺である。中央区も西端に偏在していた。それぞれの牛跡跡の分布は規格的でなく、歩行痕跡等を示唆する検出状況ではなかった。

本遺構は9世紀後半前後の本地域で牛による畜耕が行われていた可能性を示唆する資料であろう。

(3) 水田

I区VI層上面水田痕跡(第112・149図 PL.77)

牛跡跡が検出されたIVB層および下位のV層を掘り下げていく過程で、I区の北区西半部でアゼの痕跡を、中央区のほぼ全域でアゼ状の高まりを検出した。いずれもVI層上面で認識できる疑似畦畔である。直接洪水層に覆われた埋没水田ではないが、洪水層が土壌化したIVBおよびV層の下位で検出されることから、調査で確認された水田区画は本来の水田の区画を反映しており、洪水層前後のある時期の水田区画を示していると考えられる。中央区では疑似畦畔を高まりとして調査したが、これは本来の畦畔のものではない。疑似畦畔の高さや図に示した周辺の等高線は本来の水田面のデータとは異なっている。1/300遺構図では確認面の上場のみ図示した。南区では水田区画は検出されなかった。

I区北区では疑似畦畔の上端を土壌の色の違いで確認することができた。全形を把握できた水田区画はないが、ほぼ南北方向の疑似畦畔7条、東西方向の疑似畦畔1条が検出された。やや不規則で小規模な区画になっているが、方格地割を意識しているものと推定される。疑似畦畔はアゼが「固定的であったために保存された」ものであるため、方格地割が固定的に行われたことを示している。一部に区画の幅が一定でなく、狭くなっているのは、複数年にわたる耕起作業の間にアゼの位置が微妙に変化したことがあったことを示していると推定される。

北区西端の1号堀東縁には幅の広いアゼ状の高まりが1条検出されている。西端は1号溝に切られているが、残存した範囲では幅2.7m、高さ0.03~0.12m、方向はN-11°-Eである。層的には疑似畦畔と近いと思われる

が、北壁土層断面C-C'では本大アゼと疑似畦畔を検出したVI層上面との関係は厳密にはとらえられなかった。時期は概ね疑似畦畔と同時期と考えておきたい。

I区中央区ではほぼ全域で疑似畦畔を検出した。ここでは全形を把握できた水田面はない。疑似畦畔はほぼ直線であるが、東部では湾曲するものや斜行する部分もあった。特に南北方向の疑似畦畔は直線的であるが、東西方向の疑似畦畔は湾曲・斜行する傾向がある。西側のやや微高地になっている部分でも疑似畦畔が検出された。中央から東半部では南北に長い水田区画であるのに対して、西部の微高地では東西方向に長い区画になっていた。

I区のVI層上面で検出された疑似畦畔が示す本来の水田の時期を決めるのは困難である。上層に浅間Bテフラがあることから、1108(天仁)年より古いことは明らかである。重複して上層から同層位で検出される跡跡には洪水層が堆積しており、その踏み込みは洪水直前あるいはそれ以降の可能性もある。また、III区では洪水層が3枚あり、出土遺物から9世紀後半とわかる洪水層は最も新しいものであることから、それ以前の洪水層で埋まった跡跡もある可能性があり、本来の水田面はさらにそれより古い可能性がある。

今回検出されたVI層上面の疑似畦畔は、前述した牛跡跡と同様に、9世紀後半の洪水前後のある一定期間内に開田され、継続して耕作された水田区画を示すと考えておきたい。

VI層上面で確認できた水田区画に伴う状況で出土した遺物はなかった。耕土内からは土師器甕破片3点、坏破片5点が出土したが、遺構外の出土遺物として第11表にまとめた。下位の古墳時代の遺物が混入して出土したと推定される。

(4) 畠

I区では、③VI層を掘り下げている段階で、南区と中央区の2か所で畠跡が検出された。

南区では発掘区西端に東西方向の畝間溝群3列が、V層およびVI層を掘り下げている段階で検出された。中央区では南西隅で、南区の畠の北側延長と考えられる東西方向の畝間溝群が検出された。これらを1号畠と呼ぶ。

一方、その東から北側にかけて東西方向の畝間溝列が

前述した疑似畦畔の下層、VI層を掘り下げている段階で検出された。これを2号畠と呼ぶ。

いずれも耕作面は削平されており、畝間溝下半が残ったものである。不定型な溝あるいはピット状に畝間溝底面が検出された地点もあった。1号畠・2号畠の直接の重複関係は確認できなかったが、遺構検出の層位からは、若干2号畠が古いと推定される。両畠ともに3時期の畝間溝と畝の重なりを観察することができた。一定期間耕作が継続された畠跡と推定されるが、作物についての調査所見は両畠とも得られなかった。

1区1号畠(第113・114図 PL.78・79)

1号畠は、1区南区西部から中央区西部にかけて東西約17m、南北24mの広範囲にわたって検出された。当初16年度に調査した南区で検出されたが、20年度に調査した中央区で、同層位・同方向の畝間溝群が隣接部分に検出されたことから、これも1号畠に含めて図化・報告した。畝間溝を埋めていたのは、南区では白色軽石を含む暗灰色粘質土、黒色粘土、暗褐色土で、含まれている白色軽石は浅間C軽石と推定される。また中央区では、畝間溝は灰褐色砂、灰褐色土塊を含む灰褐色砂、褐色シルトを含む灰褐色粘質土で埋まっていた。

畝間溝は、方向の違いで3単位が見いだせる。北側の一群はN-5°-E、南西の一群はN-90°-E、南東の一群はN-52°-Eであった。畝間溝の幅は0.15~0.65m、深さは0.1~0.18mでまちまちであったが、畝間溝の間隔は溝の芯々間で0.7~0.8mでほぼ一定であった。長さは最も長く検出されたもので2.90m、ピット状の落ち込みが残っていただけのところもあった。畝間溝の底面が断続的に検出されたのであろう。

畠の土層断面を3層の畝と畝間溝の重なりが看取できる。平面図を図化したのは最下層の畝間溝で、浅間C軽石を含む黒色土塊を含むやや黒い黒灰色土で埋まっていた。上位の2層の畝間溝は、疑似畦畔のあったV層・VI層に対応する暗灰色土で埋まっていたと記載がある。1号畠は疑似畦畔と重複はなく原水田との関係も不明であるが、畦畔の方向と畝間溝の方向が一致していることや、層位からも疑似畦畔の原水田と同時にあった可能性も考えられる。

埋没土中から土師器壺破片3点、高坏破片1点、坏破

片10点、甕破片142点、S字甕破片7点が出土した。耕作所作のなかで混入した遺物と考えられる。1号畠は古墳時代前期~古代のいずれかの時期に水田域の一部が畠耕作地として利用されたと考えておきたい。

1区2号畠(第115図 PL.79-80)

2号畠は、1区中央区西部で東西約7.5m、南北21mの範囲にわたって検出された。前述したVI層上面水田痕跡の疑似畦畔が検出された面を掘り下げていく過程で、灰色シルト質土が帯状に落ち込む畝間溝列が検出された。疑似畦畔のあった位置に重複して検出された畝間溝もあった。2号畠の遺構確認面はやや下位であるが、疑似畦畔の原水田との関係は不明と言わざるを得ない。

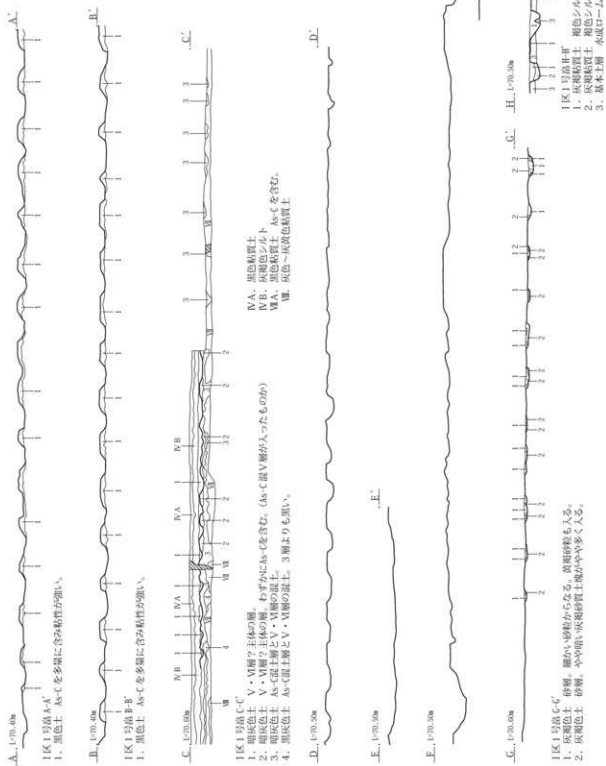
畝間溝の下位の土層断面を観察したところ、3層の畝と畝間溝の重なりが看取できた。1面目の高は平面的に検出することができなかった。2面目の高は南半分に偏って残っていた。畝間溝の輪郭を図化記録した。3面目の高は北半分で偏っており、不定型な小ピットの集合として検出された。また、これらの3層の重なりを検出した地点の南側に6条の畝間溝痕跡を検出した。これらは位置的には1号畠と重複する位置にあるが、1号畠より0.15m下位で検出されており、走向もずれることから、1号畠の痕跡とするよりは、北側の2号畠のいづれかの面と考えている。

詳細な断面観察から各面の畝間溝の規模を記載すると下記の通りである。

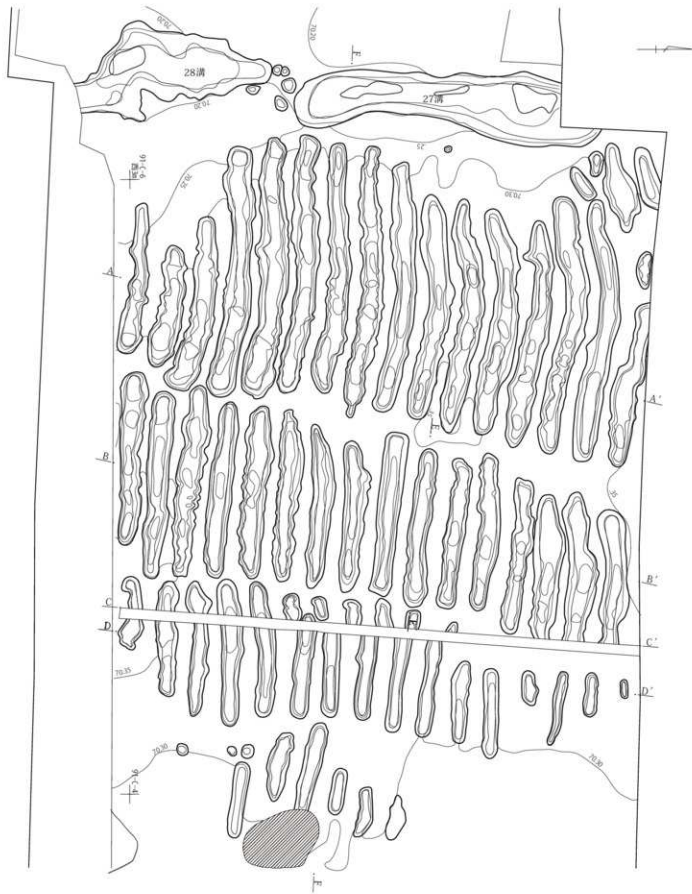
1面目の畝間溝は断面のみの確認であるが、幅0.14~0.20m、深さは0.06mほどで、洪水堆積物とみられる灰白色シルト質土で埋まっていた。畝間溝の間隔は溝の芯々間で0.42~0.54mであった。

2面目の畝間溝の幅は0.32~0.60m、深さは0.1~0.18mで規模にばらつきがある。溝内は洪水堆積物とみられる黄色細砂と灰褐色シルト質土で埋まっていた。平面形にも凹凸があり、全体形状は不定形であるが、並行した畝間溝が掘られている。長さは最も長く検出されたもので3.40m、畝間溝の間隔は溝の芯々間で0.7~0.8mでほぼ一定であった。

3面目の畝間溝は北部にのみ残存しており、上位面とは異なって、列状のやや意識した小ピットが多数検出された。2号畠畝間溝の最基部に残る耕作痕跡と推定されるが、どのような所作によるものかは確定できなかった。



第113図 I区1号高土層断面

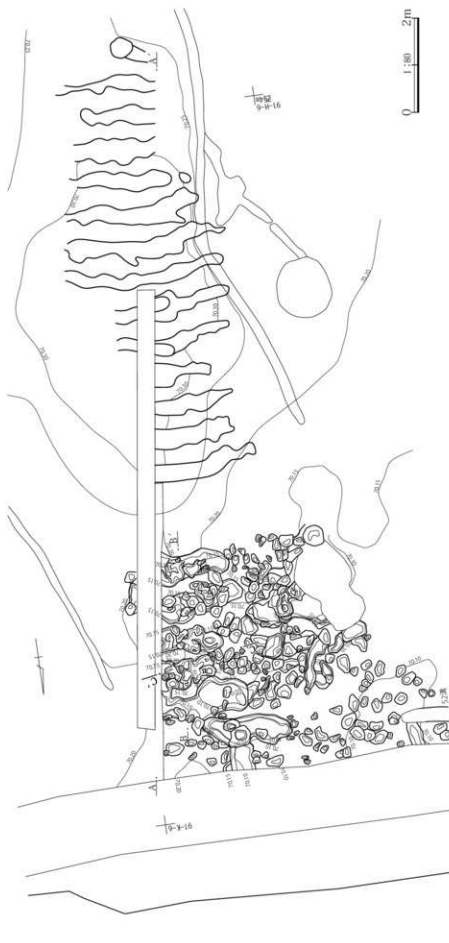


第114图 I区1号品



I区6号品

0 1:30 2m



2. 1区の遺構と遺物

- 1区2号高 A'-C-C'
1. 灰褐色粘質土 灰色粘土小塊 20%含む。(遺土かモ)
 2. 灰褐色粘質土 灰色粘土小塊 20%含む、黒褐色土塊 10%含む。(遺土かモ)
 3. 灰褐色粘質土 灰褐色土塊 20%含む、黒褐色土塊 10%含む。(遺土かモ)
 4. 灰褐色土 ややシルト質。洪水層か。
 5. 灰褐色土 ややシルト質。洪水層か。(下は遺の1面)
 6. 灰褐色土 ややシルト質。洪水層か。
 7. 灰褐色粘質土。褐色砂 5%含む。
 8. 灰褐色粘質土。褐色砂 5%含む。
 9. 灰褐色粘質土 黒土。白化粧子 5%含む。

10. 灰褐色シルトと暗褐色土の混土。砂せらく水つき。洪
11. 水跡が現入だらう。
12. 灰褐色粘土 白色粘子 10%含む。細土。
13. 基本土層 水成ローム。に5%、9%白粘土。
14. 黒褐色土 砂 40%含む。10層と近い方。
15. 黒褐色土 白色粘子 1%含む。
16. 灰褐色粘質土 褐色シルトを割合に含む。
17. 灰褐色粘質土 褐色シルト 5%含む、黒色土小塊 5%含む。

第115図 1区2号高

これらの小ピットを埋めていたのは褐色シルトを層状に挟む灰褐色粘質土であり、洪水砂層の上から何らかの農具で耕起した痕跡と推定される。

埋没土中から土師器破片9点、裏破片18点、S字裏8点が出土した。いずれも高耕作に伴う所作の間に混入した遺物と考えられる。耕作面は失われているが、土層断面からは古墳時代前期～古代のいずれかの時期に畝作耕地として利用されたと推定される。

(5) 土坑(第116図 PL.81)

I区北区・南区では、土坑は検出されなかった。

中央区では④VI層下面で、4基の土坑が検出された。これらはほぼ同時期と考えられる畝の西側に集中していた。畝や水田疑似畦畔との層位的関係は厳密にはつかめなかったが、埋没土の類似性などから近い時期の遺構と推定される。それぞれの土坑の位置や規模は、P.432の表にまとめた。以下各遺構の調査所見を記載する。

22号土坑は円形の土坑で、断面は浅い皿状である。下層は褐灰色粘土と白色粘土の混土で、上層は褐灰色粘土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

23号土坑は不整楕円形の土坑で、断面は浅い皿状である。白色粒子・白色粘土を含む灰褐色粘土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

24号土坑は不整円形の土坑で、断面は浅いボール状である。下層は褐色砂、上層は褐灰色シルト質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

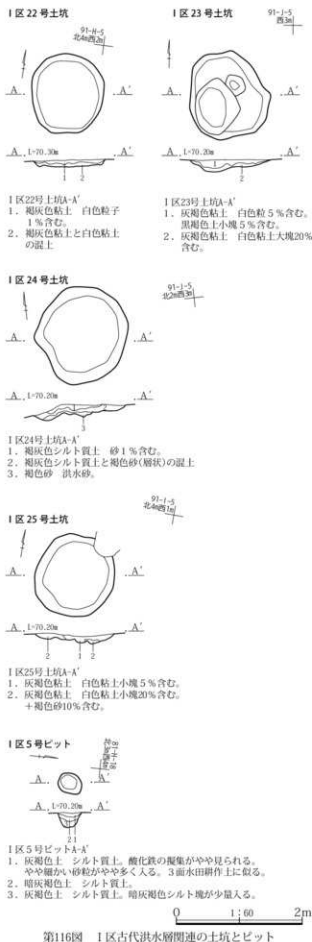
25号土坑は不整円形の土坑で、断面は浅い皿状である。下層は褐色砂・白色粘土粒を含む灰褐色粘土で、上層は白色粘土粒を含む灰褐色粘質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

(6) ピット(第116図)

I区古代面で検出したピットは、中央区で検出された5号ピット、1基である。ピットの位置や規模は、P.436の表に記載した。以下ピットの調査所見を記載する。

a. 中央区のピット

中央区では5号ピットが調査区ほぼ中央で検出された(第149図)。灰褐色シルト質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

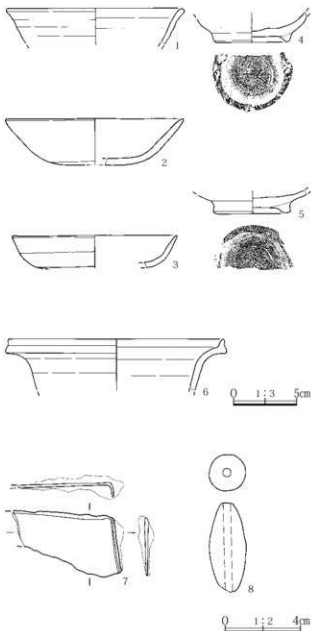


第116図 I区古代洪水層関連の土坑とピット

(7) 遺構外の出土遺物

(第117図 PL.212 遺物観察表P.451・453・468)

I区調査の遺構確認中に、遺構に伴わない形で11表のように多くの遺物を出土した。ここでは、洪水層関連遺構の遺構確認時に出土した須恵器碗(第117図1)、土師器杯(2・3)、須恵器碗(4・5)、須恵器瓶(6)、鉄製鎌(7)、土錘(8)を掲載した。土器はいずれもⅢ区で検出された9世紀後半の住居と同じ時期のものである。鉄製鎌は遺構確認時に検出されたもので、確実な時期は不明と言わざるを得ない。



第117図 I区遺構外の出土遺物(古代)

3. II区の遺構と遺物

(1) 溝

Ⅱ区で5条の溝が検出された。①ⅣB層上面で14~16号溝、②Ⅵ層上面で17号・19号溝が検出された。これらの中には各調査区で異なる年度に調査されたために、同一の溝であっても別の遺構番号が付されたものがある。これについては、報告時に番号の統合と付け替えを行った。その作業の結果については、それぞれの溝の位置や規模とともにP.442の表にまとめた。以下各溝の調査所見を記載する。なお、溝の平面図は個別図を作成せず、1/300の各区全体図でこれに変えた。埋没土層断面図は個々に掲載した。

Ⅱ区14号溝(第146図 PL.82)

14号溝は、Ⅱ区南区の南西端で検出された。東縁のみの検出で、西縁は発掘区域外となる。重複は無かった。

走向はN-5°-W、上幅は1.00m以上、深さは0.42m、調査長は8.10mである。断面形は箱形で、底面は平坦であった。底面の標高は南端が0.01m高かった。埋没土は不明である。遺物は出土しなかった。

Ⅱ区14号溝の時期は、遺構確認面から古代の溝と考えられる。

Ⅱ区15号溝(第146図 PL.82)

15号溝は、Ⅱ区南区の北西部で検出された。南西隅のみの検出で、東縁は攪乱で壊されていた。浅いボール状の断面形であったことから、溝としたが、詳細は不明である。重複は無かった。

走向はN-8°-W、上幅は1.10m以上、深さは0.13m、調査長は3.12mである。断面形はU字形で、底面は平坦であった。底面の標高は北端が0.08m高かった。埋没土は不明である。遺物は出土しなかった。

Ⅱ区15号溝の時期は、遺構確認面から古代の溝と考えられる。

Ⅱ区16号溝(第146図)

16号溝は、Ⅱ区北区の西端で検出された。緩やかに屈曲する。北西端は発掘区域外となり、南端は立ち上がる。重複は無かった。

走向はN-18°-W、上幅は0.24~0.50m、深さは0.03m、調査長は14.0mである。断面形はU字形で、底面は平坦であった。底面の標高は北端が0.05m高かった。埋没土は不明である。遺物は出土しなかった。

Ⅱ区16号溝の時期は、遺構確認面から古代の溝と考えられる。

Ⅱ区17号溝(第118・148図 PL.82・83)

17号溝は、Ⅱ区東半部北区から南部北東隅にかけて検出されたほぼ直線の溝である。浅間Bテフラ直下の2号溝の下位で検出された。調査時には南区北東端は北区17号溝と同一の溝との確証がなかったことから、18号溝と記録したが、22年度の中央区の調査で両溝をつなぐ位置で溝が検出されたことから、同一溝と確認した。北西端および南東端ともに発掘区域外となる。Ⅰ区西端では1号堀が掘られていることもあって、17号溝の延長部を確認することはできなかった。

中央区で24号溝と重複するが新旧関係は17号溝が新しい。また、後述する疑似畦畔と重複するが、北壁土層断面で、本溝は疑似畦畔確認面あるいはより上位から掘り込まれていると観察できる。疑似畦畔を残した本来の水田面は残っていないが、17号溝はその水田の用水路として掘られた溝であろう。

走向はN-41~42°-W、上幅は0.44~1.14m、深さは0.09~0.23m、調査長は北区・中央区・南区の間の未調査部分を合わせて63.00mである。断面形は箱形あるいはU字形で、底面は平坦であった。底面の標高は北端が0.06m高かった。遺物は出土しなかった。

溝内は灰褐色の砂・シルト質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

Ⅱ区17号溝の時期は、遺構確認面および埋没土の特徴から古墳時代から古代の溝と考えられる。浅間Bテフラ直下の溝が上位にある溝は、このⅡ区17号溝のほかⅢ区28号溝がある。Ⅲ区28号溝も本溝と同様にシルトや砂で埋まっており、洪水被災の溝であるが、出土遺物から9世紀後半の溝と考えられる。この両者の洪水層が同時のものであるかどうかは確定できないが、層位の共通性から両溝が近い時期のものである可能性は高い。本溝の時期も9世紀後半前後と推定される。

Ⅱ区19号溝(第118・148図 PL.83)

19号溝は、Ⅱ区北区の北東隅で検出された。南西縁のみの検出で、東縁は発掘区域外となる。重複は無かった。

走向はN-45°-W、上幅は1.60m以上、深さは0.84m、調査長は2.04mである。断面形はU字形で、底面は平坦であった。溝内は灰色シルト・砂で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

Ⅱ区19号溝の時期は、遺構確認面および埋没土の特徴から、古墳時代から古代の溝と考えられる。17号溝と走向や埋没土が共通する。また、層位・走向からⅠ区の古代②VI層上面で検出された33号溝と連続する可能性がある。

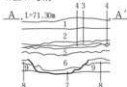
(2) 牛跡(第148図 PL.84)

Ⅱ区西部の北区・中央区・南区で、①IVB層およびV層を掘り下げていく段階で牛跡を検出した。牛跡の形をした小穴に、IV A層とみられる洪水砂が充填したものである。

これらの跡の確認面は一様ではなく、厚さ0.2mほどのIV B層あるいはV層中の全体にわたる。このような跡の累積は、埋めている洪水層の違い、踏み込み面の違い、踏み込みの深さの違い等が重なった結果によると推定される。Ⅲ区東端南北両壁の土層断面には、2~3層の複数の洪水層が部分的に記載されている。Ⅲ区28号溝を埋めた洪水層とその下位にV層を開層として堆積する洪水層である。Ⅱ区の牛跡内に入り込んだ洪水堆積物がそのうちのどれにあたるかは判断できない状態であった。また、それが一次堆積で洪水層直下の跡痕跡なのか、二次堆積の洪水層で埋まった洪水層上から踏みこまれた跡痕跡なのかの判断も旧地表面が残っていないので困難であった。特に上新田中道東遺跡では洪水一次堆積層は残っていないので、それとの比較検証もできなかった。ここではこれらの峻別をすることはできなかったが、古代①・②面で検出された牛跡は、洪水前後のある一定期間内に踏み込まれた跡痕の総体と考えておきたい。

本遺構は少なくとも9世紀後半の本地域で、牛による畜耕が行われていた可能性を示す資料となろう。

II区17号溝



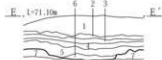
II区17号溝A-A'

1. 表土
2. 灰白色シルト
3. 暗褐色土 As-B粒、非常に多く含む。
4. As-B一次堆積層。
5. 黒色粘土
6. 黒灰色シルト質土 Ⅷ層。
7. 灰白色粘土 黒色土小塊少量含む。
8. 暗褐色粘土 やや明るい色調。Ⅷ層。
9. 黒色粘土層 As-Cを混じる。



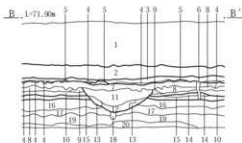
II区17号溝C-C'

1. 灰褐色土 シルト質土。細かい砂粒がやや多く入る。
2. 灰褐色土 砂層。細かい砂粒からなる。
3. 灰褐色土 砂多い。灰褐色粘土塊少量・酸化鉄凝集が少量入る。
4. 灰褐色土 砂多い。灰褐色粘土塊が少量入る。



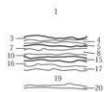
II区17号溝E-E'

1. 表土
2. 黒褐色土 As-Bを混じる。
3. 黒色土 As-Bを混じる。
4. 黒色粘土土 As-B下水田耕土。
5. 灰白色粘土土 (Ⅳ層相当)
6. 灰白色砂質土 Ⅳ層と砂粒の混土。
7. 黒色粘土土 As-Cを混じる。
8. 灰白色粘土土



II区調査区東北壁B-B'・F-F'

1. 暗褐色土 表土。覆瓦As-A認め。
2. 灰褐色土 砂質土。As-B軽石を少量含む。この上面が0面。(Ⅷ層)
3. 灰褐色土 砂質土。As-B軽石をやや多く含む。この上面が0.5面。(Ⅷ層)
4. 暗褐色土 砂質土。As-B軽石を多量に含む。(ⅢB層)
5. As-B 北壁A-A'では5層が薄い。雨よりさらに西はやや厚い。この上面が0.75面。
6. 暗褐色土 砂質土。木の粗か。As-B軽石をやや多く含む。
7. 黒褐色土 粘質土。As-B下水田面。やや色調が褐色で黒味がうすい。(Ⅲ層)
8. 灰褐色土 粘質土。黄褐色砂層が少量入る。耕土化しているか。17号溝西脇は難かもしれないが分別困難。(Ⅲ層)



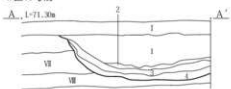
9. 灰褐色土 シルト質土。8層とほぼ同じだが、やや暗い色調3面水田より上方の水田。畦の一部か。(Ⅲ層)
10. 灰褐色土 シルト質土。8層より暗い色調。やや粘性弱まる。
11. 灰褐色土 シルト質土。細かい砂粒がやや多い。(17号溝埋没土)
12. 灰褐色土 砂層。細かい砂粒からなる。下層は粗い砂。(17号溝埋没土)
13. 灰褐色土 砂層。灰褐色シルト塊が多く入る。(17号溝埋没土)
14. 暗褐色土 シルト質土。3面畦粒群の一部。砂質土に近い。
15. 暗褐色土 シルト質土。3面畦粒群水田面。(Ⅷ層)
16. 黒褐色土 粘質土。(Ⅲ層)
17. 灰褐色土 粘質土。(Ⅲ層)
18. 灰褐色土 砂層。
19. 灰黄褐色土 粘質土。黄色風化軽石。酸化鉄凝集が入る。(Ⅲ層)
20. As-ⅡP



II区17号溝D-D'

1. 黒褐色土 粘質土。As-B下水田面。この付近は厚みがある。(Ⅲ層)
2. 灰褐色土 シルト質土。細かい砂粒がやや多く入る。(17号溝埋没土)
3. 灰褐色土 砂層。細かい砂粒からなる。(17号溝埋没土)
4. 灰褐色土 砂層。灰褐色粘土塊が少量入る。(17号溝埋没土)
5. 灰褐色土 シルト質土。7・8層に似る。3面水田より新しい水田面畦と考えられる。17号溝に伴う面としては調査できず。
6. 暗褐色土 シルト質土。3面水田畦の一部。
7. 灰褐色土 粘質土。洪水起源かもしれないが耕作土化している。(Ⅲ層)
8. 灰褐色土 シルト質土。7層に似るがやや暗い。(Ⅲ層)
9. 暗褐色土 シルト質土。3面水田耕作土の一部か。17号溝東側が多いが、西側ではあまり見られない。3面水田確認面。
10. 黒褐色土 シルト質土。3面水田。床土がほぼ調査区全面に見られる。3面水田確認面。
11. 黒褐色土 粘質土。As-C黒相当だが、As-C軽石なし。(Ⅲ層か)
12. 灰褐色土 粘質土。As-C黒相当だが、As-C軽石なし。(Ⅲ層か)
13. 灰褐色土 粘質土。(Ⅲ層)

II区19号溝



II区19号溝A-A'

1. 灰色シルト 鉄分を多く含む。
2. 灰色シルト 砂を部分的に含む。
3. 灰色シルト 砂(粗粒・細粒)を層状に含む。
4. 砂層 粗粒の砂層。

0 1:60 2m

第118図 II区古代洪水層関連の溝土層断面

(3) 水田

Ⅱ区Ⅵ層上面水田痕跡(第119・148図 PL.84・85・86)

牛跡が検出されたⅡ層および下位のⅤ層を掘り下げていく過程で、Ⅱ区の北区・南区、中央区のほぼ全域でアゼ状の高まりを検出した。いずれもⅥ層上面で認識できる疑似畦畔である。直接洪水層に覆われた埋没水田ではないが、洪水層が土壌化したⅡ層およびⅤ層の下で検出されることから、調査で確認された水田区画は本来の水田の区画を反映しており、洪水層前後のある時期の水田区画を示していると考えられる。

中央区では疑似畦畔を高まりとして調査したが、これは本来の畦畔そのものではない。疑似畦畔の高さや図に示した周辺の等高線は本来の水田のものとは異なっている。1/300の遺構図では確認面の上場のみ図示した。南区では水田区画は検出されなかった。

Ⅱ区北区では疑似畦畔の上端を土壌の色で確認することができた。全形を把握できた水田区画はないが、ほぼ南北方向の疑似畦畔3条が検出された。アゼの間隔は芯々間で3～3.5mで、東西方向のアゼは検出されなかったが、方格地割を意識しているものと推定される。疑似畦畔はアゼが「固定的であったために保存された」ものである。方格地割が固定的に行われたことを示している。疑似畦畔の上幅は0.5～0.8m、方向はN-1°EからN-2°Wの間である。北区の1～3区画は様に南北方向に長い。北区東半部は薄くⅤ層を剥がしていき調査を2ラインまで実施したが、疑似畦畔を検出できなかった。2ライン以東はⅤ層を剥がしていき作業を放棄した。東半部ではⅤ層相当の8層より上面から掘り込んでいる17号溝(第118図)が検出されたのみである。

Ⅱ区中央区では、Ⅴ層を剥がしていき作業をやや深くして、ほぼ全域で疑似畦畔を検出した。水田区画は全部で44区画を検出したが、全形を把握できた水田区画は10・12・13・15・16・22・23・24・25・26・27・30・31・32の14区画である。疑似畦畔はほぼ直線で方格地割を意識していると思われるが、内部には斜行するアゼもあり、10・12・30・31・32区画のように小さく区切られたところもあった。疑似畦畔の上幅は0.35～0.7m、方格地割の南北方向のアゼの方向はほぼN-0°Eを左右する位置にある。中央区でも17号溝の延長を検出したが、Ⅴ層にあたる10層上面にアゼを盛り上げており、疑似畦畔より上層に17号溝の機

能面があることが明瞭である。17号溝は疑似畦畔の原水田の方格地割に斜行する走向の溝であるが、水田に伴う用排水路として機能していたと考えられる。

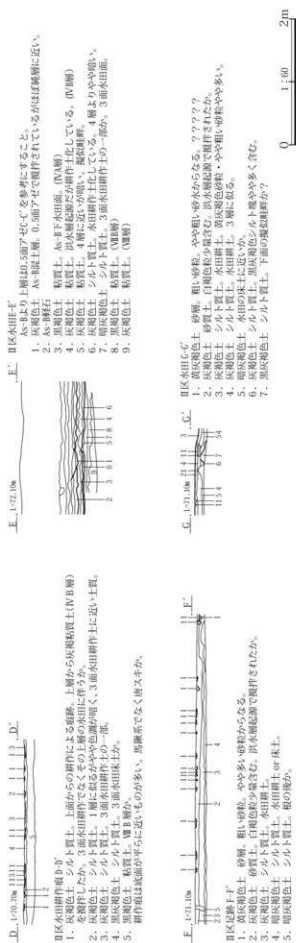
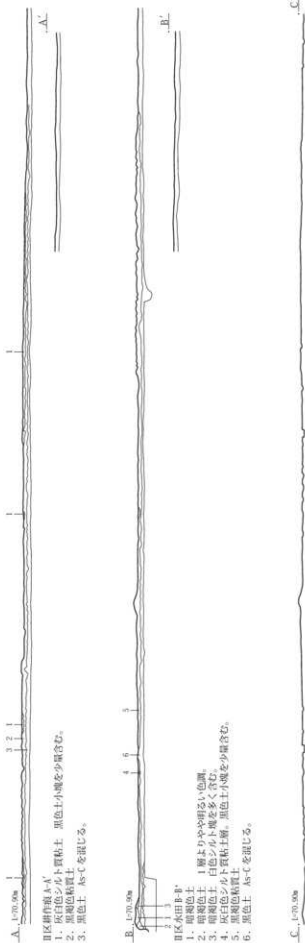
Ⅱ区南区は北区と同様に南北方向の疑似畦畔が4条検出された。アゼの間隔は芯々間で4mあるいは3mで、東西方向のアゼは検出されなかった。疑似畦畔の上幅は0.5～0.8m、方向はN-1°EからN-2°Wの間である。南区の42～44区画も北区と同様に南北方向に長い。遺憾ながら中央区南端の対応する疑似畦畔とはやや走向にずれを生じていた。

南区でもⅤ層を剥がしていき調査を20ラインまで実施したが、疑似畦畔を検出できなかった。20ライン以東の作業を放棄した。

また、疑似畦畔検出面各区画内で、アゼ方向に平行する耕作痕跡を検出した。アゼがみつかった地点ではほぼ全域の区画内で同様の耕作痕跡がみつかった。特に南区の42・43区画では顕著に確認された。幅0.15～0.30m、深さ0.04～0.1mの筋状の耕作痕跡で、黒色土小塊を含む灰褐色シルト質粘土・灰白色シルトで埋まっていた。疑似畦畔が示す原水田の水田面から掘り込まれた耕作による痕跡と考えられる。耕作痕跡の断面形状からは犁あるいは鋤の痕跡と考えられる。古代①Ⅱ層上面で検出した牛跡も同作業の痕跡とすれば犁の可能性が高い。両者の痕跡が混在している可能性もある。

Ⅱ区のⅡ層中とⅥ層上面で検出された牛跡と疑似畦畔はⅢ区東端およびⅠ区で検出されたもの一連の遺構である。これらの痕跡を下層に残した際の作業面である本来の水田の時期を決めるのは困難である。上層に浅間Bテフラがあることから、1108(天仁元)年より古いことは明らかである。重複して上層から同層位で検出される跡には洪水層が堆積しており、その踏み込みは洪水直前あるいはそれ以降の可能性もある。また、Ⅲ区では洪水層が3枚あり、出土遺物から9世紀後半とわかる洪水層は最も新しいものであることから、それ以前の洪水層で埋まった跡跡もある可能性があり、本来の水田面はさらにそれより古い可能性がある。

今回検出された古代②Ⅵ層上面疑似畦畔は、前述した牛跡痕と同様に、9世紀後半の洪水前後のある一定期間内に開田され、継続して耕作された水田区画を示すと考えておきたい。

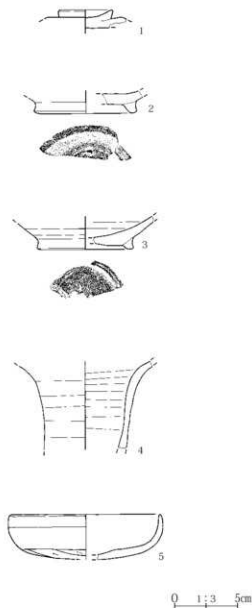


第119図 Ⅱ区Ⅵ層上面水田粘粒土層断面

(4) 遺構外の出土遺物

(第120図 PL.212 遺物観察表P.453)

Ⅱ区調査の遺構確認中に、遺構に伴わない形で第11表のように多くの遺物を出土した。なかには下位の層位からの混入遺物も含まれていたが、ここでは、古代洪水層関連の水田痕跡や耕作痕の遺構確認作業時に出土した土師器環(第120図5)・須恵器蓋(1)、椀(2・3)、長頸壺(4)を掲載した。いずれも、Ⅲ区で検出された住居群と同じ時期の遺物である。Ⅱ区では遺構は検出されなかったが、周辺に同時期の集落が広がる可能性を示している。



第120図 Ⅱ区遺構外の出土遺物(古代)

4. Ⅲ区の遺構と遺物

(1) 竪穴住居

Ⅲ区1号住居

(第121図 PL.87・88・212 遺物観察表P.453)

位置 Ⅲ区55-1-1-18・19G

形状 隅丸長方形 重複 なし

規模 長軸3.51m 短軸2.72m 残存壁高0.13m

長軸方位 N-83°-W

埋没土 上層は白色軽石・暗褐色土・炭化物粒を含む暗褐色土、下層は白色軽石・炭化物粒を少量含む暗褐色土で埋まっていた。

竈 東壁中央やや南寄りに竈が構築されていた。確認長0.66m、燃焼部幅0.39m。袖の残存長は向かって右側が0.18m、左側が0.20m。燃焼面で0.43m、掘り方で0.50mの住居外に張り出す掘り込みがある。その幅は0.41mである。残存した竈の袖は低く小規模である。焼土の面的な残存も認められなかった。竈からは出土遺物はなかった。

柱穴 床面で柱穴は検出されなかった。掘り方で竈前および住居中央、北壁沿いに不定型な小ピットを検出したが、北東隅で検出されたP3は主柱穴の可能性はある。その規模(長径×短径×深さ)は、0.28×0.24×0.17mである。

周溝 周溝は検出されなかった。

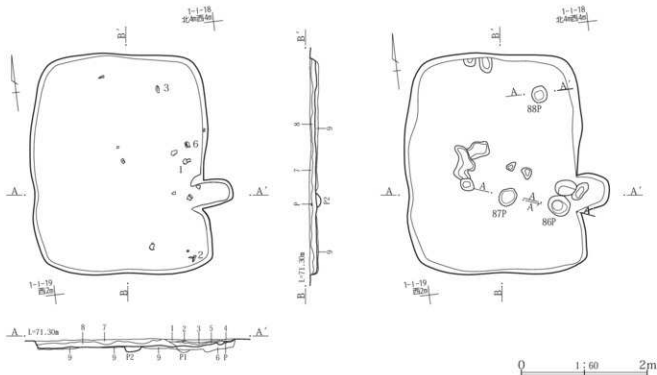
貯蔵穴 貯蔵穴は検出されなかった。

床面 平坦である。

掘り方 竈前および住居中央、北壁沿いに不定型な小ピットを検出したが、いずれも浅い。厚さ2cmほどの粘性のあるにぶい褐色土で充填されていた。

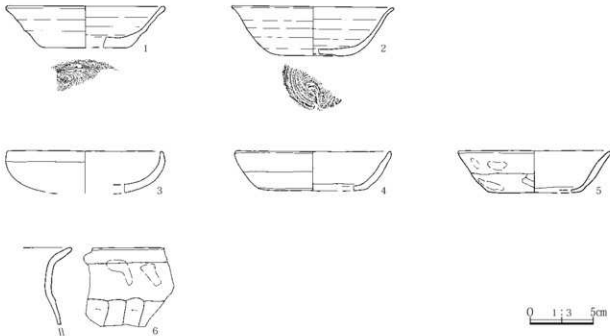
遺物出土状況 竈の周辺に遺物が出土したが、いずれも床面から浮いた状態であった。土師器環(第121図3)は主柱穴P3の北西隅底面直上で、土師器甕(6)、須恵器環(1)は竈左脇床面直上で、須恵器環(2)は南東隅床面直上で出土した。埋没土中から、土師器環(4・5)の他、土師器環・甕破片301点、須恵器環・椀破片10点が出土した。また、S字裏につくりの似た異形土器が出土したが混入であるので遺構外出土遺物(第192図37)として図示した。

所見 出土遺物から9世紀中葉の遺構と考えられる。



Ⅲ区1号住居A-A'・B-B'

1. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。直径10mm以下の赤褐色塊少量。直径2mm以下の炭化物少量含む。
2. 灰色塊 粘性ややあり。しまり弱い。カマドの灰が堆積した塊。
3. 褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。直径10mm以下の赤褐色塊少量。直径2mm以下の炭化物少量含む。カマド燃焼部か？
4. 褐色土 3層に順するが直径5mm以下の赤褐色塊微量含む。
5. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。
6. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。直径10mm以下の暗灰色塊がしみ状に見られる。
7. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。中央付近に長直径11cmの暗灰褐色土塊を含む。直径7mm以下の茶褐色土塊を少量含む。直径5mm以下の炭化物を極少量含む。直径1mm以下の白色軽石を少量含む。
8. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。直径5mm以下の炭化物を極少量含む。直径1mm以下の灰白色軽石粒を少量含む。
9. ぬい褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。攪り方。



第121図 Ⅲ区1号住居と出土遺物

Ⅲ区2号住居

(第122図 PL.88-89・213 遺物観察表P.453・454)

位置 Ⅲ区55-1-H-19・20G **形状** 不整形方形

重複 1号土坑・38号溝に先行する。

規模 長軸3.67m 短軸3.23m 残存壁高0.08m

長軸方位 N-74°-W

埋没土 上層は茶褐色土・白色軽石を含む暗褐色土、下層は茶褐色土粒・白色軽石を少量含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 東壁中央やや南寄りに竈が構築されていた。確認長0.50m、燃焼部幅0.66m。袖は残存していなかった。燃焼面で0.45m住居外に張り出す掘り込みがある。その幅は0.41mである。燃焼部は灰白色粘土が貼付されてつくられていた。焼土化は顕著でない。燃焼部左半部燃焼面直上で土師器裏(第122図8)が出土した。

柱穴 床面で柱穴は検出されなかった。掘り方面で不定型な小ピットを検出したが、その位置から柱穴とすることはできない。

周溝 周溝は検出されなかった。

貯蔵穴 貯蔵穴は検出されなかった。

床面 平坦で、中央部は硬化していた。

掘り方 北西隅や北半部に掘り込みや不定型な小ピットを検出したが、いずれも浅い。掘り方は厚さ10cmほどの粘性のある黒褐色土で充填されていた。中央部やや南西に検出された不整形円形の掘り込みは、茶褐色土粒・炭化物粒・白色軽石を含む黒褐色土で埋まっており、床下土坑と推定された。

遺物出土状況 中央部に少量の土師器・須恵器破片が出土した。周辺部の遺物はやや床面から浮いている。須恵器椀(第122図3)、須恵器杯(第122図6)、土師器裏(第122図9)は北西部床面直上で、須恵器杯(第122図4)は中央部床面上3cmで、須恵器椀(第122図2・5)は北西部床面直上で出土した。須恵器瓶(第122図10)や皿(第122図1)は後出する38号溝に落ち込むような状態で出土した。埋没土中から須恵器杯(第122図7)、土師器埴、杯や裏の破片560点、須恵器杯・椀、裏破片85点、国産焼締陶器破片2点が出土した。また土師器S字裏が出土したが混入であるので、遺構外出土遺物(第192図40)として図示した。

所見 出土遺物から9世紀後半の遺構と考えられる。

Ⅲ区3号住居

(第123図 PL.89-90・213 遺物観察表P.451・454・468)

位置 Ⅲ区55-1-H-18G **形状** 不整形方形

重複 調査時は4号～6号住居より新しいとみだが、出土遺物の検討から5号・6号住居より古く、重複関係から4号・8号住居より新しいとしたい。

規模 長軸3.16m 短軸2.70m 残存壁高0.10m

長軸方位 N-74°-W

埋没土 茶褐色土・炭化物粒・白色軽石を含む暗褐色土で埋まっていた。

竈 東壁中央やや南寄りに竈が構築されていた。確認長0.77m、燃焼部幅0.34m。袖の残存長は向かって右側が0.26m、左側が0.30m。燃焼面で0.30m住居外に張り出す掘り込みがある。その幅は0.37mである。燃焼部周辺や壁外の掘り込み内には、焼土塊や灰白粘土塊が顕著にみられた。潰れた竈の構築土塊と推定される。燃焼面上4cmで土製品土鍾(第123図9)が出土した。

柱穴 床面で柱穴は検出されなかった。掘り方面で不定型な小ピットを検出したが、その位置から柱穴とすることはできない。

周溝 周溝は検出されなかった。

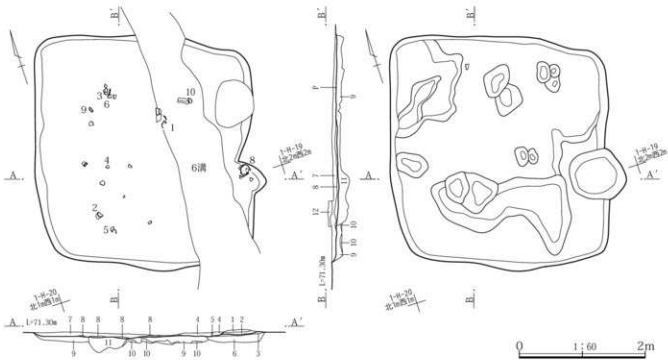
貯蔵穴 貯蔵穴は検出されなかった。

床面 平坦で、竈前から中央部は硬化していた。

掘り方 貼床下面で南西隅や北半部に掘り込みや不定型な小ピットを検出したが、いずれも浅い。掘り方に充填された土は薄かった。

遺物出土状況 竈前から中央部にかけて、床面に近い遺物が散在していた。住居中央やや北寄りの床面直上で鉄製釘(第123図7)が出土した。また、土師器裏(4)は竈燃焼部焚口で出土した。土師器裏(6)は北東部、須恵器杯(1)は竈左脇床面直上で出土した。埋没土中から、土製品土鍾(8)、灰軸陶器椀(5)、土師器杯(2・3)、土師器杯・裏破片514点、須恵器杯・椀、裏破片138点が出土した。

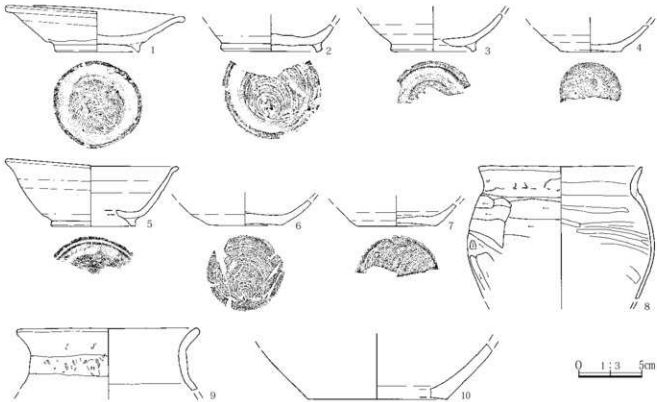
所見 出土遺物から9世紀中葉の遺構と考えられる。



Ⅲ区2号住居A-A'・B-B'

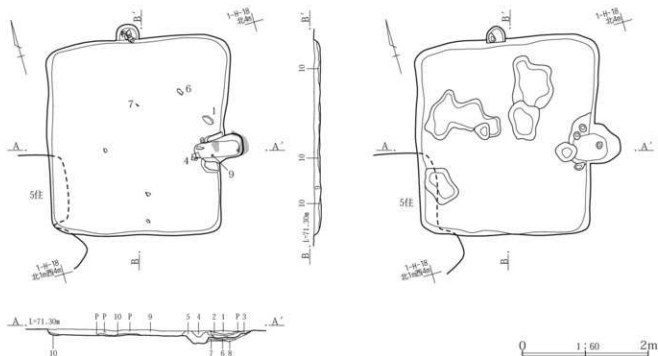
1. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。直径5mm以下の赤褐色土粒微量含む。
2. 暗褐色土と灰色土の混土 粘性ややあり。しまりややあり。暗褐色土中にカマ下の灰が塊で入り込んでいる状態。直径5mm以下の赤褐色土粒少量・直径5mm以下の炭化物微量含む。
3. 暗褐色土 粘性あり。しまりややあり。
4. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。
5. 暗灰色塊 粘性あり。しまりあり。
6. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。
7. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。直径5mm以下の茶褐色土粒少量・直径2mm以下の灰白色軽石粒少量含む。

8. 黒褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。直径3mm以下の茶褐色土粒極微量・直径2mm以下の灰白色軽石粒極微量含む。
9. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径2mm以下の灰白色軽石粒極微量含む。
10. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。
11. 黒褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。直径5mm以下の茶褐色土粒微量・直径2mm以下の炭化物極微量・直径2mm以下の灰白色軽石粒極微量含む。床下土塊の覆上。
12. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。全体に灰色味を帯る。直径2mm以下の灰白色軽石粒少量含む。



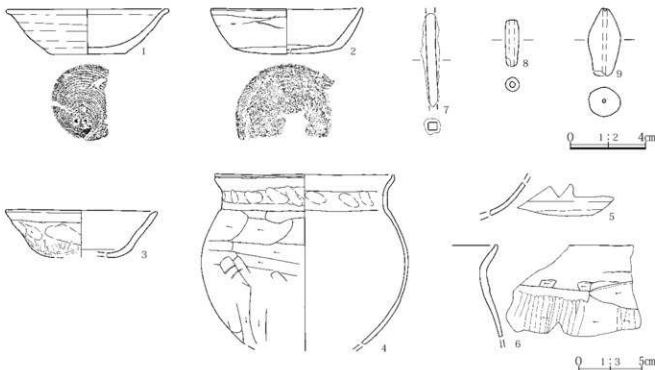
第122図 Ⅲ区2号住居と出土遺物

第5章 古代洪水層関連の遺構と遺物



Ⅲ区3号住居A-A'・B-B'

1. 暗褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性ややあり。しまりややあり。直径5mm以下の赤褐色土粒を少量含む。
2. 暗褐色土と暗灰褐色土の混土 1層に類する。直径3mm以下の赤褐色土粒を極少量含む。
3. 暗褐色土と暗灰褐色土の混土 1・2層に類する。長直径90mm以下の赤褐色土塊を含む。
4. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。
5. 暗灰色塊 直径15mm以下の暗褐色土塊がしみ状に散見される。下部では直径5mm以下の赤褐色粒もみられる。
6. 灰白色土 粘性ややあり。しまりややあり。直径80mm以下の赤褐色土塊を含む。
7. 灰色土 粘性弱し。しまり弱し。
8. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。
9. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。直径4mm以下の茶褐色土粒を少量・直径3mm以下の炭化物塊少量・直径2mm以下の灰白色軽石粒を少量含む。
10. 暗褐色土 1層に類するがしまりあり。



第123図 Ⅲ区3号住居と出土遺物

Ⅲ区4号住居(第124図 PL.90・91 遺物観察表P.454)

位置 Ⅲ区55-1-H-19・20G

形状 隅丸長方形

重複 3号住居より古い。また、調査時には5号・6号住居より新しいとしたが、出土遺物の検討から5号・6号住居より古いと考えたい。8号住居との新旧関係は不明である。

規模 長軸3.54m 短軸3.31m 残存壁高0.05m

長軸方位 N-71°-W

埋没土 粘性のある暗褐色土で埋まっていた。

竈 東壁中央やや南寄りに竈が構築されていた。確認長0.50m、燃焼部幅0.66m。袖は残存していなかった。使用面で0.45m住居外に張り出す掘り込みがある。その幅は0.41mである。竈からは出土遺物はなかった。

柱穴 床面で柱穴は検出されなかった。掘り方面で不定型な小ピットを検出したが、その位置から柱穴とすることはできない。

周溝 周溝は検出されなかった。

貯蔵穴 貯蔵穴は検出されなかった。

床面 平坦である。

掘り方 北西隅や北半部に掘り込みや不定型な小ピットを検出したが、いずれも浅い。掘り方は厚さ10cmほどの粘性のある黒褐色土で充填されていた。中央部やや南西に検出された不整形円形の掘り込みは、茶褐色土粒・炭化物粒・白色軽石を含む黒褐色土で埋まっており、床下土坑と推定された。

遺物出土状況 床面に近い遺物は出土しなかった。埋没土中から、土師器台付甕(第124図1)、土師器坏・甕破片111点、須恵器坏・蓋破片19点が出土した。

所見 出土遺物が少なく時期の確定は困難であるが、3号住居・5号住居との重複関係も加味すると、9世紀中葉の遺構と考えられる。

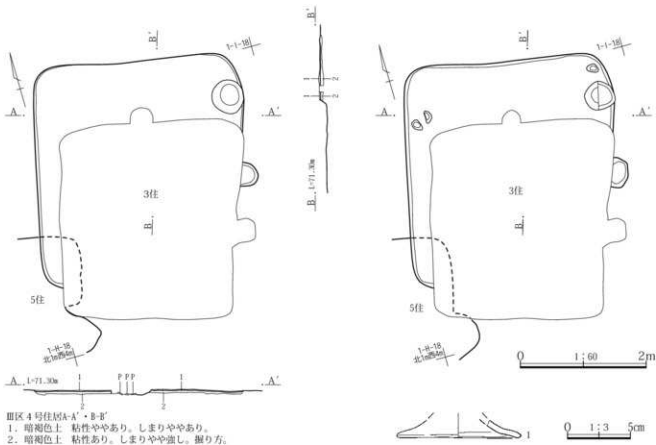
Ⅲ区5号住居

(第125図 PL.91・92・213 遺物観察表P.454)

位置 Ⅲ区55-1-H-19・20G 形状 隅丸長方形

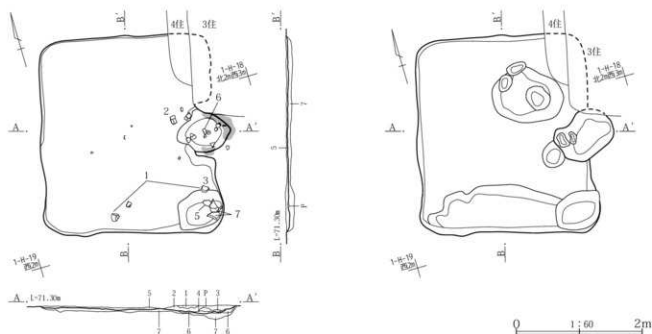
重複 6号・8号住居より新しい。調査時は3号・4号住居より古いとみていたが、出土遺物の検討から3号・4号住居より新しいと考えたい。

規模 長軸3.13m 短軸2.32m 残存壁高0.02m



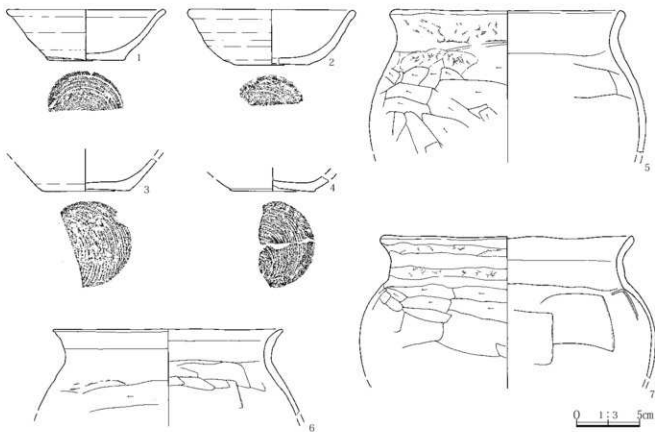
第124図 Ⅲ区4号住居と出土遺物

第5章 古代洪水層関連の遺構と遺物



Ⅲ区5号住居A-A'・B-B'

1. 暗褐色土と淡黄褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。直径5mm以下の赤褐色土粒を極微量含む。
2. 淡黄褐色粘質土 直径5mm以下の赤褐色粒を極微量含む。黒褐色土塊を散見される。
3. 赤褐色土 粘性あり。しまりあり。燃焼土層。
4. 暗灰色土 粘性あり。しまりあり。直径5mm以下の炭化物微量含む。
5. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。
6. 赤褐色土と淡黄褐色土の混土 カマド壁に焼土が入り込んでいたものと思われる。
7. 暗褐色土 1層に類するがしまりが強い。掘り方。



第125図 Ⅲ区5号住居と出土遺物

(5号住居)

長軸方位 N-74°-W

埋没土 粘性のある暗褐色土で埋まっていた。

竈 東壁ほぼ中央に竈が構築されていた。確認長0.95m、燃焼部幅0.63m。袖は0.70mほど内側に張り出す焼土化した粘土が残存していた。燃焼面で0.50mほど住居外に張り出す掘り込みがある。竈からは土師器甕破片(第125図6)が燃焼面直上で出土した。

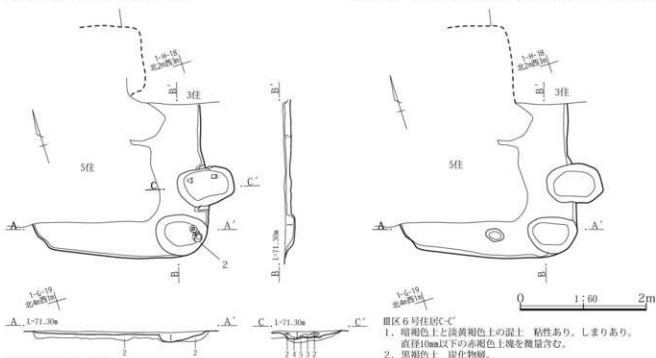
柱穴 床面で柱穴は検出されなかった。掘り方面で不定型な小ピットを検出したが、その位置は北東部に偏っており、柱穴とすることはできない。

周溝 周溝は検出されなかった。

貯蔵穴 南東隅に貯蔵穴が検出された。長軸0.74m、短軸0.57mの不整隅丸方形で、床面からの深さは0.17mである。東壁に沿った位置で土師器甕上半部(第125図5・7)の大型破片が出土した。また北縁に落ち込むような状態で須恵器環(3)が出土した。

床面 平坦である。

掘り方 北東隅で楕円形の凹みや小ピットを検出したが、いずれも浅い。南壁に沿って幅0.75m、長さ2.05m、深さ0.05~0.08mの帯状の掘り込みがあった。掘り方は

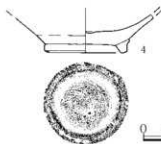
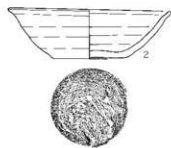
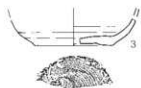
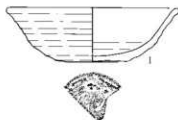


Ⅲ区6号住居A-A'・B-B'

1. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。
2. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。掘り方。

Ⅲ区6号住居C-C'

1. 暗褐色土と淡黄褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。直径10mm以下の赤褐色土塊を微量含む。
2. 黒褐色土 炭化物層。
3. 暗灰色土 燃焼灰層。
4. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。直径5mm以下の赤褐色土粒を微量含む。
5. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。カマド掘り方。



0 1:2 4cm

0 1:3 5cm

第126図 Ⅲ区6号住居と出土遺物

厚さ10cmほどのしまり強い暗褐色土で充填されていた。

遺物出土状況 遺物は土器を中心に竈と貯蔵穴の周辺に多く出土した。中央部や南壁近くにも出土した。須恵器環(2)が竈前床面直上で、須恵器環(1)が南壁際床面直上で出土した。埋没土中から、須恵器環(4)や、土師器環・裏破片296点、須恵器環・椀破片35点が出土した。

所見 出土遺物から9世紀後半の遺構と考えられる。

Ⅲ区6号住居

(第126図 PL.92・93・213 遺物観察表P.454・468)

位置 Ⅲ区55-1-H-19・20G

形状 隅丸長方形と推定される。

重複 5号住居より古い。調査時には3号住居より古いとみていたが、出土遺物の検討から3号住居より新しいと考えたい。

規模 長軸2.44m以上 短軸2.78m 残存壁高0.04m
南北方向は5号住居に切られているが、他の住居の形からして南北軸を長軸とする長方形と推定した。

長軸方位 N-75°-W

埋没土 粘性のある暗褐色土と淡黄褐色土の混土で埋まっていた。

竈 ほぼ中央よりやや南側に竈が構築されていた。確認長0.80m、燃焼部幅0.57m。袖は0.25mほど内側に張り出す焼土化した粘土が残存していた。燃焼面で0.45mほど住居外に張り出す掘り込みがあった。竈燃焼部からは土師器裏破片が出土した。

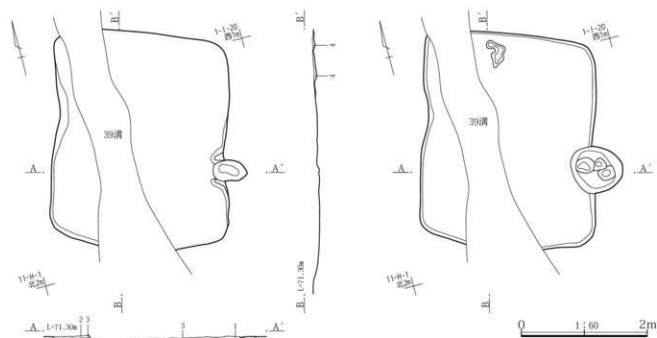
柱穴 床面・掘り方面ともに柱穴は検出されなかった。掘り方面で不定型な小ピットを検出したが、その位置は南部に偏っており、柱穴とすることはできない。

周溝 周溝は検出されなかった。

貯蔵穴 南東隅に貯蔵穴が検出された。長軸0.82m、短軸0.66mの楕円形で、床面からの深さは0.13mである。東壁に沿った位置で須恵器環(第126図2)と須恵器高台付椀底部破片が出土した。

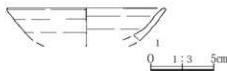
床面 平坦である。

掘り方 南壁付近で小ピットを検出したが、浅い。掘り方は厚さ10cmほどのしまり強い粘性のある暗褐色土で充填されていた。



Ⅲ区7号住居A-A'

1. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。直径15cm以下の赤褐色土塊微量・直径5mm以下の炭化物微量含む。
2. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。直径1mm以下の灰白色軽石粒を微量含む。
3. 暗褐色土 2層に類するがしまります。
4. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。掘り方。
5. 暗褐色土と暗灰褐色土の混土 直径5mm以下の赤褐色土粒を極微量含む。
6. 暗褐色土 粘性あり。しまりややあり。カマド掘り方。



第127図 Ⅲ区7号住居と出土遺物

遺物出土状況 竈と貯蔵穴で出土した。埋没土中から、土製品土錘(第126図5)、須恵器環(1・3)、皿か(4)、土師器環・甕破片62点、須恵器環・椀破片8点が出土した。

所見 出土遺物から9世紀半ばから後半の遺構と考えられる。

Ⅲ区7号住居(第127図 PL.94 遺物観察表P.454)

位置 Ⅲ区55-1-H-20G

形状 隅丸長方形

重複 39溝に先行する。

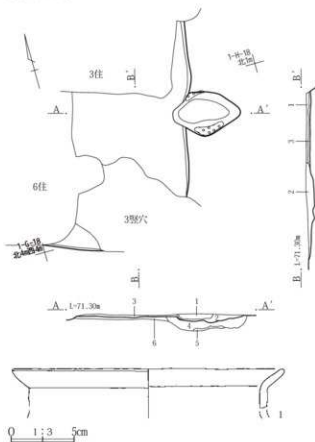
規模 長軸3.43m 短軸2.69m 残存壁高0.03m

長軸方位 N-75°-W

埋没土 赤褐色土塊や炭化物粒、灰白色軽石粒を含む粘性のある暗褐色土で埋まっていた。

竈 東壁中央よりやや南側で竈が構築されていた。確認長0.53m、燃烧部幅0.34m、袖は0.34mほど内側に張り出す粘土が残存していたが、顕著な焼土は見られなかった。燃烧面で0.36mほど住居外に張り出す掘り込みがある。竈から遺物は出土しなかった。

柱穴 床面および掘り方面でも柱穴は検出することができなかった。



第128図 Ⅲ区8号住居と出土遺物

周溝 周溝は検出されなかった。

貯蔵穴 貯蔵穴は検出されなかった。

床面 平坦である。

掘り方 掘り方面にも顕著な掘り込みは認められなかった。掘り方は厚さ10cmほどのしまり強い暗褐色土で充填されていた。

遺物出土状況 床面近くの遺物はほとんど出土しなかった。埋没土中から、須恵器環(第127図1)、土師器環・甕破片121点、須恵器環・羽釜破片24点が出土した。

所見 出土遺物から9世紀後半の遺構と考えられる。

Ⅲ区8号住居(第128図 PL.94・95 遺物観察表P.454)

位置 Ⅲ区55-1-H-20G

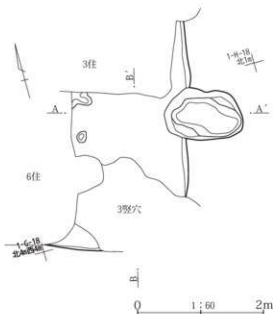
形状 北壁・西壁を切られているが、隅丸長方形と推定される。

重複 3号住居・6号住居・3号竈穴遺構に先行する。

規模 長軸2.78m以上 短軸1.86m以上 残存壁高0.03m

長軸方位 N-74°-W

埋没土 しまりと粘性のある暗褐色土で埋まっていた。



Ⅲ区8号住居A-A'・B-B'

1. 暗褐色土と淡黄褐色土の混土 粘性弱し。しまりあり。直径40mm以下の赤褐色土塊少量・直径15mm以下の炭化物微量含む。
2. 暗褐色土 粘性弱し。しまりあり。直径30mm以下の淡黄褐色土塊少量・直径2mm以下の赤褐色土粒微量含む。
3. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりあり。
4. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。
5. 茶褐色土 粘性あり。しまりあり。
6. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。掘り方。

竈 東壁に竈が構築されていた。確認長1.09m、燃烧部幅0.71m。袖は残存していなかった。竈を構築していた粘土や焼土は壊されて、塊状の焼土や粘土が土砂に混在して、竈を埋めていた。燃烧部両脇の一部に粘土が残っていた。顕著な焼土面は見られなかった。燃烧面で0.84mほど住居外に張り出す掘り込みがある。竈から遺物は出土しなかった。

柱穴 床面および掘り方面でも柱穴は検出することができなかった。

周溝 周溝は検出されなかった。

貯蔵穴 貯蔵穴は検出されなかった。

床面 平坦である。

掘り方 掘り方面にも顕著な掘り込みは認められなかった。掘り方は厚さ10cmほどのしまり強い暗褐色土で充填されていた。

遺物出土状況 床面近くの遺物はほとんど出土しなかった。埋没土中から、土師器壺(第128図1)、土師器杯・甕破片137点、須恵器杯・甕破片13点が出土した。

所見 出土遺物から9世紀中葉の遺構と考えられる。

(2) 竪穴遺構

Ⅲ区1号竪穴遺構(第129図 PL.95 遺物観察表P.454)

位置 Ⅲ区55-1-G-17G

形状 南東部を欠する不整隅丸台形 **重複** なし

規模 長軸4.07m 短軸2.72m 残存壁高0.05m

長軸方位 N-72°-W

埋没土 灰白色軽石を微量含む粘性としまりのある黒褐色土で埋まっていた。

竈 竈は敷設されていなかった。

柱穴 柱穴は検出されなかった。

周溝 周溝は検出されなかった。

貯蔵穴 貯蔵穴は検出されなかった。

床面 底面は凹凸が著しく、中央部はやや平坦で硬化していた。

掘り方 掘り方はなかった。

遺物出土状況 埋没土中から須恵器壺(1)、土師器壺が甕破片(2)が出土した。

所見 出土遺物から9世紀後半頃の遺構と考えられる。Ⅲ区1号竪穴遺構は住居と考えて調査したが、床面等は明確に検出できなかった。下位で住居掘り方状の掘り

込みを確認できたので、床面より上位を消滅した竪穴住居痕跡である可能性が高い。

Ⅲ区2号竪穴遺構(第129図 PL.95)

位置 Ⅲ区55-1-H・I-17G

形状 隅丸方形 **重複** なし

規模 長軸1.93m 短軸1.85m 残存壁高0.05m

長軸方位 N-69°-W

埋没土 粘性としまりのある黒褐色土で埋まっていた。

竈 竈は敷設されていなかった。西部の埋没土に一部焼土塊が見られたが、竈等の施設ではなかった。

柱穴 柱穴は検出されなかった。

周溝 周溝は検出されなかった。

貯蔵穴 貯蔵穴は検出されなかった。

床面 底面は平坦であった。

掘り方 掘り方はなかった。

遺物出土状況 底面近くの遺物は出土しなかった。埋没土中から土師器杯・甕破片144点、須恵器杯・椀・甕破片27点が出土した。

所見 出土遺物から古代の遺構と考えられる。

Ⅲ区3号竪穴遺構(第129図 PL.95)

位置 Ⅲ区55-1-G-18G

形状 不整楕円形 **重複** なし

規模 長軸3.61m 短軸1.24m 残存壁高0.10m

長軸方位 計測不能

埋没土 上層は少量の赤褐色土粒と炭化物粒を含む暗褐色土、下層は粘性としまりのある暗褐色土で埋まっていた。特に南端部には焼土塊や灰白色粘土塊が散乱していた。

柱穴 柱穴は検出されなかった。

周溝 周溝は検出されなかった。

貯蔵穴 貯蔵穴は検出されなかった。

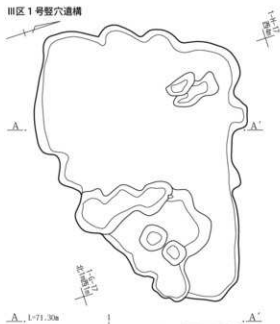
床面 底面は凹凸が著しかった。

掘り方 掘り方はなかった。

遺物出土状況 底面近くの遺物は出土しなかった。埋没土中から土師器杯・甕破片56点、須恵器蓋・杯・椀・羽釜破片4点が出土した。

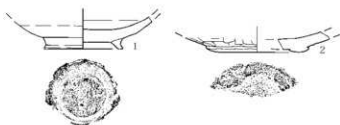
所見 出土遺物から9世紀中葉の遺構と考えられる。竈の残骸とみられる焼土があり、Ⅲ区3号竪穴遺構は竪穴住居の痕跡と推定される。

Ⅲ区1号竪穴遺構



Ⅲ区1号竪穴遺構A-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の灰白色軽石粒を微量含む。

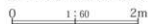


Ⅲ区3号竪穴遺構

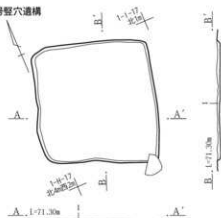


Ⅲ区3号竪穴遺構A-A'

1. 暗褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性ややあり。しまりややあり。直径15mm以下の赤褐色土粒少量・直径5mm以下の炭化物微量含む。
2. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。



Ⅲ区2号竪穴遺構



Ⅲ区2号竪穴遺構A-A'・B-B'

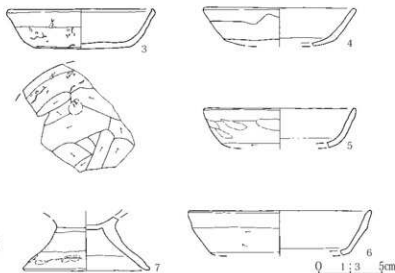
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。

Ⅲ区4号竪穴遺構



Ⅲ区4号竪穴遺構A-A'

1. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。直径8mm以下の茶褐色土粒少量・直径5mm以下の炭化物少量含む。
2. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。



第129図 Ⅲ区1号～4号竪穴遺構と出土遺物

Ⅲ区4号整穴遺構

(第129図 PL.95・213 遺物観察表P.454)

位置 Ⅲ区55-1-G・H-15・16G

形状 楕円形 断面形 すり鉢形

重複 なし

規模 長軸3.71m 短軸3.32m 残存壁高1.31m

長軸方位 N-40°-W 断面形 すり鉢形

埋没土 上層は少量の赤褐色土粒と炭化物粒を含む暗褐色土、下層は粘性としまりのある暗褐色土で埋まっていた。焼土粒は全体に広がり、特に西南部の土坑部分には顕著に落ち込んでいた。

柱穴 柱穴は検出されなかった。

周溝 周溝は検出されなかった。

貯蔵穴 貯蔵穴は検出されなかった。

床面 底面は凹凸が著しかった。

掘り方 掘り方はなかった。

遺物出土状況 中央部底面直上で、土師器台付甕の台部破片(第129図7)が出土した。埋没土中から土師器環(3~6)、土師器環・甕破片69点、須恵器蓋・甕破片4点が出土した。

所見 出土遺物から9世紀の遺構と考えられる。

(3) 井戸

Ⅲ区1号井戸

(第130・131図 PL.96・213 遺物観察表P.452・454・455)

位置 Ⅲ区55-1-G-18・19G

形状 不整楕円形 重複 3号井戸より新しい。

規模 長軸3.07m 短軸1.30m 残存壁高0.06m

長軸方位 N-46°-E

断面形 上端がやや開いたすり鉢形をしている。中央の最深部の東西にテラス状の部分があり、浅いピット状に凹んでいた。

埋没土 埋没土上位に厚さ12cmの浅間Bテフラ層が堆積しており、その上位は暗灰褐色粘質土、暗褐色土で埋まっていた。浅間Bテフラ層の下位は、上層には炭化物を含む暗褐色土と茶褐色土の混土が、下層には粘性のある暗褐色土が堆積していた。

底面 底面は平坦である。

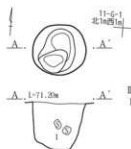
遺物出土状況 第131図に示した通り、古墳時代から古代にかけての土器が埋没土中から出土した。他に埋没土中から土師器環・甕破片25点、須恵器皿・椀・蓋・瓶・甕破片33点と、モモ核1点(写真4-3)が出土した。

所見 出土遺物から9世紀代の遺構と考えられる。西側に検出された整穴住居群からなる集落の井戸と考えられる。発掘区内では古墳時代後期の遺構は未検出であったが、周辺には当該期の遺構が存在するものと推定される。

Ⅲ区1号井戸・3号井戸



Ⅲ区2号井戸



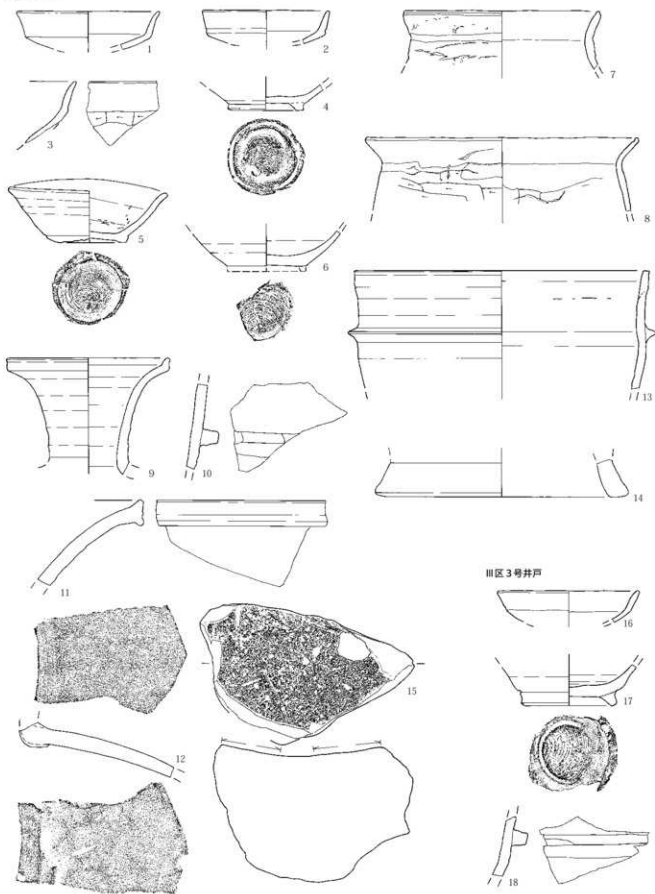
Ⅲ区2号井戸A-A'
1. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。全体にザラツキがある。

Ⅲ区1号井戸A-A'

1. 暗灰褐色土粘質土 洪水堆積層。
2. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。
3. As-3一次堆積層
4. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。As-8下木田耕土か?
5. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。全体に灰色味を帯る。
6. 暗褐色土と茶褐色土上の混土 長径18cm以下の灰色塊・直径10mm以下の炭化物含む。
7. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。
8. 暗褐色土 7層に類するが、粘性・しまりあり。全体に水分を含む。

第130図 Ⅲ区1号~3号井戸

Ⅲ区1号井戸



第131図 Ⅲ区1号・3号井戸出土遺物

Ⅲ区3号井戸

(第130・131図 PL.96・213 遺物観察表P.455)

位置 Ⅲ区55-1-G-18・19G 形状 円形

重複 1号井戸底面で古い湧水孔と推定される掘り込みがあり、これを3号井戸とした。

規模 長軸0.74m 短軸0.62m 残存壁高1.01m

長軸方位 N-44°-E 断面形 浅い筒形

埋没土 粘性のある暗褐色土で埋まっていた。

底面 底面は平坦である。

遺物出土状況 第131図に示した通り、古墳時代から古代にかけての土器が埋没土中から出土した。他に土師器環・甕破片20点、須恵器環破片3点、羽釜破片1点が出土した。

所見 Ⅲ区1号井戸内の古い湧水孔の一つである。1号井戸と同様に西側の集落内の井戸として機能していたと推定される。

Ⅲ区2号井戸(第130図 PL.96)

位置 Ⅲ区55-11-G-1G

形状 円形 重複 なし

規模 長軸0.84m 短軸0.79m 残存壁高0.76m

長軸方位 N-86°-E 断面形 浅い筒形

埋没土 粘性のある暗褐色土で埋まっていた。

底面 底面は平坦である。

遺物出土状況 埋没土中から土師器環・甕破片9点、須恵器環破片2点が出土した。

所見 出土遺物から9世紀代の遺構と考えられる。東側に検出された竪穴住居群からなる集落内の井戸と考えられるが、東側にある1号井戸とは形態が異なり、別の機能をもった井戸と推定されるが、調査では明らかにできなかった。

(4) 土坑(第132・133図 PL.96・97・213・214 遺物観察表P.451・455・468)

Ⅲ区北区の古代面で検出された土坑は7基である。15号土坑はⅢ区北東部に1基のみ位置していた。16号～21号土坑は古代④IV B層上面で確認し掘り下げた。これらの土坑は南東部に群生していた。中央区で検出された遺構群の南東端にあると推定される。

中央区では古代④IV B層上面の土坑は2基検出された。同時期と考えられる住居群の周囲に点在していた。

それぞれの土坑の位置や規模は、P.432・433の表にまとめられた。以下各遺構の調査所見を記載する。

15号土坑は、楕円形の土坑で、断面はなだらかなU字形である。下層は灰色土、上層は洪水層で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

16号土坑は、不定型な楕円形の土坑で、底面は浅く凹凸が著しい。遺物は出土しなかった。

17号土坑は、小ピットが集めたような不整形な土坑である。土師器甕破片が1点出土した。

18号土坑は、小型の楕円形の土坑である。上層はシルト、下層は浅間C軽石を含む黒色土と灰色土の混土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

19号～21号土坑は並んで一部重複して検出された。

個々の土坑間の新旧関係は不明である。

19号土坑は不整形楕円形で、上層は灰色シルト、下層はシルト塊・浅間C軽石を含む黒色土で埋まっていた。土師器甕破片1点が出土した。

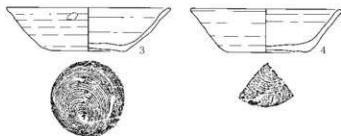
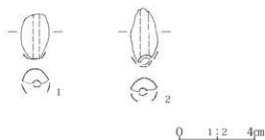
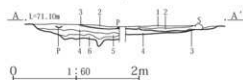
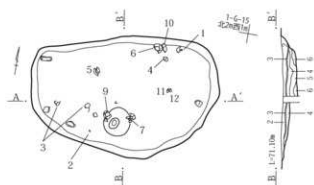
20号、21号土坑はいずれも不整形楕円形で、上層は灰色シルト、下層はシルト塊・浅間C軽石を含む黒色土で埋まっていた。中位には薄い灰層が確認された。20号土坑埋没土中から土師器環破片2点が出土した。また、20号土坑のほぼ中央底面直上で須恵器椀(第133図1)がほぼ完形で出土している。

111号土坑は隅丸長方形の土坑で、暗灰色土塊が混じる暗褐色土で埋まっていた。中央やや南寄りの底面直上で須恵器椀(第133図2)が完形で出土した。また北壁寄りと中央の底面直上で出土した鉄製釘(第133図3)が接合している。埋没土中からは土師器環破片18点、甕破片42点、須恵器環破片7点が出土した。

115号土坑は大型の楕円形の土坑で、上層は灰黄褐色の洪水堆積層、下層は炭化物粒を含む暗褐色土で埋まっていた。遺物が多く出土している。北東部壁際床面直上で土鏝(第132図1)が、南西部壁際で土鏝(2)が出土した。土師器環(5・7・9・10)は、壁際から中央部にかけての底面から10cmほど浮いた状態で出土した。台付甕破片(11・12)は中央やや東で、須恵器環(3・4)は北東壁際と南西部で出土した。埋没土中からも土師器環破片13点、甕破片12点、須恵器環破片4点、瓶破片3点が出土した。

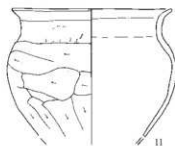
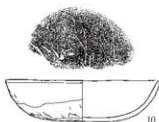
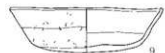
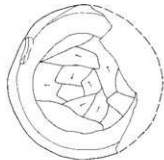
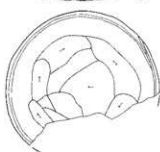
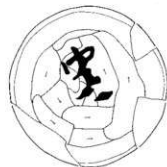
いずれの土坑も埋没土の状態から古代の遺構と考えられる。

4. Ⅲ区の遺構と遺物



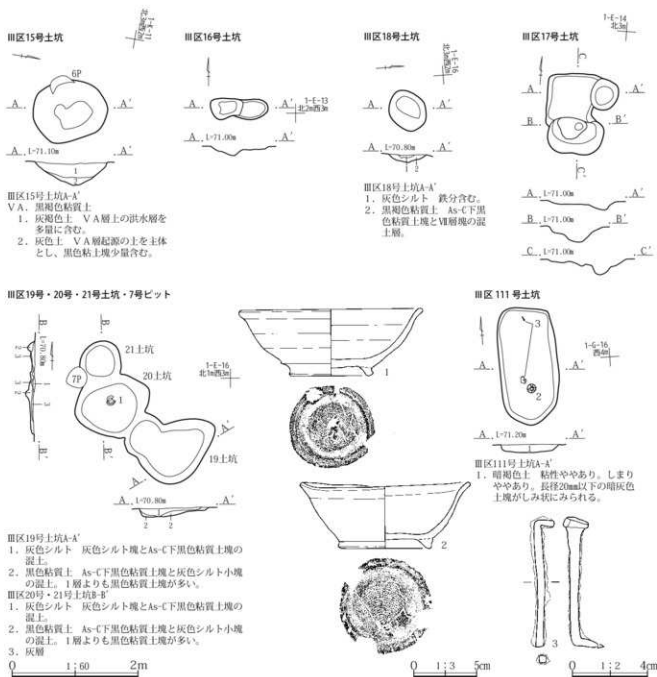
Ⅲ区 115号土坑A-A'・B-B'

1. 淡黄褐色粘質土 粘性やや強し、しまりやや強し、全体に灰色味を帯びる。洪水堆積層。
2. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。径3mm以下の赤褐色粒少量・径5mm以下の炭化物極少量含む。
3. 淡黄褐色粘質土 洪水堆積層。
4. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。径3mm以下の赤褐色粒少量・径5mm以下の炭化物極少量含む。
5. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。
6. 暗褐色土と茶褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。



第132図 Ⅲ区115号土坑と出土遺物

第5章 古代洪水層関連の遺構と遺物



第133図 Ⅲ区古代洪水層関連の土坑と出土遺物

(5) ピット(第134図 PL.97-98 遺物観察表P.455)

Ⅲ区北区古代面で検出したピットは、北区で1基、南区で1基である。中央区では、全体で41基のピットを検出したが、出土遺物等を勘案して、14基のピットを古代面相当とした。本項では顕著に古代の遺物を出土したピットおよび関連するピットを報告した。それぞれのピットの位置や規模は、P.436・437の表にまとめた。以下各調査区のピットの調査所見を記載する。

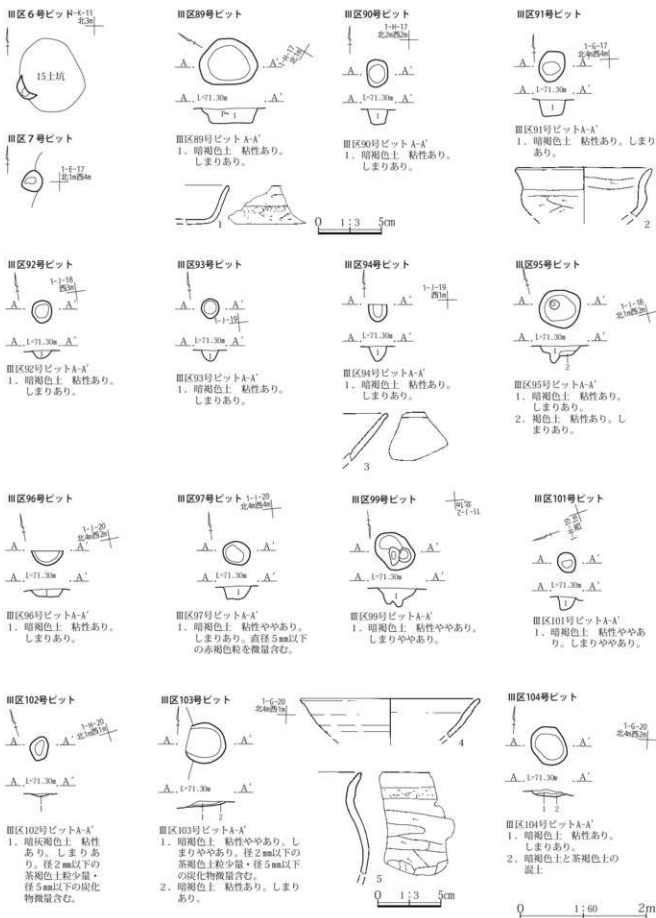
a. 北区のピット

北区では6号ピットが調査区南東端で15号土坑と重複して検出された(第134図)。土坑との新旧関係は不明である。埋没土中から古墳時代前期および古代の土師器破片7点が出土した。

b. 南区のピット

南区では7号ピットが調査区北東部で検出された。20号土坑と重複して検出された(第133図)。土坑との新旧関係は不明である。埋没土中から古代土師器破片7点が出土した。

4. Ⅲ区の遺構と遺物



第134図 Ⅲ区古代洪水層関連のピットと出土遺物

c. 中央区のビット

中央区では89号～97号、99号、101号～104号ビットが、9～10世紀の塹穴住居の周辺に集中して検出された。いずれも粘性のある暗褐色土で埋まっていたとの記載がある。

89号ビット埋没土中からは土師器環(第134図1)が出土したほか、土師器環破片8点、甕破片14点、S字甕破片1点、須恵器破片3点が出土した。ビットの時期は出土土器から古代と推定される。

90号ビット埋没土中から土師器甕1点が出土した。

91号ビット埋没土中からは土師器鉢(第134図2)や、S字甕破片1点が出土したが、土師器環破片3点、須恵器環破片2点が出土していることから古代の遺構と推定される。

92号ビット埋没土中からは土師器環破片9点が出土したことから古代の遺構と推定される。

93号ビット埋没土中からは器壁の厚い土師器甕破片2点が出土した。時期は不明である。

94号ビット埋没土中からは須恵器環(第134図3)が出土したほか、土師器環破片1点、甕破片4点が出土した。ビットの時期は古代と推定される。

95号ビット埋没土中からは土師器甕破片4点が出土した。遺構の時期は古代の可能性はある。

96号、97号ビットからは遺物は出土しなかった。

99号ビット埋没土中からは土師器環破片1点、須恵器環破片1点が出土した。ビットの時期は古代と推定される。

101号ビット埋没土中からは古代のものとの推定される土師器甕破片が出土した。

102号ビット埋没土中からは古代の土師器甕破片が出土した。

103号ビット埋没土中からは土師器甕(第134図5)や須恵器碗(第134図4)が出土したほか、土師器甕3点が出土した。ビットの時期は古代と推定される。

104号ビットから遺物は出土しなかった。

(6) 溝

Ⅲ区古代①ⅣB層上面で8条、古代②Ⅳ層上面で1条の溝が検出された。これらの中には各調査区で異なる年度に調査されたために、同一の溝であっても別の遺構番号が付されたものがある。これについては、報告時に番号の統合と付け替えを行った。その作業の結果について

は、溝の位置や規模とともにP.433の表にまとめた。以下各溝の調査所見を記載する。なお、溝の平面図は個別図を作成せず、1/300の各区全体図でこれに変えた。埋没土層断面図は個々に掲載した。

Ⅲ区25号・26号・27号溝(第135・146図 PL.98)

25号・26号・27号溝は、Ⅲ区北区の東端部で、Ⅳ層を掘削している途中でいち早く検出された。溝内に黄色シルトが堆積していたことで、溝と確認できた。この確認面はⅢ区の東端だけにあり、この3条の溝を確認することができた。南側の25号溝が最も長く、26号、27号溝はその北側に沿うように0.94mの間隔をあけて検出された。25号溝は13号溝と重複するが、25号溝の方が古い。

25号溝の走向はN-71°-W、上幅は0.24～0.58m、深さは0.16m、調査長は12.84mである。底面は平坦で、底面の標高は西端部が0.12m高かった。

26号溝の走向はN-68°-W、上幅は0.30～0.40m、深さは0.09m、調査長は2.56mである。底面は平坦で、底面の標高は南東端部が0.01m高かった。

27号溝の走向はN-70°-W、上幅は0.22～0.28m、深さは0.07m、調査長は2.00mである。底面は平坦で、底面の標高は南東端部が0.02m高かった。

3条ともに溝内は灰色シルトを含む黄色シルトで埋まっていた。遺物は出土しなかった。

Ⅲ区28号溝(第135～138・146図 PL.98～100・214 遺物観察表P.455・456)

28号溝は、Ⅲ区東部で、北区-中央区-南区ともにⅣB層下、Ⅴ層上面で検出された南北方向の溝である。北半は緩やかに東に湾曲するが、南部ではほぼ直線的である。9世紀後半とみられる洪水堆積物で埋まっていた。北区で29号溝と接するが、重複関係ではなく、T字に交わる両溝が同時に存在した可能性が高い。

走向は北区でN-11°-W、中央区でN-13°-E、南区でN-4°-W。上幅は北区で1.98～3.95m、中央区で2.80～3.50m、南区で2.24～3.60m。深さは北区で0.30m、中央区で0.57m、南区で0.49m。調査長は北区で12.44m、中央区で19.41m、南区で18.97mである。断面形は浅いボール状で、底面はやや凹凸があった。底面の標高は北区北端が0.12m高かった。南区中央部が最も

Ⅲ区25号溝

A, 1=71.20m

Ⅲ区25号溝 A-A'

1. 黄色シルト 砂質土(黄色～オレンジ色)を主体とし灰色シルト層を少量含む。

Ⅲ区26号溝

A, 1=71.20m

Ⅲ区26号溝 A-A'

1. 黄色シルト 砂質土(黄色～オレンジ色)を主体とし灰色シルト層を少量含む。

Ⅲ区28号溝

A, 1=71.20m

Ⅲ区28号溝 A-A'

1. 灰色シルト 軽石含まず、酸化鉄を含む。均一。
2. 暗灰色シルト 均一で粘性ややあり。
3. 灰色砂 酸化鉄と暗褐色小塊・Hr-FA軽石微量含む。
4. 灰色砂 ほぼ均一な砂層。
5. 暗灰色砂 粗粒の砂と細粒の砂が塊状に入る。
6. 暗灰色砂 粗粒の砂と細粒の砂が互層でHr-FA軽石が目立つ。
7. 暗灰色砂 酸化鉄と黒色土塊の混上。
8. 暗灰色砂 比較的均一な砂層。Hr-FA軽石を微量含む。
9. 黄灰色シルト 均一な層。
10. 暗灰色砂 粗粒の砂と細粒の砂が塊状に入る。
11. 灰色砂 粗粒と細粒が互層。Hr-FA軽石微量。
12. 黒灰色砂 酸化鉄との混上。

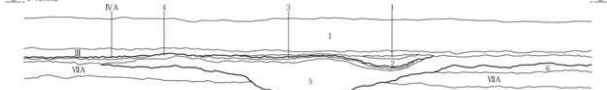
Ⅲ区27号溝

A, 1=71.20m

Ⅲ区27号溝 A-A'

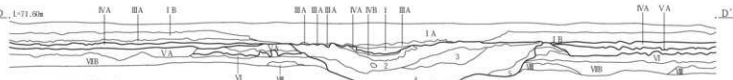
1. 黄色シルト 砂質土(黄色～オレンジ色)を主体とし灰色シルト層を少量含む。

C, 1=72.00m



Ⅲ区28号溝 C-C'

1. 暗灰色砂質土
2. As-B一次堆積層(12号溝埋没上)
3. 黒褐色土
4. 暗褐色土 灰色味を帯る。
5. 灰色粘質土 洪水堆積土。
6. 5層とVIA層の混上
- I. 表土
- Ⅲ. 灰褐色砂質土 As-Bを含む。
- ⅤA. 黒色粘質土
- ⅤA. 黒色粘質土 As-Cを含む。



Ⅲ区28号溝 D-D'

1. As-B一次堆積層(12号溝埋没上)
2. 灰褐色シルト 砂質粒を多く含む。白色ハミスを少量含む。
3. 灰褐色シルト 砂ラミナ状堆積が部分的に認められる。
4. 灰白色シルト 砂ラミナ状堆積が広く認められる。
5. 灰色シルト 黒色土塊を少量含む。
- I. 表土
- Ⅲ. 表土 灰褐色土
- ⅤA. 灰褐色土砂質土 As-Bを含む。
- ⅤA. 黒色粘質土
- ⅤB. 灰褐色シルト
- ⅤA. 黒灰色シルト質土 白色軽石を含む。
- ⅤI. 黒褐色粘質土
- ⅤB. 黒褐色粘質土 As-Cを含む。
- ⅤI. 灰色～灰黄色粘質土

Ⅲ区29号溝

A, 1=71.20m

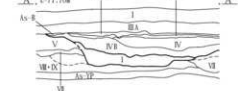
B, 1=71.20m

Ⅲ区31号溝

A, 1=71.20m

Ⅲ区30号溝

A, 1=71.20m

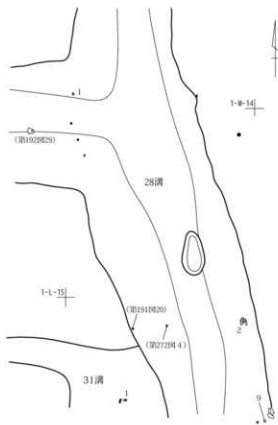


Ⅲ区30号溝 A-A'

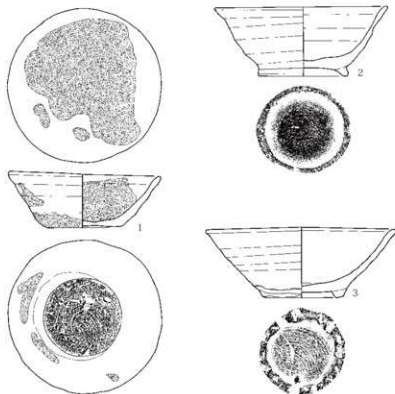
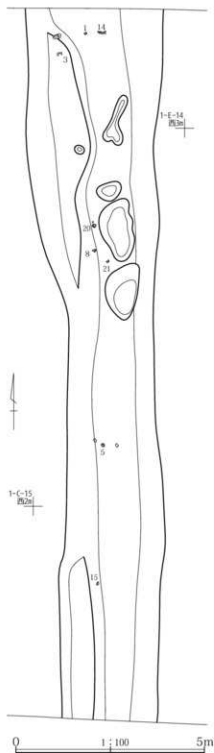
1. 黒灰色シルト (107号土坑埋没土か)
- I. 表土
- ⅢA. 灰褐色砂質土 As-Bを含む。
- As-B. As-B一次堆積層
- ⅣA. 黒色粘質土
- ⅣB. 灰褐色シルト
- Ⅴ. 黒灰色シルト質土
- Ⅴ. 黒色粘質土 As-Cを含む。
- ⅤB・Ⅳ. 灰色～灰黄色粘質土。黄色風化軽石を多く含む。
- As-YF

0 1:60 2m

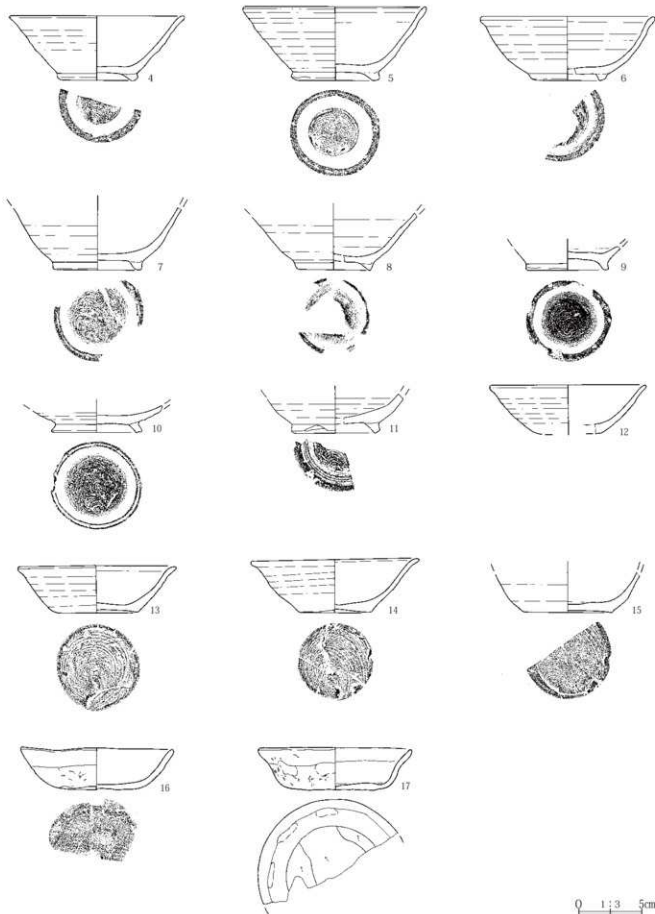
北区の遺物出土状態



南区の遺物出土状態



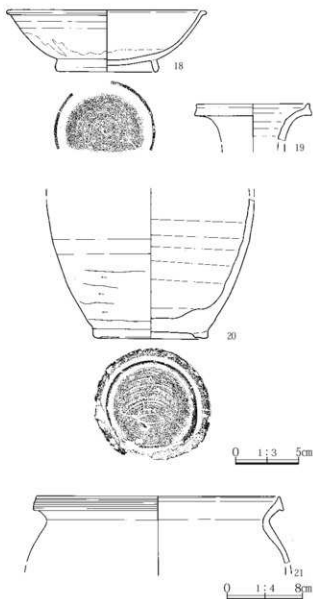
第136図 III区28号溝と出土遺物(1)



第137図 Ⅲ区28号溝出土遺物(2)

高く、南端部は0.02m低くなっていた。溝内は暗灰色砂。灰色粘質土・灰褐色シルト・灰白色シルト等で埋まっていた。

北区では29号溝との接点部分で土師器高环(第192図29)、須恵器环(第136図1)が底面直上で、そのやや南側で土師器小型丸底壺(第191図20)が底面上2.4cmで、須恵器椀(第136図2)が底面上25.7cmで、石罫(第272図4)が底面直上で出土した。高环・小型丸底壺・石罫は混入である。また須恵器椀(第137図9)が東脇確認で出土した。この他に埋没土中から土師器埴破片4点、甕破片7点、S字甕破片9点、須恵器环破片3点、椀破片1点出土した。中央区では土師器埴破片1点、高环破片2点、器台破片2点、环破片3点、S字甕破片27点、須恵



第138図 Ⅲ区28号溝出土遺物(3)

器皿破片1点、椀破片4点出土した。

南区では須恵器环(第137図13~15)、椀(第136・137図3・5・8)、灰釉陶器瓶(第138図20)、須恵器広口甕(第138図21)が底面上3cmほどの位置に散在していた。他に埋没土中から土師器环破片70点、甕破片59点、S字甕破片4点、須恵器环破片86点、椀破片7点、瓶破片3点、甕破片8点、灰釉陶器椀破片3点出土した。

出土遺物には下層にある古墳時代前期の遺構に伴う土器が混入しているが、その多くは古代の土器であった。特に完形に近い形で出土した南区の土器の時期は9世紀後半とみられる。28号溝の西側はやや微高地になっており、本溝の時期と一部重なる9世紀中葉から後半にかけての堅穴住居群が検出されている。28号溝は洪水堆積物で埋まっており、同じ洪水層で埋まった水田面こそ検出されなかったが、南方下位にあると想定される当該期の水田面に給水するために微高地東縁に掘られた用水路と推定される。溝の時期は出土遺物の時期から9世紀後半~末と考えられる。

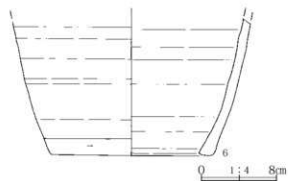
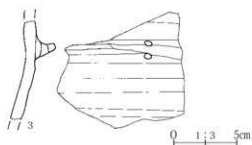
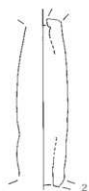
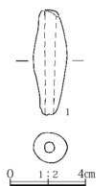
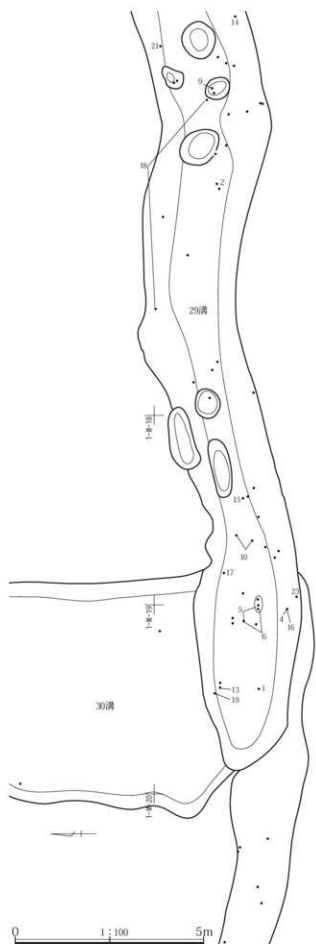
Ⅲ区29号溝(第135・139・140・146図 PL.98~101・214・215 遺物観察表P.456~468)

29号溝は、Ⅲ区北区の東半部で、古代ⅣB層下面、V層上面で検出された東西方向の溝である。やや緩やかに蛇行する。西端は20ライン周辺で掘り込みは見えなくなり、1ラインの西まで帯状の凹地が続く。28号溝とはT字形に交わるが、29号溝の埋没土の方が新しい。土層断面A-A'ではラミナ堆積が顕著な28号溝の堆積物の上層に29号溝を埋めていたシルトがのっていた。両溝が同時期に存在していたが、28号溝のみ洪水堆積物で埋まったと考えることも可能である。

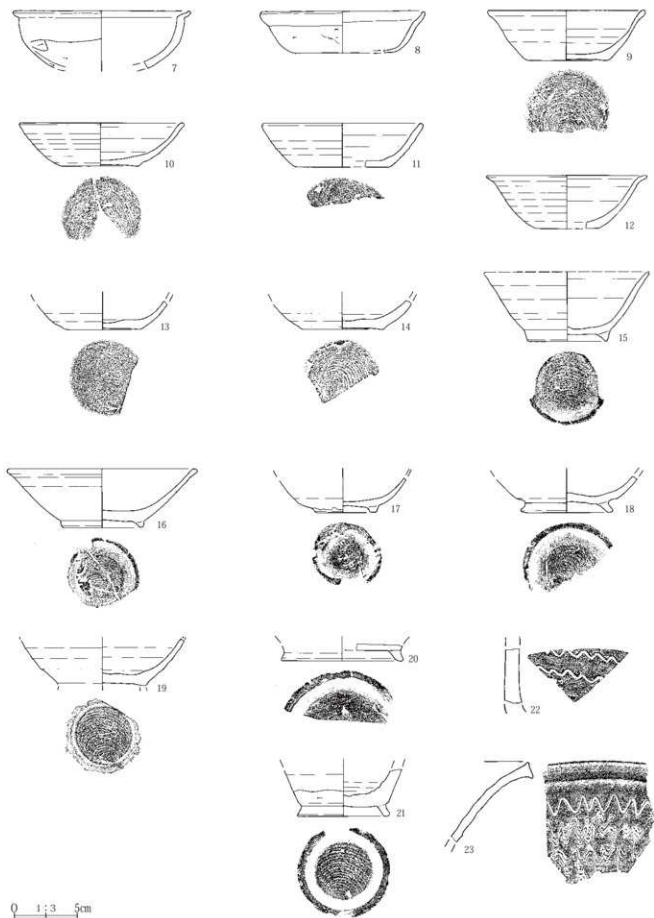
走向はN-83°-E、上幅は2.02~3.04m、深さは0.39m。調査長は24.78mである。断面形は28号溝と同様に浅いボール状で、底面はやや凹凸があった。底面の標高は西端が0.33m高かった。灰褐色シルトで埋まっていた。

中央やや東寄りと西部の2か所に遺物が集中して出土している。東寄りでは、土師器高环(第139図2)が底面上25cmで、須恵器环(第140図9・14)がそれぞれ底面上25cmと14.5cmで、須恵器椀(18)が底面上5cmで、瓶(21)が底面上5.5cmで出土した。西部では須恵器环(10・13)がそれぞれ6cm、14.5cm、椀(第140図15~17・19)がそ

4. Ⅲ区の遺構と遺物



第139図 Ⅲ区29号溝と出土遺物(1)



第140图 III区29号溝出土遺物(2)

れぞれ床面上13.5cm、2.5cm、21.5cm、11cmで出土した。須恵器甕(第140図23)、甗(第139図4)、羽釜状の甗(第139図5・6)もそれぞれ床面上23.5cm、13.5cm、13.5cmで出土した。また埋没土中からも図化できる大型破片遺物が多数出土しているが、土師器環(第140図7・8)、須恵器環(11・12)、甗(20)、甗(第139図3)、甕(第140図22)を図示した。この他に埋没土中から土師器増破片4点、高坏破片6点、坏破片45点、甕破片418点、S字甕破片251点、須恵器坏破片70点、椀破片6点、瓶破片2点、甕破片22点、羽釜破片16点の多くの土器が出土した。

出土遺物には下層にある古墳時代前期の遺構に伴う土器が混入しているが、中心は古代の土器であった。これらの土器の時期は9世紀後半～末である。

29号溝の東端は緩やかな斜面で28号溝につながっている。29号溝の底面は平坦で、28号溝の底面に凹凸があるのとは異なっていた。本溝の用途は不明であるが、集落内の区画溝あるいは排水溝のようなものであったと考えられる。

29号溝の西端はさらに上幅1.03～1.80m、深さ0.11m、長さ8.00mの帯状の凹地が微かにとらえられた。この部分は溝状に掘り込まれた形状ではなかったため、図化しなかったが、29号溝の延長の可能性がある。最西端部に湧水等は検出されなかった。

溝の時期は出土遺物の時期から9世紀後半～末と考えられよう。

Ⅲ区30号溝(第135・146図)

30号溝は、Ⅲ区北区の中央やや東寄り、古代①ⅣB層下面、V層上面で検出された南北方向の凹地状の溝である。調査時には29号溝の延長部と考え記録していたが、形状や遺物の出土状況が異なることから、本書では別遺構として報告した。28号溝や29号溝と同様の9世紀後半代とみられる洪水堆積物で埋まっていた。

走向はN-1°-W、上幅は5.05～6.60m、深さは0.16m。調査長は6.08mである。断面形は浅いボール状で、底面にはやや凹凸があった。灰褐色シルト・灰白色シルト等で埋まっていた。

埋没土中の遺物は29号溝として取り上げたので、内容を記載することはできない。須恵器椀(第145図11)が遺

構確認作業時に出土したが、本溝に伴うかどうかは不明である。

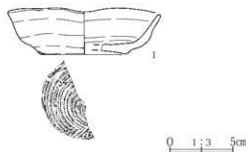
本溝の下層には大型の107号土坑が重複しており、土層断面に表れている1層は土坑の埋没土であろう。30号溝については、107号土坑埋没土の凹地に洪水堆積物が覆ったものとも考えることも可能である。

Ⅲ区31号溝(第141・146図 PL.215 遺物観察表P.456)

31号溝は、Ⅲ区北区の東部、南壁沿いに検出された。28号溝と重複するが、31号溝が古い。

走向は計測不能、上幅は0.57～1.38m、深さは0.11m。調査長は6.84mである。断面形は南側が直立し、北側は緩やかな傾斜になっていた。遺憾ながら埋没土の記載はなく、不明である。

東部底面直上で須恵器環(第141図1)が出土した。溝の時期は不明であるが、9世紀前後の溝と推定される。



第141図 Ⅲ区31号溝の出土遺物

Ⅲ区35号溝(第147図 PL.101)

35号溝は、Ⅲ区北区の北東端で検出された。Ⅱ区西部～Ⅲ区東部にかけてはV層中下にも確認できる洪水層があり、本溝はV層上面で検出された南北方向の溝である。煩雑になるので、古代②Ⅵ層上面全体図に図示した。南端部で近世の13号溝と重複する。

走向はN-27°-W、上幅は0.14～0.58m、深さは0.07m、調査長は13.6mである。断面形は不整形な箱形で、平面形も凹凸が著しい。溝内は砂粒や白色軽石を含む灰白色粘質土で埋まっていた。

遺物は出土しなかった。溝の時期は不明であるが、9世紀前後の溝と推定される。

(7) 耕作痕

Ⅲ区2号耕作痕(第142・146図 PL.102)

浅間Bテフラ下水田耕作土(B層)を掘り下げていたところ、筋状の小溝群を検出した。掘り込み面は不明である。灰白色のシルトで埋まっている。幅0.15~0.35m、深さ0.02~0.06m、長さ0.8~2.93mの不定型な小溝が並行して10条並行していた。溝の方向はN-85°~90°-Eである。25号溝と重複するが、溝の方が新しい。

これらの溝群は鋤による耕作痕跡と考えられる。

Ⅲ区3号耕作痕(第142・147図 PL.103)

洪水層下水田耕土を掘り下げていたところ、筋状の小溝群を検出した。掘り込み面は不明である。灰白色のシルトで埋まっている。幅0.1~0.35m、深さ0.01~0.03m、長さ0.35~5.40mの不定型な小溝が並行して概ね5条並行して検出された。溝の方向はN-0°~5°-Eである。

これらの溝群は鋤による耕作痕跡と考えられる。小規模なビット状になっているのは、底面のみが残って断続しているためであろう。同一面で牛と思われる蹄跡も検出された。遺物は出土しなかった。

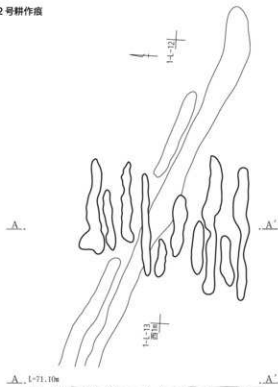
(8) 牛蹄跡(第146図 PL.102)

Ⅲ区北東隅では、溝や水田を検出するためにIV B層を掘り下げていく際に、多数の牛蹄跡を検出した。牛蹄の形をした小穴に、洪水砂が充填されたものである。

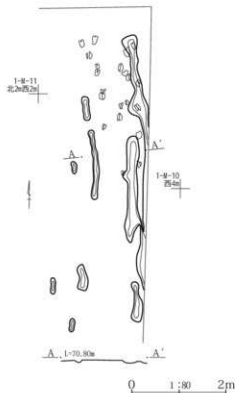
これらの蹄跡の確認面は一律ではなく、厚さ0.1mのIV B層あるいはV層中の全体にわたる。これは、踏みこみの深さの違い、あるいは踏み込み面の違いによると推定される。また、蹄跡を埋めているIV B層が洪水層であることから、それが洪水層直下の蹄跡なのか、洪水層上から踏み込まれた蹄跡なのか、判断が困難である。上新田中道東遺跡では洪水の一次堆積層は残っていないので、それとの比較もできなかった。

上新田中道東遺跡ではこの峻別を実施することはできなかったが、検出された遺構は、洪水前後のある一定期間内に踏み込まれた蹄跡を一括して記録したと考えておきたい。洪水層の時期は28号溝で洪水層の下から出土した須恵器の時期から9世紀後半と推定される。これらの遺構は9世紀後半の本地域に牛による畜耕が行われていた可能性を示す遺構と考えられる。

Ⅲ区2号耕作痕



Ⅲ区3号耕作痕



第142図 Ⅲ区2号・3号耕作痕

(9) 水田

Ⅲ区Ⅵ層上面水田痕跡(第143・147図 PL.102・103)

Ⅲ区古代②Ⅵ層上面の、北区で疑似畦畔1条、35号溝、南区で疑似畦畔を検出した。直接洪水層に覆われた埋没水田ではないが、洪水層が土壌化したⅣBおよびⅤ層の下位で検出されることから、洪水層前後のある時期の水田区画を示していると考えられる。

Ⅲ区東端の発掘区南北両壁の土層断面には、2～3層の洪水層の記載がある。28号溝を埋めていた洪水層と同じ層位の洪水層とその下位にⅤ層を間層として堆積する洪水層がある。これが洪水堆積物の一次堆積層なのか、踏み込まれた蹄痕跡の集合なのか問題であるが、Ⅲ区で検出された疑似畦畔は最下位のⅥ層上面で検出された疑似畦畔と考えておきたい。28号溝を埋めていた洪水層は上位の洪水層であり、9世紀後半～末の遺物が出土している。

北区では南北方向の疑似畦畔1条が検出された。方向は南半はN-0°-E、北半はN-3°-Wでやや西に湾曲する。この畦畔にそって前述した2号耕作痕が同層位で検出されている。西側には洪水層で埋まった35号溝がある。

南区では28号溝を埋めた洪水層より下位の洪水層下水田を本来のアゼとする疑似畦畔を検出した。3号耕作痕はこのアゼの東側で、アゼに沿うように検出された。

Ⅲ区で検出されたアゼの時期は、前述した土層断面から28号溝より古いこととみられることから、9世紀後半以前と推定される。

A, 1:71.20m



Ⅲ区アゼA-A'

1. 暗褐色土 Hr-FAの軽石とⅤ・Ⅵ層の混土。
2. 黒色粘質土 As-C下。

0 1:60 2m

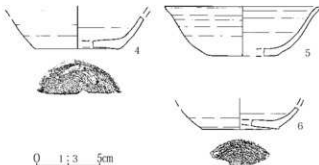
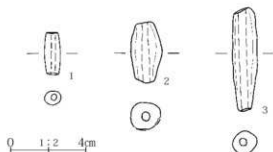
第143図 Ⅲ区Ⅵ層上面水田痕跡土層断面

(10) 遺構外の出土遺物

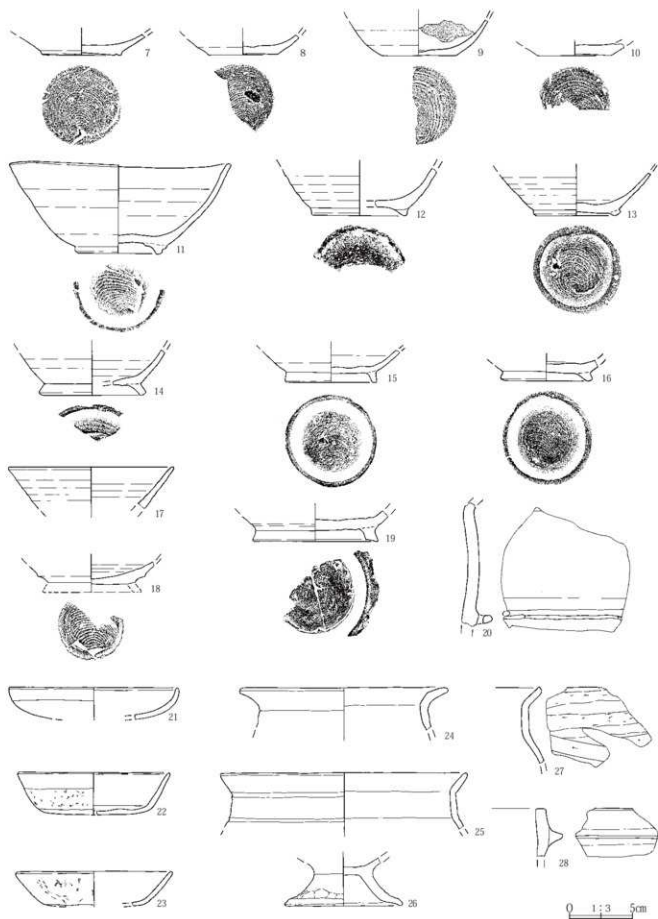
(第144・145図 PL.103・215 遺物観察表P.456・457・468)

Ⅲ区古代面調査の遺構確認中に、遺構に伴わない形で第11表のように多くの遺物を出土した。なかには下位の層位からの混入遺物も含まれていたが、ここでは9世紀の遺物を中心に、遺構外の遺物28点を掲載した。なお、混入遺物については、出土相当層の遺構外遺物の項に掲載した。

第144図1～3は土錘である。1はⅢ区38号溝(近世)の埋没土中から出土した。4～10は須恵器杯・皿で、いずれも回転糸切り離しの時期のものである。9の内面には黒色の付着物がある。漆の可能性はある。4はⅢ区7号土坑(近世)、6・10はⅢ区38号溝(近世)の埋没土中から出土した。他は遺構確認作業時に出土した。第145図11～18は須恵器椀・杯で、12がⅢ区11号溝(近世)の埋没土中から出土した他は、遺構確認作業時に出土した。21～23は土師器杯、24～27は土師器甕、28は羽釜で、24がⅢ区5号溝(近世)、26がⅢ区38号溝(近世)から出土した他は遺構確認作業時に出土した。上記の遺構確認作業時に出土した遺物は疑似畦畔が検出された古代水田の耕土内に含まれていた遺物ということになる。

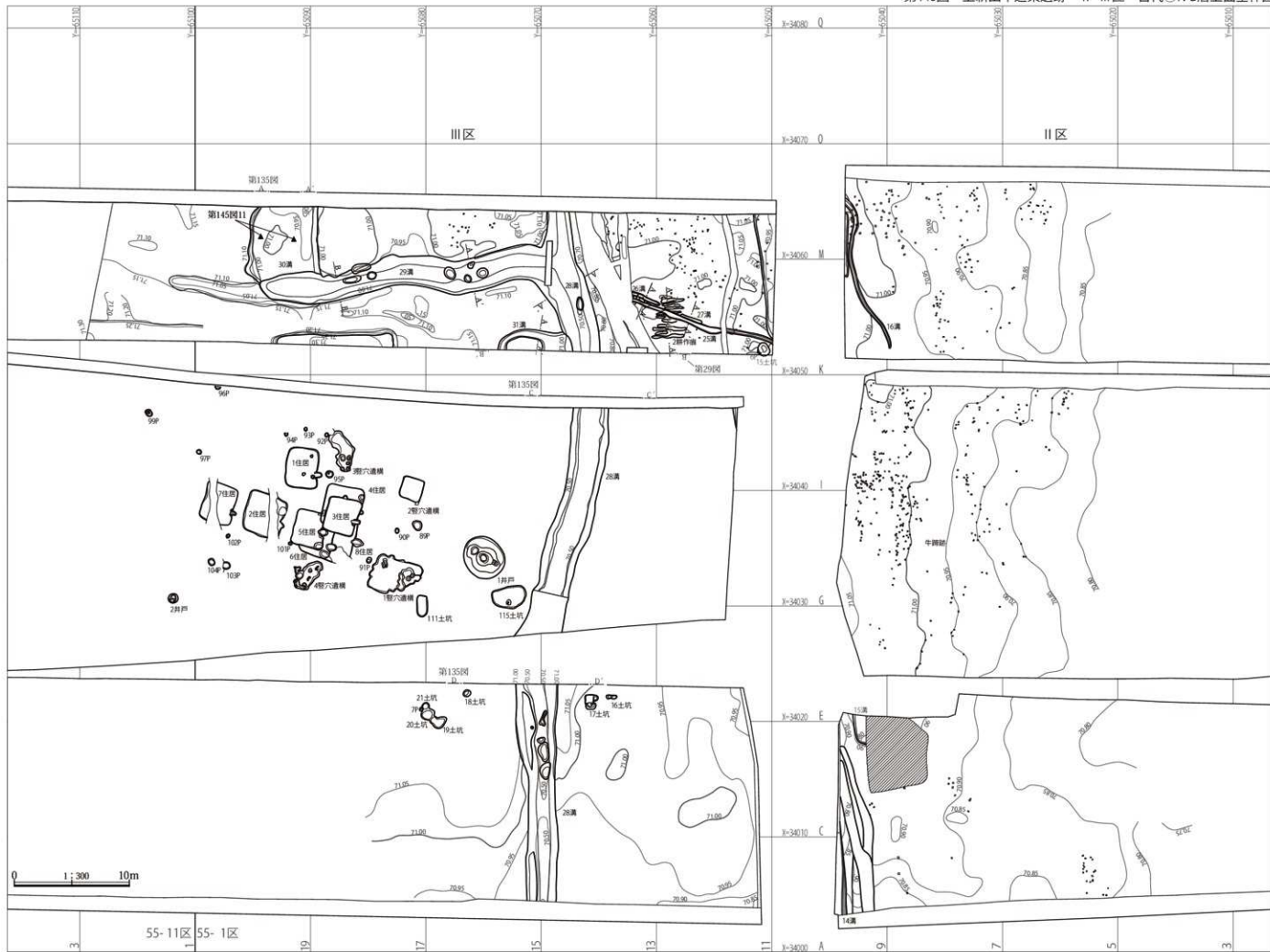


第144図 Ⅲ区遺構外の出土遺物(古代) (1)

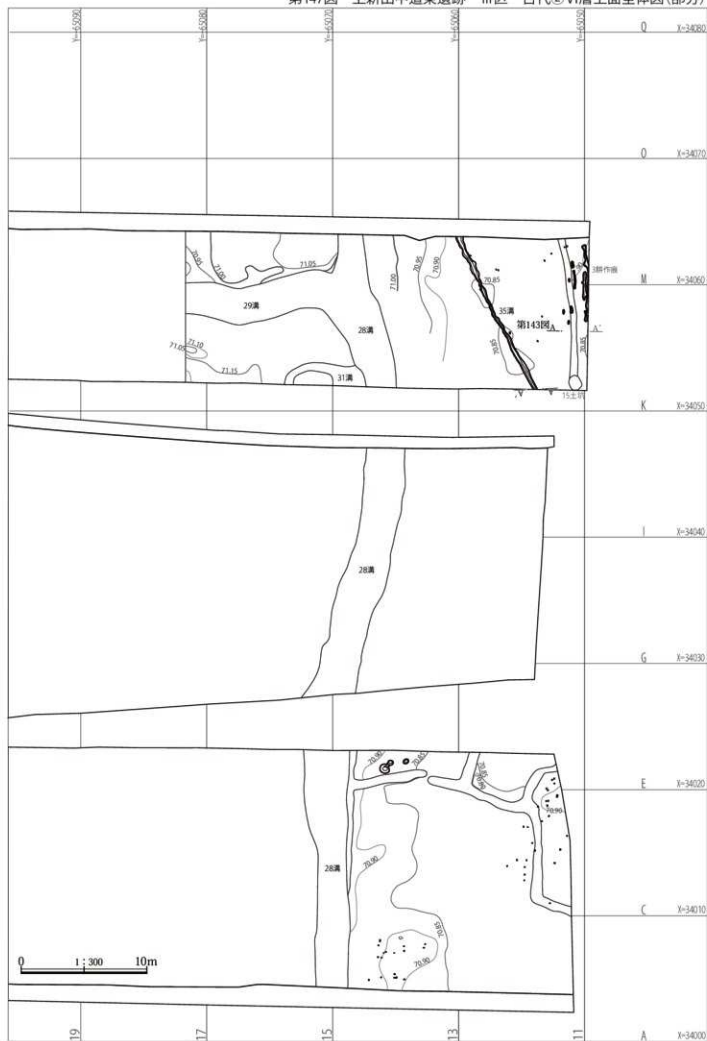


第145図 Ⅲ区遺構外の出土遺物(古代) (2)

第146図 上新田中道東遺跡 II・III区 古代①IVB層上面全体図



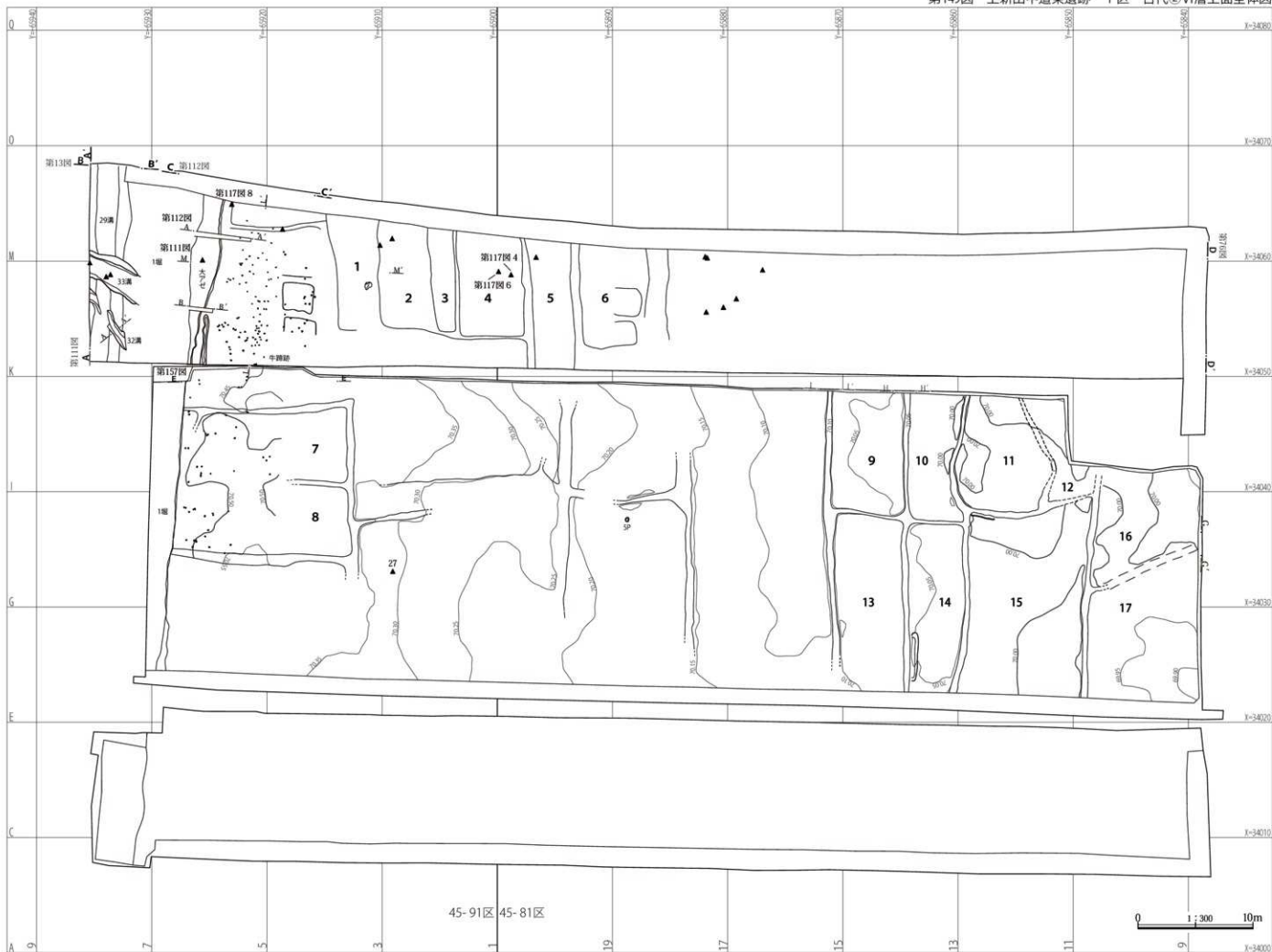
第147図 上新田中道東遺跡 III区 古代②VI層上面全体図(部分)



第148図 上新田中道東遺跡 II区 古代②VI層上面全体図



第149図 上新田中道東遺跡 I区 古代②VI層上面全体図



第150図 上新田中道東遺跡 I区 古代③VI層中位全体図(部分)



第151図 上新田中道東遺跡 I区 古代④VI層下位全体図(部分)



第6章 古代～古墳時代の遺構と遺物

1. 概要

上新田中道東遺跡では、基本土層のⅧ層上面で、古代から古墳時代の遺構を検出した。Ⅷ層の黒色土上面では、遺構の輪郭をつかむことは難しかったことから、Ⅷ層の褐色土上面まで掘り下げて遺構確認をおこなった。

先述のように遺跡周辺には、前橋台地末端の北西から南東に緩傾斜する地形で、沖積土に覆われた細長い微高地が埋没している。Ⅷ層上面で遺構が多く検出されたのは、このような微高地の地点であった。特にⅢ区～Ⅴ区東端やⅥ区の微高地では、周溝をもつ建物や方形周溝墓、掘立柱建物等の集落を想定できる遺構群が密集して検出された。その他の地点でも溝や土坑が調査され、玉村町地域の古墳時代前期の様相解明に新たな資料を加えることになった。

検出された遺構は、古墳時代前期のものが多く、一部に8世紀前後の遺構が含まれていた。出土遺物がない遺構については、埋没土のみで時期を決めることは困難であった。本書では確実に古代の遺物があるものについてのみ、古代の遺構とした。

古墳時代前期の遺構は、Ⅲ区～Ⅵ区を中心に分布していた。周溝をもつ建物はⅢ区で1棟、Ⅵ区で1棟が検出された。竪穴住居はⅤ区で2棟、Ⅵ区で1棟が検出された。これらはいずれも削平され、床面は検出されなかったが、周溝と4本支柱穴の位置およびこれまでの類例を考慮すれば、周溝をもつ建物と推定されるが、竪穴か平地かは判断できなかった。これらはⅢ区・Ⅵ区とも微高

地の最高地点にあり、周囲に掘立柱建物や土坑が取り巻く状況は、集落の中心的存在であったことをうかがわせる。

掘立柱建物はⅢ区で4棟、Ⅵ区で3棟が検出された。Ⅲ区では周溝をもつ建物の北側から西側を取り囲むように建てられていた。3号・5号掘立柱建物は大型の建物ではないが、独立する棟持柱をもっている可能性がある。5号掘立柱建物の南東側に平行する33号溝は古墳時代前期、北側の3号掘立柱建物の北側に平行する34号溝は古代の遺構である。

Ⅵ区では周溝をもつ建物が南東側空地を囲むように微高地縁辺に建てられていた。2号掘立柱建物は出土遺物が無く、時期は不明であるが、埋没土の状況は古墳時代前期でも矛盾はない。南東側に庇をもつ建物であるが、1号住居と同時に建てていたかは不明と言わざるを得ない。

井戸はⅥ区で5基、Ⅸ区で1基が検出された。Ⅵ区の井戸は小型の4基が古墳時代前期、大型の1基が8世紀の井戸である。

土坑は全体で211基が検出されたが、Ⅲ区に92基の土坑が集中している。特に北区の中央部には不定形であるが大型の土坑が集中し、埋没土土層に焼土が出土した。いずれも古墳時代前期の土坑である。

また、方形周溝墓2基がⅣ区の微高地上で検出された。特に1号方形周溝墓の出土遺物は古い様相を見せている。2号方形周溝墓は当初、土坑として調査したが形状の共通性と遺構の位置から、周溝墓と判断した。

溝は全体で85条が検出された。Ⅲ区やⅥ区の小規模な

第9表 上新田中道東遺跡 検出遺構数一覧
(4)古代～古墳時代の遺構

	I区	II区	III区	IV区	V区	VI区	VII区	VIII区	IX区
竪穴住居			1		2	2			
竪穴遺構						1			
掘立柱建物			4			3			
柱穴列			1			1			
井戸						5			1
土坑	15	1	92	33	26	29		1	14
ピット	4		100	38	57	176		3	
方形周溝墓				2					
溝	25	2	2	16	9	16		10	5
島				2	1				
倒木痕		○	○	○					

溝は集落を画する溝である。Ⅵ区の14号・18号・21号・24号・25号・26号溝からは多量の土師器が出土した。

また、北西から南東方向に掘られた溝は、地形の傾斜に合致した用水路と推定されるが、発掘区が狭いために用水系全体にかかわる様相を把握することはできなかった。

古墳時代前期の生産域については発掘区内では、Ⅳ区・Ⅴ区で高の畝間溝の痕跡が検出されたにとどまる。畝間溝内は浅間C軽石を含む黒色土で埋まっており、古墳時代の可能性が高いと推察される。

古代の遺構は、特に集中する地点ではなく、各区に点在している状況であった。出土遺物から確実に古代前半期の遺構と推定されるのは、Ⅲ区26号・32号・55号・97号・66号土坑、Ⅳ区49号土坑、29号ピット、Ⅴ区35号溝、Ⅵ区1号竪穴、6号井戸、21号・39号・41号・43号・48号土坑、Ⅶ区7号溝、Ⅷ区1号井戸、8号・11号溝などである。遺構の様相は明確ではないが、遺構外の出土遺物にも掲げたように、遺物の出土例から周辺に5世紀後半から8世紀にかけての遺構が存在するものと推定される。

また、古代～古墳時代遺構面では、遺構ではないが倒木痕を検出した。Ⅰ区で27基、Ⅱ区で2基以上、Ⅲ区で1基、Ⅳ区で5基、Ⅵ区でも1基を確認した。Ⅰ・Ⅱ区で倒木方向と分布の記録、Ⅲ区で2基の写真記録、Ⅳ区で2基の平面図と断面図、1基の断面図、1基の写真記録、Ⅵ区で1基の平面図・断面図により記録した。ほとんどの倒木痕の埋没土中に浅間C軽石を含んだ黒色土が落ち込んでいるので、古墳時代前期以降の倒木と考えられる。

なお、Ⅷ区については、Ⅵ区で遺構検出した微高地面がなかったことから、古代～古墳時代遺構面の調査からは除外された。

出土遺物は、土器や石器、木製品(杭)、金属製品等が出土した。特筆されるのは、古墳時代前期のⅡ区8号土坑から出土した、棒状に凝固した漆液塊である。資料の材質を明確にするために詳細な資料の観察、科学分析、関連資料の調査を、専門家の助言を得て実施した。その詳細は第9章に記載した。これまで資料の少なかった古墳時代の漆利用について、新たな資料を提示したといえよう。

2. I 区の遺構と遺物

(1) 土坑(第152～154図 PL.105・106・215・216 遺物観察表P.457・468)

I区古代～古墳時代遺構面で検出された土坑は北区で15基である。これらの土坑は北区西部に集中していた。南区および中央区では古代～古墳時代遺構面の土坑は検出されなかった。

それぞれの土坑の位置や規模は、P.431の表にまとめた。以下各遺構の調査所見を記載する。

3号土坑は36号・38号溝と重複して検出された。楕円形の土坑である。浅間C軽石を含まない黒色粘質土で埋まっていた。埋没土の特徴からは、3号土坑が古いと推定される。遺物は埋没土中から高環(第152図1)とS字裏破片4点が出土した。出土遺物や埋没土の特徴から古墳時代前期の土坑と推定される。

4号土坑は短軸1.15m、長軸1.24m、深さ0.98mの隅丸方形の土坑で、南辺の底面は幅0.35m、深さ0.25mが深く落ち込んでいた。確認面から最も深いところは1.22mの深さになる。その形態からは井戸の可能性もある。土坑内は浅間C軽石を含まない黒色粘質土で埋まっていた。42号溝と重複して検出されたが、埋没土の特徴からは4号土坑が古いと推定される。遺物は、完形に近い古墳時代前期の土器とともに杭や角材・自然木等が出土した。

図示した土師器S字裏(第154図7・8)、壺(第153図4)、アカガシ垂風の杭(第154図13)は土坑中央部位より上層で出土した。壺(第154図5)はそのすぐ下位で出土した。クヌギ節の杭(第154図16)は土坑南東部底面上19cmで出土した。アカガシ垂風の杭(第154図15)は土坑南西部床面上34.5cm、クヌギ節の杭(第154図14)はその下位底面上7cmで出土した。さらに下位で弥生土器裏(第153図3)が底面上8cmで、クヌギ節の角材(第154図17)が斜位・底面直上で出土した。ほぼ完形の小型壺2点(第153図1・2)は、南辺の掘り込みの底面直上で出土した。第154図18のクヌギ節の大型の角材は土坑南西部から頂部に斜位に落ち込むように出土した。この他に埋没土中から、土師器壺破片51点、埴破片3点、高環破片3点、環破片8点、裏破片105点、S字裏破片42点と多くの土器破片が出土した。また、図示した杭や角材の他に、自然木破片が6点出土しているが、いずれもクヌギ節で

あった。

I・II区では居住域は検出されなかった。発掘区域内では、最も近い古墳時代前期の集落は西側のⅢ区微高地にある。屋外周溝付住居1棟と掘立柱建物、土坑、溝が検出されている。また、東側に隣接する下齊田中耕地遺跡Ⅳ区では古墳時代の旧河道が検出されている。I区4号土坑は、発掘区内に限れば居住域から離れた地点にあるが、I区北側・南側に居住域がある可能性もある。本土坑が居住域で使われていた井戸であるか、何か特別な用途の土坑であったかは現状では判然としない。

本土坑から15m西には、同規模の隅丸方形の土坑であるII区8号土坑がある。このII区8号土坑からも古墳時代前期の完形に近い土器が出土し、さらに棒状に凝固した漆樹液塊が出土した。本土坑との関連性が注目されるが、現状では不明である。

5号土坑は37号溝の東側に検出された、大型の楕円形の土坑で重複はない。黒色粘質土で埋まっていた。埋没土中から土師器環破片3点、甕破片20点、S字甕破片16点が出土した。出土遺物から古墳時代前期の土坑と推定される。

6号土坑は37号溝の東側で、5号土坑に隣接して検出された。長軸の長い不整楕円形である。黒色粘質土で埋まっていた。埋没土中から土師器環破片2点、甕破片52点、S字甕破片14点が出土した。出土遺物から古墳時代前期の土坑と推定される。

7号土坑は35号溝に近接して検出された。重複の有無は不明である。浅間C軽石を含まない黒色粘質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。埋没土の特徴から古墳時代前期の土坑と推定される。

8号土坑は35号溝南端に重複して検出された。不整楕円形の土坑である。黒色粘質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。埋没土の特徴から古墳時代前期の土坑と推定される。

9号土坑は42号溝と39号溝の合流点南側で検出された。円形の土坑で、直径3～6cm大の塊状の褐色粘質土・砂を含む黒色粘質土で埋まっていた。底面は平坦で、断面形は箱形の形態の整った土坑である。遺物は土師器埴破片3点、S字甕破片21点が出土した。出土遺物から古墳時代前期の土坑と推定される。

10号土坑は42号溝と39号溝の合流点北側で検出された。楕円形の土坑で直径4～6cm大の赤褐色砂塊を少量

含む黒色粘質土で埋まっていた。埋没土中から土師器甕破片1点が出土した。遺構確認面の共通性から古墳時代前期の土坑と推定される。

11号・12号・13号土坑は不定型な3基の土坑が重複して検出された。平面形は3基の土坑であったが、埋没土には明確な重複は認められなかった。一様に赤黄色砂塊を部分的に含む黒灰色粘質土で埋まっていた。埋没土中から土師器甕(第152図2)、土師器甕破片2点、高環破片8点、甕破片70点、小型甕破片4点、S字甕破片33点が出土した。出土遺物から古墳時代前期の土坑と推定される。

14号土坑は7号土坑の東側、43号溝南端で検出された。楕円形の土坑であるが、底面は長方形を意識して掘られている。直径2～3cm大の灰色粘質土・黒色粘質土・赤褐色砂塊を少量ずつ含む黒灰色粘質土で埋まっていた。埋没土中から土師器甕破片6点、小型甕破片2点が出土した。出土遺物から古墳時代前期の土坑と推定される。

15号土坑は46号溝底面で検出された。重複関係は不明である。楕円形の土坑で、黒色粘質土で埋まっていた。埋没土中から土師器高環(第152図3)、土師器高環破片2点、甕破片1点が出土した。出土遺物から古墳時代前期の土坑と推定される。

16号土坑は39号溝底面で検出された。重複関係は不明である。隅丸方形の土坑で、直径4～7cm大の灰色粘質土塊を少量含む黒色粘質土で埋まっていた。埋没土中から土師器S字甕破片1点が出土した。出土遺物から古墳時代前期の土坑と推定される。

21号土坑は、不整楕円形の土坑で、断面はなだらかなU字形である。下層は灰黄色砂、上層は黒褐色粘土と灰褐色砂の混土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

(2) ビット (第152図 Pl.106)

I区古代～古墳時代遺構面で検出したビットは、北区で4基である。中央区・南区では、古代～古墳時代遺構面のビットは検出されなかった。それぞれのビットの位置や規模はP.436の表にまとめた。以下に調査所見を記載する。

1号・3号・4号ビットは4号土坑の北西隅を除く三隅に接して、あるいは一部重複して検出された。いずれも楕円形または円形で、黒色粘質土で埋まっていた。4号土坑の付属施設の可能性もあるが、詳細は明らかにできなかった。出土遺物は出土しなかった。

I区3号土坑



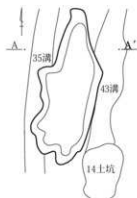
I区5号土坑



I区6号土坑

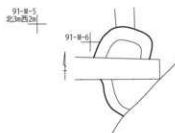


I区7号土坑



- I区7号土坑A-A'
 1. 黒色粘質土 As-Cを含まない。(7号土坑埋没上)
 2. 黒色粘質土とX朝の混土(35号溝埋没上)

I区8号土坑

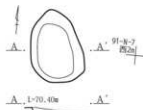


I区9号土坑



- I区9号土坑A-A'
 1. 黒色粘質土 直径3～6cm大の楕状の褐色粘質土・砂を含む。

I区10号土坑

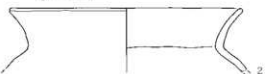


- I区10号土坑A-A'
 1. 黒色粘質土 直径4～6cm大の赤褐色砂塊を少量含む。

I区11号～13号土坑



- I区11号～13号土坑A-A'
 1. 黒灰色粘質土 赤黄色砂塊を部分的に含む。



I区14号土坑



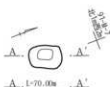
- I区14号土坑A-A'
 1. 黒灰色粘質土 直径2～3cm大の灰色粘質土・黒色粘質土・赤褐色砂塊を少量ずつ含む。



I区15号土坑



I区16号土坑



- I区16号土坑A-A'
 1. 黒色粘質土 直径40～70cm大の灰色粘質土塊を少量含む。

I区21号土坑



- I区21号土坑A-A'
 1. 黒褐色粘土 灰褐色砂の混土
 2. 灰褐色細砂 川砂利主体。灰褐色粘土5%含む。
 3. 灰黄色砂

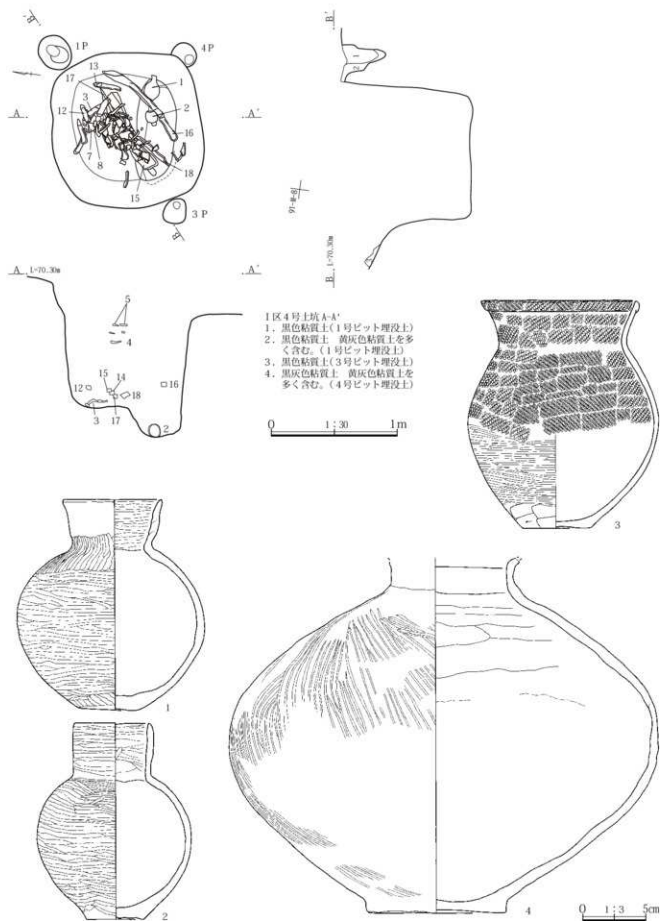
I区2号ピット



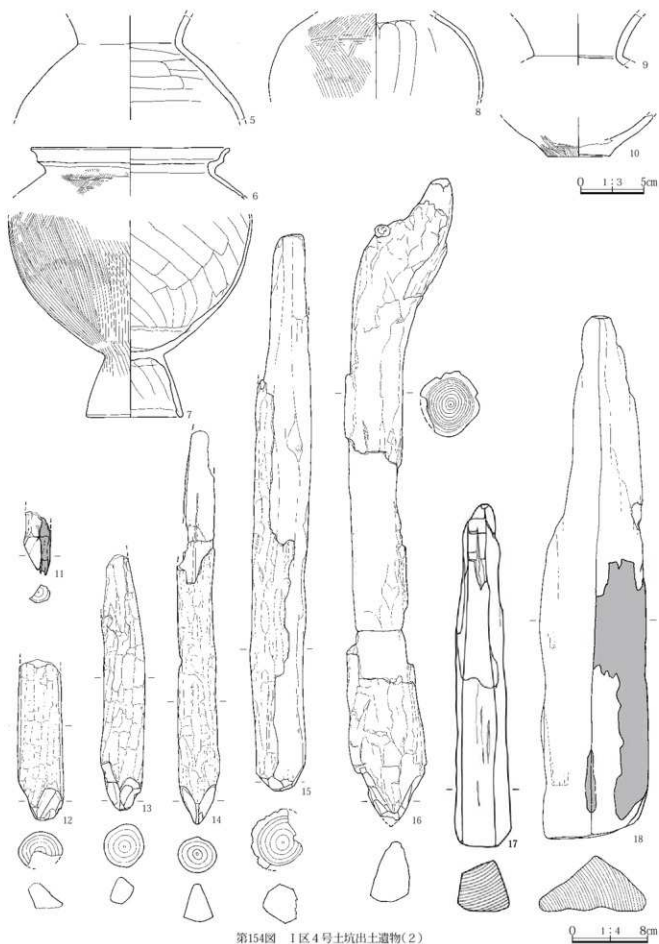
- I区2号ピットA-A'
 1. 黒色粘質土
 2. 灰色シルト



第152図 I区土坑と出土遺物



第153図 I区4号土坑と出土遺物(1)



第154図 Ⅰ区4号土坑出土遺物(2)

2号ピットは3号ピットの北東約0.7mの地点に離れてあった。楕円形で、黒色粘質土や灰色シルトで埋まっていた。埋没土中から土師器甕破片2点が出土した。遺構確認面、出土遺物から古墳時代前期のピットと推定される。

(3) 溝

I区古代～古墳時代遺構面では、北区で13条、南区で8条、中央区で4条、合計25条の溝が検出された。このうち22号・24号・25号・26号溝はほぼ南北方向で、北一中央一南区を縦断するように掘られていた。溝の位置や規模はP.441・442の表にまとめた。以下各溝の調査所見を記載する。なお、溝の平面図は個別図を作成せず、1/300の各区全体図でこれに変えた。埋没土層断面図は個々に掲載した。

I区22号溝

(第155・268図 PL.107・216 遺物観察表P.457)

22号溝は、I区東部で、ほぼ南北方向に検出された。北端および南端は発掘区域外となる。中央区では西側に51号溝が並行して検出されたが、51号溝が新しい。南区でも西側に浅い部分を検出したが、これが51号溝の延長である可能性がある。

走向は北区で $N-11^{\circ}-W$ 、中央区で $N-9^{\circ}-W$ 、南区で $N-13^{\circ}-W$ 、上幅は0.50～1.88m、深さは0.15～0.26m、調査長は北区で10.80m、中央区で25.6m、南区で11.80m、総延長54.2mである。断面形は浅い台形で、底面はやや凹凸がある。底面標高は中央区南端と南区北端がそれぞれ北端・南端より0.09m高かった。この位置は中央区南東隅に検出された凹地の谷頭部に当たっており、22号溝を北と南から流れてきた水が谷頭部に入るように掘られていた可能性もある。溝内の下半は浅間C軽石を含む黒灰色粘質土で、上半は砂塊が多く含まれた暗灰色土・褐色砂で埋まっていた。埋没土中から土師器S字甕台部破片(第155図1・2)と環破片8点が出土した。

I区22号溝は、埋没土や出土遺物から、古墳時代前期の溝と考えられる。砂礫の存在から用水路の可能性が高い。

I区24号溝 (第155・268図 PL.108)

24号溝は、I区西部の中央区から南区にかけて検出された。南端部は発掘区域外に伸びる。北半部はやや屈曲

し、浅くなる。北部で54号溝が分岐する。2号溝より古い。

走向は中央区で $N-19^{\circ}-W$ 、南区で $N-26^{\circ}-W$ 、上幅は0.15～0.37m、深さは0.16～0.26m、調査長は中央区で18.70m、南区で12.50m、総延長で34.50mである。断面形はU字形で、底面にはやや凹凸があった。一定間隔で浅いピット状になっており、掘削工具痕跡の可能性はあるが、確定できなかった。底面の標高は中央区では北端も南端も変わらないが、南区では北西端が0.07m高かった。溝内は白色粘土塊や黒褐色粘土塊を含む灰褐色粘質土で埋まっていた。埋没土中から土師器甕破片1点が出土した。

I区24号溝は、埋没土や遺構確認面から、古墳時代前期の溝と考えられる。砂礫等の埋没はないので、集落内の区画溝であろう。

I区25号溝 (第155・268図 PL.108)

25号溝は、I区西部の中央区から南区にかけて検出された。南端部は発掘区域外に伸びる。北半部は中央区北端付近で浅くなる。南部を除き中央区では26号溝の西側にほぼ並行している。重複は無かった。

走向は中央区で $N-25^{\circ}-W$ 、南区で $N-11^{\circ}-W$ 、上幅は0.10～0.24m、深さは0.10～0.16m、調査長は中央区で24.65m、南区で11.30m、総延長で39.80mである。断面形は浅いU字形で、底面にはやや凹凸があった。底面の標高は南区では変わりがなかったが、中央区では北端が0.09m高かった。溝内は浅間C軽石を含む黒褐色粘質土塊や白色土塊を含む灰褐色粘質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

I区25号溝は、埋没土や遺構確認面から、古墳時代前期の溝と考えられる。砂礫等の埋没はないので、集落内の区画溝であろう。

I区26号溝 (第155・268図 PL.108・109)

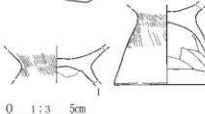
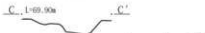
26号溝は、I区西部の中央区から南区にかけて検出された直線的な溝である。南端部は発掘区域外に伸びる。北半部は中央区北端まで確認できたが、北区の該当位置には37号溝と名付けた蛇行する溝が検出された。位置や規模は一致するが、形態はやや異なる。同時に調査できなかったことから、これらが同一の溝であるかどうかは判断することができなかった。したがってここでは、37

I区22号溝・51号溝



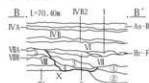
I区22号・51号溝A-A'

1. 黒褐色粘土 白色細粒1%含む。(22号溝埋没上)
2. 暗灰色粘土 砂5%含む。(22号溝埋没上)
3. 暗灰色砂 水成堆積。(22号溝埋没上)
4. 暗灰シルト+砂 水成堆積。(22号溝埋没上)
5. 黒褐色粘土 粘質。浅部に軽石を少量含む。(51号溝埋没上)



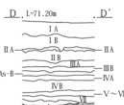
0 1:3 5cm

I区22号溝



I区22号溝B-B'

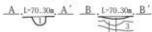
- As-B.
- IA. 黒色粘質土
 - IB. 灰褐色シルト
- Br-FA.
- IA. 黒色粘質土 As-Cを含む。
 - IB. 黒色粘質土 As-Cを含まない。
 - II. 灰色～灰黄色粘質土
 - III. 灰黄色粘質土 黄色軽石を多く含む。
 - IV. 灰色～緑色砂礫混土上
 1. 暗灰色土+やや砂包 FA小塊5%含む。黒色土小塊5%含む。
 2. 暗灰色土+黒色砂 FA小塊1%含む。白色細粒1%含む。
 3. 暗灰色土+粗砂 As-Cを含む。黒色土小塊10%含む。
 4. 黒褐色粘土 灰白色大塊10%含む。
 5. 黒褐色粗砂 この部分から東の谷へ堆積する土層。As-C含む。
- ①. 暗褐色粘土 風化仰あり。暗灰色粘土小塊10%含む。
 - ②. 灰黄色粘土+暗灰色粘土



I区22号溝D-D'

- IA. 表土
- IB. 灰褐色土 表土
 - IIA. 黄褐色シルト
 - II. 黒灰色土～灰色シルト
 - III. 灰褐色砂質土 As-Bを含む。
 - IV. 黒褐色砂質土 As-Bを多く含む。
- As-B.
- IA. 黒色粘質土
 - IB. 灰褐色シルト
- V-VI. 黒灰色シルト質土～黒褐色粘質土
- IIA. 黒色粘質土 As-Cを含む。
 - III. 灰色～灰黄色粘質土
1. 暗灰色粘質土 As-Cを微量に含む。粘性強い。
 2. 黒色土 As-Cを多く含む。粘性弱い。

I区24号溝



I区24号溝A-A'

1. 暗灰色土 シルト質土。As-C混黒黒粘質土。塊や砂多く含む。

I区24号溝B-B'

1. 黄灰色砂+黒褐色粘土大塊(2号層の3段階目の埋土)
2. 灰褐色粘質土。黒色粘土大塊10%含む。黒褐色粘土大塊10%含む。
3. 灰褐色粘質土 白色粘土大塊5%含む。黒褐色粘土大塊5%含む。



I区24号溝C-C'

1. 表土
 - IIA. 黄褐色シルト
 - II. 黒灰色土～灰色シルト
 - III. 黒色粘質土 As-Bを含む。
 - IV. 黒色粘質土
 - V. 黒灰色シルト質土
 - VI. 黒灰色粘質土
 - IIA. 黒色粘質土 As-Cを含む。
1. 暗褐色土 As-C下黒色粘質土とⅤ層土塊の混土。

I区24号溝D-D'



I区24号溝D-D'

1. 表土
 - II. 黄褐色土 黒灰色シルト
 - III. 黒褐色砂質土 As-Bを含む。
 - IV. 黒色粘質土
 - II. 灰褐色シルト
 - V. 黒褐色粘質土
 - IIA. 黒色粘質土 As-Cを含む。
 - III. 灰色～灰黄色粘質土
 - IV. 灰黄色粘質土 黄色軽石を多く含む。
 - X. 灰色～緑色砂礫混土上
1. 暗灰色粘土 洪水砂20%含む。灰褐色土小塊5%含む。
 2. 黒褐色粘土 灰褐色土大塊10%含む。

I区25号溝



I区25号溝A-A'

1. 暗灰色粘質土 白色土細粒5%含む。黒褐色土小塊5%含む。
2. 暗灰色粘質土 白色土細粒5%含む。
3. 地山 水成ローム

I区25号溝B-B'

1. 暗灰色土 シルト質土。As-C混黒黒粘質土。塊や砂多く含む。
2. 暗灰色土 シルト質土。As-C混黒黒粘質土。塊多く含む。

I区26号溝

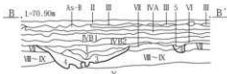


I区26号溝A-A'

1. 暗灰色土 シルト質土。白色軽石(As-C)少量含む。酸化腐集やや多く含む。
 2. 灰褐色土 シルト質土。細砂粘やや多く含む。酸化腐集少量含む。
 3. 暗灰色土 砂層。細砂からなる。酸化腐集少量含む。
 4. 灰褐色土 シルト質土。白濁粘質土塊やや多く含む。
 5. 灰褐色土 シルト質土。細砂粘塊状にやや多く入る。
- ※3層・5層は古い別溝の可能性がある。

0 1:60 2m

I区25号・26号溝



I区25号・26号溝B-B'

- II. 黄褐色土 黒灰色シルト
 - III. 黒褐色砂質土 As-Bを含む。
- As-B.
- IA. 黒色粘質土
 - II. 暗灰色シルト
 - III. 暗灰色シルト
 - IV. 黒褐色粘質土
 - VI. 黒褐色粘質土
 - IA. 黒色粘質土 As-Cを含む。
- III-IX. 灰色～灰黄色粘質土
- X. 灰色～緑色砂礫混土上
1. 暗灰色粘質土 洪水砂5%含む。
 2. 暗灰色粘質土 洪水砂10%含む。
 3. 暗灰色粘質土 洪水砂層状に10%含む。X層小塊10%含む。
 4. 暗灰色粘質土 洪水砂層状に20%含む。
 5. 黒褐色粘質土 灰褐色土小塊5%含む。



I区25号・26号溝C-C'

1. 表土
 - IIA. 黄褐色シルト
 - II. 黒灰色土～灰色シルト
 - III. 黒褐色砂質土 As-Bを含む。
- As-B.
- IV. 黒色粘質土
- V-VI. 黒褐色土シルト質土～黒褐色粘質土
- IIA. 黒色粘質土 As-Cを含む。
1. 暗褐色土 As-C下黒色粘質土とⅤ層土塊の混土。
 2. 暗褐色土 As-Cを比較的多量に含む。3層との混土。
 3. 暗灰色土 軽石を含みます。暗灰色のシルト質の単一層。
 4. 暗褐色土 As-Cを僅かに含む砂質層。

第155図 I区溝(1)と出土遺物

号溝とは別の溝として記載した。

26号溝を境にI区東側の遺構分布はごく少なくなる。前述した22号溝が約50m離れて同方向に掘られているのみである。重複は無かった。

走向は中央区でN-20°-W、南区でN-22°-W、上幅は0.92~2.20m、深さは0.24m、調査長は中央区で26.30m、南区で12.44m、総延長で42.40mである。断面形はボール状で、底面にはやや凹凸があった。底面の標高は中央区では北端も南端も変わらないが、南区では北西端が0.07m高かった。溝内は浅間C軽石を含む黒褐色粘質土土塊や白色土塊や砂塊を含む灰褐色シルト土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

I区26号溝は、埋没土や遺構確認面から、古墳時代前期の溝と考えらる。砂やシルトで埋没しているので用水路の可能性はある。

I区30号溝 (第156・268図 PL.109)

30号溝は、I区南区の西部で検出された。1.40mほどの間隔をあけて東側に31号溝が並行する。南端は発掘区域外になる。重複は無い。

走向はN-22°-W、上幅は0.20~0.60m、深さは0.04m、調査長は4.60mである。平面形・断面形ともに凹凸が著しく、底面にも凹凸があった。底面の標高は北西端が0.04m高かった。溝内は浅間C軽石を含む黒色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

I区30号溝は、埋没土や遺構確認面から、古墳時代前期の溝と考えらる。

I区31号溝 (第156・268図 PL.109)

31号溝は、I区南区の西部で検出された。中央部は浅くなり、検出できない部分があった。1.40mほどの間隔をあけて西側に30号溝が並行する。南端は発掘区域外になる。重複は無い。

走向はN-26°-W、上幅は0.20~0.94m、深さは0.08m、調査長は9.28mである。平面形・断面形ともに凹凸が著しく、底面にも凹凸があった。底面の標高は北西端が0.06m高かった。溝内は浅間C軽石を含む黒色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

I区31号溝は、埋没土や遺構確認面から、古墳時代前期の溝と考えらる。

I区34号溝

(第156・268図 PL.109・216 遺物観察表P.457)

34号溝は、I区北区の西部で検出された。1号堀の東側に沿う位置にあたる。北半分は40号溝と重複するが、北壁土層断面C-C'では40号溝の方が新しい。34号溝は北区の南端では発掘区域外になる。その延長部のうち、中央区では安全対策上区域外とした。南区では27号・28号溝と1号堀の間には溝は検出されなかった。34号溝が27号・28号溝につながる可能性も残されている。

走向はN-8°-E、上幅は0.68~1.00m、深さは0.17m、調査長は14.60mである。断面形は浅いボール状で底面には凹凸が著しい。底面の標高は北端が0.14m高かった。溝内は浅間C軽石を含む黒色土で埋まっていたが、一部に砂の堆積も見られた。水流があったと推定される。図示した土師器環(第156図1)は埋没土中から出土した。この他に埋没土中から土師器埴破片9点、高環破片1点、埴破片7点、鉢6点、甕破片102点、S字甕破片78点が出土した。埴破片は古墳時代後期の遺物も含む。

I区34号溝は、埋没土や出土遺物から、古墳時代後期以降の用水路であると推定される。

I区40号溝 (第157・268図 PL.109・110)

40号溝は、I区北区の西部で、34号溝の西側に重複して検出された。北半分は34号溝と重複するが、北壁土層断面C-C'では40号溝の方が新しい。北端は発掘区域外となる。南端は1号堀に接するが、南延長部がどうなるかは不明である。

走向はN-18°-E、上幅は0.76~0.88m、深さは0.16m、調査長は8.70mである。断面形は浅いボール状で底面は比較的平滑である。底面の標高は南西端が0.16m高かった。溝内は浅間C軽石・Ⅷ層土土塊を含む黒色粘質土で埋まっていた。埋没土中から土師器甕破片2点、S字甕破片1点が出土した。

I区40号溝は、埋没土や出土遺物から、古墳時代前期の溝と考えらる。

I区35号溝 (第156・268図 PL.109)

35号溝は、I区北区の西部、34号溝の東側で検出された。北端は発掘区域外となる。東縁で7号土坑と、南端で8号土坑や38号溝と重複するが、新旧関係は不明である。

第6章 古代～古墳時代の遺構と遺物

走向はN-8°-E、上幅は0.30～0.40m、深さは0.13m、調査長は5.04mである。断面形は浅いボール状で底面には凹凸が著しい。底面の標高は北端が0.04m高かった。溝内は浅間C軽石を含まない黒色土で埋まっていた。埋没土中から土師器甕破片2点、S字甕破片3点が出土した。

I区35号溝は、埋没土や出土遺物から、古墳時代前期の溝と考えられる。

I区36号・49号溝(第151・157・268図 PL.110)

36号溝は、I区北区の西部から中央区西端にかけて検出された溝である。北区ではⅧ層上面で古墳時代前期の溝群とともに検出したが、南区ではⅥ層下面で2号畠と同じ確認面で検出した経緯がある。北区北壁の土層断面からは、北区でもⅥ層下面で検出されたものと判断できる。49号溝は中央区で36号溝の南端に重複して検出された。両溝の具体的な調査所見の記載は第5章(P.156～158)でおこなった。

I区36号溝は、埋没土や出土遺物から、古代の溝と考えられる。本報告書で区分した時期の中間で検出された遺構であることから、平面図は49号溝とともに、第151図と、第268図の両面に編集した。

I区37号溝(第157・268図 PL.109・110)

37号溝は、I区北区の西部で検出された。北区北端で36号・38号溝と重複していた。36号溝より新しい。38号溝との新旧関係は不明である。北半部では大きく蛇行し、南半部でも不定形である。南端は発掘区域外となる。その延長部には中央区・南区で26号溝が検出されている。走向的には連続すると推定されるが、直線的な26号溝とは形状が異なることから、別遺構として報告した。

走向は北半部でN-10°-E、途中で東に屈曲し南半部ではN-39°-Wとなる。上幅は0.84～3.30m、深さは0.30m、調査長は16.40mである。断面形は浅いボール形で底面にはやや凹凸があった。底面の標高は北端が0.04m高かった。溝内は砂塊を含む灰色シルトで埋まっていた。水流があったと推定される。埋没土中から土師器台破片1点、壺破片3点、埴破片8点、高坏破片14点、坏破片7点、鉢破片2点、甕破片157点、S字甕破片171点が出土した。I区37号溝は、埋没土や出土遺物から、古墳時代の溝と考えられる。用水路の可能性がある。

I区38号溝(第156・157・268図 PL.109・111)

38号溝は、I区北区の西部で検出された。北区北端で36号・37号溝と重複していたが、新旧関係は不明である。北端部は発掘区域外となる。また、南端は34号溝と重複するが、新旧関係は38号溝が古い。

走向はN-30°-E、上幅は0.58～0.90m、深さは0.26m、調査長は11.80mである。断面形は浅いボール形で底面にはやや凹凸があった。底面の標高は北東端が0.05m高かった。溝内は浅間C軽石・黒色粘質土塊・Ⅷ層土塊を含む黒色粘質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。埋没土や遺構確認面から、古墳時代前期の溝と考えられる。

I区39号溝

(第156・268図 PL.111・112・217 遺物観察表P.452・458)

39号溝は、I区北区の西端部で検出された南北方向の溝である。1号堀の西縁にあたる。42号溝と重複していたが、新旧関係は不明である。北端・南端共に発掘区域外となる。

走向はN-9°-E、上幅は0.90～1.60m、深さは0.18m、調査長は16.56mである。断面形はボール形で底面はほぼ平坦であった。底面の標高は南端が0.13m高かった。溝内は浅間C軽石を含む黒灰色粘質土で埋まっていた。底面直上で土師器環(第156図3～5)が出土した。また、埋没土中から土師器甕(6)、S字甕(7)、ミニチュア土器破片9点、壺破片13点、埴破片8点、高坏破片20点、坏破片23点、甕破片108点、S字甕破片67点が出土した。

I区38号溝は、埋没土や出土遺物から、古墳時代の溝と考えられる。

I区41号溝(第157・268図 PL.111)

41号溝は、I区北区の西部で、38号溝の東側で検出された。北端は浅くなり、南端は34号溝に合流する。新旧関係は不明である。

走向はN-28°-E、上幅は0.24～0.43m、深さは0.09m、調査長は4.40mである。断面形はU字形で底面は凹凸が著しい。底面の標高は北東端が0.33m高かった。埋没土の記載はない。遺物は出土しなかった。

I区41号溝は、遺構確認面から、古墳時代～古代の溝と考えられる。

I区31号溝



I区31号溝A-A'
1. 黒色土 As-Cを混じる。

I区30号・31号溝



I区30号・31号溝B-B'
1. 黒色土 As-Cを混じる。

I区35号溝



I区35号溝A-A'
1. 黒色粘質土 As-C下。X層小塊を混じる。
2. 黒色粘質土 As-C下。

I区34号・38号溝



I区34号・38号溝D-D'
1. 黒褐色粘質土 As-C微量・砂粒を含む。
2. 黒褐色砂質土 1層と砂粒の混上。
3. 赤褐色砂質土 鉄分多い。(34号溝埋没上)
4. 黒褐色粘質土 黒灰色粘質土と砂の混上。(34号溝埋没上)

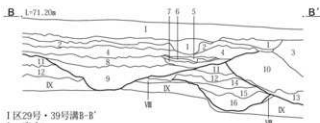
I区39号溝



I区39号溝A-A'
1. 黒灰色粘質土 As-C混黒色土を少量含む。
2. 灰色粘質土
3. 灰黄色粘質土
4. 灰黄色粘質土 酸化凝集理文多く含む。
5. 黒色粘質土

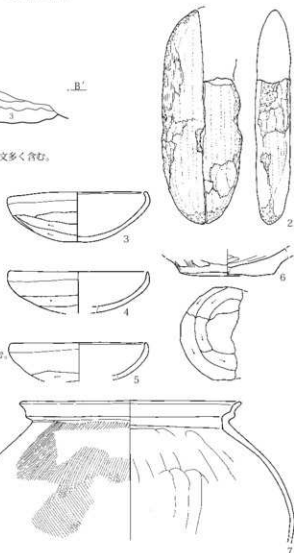


I区39号溝B-B'
1. 灰色粘質土 酸化凝集理文多く含む。
2. 灰黄色粘質土
3. 黒色粘質土



I区29号・39号溝B-B'

I区29号・39号溝B-B'
1. 表土
2. 黄灰色シルト 黄灰色シルト・灰色シルトが編状に重なる。
3. 灰褐色シルト 1層よりも粗めのシルト層で、黄灰色シルトをわずかに編状に含む。
4. 灰褐色シルト 均一なシルト層。下部は砂層。(1号溝埋没上)
5. 灰褐色シルト 2層よりも粗めのシルト層。粒径は同じ。As-Bをわずかに含む。
6. 黒色土 As-Bを含む。粘性は強い。中央部に砂を多く含む。
7. 灰色シルト 粒径の細かな均一なシルト層。
8. 灰褐色土 黄色シルト・褐色土・灰色シルトの小塊の混上層。
9. 灰褐色土 As-Bを多量に、灰色シルト小塊を少量含む。(29号溝埋没上)
10. 黒色土 灰褐色土と砂層が編状に堆積。(29号溝埋没上)
11. 灰色シルト
12. 黒色土 As-Cを混じる。
13. 灰色シルト 11層より粒径が粗く、鉄分を多く含む。
14. 灰色シルト 均一な粗めのシルト層。(39号溝埋没上)
15. 暗褐色土 黒色粘質土・砂・灰色シルト塊の混上。(39号溝埋没上)
16. 黒色土 黒色粘質土主体でⅨ層土小塊を少量含む。(39号溝埋没上)
Ⅶ. 黒褐色砂質土 As-Bを混じる。
Ⅷ. 灰黄色粘質土 黄色風化軽石を多く含む。



I区42号溝



I区42号溝A-A'
1. 灰色シルト 灰色シルト主体で、Ⅶ層土小塊を少量含む。
2. 暗灰色シルト 暗灰色シルトと粗砂粒の混上。
Ⅶ. 灰色～灰黄色粘質土

I区43号溝



I区50号溝



I区50号溝A-A'
1. 灰褐色土 砂質。細砂粒からなる。
2. 暗褐色土 砂質。黒褐色砂質土塊や多く含む。平や粗い砂。溝地山。固い。

I区51号溝

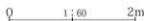


I区51号溝A-A'
1. 黒褐色土 粘質土。As-C少量含む。酸化凝集少量含む。
2. 暗褐色土 粘質土。灰褐色粘質土。塊多く含む。As-C少量含む。

I区55号溝



I区55号溝A-A'
1. 黒褐色粘土 白色粒土1%含む。



1区36号～40号溝

C. 1:70.0m



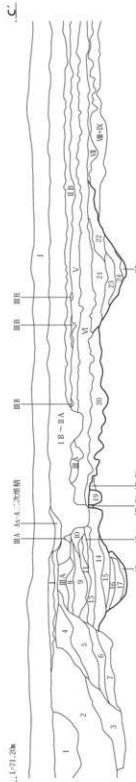
1区36号～40号溝にC.

1. 灰色シルト 砂と白色細粉をわずかに含む。全体に均一。
2. 暗灰色シルト 灰白色シルトを暗灰色砂礫の混土。暗灰色シルトを含まない。
3. 灰白色シルト 粘質のあるシルトと粗粒砂礫の混土。(37号溝埋設土)
4. 灰白色シルト 粘質のあるシルトで、砂を含まない。(37号溝埋設土)
5. 黒褐色粘質土 均一な粘質土。軽石・砂粒を含まない。(37号溝埋設土)
6. 黒褐色粘質土 黒褐色粘質土と砂礫の混土。(36号溝埋設土)
7. 黒色粘質土 As-C・黒色粘質土・燧石土塊の混土。(38号溝埋設土)
8. 暗灰色シルト 2層に近いが暗色で、灰白色シルトを含まない。
9. 暗灰色シルト 鉄分濃度の多い砂礫塊と燧石土小塊・暗灰色シルト塊の混土。
10. 黒色粘質土 As-C・黒色粘質土・燧石土塊の混土。(40号溝埋設土)
11. 黒色粘質土
12. 黒色粘質土
13. 黒色粘質土
14. 暗褐色砂質土
15. 暗褐色砂質土 (M) 白色粘子1%含む。酸化還元係数多分。
16. 暗褐色粘質土 褐色砂を含む。

1区北壁にE・F・F'・F''

1. 灰褐色粘質土 洪水起源土。水田開土か(上層埋設水田M)か白色粘子1%含む。
2. 暗褐色粘質土 灰白色シルト20%含む。
3. 暗褐色粘質土 灰白色シルト10%含む。
4. 褐色砂+黒褐色粘質土 褐色砂(洪水起源)5%含む。
5. 褐色粘質土 褐色粘質土と砂礫の混土。
6. 暗褐色粘質土 白色粘子1%含む。
7. 褐色砂(洪水) 褐色粘質土20%含む。
8. 灰褐色粘質土 灰白色粘土大塊20%含む。白色粘土大塊20%含む。
9. 暗褐色粘質土 灰白色シルト10%含む。
10. 暗褐色粘質土 灰白色粘土大塊40%含む。
11. 黄白色粘土 (X) 黒褐色粘土小塊20%含む。
12. 暗褐色砂 黒褐色粘土5%含む。
13. 黒褐色粘質土 褐色砂礫が20%含む。
14. 暗褐色粘質土
15. 暗褐色粘質土
16. 暗褐色粘質土
17. 暗褐色粘質土
18. 暗褐色粘質土
19. 暗褐色粘質土
20. 暗褐色粘質土
21. 暗褐色粘質土
22. 暗褐色粘質土
23. 暗褐色粘質土
24. 暗褐色粘質土
25. 暗褐色粘質土

C. 1:71.2m



1区北壁にC.

1. 表土
2. 灰褐色粘質土
3. 灰褐色粘質土 砂が下層に多い。(1号溝埋設土)
4. 褐色土 As-混土塊を多量に含む。(1号溝埋設土)
5. 灰褐色シルト 砂粒を多量に含む。(1号溝埋設土)
6. 灰褐色 (1号溝埋設土)
7. 灰褐色 X層塊と粗粒砂が互層。(1号溝埋設土)
8. 暗褐色粘質土 V層に近い層。(A7ア)
9. 暗褐色土 As-C下層暗褐色粘質土と灰白色シルトの混土。(A7ア)
10. 灰褐色シルト (A7ア) X層を多量に含む。(A7ア)
11. 暗褐色粘質土 X層を多量に含む。(A7ア)
12. 暗褐色粘質土 鉄分多量を含む。(40号溝埋設土)
13. 暗褐色粘質土 鉄分多量を含む。
14. 暗褐色粘質土 鉄分多量を含む。鉄分多量を含む。(40号溝埋設土)
15. 暗褐色粘質土 As-CT下層暗褐色粘質土とX層塊の混土。(40号溝埋設土)
16. 暗褐色粘質土 砂とX層相当の混土。(40号溝埋設土)
17. 暗褐色粘質土 X層塊を多量に含む。(40号溝埋設土)
18. 暗褐色粘質土 X層塊を多量に含む。(40号溝埋設土)
19. 暗褐色粘質土 As-C下層暗褐色粘質土と燧石土塊の混土。
20. 暗褐色粘質土 As-C下層暗褐色粘質土とAs-V層の混土。(43-45号溝埋設土)
21. 暗褐色粘質土 14層に近い砂礫が少ない。(38-38号溝埋設土)
22. 暗褐色粘質土 燧石・灰褐色粘質土を多量に含む。燧石土塊を多量に含む。(38-38号溝埋設土)
23. 暗褐色粘質土 15層に近い砂礫を多量に含む。(38-38号溝埋設土)
24. 暗褐色粘質土 X層塊を多量に含む。(38-38号溝埋設土)
25. 暗褐色粘質土 X層塊を多量に含む。(38-38号溝埋設土)

第157図 1区溝(3)



I区42号溝(第156・268図 PL.111)

42号溝は、I区北区の西端部で検出された東西方向の溝である。39号溝に合流する。新旧関係は不明である。

2・3面検出の33号溝の下位で北側に半分重複して検出された。西端は発掘区域外となる。

走向はN-62°-W、上幅は2.00~2.64m、深さは0.25m、調査長は2.80mである。断面形はボール形で底面はほぼ平坦であった。底面の標高は西端が0.09m高かった。溝内は灰色シルトや粗砂塊を含む暗灰色シルトで埋まっていた。遺物は出土しなかった。

I区42号溝は、埋没土や遺構確認面から古墳時代の溝と考えられる。

I区43号・44号・45号溝(第157・268図 PL.112)

43号・44号・45号溝は、I区北区の西部で検出された。35号溝と38号溝の間に3条が並行していた。北端部は発掘区域外となる。南端部はそれぞれの長さで浅くなり、見えなくなる。重複はない。

走向は43号溝がN-10°-E、44号溝がN-12°-E、45号溝がN-17°-Eである。上幅は43号溝が0.24~0.50m、44号溝が0.37~0.50m、45号溝が0.24~0.30mである。深さは43号溝が0.12m、44号溝が0.09m、45号溝が0.12mである。調査長は43号溝が4.00m、44号溝が2.40m、45号溝が1.30mである。断面形はいずれも浅いボール形で底面は凹凸が著しい。底面の標高は、43号溝は南端が0.01m、44号溝は北端が0.05m、45号溝は北端が0.02m高かった。溝内は黒色粘質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

I区43号・44号・45号溝は、埋没土や遺構確認面から、古墳時代~古代の溝と考えられる。

I区46号溝(第161・268図 PL.112)

46号溝は、I区北区の西部で、37号溝の東側で検出された東西方向の溝である。西端は37号溝と重複し、東端は浅くなり、見えなくなる。37号溝との新旧関係は不明である。

走向はN-84°-W、上幅は0.20~0.52m、深さは0.01m、調査長は2.80mである。断面形は浅い凹地状で底面は凹凸が著しい。底面の標高は西端が0.01m高かった。溝内は黒色粘質土で埋まっていた。遺物出土なし。

I区46号溝は、遺構確認面から、古墳時代~古代の溝と考えられる。

I区50号溝(第156・268図 PL.112)

50号溝は、I区中央区の南西隅で検出された。南端は1号堀に切られている。北端は浅くなり、見えなくなる。あるいは36号・49号溝と連続していた可能性も考えられる。

走向はN-22°-E、上幅は0.42~0.65m、深さは0.10m、調査長は5.60mである。断面形は浅い箱形で底面は平坦である。底面の標高は北端が0.06m高かった。溝内は灰褐色砂層で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

I区50号溝は、遺構確認面から、古墳時代~古代の溝と考えられる。

I区51号溝(第156・268図 PL.112)

51号溝は、I区中央区の東部、22号溝の西縁に重複して検出された。北端は北区へとつながるが、北区の調査では51号溝にあたる部分は検出できなかった。南端も南区へつながる。南区では22号溝の西縁に浅い部分を記録しているが、これが中央区51号溝にあると推定される。

走向はN-22°-E、上幅は0.42~0.65m、深さは0.10m、調査長は5.60mである。断面形は浅い箱形で底面は平坦である。底面の標高は北端が0.06m高かった。溝内は浅間C軽石を含む黒褐色土、暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

I区51号溝は、遺構確認面から、古墳時代~古代の溝と考えられる。

I区54号溝(第268図 PL.76)

54号溝は、I区中央区の西端、2号島の西側で検出された。南端は24号溝と重複する。層位的には54号溝が新しいが、詳細はとらえられなかった。北端は浅くなり見えなくなる。

走向はN-37°-W、上幅は0.16~1.14m、深さは0.09m、調査長は3.30mである。断面形は浅いU字形で、底面には凹凸が著しい。溝内は褐色砂を混じる褐色粘土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

I区54号溝は当初は古代洪水層関連の遺構として調査したが、埋没土の状況から古代の遺構と推定される。VI層上面水田痕跡の疑似畦畔や2号島との層位的関連はつ

かめなった。

Ⅰ区55号溝(第156・268図 PL.113)

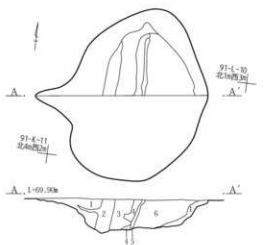
55号溝は、Ⅰ区中央区の南西隅で、50号溝に並行して検出された。北端は浅くなり見えなくなるが、南端は発掘区域外になる。重複はない。

走向はN-23°-E、上幅は0.12～0.22m、深さは0.05m、調査長は2.42mである。断面形は浅いU字形で底面は凹凸が著しい。底面の標高は北端が0.01m高かった。溝内は白色粒子を含む黒褐色粘土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

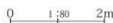
Ⅰ区55号溝は、遺構確認面から、古代～古墳時代の溝と考えられる。

(4) 倒木痕(第158図 PL.113)

Ⅰ区では古代～古墳時代遺構面で、多くの倒木痕を検出した。平成16年度の調査では倒木痕の記録は悉皆的でなく、明瞭なもの平面・断面記録をとるという方針であった。そこで北区の残存状態の良い倒木痕1基の断面図と平面図を記録した。また立木の根と推定される痕跡を検出したので、写真撮影のみ実施した。



- Ⅰ区倒木痕A-A'
1. 黒色粘質土 As-C混。
 2. 褐色洪水層
 3. 黄灰色洪水層
 4. As-YP
 5. 黒色砂質土 As-YPを混じる。
 6. 灰色粘質土 泥流層。



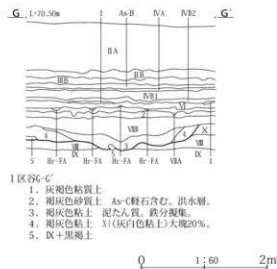
第158図 Ⅰ区倒木痕

平成22年度の調査では、古代～古墳時代遺構面の遺構確認を全面でおこない、検出されたすべての倒木痕について倒木方向を明記した平面記録のみを実施した。これによりⅠ区で検出された倒木痕は26基である。倒木方向や時期については一定の傾向があるような状況ではなかった。

(5) 谷(第159・268図)

Ⅰ区中央区南東隅で帯状谷地の谷頭を検出した。谷頭は南から一度東へ大きくUの字に蛇行して、北と西に張り出す二股になっている。南端は南区では検出されなかったが、谷は南東方向に伸びると推定される。東側の齊田中耕地遺跡Ⅳ区の8面旧河道の支谷の同一層位の地形と推定される。埋没土は浅間C軽石を含む黒色粘質土で、最下層には泥炭質の褐色粘質土が堆積していた。

遺物は出土しなかった。



- Ⅰ区谷G-G'
1. 灰褐色粘質土
 2. 褐色砂質土 As-C軽石含む。洪水層。
 3. 黄灰色粘土 泥たん質。鉄分凝集。
 4. 褐色粘土
 5. IX+黒濁土

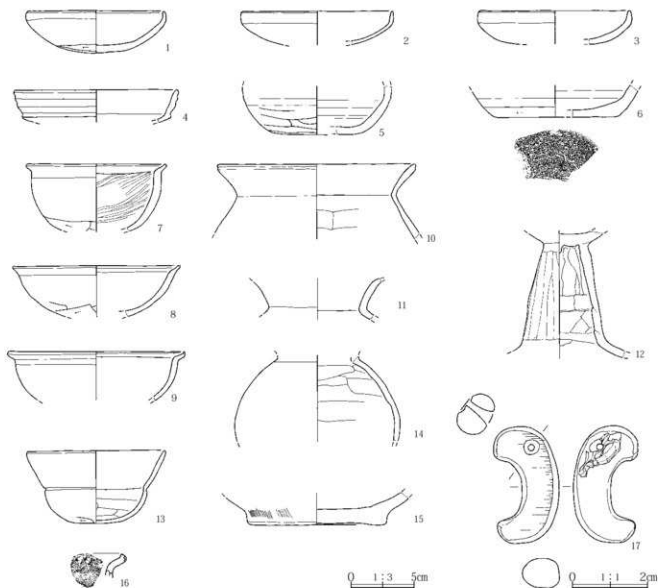
第159図 Ⅰ区谷の土層断面

(6) 遺構外の出土遺物

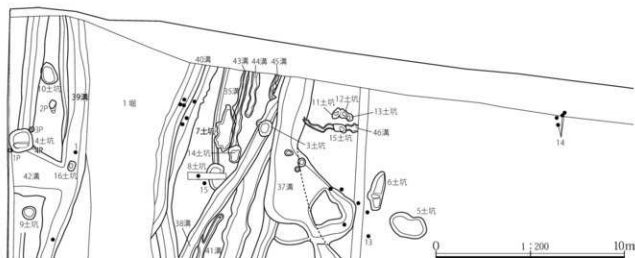
(第160・161図 PL.217 遺物観察表P.452・458)

Ⅰ区調査の遺構確認中に、遺構に伴わない形で第11表のように多くの遺物を出土した。ここでは、Ⅷ層上面の遺構確認時に出土した土師器環(第160図1～4・7～9)、土師器甕(10・15)、土師器壺・埴(11・13・14)、土師器高環(12)、須恵器短頸壺・環(5・6)を掲載した。

2. 1区の道構と遺物



第160図 1区道構外の出土遺物



第161図 1区道構外出土遺物の出土位置(古代～古墳時代)

3. II区の遺構と遺物

(1) 土坑

II区古代～古墳時代遺構面で検出された土坑は、北区で検出された8号土坑1基である。南区および中央区では古代～古墳時代遺構面の土坑は検出されなかった。土坑の位置や規模は、P.432の表にまとめた。

II区8号土坑(第162・163図 PL.114・115・217・218 遺物観察表P.458・459・468)

8号土坑はII区北区北東隅で検出された。重複はない。短軸0.13m、長軸1.17m、深さ0.97mの隅丸方形の土坑である。底面は平坦で、土坑内は浅間C軽石を含む黒色粘質土で埋まっていた。地山土塊を少量含むが、全体に一律な土層であり、埋め戻されたような堆積であると記録されている。

埋没土中の上位には焼土と炭化物の層が土器類の上を覆うように出土した。焼土は長軸0.58m、短軸0.48m、厚さ0.07mのほぼ楕円形に広がり、中央部が落ち込むような形で堆積していた。焼土の底面は、土坑の底面上0.74mの位置である。炭化物層は焼土の下位に、長軸0.38m、短軸0.22m、厚さ0.01mで薄く堆積していた。炭化物層の位置は底面から0.69m上にあたる。

土器類は焼土層の直下に、完形のものや破片が折り重なるように出土した。土器の出土は底面上0.4mの埋没土中位まで及んでいた。図示した土器器小型丸底壺(第162図4・5・7)はそれぞれ底面上0.91m、0.8m、0.79mで出土した。直口壺(3)は底面上0.62mで出土した。壺(第162図9・第163図10・11)はそれぞれ床面上0.9m、0.7m、0.61mで出土した。S字甕(第163図12～17)がそれぞれ床面上0.9m、0.86m、0.77m、0.67m、0.62m、0.48mで折り重なるように出土した。特に12は完形のまま潰れたような状態であった。器台(第162図8)は土器の出土位置のなかでは下層である底面上0.4mの位置に倒立状態で出土した。その他に埋没土中から土器器壺破片115点、埴破片13点、器台破片2点、甕破片12点、S字甕破片222点が出土した。

漆樹液の棒状塊(第162図1)は、土器類の下位、土坑底面上0.35mで、ほぼ水平の状態出土した。

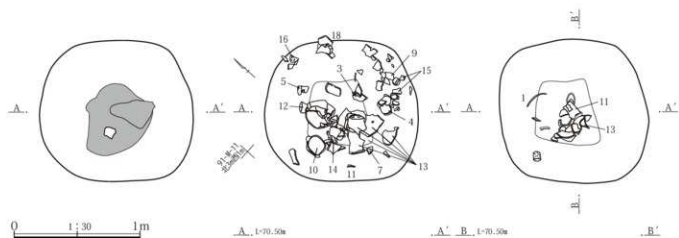
この棒状塊は当初、火鑽杵との認識から植物遺体と推

定し樹種の同定を行ったところ、植物組織が観察されなかったことから、植物遺体でないことが判明した(第8章5)。そこで、材質を明らかにするために赤外分光分析を実施したところ、国産生漆のウルシオールと似たスペクトルが得られた(第8章7)。これまでに類例のない資料であったことから、専門家の助言を受け、材質を特定するために熱分解DC/MS分析をおこなって、漆であることが確認された。(第9章2(4))

棒状塊の長さは21.3cm、直径0.8～1.2cm、わずかに湾曲する棒状で、断面形はほぼ円形である。上端は直径1.2cmでやや太くなっており、端部外面は薄膜状になっており、中央部は表面がガサガサしている。上端部は一部欠損している。上端部から1.5cmほど下では外側の膜状の部分が剥がれたような状態になっている。下端の細い方は丸くすぼまり、先端には直径5mmほどの平坦面がある。資料外面には太さ1mm前後の条線圧痕が全体に薄く見える。また表面には長さ3～4cmの亀裂が3条ある。最も大きな亀裂は幅2.5mmの幅がある。樹種同定のための組織観察を目的として切断した面をみると一律な内容物が固結しているように見える。亀裂内面および切断面には細かな空隙が肉眼でも確認できる。

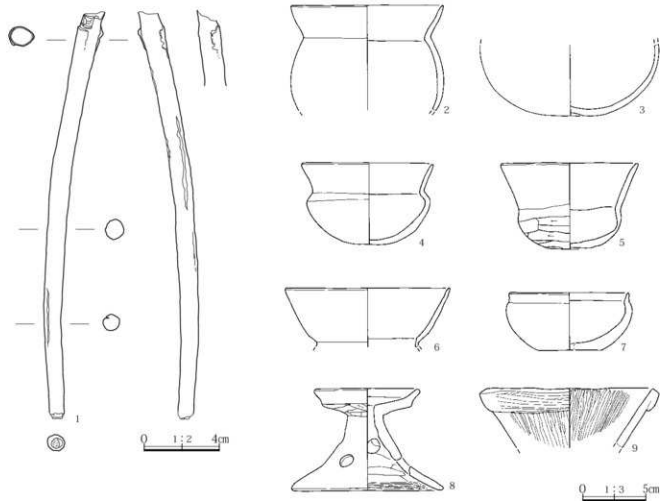
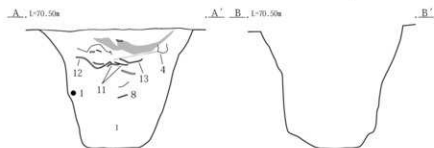
以上のようなことから、本棒状塊は何らかの管状容器の中で凝固した漆樹液のみが遺存したものと考えられる。外面の細かな条線圧痕や下端部の形状からはタケの程内で凝固したのではないかと推定される。この棒状塊についての、専門家の助言や、材質分析や調査の詳細については第8章・第9章で記載した。

II区8号土坑の性格については現状では不明である。土坑の位置は、III区にある居住域からやや離れている。II区の北側や南側に居住域がある可能性も残されている。本土坑が居住域内で使われていた井戸である可能性が高いが、完形の土器や漆樹液の棒状塊の出土状態から何か特別な用途の土坑であった可能性もある。本土坑と同規模の隅丸方形のI区4号土坑が15m東のI区西端で検出されている。両土坑とも古墳時代前期の土坑で、完形に近い土器が出土している。両土坑の関連性が注目されるが、現状では不明である。このような土坑は玉村町地域の他の遺跡でも検出され注目されているが、詳細については第9章-1で述べる。

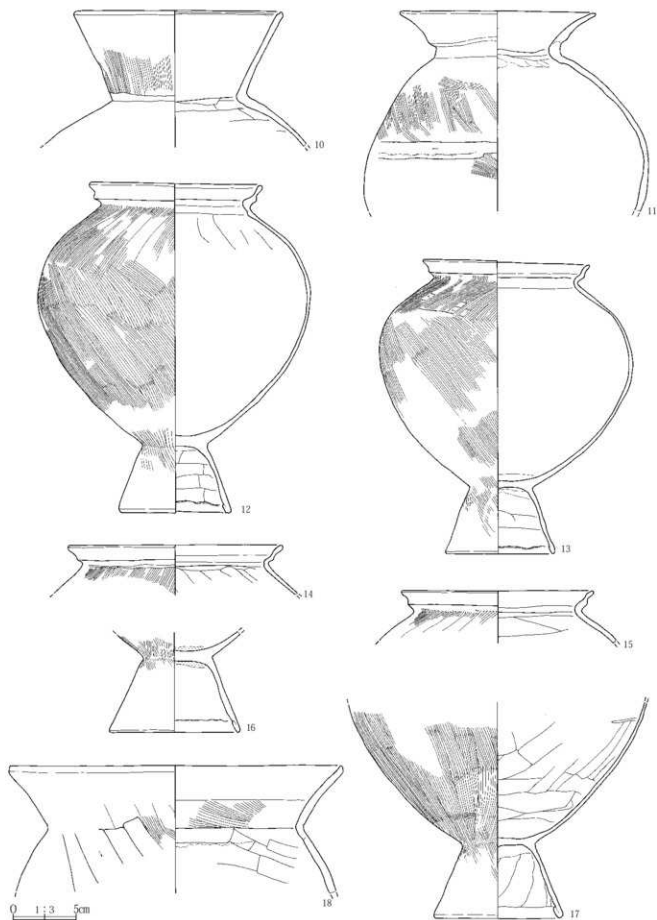


II区8号土坑A-A'

1. 黒色粘質土。As-C下黒色粘質土主体で、
Ⅷ・Ⅷ層相当の塊を少量含む。埋め戻された様な土層。



第162図 II区8号土坑と出土遺物(1)

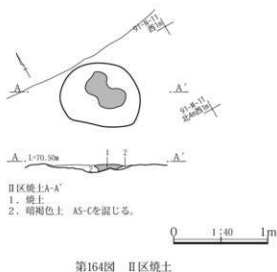


第163図 II区8号土坑の出土遺物(2)

(2) 焼土 (第164図)

II区北区北東隅、8号土坑の北西2mの地点に、焼土が検出された。長径0.85m、短径0.65m、深さ0.1mほどの楕円形の凹地内に、長軸0.46m、短軸0.26m、厚さ0.08mの焼土があり、周囲は浅間C軽石を含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

調査当初は、竪穴住居内の炉の痕跡とも考えられたが、周囲には床面や柱穴等の痕跡も認められなかったので、焼土として記載した。



(3) 溝

II区古代～古墳時代遺構面では、南区から中央区にかけて2条の溝が検出された。溝の位置や規模はP.442の表にまとめた。以下溝の調査所見を記載する。

なお、溝の平面図は個別図を作成せず、1/300の各区全体図でこれに変えた。埋没土層断面図は個々に掲載した。

II区20号溝 (第165・267図 PL.115)

20号溝は、II区南西部で、北西から南東方向に検出された。北西端および南東端は発掘区域外となる。北西端の延長部はIII区では検出されなかった。重複はない。

走向は中央区・南区ともにN-32°-W、上幅は中央区で0.15～0.58m、南区で0.17～0.77m、深さは中央区で0.04m、南区で0.05m、調査長は中央区で13.75m、南区で18.84m、総延長37.0mである。断面形は浅いU

字形で、底面は平坦である。底面標高は北西端が0.08m高かった。溝内は砂を含む黒褐色シルト質土で埋まっていた。埋没土中から土師器2点が出土した。

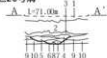
II区20号溝は、浅間C軽石を含む黒色土を切っている埋没土の状況や出土遺物から、古墳時代後半と考えられる。

II区24号溝 (第165・267図 PL.83・84)

24号溝は、II区中央区の東部で検出された直線の溝である。後述する疑似畦畔を検出したVI層上面で確認した。疑似畦畔を示すVI層の土層を切っているが、これだけでは畦畔と本溝との新旧関係を示すとはいえない。24号溝が埋まった段階で、疑似畦畔が形成される深耕が行われた可能性もある。また、17号溝と重複する。断面図は記録できなかったが17号溝が新しい。

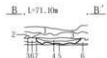
走向はN-49°-E、上幅は0.22～0.51m、深さは0.08m、

II区20号溝



II区20号溝 A-A'

1. 黒褐色砂質土 As-Bを混じる。(III層)
2. 灰褐色シルト IV B層起源と考えられる砂を多く含む。
3. 黒灰色シルト質土 (V A層)
4. 暗褐色土 砂粒少量含む。
5. 黒褐色土 砂粒少量含む。
6. 黒褐色土 黄色砂塊を多く含む。
7. 黄色砂層 V A層下層の洪水層と同一のものと考えられる。
8. 黒褐色土 砂粒を非常に多く含む。
9. 黒褐色粘質土 (VI層)
10. 黒色土 As-Cを混じる。



II区20号溝 B-B'

1. 灰褐色土 シルト質土。3面水田耕土の一部。IV B層黄褐色砂粒。VI層 (暗灰褐色シルト質土) 塊少量含む。
2. 灰褐色土 シルト質土。1層に似るがやや暗い。VI層 (暗灰褐色シルト質土) 塊少量含む。
3. 暗灰褐色土 シルト質土。白褐色粒子含む。VI層。
4. 灰褐色土 シルト質土。黄褐色土 (細粒でシルト質に近い) がやや多く入る。B1-F2? (20号溝埋没土)
5. 黒褐色土 シルト質土。灰褐色粘質土少量含む。(20号溝埋没土)
6. 黒褐色土 粘質土。As-C軽石少量含む。VII A層。
7. 灰褐色土 粘質土。VII層。

II区24号溝



II区24号溝 A-A'

1. 暗茶褐色土 やや粗い砂粒からなる砂層。畦を切っている。(上面の遺構)



第165図 II区溝土層断面

調査長は25.90mである。断面形はU字形で、底面は平坦であった。底面の標高は南西端が0.08m高かった。溝内は暗茶褐色砂で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

Ⅱ区24号溝の時期は、遺構確認面から古代～古墳時代の溝と考えられる。17号溝と層位は共通するが埋没土は全く異なる。砂層で埋まっているが、17号溝とは異なる洪水によると考えられる。

(4) 倒木痕 (第166・267図 PL.115)

Ⅱ区では古代～古墳時代遺構面で多くの倒木痕を検出した。平成16年度に調査した北区・南区では、倒木痕の記録は悉皆的でなく、明瞭なもののみを平面・断面記録をとるという方針であった。そこで南区の2基の倒木を1号、2号倒木痕として記録した。北区では2基の倒木痕について平面記録した。

平成22年度に調査した中央区では、古代～古墳時代遺構面の遺構確認を幅2～3m、長さ80mのトレンチ3本で実施し、検出されたすべての倒木痕について倒木方向を明記した平面記録のみとした。西端は20号溝が検出されたことから、7ラインより西側は全てで古代～古墳時代遺構面の遺構確認をおこなった。これによりⅡ区で検出された倒木痕は14基である。倒木の時期や方向に一定の傾向などはみられなかった。

Ⅱ区1号倒木痕



Ⅱ区1号倒木痕A-A'

1. 暗褐色土 As-C下黒色粘質土と焼土小塊・灰層地の混土。
2. 黒色粘質土 As-C下黒色粘質土。
3. 灰色～灰黄色粘質土 黄色風化軽石・酸化凝集理文多く含む。(X層)

Ⅱ区2号倒木痕



Ⅱ区2号倒木痕A-A'

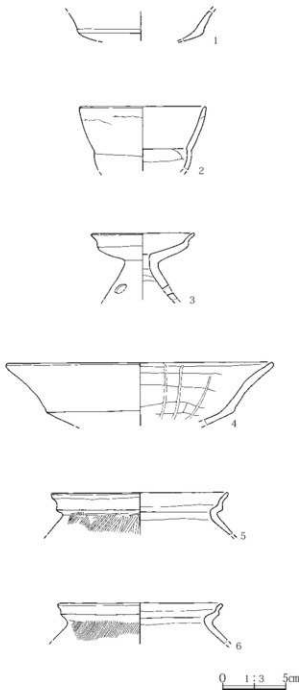
1. 黒色粘質土 焼土小塊を均一に含む。
2. 黒色粘質土 As-C下黒色粘質土。

第166図 Ⅱ区倒木痕土層断面

(5) 遺構外の出土遺物

(第167図 PL.218 遺物観察表P.459)

Ⅱ区調査の遺構確認中に、遺構に伴わない形で第11表のように多くの遺物を出土した。ここでは、Ⅷ層上面の遺構確認時に出土した土師器環(第167図1)、埴(2)、器台(3)、高环(4)、S字襷(5・6)を掲載した。



第167図 Ⅱ区遺構外の出土遺物(古代～古墳時代)

4. Ⅲ区の遺構と遺物

(1) 周溝をもつ建物

Ⅲ区9号住居

(第168・169図 PL.116・117・218・219 遺物観察表P.459)

位置 55-1-H-K-20-2 G**形状** 主柱穴位置から正方形と推定される。床面が残存しないので竪穴住居か平地式建物か確定はできない。四周に隅丸方形に廻る周溝が付属する。**重複** 無し**規模** 長軸4.0m以上 短軸3.90m以上

残存壁高 柱穴のみ残存のため計測不能

周溝外形 長軸13.0m 短軸12.7m

長軸方位 N-1°-W**埋没土** 主柱穴は、茶褐色土塊を含む、粘性のある暗褐色土で埋まっていた。周溝も茶褐色土塊を含む粘性のある暗褐色土で埋まっていた。**火処** 削平を受けて床面は残存していなかった。火処の存在はわからなかった。存在したとすれば、出土遺物の時期から短である可能性が高いと推定される。**柱穴** 周溝で囲まれた範囲のほぼ中央に4本の主柱穴が検出された。主柱穴の規模(長径×短径×残存深度m)は、P1が0.44×0.39×0.75m、P2が0.43×0.42×0.48m、P3が0.47×0.40×0.62m、P4が0.39×0.36×0.64mである。周溝と主柱穴の間の距離は、P1と西側周溝の間が3.13m、P2と東側周溝との間が3.40mである。

周溝で囲まれた範囲には、96~100P、111~120Pの15基のピットが検出されたが、深さ0.45mの117P以外は比較的浅く、配置の規格性等から考えても前述した主柱穴とは異なり、本遺構とは直接関わりないと考えたい。主柱穴以外の15基のピットの埋没土は、粘性としまりのある暗褐色土であり、主柱穴との明確な差はなかった。

周溝 周溝は南辺の中央やや西よりの一部を除き、全周していたと推定される。北辺は16年度調査区と20年度発掘区の接点にあたったために、完掘することができなかった。

周溝の幅は最も太い北隅で1.83m、細い北東部で0.3mである。北東部で細くなったのは、発掘区北縁に排水溝を掘ったために遺構確認面が下がったことによる。周

溝の深さは0.14~0.45mほどで、底面には凹凸があり、南西隅と東部がやや深くなっている。

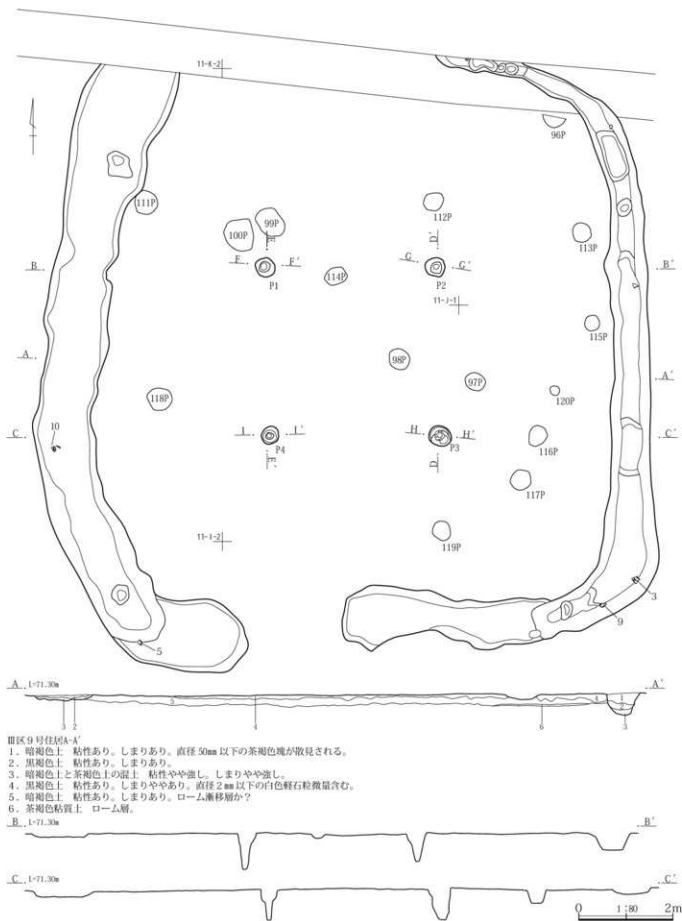
貯蔵穴 住居内の貯蔵穴は検出されなかった。**床面** 住居床面は検出されなかった。**遺物出土状況** 床面は検出されなかったが、主柱穴P2埋没土中からS字裏破片2点が出土した。また、遺構に伴う遺物として、西周溝南半部底面直上で土師器S字裏(第169図10)、南端部底面直上で土師器直口壺(5)が出土した。東周溝南東隅底面直上で土師器器台(3)、S字裏(9)が出土している。また屋外の東周溝埋没土中から土師器壺破片9点、高環破片1点、裏破片1点、S字裏破片27点、須恵器環1点が出土した。また、西周溝の埋没土中から、土師器壺破片4点、埴破片6点、裏破片54点、S字裏破片102点、小型裏破片3点、土師破片1点が出土した。**所見** 出土遺物から古墳時代前期の遺構と考えられる。主柱穴と周溝の軸線がほぼ一致することから、周溝をもつ建物と推定した。この型式の住居は、群馬県では上新田中道東遺跡のある玉村町を中心に類例が26基ほどある。この屋外周溝の機能について、排水溝という機能的な考え方と、周溝で囲み階層性を示しているという考え方がある。上新田中道東遺跡ではⅢ区の他にⅥ区微高地中央頂部にもう1棟がある。

また、周溝内にあるピットのうち、112号、113号、120号、98号ピットもそれぞれを結ぶと正方形になり、9号住居と同規模の竪穴住居の柱穴群とみること可能である。これらのピットと9号住居の新旧関係は不明であるが、この方形の主軸方位が3号掘立柱建物と一致することから、9号住居の段階と3号掘立柱建物の段階とが重複した遺構群と考えることも可能性である。

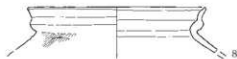
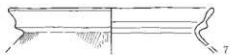
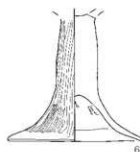
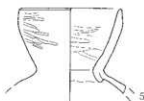
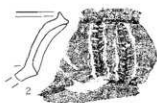
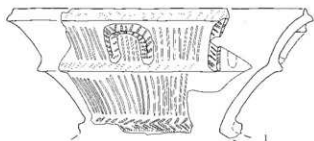
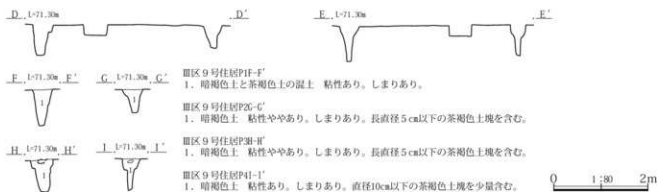
(2) 掘立柱建物

Ⅲ区2号掘立柱建物(第170図 PL.118)

位置 55-11-L・M-4・5 G**主軸方位** N-72°-W**重複** 46号、61号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。**形態** 1×1間(4.80m×3.00m・16尺×10尺)、面積14.4㎡の東西棟。柱間は桁行が4.50~4.80m、梁行が2.80~3.10m。



第168図 III区9号住居



0 1:3 5cm

第169図 Ⅲ区 9号住居の土層断面と出土遺物

第6章 古代～古墳時代の遺構と遺物

南西隅のP4が南辺と西辺の柱筋から内側にずれる以外は、柱筋にのる。桁行の柱間が長いことから建物でない可能性も残るが、東側に近接する3号掘立柱建物との柱筋方向の一致等から、建物と考えた。

いずれの柱穴でも明確な柱痕跡は検出できなかった。柱穴の形状は楕円形および不定型な楕円形で、規模は長径0.33～0.70m、短径0.30～0.63m、深さ0.42～0.49mで、大きさのばらつきは顕著であるが、深さはばらつきが少ない。

内部施設 無し

出土遺物 P1埋没土中からS字襖胴部破片1点、P3埋没土中からS字襖頸部破片1点、胴部破片2点が出土した。P4北東部の遺構確認面で土師器壺破片が出土した。

所見 柱穴は浅間C軽石や地山黄褐色ローム塊を含む黒褐色土で埋まっていることや、S字襖破片が出土していることから、古墳時代前期の建物跡と考えられる。

Ⅲ区3号掘立柱建物(第171図 PL.118～120)

位置 55-1・11-K・L-20・1 G

軸方位 N-25°-E

重複 74号、75号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。

形態 2×2間(3.21～3.22m×3.01m～3.05m・10.5尺×10尺)、面積9.79㎡の南北棟。柱間は桁行が1.48～1.55m、梁行が3.12～3.18m。北辺と南辺の中央に独立した棟持柱と推定される柱穴をもつ。

北東隅のP1が西側にずれる以外は、柱穴は柱筋にのる。P3とP9以外は断面で柱痕跡を確認できた。柱穴の形状は円形および楕円形で、規模は長径0.20～0.30m、短径0.18～0.26m、深さ0.20～0.46mで、ばらつきは少ない。

内部施設 無い。内部にP9を検出したが、内部施設とは考えにくい。

出土遺物 P1埋没土中からS字襖破片1点、P6埋没土中からS字襖破片2点、襖破片2点が出土した。

所見 柱穴は浅間C軽石や地山黄褐色ローム塊を含む黒褐色土で埋まっていることや、埋没土中からS字襖破片が出土していることから、古墳時代前期の建物跡と考えられる。

Ⅲ区4号掘立柱建物(第173図 PL.120)

位置 55-1-K・L-18 G

軸方位 N-8°-E

重複 51号土坑、34号溝と重複するが、いずれの遺構より古い。

形態 1×1間(1.64～1.75m×1.50m・5尺×5.2尺)、面積2.625㎡の東西棟。柱間は桁行が1.64～1.75m、梁行が1.50m。北辺と南辺に独立棟持柱をもつ。

いずれの柱穴も柱筋にのる。柱穴の形状は不整形形および楕円形で、規模は長径0.25～0.31m、短径0.23～0.26m、深さ0.10～0.21mで、ばらつきは極めて少ない。

内部施設 無い。**出土遺物** 遺物は出土しなかった。

所見 柱穴は浅間C軽石や地山黄褐色ローム塊を含む黒褐色土で埋まっていることから、古墳時代前期の建物跡と考えられる。他の掘立柱建物の柱間と比べると小規模であることから、竪穴住居の柱穴のみが残存した遺構と考えられることも可能であるが、貯蔵穴等の竪穴としての所見は見られなかったことから、掘立柱建物として報告した。

Ⅲ区5号掘立柱建物

(第172図 PL.120～122・219 遺物観察表P.459)

位置 55-1-L・M-7～9 G

軸方位 N-44°-E

重複 105号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。

形態 3×2間(6.49～6.76m×4.15～4.20m・22尺×14尺)、面積28.05㎡の東西棟。柱間は桁行が2.01～2.34m、梁行が4.15～4.20m。東辺と西辺に独立棟持柱をもつ。

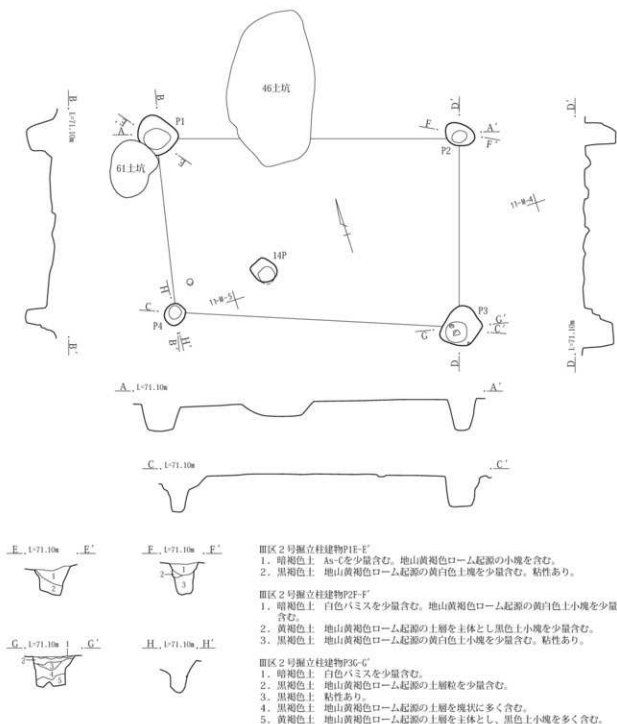
北辺は各柱穴とも柱筋を通るが、P3とP4の柱間は短い。南辺も柱筋を通るが、P7とP8の柱間が短い。したがって、相対するP2とP8は対応するが、P3とP7はややずれている。東辺と西辺の柱間は通っている。

いずれの柱穴も柱痕跡を確認できなかった。柱穴の形状は不整形形および楕円形で、規模は長径0.24～0.37m、短径0.16～0.32m、深さ0.21～0.49mで、ばらつきは少ない。

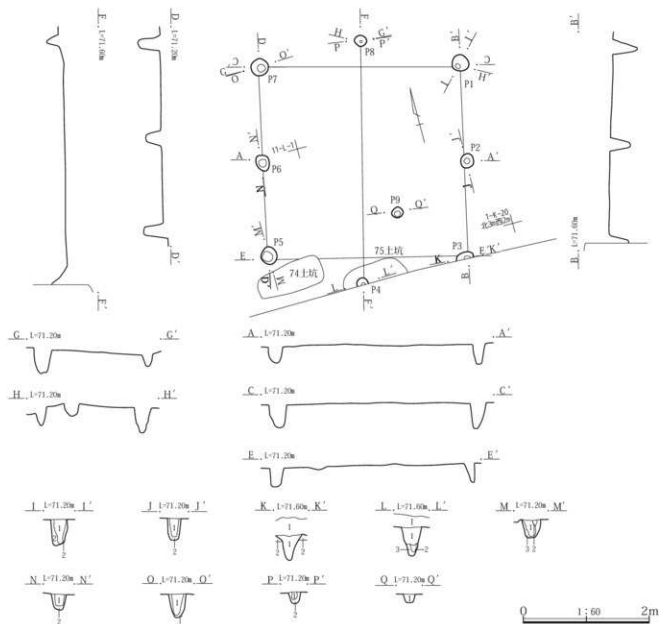
内部施設 明確に内部施設と言えるものは無かった。P5とP6の間に40号ピット、P6とP7の間の北側に79号土坑が検出された。79号土坑の長軸は柱筋に並行しており、配置に規格性が見られたが、付属施設と断定はできなかった。

出土遺物 P4埋没土下位から土師器ミニチュア蓋(第172図1)が出土した。またP8の北側の遺構確認面から須恵器裏破片(第191図15)が出土したが、混入である。他の柱穴からは遺物は出土しなかった。

所見 柱穴は浅間C軽石や地山黄褐色ローム塊を含む黒褐色土で埋まっていることや、柱穴埋没土下層から出土したミニチュア蓋形土器を重視して、古墳時代前期の建物跡と考えたい。



第170図 Ⅲ区2号掘立柱建物



Ⅲ区3号掘立柱建物P1-I'

1. 暗褐色土 白色バミスを少量含む。地山黄褐色ローム起源の黄白色土小塊を少量含む。
2. 黄褐色土 地山黄褐色ローム起源の上層を主体とし黒色土小塊を少量含む。しまりあり。

Ⅲ区3号掘立柱建物P2-J'

1. 黒褐色土 地山黄褐色ローム起源の上層を主体とし黒色土小塊を少量含む。しまりあり。
2. 黄褐色土 地山黄褐色ローム起源の黄褐色土を主体とし黒色土小塊を少量含む。かたしまっている。

Ⅲ区3号掘立柱建物P3-K'

1. 表土
1. 黒褐色土 粘性あまりない。
2. 暗褐色土 As-Cを少量含む。

Ⅲ区3号掘立柱建物P4-L'

1. 表土
1. 黒褐色土 白色バミスを少量含む。粘性なし。
2. 暗褐色土 地山黄褐色ローム起源の上を少量含む。
3. 暗褐色土 地山黄褐色ローム起源の上を塊状に含む。

Ⅲ区3号掘立柱建物P5-M'

1. 黒褐色土 粘性あまりなし。
2. 暗褐色土 地山黄褐色ローム起源の上を少量含む。
3. 黄褐色土 地山黄褐色ローム起源の上を主体とし、黒褐色土の小塊を少量含む。

Ⅲ区3号掘立柱建物P6-N'

1. 黒褐色土 白色バミスを少量含む。地山黄褐色ローム起源の黄褐色土小塊を少量含む。
2. 黄褐色土 地山黄褐色ローム起源の黄褐色土を主体とし黒色土小塊を少量含む。かたしまっている。

Ⅲ区3号掘立柱建物P7-O'

1. 暗褐色土 白色バミスを少量含む。地山黄褐色ローム起源の黄白色土小塊を少量含む。
2. 黄褐色土 地山黄褐色ローム起源の上層を主体とし黒色土小塊を少量含む。しまりあり。

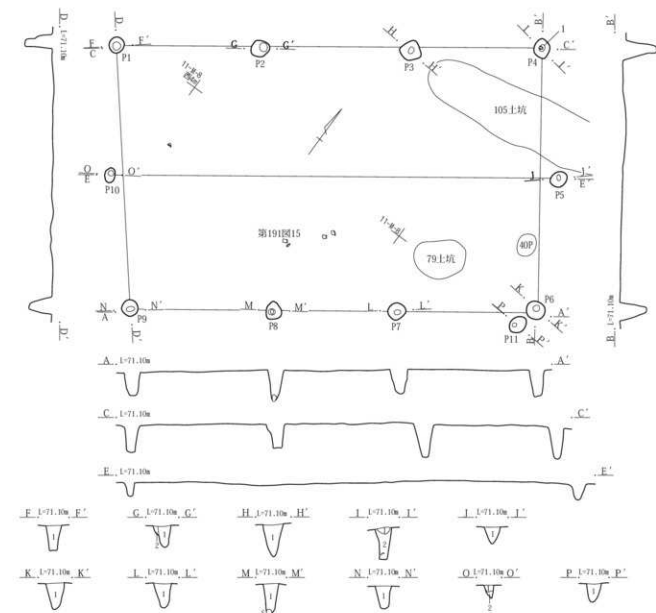
Ⅲ区3号掘立柱建物P8-P'

1. 黒褐色土 白色バミスを少量含む。粘性なし。
2. 黄褐色土 地山黄褐色ロームを主体とし黒褐色土を少量含む。

Ⅲ区3号掘立柱建物P9-Q'

1. 暗褐色土 白色バミスを少量含む。地山黄褐色ローム起源の黄白色土小塊を少量含む。

第171図 Ⅲ区3号掘立柱建物



0 1 2 4m

Ⅲ区 5号掘立柱建物P1F-F'

1. 暗褐色土 地山黄褐色ロームの黄褐色土小塊を少量含む。白色バミス少量含む。

Ⅲ区 5号掘立柱建物P2G-G'

1. 暗褐色土 地山黄褐色ロームの黄褐色土小塊を少量含む。白色バミス少量含む。
2. 黄褐色土 地山黄褐色ロームを主体とし黒色土小塊を多く含む。

Ⅲ区 5号掘立柱建物P3H-H'

1. 暗褐色土 地山黄褐色ロームの黄褐色土小塊を少量含む。白色バミス少量含む。

Ⅲ区 5号掘立柱建物P4I-I'

1. 暗褐色土 地山黄褐色ロームの黄褐色土小塊を少量含む。白色バミス少量含む。
2. 黒褐色土 白色バミスを少量含む。

Ⅲ区 5号掘立柱建物P5J-J'

1. 暗褐色土 地山黄褐色ロームの黄褐色土小塊を少量含む。白色バミス少量含む。

Ⅲ区 5号掘立柱建物P6K-K'

1. 暗褐色土 地山黄褐色ロームの黄褐色土小塊を少量含む。白色バミス少量含む。

Ⅲ区 5号掘立柱建物P7L-L'

1. 暗褐色土 地山黄褐色ロームの黄褐色土小塊を少量含む。白色バミス少量含む。

Ⅲ区 5号掘立柱建物P8M-M'

1. 暗褐色土 地山黄褐色ロームの黄褐色土小塊を少量含む。白色バミス少量含む。

Ⅲ区 5号掘立柱建物P9N-N'

1. 暗褐色土 地山黄褐色ロームの黄褐色土小塊を少量含む。白色バミス少量含む。

Ⅲ区 5号掘立柱建物P10O-O'

1. 暗褐色土 地山黄褐色ロームの黄褐色土小塊を少量含む。白色バミス少量含む。
2. 黄褐色土 地山黄褐色ロームを主体とし黒色土小塊を多く含む。

Ⅲ区 5号掘立柱建物P11P-P'

1. 暗褐色土 地山黄褐色ロームの黄褐色土小塊を少量含む。白色バミス少量含む。

第172図 Ⅲ区 5号掘立柱建物と出土遺物

(3) 柱穴列

Ⅲ区1号柱穴列(第173図 PL.122・123)

位置 55-11-L・M-9・10G

主軸方位 N-46°-E

重複 無し。

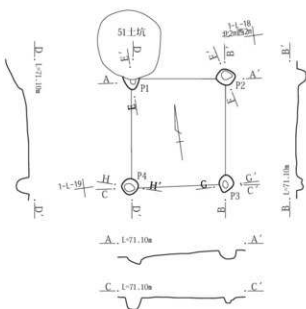
形態 3間(4.75m・15尺)分の柱穴列を検出した。柱間は1.51～1.63mで、ほぼ等間隔である。

各柱穴とも柱筋を通る。いずれの柱穴も柱痕跡を確認できなかった。柱穴の形状は不整形円形および楕円形で、

規模は長径0.21～0.26m、短径0.18～0.22m、深さ0.19～0.30mで、ばらつきは少ない。

出土遺物 遺物は出土しなかった。

所見 柱穴は黒褐色土で埋まっているが、同じ確認面で見つかった掘立柱建物の柱穴のように浅間C軽石を含んでいない。時期の特定は困難であるが、確認面が共通すること、5号掘立柱建物に隣接して、33号溝に沿った位置関係である等を考慮して、古墳時代前期の建物跡と考えておきたい。



Ⅲ区4号掘立柱建物P1E-E'

1. 黒褐色土 白色バミスを少量含む。

Ⅲ区4号掘立柱建物P2F-F'

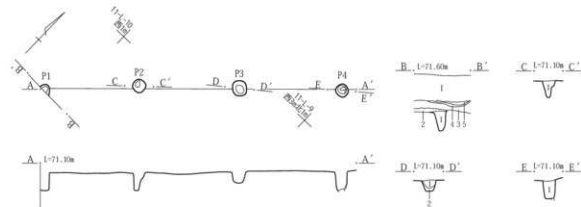
1. 黒褐色土 白色バミスを少量含む。
2. 暗褐色土 地山黄褐色ローム起源の黄褐色土小塊を多く含む。

Ⅲ区4号掘立柱建物P3G-G'

1. 黒褐色土 白色バミスを少量含む。
2. 暗褐色土 地山黄褐色ローム起源の黄褐色土小塊を多く含む。

Ⅲ区4号掘立柱建物P4H-H'

1. 黒褐色土 白色バミスを少量含む。
2. 暗褐色土 地山黄褐色ローム起源の黄褐色土小塊を多く含む。



Ⅲ区1号柱穴列P1B-B'

1. 表土
2. 黒褐色土 粘性なし。
3. 暗褐色土 地山黄褐色ローム起源の土を少量含む。
4. 灰褐色土 粘性あり。
5. 黒色粘質土
6. 黒色土 As-Bを含む。

Ⅲ区1号柱穴列P2C-C'

1. 黒褐色土 粘性なし。

Ⅲ区1号柱穴列P3D-D'

1. 黒褐色土 粘性なし。
2. 暗褐色土 地山黄褐色ローム起源の土を少量含む。

Ⅲ区1号柱穴列P4E-E'

1. 黒褐色土 粘性なし。



第173図 Ⅲ区4号掘立柱建物と1号柱穴列

(4) 土坑(第174~183図 PL.123~133・219 遺物観察表P.459・460)

Ⅲ区古代~古墳時代遺構面で検出された土坑は南区で21基、北区で67基、中央区で4基である。南区では中央から東部にかけての北寄りに偏在していた。北区では区全体に散在していた。いくつかの土坑は列状に分布する傾向が見られた。中央区の117号土坑は1号住居の屋外周溝の南辺に重複しているが、風倒木痕跡であった可能性が高い。それぞれの土坑の位置や規模は、P.432・433の表にまとめた。以下各遺構の調査所見を、南区-北区-中央区の順に記載する。

a. 南区の土坑

22号土坑は楕円形の土坑で、浅間C軽石を含まない黒色粘質土で埋まっていた。出土遺物はなかった。

23号土坑は円形の土坑で、浅間C軽石を含まない黒色粘質土で埋まっていた。出土遺物はなかった。埋没土から古墳時代前期の土坑と考えられる。

24号、25号土坑は北半分が調査区域外になってしまい、全形をとらえることができなかった。いずれも楕円形と推定される。両土坑とも灰白色砂塊を含む黒色土で埋まっていたが、25号土坑の最上層には浅間C軽石を含む黒褐色土も堆積していた。25号土坑埋没土から土師器破片4点が出土した。埋没土から古墳時代前期の土坑である可能性が高い。

26号土坑は楕円形の土坑で、上層は浅間C軽石を含む黒褐色土で、下層は灰白色砂塊を含む黒色土で埋まっていた。埋没土中から土師器環(第174図1)、須恵器環(2)、須恵器蓋(3)が出土している。2は27号土坑の埋没土から出出した破片と接合した。他に土師器破片3点、破片17点、須恵器環・椀破片2点が出土した。出土遺物の時期から9世紀前半ころの土坑と考えられる。

27号土坑も北半分が調査区域外で全形をとらえることができなかった。楕円形と推定される。上層は浅間C軽石を含む黒褐色土で、下層は灰白色砂塊を含む黒色土で埋まっていた。埋没土中から土師器破片1点、破片3点、S字破片6点、須恵器環破片2点が出土した。出土遺物から古代前半期の土坑と推定される。

28号土坑は北縁部が調査区域外となったが、楕円形の可能性が高い。周辺の土坑と同様に、上層は浅間C軽石

を含む黒褐色土で、下層は灰白色砂塊を含む黒色土で埋まっていた。埋没土中から土師器破片12点が出土した。古代から古墳時代の土坑であるが、時期は確定できない。

29号土坑は楕円形の土坑で、周辺の土坑と同様に、上層は浅間C軽石を含む黒褐色土で、下層は灰白色砂塊を含む黒色土で埋まっていた。埋没土中から土師器破片1点、破片9点が出土した。出土遺物から古代前半期の土坑と推定される。

30号土坑は隅丸方形、31号土坑は不整楕円形の土坑である。30号土坑も、上層は浅間C軽石を含む黒褐色土で、下層は灰白色砂塊を含む黒色土で埋まっていた。31号土坑も浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。両者の遺物の区別はできないが、土師器破片7点、S字破片7点が出土した。埋没土・出土遺物から古墳時代の土坑と推定される。

32号土坑は不整楕円形で、底面の凹凸が著しい。上層は浅間C軽石を含む黒褐色土で、下層は灰黄色粘質土で埋まっていた。埋没土中から土師器環(第174図4)が出土した。この他に土師器破片2点、破片5点が出土した。出土遺物から古墳時代終末期の土坑と推定される。

33号土坑は楕円形の土坑で、上層は浅間C軽石を含む黒褐色土で、下層は灰黄色粘質土で埋まっていた。埋没土中から土師器破片3点、破片9点が出土した。

34号土坑は楕円形の土坑で、浅いボール状をしていた。遺物は出土しなかった。

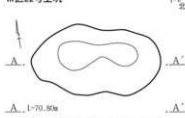
35号土坑は楕円形の土坑で上層は浅間C軽石を含む黒褐色土で、下層は灰黄色粘質土で埋まっていた。埋没土中から土師器破片4点が出土した。出土遺物から古墳時代の土坑と推定される。

36号土坑は小型の楕円形の土坑で、上層は浅間C軽石を含む黒褐色土で、下層は灰黄色粘質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。古代~古墳時代の土坑と推定される。

37号土坑は小型の楕円形の土坑で、上層は浅間C軽石を含む黒褐色土で、下層は灰黄色粘質土で埋まっていた。埋没土中から土師器破片1点、破片4点が出土した。古代~古墳時代の土坑と推定される。

38号土坑は小型の不整楕円形の土坑で、浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から土師器破片1点が出土した。古代~古墳時代の土坑と推定される。

Ⅲ区22号土坑



Ⅲ区22号土坑A-A'

1. 黒色粘質土 As-C下。

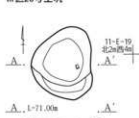
Ⅲ区23号土坑



Ⅲ区23号土坑A-A'

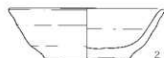
1. 黒色粘質土 As-C下。

Ⅲ区26号土坑



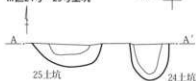
Ⅲ区26号土坑A-A'

1. 黒褐色土 白色バミスを少量含む、粘性・しまりあり。
2. 黒褐色土 灰白色砂塊を含む、粘性あり。



0 1:3 5cm

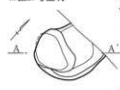
Ⅲ区24号・25号土坑



Ⅲ区24号・25号土坑A-A'

1. 黒色土 灰白色砂塊を含む、粘性あり。(24号土坑埋没土)
2. 黒色土 灰白色砂塊を少量含む、粘性あり。(24号土坑埋没土)
3. 黒色土 白色バミスを少量含む、粘性・しまりあり。(25号土坑埋没土)
4. 黒色土 灰白色砂塊を含む、粘性あり。(25号土坑埋没土)
5. 黒色土 灰白色砂塊を少量含む、粘性あり。(25号土坑埋没土)

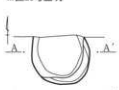
Ⅲ区27号土坑



Ⅲ区27号土坑A-A'

1. 黒褐色土 白色バミスを少量含む、粘性・しまりあり。
2. 黒褐色土 灰白色砂塊を含む、粘性あり。

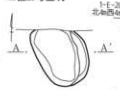
Ⅲ区28号土坑



Ⅲ区28号土坑A-A'

1. 黒褐色土 白色バミスを少量含む、粘性・しまりあり。
2. 黒褐色土 灰白色砂塊を含む、粘性あり。

Ⅲ区29号土坑



Ⅲ区29号土坑A-A'

1. 黒褐色土 白色バミスを少量含む、粘性・しまりあり。
2. 黒色土 灰白色砂塊を含む、粘性あり。

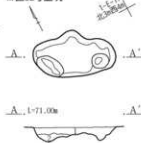
Ⅲ区30号・31号土坑



Ⅲ区30号・31号土坑A-A'

1. 黒褐色土 白色バミスを少量含む、粘性・しまりあり。(30号土坑埋没土)
2. 黒色土 灰白色砂塊を含む、粘性あり。(30号土坑埋没土)
3. 黒褐色土 白色バミスを少量含む、粘性・しまりあり。(31号土坑埋没土)

Ⅲ区32号土坑



Ⅲ区32号土坑A-A'

1. 黒色粘質土 As-C (1~3mm大の軽石) を少量含む。
2. 灰黄色粘質土



0 1:3 5cm

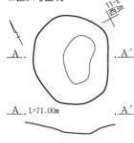
Ⅲ区33号土坑



Ⅲ区33号土坑A-A'

1. 黒色粘質土 As-C (1~3mm大の軽石) を少量含む。
2. 灰黄色粘質土

Ⅲ区34号土坑

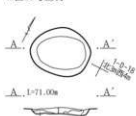


0 1:60 2m

第174図 Ⅲ区土坑(1)と出土遺物

4. Ⅲ区の遺構と遺物

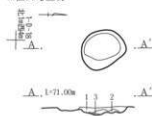
Ⅲ区35号土坑



Ⅲ区35号土坑A-A'

1. 黒色粘質土 As-C (1~3mm大の軽石)を少量含む。
2. 灰黄色粘質土

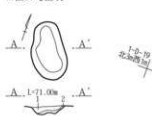
Ⅲ区36号土坑



Ⅲ区36号土坑A-A'

1. 黒灰色粘質土 As-C (1~3mm大の軽石)を少量含む。
2. 黒色粘質土 As-C (1~3mm大の軽石)を少量含む。
3. 灰黄色粘質土

Ⅲ区37号土坑



Ⅲ区37号土坑A-A'

1. 黒色粘質土 As-C (1~3mm大の軽石)を少量含む。
2. 灰黄色粘質土

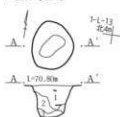
Ⅲ区38号土坑



Ⅲ区38号土坑A-A'

1. 黒色粘質土 As-C (1~3mm大の軽石)を少量含む。

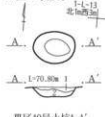
Ⅲ区39号土坑



Ⅲ区39号土坑A-A'

1. 黒褐色土 As-Cを少量含む。
2. 黒褐色土 地山黄褐色ローム起源の小塊を少量含む。
3. 暗褐色土 地山黄褐色ローム起源の小塊を多量含む。

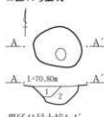
Ⅲ区40号土坑



Ⅲ区40号土坑A-A'

1. 黒褐色土 As-Cを少量含む。
2. 暗褐色土 地山黄褐色ローム起源の小塊を多量含む。

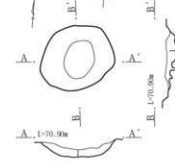
Ⅲ区41号土坑



Ⅲ区41号土坑A-A'

1. 黒褐色土 As-Cを少量含む。
2. 黒褐色土 地山黄褐色ローム起源の小塊を少量含む。

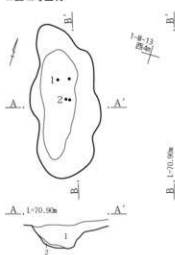
Ⅲ区43号土坑



Ⅲ区43号土坑A-A'

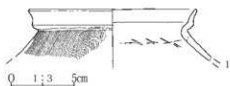
1. 黒褐色土 As-Cを少量含む。

Ⅲ区42号土坑

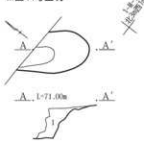


Ⅲ区42号土坑A-A' B-B'

1. 黒褐色土 As-Cを少量含む。
2. 暗褐色土 地山黄褐色ローム起源の上を少量含む。
3. 暗褐色土 地山黄褐色ローム起源の上を多量含む。



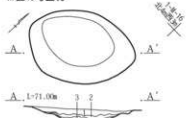
Ⅲ区44号土坑



Ⅲ区44号土坑A-A'

1. 黒褐色土 As-Cを少量含む。

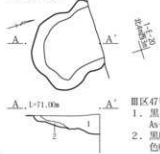
Ⅲ区45号土坑



Ⅲ区45号土坑A-A'

1. 黒褐色土 As-Cを少量含む。
2. 暗褐色土 地山黄褐色ローム起源の上を少量含む。
3. 暗褐色土 地山黄褐色ローム起源の上を多量含む。

Ⅲ区47号土坑



Ⅲ区47号土坑A-A'

1. 黒褐色粘質土 1~3mm大のAs-Cを少量含む。
2. 黒灰色粘質土 1~3mm大の白色軽石を微量含む。



第175図 Ⅲ区土坑(2)と出土遺物

47号土坑は北縁部が調査区域外となったが、不整形である可能性が高い。浅間C軽石を含む黒褐色粘質土で埋まっていた。埋没土中から土師器裏破片1点、S字裏破片7点が出土した。古代～古墳時代の土坑と推定される。

48号・49号土坑はそれぞれ小型の楕円形、円形の土坑で、浅間C軽石を含む黒褐色粘質土で埋まっていた。いずれも出土遺物はなかった。古代～古墳時代の土坑と推定される。

50号土坑は不整形楕円形の土坑で、断面形はボール状をしていた。浅間C軽石を含む黒色粘質土で埋まっていた。埋没土中から土師器裏破片1点が出土した。古代～古墳時代の土坑と推定される。

b. 北区の土坑

39号土坑は楕円形の土坑で、筒形の断面形をしていた。上層は浅間C軽石を含む黒褐色土で、下層は地山ローム塊を含む暗褐色土で埋まっていた。埋没土中から土師器裏破片が11点出土した。古代～古墳時代の土坑と推定される。

40号土坑は小型の楕円形の土坑で、上層は浅間C軽石を含む黒褐色土で、下層は地山ローム塊を含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

41号土坑は楕円形の土坑で、底面は狭く断面形はすり鉢状であった。上層は浅間C軽石を含む黒褐色土で、下層は地山ローム塊を含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

42号土坑は長軸の長い不整形楕円形で、上層は浅間C軽石を含む黒褐色土で、下層は地山ローム塊を含む暗褐色土で埋まっていた。中央部底面直上で土師器小型S字裏(第175図1・2)が出土した。また、底面近くから土師器高環破片1点、S字裏破片が1点出土した。埋没土中から土師器S字裏破片4点が出土した。出土遺物から古墳時代前期の土坑と推定される。

43号土坑は丸みのある楕円形の土坑で、浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

44号土坑は北半部が調査のための湧水対策溝で切れ、全形をとらえられなかったが、楕円形を推定される。浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

45号土坑は楕円形の土坑で、皿状の断面形をしていた。上層は浅間C軽石を含む黒褐色土で、下層は地山ローム塊を含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

46号土坑は大型の隅丸長方形の土坑で、上層は浅間C軽石と地山ローム塊を含む暗褐色土で、下層は地山ローム塊を含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から土師器裏破片が6点、S字裏破片5点が出土した。出土遺物から古代～古墳時代の土坑と推定される。

51号土坑は円形の土坑で、浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

52号、53号土坑はいずれも不整形の土坑で、接してあるいは重複して検出された。両土坑の新旧関係は不明である。浅間C軽石と地山ローム塊を含む黒褐色土、暗褐色土で埋まっていた。52号土坑の埋没土中から土師器裏破片1点が出土した。出土遺物から古代～古墳時代の土坑と推定される。

54号土坑は不整形楕円形の土坑で、上層は浅間C軽石を含む黒褐色土で、下層は地山ローム塊を含む暗褐色土で埋まっていた。埋没土中から土師器S字裏破片5点が出土した。出土遺物から古代～古墳時代の土坑と推定される。

55号土坑は楕円形の土坑で、浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。北部壁際底面直上で土師器環(第176図1)が、中央部床面直上で土師器裏(第176図2)が出土した。他に埋没土中から土師器裏破片1点が出土した。出土遺物から古墳時代後期の土坑と推定される。

56号土坑は大型の不整形楕円形の土坑で、皿状の断面形をしていた。96号、97号土坑、34号溝と重複していたが、いずれの遺構より古い。浅間C軽石や地山ローム塊を含む黒褐色土、暗褐色土で埋まっていたが、埋没土の上層には焼土層や、焼土塊を含む暗褐色土層が覆っていた。北西部で土師器小型S字裏(第177図1・2)が出土した。他に土師器裏破片11点、S字裏破片8点が出土した。出土遺物から古墳時代後期の土坑と推定される。

56号土坑に重複する97号土坑は隅丸三角形の不定形で、浅間C軽石を少量含む黒褐色土で埋まっていた。34号溝と重複するが、溝より古い遺構と考えられる。南西部を欠するが、楕円形と推定される。浅間C軽石を少量含む黒褐色土で埋まっていた。底面上24cmで須恵器環(第

4. Ⅲ区の遺構と遺物

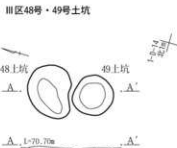
Ⅲ区46号土坑



Ⅲ区46号土坑A-A'

1. 暗褐色土 白色パミスと地山黄褐色ローム起源の小塊を多く含む。
2. 黒褐色土 白色パミスを少量含む。

Ⅲ区48号・49号土坑



Ⅲ区48号・49号土坑A-A'

1. 黒色粘質土 1～3mm大の軽石を少量含む。(48号土坑埋没上)
2. 黒色粘質土 1～3mm大の軽石を少量含む。(49号土坑埋没上)

Ⅲ区52号・53号土坑



Ⅲ区52号・53号土坑A-A'

1. 暗褐色土 As-Cを含む。地山起源の水性ロームを少量含む。
2. 黒褐色土 As-Cを含む。地山起源の水性ロームを微量含む。
3. 黒褐色土 As-Cを含む。地山起源の水性ロームを多量含む。

Ⅲ区50号土坑



Ⅲ区50号土坑A-A'

1. 黒色粘質土 1～3mm大の軽石を少量含む。

Ⅲ区51号土坑



Ⅲ区51号土坑A-A'

1. 黒褐色土 As-Cを少量含む。

Ⅲ区54号土坑



Ⅲ区54号土坑A-A'

1. 黒褐色土 As-Cを少量含む。
2. 暗褐色土 地山起源の水性ロームを塊状に少量含む。

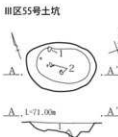
Ⅲ区57号土坑



Ⅲ区57号土坑A-A'

1. 黒褐色土 As-Cを少量含む。
2. 暗褐色土 酸化凝集斑文を多く含む。

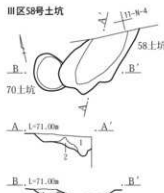
Ⅲ区55号土坑



Ⅲ区55号土坑A-A'

1. 黒褐色土 As-Cを少量含む。
2. 暗褐色土 酸化凝集斑文を多く含む。

Ⅲ区58号土坑



Ⅲ区58号土坑A-A'

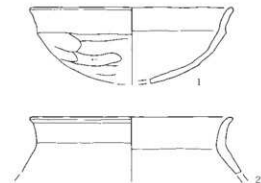
1. 黒褐色土 1～3mm大のAs-C軽石を少量含む。
2. 暗褐色土 酸化凝集斑文を多く含む。

Ⅲ区59号土坑



Ⅲ区59号土坑A-A'

1. 暗褐色土 1～3mm大のAs-C軽石を少量含む。
2. 黒褐色土 1～3mm大のAs-C軽石を少量含む。



第176図 Ⅲ区土坑(3)と出土遺物

0 1:60 2m

0 1:3 5cm

177図3)が出土した。出土遺物から8世紀ころの土坑と推定される。

57号土坑は北部が発掘区域外となったが、楕円形と推定される。浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

58号土坑は北部が発掘区域外となったが、楕円形と推定される。西部に70号土坑が重複するが、土層断面から本土坑が新しいと判断して、先に掘り下げた。浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から土師器坏破片(第176図3)が出土した。出土遺物から古墳時代後期の土坑と推定される。

70号土坑は小型の楕円形の土坑で、浅間C軽石を少量含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

59号土坑は円形の土坑で、中央やや東寄りに82号ピットが重複する。土坑の方が新しい。土坑は浅間C軽石を含む暗褐色土、黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から土師器裏破片5点、S字裏破片6点が出土した。出土遺物から古代～古墳時代の土坑と推定される。

60号土坑は調査当初は土坑と考えていたが、周辺の調査の進捗に伴って、2号掘立柱建物のP3と判断した。

61号土坑は小型の不整楕円形の土坑で、上層は浅間C軽石を含む暗褐色土で、下層は地山ローム塊を含む暗褐色土で埋まっていた。埋没土中から土師器S字裏破片1点が出土した。出土遺物から古墳時代前期の土坑と推定される。

62号土坑は小型の不整円形の土坑で、浅間C軽石や地山ローム塊を含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

63号土坑は大型の円形の土坑で、断面形は筒形である。上層は浅間C軽石や地山ローム塊を含む暗褐色土で、下層はしまりがないボソボソした黒褐色土で埋まっていた。上層にはS字裏(第177図5)が折り重なるようにして出土し、底面上12cmのところにはほぼ完形の土師器直口壺(第177図4)が倒れて出土した。また、埋没土中から土師器裏破片9点、S字裏破片102点が出土した。遺構の時期はこれらの出土遺物から古墳時代前期と推定される。底面は滞水層まで達しており、筒形の断面形からも井戸である可能性が高い。

64号土坑は北部が発掘区域外で全形をとらえられなかったが、不整楕円形と推定される。底面は凹凸が著し

い。浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

65号土坑は不整楕円形の土坑で、浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。西壁際底面上8cmのところから土師器S字裏(第178図1)が出土した。他に埋没土中から土師器裏破片13点、S字裏破片45点が出土している。出土遺物から古墳時代前期の土坑と推定される。

66号土坑は不整形の土坑で、西側に溝状の95号土坑が重複していた。95号土坑の方が新しい。また、33号溝の北東端部に位置する。本土坑は、上層は浅間C軽石や地山ローム塊を含む暗褐色土で、下層はローム粒や岩片を多量に含む暗褐色土やシルトで埋まっていた。比較的多くの遺物が出土した。東部底面上50cmで土師器坏(第178図2)が出土している。ほかに埋没土中から土師器増破片1点、坏2点、裏8点、S字裏破片14点が出土した。土坑の時期は図示した坏が出土していることから古墳時代後期と推定される。

95号土坑は溝状の楕円形の土坑で、浅間C軽石や地山ローム塊を含む暗褐色土で埋まっていた。北西に隣接する94号土坑と連続する遺構の可能性もある。遺物は出土しなかった。

67号土坑は楕円形の土坑で、浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中からS字裏破片2点が出土した。出土遺物から古墳時代前期の土坑と推定される。

68号土坑は小型円形の土坑で、断面形は筒形である。浅間C軽石や地山ローム塊を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

71号～73号土坑は、2号掘立柱建物と3号掘立柱建物の間に、建物の軸と合わせるような方向で、列状に検出された。71号土坑は大型楕円形の土坑で、浅間C軽石を少量含む暗褐色土で埋まっていた。底面の凹凸は著しい。

72号土坑は細長い隅丸長方形の土坑で、上層は浅間C軽石を少量含む暗褐色土で、下層は地山ローム塊の黄褐色土で埋まっていた。底面の凹凸が著しい。北西部壁際底面上6cmで、土師器高坏(第178図4)が出土した。また、埋没土中からS字裏(第178図3)が出土している。図示した他に、S字裏破片4点が埋没土中から出土した。出土遺物から古墳時代前期の土坑と推定される。

73号土坑は楕円形の土坑で、上層は浅間C軽石を少量含む黒褐色土で、下層は地山ローム塊を含む暗褐色土で

Ⅲ区56号・96号・97号土坑



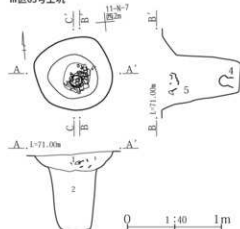
Ⅲ区56号・96号土坑A-A'・B-B'

1. 焼土
2. 暗褐色土 1~5cm大の焼土の塊を含む。As-Cを含む。
3. 暗褐色土 As-Cを少量含む。
4. 褐色土 地山黄褐色ローム起源の上を多量含む。
5. 暗褐色土 As-Cを微量含む。
6. 暗褐色土 As-Cを少量含む。地山黄褐色ローム起源の上を少量含む。
7. 黄褐色土 地山黄褐色ローム起源の上を主体とし、暗褐色土が少量混ざる。
8. 暗褐色土 地山黄褐色ローム起源の上を少量含む。
9. 暗褐色土 地山黄褐色ローム起源の上を10cm大の塊状に含む。
10. 暗褐色土 As-Cを少量含む。粘性あり。
11. 黒褐色土 As-Cを少量含む。粘性なし。

Ⅲ区97号土坑C-C'

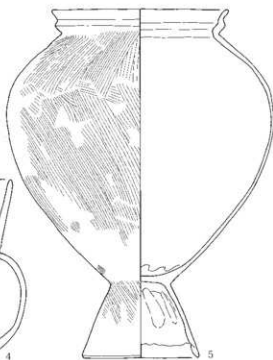
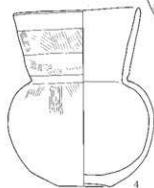
1. 黒褐色土 As-Cを少量含む。
2. 黒褐色土 地山黄褐色ローム起源の上を少量含む。As-Cを少量含む。
3. 暗褐色土 地山黄褐色ローム起源の上を少量含む。As-Cを少量含む。

Ⅲ区63号土坑



Ⅲ区63号土坑A-A'

1. 黒褐色土 少量含む。地山黄褐色ローム黄褐色土小塊を少量含む。
2. 黒褐色土 全体にしまりなく、ボツボツした感じ。



0 1:3 5cm

第177図 Ⅲ区土坑(4)と出土遺物

埋まっていた。遺物は出土しなかった。

74号・75号土坑は3号掘立柱建物の南辺に接する位置に並んで検出された。74号土坑は細長い隅丸長方形の土坑で、上層は浅間C軽石を多く含む黒褐色土で、下層は地山ローム塊を少量含む黒褐色土で埋まっていた。多量の土器が出土した。中央やや北側の底面上14cmで土師器壺(第179図1)が、中央から南壁沿いにかけての底面上7cmでS字襷(第179図2)が出土した。埋没土中からはS字襷破片57点が出土したが、図示できるほどは接合できなかった。出土遺物から古墳時代前期の土坑と考えられる。

75号土坑は南半部が調査区域外となり、全形をとらえることができなかったが、楕円形と推定される。地山ローム塊を含む暗褐色土で埋まっていた。北壁際底面上13cmで土師器小型丸底壺(第179図3)が出土した。また、埋没土中から襷破片2点、S字襷破片5点が出土した。出土遺物から古墳時代前期の土坑と考えられる。

76号土坑は細長い楕円形の土坑で、4号掘立柱建物の西側で検出された。主軸は建物とやや異なる。上層は浅間C軽石を少量含む暗褐色土で、下層は地山ローム小塊を含む暗褐色土で埋まっていた。埋没土中から土師器環破片1点、S字襷破片11点が出土した。南東部壁際には礫が2個出土した。出土遺物から古墳時代前期の土坑と推定される。

77号土坑は楕円形の土坑で、5号掘立柱建物のほぼ中央の南東側に軸を合わせるような位置に掘られていた。さらに南東側には33号溝がある。周囲にはピットが1基あるのみである。本土坑は、上層は浅間C軽石を少量含む暗褐色土で、下層は地山ローム小塊を含む暗褐色土で埋まっていた。北東部の底面には焼土塊があった。遺物は出土しなかった。

78号土坑は円形の土坑で、上層は浅間C軽石を少量含む暗褐色土で、下層は地山ローム小塊を含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

79号土坑は楕円形の土坑で、上層は浅間C軽石を少量含む暗褐色土で、下層は地山ローム小塊を含む暗褐色土で埋まっていた。本土坑は5号掘立柱建物の南東部にあり、長軸が建物の主軸と一致していることから、建物の付属施設の可能性も否定できない。遺物は出土しなかった。

80号土坑は不整楕円形で、1号柱穴列の北側で検出された。浅間C軽石や地山ローム小塊を少量含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

81号土坑と101号土坑は重複して検出された。埋没土の違いから81号土坑の方が新しいと確認し、掘り下げた。81号土坑は不整楕円形で、5号掘立柱建物の北西隅の外側で検出された。80号土坑と結んだ線は、1号柱穴列や5号掘立柱建物の軸と近似している。浅間C軽石や地山ローム小塊を少量含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

101号土坑は81号土坑と重複していたことから全形をとらえられなかったが、楕円形と推定される。地山ローム塊を含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

82号土坑は大型の長方形土坑で、1号柱穴列の北側で検出されたが、軸線は異なる。浅間C軽石や地山ローム小塊を少量含む暗褐色土で埋まっていた。埋没土中から土師器襷破片1点、S字襷破片6点が出土した。出土遺物から古墳時代前期の土坑と推定される。

83号土坑は楕円形の土坑で、浅間C軽石を少量含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から土師器襷破片4点が出土した。出土遺物から古墳時代前期の土坑と推定される。

84号土坑は楕円形の土坑で、地山ローム小塊を含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

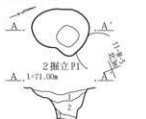
85号、86号、91号土坑は、北区東部で近接して検出された大型土坑である。特に91号土坑を間に挟んだ85号、86号土坑は周囲に土器が多数出土し、埋没土中に焼土を含み、上層を焼土が覆っていること等共通点が多い。

85号土坑は楕円形の土坑で、下層は焼土塊を含む黒褐色土等で埋まり、上位には赤褐色焼土が覆うように堆積していた。焼土の範囲は、北西方向にやや広がっていた。遺物は底面から5～10cmほど浮いた状態で出土した。図示したのは、東部で出土した土師器小型丸底壺(第180図1)と土師器鉢(第180図2)である。他に埋没土中から土師器環破片1点、襷破片9点、S字襷44点が出土した。S字襷は多くの破片が出土したが、図示できるほど接合できなかった。これらの出土遺物から古墳時代前期の土坑と考えられる。

86号土坑は隅丸長方形の土坑で、底面は凹凸が著しい。

4. Ⅲ区の遺構と遺物

Ⅲ区61号土坑



Ⅲ区61号土坑A-A'

1. 暗褐色土 白色バミスを地山黄褐色ローム起源の土小塊を多く含む。
2. 黒褐色土 白色バミスを少量含む。
3. 暗褐色土 地山黄褐色ローム起源の小塊を少量含む。

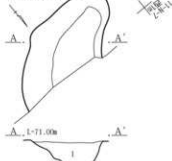
Ⅲ区62号土坑



Ⅲ区62号土坑A-A'

1. 暗褐色土 As-Cを含む。地山黄褐色ローム起源の土を少量含む。
2. 黒褐色土 As-Cを少量含む。

Ⅲ区64号土坑



Ⅲ区64号土坑A-A'

1. 黒褐色土 As-Cを少量含む。粘性あり。

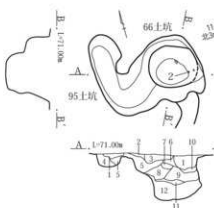
Ⅲ区65号土坑



Ⅲ区65号土坑A-A'

1. 黒褐色土 As-Cを少量含む。粘性あり。

Ⅲ区66号・95号土坑



Ⅲ区66号・95号土坑A-A'

1. 暗褐色粘質土 As-Cを少量含む。
2. 暗褐色土 As-Cを少量含む。地山起源の水溶性ローム土を少量含む。
3. 暗褐色土 As-Cを少量含む。地山起源の水溶性ローム塊状を含む。
4. 暗褐色粘質土 As-Cを少量含む。地山起源の水溶性ローム塊を少量含む。
5. 暗褐色土 地山起源の水溶性ローム土を微量に含む。
6. 黒褐色土 地山起源の水溶性ローム土を微量に含む。
7. 褐色土 酸化凝集した岩片を多量に含む。
8. 暗褐色シルト質土 酸化凝集した岩片を少量含む。
9. 暗褐色土 地山黄褐色ローム起源の土を多量に含む。
10. 暗褐色土 地山黄褐色ローム起源10~15cm大の塊土を含む。
11. 黒褐色粘質土
12. 灰白色粘土 地山灰白色水溶性ロームを主体とし黒色土小塊を少量含む。



Ⅲ区67号土坑



Ⅲ区67号土坑A-A'

1. 黒褐色土 As-Cを少量含む。粘性あまりなし。

Ⅲ区68号土坑



Ⅲ区68号土坑A-A'

1. 暗褐色粘質土 As-Cを少量含む。
2. 黒褐色土 地山黄褐色ローム起源の土を微量に含む。
3. 暗褐色土 地山黄褐色ローム起源の土を含む。
4. 黒褐色土
5. 暗褐色粘質土 地山黄褐色ローム起源の土を微量に含む。

Ⅲ区68号土坑A-A'

1. 暗褐色粘質土 As-Cを少量含む。
2. 黒褐色土 地山黄褐色ローム起源の土を微量に含む。
3. 暗褐色土 地山黄褐色ローム起源の土を含む。
4. 黒褐色土
5. 暗褐色粘質土 地山黄褐色ローム起源の土を微量に含む。

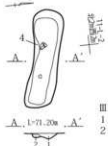
Ⅲ区71号土坑



Ⅲ区71号土坑A-A'

1. 暗褐色土 白色バミスを少量含む。

Ⅲ区72号土坑



Ⅲ区72号土坑A-A'

1. 暗褐色土 白色バミスを少量含む。
2. 黄褐色土 地山黄褐色ローム起源の黄褐色土を主体とし、黒色土小塊を少量含む。



0

1;3

5cm

Ⅲ区73号土坑



Ⅲ区73号土坑A-A'

1. 黒褐色土 白色バミスを少量含む。
2. 暗褐色土 地山黄褐色ローム起源の黄褐色土粒を多く含む。

0

1;60

2m

第178図 Ⅲ区土坑(5)と出土遺物

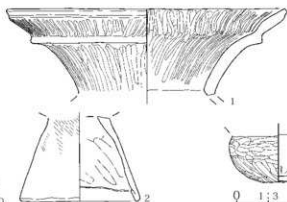
第6章 古代～古墳時代の遺構と遺物

Ⅲ区74号土坑

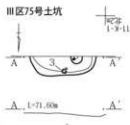


Ⅲ区74号土坑A-A'

1. 黒色土 As-Bを多く含む。
2. 黒褐色土 白色バミスを多く含む。
3. 暗褐色土 As-C少量含む。
4. 黒褐色土 地山黄褐色ローム起源の黄褐色土小塊を少量含む。



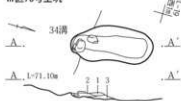
Ⅲ区75号土坑



Ⅲ区75号土坑A-A'

1. 表土
2. 暗褐色土 地山黄褐色ローム起源の黄褐色土小塊を少量含む。

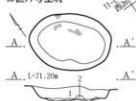
Ⅲ区76号土坑



Ⅲ区76号土坑A-A'

1. 暗褐色土 As-Cを少量含む。
2. 暗褐色土 地山ローム起源の黄褐色土を少量含む。
3. 暗褐色土 酸化凝集岩を少量含む。粘性あまりない。

Ⅲ区77号土坑



Ⅲ区77号土坑A-A'

1. 暗褐色土 As-Cを少量含む。
2. 暗褐色土 地山黄褐色ローム起源の土を少量含む。

Ⅲ区78号土坑



Ⅲ区78号土坑A-A'

1. 暗褐色土 As-Cを少量含む。
2. 暗褐色土 地山黄褐色ローム起源の土を少量含む。

Ⅲ区79号土坑



Ⅲ区79号土坑A-A'

1. 暗褐色土 As-Cを少量含む。
2. 暗褐色土 地山黄褐色ローム起源の土を少量含む。
3. 暗褐色土 地山黄褐色ローム起源の土を微量に含む。

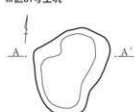
Ⅲ区80号土坑



Ⅲ区80号土坑A-A'

1. 暗褐色土 白色バミスを少量含む。地山黄褐色水性ローム小塊を少量含む。
2. 黒褐色土 白色バミスを少量含む。

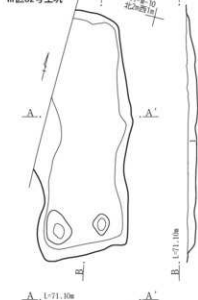
Ⅲ区81号土坑



Ⅲ区81号土坑A-A'

1. 暗褐色土 白色バミスを少量含む。地山黄褐色水性ローム小塊を少量含む。

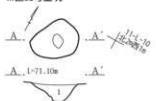
Ⅲ区82号土坑



Ⅲ区82号土坑A-A'

1. 暗褐色土 白色バミスを少量含む。地山黄褐色水性ローム小塊を少量含む。

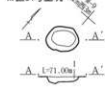
Ⅲ区83号土坑



Ⅲ区83号土坑A-A'

1. 黒褐色土 白色バミスを少量含む。

Ⅲ区84号土坑



Ⅲ区84号土坑A-A'

1. 暗褐色土 地山黄褐色ローム起源の黄褐色土を塊状に少量含む。

Ⅲ区87号土坑



Ⅲ区87号土坑A-A'

1. 暗褐色土 地山黄褐色ローム小塊を多く含む。



第179図 Ⅲ区土坑(6)と出土遺物

下層は焼土塊を含む黒褐色土や暗褐色土で埋まり、上層には赤褐色焼土が覆うように堆積していた。焼土の範囲は、南西部にやや偏っており、土坑の南側にも及んでいた。土坑内からは遺物は出土しなかったが、西側と南側の遺構確認で遺物が集中して出土した。南側の1-K-15グリッドでは土師器甕破片1点、S字甕破片17点が出土した。図示したS字甕(第192図36)もここで出土した。西側の1-L-15・16グリッドでは土師器壺破片15点、埴破片8点、高坏破片1点、S字甕破片46点が出土した。図示したS字甕(第192図33)もここで出土した。

91号土坑は不整楕円形の土坑で、上層は浅間C軽石を少量含む暗褐色土で、下層は地山ローム小塊を含む暗褐色土で埋まっていた。埋没土中位には焼腐が確認できた。埋没土中からS字甕破片4点が出土した。出土遺物から古墳時代前期の土坑と推定される。

89号土坑は隅丸長方形の土坑で、86号土坑の南西部で検出された。上層は浅間C軽石を少量含む暗褐色土で、下層は地山ローム小塊を含む暗褐色土で埋まっていた。焼土はない。底面より数10cm浮いた状態で、土師器直口壺(第180図3)、S字甕(4・5)が出土した。S字甕破片8点、埋没土中から16点出土した。出土遺物から古墳時代前期の土坑と推定される。

87号土坑は楕円形の土坑で、地山ローム小塊を含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

88号土坑は小型の不整形の土坑で、地山ローム小塊を含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

90号土坑は楕円形の土坑で、上層は浅間C軽石や焼土を少量含む暗褐色土で、下層は地山ローム小塊を含む暗褐色土で埋まっていた。上位には焼土が広がっているとあった。南東部には92号土坑が近接している。周囲には遺構確認で遺物が出土した。埋没土中から土師器甕破片1点、S字甕破片4点が出土した。

92号土坑は楕円形の土坑で、浅間C軽石や焼土を少量含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

93号土坑は楕円形の土坑で、上層は浅間C軽石や地山ローム塊を含む黒褐色土で、下層は地山ローム小塊を含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

94号土坑は溝状の土坑で、西側は丸まっている。上層は地山ローム小塊を含む暗褐色土で、下層は浅間C軽石を少量含む黒褐色土で埋まっていた。東端部床面直上で

土師器S字甕(第180図6)が出土した。また、埋没土中から土師器甕破片36点、S字甕破片29点が出土した。出土遺物から古墳時代前期の土坑と考えられる。

98号土坑は楕円形の土坑で、浅間C軽石や地山ローム塊を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

99号、100号土坑は重複して検出された。99号土坑の方が新しい。99号土坑はほぼ円形の土坑で、浅間C軽石や地山ローム塊を含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から土師器甕破片1点が出土した。100号土坑は北側が99号土坑に切られているために全形をとらえられなかったが、円形に近い形態と推定される。浅間C軽石を多く含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

102号土坑は3号掘立柱建物の北側で検出された。小型の楕円形土坑である。浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

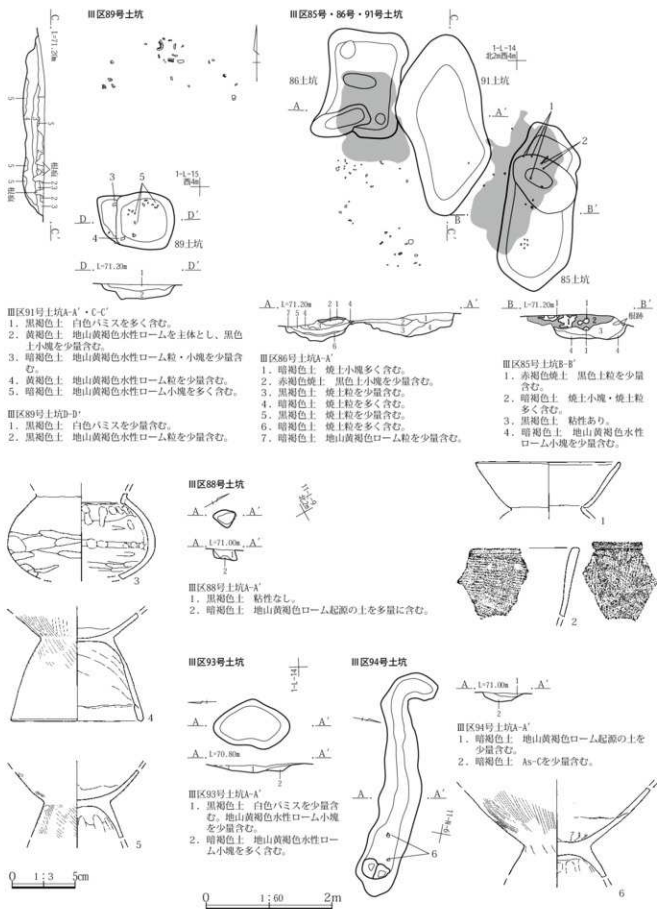
103号土坑は北側が発掘区域外となって全形をとらえられなかったが、楕円形と推定される。浅間C軽石や地山ローム塊を少量含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

104号土坑は隅丸長方形の土坑で、浅間C軽石や地山ローム塊を少量含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

105号土坑は5号掘立柱建物と重複して検出された。新旧関係は不明である。溝状の長楕円形で、浅間C軽石や地山ローム塊を少量含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

106号、107号土坑は大型の不定型な土坑である。新旧関係は不明である。浅いが、埋没土の様相からは数次の掘り替えと排土の重なりと推定される。塊の大きさや混ざり具合の異なる地山ローム塊と黒色土あるいは暗褐色土の混合土で埋まっていた。107号土坑の埋没土から土師器壺破片23点、S字甕破片9点、須恵器環破片1点が出土した。遺構の時期は、最も新しい須恵器環を重視すれば古代であるが、大半の遺物は古墳時代前期である。ここでは古代～古墳時代の遺構としておきたい。

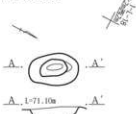
108号、109号土坑は長軸を北に向けて隣接して検出された。108号土坑は不整楕円形で、106号土坑と同様な塊の大きさや混ざり具合の異なる地山ローム塊と黒色土あるいは暗褐色土の混合土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。109号土坑は隅丸長方形で、西壁と南壁で一



第180図 Ⅲ区土坑(7)と出土遺物

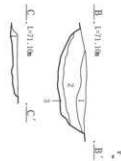
4. Ⅲ区の遺構と遺物

Ⅲ区98号土坑



Ⅲ区98号土坑A-A'

1. 黒褐色土 白色バミスを少量含む。地山黄褐色水性ローム小塊を少量含む。



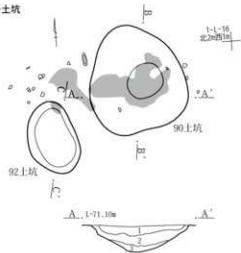
Ⅲ区90号土坑A-A'・B-B'

1. 黒褐色土 As-Cを多く含む。焼土小塊を少量含む。
2. 黒褐色土 焼土粒ごく少量含む。
3. 暗褐色土 地山黄褐色水性ローム小塊を少量含む。

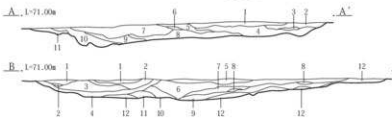
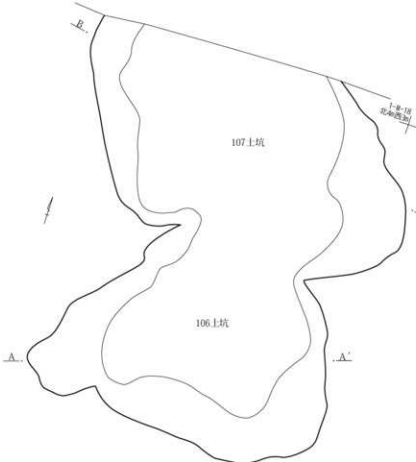
Ⅲ区92号土坑C-C'

1. 黒褐色土 白色バミスを多く含む。

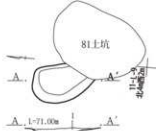
Ⅲ区90号・92号土坑



Ⅲ区106号・107号土坑



Ⅲ区101号土坑



Ⅲ区101号土坑A-A'

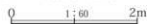
1. 黒褐色土 地山黄褐色ローム起源の上を5~10cmの塊状に含む。

Ⅲ区106号土坑A-A'

1. 黒褐色土 白色バミスを多く含む。
2. 黒褐色土 地山黄褐色ローム小塊を少量含む。
3. 暗褐色土 地山黄褐色ローム塊を多く含む。
4. 黒褐色土 地山黄褐色ローム小塊を少量含む。
5. 黄褐色土 地山黄褐色ロームを主体とし、黒色土小塊を少量含む。
6. 黒褐色土 地山黄褐色ローム粒を少量含む。
7. 黄褐色土 地山黄褐色ロームを主体とし、黒色土小塊を少量含む。
8. 暗褐色土 地山黄褐色ローム小塊を少量含む。
9. 黄褐色土 地山黄褐色ロームを主体とし、黒色土小塊を少量含む。
10. 黄褐色土 地山黄褐色ロームを主体とし、黒色土粒を少量含む。
11. 黒褐色土 地山黄褐色ローム小塊を少量含む。

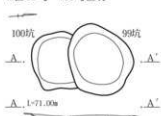
Ⅲ区107号土坑A-A'

1. 黄褐色土 地山黄褐色ロームを主体とし、黒色土小塊を少量含む。
2. 暗褐色土 地山黄褐色ローム小塊を少量含む。
3. 黄褐色土 地山黄褐色ロームを主体とし、黒色土小塊を多く含む。
4. 暗褐色土 地山黄褐色ローム小塊を少量含む。
5. 黒褐色土 白色バミスを多く含む。
6. 暗褐色土 地山黄褐色ローム塊を多く含む。
7. 暗褐色土 6層に類似するがやや黒味が強い。
8. 赤褐色焼土 黄褐色ローム小塊を少量含む。
9. 暗褐色土 地山黄褐色ローム塊を多く含む。
10. 黄褐色土 地山ロームを主体とし、黒色土粒を少量含む。
11. 黒褐色土 地山ローム小塊を少量含む。
12. 暗褐色土 地山ローム小塊を多く含む。



第181図 Ⅲ区土坑(8)

Ⅲ区 99号・100号土坑



Ⅲ区99号・100号土坑A-A'

1. 暗褐色土 白色パミスを多く含む。地山黄褐色水性ローム小塊を少量含む。
2. 黒褐色土 白色パミスを多く含む。

Ⅲ区 102号土坑



Ⅲ区102号土坑A-A'

1. 黒褐色土 As-Cを少量含む。粘性なし。

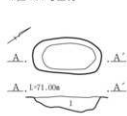
Ⅲ区 103号土坑



Ⅲ区103号土坑A-A'

1. 暗褐色土 地山黄褐色ローム起源の上を少量含む。粘性あり。As-Cを少量含む。

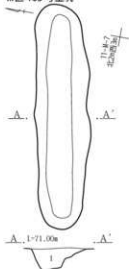
Ⅲ区 104号土坑



Ⅲ区104号土坑A-A'

1. 暗褐色土 地山黄褐色ローム起源の上を少量含む。粘性あり。As-Cを少量含む。

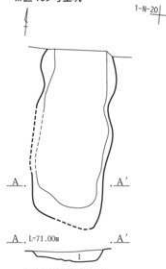
Ⅲ区 105号土坑



Ⅲ区105号土坑A-A'

1. 暗褐色土 As-Cを少量含む。粘性あり。地山黄褐色ローム起源の上を少量含む。

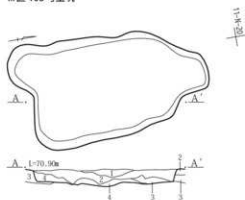
Ⅲ区 109号土坑



Ⅲ区109号土坑A-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。地山黄褐色ローム起源の上を少量含む。

Ⅲ区 108号土坑



Ⅲ区108号土坑A-A'

1. 黄褐色土 地山ロームを主体とし、黒色土小塊を少量含む。
2. 黒褐色土 地山ローム小塊を少量含む。
3. 黄褐色土 地山ロームを主体とし、黒色土小塊を少量含む。
4. 暗褐色土 地山ローム小塊を非常に多く含む。

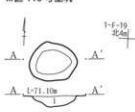
Ⅲ区 114号土坑



Ⅲ区114号土坑A-A'

1. 暗褐色土 粘性やや強し。しまりあり。径80mmの茶褐色土塊含む。下層部は水がついている。
2. 黒褐色土 粘性ややあり。しまりあり。
3. 褐色土 粘性あり。しまりあり。

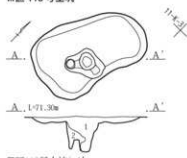
Ⅲ区 116号土坑



Ⅲ区116号土坑A-A'

1. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。褐色土塊がしまりに散見される。

Ⅲ区 118号土坑



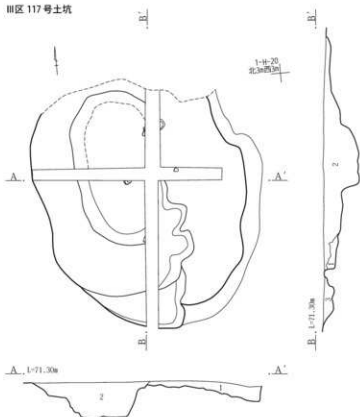
Ⅲ区118号土坑A-A'

1. 暗褐色土と茶褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。
2. 茶褐色土 粘性あり。しまりあり。

0 1:60 2m

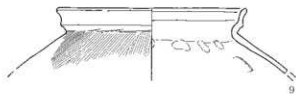
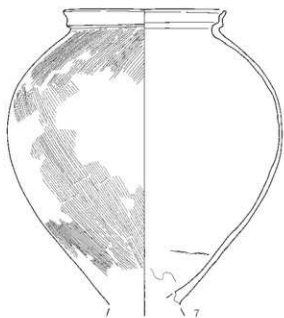
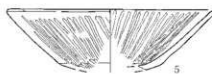
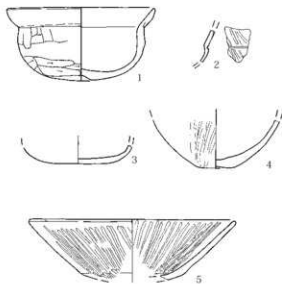
第182図 Ⅲ区土坑(9)

Ⅲ区 117号土坑



Ⅲ区 117号土坑A-A'・B-B'

1. 黒褐色土と茶褐色土の混土。粘性弱し。しまりややあり。風倒木によりロームが持ち上がり、黒褐色土との混土となる。
2. 黒褐色土。粘性あり。しまりあり。
3. 暗褐色土。粘性ややあり。しまりややあり。



0 1:3 5cm

第183図 Ⅲ区土坑(10)と出土遺物

部検出できないところがあった。地山ローム塊を含むと黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

c. 中央区の土坑

114号土坑は楕円形の浅い土坑の内部にピットが掘られた形態をしている。ピットは茶褐色土塊を含む暗褐色土で埋まっていた。埋没土中から土師器壺破片1点、S字襷破片11点が出土した。古代面を調査・記録したが、古墳時代前期の土器が出土していることから、古墳時代前期の遺構と考えたい。

116号土坑は小型の楕円形で、褐色土塊を含む暗褐色土で埋まっていた。埋没土中から土師器S字襷破片9点が出土した。古代面を調査・記録したが、古墳時代前期の土器が出土していることから、古墳時代前期の遺構と考えたい。

117号土坑は不整形の土坑で、埋没土の観察からは倒木痕跡と推定される。1号住居屋外周溝の南端部に重複して検出されたが、本倒木痕の方が新しい。埋没土中から、土師器壺破片10点、増破片149点、環破片9点、襷破片160点、S字襷破片242点、須恵器椀破片2点が出土した。古墳時代前期の遺物が大半を占めるが、いずれも屋外周溝内にあった遺物が倒木痕に巻き込まれたものと推定される。本土坑の時期は古墳時代前期より新しいが、住居との関連から本項で記載した。

118号土坑は隅丸長方形の浅い土坑の中央やや東寄りに小ピットが2基掘られた形態を示していた。粘性・しまりのある暗褐色土・茶褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。114号・116号土坑と埋没土が共通することから、古墳時代の遺構として推定し、本項で記載した。

(5) ピット

(第184～186図 PL.134～137 遺物観察表P.460)

Ⅲ区の古代～古墳時代遺構面から検出したピットは、南区で1基、北区で77基、中央区で18基である。

北区で検出した77基のピットのうち、31基のピットは掘立柱建物4棟、柱穴1基の柱穴として報告したので、ここでピットとして報告するのは北区で46基、南区で1基である。これらのピットはほとんどが浅間C軽石と推定される白色軽石を含む黒褐色土で埋まっており、すべてではないが古墳時代前期の遺物を出土することから、

古代～古墳時代遺構面の遺構として報告した。

中央区では、全体で22基のピットを検出した。このうち、4基は屋外周溝付整穴住居の柱穴として抽出したので、ここでピットとして報告するのは18基である。いずれも粘性のある暗褐色土で埋まっていたとの記載があるが、浅間C軽石との関連は不明である。ピットのすべてではないが古墳時代前期の遺物を出土することから、周辺のピットも含め18基のピットを古代～古墳時代遺構面として報告した。

それぞれのピットの位置や規模は、P.436-437の表にまとめた。以下各調査区のピットの調査所見を記載する。

a. 南区のピット

南区では、中央やや西側の北辺で8号ピットが1基検出されたのみである。上層は浅間C軽石を少量含む黒色粘質土で、下層は灰黄色粘質土で埋まっていた。埋没土中からS字襷破片2点が出土した。

b. 北区のピット

北区では、9号～14号、19号～21号、23号～27号、29号、31号、37号～40号、43号、57号～60号、63号～72号、75号～84号ピットが発掘区全域に分布していた。特に3号掘立柱建物西側、4号掘立柱建物東側に集中する傾向がある。規格的な配置等は見られなかった。

いずれのピットも、浅間C軽石と推定される白色軽石を少量含み、地山の黄褐色ロームや黄白色土塊を含む暗褐色土で埋まっていた。75号～84号土坑の埋没土には浅間C軽石の記載がないが、他のピットと確認面や層位が共通することから、古墳時代から古代にかけての遺構と考えた。遺物の出土はあまり多くなかった。出土遺物からピットの時期を特定するのは困難と言わざるを得ないが、下記のような遺物が出土している。

14号ピットは2号掘立柱建物の内部にあり、断面形は細い筒状。建物に関連する遺構の可能性もある。14号ピット埋没土中からは土師器環(第184図1)が出土した他、土師器壺破片18点、環破片11点、S字襷48点が出土した。遺構の時期は出土土器から古墳時代後期と考えられる。

20号ピット埋没土中から土師器襷破片1点出土した。

59号ピット埋没土中から土師器S字襷破片2点が出土した。

Ⅲ区8号ピット



- Ⅲ区8号ピットA-A'
1. 黒色粘質土 1~3mmのAs-C軽石を少量含む。
 2. 灰黄色粘質土

Ⅲ区9号ピット



- Ⅲ区9号ピットA-A'
1. 黒褐色土 As-Cを少量含む。

Ⅲ区10号ピット



- Ⅲ区10号ピットA-A'
1. 黒褐色土 As-Cを少量含む。

Ⅲ区11号ピット



- Ⅲ区11号ピットA-A'
1. 黒褐色土 As-Cを少量含む。
 2. 暗褐色土 地山黄褐色ロームを主体とし、黒色土小塊を少量含む。

Ⅲ区12号ピット



- Ⅲ区12号ピットA-A'
1. 黒褐色土 As-Cを少量含む。
 2. 暗褐色土 ロームを微量含む。

Ⅲ区13号ピット



- Ⅲ区13号ピットA-A'
1. 黒褐色土 As-Cを少量含む。
 2. 暗褐色土 地山起源のロームを少量含む。

Ⅲ区14号ピット



- Ⅲ区14号ピットA-A'
1. 黒褐色粘質土 As-Cを少量含む。
 2. 暗褐色土 地山起源の水性ロームを少量含む。
 3. 暗褐色土 地山起源の水性ロームを多量含む。
 4. 黒褐色土



Ⅲ区19号・20号ピット



- Ⅲ区19号・20号ピットA-A'
1. 暗褐色土 白色バミスを少量含む。地山黄褐色ローム起源の黄白色土小塊を少量含む。

Ⅲ区21号ピット



- Ⅲ区21号ピットA-A'
1. 暗褐色土 白色バミスを少量含む。地山黄褐色ローム起源の黄白色土小塊を少量含む。

Ⅲ区23号ピット



- Ⅲ区23号ピットA-A'
1. 暗褐色土 白色バミスを少量含む。地山黄褐色ローム起源の黄白色土小塊を少量含む。

Ⅲ区24号ピット



- Ⅲ区24号ピットA-A'
1. 暗褐色土 白色バミスを少量含む。地山黄褐色ローム起源の黄白色土小塊を少量含む。

Ⅲ区25号ピット



- Ⅲ区25号ピットA-A'
1. 暗褐色土 白色バミスを少量含む。地山黄褐色ローム起源の黄白色土小塊を少量含む。

Ⅲ区26号・27号ピット



- Ⅲ区26号・27号ピットA-A'
1. 黒褐色土 白色バミスを多く含む。地山黄褐色ローム起源の黄褐色土小塊を少量含む。(26号ピット埋没上)
 2. 黒褐色土 白色バミスを少量含む。(26号ピット埋没上)
 3. 黒褐色土 地山黄褐色ローム起源の黄褐色土小塊を多く含む。(27号ピット埋没上)
 4. 黒褐色土 白色バミスを少量含む。(27号ピット埋没上)

Ⅲ区29号ピット



- Ⅲ区29号ピットA-A'
1. 黒褐色土 白色バミスを少量含む。

Ⅲ区31号ピット



- Ⅲ区31号ピットA-A'
1. 暗褐色土 地山黄褐色ローム起源の黄褐色土小塊を多く含む。
 2. 黒褐色土 白色バミスを多く含む。

Ⅲ区37号ピット



- Ⅲ区37号ピットA-A'
1. 暗褐色土 白色バミスを少量含む。全体にボソボソした感じ。
 2. 暗褐色土 1層に類似するが、1層よりしまりあり。
 3. 黄褐色土 地山黄褐色水性ロームの小塊を多く含む。しまりあり。

Ⅲ区38号ピット



- Ⅲ区38号ピットA-A'
1. 黒褐色土 As-Cを少量含む。
 2. 暗褐色土 地山ローム起源の黄褐色土を少量含む。

Ⅲ区39号ピット



- Ⅲ区39号ピットA-A'
1. 黒褐色土 As-Cを少量含む。
 2. 暗褐色土 地山ローム起源の黄褐色土を少量含む。

Ⅲ区40号ピット



- Ⅲ区40号ピットA-A'
1. 暗褐色土 地山水性ロームの黄褐色土塊を少量含む。白色バミスを少量含む。

Ⅲ区43号ピット



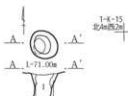
- Ⅲ区43号ピットA-A'
1. 暗褐色土 地山黄褐色ロームの黄褐色土小塊を少量含む。白色バミスを少量含む。



第184図 Ⅲ区ピット(1)と出土遺物

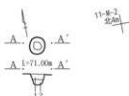
第6章 古代～古墳時代の遺構と遺物

Ⅲ区57号ピット



- Ⅲ区57号ピットA-A'
1. 黒褐色土 全体にしまりなくボソボソした感じ。
 2. 暗褐色土 地山黄褐色水性ローム粒を多く含む。

Ⅲ区58号ピット



- Ⅲ区58号ピットA-A'
1. 黒褐色土 白色バミスを少量含む。地山黄褐色水性ローム小塊を少量含む。
 2. 暗褐色土 地山黄褐色水性ローム塊を多く含む。

Ⅲ区59号ピット



- Ⅲ区59号ピットA-A'
1. 黒褐色土 白色バミスを少量含む。地山黄褐色水性ローム小塊を少量含む。

Ⅲ区60号ピット



- Ⅲ区60号ピットA-A'
1. 黒褐色土 白色バミスを少量含む。地山黄褐色水性ローム小塊を少量含む。

Ⅲ区63号ピット



- Ⅲ区63号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性なし。

Ⅲ区64号ピット



- Ⅲ区64号ピットA-A'
1. 黒褐色土 白色バミスを少量含む。地山黄褐色水性ローム小塊を少量含む。

Ⅲ区65号ピット



- Ⅲ区65号ピットA-A'
1. 黒褐色土 白色バミスを少量含む。

Ⅲ区66号ピット



- Ⅲ区66号ピットA-A'
1. 黒褐色土 白色バミスを少量含む。地山黄褐色水性ローム小塊を少量含む。

Ⅲ区67号ピット



- Ⅲ区67号ピットA-A'
1. 黒褐色土 白色バミスを少量含む。地山黄褐色水性ローム小塊を少量含む。

Ⅲ区68号ピット



- Ⅲ区68号ピットA-A'
1. 黒褐色土 白色バミスを少量含む。地山黄褐色水性ローム小塊を少量含む。

Ⅲ区69号ピット



- Ⅲ区69号ピットA-A'
1. 黒褐色土 地山ローム黄色土を少量含む。

Ⅲ区71号ピット



- Ⅲ区71号ピットA-A'
1. 黒褐色土 地山黄褐色ローム小塊を少量含む。
 2. 暗褐色土 地山黄褐色ローム小塊を少量含む。

Ⅲ区72号ピット



- Ⅲ区72号ピットA-A'
1. 黒褐色土 白色バミスを少量含む。粘性なし。

Ⅲ区76号ピット



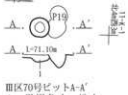
- Ⅲ区76号ピットA-A'
1. 黒褐色土 地山黄褐色ローム小塊を少量含む。
 2. 暗褐色土 地山ローム粒を多く含む。

Ⅲ区77号ピット



- Ⅲ区77号ピットA-A'
1. 黒褐色土 地山黄褐色ローム起源の上を少量含む。粘性あり。

Ⅲ区70号ピット



- Ⅲ区70号ピットA-A'
1. 黒褐色土 地山ローム黄褐色土を5～10cmの塊状に含む。

Ⅲ区75号ピット



- Ⅲ区75号ピットA-A'
1. 黒褐色土 地山黄褐色ローム起源の上を少量含む。粘性あり。

Ⅲ区75号ピット



- Ⅲ区75号ピットA-A'
1. 黒褐色土 地山黄褐色ローム起源の上を少量含む。粘性あり。

Ⅲ区81号ピット



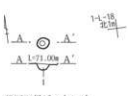
- Ⅲ区81号ピットA-A'
1. 黒褐色土 地山黄褐色ロームを少量含む。
 2. 黄褐色土 地山ロームを主体とし、黒色土塊を少量含む。

Ⅲ区82号ピット



- Ⅲ区82号ピットA-A'
1. 黒褐色土 凝集酸化鉄を少量含む。
 2. 暗褐色土 凝集酸化鉄・地山黄褐色ローム起源の上を少量含む。
 3. 黄褐色土 地山黄褐色ローム起源の上を多量に含む。
 4. 黒褐色土 地山黄褐色ローム起源の上を少量含む。粘性なし。

Ⅲ区78号ピット



- Ⅲ区78号ピットA-A'
1. 暗褐色土 地山黄褐色ローム起源の上を少量含む。

Ⅲ区79号ピット



- Ⅲ区79号ピットA-A'
1. 暗褐色土 地山黄褐色ローム起源の上を少量含む。

Ⅲ区80号ピット



- Ⅲ区80号ピットA-A'
1. 黒褐色土 地山黄褐色ローム起源の上を少量含む。粘性あり。

Ⅲ区83号ピット



- Ⅲ区83号ピットA-A'
1. 黒褐色土 地山黄褐色ローム小塊を少量含む。



第185図 Ⅲ区ピット(2)

4. Ⅲ区の遺構と遺物

Ⅲ区 84号ピット



Ⅲ区84号ピットA-A'
1. 黒褐色土 地山黄褐色ローム小塊を少量含む。
2. 暗褐色土 地山黄褐色ローム小塊を多く含む。

Ⅲ区 98号ピット



Ⅲ区98号ピットA-A'
1. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。下層部に長径15cmの茶褐色土塊が見られる。

Ⅲ区 100号ピット



Ⅲ区100号ピットA-A'
1. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。
2. 茶褐色土 粘性やや強し。しまりあり。

Ⅲ区 105号ピット



Ⅲ区105号ピットA-A'
1. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。

Ⅲ区 106号ピット



Ⅲ区106号ピットA-A'
1. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。

Ⅲ区 107号ピット



Ⅲ区107号ピットA-A'
1. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。

Ⅲ区 108号ピット



Ⅲ区108号ピットA-A'
1. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。

Ⅲ区 109号ピット



Ⅲ区109号ピットA-A'
1. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。

Ⅲ区 110号ピット



Ⅲ区110号ピットA-A'
1. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。

Ⅲ区 111号ピット



Ⅲ区111号ピットA-A'
1. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。直径2mm以下の赤褐色土粒微量・直径3mm以下の炭化物粒微量含む。

Ⅲ区 112号ピット



Ⅲ区112号ピットA-A'
1. 暗褐色土 粘性やや弱し。しまりあり。

Ⅲ区 113号ピット



Ⅲ区113号ピットA-A'
1. 暗褐色土 粘性やや弱し。しまりあり。直径5mm以下の茶褐色土粒少量・直径2mm以下の炭化物粒微量含む。

Ⅲ区 114号ピット



Ⅲ区114号ピットA-A'
1. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりあり。

Ⅲ区 115号ピット



Ⅲ区115号ピットA-A'
1. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりあり。直径2mm以下の茶褐色土粒微量・直径2mm以下の炭化物粒微量含む。

Ⅲ区 116号ピット



Ⅲ区116号ピットA-A'
1. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。

Ⅲ区 117号ピット



Ⅲ区117号ピットA-A'
1. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりあり。

Ⅲ区 118号ピット



Ⅲ区118号ピットA-A'
1. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。直径10mm以下の茶褐色土塊を含む。

Ⅲ区 119号ピット



Ⅲ区119号ピットA-A'
1. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。

Ⅲ区 120号ピット



Ⅲ区120号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。

0 1;60 2m

第186図 Ⅲ区ピット(3)

69号ピット埋没土中からS字裏2点、須恵器環破片1点が出土した。須恵器破片が含まれることから、ピットの時期は古代遺構と考えられる。

c. 中央区のピット

中央区では98号、100号、105号～120号ピットが9号型穴住居の屋外周溝の内側と、周溝の西側に集中して検出された。周溝内側では、9号住居の主柱穴と推定される4基のピットと同じ確認面で12基のピットが検出されたが、住居のピットが深いのに対して、いずれも浅い。ピットの位置も規格性をもったものではなかった。

113号ピット埋没土中からは土師器環破片2点、裏破片3点が出土した。土師器環は8世紀ころのものとみられる。115号ピット埋没土中から古墳時代前期とみられる土師器裏破片2点が出土した。118号ピット埋没土中からは土師器裏破片1点、S字裏破片1点が出土した。これらのピットが9号住居の施設の一部かどうかは判断できなかった。

105号～110号ピットは、9号住居の西側に集中して検出された。このうち107号・108号・110号ピットがやや深く掘られており、柱穴となり得る形状であった。この3基のピットは一直線に並んでおり、柱列とも考えられるが、調査では確定できなかった。遺物はいずれのピットからも出土しなかった。これらのピットの時期も、確認面が共通することから、古墳時代前期と考えておきたい。

(6) 溝

Ⅲ区古代～古墳時代遺構面では、2条の溝が検出された。これらの中には各調査区で異なる年度に調査されたために、同一の溝であっても別の遺構番号が付されたものがある。これについては、報告時に番号の統合と付け替えを行った。その作業の結果については、溝の位置や規模とともに第2表にまとめた。以下各溝の調査所見を記載する。なお、溝の平面図は個別図を作成せず、1/300の各区全体図でこれに変えた。埋没土層断面図は個々に掲載した。

Ⅲ区33号溝(第187・188・206図 PL.138・220 遺物観察表 P.452・460・468)

33号溝は、Ⅲ区西部で、北区から中央区にかけて検出された。北東端および南西端は浅くなり途切れて確認できない。小規模な溝ながら多数の土器が出土した。

走向は北区でN-40°-E、中央区でN-47°-E。土幅は北区で0.17～0.54m、中央区で0.35～0.77m。深さは北区で0.14m、中央区で0.12m。調査長は北区で11.70m、中央区で22.00mである。断面形は浅い皿状で、底面にはやや凹凸があった。底面の標高は南区南西端が0.04m高かった。溝内は浅間C軽石を含む黒色土で埋まっていた。

北区では溝のほぼ全体に広がって、完形に近い土器が多数出土した。土師器小型丸底壺(第187図4)、直口壺(8)、壺(12)、器台(7)、高環(10・11)が底面上2.5cmで、S字裏(第188図15・16・18・21)が底面上2.6cmで出土した。また、よろろう石製の勾玉(第187図1)も底面上2.5cmで出土した。また、埋没土中から土師器環(第187図3)、土錘(2)、石鏝が出土した。石鏝は混入である。このほかに、埋没土中から土師器壺破片242点、埴破片25点、高環破片9点、裏破片11点、S字裏破片441点が出土した。

中央区では、埋没土中から土師器壺破片68点、埴破片7点、高環破片5点、S字裏破片94点が出土したが、いずれも小破片で図示することはしなかった。

溝の時期は出土遺物から、古墳時代前期と考えられる。溝の周辺には掘立柱建物・周溝をもつ建物、土坑、ピット群からなる古墳時代前期の集落が展開している。埋没土は流水を示す砂や礫の堆積状況ではないことから、本溝は集落内を区画する溝である可能性が高い。特に5号掘立柱建物と1号柱列とはほぼ平行しており、これらの西側の建物群と周溝をもつ建物がある空間を隔てる位置に掘られているようにみえる。

なお、本溝の北端から東側に向かって東西方向にある34号溝は、後述するように、出土遺物から7世紀後半から8世紀と推定される古代の溝であり、本溝と連動して集落内を方形に区画する溝ではないので注意が必要である。詳細は第9章で述べた。(第291図)

4. Ⅲ区の遺構と遺物



Ⅲ区33号溝A-A'・B-B'・C-C'

1. 黒褐色土 白色ハミスを多く含む。
2. 暗褐色土 地山黄褐色ローム粒多く含む。白色ハミスを少量含む。



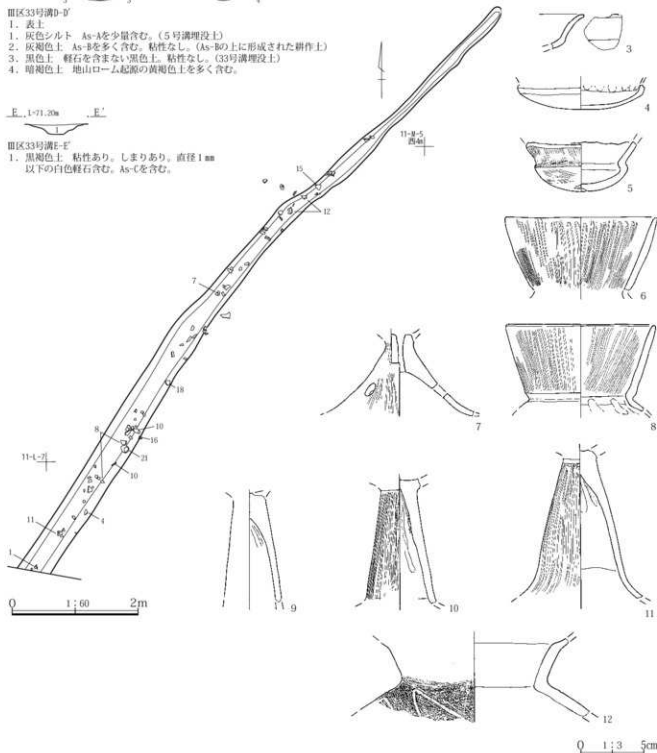
Ⅲ区33号溝D-D'

1. 表土
1. 灰色シルト As-Aを少量含む。(5号溝埋没土)
2. 灰褐色土 As-Bを多く含む。粘性なし。(As-Bの上に形成された耕作土)
3. 黒色土 軽石を含まない黒色土。粘性なし。(33号溝埋没土)
4. 暗褐色土 地山ローム起源の黄褐色土を多く含む。

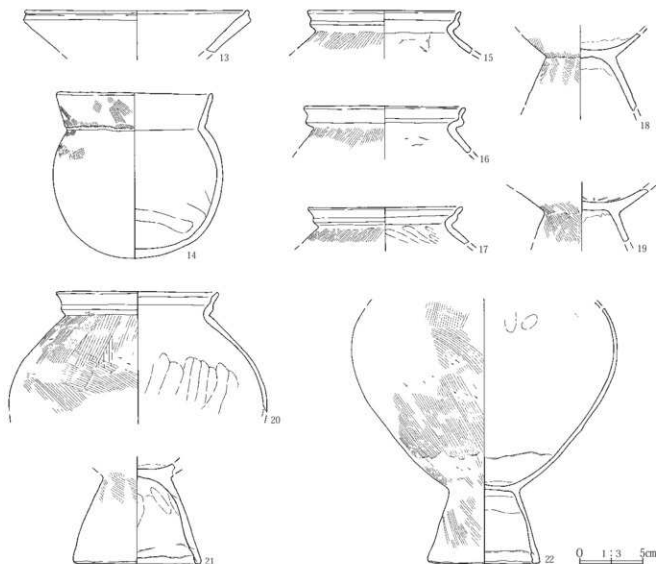


Ⅲ区33号溝E-E'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石含む。As-Cを含む。



第187図 Ⅲ区33号溝と出土遺物(1)



第188図 III区33号溝出土遺物(2)

III区34号溝 (第189・190・266図 PL.139・220 遺物観察表P.452・461・468)

34号溝は、III区北区をほぼ東西に横断する位置で検出された。北西端は浅くなり途切れて確認できない。その地点はちょうど33号溝が途切れる位置でもある。調査当初は屈曲する一体の溝との見方もあったが、埋没土や出土遺物の時期の層位から別遺構であるとの調査所見である。また、それぞれの溝の掘り込み面が失われているため、本溝が西端で33号溝と重複していたのかどうかは不明である。34号溝からも多数の土器が出土した。

走向はN-78°-W、上幅は0.20～1.26m、深さは0.29m、調査長は51.70mである。断面形は浅いU字形で、底面にはやや凹凸があった。溝内は浅間C軽石・黄褐色ローム粒を含む黒褐色土で埋まっていた。

出土遺物は溝の全体に散在していた。図示した土師器環(第190図1)は西部底面上22cmで、須恵器碗(2)は中央部底面上16cmで、須恵器皿(5)は東部底面上15cmで、皿(4)は底面上16cmで出土した。土鍾(6)は底面上23cmで出土した。また、埋没土中から土師器環(2)、滑石製の白玉(7)が出土した。このほかに、埋没土中から土師器増破片3点、高坏破片2点、坏破片12点、甕破片87点、S字甕破片470点、須恵器皿破片2点、坏破片11点が出土した。

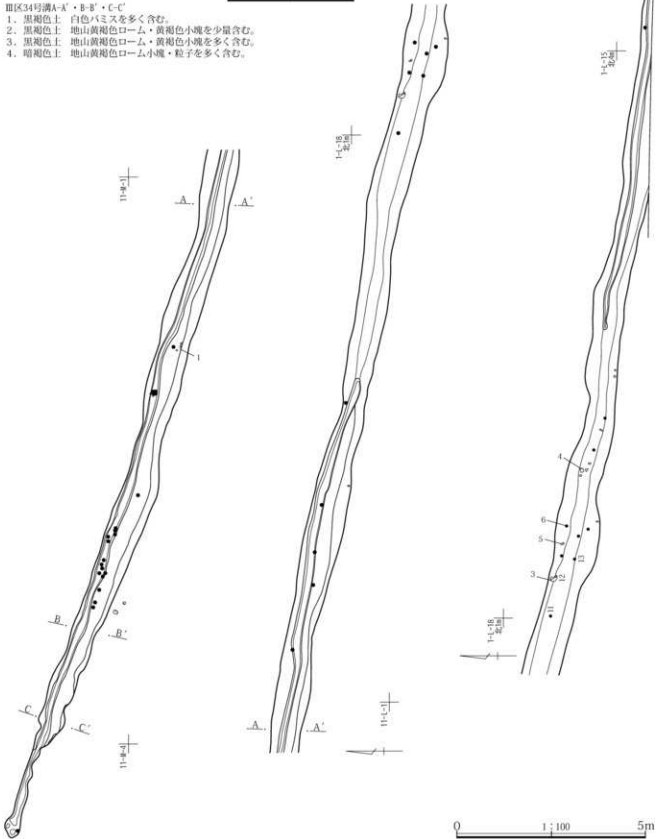
また、中央部底面上12cmで石敷(第272図22)、埋没土中から剥片1点が出土しているが、混入である。

本溝の時期は出土した須恵器碗・土師器環等の時期から、7世紀後半から8世紀と推定される。土師器環(2)はやや古い様相を示しており、溝の開削がやや古くなる

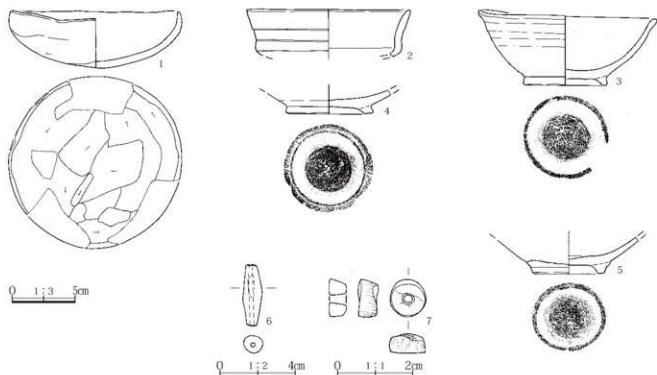


Ⅲ区34号溝A-A'・B-B'・C-C'

1. 黒褐色土 白色バミスをよく含む。
2. 黒褐色土 地山黄褐色ローム・黄褐色小塊を少量含む。
3. 黒褐色土 地山黄褐色ローム・黄褐色小塊を多く含む。
4. 暗褐色土 地山黄褐色ローム小塊・粒子を多く含む。



第189図 Ⅲ区34号溝と遺物出土位置



第190図 III区34号溝出土遺物

可能性もある。S字裏破片をはじめとする多くの古墳時代前期の土器を出土しているが、下層の遺構を壊しているために混入したものであろう。7世紀後半から8世紀の遺構は他に、76号・96号・99号土坑があり、本溝の北側に12～19mの間隔をあけて並ぶように掘られていた。また南区にも7世紀後半から8世紀の遺物を出土する25号・26号・32号土坑があった。

今回の調査では7世紀後半から8世紀の集落は検出されていないが、本溝や土坑の存在から周辺に集落があることが想定される。埋没土は流水を示す堆積状況ではないことから、本溝は集落内を区画する溝である可能性が高い。

(7) 倒木痕

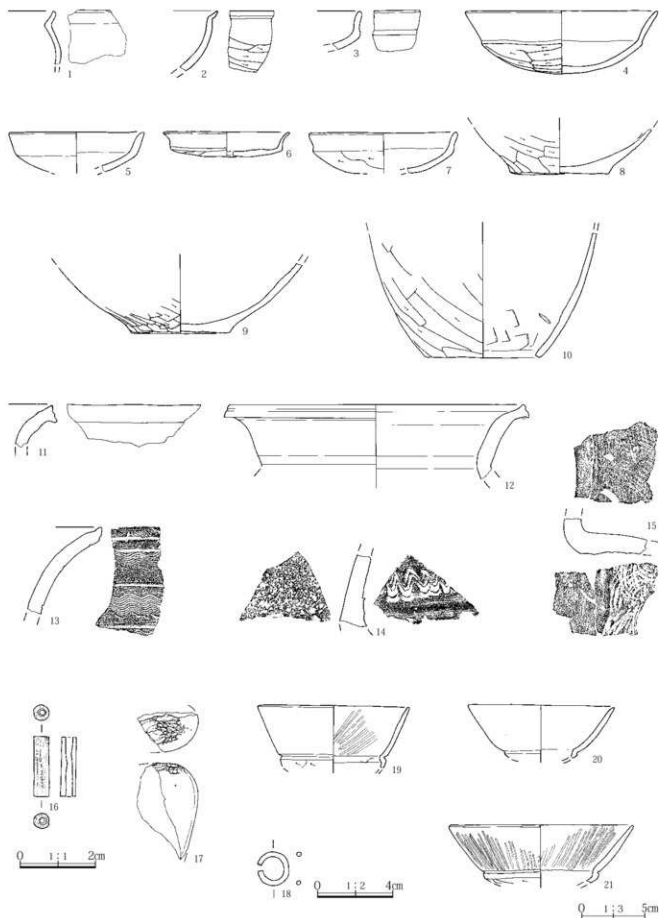
Ⅲ区では古代～古墳時代遺構面で1基の倒木痕を検出した。平成16年度調査では、倒木痕の記録は悉皆的でなく、明瞭なもの平面・断面記録あるいは写真撮影するという調査方針であった。そこでⅢ区では1基の倒木痕について写真撮影のみ実施した(PL.139-7)。倒木の時期等については不明である。

(8) 遺構外の出土遺物(第191・192図 PL.220 遺物観察表P.451・452・461・462)

Ⅲ区調査の遺構確認中に、遺構に伴わない形で第11表のように多くの遺物を出土した。ここでは、Ⅷ層上面の遺構確認時に出土した遺物を掲載した。

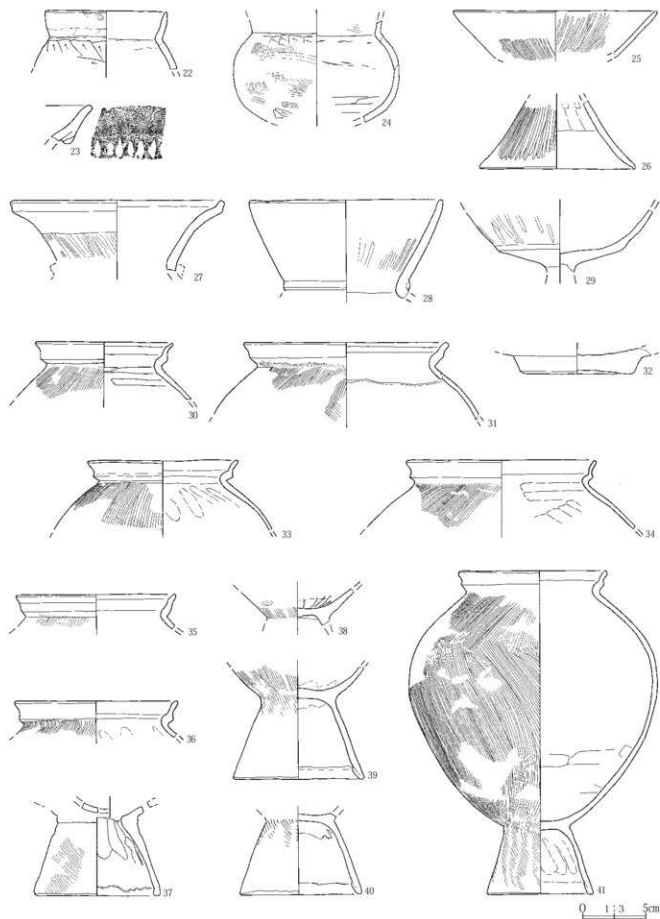
Ⅲ区では遺構は検出されなかったが、古墳時代中・後期の遺物が比較的多く出土している。5世紀の内斜口縁の土師器環(第191図1・2)や、6世紀のいわゆる須恵器模倣の土師器環(3～5)、やや新しい浅い土師器環(6・7)を図示した。土師器壺(9)、甕(10)の比較的大型の破片も出土した。また須恵器裏破片(11～15)も出土している。

古墳時代前期の土器は土師器小型丸底壺(19～21)、高坏(第192図25・26・29)、壺(23・27・28・32)、S字裏(30・31・33～41)が出土した。37はS字裏の整形形態を示すが、体部と台部が貫通し、体部下位には焼成前穿孔の空間の一部が残っている異形土器である。また、11-L-4グリッドでは安山岩凝灰岩製の管玉(第191図16)が、11-M-4グリッドでは銅製と推定される環状製品(18)が出土した。ホルンフェルス製の敲石破片(17)も出土している。



第191図 Ⅲ区遺構外の出土遺物(1)(古代～古墳時代)

第6章 古代～古墳時代の遺構と遺物



第192図 Ⅲ区遺構外の出土遺物(2)(古代～古墳時代)

5. IV区の遺構と遺物

(1) 掘立柱建物

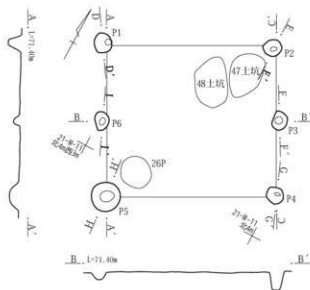
IV区北西部の遺構密集部で、整理事業時にピットの精査を行う過程で、掘立柱建物1棟を検出した。各ピットは小さく浅いが、土層断面には柱痕を示す堆積が見られることから、掘立柱建物として記載した。

IV区1号掘立柱建物(第193図 PL.141)

位置 55-21-M・N-11・12G

主軸方位 N-20°-W 重複 無し

形態 1×2間(2.70m×2.40m・9×8尺)、面積6.48㎡の東西棟。柱間は桁行が2.64~2.69m、梁行が2.43m



IV区1号掘立柱建物P1D-B'

1. 黒褐色壤土 As-Cを含む。褐色シルト質壤土斑1%含む。しまりやや弱い。
2. 混土 As-Cを含む。暗褐色~褐色土(地山ローム)塊のランダムな混土。しまっている。
3. 混土 As-Cを含む。暗褐色~褐色土(地山ローム)塊のランダムな混土。しまっている。

IV区1号掘立柱建物P2E-F'

1. 黒褐色壤土 As-Cを含む。暗褐色シルト質壤土斑1%。しまりやや強い。
2. 黒褐色壤土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)塊のランダムな混土。黒褐色壤土40%。しまっている。

IV区1号掘立柱建物P3F-F'

1. 黒褐色壤土 As-Cを含む。暗褐色シルト質壤土斑1%。しまりやや強い。
2. 黒褐色壤土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)塊のランダムな混土。黒褐色壤土40%。しまっている。
3. 混土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)塊のランダムな混土。しまっている。

~2.69m。

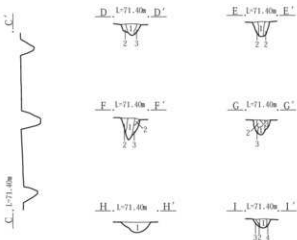
東辺・西辺ともに中央のP3・P6がやや柱筋の外側にずれる。

P1~P4とP5の土層断面では柱痕跡を確認したが、P5では柱痕跡は検出できなかった。柱穴の形状は楕円形および円形で、規模は長径0.28~0.48m、短径0.22~0.45m、深さ0.12~0.30mで、小型の柱穴で、ぼらつきがある。

内部施設 無い。

出土遺物 遺物は出土しなかった。

所見 柱穴は浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっていることや、遺構確認面が他の遺構群と共通していることから、古墳時代前期の建物跡と考えられる。



IV区1号掘立柱建物P4G-G'

1. 褐色壤土 地山ロームの塊。
2. 黒褐色壤土 As-Cを含む。暗褐色壤土3%。しまりやや強い。
3. 黒褐色壤土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)塊のランダムな混土。黒褐色壤土40%。しまっている。

IV区1号掘立柱建物P5H-H'

1. 黒褐色壤土 As-Cを含む。ぶい黄褐色土(地山ローム)塊1%含む。ややしまっている。

IV区1号掘立柱建物P6I-I'

1. 黒褐色壤土 As-Cを含む。暗褐色シルト質壤土斑1%。しまりやや強い。
2. 黒褐色壤土 As-Cを含む。暗褐色シルト質壤土斑5%。しまりやや強い。
3. 混土 As-Cを含む。暗褐色~褐色土(地山ローム)塊のランダムな混土。しまっている。
4. 混土 3層と1層の混土。しまっている。

0 1:60 2m

第193図 IV区1号掘立柱建物

(2) 土坑

(第194～197図 PL.141～145・221 遺物観察表P.462)

Ⅳ区の古代～古墳時代遺構で検出された土坑は南区で15基、北区で18基である。土坑は偏在しており、南区では南東隅の微高地上に集中しており、南西部にも2基分布しているという状況であった。北区では北西隅にすべての土坑が集中していた。この遺構集中分布はⅤ区北東隅へと連続していくものである。中央部から東半部の遺構のない部分は、トレンチ調査で遺構の再確認調査を実施したが、遺構は検出されなかった。

中央区では古代～古墳時代面の調査は一部のトレンチ調査にとどまっており、遺構は検出されていない。

それぞれの土坑の位置や規模は、P.433・434の表にまとめた。以下各遺構の調査所見を、南区～北区の順に記載する。

a. 南区の土坑

10号土坑はやや大型の楕円形の土坑で、1B号溝の底面で確認された。溝との新旧関係は溝の方が新しい。地山ローム塊を含む暗褐色土で埋まっていた。埋没土中から土師器裏破片が出土した。出土遺物から古代～古墳時代の土坑と推定される。

13号土坑は小型円形の土坑で、17号溝と18号溝の間で検出された。底面はボール状。黒色粘土塊と黄灰色粘質土塊を少量含む黒色砂質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

14号土坑は小型長方形の土坑で、17号溝の東側、13号土坑の北側で検出された。断面箱状。黒色粘土塊と黄灰色粘質土塊を少量含む黒色砂質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

16号土坑は不整楕円形の土坑で、1号方形周溝墓の北側で検出された。底面はボール状。少量の浅間C軽石と地山ローム塊を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

17号土坑は大型の不整楕円形で、1号方形周溝墓の東側で検出された。底面は凹凸が見られた。上層は黒色粘質土、下層は少量の砂を含む灰褐色粘質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

18号土坑は楕円形で、2号冢の南西隅で検出された。冢と同時期かどうかは不明である。底面中央にピット状

の掘り込みがあった。上層は黄色砂を含む黒色粘質土で、下層は赤褐色砂を少量含む灰黄色粘質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

19号土坑は南側が発掘区域外となり、全形をとらえることができなかった。円形あるいは楕円形と推定される。埋没土中から土器破片3点、土師器裏破片3点、台付裏破片1点が出土した。中世以降の土器が出土していることから新しい土坑の可能性もある。

27号土坑は円形の土坑で、1号方形周溝墓の東側で検出された。28号、29号土坑と近接していた。下半は筒形であるが、上半部は斜め上方に開く。浅間C軽石を含む黒色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

28号土坑も円形の土坑で、1号方形周溝墓の東側で検出された。27号、29号土坑と近接していた。断面形は27号土坑と似ており、下半は筒形であるが、上半部は斜め上方に開く。上層は浅間C軽石を含む黒色土で、下層は浅間C軽石をほとんど含まない黒色土で埋まっていた。埋没土中から土師器裏破片1点が出土した。埋没土や出土遺物から古代～古墳時代の土坑と推定される。

29号土坑はやや大型の円形の土坑で、1号方形周溝墓の東側で検出された。27号、28号土坑と近接していた。断面形は上方が斜めに開く筒形であるが、底面中央がピット状に深い。白色軽石を含む暗灰色粘質土・黒灰色粘質土で埋まっていた。埋没土中から土師器裏破片17点、S字裏破片2点が出土した。埋没土や出土遺物から古代～古墳時代の土坑と推定される。

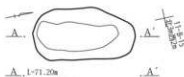
30号土坑は不整楕円形の土坑で、2号方形周溝墓の南側で検出された。白色軽石、赤褐色砂塊を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

31号土坑は小型楕円形の土坑で、26号溝の北西縁で検出された。底面はボール状。上層は白色軽石、赤褐色砂塊を含む黒褐色土、下層は白色軽石を含む灰褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

32号土坑は小型楕円形の土坑で、27号溝の南西縁で検出された。白色軽石を含む黒色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

33号土坑は円形の土坑で、1号方形周溝墓の周溝区画内の南西部で検出された。周溝墓の主体部である積極的な調査所見はない。底面はボール状。上層は白色軽石を含む黒色土で、中層は白色軽石と黄褐色土塊を含む黒褐

IV区10号土坑



IV区10号土坑A-A'

1. 暗褐色土 地山黄褐色ローム塊を多く含む。
2. 暗褐色土 1層よりやや多く塊を含む。
3. 黄褐色土 地山黄褐色ローム(黄褐色～黄白色)を主体とし黒色土小塊を少量含む。
4. 黒褐色土 地山黄褐色ローム(黄褐色～黄白色)小塊を少量含む。

IV区13号土坑



IV区13号土坑A-A'

1. 黒色砂質土 7～10cm大の黒色粘質土と黄灰色粘質土の塊を少量含む。

IV区14号土坑



IV区14号土坑A-A'

1. 黒色砂質土 7～10cm大の黒色粘質土と黄灰色粘質土の塊を少量含む。

IV区16号土坑



IV区16号土坑A-A'

1. 黒褐色土 As-Cを少量含む。黒褐色土主体で黄褐色土(V層相当?)粒と小塊を含む。

IV区19号土坑



IV区19号土坑A-A'

1. 黒色粘質土
2. 黒色粘質土 酸化状の赤褐色砂を多く含む。

IV区17号土坑



IV区17号土坑A-A'

1. 黒色粘質土
2. 灰黄色粘質土
3. 灰褐色粘質土 少量の砂を含む。

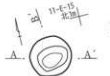
IV区18号土坑



IV区18号土坑A-A'

1. 黒色粘質土 黄色の砂を微量含む。
2. 灰黄色粘質土 赤褐色の砂を少量含む。

IV区27号土坑



IV区27号土坑A-A'

1. 黒色土 As-C 細粒を均一に多く含む。粘性の強い層。
2. 黒色土 As-C をほとんど含まず。V層上大粒を少量含む。
3. 掘り過ぎ

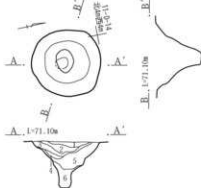
IV区28号土坑



IV区28号土坑A-A'

1. 黒色土 As-C 細粒を均一に多く含む。粘性の強い層。
2. 黒色土 As-C 細粒を微量含む。V層土小塊を微量含む。粘性の強い層。
3. 黒色土 As-C 細粒をほとんど含まず。V層土小塊を多量含む。粘性の強い層。

IV区29号土坑



IV区29号土坑A-A'

1. 暗灰色粘質土 1～3mm大の白色軽石を均一に含む。
2. 黒灰色粘質土 1～2cm大の黄灰色粘質土の塊を微量含む。1～3mm大の白色軽石を均一に含む。
3. 暗灰色粘質土 黄灰色粘質土の塊(層)を多量含む。1～3mm大の白色軽石を微量含む。
4. 黒灰色粘質土 灰色粘質土の塊 1～3mm大を少量含む。1～3mm大の白色軽石を微量含む。
5. 黒色粘質土 1～3mm大の白色軽石を微量含む。
6. 黒灰色粘質土 1～3mm大の白色軽石を微量含む。

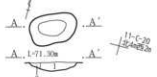
IV区30号土坑



IV区30号土坑A-A'

1. 黒褐色土 酸化状赤褐色砂の塊 1cm大を微量含む。1～3mm大の白色軽石を均一に少量含む。
2. 掘り過ぎ

IV区31号土坑



IV区31号土坑A-A'

1. 黒褐色土 酸化状赤褐色砂の塊 少量含む。1～3mm大の白色軽石均一に含む。
2. 灰褐色土 1～3mm大の白色軽石を均一に含む。

IV区32号土坑



IV区32号土坑A-A'

1. 黒色土 1～3mm大の白色軽石を均一に含む。



第194図 IV区土坑(1)

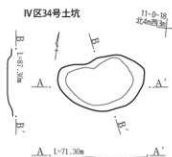
IV区33号土坑



IV区33号土坑A-A'

1. 黒色土 2～3mm大の白色軽石を微量含む。
2. 黒褐色土 5mm程度の黄褐色土の塊を均一に含む。2～3mm大の白色軽石を微量含む。
3. 灰褐色土 粒状赤褐色砂の塊 5mm大を多く含む。2～3mm大の黄色軽石を微量含む。

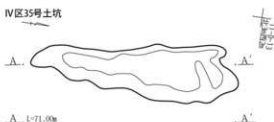
IV区34号土坑



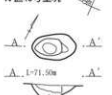
IV区34号土坑A-A'

1. 黒色土 黄褐色土塊 1% 黄褐色 7% 白色軽石を含む。木根による履息痕跡多い。しまっている。

IV区35号土坑



IV区40号土坑



IV区40号土坑A-A'

1. 黒色軽土 鉄分で汚れた地山褐色ロームの灰 1% 含む。炭化物粒少量含む。やや粘質。しまっている。
2. 黒色軽土 鉄分で汚れた地山褐色ロームの灰 10% 含む。粘性やや強い。しまっている。

IV区41号土坑



IV区41号土坑A-A'

1. 黒色軽土 白色軽石粒含む。砂粒含む。固くしまっている。

IV区38号土坑



IV区38号土坑A-A'

1. 黒褐色質砂土 As-Bと思われる軽石粒を含む。砂粒を多く含む。褐色土小塊 1% 含む。しまりやや強い。
2. 黒褐色砂質壤土 As-Bと思われる軽石粒を少量含む。しまりやや弱い。
3. 黒褐色砂質壤土 褐色土の小塊 3% 含む。ややしまっている。
4. 黒褐色砂質壤土 褐色土の塊状 3% 含む。ややしまっている。
5. 黒褐色砂質壤土 黄褐色土小塊 1% 含む。褐色土小塊 1% 含む。ともに地山起源。ややしまっている。
6. 黒褐色砂質土 褐色土小塊少量含む。しまりやや弱い。

IV区39号土坑



IV区39号土坑A-A'

1. 黒褐色土 褐色土粒少量含む。固くしまっている。As-C含む。
2. 黒褐色土 黄褐色土 3%。しまっている。As-C含む。
3. 砂層
4. 黒褐色土 褐色土混含む。しまっている。As-C含む。

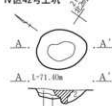
IV区44号土坑



IV区44号土坑A-A'

1. 黒褐色重土 黄褐色土塊 1% 含む。As-C軽石粒を含む。固くしまっている。
2. 黒色砂質壤土 黄褐色円形小塊 1% 含む。As-C軽石粒を含む。ややしまっている。
3. 混土 黒色軽土と黒褐色砂質土の薄層が重なる。地山褐色ローム粒子・砂液を混する。しまり弱い。
4. 黒色軽土 As-C下の黒色土を主体とする。混入物少ない。しまり弱い。

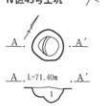
IV区42号土坑



IV区42号土坑A-A'

1. 混土 黒褐色軽土を主体に。暗褐色土塊 30%。地山褐色ローム土塊 20% によるランダムな混土。固くしまっている。
2. 黒褐色砂質土 黄褐色土を塊状に 3% 含む。ややしまっている。
3. 黒褐色砂質壤土 砂粒多く含む。しまっている。

IV区43号土坑



IV区43号土坑A-A'

1. 黒褐色土 As-C下の黒色土を主体とする。地山ロームの粒を含む。下層に黄褐色土塊を塊状に含む。しまっている。

IV区45号土坑



IV区45号土坑A-A'

1. 暗褐色軽土 As-C含む。炭化物・塊土粒を少量含む。褐色(地山ローム)小塊 3% 含む。固くしまっている。
2. 黒色土 As-C下の黒色土を主体とする。地山ロームの粒子含む。ややしまっている。

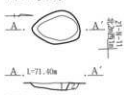
IV区46号土坑



IV区46号土坑A-A'

1. 黒褐色重土 褐色軽土上層。地山ローム土塊 7% 含む。固くしまっている。

IV区47号土坑

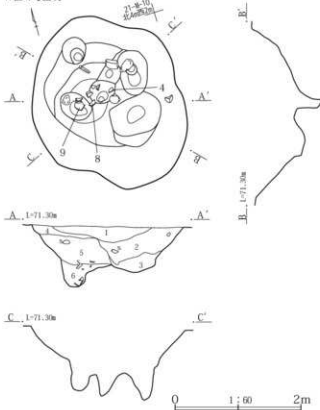


IV区47号土坑A-A'

1. 黒褐色砂質土 暗褐色土(地山ローム層への垂移的部分)を塊状に 3% 含む。ややしまっている。
2. 掘り過ぎ

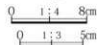
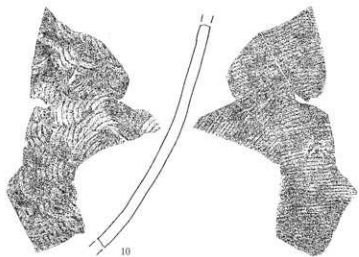
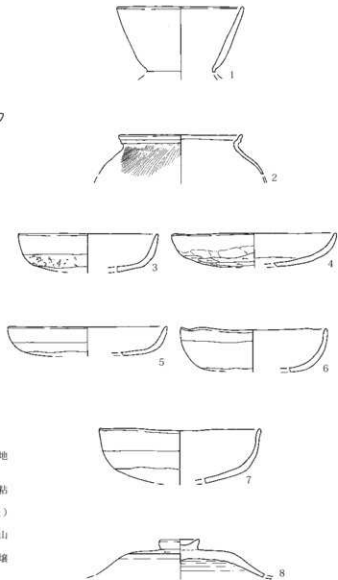
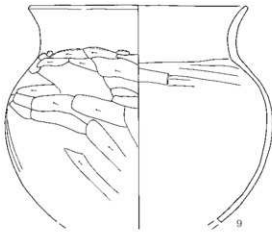
0 1:60 2m

IV区49号土坑



IV区49号土坑A-A'

1. 黒色軽植土 As-Cを他層より多く含む。にぶい黄褐色シルト質壤土(地山YP相当層近く)を礫状に3%含む。粘性強い。固くしまっている。
2. 黒色軽植土 As-C含む。粘性強い。固くしまっている。
3. 黒褐色砂質植壤土 黄褐色~暗褐色(地山ローム)を塊状に30%含む。粘性強い。ややしまっている。
4. 黒色軽植土 As-C含む。にぶい黄褐色シルト質壤土(地山YP相当層近く)の小礫5%含む。粘性強い。固くしまっている。
5. 黒色軽植土 As-C含む。土器を含む。にぶい黄褐色シルト質壤土(地山YP相当近く)の小礫1%含む。粘性強い。固くしまっている。
6. 黒褐色砂質壤土 砂粒多く含む。土器を含む。にぶい黄褐色シルト質壤土(地山YP相当層近く)の小礫1%含む。しまっている。



第196図 IV区土坑(3)と出土遺物

色土で、下層は赤褐色砂塊と黄色軽石を含む灰褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

34号土坑は不整楕円形の土坑で、1号方形周溝墓の北西側で検出された。底面は凹凸が著しい。黄褐色土塊、浅間C軽石を含む黒色土で埋まっていた。埋没土中から土師器壺破片1点、高坏破片1点が出土した。埋没土や出土遺物から古代～古墳時代の土坑と推定される。

35号土坑は細長い不整楕円形で、溝状である。2号冨の北側で検出された。長軸が一部の畝間溝の方向と一致する。底面には長軸と交差する方向で小溝が検出されたが、機能は不明である。埋没土は不明である。埋没土中から土師器壺破片2点が出土した。埋没土や出土遺物から古代～古墳時代の土坑と推定される。

b. 北区の土坑

38号土坑は不整楕円形の土坑で、19号溝の北東側で検出された。断面形はすり鉢状。上層は浅間B軽石を含む黒褐色砂質埴土で、下層は黄褐色土粒塊を含む黒褐色砂質埴土で埋まっていた。埋没土中から土師器壺破片5点、坏破片4点、壺破片1点、S字壺破片12点が出土した。埋没土中から出土した土師器坏は7世紀末～8世紀初頭、他の土師器は4世紀の土器である。埋没土の上層には浅間B軽石が含まれているとの記載があるが、上層のみであるので、ここでは土坑の時期を古代と考えておきたい。

39号土坑は不整楕円形の土坑で、38号土坑の南側で検出された。断面形はすり鉢状。浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。中位には厚さ数cmの砂礫が堆積していた。埋没土中から土師器坏破片3点、壺破片8点、S字壺破片8点、須恵器瓶2点が出土した。土坑の時期は埋没土中から出土した土師器坏、須恵器瓶が7世紀末～8世紀初頭のものであることから、古代と考えたい。

40号土坑は小型の楕円形の土坑で、19号溝の西縁で検出された。褐色ローム塊を含む黒色軽土で埋まっていた。埋没土中から土師器壺破片1点、S字壺破片1点が出土した。埋没土や出土遺物から古代～古墳時代の土坑と推定される。

41号土坑は小型の楕円形の土坑で、18号溝の北西側で検出された。白色軽石と砂粒を含む黒色軽土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

42号土坑は楕円形の土坑で、中央部は攪乱で一部欠損していた。底面は浅いボール状。上層は暗褐色埴土塊やローム塊を含む黒褐色軽土、下層は黄褐色土塊や砂粒を含む黒褐色砂質埴土で埋まっていた。埋没土中から土師器壺破片2点が出土した。埋没土や出土遺物から古代～古墳時代の土坑と推定される。

43号土坑は小型の円形の土坑で、42号、46号土坑と近接して検出された。地山ローム粒や黄褐色軽土を含む黒褐色埴土で埋まっていた。埋没土中からS字壺破片2点が出土した。埋没土や出土遺物から古代～古墳時代の土坑と推定される。

44号土坑は円形の土坑で、19号溝の北西縁で検出された。断面形はややプラスコ状。上層は浅間C軽石、黄褐色土塊を含む黒褐色重埴土と黒色砂質埴土で、下層は浅間C軽石を含まない黒色土で埋まっていた。埋没土中からS字壺破片1点が出土した。埋没土や出土遺物から古代～古墳時代の土坑と推定される。

45号土坑は小型の隅丸方形の土坑で、44号土坑の北西部で検出された。上層は浅間C軽石・炭化物粒・焼土粒・地山ローム粒を含む暗褐色軽土で、下層は浅間C軽石を含まない黒色埴土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

46号土坑は不整楕円形で、24号ピットと重複するが、新旧関係は不明である。42号土坑の南東脇で検出された。褐色軽土塊・地山ローム塊を含む黒褐色重埴土で埋まっていた。埋没土中から土師器S字壺破片2点が出土した。埋没土や出土遺物から古墳時代前期の土坑と推定される。

47号土坑は楕円形の土坑で、19号溝の南東側で検出された。48号土坑と接している。底面は浅いボール状。やや北側を掘りすぎた。暗褐色埴土塊を含む黒褐色砂質埴土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

48号土坑は楕円形の土坑で、47号土坑に接して19号溝の南東側で検出された。底面は浅いボール状。上層は浅間C軽石を含む黒褐色埴土で、下層は白色軽石・砂粒・暗褐色重埴土塊を含む黒褐色軽土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

49号土坑は大型の不整楕円形の土坑で、19号溝の南西部で検出された。底面には3個のピットが検出された。土層断面からみると1回の掘り替えがあったものと推定

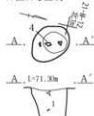
IV区48号土坑



IV区48号土坑A-A'

1. 黒褐色壤土 As-C含む。ややしまっている。
2. 黒褐色軽壤土。白色軽石・砂粒含む。暗褐色重壤土(地山ローム)を混状に7%含む。固くしまっている。

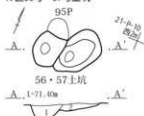
IV区50号土坑



IV区50号土坑A-A'

1. 黒色軽壤土 As-C含む。上位から中位にかけて土器を含む。上位に焼土粒含む。粘性やや強い。しまりやや弱い。

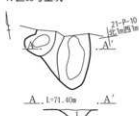
IV区56号・57号土坑



IV区56号・57号土坑A-A'

1. 黒褐色砂質壤土。粘性弱い。しまりやや強い。
2. 黒褐色砂質壤土 As-Cを含む。褐色シルト質壤土1%含む。暗褐色壤土1%含む。ともに地山起源。やや粘質。ややしまっている。

IV区63号土坑



IV区63号土坑A-A'

1. 黒褐色砂質壤土 As-Cを含む。暗褐色土小灰を3%含む。ややしまっている。



IV区66号土坑



IV区67号土坑



IV区67号土坑A-A'

1. 黒色土。砂多く含む。1~2mm 大の白色軽石を10%程度含む。



第197図 IV区土坑(4)と出土遺物

される。いずれの埋没土も浅間C軽石を含む黒色軽壤土と地山ローム塊を含む黒褐色砂質壤土の重なりである。埋没土中から多くの土器が出土した。図示した土器器環(第196図4)は中央部底面上15cm、土器器囊(9)は西部底面上2cm、須恵器蓋(8)は中央部底面上16.2cmで出土した。その他埋没土中から出土した土器の数は、土器器壺破片17点、高環破片1点、土器器環破片207点、器破片550点、S字器破片371点、須恵器環9点、須恵器蓋1点に及ぶ。このうち土器器環や須恵器環・蓋は8世紀、他の土器は4世紀の土器で、遺構の時期には4~8世紀の幅があることが考えられる。埋没土の堆積状況からも掘り直したことが推定される。同類の土坑はⅢ区2面で検出された1号井戸がある。本土坑も井戸の可能性が高い。

50号土坑は楕円形の土坑で、36号溝北側で検出された。断面形は筒形。浅間C軽石を含む黒色軽壤土で埋まっていた。上位には焼土粒を含む。上半部からは土器が多量

に出土した。図示した土器器台(第197図1)・S字器(2・3)は埋没土中から出土した。高環(4)は中央部、底面上1.7cmで出土した。この他に埋没土中から、土器器壺破片17点、高環破片8点、小型S字器破片6点、S字器破片21点が出土した。土坑の時期は古墳時代前期である。

56号、57号土坑は重複して39号土坑の北側で検出された。56号土坑の方が新しい。56号土坑は楕円形の土坑で、黒褐色砂質壤土で埋まっていた。埋没土中から土器器S字器破片5点が出土した。出土遺物から古墳時代前期の土坑と推定される。

57号土坑も楕円形の土坑で、浅間C軽石・褐色シルト質壤土塊・暗褐色壤土塊を含む黒褐色砂質壤土で埋まっていた。埋没土中から土器器器破片2点が出土した。埋没土の状況と出土遺物から古墳時代前期の土坑と推定される。

63号土坑は北端が発掘区域外となり全形がとらえられ

なかったが、楕円形と推定される。浅間C軽石・暗褐色壤土塊を含む黒褐色砂質壤土で埋まっていた。埋没土中から土師器壺破片1点、S字襷破片1点が出土した。埋没土の状況と出土遺物から古墳時代前期の土坑と推定される。

66号土坑は小型の円形土坑で、19号溝の西脇で検出された。埋没土は不明である。遺物は出土しなかった。

67号土坑は丸い楕円形の土坑で、18号溝の西側で検出された。断面はすり鉢状。上層は浅間C軽石を含む黒褐色軽質土で、下層は砂と白色軽石を含む黒色土で埋まっていた。埋没土中から土師器S字襷破片5点が出土した。埋没土の状況と出土遺物から古墳時代前期の土坑と推定される。

(3) ビット

(第198・199図 PL.145～147・221 遺物観察表P.462)

IV区古代～古墳時代遺構面で検出したビットは、南区で18基、北区で20基である。中央区でビットは検出されなかった。検出されたこれらのビットはほとんどが浅間C軽石と推定される白色軽石を含む黒褐色土で埋まっており、すべてではないが古墳時代前期の遺物を出土することから、古代～古墳時代期の遺構として報告した。それぞれのビットの位置や規模は、P.437・438の表にまとめた。以下各調査区のビットの調査所見を記載する。

a. 南区のビット

南区では、4号～23号ビットが発掘区の中央から東部にかけて分布していた。特に1号方形周溝墓の北西側の周辺に偏在していた。ここは、方形周溝墓が検出された微高地の北西縁辺にあたる。この微高地には土坑も検出されているが、土坑が周溝墓のある微高地頂部から南東部縁辺にあるのに対して、ビットは北西側に偏在しており、対照的である。顕著な規格的な配置等は見られなかった。

いずれのビットも、浅間C軽石と推定される白色軽石を少量含み、地山の黄褐色ロームや黄白色土小塊を含む暗褐色土で埋まっていた。中には埋没土に浅間C軽石の記載がない土坑もあったが、他のビットと確認面や層位が共通することから、古墳時代から古代にかけての遺構と考えた。いずれのビットからも遺物は出土しなかった。

b. 北区のビット

北区では、24号～43号、94号、95号土坑が発掘区北西隅に集中して検出された。ここも堅穴住居が検出された微高地部分で、ここでは土坑の分布と分離しないで、縁辺を取り囲むように分布していた。このうち、27号、37号～41号の6基のビットは3基ずつが平行する直線にあることから、整理作業時に1間×2間の掘立柱建物と考え、1号掘立柱建物とした。

いずれのビットも、浅間C軽石と推定される白色軽石を少量含み、地山の黄褐色ロームや黄白色土小塊を含む暗褐色土で埋まっていた。

24号ビットの埋没土中からは土師器S字襷破片1点が出土した。

25号ビットの埋没土中からは土師器S字襷破片1点が出土した。

27号ビットの埋没土中からは土師器S字襷破片2点が出土した。

29号ビットの埋没土中からは、土師器環(第198図1)が底面直上でほぼ正形で出土した。他に埋没土中から土師器S字襷破片1点が出土した。ビットの時期は古代の可能性もある。

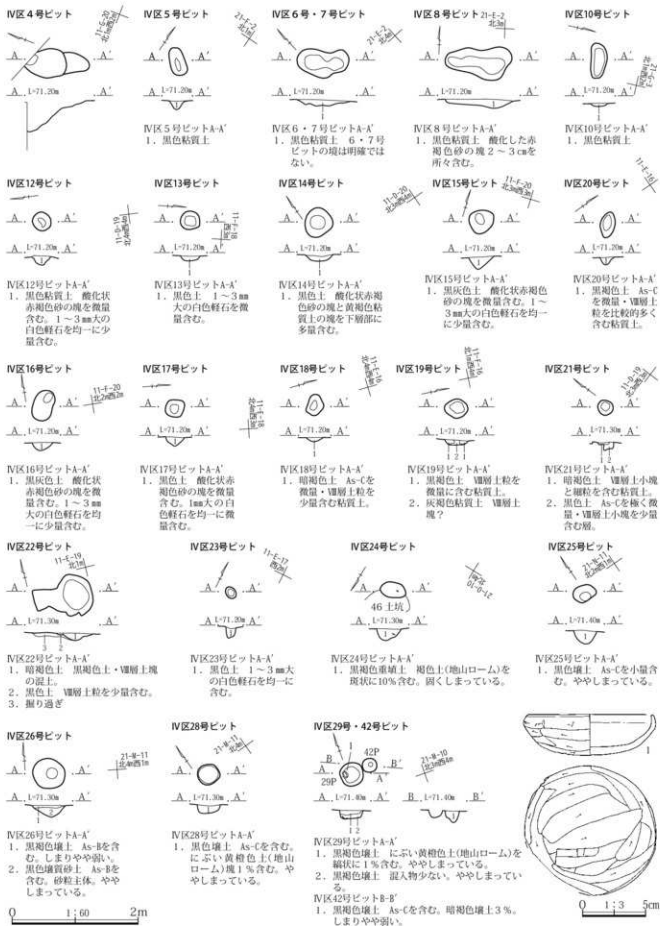
30号ビットはやや大型の円形ビットで、埋没土中からは土師器壺破片4点、器台破片1点、S字襷破片5点が出土した。

33号ビットの埋没土中から、土師器環破片1点、襷破片9点、S字襷破片13点が出土した。

34号ビットの埋没土中から、土師器襷破片6点、S字襷破片4点が出土した。

26号、28号、31号、32号、42号、43号、94号、95号ビットからは遺物は出土しなかった。

以上のように、いくつかのビットからは土器が埋没土中から出土しており、ビットの時期は29号ビットを除き、古墳時代前期と考えておきたい。



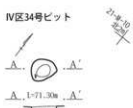
第198図 IV区ピット(1)と出土遺物



IV区30号ピットA-A'
1. 黒褐色壤土 にふい黄褐色土(地山ローム)塊3%含む。ややしまっている。



IV区32号ピットA-A'
1. 黒褐色軽壤土 As-Cを含む。褐色軽壤土斑、小塊(地山ローム)7%含む。固くしまっている。



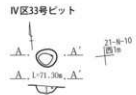
IV区34号ピットA-A'
1. 黒褐色軽壤土 白色軽石を含む。にふい黄褐色土(地山ローム)を斑状に3%含む。固くしまっている。As-Cより下位の土壌。



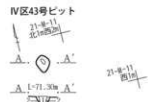
IV区94号ピットA-A'
1. 黒色土 砂を多く含む。1～2mm大の白色軽石を10%程度含む。
2. 灰色土 砂(川砂)石英質を含む。1mm大の粒のそろった砂。



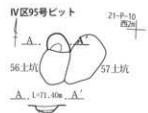
IV区31号ピットA-A'
1. 黒褐色壤土 As-Bを含む。しまりやや弱い。



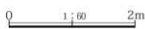
IV区33号ピットA-A'
1. 黒褐色軽壤土 白色軽石を含む。固くしまっている。As-Cより下位の土壌。



IV区43号ピットA-A'
1. 黒褐色壤土 As-Cを含む。暗褐色壤土3%。しまりやや弱い。
2. 混土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)塊のランダムな混土。しまっている。
3. にふい黄褐色シルト質壤土 地山YP相当層近くの土壌塊主体。
4. 混土 3層と1層の混土。しまっている。



IV区95号ピットA-A'
1. 1～2mm大の白色軽石を10%程度含む。
2. 灰色土 砂(川砂)石英質を含む。1mm大の粒のそろった砂。



(4) 方形周溝墓

IV区1号方形周溝墓(第200・201図 PL.148・149・221 遺物観察表P.462・468・469)

位置 55-11-B~D-16~18G

形状 南隅は発掘区域外となり、全形はとらえられなかったが、周溝の東隅と西隅が切れる方形区画の周溝と思われる。周溝の内側は直線的に掘られており、外側はやや膨らんでいる。南側の溝がやや細い。周溝内部に33号土坑が検出されたが、主体部となるかどうかは不明である。33号土坑は短径0.63m、長径0.70mの円形の土坑で、埋没土の状況から古代以前の遺構と考えられる。出土遺物は無く、方形周溝墓の主体部とする積極的な調査所見はなかった。

重複 無し

規模 墳丘長軸長8.90m 短軸8.70m 周溝深0.36m

長軸方位 N-38°-W

埋没土 浅間C軽石・地山黄色ローム粒・塊を多量に含む黒色土で埋まっていた。

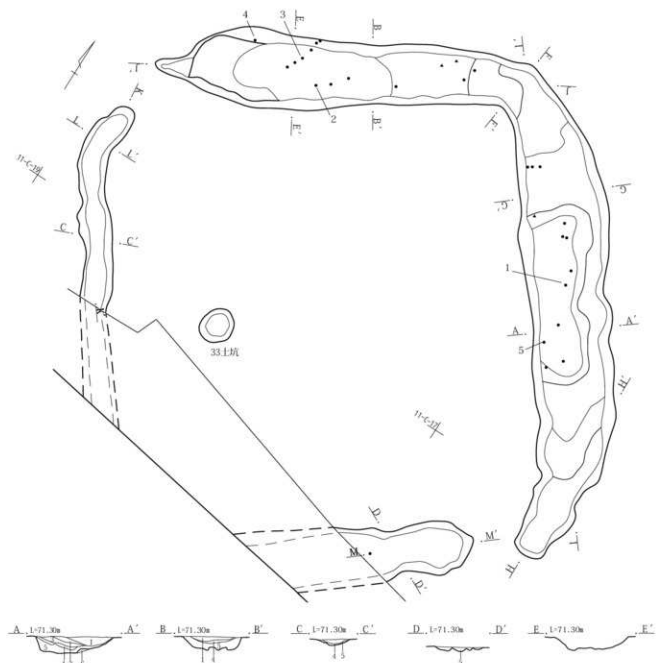
周溝底面 中央部が深く、両端部および屈曲部が浅くなっていた。

遺物出土状況 周溝全体、特に北西周溝・北東周溝に遺物が出土した。土師器壺か高杯の口縁部破片(第201図1)、裏口縁部破片(5)は北東周溝のほぼ中央部底面上24.5cmと36cmで出土した破片が接合した。弥生土器甕の口縁部破片(2)と胴部破片(4)は北西周溝南半部で、それぞれ底面上25.5cm、14cmで出土した。弥生土器小型甕(3)も北西周溝南半部底面上17cmで出土した。他に埋没土中から土師器壺破片30点、甕破片312点、台付甕破片8点が出土した。

所見 浅間C軽石を含むという埋没土の状況から古墳時代前期の浅間C軽石降下以降の遺構と推定される。出土遺物には弥生土器の共伴が認められることから、古墳時代前期でもやや古い年代を考慮することができよう。弥生土器壺の口縁部破片(第201図2)は北総地域の、土師器甕口縁部破片(5)は近江地域に類例のある土器である。

本周溝墓が検出されたIV区南東隅の微高地は、周溝墓群になっていると推定される。Ⅲ区北半部あるいはIV区北西隅からV区北東隅にかけて検出された居住域も含めた周辺の集落の墓域と位置付けられる。

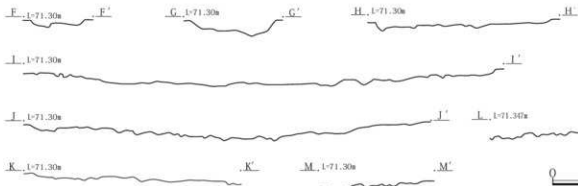
第199図 IV区ピット(2)



IV区1号方形周溝墓A-A'・B-B'・C-C'・D-D'

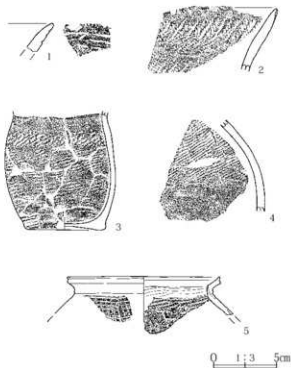
1. 黒色土 As-Cを極く微量に含み、粘性は弱い。
2. 黒色土 As-C・地山黄色ローム細粒を含む。粘性弱い。
3. 黒色土 As-C・地山黄色ローム塊を多量で均一に含む。粘性弱い。

4. 黒色土 As-C・地山黄色ローム粒と地山灰白色土塊を含む。
5. 褐色土 As-C・地山黄色ローム粒と地山灰白色土塊を多量に含む。
6. 掘り過ぎ



第200図 IV区1号方形周溝墓

0 1:80 2m



第201図 IV区1号方形周溝墓出土遺物

IV区2号方形周溝墓 (第202図 PL.148・149)

位置 55-11-E・F-19~1G

形状 南周溝と東周溝のみ検出された。

重複 無し

規模 長軸計測不能 短軸計測不能 周溝深0.35m

長軸方位 N-5°-W

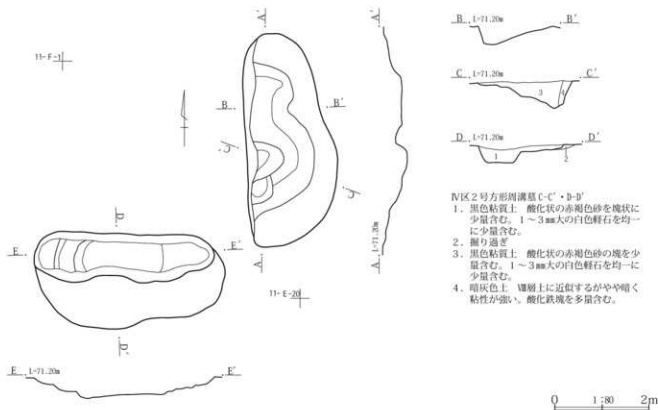
埋没土 浅間C軽石・赤褐色砂塊を含む黒色粘質土で埋まっていた。

周溝底面 中央部が深く、両端部が浅くなっていた。

遺物出土状況 南周溝埋没土中から土師器破片4点が出土した。

所見 調査当初はそれぞれ周溝を別個の土坑として記録していたが、土坑の主軸はほぼ直交し、L字形に区画していること、区画の内側が直線的に掘られ、外側が膨らんでいる形状が1号方形周溝墓に共通することから、周溝墓の南・東周溝と判断し、報告した。

東側にある34号土坑も平面形状は類似しており、周溝墓の一边の溝とも考えられるが、1基だけであったので、周溝墓とはしなかった。出土遺物からは古墳時代前期の遺構と考えられる。



第202図 IV区2号方形周溝墓

(5) 溝

IV区古代～古墳時代面では、16条の溝が検出された。溝の位置や規模はP.443の表にまとめた。以下各溝の調査所見を記載する。なお、溝の平面図は個別図を作成せず、1/300の各区全体図でこれに変えた。埋没土層断面図は個々に掲載した。

IV区16号溝 (第203・265図 PL.150)

16号溝は、IV区西部で、ほぼ東西方向に検出された。西端はV区16号溝に連続する。

走向は北区でN-73°-W、上幅は0.20～1.10m、深さは0.15m、調査長2.08mである。断面形は浅い台形で、底面は平坦で、標高は北西端が0.05m高かった。溝内は浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

埋没土や遺構確認面から、古墳時代前期の溝と考えられる。砂礫等の埋没はないので、集落内の区画溝であろう。

IV区17号溝 (第203・265図 PL.150)

17号溝は、IV区西部で、北区から南区にかけて南北方向に検出された。2号溝と重複するが、2号溝が新しい。北端はKライン当たりで確認できなくなり、南端は調査区外になる。

走向は北区でN-4°-E、上幅は0.59～0.60m、深さは0.18m、調査長は19.50mである。断面形は浅いV字形で、底面にはやや凹凸があった。底面の標高は北端が0.01m高かった。溝内は白色細粒を微量含む灰褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

埋没土や遺構確認面から、古墳時代前期の溝と考えられる。砂礫等の埋没はないので、集落内の区画溝であろう。

IV区18号・19号溝

(第203・265図 PL.150・151 遺物観察表P.462)

18号・19号溝は、IV区西部の北西隅から南部にかけて検出された。両溝は表流水等が集まり流れる凹地にと考えられる(後述)1号・5号・6号凹地の位置をなぞっており、この地点の最も低い部分に掘られた溝である。

両溝は、Jラインから南側は、一部で重複しながら流れ南端は両溝ともほぼ同じ位置で区域外となる。Jライ

ンより北側では18号溝は西に湾曲し、V区北東隅をかすめて発掘区域外に続いている。19号溝はやや西に傾きながらも北上し発掘区域外に続いている。南区の重複部では19号溝が18号溝に壊されていることから、18号溝が新しい。36号溝と重複するが、新旧関係は不明である。また、1号溝と重複するが、新旧関係は不明である。

18号溝の走向はN-10°-W、Jラインより北側はN-38°-Wに傾く。上幅は0.13～0.70m、深さは0.06～0.35m、調査長は72.50mである。微高地上に掘られている北西部では深く、幅広い形状で検出できた。断面形はU字形で、底面にはやや凹凸があった。底面の標高は北端が0.16m高かった。溝内は白色細粒を含む黒色土や地山土壌を含む黒褐色土で埋まっていた。

遺物は破片が多数出土した。埋没土中から土師器壺(第203図1)、石籬(第272図7・16)が出土した。石籬は混入であろう。また、土師器壺破片234点、埴破片49点、高坏破片7点、坏破片5点、甕破片823点、S字甕破片1001点、須恵器甕破片1点が出土した。

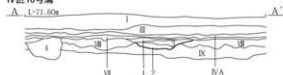
埋没土や出土遺物、遺構確認面の状況からは、古墳時代前期の溝と考えられるが、古墳時代集落を構成する土坑群を貫いていること、土師器坏・須恵器甕破片が出土していること、周辺に38号・39号・42号土坑という古代の遺構も存在していることから、古代の溝である可能性もある。砂礫等の埋没はないので、集落内の区画溝であろう。

19号溝の走向は概ねN-25°-W、Mラインより北側はN-5°-10°-Wほどである。上幅は0.10～1.10m、深さは0.45m、調査長は35.25mである。微高地の東端を回るような位置に掘られている。断面形は箱形で、底面にはやや凹凸があった。底面の標高は北端が0.03m高かった。溝内は灰褐色砂質土や白色細粒を含む黒褐色粘質土で埋まっていた。

遺物は18号溝ほどではないが、土師器破片が多数出土した。埋没土中から土師器直口壺(第203図2)が出土した。また、土師器壺破片1点、甕破片65点、S字甕破片159点が出土した。埋没土や出土遺物、遺構確認面からは、古墳時代前期の溝と考えられる。砂礫等の埋没はないことから、古墳時代集落が形成されている微高地に東縁辺を画する溝と推定される。

第6章 古代～古墳時代の遺構と遺物

IV区16号溝



IV区16号溝A-A'

- I. 表土
 II. 暗褐色土 As-Bを多く含む。
 III. 暗褐色土 As-Bを多く含む。
 IV. 暗褐色土 As-Bを多く含む。
 V. 暗褐色土 As-Cを少量含む。
 VI. 黒褐色土 As-Cを含む。
2. 暗褐色土 砂粒多く含む。
 3. 暗褐色土 2層より多く砂粒含む。
 4. 鉄分の凝集層
 V. 灰白色シルト 漸移層。
 VI. 灰白色シルト いりゆる水性ローム層。

IV区17号溝



IV区17号溝A-A'
 I. 灰褐色土 白色細粒を微量に含む粘質土。

IV区20号溝



IV区18号溝



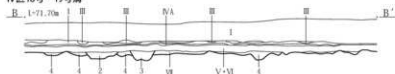
- IV区18号溝A-A'
 I. 黒色土 砂を多く含む。1～3mm大の白色軽石を20%程度含む。
 2. 黒色土 砂を多く含む。1～3mm大の白色軽石を10%程度含む。5～15mm大の黄褐色土の塊を5%程度含む。
 3. 黒色土 砂を多く含む。5～15mm大の黄褐色土の塊を30%程度含む。

IV区19号溝



- IV区19号溝A-A'
 I. 灰褐色砂質土
 2. 黒褐色粘質 As-Cを少量含む。

IV区18号・19号溝



IV区18号・19号溝B-B'

- I. 表土
 II. 黒褐色砂質土 As-Bを含む。
 III. As-Bテフラ
 IV. 黒色粘質土
 V. 黒灰色シルト
 VI. 黒褐色粘質土
 2. 暗褐色土 暗褐色砂質土と灰色砂質土小塊の混上。(18号溝埋没土)
 3. 暗褐色土 暗褐色砂質土小塊と層層相当小塊の混上。(19号溝埋没土)
 4. 暗褐色土 As-Cを混じる暗褐色土主体に層層相当小塊を少量含む。(2号流路埋没土)
 VII. 黒灰色粘質土 As-Cを含む。



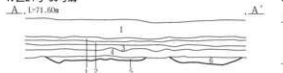
IV区18号溝・1号凹地



IV区18号溝・1号凹地C-C'

- I. 黒灰色粘質土 酸化状赤褐色砂の塊を少量含む。1～3mm大の白色軽石を均一に含む。(18号溝埋没土)
 2. 黒灰色砂質土 酸化状赤褐色砂の塊を多量含む。1～3mm大の白色軽石を均一に含む。
 3. 灰褐色砂質土 酸化状赤褐色砂の塊を多量含む。1～3mm大の白色軽石を均一に含む。
 4. 灰褐色砂質土 酸化状赤褐色砂の塊を3層よりやや少なめに含む。1～3mm大の白色軽石を均一に含む。灰色粘質土の4～6cm大の塊を少量含む。

IV区24号・30号溝



IV区24号・30号溝A-A'

- I. 黄褐色シルト やや粗目のシルト。
 2. 黄褐色シルト わずかにAs-Bを含む。
 3. 黒褐色砂質土 As-Bを混じる。
 4. 灰色粘質土 白色細粒をわずかに含む。
 5. 暗褐色砂 均一な粒径の砂粒。(24号溝埋没土)
 6. 黒色粘質土 白色軽石をわずかに含む。均一な粒径の砂を少量含む。(30号溝埋没土)

IV区24号溝



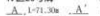
IV区25号溝



IV区25号溝A-A'

- I. 黒褐色土 1～3mm大の白色軽石を均一に含む。
 2. 灰褐色土 1～3mm大の白色軽石を均一に含む。
 3. 3～5mm大の酸化状赤褐色砂の塊を少量含む。
 4. 暗褐色土 1～3mm大の白色軽石を均一に含む。
 5. 3～5mm大の酸化状赤褐色砂の塊を1層より多めに含む。

IV区26号溝



IV区26号溝B-B'

- I. 黒色土 褐色斑15%白色軽石を含む。しまっている。



IV区27号溝

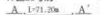


IV区27号溝A-A'

- I. 黒色土 1～3mm大の白色軽石を均一に少量含む。



IV区28号溝

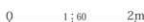
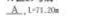


IV区28号溝A-A'

- I. 黒褐色土 1～3cm大の黄褐色土の塊を少量含む。1～3mm大の白色軽石を均一に少量含む。



IV区29号溝



第203図 IV区溝と出土遺物

IV区20号溝 (第203・265図 PL.152)

20号溝は、IV区西部で、北区南端部から南区にかけて検出された緩やかに大きく屈曲する溝である。21号溝と重複するが、新旧関係は不明である。北端はJライン当たりで確認できなくなり、南端は調査区外になる。

走向は北区北半部でN-40°-W、上幅は0.28~0.45m、深さは0.06m、調査長は43.3mである。断面形は浅いU字形で、底面にはやや凹凸があった。底面の標高は南端が0.19m高かった。遺憾ながら埋没土の記載はない。遺物も出土しなかった。

遺構確認面からは古代~古墳時代前期の溝である可能性があるが、時期決定の決め手はない。

IV区21号溝 (第265図 PL.152)

21号溝は、IV区中央部で、南区北半部で検出された溝である。南西端が20号溝の屈曲部で20号溝と重複するが、新旧関係は不明である。北東端は調査区外になる。

走向は北区北半部でN-60°-E、上幅は0.19~0.48m、深さは0.05m、調査長は14.50mである。断面形は浅いU字形で、底面にはやや凹凸があった。底面の標高は北東端が0.13m高かった。遺憾ながら埋没土の記載はない。遺物も出土しなかった。

遺構確認面からは古代~古墳時代前期の溝である可能性があるが、時期決定の決め手はない。溝の南西部には方形周溝墓がつくられた微高地がある。20号溝の南半部と21号溝はその北西縁をめぐる位置にあたる。

IV区22号溝 (第265図 PL.152)

22号溝は、南区中央部で検出された小規模な溝である。やや北側に膨らんで湾曲する。21号溝と重複するが、新旧関係は不明である。北西端は1号溝で切られており、南東端はFライン周辺で確認できなくなる。

走向はN-51°-W、上幅は0.23~0.40m、深さは0.04m、調査長4.50mである。断面形は浅いU字形である。底面にはやや凹凸があった。底面の標高は北東端が0.31m高かった。遺憾ながら埋没土の記載はない。遺物も出土しなかった。

遺構確認面からは古代~古墳時代前期の溝である可能性があるが、時期決定の決め手はない。

IV区24号溝 (第203・265図 PL.152・153)

24号溝は、IV区南区の東端部で検出された溝である。南西端は0面1号溝に切られている。北東端は調査区外になる。方向的にはⅢ区古代~古墳時代期の33号溝につながる可能性もあるが、埋没土は異なる。

走向は北区北半部でN-42°-E、上幅は0.89~1.56m、深さは0.09m、調査長は8.83mである。断面形は浅い皿形で、底面にはやや凹凸があった。底面の標高は北東端が0.11m高かった。溝内は暗褐色砂で埋まっていた。埋没土中から土師器表破片2点が出土した。

遺構確認面からは古代~古墳時代前期の溝である可能性がある。出土した土師器が小破片で少ないことから時期決定の決め手はない。

IV区25号溝 (第203・265図 PL.153)

25号溝は、IV区南区の北東部で検出された溝である。北端は0面1号溝に切られている。

走向はN-27°-E、上幅は0.95~1.07m、深さは0.14m、調査長は2.54mである。断面形は浅い皿形で、底面には凹凸があった。底面の標高は南端が0.15m高かった。溝内は白色軽石を含む黒褐色土・灰褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

遺構確認面からは古代~古墳時代前期の溝である可能性があるが、時期決定の決め手はない。

IV区26号溝 (第203・265図 PL.153)

26号溝は、IV区南区の東部、1号方形周溝墓と2号方形周溝墓の間で検出された。東西端ともに浅く確認できなくなる。

走向は中央部でN-72°-E、上幅は0.29~0.67m、深さは0.09m、調査長は10.90mである。断面形は浅いU字形で、底面には凹凸があった。底面の標高は南西端が0.10m高かった。溝内は白色軽石と黄褐色土塊を多量に含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から土師器破片1点が出土した。

遺構確認面からは古代~古墳時代前期の溝である可能性があるが、時期決定の決め手はない。

IV区27号溝 (第203・265図 PL.153)

27号溝は、IV区南区の東部、1号方形周溝墓の北西際で検出された。南北端ともに浅く確認できなくなる。

走向はN-24°-W、上幅は0.35～0.69m、深さは0.08m、調査長は4.10mである。断面形は浅い皿状で、底面には凹凸が著しかった。底面の標高は北端が0.04m高かった。溝内は白色軽石を含む黒色土で埋まっていた。埋没土中から土師器壺破片3点が出土した。

遺構確認面からは古代～古墳時代前期の溝である可能性があるが、時期決定の決め手はない。埋没土の特徴や出土遺物から、古墳時代前期の溝と考えておきたい。

IV区28号溝 (第203・265図 PL.154)

28号溝は、IV区南区の東部、2号方形周溝墓の南東際で検出された。南北端ともに浅く確認できなくなる。

走向はN-40°-E、上幅は0.42～0.75m、深さは0.04m、調査長は3.05mである。断面形は浅い皿状で、底面には凹凸が著しかった。底面の標高は南西端が0.01m高かった。溝内は黄褐色土塊と白色軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

遺構確認面からは古代～古墳時代前期の溝である可能性があるが、時期決定の決め手はない。埋没土の特徴から、古墳時代前期の溝と考えておきたい。

IV区29号溝 (第203・265図 PL.154)

29号溝は、IV区南区の東部、25号溝の東脇で検出された。北端は発掘区域外となり、南端は浅く確認できなくなる。

走向はN-39°-E、上幅は0.78～1.83m、深さは0.20m、調査長は2.01mである。断面形は浅い皿状で、底面には凹凸が著しかった。溝内は黄褐色土塊と白色軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

遺構確認面からは古代～古墳時代前期の溝である可能性があるが、時期決定の決め手はない。埋没土の特徴から、古墳時代前期の溝と考えておきたい。

IV区30号溝 (第203・265図 PL.154)

30号溝は、IV区南区の東部、24号溝の東脇で検出された。北端は発掘区域外となり、南端は近世の1号溝に切られている。

走向はN-34°-E、上幅は0.37～0.98m、深さは0.06m、調査長は3.94mである。断面形は浅い皿状で、底面には凹凸が著しかった。底面の標高は南端が0.07m高かった。溝内は白色軽石をわずかに含む黒色粘質土で埋まっていた。埋没土中から土師器S字襷破片2点が出土した。

遺構確認面からは古代～古墳時代前期の溝である可能性がある。埋没土と出土遺物の特徴から、古墳時代前期の溝と考えておきたい。

IV区36号溝 (第265図 PL.154)

36号溝は、IV区北区の北西部で検出された。IV区北西隅からV区北東隅にかけて検出された古墳時代前期の集落の南側を区切るような位置に東西方向に掘られている。東端はLライン周辺で浅くなり確認できなくなる。西端はV区36号溝に連続する。18号・19号溝と重複するが、新旧関係は不明である。

走向はN-70°-E、上幅は0.24～1.40m、深さは0.09m、調査長は31.0mである。断面形は浅い皿状で、底面には凹凸が著しかった。底面の標高は南西端が0.01m高かった。遺憾ながら埋没土の記載はない。遺物は出土しなかった。

遺構確認面からは古代～古墳時代前期の溝である可能性があるが、時期決定の決め手はない。前述したように、溝の位置から集落を区画する溝とすれば、古墳時代前期の溝と考えておきたい。

IV区40号溝 (第265図 PL.154)

40号溝は、IV区北区の北東部で検出された。周辺には他の遺構はなく、本溝のみ検出された。南西端はNライン周辺で浅くなり確認できなくなる。北東端は発掘区域外となる。南西端で75号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。

走向はN-57°-E、上幅は0.29～0.38m、深さは0.23m、調査長は11.60mである。断面形はU字形で、底面には凹凸が著しかった。底面の標高は南西端が0.11m高かった。遺憾ながら埋没土の記載はない。遺物は出土しなかった。

遺構確認面からは古代～古墳時代前期の溝である可能性があるが、時期決定の決め手はない。

(6) 凹地

IV区では1条の凹地を検出した。調査時には「2号・3号・4号流路」として記録したが、IV区南区南部で2条に分かれるものの、一連の凹地とみられることから、本報告では1条の1号凹地とし、南区南部で分流する部分(旧3号流路)を1B号凹地とした。人工物ではないが、遺物が多数出土していること、遺構の分布に関連することから、ここで記載することとする。

報告にあたっては遺構番号の統合と付け替えを行った。その作業の結果については、凹地の位置や規模とともにP.445の表にまとめた。以下調査所見を記載する。

IV区1号凹地

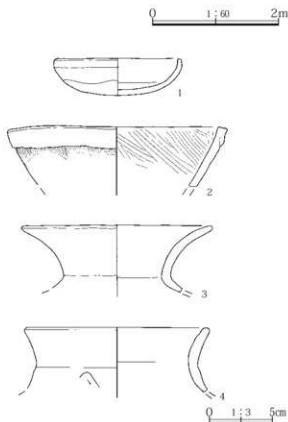
(第204・265図 PL.156・221 遺物観察表P.462)

1号凹地は幅4.0~9.0m、深さ0.1~0.3mで、長さ60.5mに亘って検出された。断面形は緩やかな皿状であ



IV区1B号凹地A'

1. 暗褐色土 砂質で白色細粒(軽石か)を均一に含む。
2. 暗褐色土 1層土と地山の埋層土塊の混土。



第204図 IV区1号凹地と出土遺物

るが、底面は凹凸が著しい。凹地内には浅間C軽石を含む砂質の黒褐色土が堆積していた。流水を示唆する砂礫層はないが、IV区の中で最も低い部分に凹地があることから表流水等が集まり形成されたものと推定される。

凹地を概ねなぞるように18号・19号溝が掘られている。新旧関係は、18号・19号溝が新しい。(第203図)これらの溝が、低い部分に掘られた溝ということがわかる。また、南区では凹地が1号畠と一部重複していたが、畠の方が新しい。また、畠は18号・19号溝より新しいことから、IV区西部にあった凹地内に18号・19号溝が掘られ機能した後、IV区南西部に畠がつくられるようになったということになる。

1号凹地からは多数の遺物が出土しているが、ほとんどが古墳時代前期の土器である。図示したのは北区で出土した土師器環(第204図1)、有孔鉢(2)、壺(3)と、甕(4)である。他に埋没土中から焙烙破片1点、土師器ミニチュア土器破片5点、壺破片329点、高環破片7点、環破片9点、S字甕破片312点、台付甕破片59点、甕破片26点が出土している。焙烙破片は混入であろう。

(7) 畠

IV区では、2か所で浅間C軽石を含む黒色粘土あるいは黒褐色粘質土で畝間溝を埋めている畠跡が検出された。いずれも耕作面は削平されており、不定型な溝あるいはピット状に畝間溝の底面が検出された。畝間溝の痕跡を記録できたにとどまった。

IV区1号畠(第206図 PL.155)

IV区の南西部に、東西約27m、南北23mの広範囲にわたって、畠跡が検出された。畝間溝を埋めていたのは白色軽石を含む暗灰色粘質土、黒色粘土、暗褐色土で、含まれている白色軽石は浅間C軽石と推定される。18号・19号溝と重複しているが、畠の方が新しい。IV区西部にあった凹地内に18号・19号溝が掘られて機能した後、南西部の広い範囲が畠に転換していったのであろう。

畝間溝の幅は0.15~0.65m、深さは0.1~0.18mでまちまちである。長さは最も長く検出されたもので2.90m、ピット状の落ち込みが残っていただけのところもあった。畝間溝の底面が断続的に検出されたのであろう。

畝間溝の方向の違いで3単位が見いだせる。北側の一

群はN-5°-E、南西の一群はN-90°-E、南東の一群はN-52°-Eである。アゼの間隔は溝の芯々間で0.7～0.8mではほぼ一定であった。

畝に伴う遺物は出土しなかった。耕作面は失われているが、古代～古墳時代のいずれかの時期に畝作耕地として利用されたことを示している。



0 1:100 5m

A-A' 1:71.07m

0 1:60 2m

第205図 IV区3号畝

IV区3号畝 (第205図 PL.155)

IV区の南東部に、東西約6m、南北10mの範囲に、畝跡が検出された。畝間溝を埋めていたのは白色軽石を含む暗褐色土である。白色軽石は浅間C軽石と推定される。

畝間溝の幅は0.10～0.55m、深さは0.02～0.06mでごく浅かった。長さは最も長く検出されたもので3.60m、ピット状の落ち込みが残っていただけのところもあった。畝間溝の底面が断続的に検出されたのでろう。

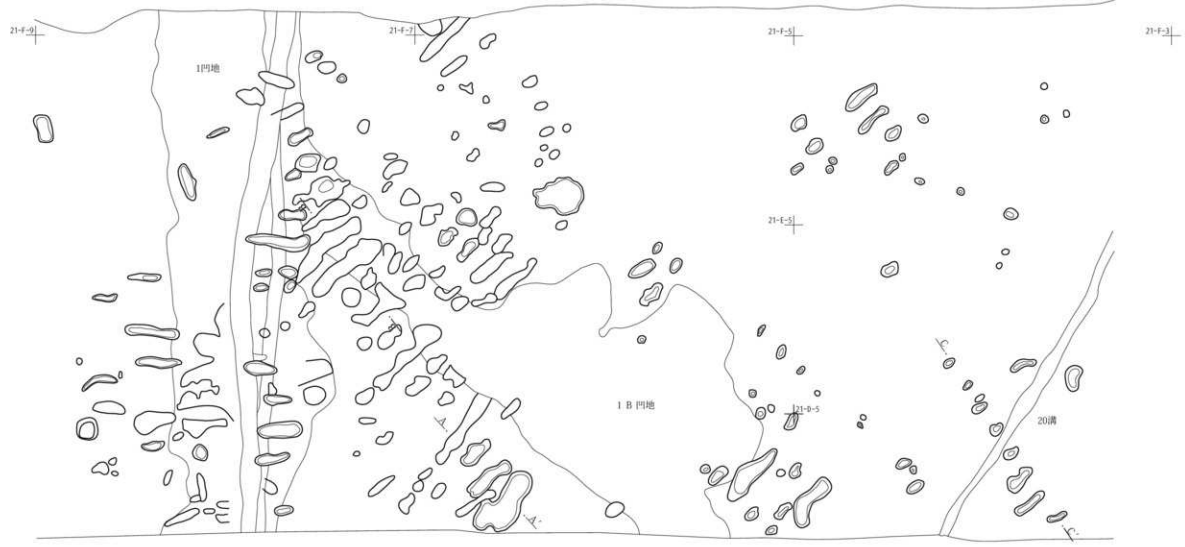
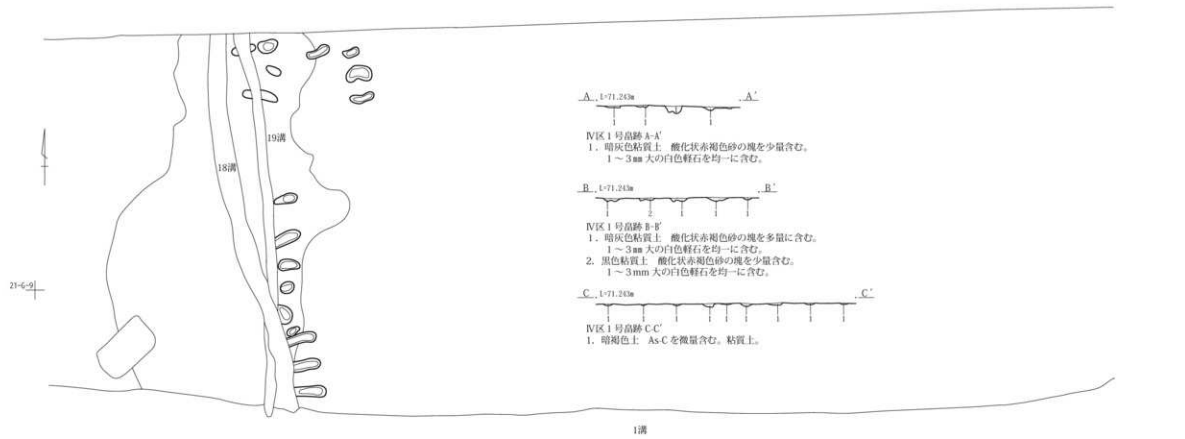
畝間溝の方向は、西北部はN-13°-E、南東部はN-7°-E、で単位の違う畝であった可能性がある。溝の間隔は芯々間で0.7～0.8mで一定でない。アゼの間隔あるいは耕作時期が異なった複数単位の畝間溝の集合の可能性が高い。

畝に伴う遺物は出土しなかった。耕作面は失われているが、古代～古墳時代のいずれかの時期に畝作耕地として利用されたことを示している。

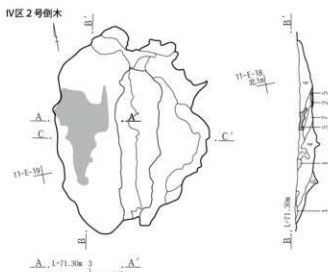
(8) 倒木痕 (第207図 PL.156)

IV区では古代～古墳時代遺構面で5基の倒木痕を検出した。平成16年度調査では、倒木痕の記録は悉皆的でなく、明瞭なもの平面・断面記録あるいは写真撮影するという調査方針であった。

そこでIV区では検出した5基の倒木痕のうち、1号、4号については写真撮影のみ実施した。2号については平面図・断面図の記録をおこなった。3号については平面図と平面的な土層の記載をおこなった。5号については断面図のみ記録した。倒木の時期等については不明である。



第206図 IV区1号高



- IV区 2号風倒木A-A'・B-B'
1. 暗褐色土 白色細粒とⅧ層上層粒を多く含む固くしまった層。
 2. 黒色土 4層と共通の黒色土(粘性弱い)をベースに焼土粒を多く含む。
 3. 焼土 Ⅷ層上が焼土化したものか?塊状焼土の集合。
 4. 黒色土 極く微量のAs-Cを含む黒色土。
 5. 焼土 塊状焼土ではなく焼成面の様な焼土。
 6. 黒色土 Ⅷ層上粒を少量含む黒色土。
 7. 黒色土 4層のベースに焼土粒及び小塊を少量含む。
 8. 暗褐色土 4層ベースにⅧ層上小塊を多量に含む。



- IV区 2号風倒木C-C'
- a. 地山崩灰黄色土 鉄分の凝集度5%しまっている。
 - a. 鉄分凝集を主体とする。As-YP阻15%。固くしまっている。
 - b. As-Cを含む黒褐色40%・鉄分凝集度30%・As-YPを多く含む黒褐色30%しまっている。
1. 黒褐色土 褐色地山ロームのぼやけた面を含む。しまっている。
 2. 地山 鉄分凝集面・As-YP阻ロームの混土が水平方向に圧縮されている。固くしまっている。
 3. 黒褐色土 黒褐色の小塊含む。しまっている。
 4. 黒褐色土 (As-Cを含む)主体。鉄分の弱い凝集面を含む。ややしまっている。
 5. 黒色土 混入物ない。As-C阻面の下位にあたる。
 6. 黒褐色土 As-C阻面。固くしまっている。
 7. 2層の崩れた塊と6層の混土。固くしまっている。

(9) 遺構外の出土遺物

(第208図 PL.221 遺物観察表P.462)

IV区調査の遺構確認中に、遺構に伴わない形で第11表のように多くの遺物を出土した。ここでは、Ⅷ層上面の遺構確認時に出土した遺物を掲載した。

土師器坏(第208図1・2)は8世紀の土器である。土師器壺(3)、有孔鉢(4)は古墳時代前期の土器である。5は布目瓦破片であり、古代の遺物である。



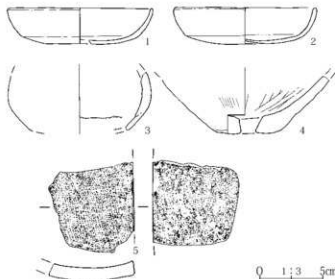
- IV区 3号風倒木
- a. 褐色土 鉄分の凝集度20%。固くしまっている。
 - b. 褐色土 鉄分の凝集度15%。黒色細粒(粗粒)10%。しまっている。
 - c. 褐色土 鉄分の凝集度30%。固くしまっている。
 - d. 明黄褐色土 鉄分の凝集度15%。しまっている。
 - e. 褐色土30%。暗褐色土40%。鉄分の凝集度10%。黒色土線状斑(粗粒)20%。しまっている。
 - f. 明黄褐色土 鉄分の凝集度15%。しまっている。
1. 黒褐色土 a層の崩れた土を多く含む。ややしまっている。
 2. 褐色土 a層の崩れた土を主体とする。ややしまっている。
 3. 黒色土 a層の粒子を含む。ややしまっている。
 4. 1層・2層のランダムな斑状混土。ややしまっている。
 5. 褐色土 1層・2層が良く混じり合っている。しまりやや弱い。
 6. 1層・2層の斑状混土。a層の塊を含む。



- IV区 5号風倒木A-A'
1. 黒褐色土 3mm大の白色軽石を均一に含む。
 2. 黄褐色土 3mm大の白色軽石を均一に含む。下層に赤褐色の酸化状斑あり。
 3. 明灰色粘質土 5mm程度の黄色土の粒を所々に含む。
 4. As-YP 赤褐色の酸化状斑を多く含む。
 5. 灰褐色土 2mm大の白色軽石を均一に含む。5mm程度の黄色土の粒を所々に含む。

0 1:80 2m

第207図 IV区倒木痕



第208図 IV区遺構外の出土遺物(古代～古墳時代)

6. V区の遺構と遺物

(1) 竪穴住居

V区1号住居

(第209図 PL.157・221 遺物観察表P.462)

位置 55-21-P・Q-12・13G

形状 東半分は発掘区区域外で、未調査であるが方形と推定される。

重複 無し

規模 長軸計測不能 短軸2.48m 残存壁高0.03m

長軸方位 N-0°-E

埋没土 浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。

火処 全体を完掘できなかつたので、火処の存在はわからなかつた。発掘区区域外に存在したとすれば、出土遺物の時期から炉である可能性が高いと推定される。

柱穴 床面で柱穴は検出されなかつた。

周溝 周溝は検出されなかつた。

貯蔵穴 貯蔵穴は検出されなかつた。

床面 特に中央部に小さな凹凸が著しかった。

掘り方 検出されなかつた。

遺物出土状況 住居全体に16点の土器が散在していたが、床面に密着して出土した遺物はなかつた。図示した土師器小丸底壺(第209図1)は南西隅壁際床面上7cmで出土した。他に埋没土中から、土師器壺(2)他31点、埴1点、高環1点、環1点、甕5点、S字甕の破片37点が出土した。

所見 出土遺物から古墳時代前期の遺構と考えられる。

V区2号住居

(第210図 PL.157~159・221 遺物観察表P.452)

位置 55-21-N・O-12・13G

形状 床面は削平されており、隅丸方形の掘り方と推定される掘り込みと柱穴のみを検出した。

重複 無し

規模 長軸4.51m 短軸4.30m 残存壁高計測不能

長軸方位 N-52°-W

埋没土 掘り方は、鈍い黄橙色土・褐色土粒・浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。

火処 床面を検出できなかつたので、火処の存在はわからなかつた。床面に存在したとすれば、出土遺物の時期

から炉である可能性が高いと推定される。

柱穴 掘り方で支柱穴と推定される3基のピットと住居に伴うかどうか不明なピットが8基検出された。南西隅の支柱穴は検出されなかつた。

周溝 床面の周溝は不明である。

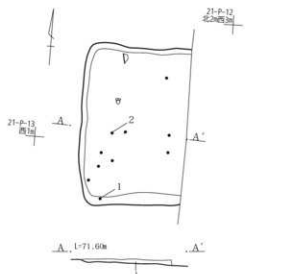
貯蔵穴 貯蔵穴は検出されなかつた。

床面 削平されており、検出できなかつた。

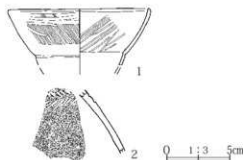
掘り方 掘り方で壁の内側に沿って浅く掘り込まれた周溝状の凹みを検出された。上幅は0.27~0.86m、深さ0.02~0.12mである。この溝によって住居の輪郭が推定可能と思われる。

遺物出土状況 掘り方周囲の溝埋没土中から、土師器の壺破片5点、高環破片3点やS字甕破片3点が出土した。南東端の71号ピット内から砂岩製の般若石(第210図1)が出土した。

所見 出土遺物から古墳時代前期の遺構と考えられる。

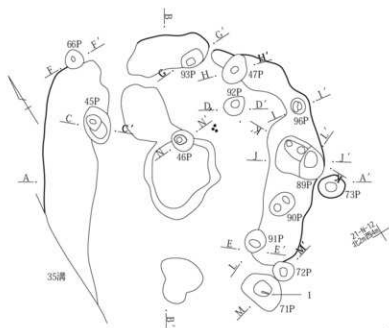
V区1号住居A'-A'
1. 黒褐色土 As-C混. 暗褐色～褐色の小粒5%含む。
ややしまっている。

0 1:60 2m

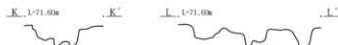


第209図 V区1号住居と出土遺物

6. V区の遺構と遺物



V区2号住居A-A'・B-B'
 1. 黒褐色土 しぶい黄褐色面3%・褐色粒含む。ややしまっている。As-C含む。
 1'. 黒褐色土 As-C多い。



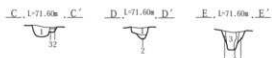
V区71号・72号ピットH-H'

1. 黒褐色土 As-Cを含む。暗褐色土を斑状に5%含む。ややしまっている。
2. 黒色軽土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)粒1%含む。ややしまっている。
3. 黒褐色土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)を斑状に3%含む。しまりやや弱い。

V区46号ピットN-N'

1. 暗褐色土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)小塊1%含む。YPのバミスのような軽石粒を多く含む。しまっている。
2. 黒褐色土 1層の基層に近い土壌の斑10%含む。しまっている。
3. 凝土 1層と4層の等量混土。しまっている。
4. 黒褐色土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)粒3%含む。ややしまっている。
5. 褐色シルト質土 地山YP相当層近くに似る。攪乱か?

0 1:60 2m



V区45号ピットC-C'

1. 暗褐色軽土 As-Cを含む。暗褐色土を斑状3%含む。ややしまっている。
2. 暗褐色軽土 白色軽石粒含む。しまっている。
3. 褐色軽土 As-YP相当層近くのローム塊。しまっている。

V区92号ピットD-D'

1. 褐色土 汚れた地山ロームの再堆積。しまっている。
2. 黒褐色土 As-Cを含む。しぶい黄褐色土(地山ローム)小塊5%含む。しまりやや弱い。

V区91号ピットE-E'

1. 褐色土 汚れた地山ロームの再堆積。しまっている。
2. 凝土 1層と黒褐色土上の凝土。しまりやや弱い。
3. 黒褐色土 As-Cを含む。しぶい黄褐色土(地山ローム)小塊5%含む。しまりやや弱い。



V区66号ピットF-F'

1. 褐色軽土 地山ロームの塊。
2. 黒褐色土 As-Cを含む。しまっている。

V区47号ピットH-H'

1. 黒褐色土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)粒3%含む。ややしまっている。
2. 黒褐色土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)小塊1%含む。ややしまっている。
3. 黒褐色土 As-Cを含む。暗褐色土の斑10%含む。しまっている。
4. 掘り過ぎ



V区96号ピットI-I'

1. 黒褐色 As-C混。しまっている。

V区89号ピットJ-J'

1. 黒褐色土 As-Cを含む。焼土粒含む。ややしまっている。
2. 黒褐色土 As-Cを少量含む。地山ローム斑1%含む。やや粘質。しまりやや弱い。
3. 黒褐色土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)小塊1%含む。しまりやや強い。
4. 黒褐色土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)小塊1%含む。しまっている。
5. 黒褐色土 As-C比較的多い。しまっている。
6. 黒褐色土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)小塊5%含む。しまりやや弱い。



0 1:2 4cm

第210図 V区2号住居と出土遺物